



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構
神奈川県立がんセンター

ISSN 0913-5901

年報

第40号

令和6年度



神奈川県立がんセンター

年 報

第40号 令和6年度



神奈川県立がんセンター

ミッション（病院の使命）

患者さんの視点に立った最良のがん診療を実践し、医療の発展と社会に貢献します

ビジョン（目指す病院像）

患者さんから信頼され、職員が誇りを持てる病院を目指します

バリュー（行動指針）

- 患者さんの意思と権利を尊重し、個人情報을適正に管理します
- 多職種によるチーム医療を推進し、最良の医療を提供します
- 都道府県がん診療連携拠点病院として、がん医療の普及と向上に努めます
- 先進医療の開発と臨床研究の推進により、がん医療の発展に貢献します
- がん医療に関する教育研修を行い、国内外を牽引する専門性の高い人材を育成します
- 医療資源の最大利活用に努め、健全な病院経営のため不断の努力をします



〈がんセンターマークの由来〉令和元年制定

神奈川県立がんセンター Kanagawa Cancer Center の頭文字「KCC」を図案化。最新鋭の技術や機器等の近未来をイメージし、さらに、がんセンター「K」が情報等を波動のように発信していく様を「CC」で表したものの。

は じ め に

神奈川県立がんセンター年報第40号（令和6年度版）を発行するにあたり、平素より当センターの活動に深い御理解と多大なる御支援を賜っております関係各位に、心より御礼申し上げます。

当センターは、神奈川県におけるがん医療の中核拠点として、高度で安全ながん医療の提供、先進的ながん医療に係る研究の推進、次世代を担う医療人材の育成、ならびに地域医療機関との連携に取り組んでいます。令和6年度におきましても、医師、看護師、薬剤師、医療技術職、事務職を含む全職員が一体となり、患者さん一人ひとりの尊厳と価値観を尊重した「患者さん中心の医療」の実践に努めてまいりました。

近年、がん医療を取り巻く環境は著しく変化しており、診断・治療技術の進歩に加え、患者さんの高齢化や併存疾患の増加、治療と就労や生活の両立支援など、医療機関に求められる役割は多様化・高度化しています。このような状況の中で当センターは、科学的根拠に基づいた標準治療の確実な提供とともに、ロボット手術、がんゲノム医療、重粒子線治療など先進的な治療を始め、外科、内科、放射線科の緊密な協力による集学的治療、支持・緩和医療の充実を図り、より包括的ながん医療体制の構築に取り組んでまいりました。

がん医療は単独の医療機関で完遂できるものではありません。多くの医療機関や地域の連携が必須です。そのような考えから、県内医療機関との連携を一層強化し、急性期から回復期、在宅医療に至るまで切れ目のない医療提供体制の整備を進めるとともに、がん診療に関わる人材育成や情報発信にも力を注いでまいりました。これらの取組は、県民の皆様が安心して質の高いがん医療を受けられる環境づくりに資するものと考えております。

令和6年度は神奈川県立がんセンターにとって神奈川県立病院機構第3期中期計画の最終年度に当たります。本年報では、本中期5年間の総括として当センターにおける診療実績、研究活動、教育・人材育成の状況、ならびに運営・経営に関する取組をまとめ、次の第4期中期計画につなげてまいりたいと考えております。本年報が、関係機関の皆様当センターの現状と課題、そして今後の展望をご理解いただくための一助となるとともに、今後のがん医療の質向上に向けた資料となれば幸いです。

神奈川県立がんセンターは、今後も県立病院としての使命を果たし、県民の皆様から信頼される医療機関であり続けるため、たゆまぬ努力を重ねてまいります。引き続き皆様の御支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和8年3月

地方独立行政法人神奈川県立病院機構
神奈川県立がんセンター

総長 古瀬純司

目 次

はじめに

<総 括 編>

第1章 概 要

第1節 設立趣旨・沿革	1
第2節 施設・設備	3
1 施設概要	3
2 病棟・病床構成	5
3 主なる医療機器一覧	6
第3節 組 織	
1 組 織	8
(1) 組 織 表	8
(2) 組織別常勤職員配置状況	10
(3) 役 職 者	12
(4) 任期付医師／配置状況	13
第4節 所内会議・委員会	14

第2章 病院業務

第1節 概 要	16
第2節 医 療 局	17
第3節 がんゲノム診療センター	28
第4節 重粒子線治療センター	28
第5節 医療技術部	29
第6節 看 護 局	32
第7節 医療安全推進部	33
第8節 医療の質管理部	35
第9節 地域連携室	36
第10節 患者医療対話推進室	37
第11節 患者支援部	37
第12節 新規治療開発支援センター	41
第13節 サルコーマセンター	42
第14節 前立腺センター	42
第15節 生体試料センター	42
第16節 がん情報センター	43
第17節 教育・研修・研究支援センター	43

第3章 事務局業務

第1節 概 要	49
第2節 総務企画課	49

第3節 財務経営課	49
第4節 医事・診療情報管理課	49
院内がん登録	
第4章 臨床研究所業務	
第1節 概 要	51
第2節 研究業務	53
第3節 実験動物施設	55
第4節 神奈川県悪性新生物登録事業	55
第5章 病院ボランティア会ランパスの活動	56

<研 究 編>

第1章 臨床研究所	
第1節 研究課題一覧	57
第2節 研究業績	60
第3節 臨床研究所・病院共同研究一覧	69
第4節 その他の学術講演	70
第5節 公的研究費による研究一覧	72
第6節 臨床研究所セミナー	76
第7節 県民のための公開行事	77
第2章 病 院	
第1節 研究課題一覧	78
第2節 研究業績	108
第3節 その他の学術講演	157
第4節 公的研究費による研究一覧	170
第5節 主催学会・セミナー	178
第6節 受 賞	178
第7節 県民のための公開行事	178
第3章 所内研究会	
第1節 所内カンファレンス一覧	179
第2節 所内研究会	180
1 病院・研究所研究会	180
2 看護研究会	181
3 臨床腫瘍セミナー	183

<統計編>

凡 例

表1	診療業務総括表	186
表2	収益の収入及び支出（令和6年度）	
(1)	がんセンター	187
(2)	重粒子線治療施設	188
表3	診療報酬診療行為別割合（令和6年度）	189
表4	診療科別外来患者数	190
表5	外来新患者年齢別数	194
表6	外来新患者地域別数	195
表7	診療科別入院・退院患者数	196
表8	入院患者年齢階級別数	200
表9	入院患者地域別数	201
表10	科別死亡退院患者数・剖検数	202
表11	科別手術件数	204
表12	麻酔別手術件数	205
表13	放射線検査件数	206
表14	放射線治療件数（光子線）	
(1)	第1リニアック	208
(2)	第2リニアック	209
(3)	第3リニアック	210
(4)	第4リニアック	212
(5)	小線源治療	214
表15	放射線治療件数（重粒子線）	
(1)	重粒子照射室1	215
(2)	重粒子照射室2	216
(3)	重粒子照射室3	217
(4)	重粒子照射室4	218
(5)	その他関連業務件数	219
表16	ラジオアイソトープ検査件数（体外測定）	220
表17	臨床検査統計	
(1)	臨床検査統計	222
(2)	病理検査詳細	224
(3)	血液形態検査詳細	225
(4)	細菌検査詳細	226
(5)	生理機能・超音波検査詳細	227
(6)	治験検体処理検査詳細	228

(7) 輸血検査詳細	229
(8) 委託検査の概要	230
(9) 日直・当直検査の詳細	231
表18 内視鏡室実績	232
表19 外来化学療法室／処置室／外来採血室実績	
(1) 外来化学療法室業務量	233
(2) 処置室業務量	233
(3) 外来化学療法数の年次推移（平成21年度～令和6年度）	233
(4) 外来採血室業務量	233
表20 薬剤科業務統計	
(1) 薬剤件数	234
(2) 医薬品情報（D・I）業務件数	234
(3) 薬剤管理指導業務	234
(4) 麻薬使用数量	236
表21 (1) 患者給食数	238
(2) 栄養相談・指導数	238
表22 退院患者年齢階級別性別数	239
表23 退院患者地域別数	240
表24 (1) 退院患者（延）疾病分類(1)	241
(2) 退院患者（延）疾病分類(2)	242
表25 院内がん登録	
(1) 院内がん新登録（令和6年）	244
(2) 年次別院内がん登録数及び追跡調査状況（令和6年）	246
(3) 新登録患者数（主要部位別・性別・年齢階級別）（令和6年）	248
(4) 新登録患者数（地区別）（令和6年）	249
表26 神奈川県悪性新生物登録	
(1)－1 がん罹患数・粗罹患率・年齢調整罹患率（部位・性別）（2021年）	250
(1)－2 罹患数（主要部位・性・年齢階級別）（2021年）	252
(1)－3 罹患率（主要部位・性・年齢階級別）（2021年）	253
(2)－1 罹患数（主要部位・性・二次保健医療圏別）（2021年）	254
(2)－2 粗罹患率（主要部位・性・二次保健医療圏別）（2021年）	255
(2)－3 年齢調整罹患率（主要部位・性・二次保健医療圏別）（2021年）	256
(3) 届出患者の5年相対生存率（主要部位・性別）（2017年）	257

総 括 編

第1章 概

要

第1節 設立趣旨・沿革

1963年度に成人病センターとして発足し、がんを中心に、高血圧症、糖尿病などの成人病患者を対象に診療を行ってきた。

その後1986年度に、神奈川県におけるがん診療の中核的医療機関として、悪性腫瘍患者の診断と進行がんの治療を行うための専門病院として位置付けられ、名称をがんセンターと改めた。また、これに合わせて、臨床研究所を付置し、がんの発生原因に関する基礎研究や診断及び治療方法の開発など、臨床と直結した研究に取り組むこととした。

2006年度には、厚生労働大臣から都道府県がん診療連携拠点病院として指定を受け、神奈川県におけるがん診療の連携体制、及びがん患者に対する相談支援及び情報提供の拠点としての役割を担うこととなった。

2015年度には、国内では5番目、がん専門病院併設施設としては世界で初めての重粒子線治療施設での治療を開始した。

さらに2019年度には、厚生労働大臣からがんゲノム医療拠点病院として指定を受け、がんゲノム医療においても、拠点としての役割を担うこととなった。

この間、運営形態は、2005年度に神奈川県組織として病院事業庁が設置され、それまでの地方公営企業法の一部適用から全部適用となった。さらに2010年度からは地方独立行政法人法に基づく「地方独立行政法人神奈川県立病院機構」に移行し、柔軟で弾力的な運営を行うことにより、自立した経営が求められることとなった。また2013年度には、PFI事業により新病院を新築、移転し、施設の維持・管理業務や医療周辺業務は特定目的会社により運営されることとなり、現在に至っている。

昭和36年4月	県立成人病センター建設準備事務局の設置
38 3	許可病床31床完成
38 4	診療開始（内科、外科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科）
39 10	本館内部改造、許可病床55床となる。
41 6	許可病床65床となる。
44 2	新館建設工事完成、許可病床250床となる。
44 4	泌尿器科の設置 放射線科診断部門が放射線第一科となる。 治療部門が放射線第二科となる。
45 3	ラジオアイソトープ棟新築工事完成
52 4	許可病床244床となる。 呼吸器科、消化器科、循環器科設置、放射線第一科が放射線診断科、放射線第二科が放射線治療科となり、検査部門が検査科と

		病理科に分かれる。
昭和56年6月		麻酔科の設置
57 12		CT・ラルス東完成
59 10		第一期増改築工事完成 (管理診療棟 188床)
61 3		第二期改築工事完成（東病棟227床 研究棟、放射線治療棟、講堂棟、機械棟）
61 4		許可病床415床となる。整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科の設置。 神奈川県立がんセンターに名称変更（総務局、病院、臨床研究所）
62 1		紹介型病院承認（制度改正により平成6年3月廃止）
62 4		レジデント制度の設置
平成4年11月		新医療従事者公舎（88戸）完成
6 11		倫理会議の発足
8 4		企画調査室と地域保健課を統合し、新企画調査室を設置
11 5		事故防止対策会議の設置
11 7		増改築工事（管理・医局、B棟）完成
11 9		院外処方の全面実施
12 3		増改築工事（A棟）完成
12 4		ICU病棟、無菌病棟、緩和ケア対応病棟の開設。総務局及び診療科の再編。精神科、歯科口腔外科の設置。修練医制度の設置。治験管理室の設置
12 10		検査第四科、検査第五科が設置される。 検査の一部を院内委託検査（ランチ・ラボ）へ移行
13 3		トータルオーダリングシステム一部稼働開始
14 3		トータルオーダリングシステムに伴う予約センター業務開始。緩和ケア病棟の運用開始
14 12		厚生労働大臣から地域がん診療拠点病院として指定される。
15 2		(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定を得る。
15 3		(株)日本環境認証機構（JASO）よりISO14001環境マネジメントシステムの認証を得る。
17 4		地方公営企業法を全部適用。病院事業の経営組織を一般行政組織から独立し、病院事業庁としてスタート
18 4		治験管理室、地域医療連携室、総合整備推進室の設置

平成19年 1 月		厚生労働大臣から都道府県がん診療連携拠点病院として指定される。				し、その下に重粒子線診療部、放射線技術科（重粒子線担当）を新設するとともに物理工学科及び重粒子線治療管理室を配した。
20	2	(財)日本病院機能評価機構による病院機能評価の認定更新。				
20	4	企画情報部を設置し、その下に医療相談支援室（旧・地域医療連携室）を設置した。DPC算定病院となる。	平成29年 1 月			腫瘍組織センターを生体試料センターに改組した。
22	4	地方独立行政法人へ移行（地方独立行政法人神奈川県立病院機構）、総合整備推進部と医療評価安全部を設置組織を再編した。レジデントと修練医を任期付職員とした。	29	3		検査科・委託検査室で国際規格であるISO15189を認定取得した。
24	1	電子カルテシステム稼働	29	4		医療技術科を臨床工学科へ変更した。
24	4	組織規程の改正に伴い、医療安全推進等を正式な組織に位置づけたほか、企画情報部、総合整備推進部を病院に移行。組織を再編した。	29	5		二俣川駅北口と病院正面玄関とを結ぶシャトルバスの運行を開始した。
25	11	PFI方式による新病院への移転、運営を開始した。新病院において業務を開始した。	30	9		手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入した。前立腺センターを設置した。
26	4	感染制御室、漢方サポートセンター、がんワクチンセンター、東洋医学科、免疫療法科、リハビリテーション科及び臨床研究所にがん免疫療法研究開発学部を設置。核医学科の廃止に伴い放射線診断科を放射線診断・IVR科と精神科を精神腫瘍科と改称した。また、総合整備推進室を3月末で廃止。	31	4		事務局を総務企画課、財務経営課、医事・診療情報管理課、地域連携課に再編し、企画情報部を廃止した。
26	6	神奈川がん臨床研究・情報機構を廃止した。				緩和ケア・患者支援部を患者支援部に改称し、その下に患者医療対話推進室を設置した。
26	10	腫瘍組織センター設立	令和元年 4 月			がんゲノム診療センター及びがんゲノム診療科を設置した。放射線治療科の下の放射線腫瘍科、重粒子線治療科の区分を廃止した。物理工学科を重粒子治療センターから医療技術部に移管した。
27	4	緩和ケア・患者支援部を新設し、その下に緩和ケアセンター及び患者支援センターを設置、診療施設管理部を新設し、その下に一般診療施設管理室及び重粒子線治療管理室を設置、放射線治療部を新設し、その下に放射線腫瘍科、重粒子線治療科（重粒子線治療センター）及び物理工学科を設置した。また、東洋医学科（漢方サポートセンター）、免疫療法科（がんワクチンセンター）と改編した。	元	6		重粒子線治療管理室を廃止し、機能を総務企画課へ移管した。
27	12	がん専門病院に併設される施設としては、世界で初めてとなる重粒子線治療施設「i-Rock」を開設し、治療を開始した。	元	9		治験管理室を新規治療開発支援センターへ変更した。
28	4	病院の下に腫瘍組織センター及び臨床研究所を位置づけ、診療施設管理部及び放射線治療部を廃した。緩和ケア・患者支援部にアピアランスサポートセンター及びリハビリテーションセンターを新設。医療局に放射線治療科、その下に放射線腫瘍科、重粒子線治療科を設置。病院の下に重粒子線治療センターを設置	元	9		(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価「一般病院2（機能種別版評価項目3rdG：Ver.2.0）」の認定を受けた。
			元	9		厚生労働大臣からがんゲノム医療拠点病院に指定された。
			2	4		地域連携課を地域連携室に変更した。リハビリテーションセンターを患者支援部から医療技術部へ移管しリハビリテーション技術科に変更した。
			3	2		新型コロナウイルス神奈川モデル重点医療機関協力病院に認定された。
			3	4		物理工学科を医学物理工学科に変更した。
			4	4		医療管理部を廃止し、医療の質管理部を設置した。
			5	4		乳腺内分泌外科を乳腺外科と内分泌外科に変更した。サルコーマセンター、がん情報センター、研究支援センターを設置した。
			6	4		研修・研究・支援センターを設立した。
			6	7		(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価「一般病院3（機能種別評価項目3rdG：Ver.3.0）」の認定を受けた。

第2節 施設・設備

1 施設概要

所在地	横浜市旭区中尾2丁目3番2号	横浜市旭区中尾1丁目2番8号
用途	病院敷地ほか	医療従事者宿舎ほか
面積	37,425.56㎡	4,992.00㎡

(1) 建築概要

敷地面積	37,425.56㎡	
	病院棟・管理研究棟	重粒子線治療棟
建築面積	11,842.14㎡	3,009.12㎡
延床面積	51,463.93㎡	6,999.47㎡
構造	RC造／免震	RC造／耐震
階数	地上7階、地下1階	地上2階、地下1階
病床数・定員数	415＋外来化学療法60	—
工期	2011年7月～2013年7月	2012年11月～2014年10月
付属施設	駐車場棟、院内保育施設、防災倉庫、マニホールド室、バイク置場、自転車置場	—
容積率	149.07%	
建蔽率	39.68%	
軒高	28.462m	

(2) 部門別面積

	病院棟・管理研究棟	重粒子線治療棟
病棟	14,838.91㎡	—
外来	4,440.38㎡	—
診療	13,664.89㎡	1,840.31㎡
供給	6,585.85㎡	0㎡
管理	6,555.35㎡	893.53㎡
その他	5,378.55㎡	4,265.63㎡
計	51,463.93㎡	6,999.47㎡

(3) 設備概要

	病院棟・管理研究棟	重粒子線治療棟
空調設備	中央式、冷5,510kW、温2,100kW、熱源：都市ガス、電気 熱源機器：空冷HPチラー、ガス焚冷温水（ジェネリンク）・ターボ冷凍機（水蓄熱用）、蒸気ボイラー、空調方式：外調機+FCU、PAC	空調方式：空気調和機（全空気）、空気調和機（外調機）+パッケージ型空気調和機（EHP） 熱源機器：空冷HPチラー温水・冷水 精密温調チラー温水
衛生設備	給水：市水・受水槽・加圧給水方式、給湯：中央式給湯、排水：屋内合流、ガス：都市ガス（中圧導管）、雑用水：加圧給水方式	給水：加圧給水方式（管理棟より供給） 雑用水：加圧給水方式（管理棟より供給） 排水：合流式、 ガス：都市ガス（管理棟より供給）
電気設備	特別高圧66kV 2回線受電 特高変圧器 12,500kVA×2、非常用発電機：ガスタービン 2,500kVA A重油 CGS 370kW×2 直流電源設備：800Ah MSE 無停電電源設備：150kVA MSE、情報通信設備 PBX、セキュリティ、ナースコール	特別高圧66kV（本館特高変電所より受電） 非常用発電機：ディーゼル544kVA A重油、直流電源設備：400Ah、無停電電源設備：150kVA、ITV、セキュリティ、ナースコール
搬送設備	昇降機：乗用1,000kg 6台/1,600kg 1台/900kg 1台/750kg 1台、寝台用1,000kg 3台、人荷用1,750kg 1台 エスカレータ2台、搬送機：小荷物専用昇降機 50kg 4台、オートリフト50kg 1台、気送管8ステーション	昇降機：乗用1,000kg 2台

2 病棟・病床構成

病床数415床のうち1床室119室、4床室74室で、各病床はそれぞれカーテンで区切ることができる。

令和6年4月1日現在

階別	病棟	主な診療科	病床数	室数	
7階	7 E	緩和ケア内科	20	1床室	20
	7 W	血液・腫瘍内科（血液） 血液・腫瘍内科（腫瘍）	30	4床室 1床室	3 18
6階	6 E	形成外科 皮膚科 乳腺外科 内分泌外科 婦人科	50	4床室 1床室	10 10
	6 W	呼吸器内科 呼吸器外科 脳神経外科	49	4床室 1床室	10 9
5階	5 E	頭頸部外科 形成外科 皮膚科 乳腺外科 内分泌外科 泌尿器科	50	4床室 1床室	10 10
	5 W	呼吸器内科 血液・腫瘍内科（血液） 血液・腫瘍内科（腫瘍） 骨軟部腫瘍外科	50	4床室 1床室	10 10
4階	4 E	消化器内科（消化管・肝胆膵） 消化器外科（大腸・肝胆膵）	50	4床室 1床室	10 10
	4 W	消化器内科（肝胆膵） 消化器外科（胃食道）	50	4床室 1床室	10 10
3階	3 E	ICU科	24	4床室 1床室 (HCU 24床)	3 12
	3 S	循環器内科 血液・腫瘍内科（腫瘍） 消化器内科（消化管） 放射線治療科	42	4床室 1床室	8 10
計			415	4床室 1床室	74 119

3 主なる医療機器一覧

病院棟1階

品 名	型 式	関係セクション		
(放射線診断部門)				
全身用コンピュータ断層撮影装置	キャノン Aquilion ONE	放射線診断技術科		
全身用コンピュータ断層撮影装置	東芝 Aquilion CXL	〃		
全身用コンピュータ断層撮影装置	東芝 Aquilion RX	〃		
一般撮影X線装置	東芝 MRAD-A80S/1H	〃		
血管撮影X線装置	キャノン Alphenix Sky+	〃		
フラットパネル型X線テレビ装置	キャノン Ultimax-I DREX-UI80/17	〃		
デジタル乳房X線撮影装置	シーメンス MAMMOMAT Inspiration	〃		
デジタルFPD搭載型X線テレビ装置	富士フイルム ヘルスケアCUREVISTA Open	〃		
画像処理装置 (FCR)	富士 PROTECT	〃		
画像処理装置 (FPD)	富士 CALNEO システム	〃		
骨密度測定装置	GE PRODIGY PRIMO	〃		
磁気共鳴断層撮影装置	シーメンス MAGNETOM Skyra 3T	〃		
磁気共鳴断層撮影装置	シーメンス MAGNETOM Aera 1.5T	〃		
多目的デジタルFED搭載型X線テレビ装置	日立 VerseFlex VISTA	〃		
(検査部門)				
全自動輸血検査機器システム	オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス社 オーソビジョン	検	査	科
超音波診断装置	GE ロジックE10	〃		
超音波診断装置	フィリップスエレクトロニクスジャパン社 EPIQ5	〃		
超音波診断装置	日立 ARIETTA850	〃		
超音波診断装置	フィリップス・ジャパン CX50Xper	〃		
心臓用超音波診断装置	フィリップス・ジャパン Affiniti70DS	〃		
全自動細胞解析システム	ベクトン・ディッキンソン製 BD FACSLyric フローサイトメーター	〃		
質量分析装置	ベクトン・ディッキンソン製 BD Bruker MALDI バイオタイパー sirius	〃		
(手術部門)				
内視鏡下手術用ビデオシステム	ストライカー 1588HD、1688 4K、1788 4K	手	術	室
外科用X線撮影装置	日立シリウス 130CV	〃		
移動型デジタル式汎用X線透視診断装置	GEヘルスケア社 OEC Elite CFD 31 ErgoC	〃		
ナビゲーションシステム	ブレインラボ CURVE	〃		
手術用顕微鏡システム	カールツァイス社 OPMPENTERO900	〃		
低温プラズマ滅菌機	ジョンソンエンドジョンソン ステラッド100S	〃		
手術室モニタリングシステム及び 手術部門コンピューターシステム	日本光電工業(株) モニタリングシステムBSM-6701、 コンピューターシステムCAP-2500	〃		
手術支援ロボットサージカルシステム	Intuitive Surgical社 daVinci X	〃		
〃	Intuitive Surgical社 daVinci Xi	〃		
ICU患者監視装置	日本光電工業(株) CNS-9601、BSM6701	I	C	U 科
集中治療室等モニタリングシステム及び 集中治療部門生体情報管理	日本光電 CAP-2100	〃		
(外来部門)				
コルポスコープ	オリンパス OCS5-STD	婦	人	科
超音波内視鏡装置	オリンパス UCT-260、UE-260	内	視	鏡 室
内視鏡ビデオ装置システム	オリンパス EVIS-260、EVIS X1	〃		
マルチキャピラリー DNA解析装置 (シーケンサー)	ベックマンコールター・CE2000システム	検	査	科

病院棟地下1階

品名	型 式	関係セクション
(放射線治療部門)		
X線位置決め装置	東芝メディカルシステムズ社製 LX-40A	放射線治療技術科
X線位置決め装置	VARIAN社製 Acuity	〃
X線位置決め装置	島津製作所社製 UD150L-40F	〃
CT位置決め装置	東芝メディカル社製 AquilionLB	〃
CT位置決め装置	GEヘルスケア社製 Optima CT580W	〃
治療装置（リニアック装置）	VARIAN社製 Trilogy + Exc Trac Xray System	〃
治療装置（リニアック装置）	VARIAN社製 CLINAC iX	〃
治療装置（リニアック装置）	VARIAN社製 CLINAC iX	〃
治療装置（リニアック装置）	東芝メディカルシステムズ社製 PRIMUS M2-6323	〃
治療装置（腔内照射装置）	Nucletron社製 Flexitron HDR	〃
治療計画装置	VARIAN社製 Eclipse	〃
治療計画装置	ELEKTA社製 Monaco	〃
治療計画装置（腔内照射）	Nucletron社製 Oncentra	〃
治療計画支援ソフト	MIM Software社製 MIM Maestro	〃
(核医学部門)		
全身機能撮像システム	シーメンス E-cam Signature 180	放射線診断技術科
2検出器型デジタルガンマカメラ	シーメンス Symbia S	〃
陽電子-X線コンピュータ断層複合撮像システム	GEヘルスケア社製 Discovery MLx-AM edition	〃

管理研究棟

品名	型 式	関係セクション
(研究部門)		
レーザー走査型共焦点顕微鏡	カール・ツァイス社 LSM710	中央機器室・共通実験室
タイムラプス撮影機能つき蛍光顕微鏡	キーエンス BZ9000	〃
自動遺伝子分析装置	アプライドバイオシステム社製 ジェネティックアナライザ3130	〃
次世代型DNAシーケンサー	ライフテクノロジー社 Ion PGM	〃
マルチバイオイメージャー	GEヘルスケア社 Typhoon FLA9500	〃
逆相プロテインアレイ作製装置	オーションバイオシステムズ社製 Aushon2470マイクロアレイヤー	〃
デジタルPCR解析システム	バイオラッド・ラボラトリーズ社 QX200 Droplet Digital PCR C1000 Touch, PX1	〃
全自動発光プレートリーダー	モレキュラーデバイス ジャパン社 SpectraMax L	〃
サイトカイン産生細胞解析装置	エムエステクノシステムズ社 ImmunoSpot S6 ENTRY Analyzer	〃
カメラタイプ画像解析装置	Chemidoc Touch MP BIO-RAD社	〃
小動物用 in vivo イメージングシステム	パーキンエルマー社製 IVIS Lumina LT	動物実験施設
実験用X線照射装置	日立パワーソリューションズ社 MBR-1520R-4	〃
自動細胞分離解析装置	ベクトン・ディッキンソン社 BD FACSAria™ II セルソーター	がん免疫療法研究開発学部
自動細胞解析装置	ベクトン・ディッキンソン社 BD FACSCanto™ II フローサイトメーター	〃
循環腫瘍細胞（CTC）解析装置	ClearBridge Biomedics社 ClearCell FX システム	〃
タンパク質多項目同時測定システム	BIO-RAD社 Bio-Plex200	〃
全自動磁気細胞分離装置	Miltenyi社 autoMACS Pro Separator	〃
プレートリーダー	パーキンエルマー社 ARVOX4	〃

重粒子線治療棟地下1階

品名	型 式	関係セクション
(重粒子線治療部門)		
重粒子線治療装置	東芝製 CI-1000	重粒子線治療科
全身用コンピュータ断層撮影装置	東芝メディカルシステムズ社製 Aquilion TSX-201A	〃
治療計画装置	エレクタ社製 Monaco	〃
内視鏡ビデオ装置システム	オリンパス社製 VISERA Pro	〃

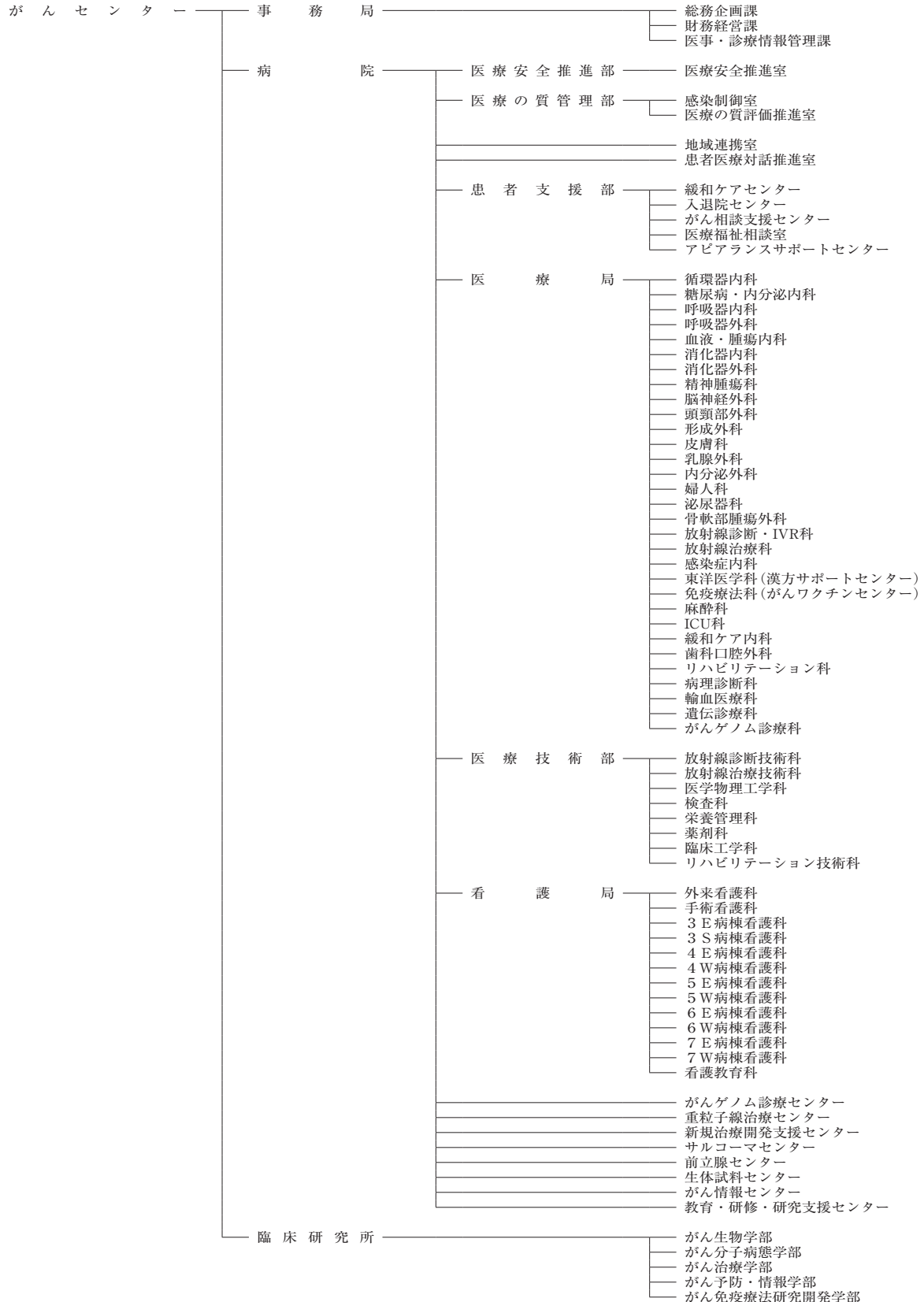
第3節 組 織

1 組 織

(1) 組織表

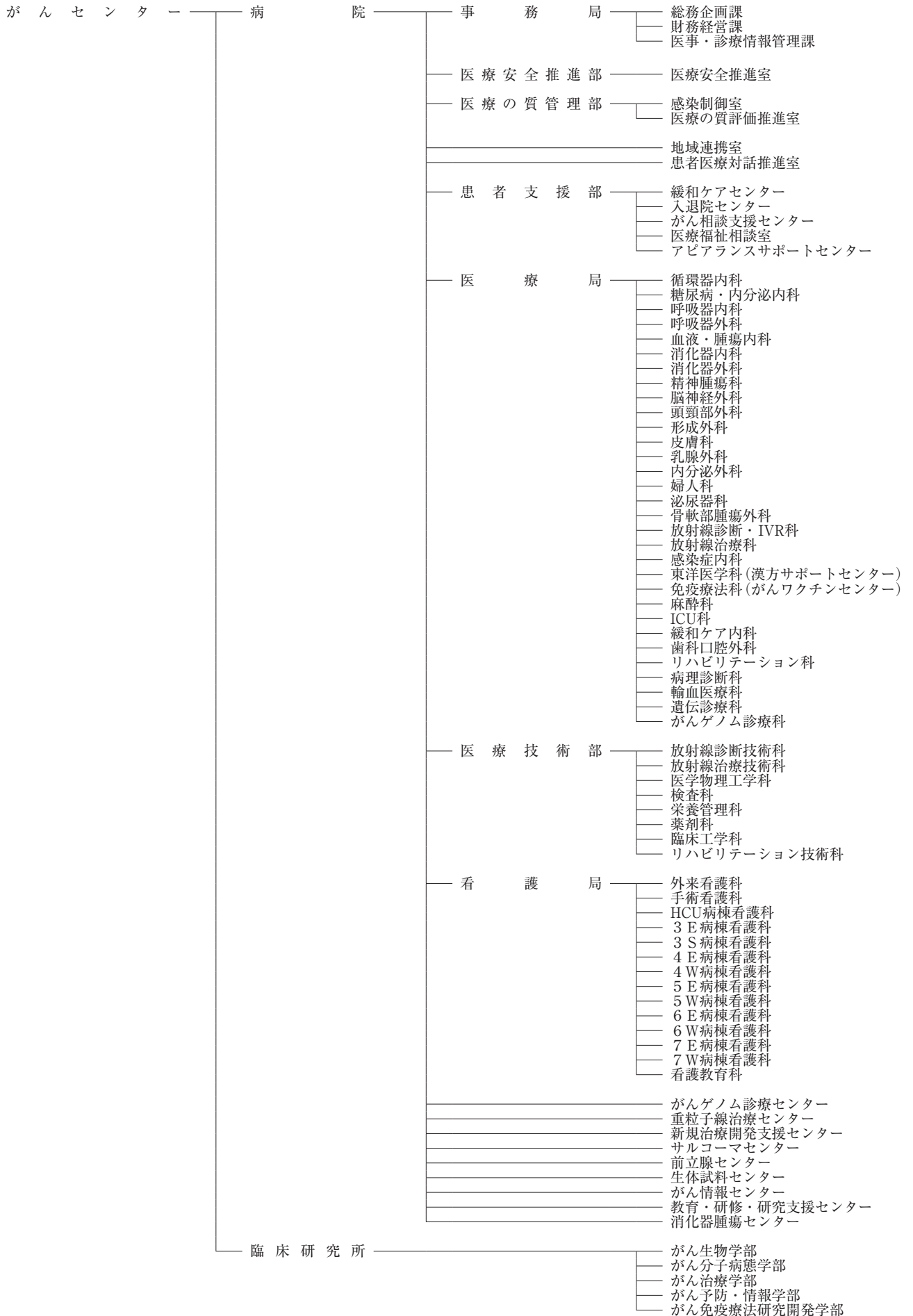
組 織 表

(令和6年4月1日現在)



組 織 表

(令和7年4月1日現在)



(2) 組織別常勤職員配置状況

令和6年4月1日現在

(単位：人)

組 織	一 般 事 務	医 師 (任 期 付)	薬 剤 師	診療放射線技師	臨床検査技師	管理栄養士	臨床工学技士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	医学物理士	品質管理士	保健師	福祉職	電話交換職	病棟技能職	看護師	研究職	物理職	遠伝カウンセラー	診療情報管理士	合 計
管 理 者	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	7
総 院 長		1																				1
病 院 長		1																				1
副 院 長		4															1					5
事 務 局	27	12 (12)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	40
事 務 局 長	1																					1
副 事 務 局 長	1																					1
特定課題推進担当部長	1																					1
総 務 企 画 課	11	12 (12)																				23
財 務 経 営 課	7																					7
医事・診療情報管理課	6																			1		7
医 療 の 質 管 理 部	0 (3)	0 (8)	1 0 (3)	0 (2)	0 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3 (3)	0 0 0	0	0	0	4 (20)
医 療 安 全 推 進 室	(1)	(3)	1 (1)	(1)													1 (1)					2 (7)
感 染 制 御 室		(1)	(1)	(1)	(1)												2 (0)					2 (4)
医療の質評価推進室	(2)	(4)	(1)														(2)					0 (9)
地 域 連 携 室	2	0 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 (1)
地 域 連 携 室 長		(1)																				0 (1)
地 域 連 携 室	2																					2
患 者 支 援 部	(2)	0 (7)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	18 (5)	0	0	0	0	21 (14)
患 者 支 援 部 長		(1)																				0 (1)
緩和ケアセンター		(2)															3					3 (2)
がん相談支援センター		(0)															3					3 (0)
入 退 院 セ ン タ ー		(0)															11 (1)					11 (1)
アピアランスサポートセンター																	1 (1)					1 (1)
医 療 福 祉 相 談 室		(1)												3								3 (1)
患者医療対話推進室	(2)	(3)															(3)					0 (8)
医 療 局	0	121 (25)	(9)	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	134 (9)
医 療 局 長		(1)																				0 (1)
循 環 器 内 科		1																				1
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科		1																				1
呼 吸 器 内 科		6 (1)																				6
呼 吸 器 外 科		6 (2)																				6
血 液 ・ 腫 瘍 内 科		10 (1)																				10
消 化 器 内 科		13 (4)																				13
消 化 器 外 科		16 (4) (1)																				16 (1)
精 神 腫 瘍 科		1																				1
脳 神 経 外 科		2																				2
頭 頸 部 外 科		4 (2)																				4
形 成 外 科		1																				1
皮 膚 外 科		0																				0
乳 腺 外 科		6 (2)																				6
内 分 泌 外 科		2 (1)																				2
婦 人 科		6 (1)																				6
泌 尿 器 科		5 (1)																				5
骨 軟 部 腫 瘍 外 科		3 (1)																				3
放 射 線 診 断 ・ I V R 科		9 (2)																				9
放 射 線 治 療 科		11 (3)																				11
感 染 症 内 科		1																				1
東洋医学科 (漢方サポートセンター)		1																				1
免疫療法科 (がんワクチンセンター)			(2)																			0 (2)
麻 酔 科		4																				4
I C U 科		1																				1
緩 和 ケ ア 内 科		1																				1
歯 科 口 腔 外 科		1																				1
リハビリテーション科		1																				1

組 織	一 般 事 務	医 師 (任期付)	薬 剤 師	診療放射線技師	臨床検査技師	管理栄養士	臨床工学士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	医学物理士	品質管理士	保健師	福祉職	電話交換職	病棟技能職	看護師	研究職	物理職	遺伝カウンセラー	診療情報管理士	合計
病理診断科 輸血医療科 遺伝診療科 がんゲノム診療科		8 (2) (1) (1) (1)			11															2		19 (2) 0 (1) 2 (1) 0 (1)
がんゲノム診療センター	0 (1)	0 (9)	0	0	0 (2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (2)	0 (3)	0	0	0	0 (17)
がんゲノム診療センター長		(1)																				0 (1)
がんゲノム診療センター	(1)	(8)			(2)												(2)	(3)				0 (16)
重粒子治療センター	0	1 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	1 (1)
重粒子治療センター長		1																				1
重粒子治療センター		(1)																				0 (1)
医療技術部	0	0 (4)	32	47	22 (2)	10	4	3	3	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	128 (6)
医療技術部長		(1)																				0 (1)
放射線診断技術科				19																		19
放射線治療技術科				28																		28
医学物理工学											6											6
検査管理科					22 (2)																	22 (2)
栄養管理科		(1)				10																10 (1)
薬剤科			32																			32
臨床工学		(1)					4															4 (1)
リハビリテーション技術科		(1)						3	3	1												7 (1)
看護局	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	442 (2)	0	0	0	0	442 (2)
看護局長																	(1)					0 (1)
看護局副長																						4
外来看護科																	54					54
手術看護科																	26					26
3 E 病棟看護科																	24					24
3 S 病棟看護科																	30					30
4 E 病棟看護科																	29					29
4 W 病棟看護科																	30					30
5 E 病棟看護科																	26					26
5 W 病棟看護科																	28					28
6 E 病棟看護科																	30					30
6 W 病棟看護科																	27					27
7 E 病棟看護科																	22					22
7 W 病棟看護科																	25					25
看護教育科																	3 (1)					3 (1)
看護局																	84					84
新規治療開発支援センター	1	0 (3)	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	9 (3)
新規治療開発支援センター長		(1)																				0 (1)
新規治療開発支援センター	1	(2)	3		2												3					9 (2)
サルコマーセンター	0	0 (2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (2)
サルコマーセンター長		(1)																				0 (1)
サルコマーセンター		(1)																				0 (1)
前立腺センター	0	0 (2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (2)
前立腺センター長		(1)																				0 (1)
前立腺センター		(1)																				0 (1)
生体試料センター	0	0 (2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (2)
生体試料センター長		(1)																				0 (1)
生体試料センター		(1)																				0 (1)
がん情報センター	3	0 (2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3 (2)
がん情報センター長		(1)																				0 (1)
がん情報センター	3	(1)																				3 (1)
臨床研究所	0	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13 (8)	0	0	0	20
臨床研究所長		1																				1
臨床研究所	0	4			2													13 (8)				19
教育・研修・研究支援センター	0 (4)	0 (7)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (3)	0 (0)	0	0	0	0 (17)
教育・研修・研究支援センター長		(1)																				0 (1)
教育・研修・研究支援センター	(4)	(6)	(1)	(1)	(1)												(3)					0 (16)
現員	33 10	145 37 57	36 0 4	47 3	37 6	10	4	3	3	1	6	0	0	3	0	0	467 15	13 8 3	0	2	1	811 98

※ () は、所内の兼務業務職員で外数

※ □ は、兼務で外数

※ 〈 〉 は、任期付医師（旧修練医）、任期付研究員、任期付職員で内数

(3) 役 職 者

令和6年4月1日現在

役 職 名	氏 名
総 務 局 長	古 瀬 純 司
病 院 長	酒 井 リ カ
事 務 局 長	天 野 一
副 院 長	岸 田 健
〃	森 永 聡一郎
〃	大 島 貴
〃	伊 藤 宏 之
〃	砂 田 麻奈美
副 事 務 局 長	原 田 麻 子
総 務 企 画 課 長	(兼)原田 麻子
財 務 経 営 課 長	柳 谷 耕 平
医 事 ・ 診 療 情 報 管 理 課 長	新 宅 賢 一
医 療 の 質 管 理 部 長	(兼)伊藤 宏之
医 療 安 全 推 進 室 長	(兼)森永聡一郎
感 染 制 御 室 長	(兼)築地 淳
医 療 の 質 評 価 推 進 室 長	(兼)伊藤 宏之
地 域 連 携 室 長	(兼)岸田 健
患 者 支 援 部 長	(兼)岸田 健
緩 和 ケ ア セ ン タ ー 長	(兼)太田 周平
患 者 支 援 セ ン タ ー 長	(兼)岸田 健
アピランスサポートセンター長	(兼)松尾 里香
患 者 医 療 対 話 推 進 室 長	(兼)岸田 健
医 療 局 長	(兼)大島 貴
循 環 器 内 科 部 長	常 松 尚 志
呼 吸 器 内 科 部 長	齋 藤 春 洋
呼 吸 器 外 科 部 長	伊 藤 宏 之
血 液 ・ 腫 瘍 内 科 部 長 (血 液)	田 中 正 嗣
〃 (腫 瘍)	橋 本 千寿子
消 化 器 内 科 部 長 (肝 胆 膵)	上 野 誠
〃 (消 化 管)	町 田 望
消 化 器 外 科 部 長 (胃 食 道)	大 島 貴
〃 (〃)	尾 形 高 士
〃 (肝 胆 膵)	山 本 直 人
〃 (大 腸)	塩 澤 学
精 神 腫 瘍 科 部 長	横 尾 実乃里
脳 神 経 外 科 部 長	佐 藤 秀 光
頭 頸 部 外 科 部 長	古 川 まどか
形 成 外 科 部 長	清 水 調
乳 腺 外 科 部 長	山 下 年 成
内 分 泌 外 科 部 長	益 戸 功 彦
婦 人 科 部 長	佐 治 晴 哉
泌 尿 器 科 部 長	中 井 川 昇
骨 軟 部 腫 瘍 外 科 部 長	竹 山 昌 伸

役 職 名	氏 名
放 射 線 診 断 ・ I V R 科 部 長	栗 原 宏 明
放 射 線 治 療 科 部 長	加 藤 弘 之
〃	吉 田 大 作
感 染 症 内 科 部 長	築 地 淳
東洋医学科 (漢方サポートセンター) 部長	板 倉 英 俊
免疫療法科 (がんワクチン・免疫センター) 部長	(兼)笹田 哲朗
麻 酔 科 部 長	佐々木 俊 郎
I C U 科 部 長	高 野 修 身
緩 和 ケ ア 内 科 部 長	太 田 周 平
リハビリテーション科部長	佐久間 藤 子
病 理 診 断 科 部 長	横 瀬 智 之
輸 血 医 療 科 部 長	(兼)田中 正嗣
遺 伝 診 療 科 部 長	(兼)成松 宏人
が ん ゲ ノ ム 診 療 科	(兼)廣島 幸彦
が ん ゲ ノ ム 診 療 セ ン タ ー 長	(兼)廣島 幸彦
重 粒 子 線 治 療 セ ン タ ー 長	鎌 田 正
医 療 技 術 部 長	(兼)伊藤 宏之
放 射 線 診 断 技 術 科 長	花 坂 信 明
放 射 線 治 療 技 術 科 長	井 手 紳 介
医 学 物 理 工 学 科 長	草 野 陽 介
検 査 科 長	堀 口 早 苗
栄 養 管 理 科 長	(兼)伊藤 宏之
薬 剤 科 長	櫻 井 学
臨 床 工 学 科 長	(兼)伊藤 宏之
リハビリテーション技術科長	(兼)佐久間藤子
看 護 局 長	(兼)砂田麻奈美
副看護局長 (総 務 担 当)	鳴 原 まゆみ
〃 (教 育 担 当)	斉 田 まち子
〃 (業 務 担 当)	大 番 美奈子
〃 (入退院・患者支援部担当)	平 井 直 美
新 規 治 療 開 発 支 援 セ ン タ ー 長	(兼)村上 修司
サ ル コ ー マ セ ン タ ー 長	(兼)竹山 昌伸
生 体 試 料 セ ン タ ー 長	(兼)宮城 洋平
が ん 情 報 セ ン タ ー 長	(兼)宮城 洋平
臨 床 研 究 所 長	宮 城 洋 平
が ん 生 物 学 部 長	(兼)宮城 洋平
が ん 分 子 病 態 学 部 長	(兼)宮城 洋平
が ん 治 療 学 部 長	廣 島 幸 彦
が ん 予 防 ・ 情 報 学 部 長	成 松 宏 人
が ん 免 疫 療 法 研 究 開 発 学 部 長	笹 田 哲 朗
教 育 ・ 研 修 ・ 研 究 支 援 セ ン タ ー 長	(兼)大島 貴
前 立 腺 セ ン タ ー 長	(兼)中井川 昇

(4) 任期付医師

① 任期付常勤医

がん診療における専門かつ高度な知識と技術を習得した臨床医を育成し、神奈川県のがん医療を支援する目的として任期付常勤医制度を設けている。

期間は3年以内、雇用形態は週38時間45分勤務の任期付職員である。医学部卒業後4年以上の臨床経験を修了した医師（麻酔医及びICU科医師について3年以上）を対象とし、希望する診療科に専属しながら専門的な臨床を経験する。採用は配属指名を受けた診療科の科長が責任を持って人員を確保し、院内の配属される診療科の指定は診療状況を勘案、調整して総長が決定する。採用人数は年度によって変わることがある。なお、終了後、常勤スタッフになる場合もある。

② レジデント

医学部卒業後、臨床研修を修了した医師を対象に、幅広い視野と優れた技量をもった「がん臨床医」の育成を

目的としてレジデント制度を設けている。

期間は原則2年間（平成15年度採用までは原則3年間。現在は本人希望により3年間の場合もある。）、雇用形態は週38時間45分勤務の任期付職員である。平成18年度までは、医学部卒業後2年以上の臨床経験を修了した医師を対象としたが、臨床研修制度の改定に伴い、平成19年度から24年度まで、原則として後期研修を2年以上経験した卒後4年以上の医師、平成25年度募集からは後期研修を1年以上経験した医師を対象とする専門研修とした。平成24年度までは最初の年に放射線診断科および病理診断科を各3ヶ月必修研修で、その他の期間は希望する専攻科あるいは専攻コースの診療科で研修した。

募集の詳細はホームページに掲載し、筆記試験・面接により採用が決定される。

採用実績は全国からで、令和4年度6名、令和5年度6名、令和6年度6名となっており、令和7年度については8名程度の募集となっている。

任期付常勤医及びレジデント配置状況

令和6年4月1日

(単位：人)

診療科名	任期付常勤医	レジデント
循環器内科		
糖尿病内科	1	
呼吸器内科	2	2
呼吸器外科	1	
血液内科		
腫瘍内科		
消化器内科	4	3
消化器外科	4	4
精神腫瘍科		
脳神経外科		
頭頸部外科	2	
形成外科		
皮膚科		
乳腺外科	2	1
内分泌外科	1	
婦人科	1	1
泌尿器科	1	1
骨軟部腫瘍外科	1	
放射線診断・IVR科		
放射線治療科		
放射線治療科		
東洋医学科		
免疫療法科		
麻酔科		
ICU科		
緩和ケア内科		
歯科		
口腔外科		
リハビリテーション科		
病理診断科		
輸血医療科		
遺伝診療科		
計	20	12

第4節 所内会議・委員会

	名 称	事 務 局
1	管理者会議	総務企画課
2	病院運営会議	総務企画課
3	病院経営企画会議	財務経営課
4	機種等選定会議	財務経営課
5	工事発注方法審査会議	財務経営課
6	臨床研究所運営会議	臨床研究所
7	都道府県がん診療連携拠点病院企画会議	地域連携室
8	神奈川県立病院がん基金運営会議	総務企画課
9	特定機能病院承認取得検討会議	総務企画課
10	防災対策会議	総務企画課
11	医療安全管理会議	医療安全推進室
12	医療安全推進室会議	医療安全推進室
13	リスクマネージャー会議	医療安全推進室
14	院内感染対策会議（ICC）	総務企画課
15	院内感染対策チーム（ICT）	総務企画課
16	医療機器安全管理会議	財務経営課
17	医療ガス安全管理会議	総務企画課
18	放射線治療安全管理委員会	総務企画課
19	放射線安全会議	総務企画課
20	がんセンターボード運営会議	地域連携室
21	医療の質向上委員会	総務企画課
22	臨床倫理委員会	新規治療開発支援センター
23	有害事象検討会議	医療安全推進室
24	診療科科長会議	総務企画課
25	病棟運営・地域医療連携会議	医事・診療情報管理課
26	外来運営会議	医事・診療情報管理課
27	薬事審議会	薬剤科
28	診療材料検討会議	財務経営課
29	DPC・適正診療報酬請求検討会議	医事・診療情報管理課
30	診療録検討会議	医事・診療情報管理課
31	クリニカルパス会議	医事・診療情報管理課
32	輸血療法検討会議	検査科
33	がん薬物療法検討会議	薬剤科
34	レジメン審査委員会	薬剤科
35	遺伝カウンセリング外来運営会議	医事・診療情報管理課
36	内視鏡室運営会議	財務経営課
37	HCU病棟運営会議	看護局
38	緩和ケアセンター会議	地域連携室
39	周術期センター会議	医事・診療情報管理課
40	手術室運営会議	財務経営課
41	手術支援ロボット運用検討会議	財務経営課
42	手術室医療機器管理会議	財務経営課
43	がんゲノム診療センター運営会議	総務企画課
44	がんゲノム診療センター会議	がんゲノム医療管理室
45	重粒子線治療センター管理運営会議	総務企画課
46	重粒子線治療施設診療委員会	総務企画課
47	前立腺センター運営会議	総務企画課

	名 称	事 務 局
48	生体試料センター運営委員会	生体試料センター
49	漢方サポートセンター運営会議	東洋医学科
50	アピアランスサポートセンター運営会議	アピアランスサポートセンター
51	就労支援検討会議	患者支援部
52	看護科長会議	看護局
53	看護師等が行う静脈注射検討会議	看護局
54	「看護の日」および「看護週間」記念行事準備会議	看護局
55	医療技術部会議	1年ごとに輪番
56	栄養管理会議	栄養管理科
57	栄養サポートチーム（NST）運営委員会	栄養管理科
58	リハビリテーション診療運営会議	リハビリテーション技術科
59	臨床検査会議	検査科
60	超音波検査運営会議	検査科
61	放射線画像診断運営会議	放射線診断技術科
62	核医学PET運営会議	放射線診断技術科
63	相談・苦情対応検討会議	総務企画課
64	患者サービス検討会議	医事・診療情報管理課
65	投書箱運営会議	総務企画課
66	情報セキュリティ管理会議	総務企画課
67	病院診療科統合データベースシステム運用調整会議	総務企画課
68	医療情報システム運用調整会議	医事・診療情報管理課
69	広報企画会議	総務企画課
70	ゆめいろネット運用検討会議	地域連携室
71	研修等企画調整会議	総務企画課
72	臨床研修委員会	総務企画課
73	図書室運営会議	総務企画課
74	治験審査委員会	新規治療開発支援センター
75	研究倫理審査委員会	新規治療開発支援センター
76	COI委員会	総務企画課
77	治験費等運用調整会議	新規治療開発支援センター
78	遺伝子組換え生物等安全委員会	臨床研究所
79	動物実験委員会	臨床研究所
80	職務発明検討会議	臨床研究所
81	病院・臨床研究所共同研究会議	臨床研究所
82	地域連携運営会議	地域連携室
83	ボランティア活動推進会議	総務企画課
84	衛生委員会	総務企画課
85	レジデント制度運営会議	総務企画課
86	兼業許可等検討委員会	総務企画課
87	医療従事者勤務環境改善委員会	総務企画課
88	国外出張選考委員会（研究研修費）	総務企画課
89	国外出張者選考委員会（治験費）	総務企画課
90	手術室安全管理会議	手術看護科
91	褥瘡対策チーム運営委員会	褥瘡管理者
92	手術室会議	手術室看護科
93	高難度新規医療技術評価委員会	財務経営課
94	未承認新規医薬品等評価委員会	財務経営課
95	医療安全監査委員会	医療安全推進室
96	医療機器更新申請管理会議	財務経営課

第2章 病院業務

第1節 概要

当センターは、県内唯一の「都道府県がん診療連携拠点病院」として、県民に最良のがん医療を提供することを使命に、診療・研究・教育の三領域で機能向上を図っている。令和6年度は、医療安全体制の強化、患者支援の充実、人材育成と研究推進の基盤整備、働き方改革への対応、診療実績の向上など、多面的な病院機能の強化に取り組んだ一年であった。

まず、組織体制の整備として、病院直下に「医療安全推進部」を設置し、「医療安全推進室」をその配下に位置付けることで、医療安全管理の指揮系統を明確化した。「患者支援部」では、「緩和ケアセンター」「アピアランスサポートセンター」に加え、「入退院支援センター」「がん相談支援センター」「医療福祉相談室」を第3階層組織として再整備し、患者支援機能を体系的に強化した。さらに、「研究支援センター」を「教育・研修・研究支援センター」へと再編し、院内教育と研究推進の中核としての役割を担う体制を整えた。

病院機能の評価においては、令和4年度から準備を進めてきた日本医療機能評価機構「一般病院3(3rdG Ver.3.0)」の認定を、令和6年7月12日付で取得した。同区分は、高度医療の提供、医療技術の開発・評価、研修機能を有する病院に求められる水準であり、今回の認定は当センターの医療提供体制が外部機関から高く評価されたものである。

また、医師の働き方改革が本格施行されたことを受け、長時間時間外勤務医師を対象とした面接指導体制を整備し、医療従事者勤務環境改善委員会を中心に業務改善・効率化を議論し、持続可能な勤務環境の構築を推進した。

診療実績では、入院延患者数125,258人（前年比+5,312）、病床稼働率82.7%（+3.7）、新入院患者数13,884人（+688）

であった。手術件数は3,776件（+13）であり、特に手術支援ロボットが2台体制となったことにより、ロボット支援手術は478件（+178）と大幅に増加した。また、外来延患者数は270,173人（-1,751）と減少したものの、逆紹介の推進により初来院患者数は6,694人（+252）と増加し、外来化学療法件数も26,214件（+168）と増加した。放射線治療件数（光子線治療）は1,428件（+117）、重粒子線治療は729件（-35）であり、放射線治療部門全体として引き続き高い需要が認められた。重粒子線治療は、国内において提供施設が限られる先進的ながん治療であり、受療者拡大に向けたさらなる周知は今後の課題である。また、がん遺伝子パネル検査は823件（+214）と大きく増加し、個別化医療の進展に伴い、がんゲノム医療拠点病院としての役割が一層強化された。

経営面では、病棟単位で幹部・診療科・看護部・医事課が連携して改善に取り組み、病床稼働率は前年度比3.7ポイント増となった。これに伴い入院収益は4億円以上増加し、医業収益は256億円（+3.9億）に達した。一方で、給与費・委託費などの増加により医業費用は273億円（+4億）となり、医業収支は前年度より約800万円のマイナスとなった。引き続き、経営基盤強化に向けた取り組みを進めている。

研究活動では、研究支援体制の充実により、職員が筆頭著者となる査読付き英文論文は96編（+12）となり、研究文化が着実に根付いてきた。

以上のように、令和6年度は、医療安全体制の強化、患者支援の充実、人材育成と研究推進の基盤整備、働き方改革への対応、そして診療実績の向上に取り組み、がん専門病院としての使命を果たすための前進がみられた一年であった。

第2節 医 療 局

循環器内科

1. スタッフ

常松尚志

2. 診療実績

再来患者数延べ7,418名、併診依頼患者数2,500名以上、心臓超音波検査3,159件、下肢静脈超音波検査1,134件、運動負荷心電図検査173件、ホルター型心電図検査95件、薬物負荷心筋シンチ32件、心臓MRI 5 件、入院中併診患者数20-30名

3. 教育・人材育成

がん関連血栓症診療指導、救急体制RRS検討会議、BLS/ACLS講習会、リスクマネージャー会議、非常勤医師やスタッフの教育など

4. 展望

循環器疾患を合併する患者さん（とくに静脈血栓症や冠動脈ステント、各種デバイス留置）は年々増加傾向であり、さらに心不全、心筋炎、たこつぼ心筋症も増加傾向である。いかに安全にかつ効率的にマネジメントできるかが今後の課題である。

文責：常松尚志

糖尿病・内分泌内科

1. スタッフ

室橋祐子

2. 診療実績

当科の診療内容は当院でがん治療を行う方の糖尿病・代謝疾患、内分泌疾患の診断・治療を行い、がん治療が円滑に行えるようサポートすることである。令和6年度の診療実績は外来新患件数405件、外来再診件数5,928件、入院併診新患件数246件、入院併診再診739件であった。病状が安定した患者はかかりつけ医に逆紹介する一方で、地域医療機関から当院への頻回通院が必要な患者の紹介を受けることで病診連携を深めている。

3. 教育・人材育成

特記事項なし。

4. 展望

糖尿病・内分泌疾患を持つ方が安心してがん診療を受けられるよう、スタッフへの教育・研修機会の設定や新たな患者教育資材の作成・利用を通じて診療レベルの向上を目指す。

文責：室橋祐子

呼吸器内科

1. スタッフ

村上修司、近藤哲郎、片倉誠悟、寺西周平、田川雄斗、鈴木祐一郎（レジデント）、齋藤春洋

2. 診療実績

2024年度は、肺がん診療を中心に外来および入院診療を継続し、高い診療需要に対応した。外来患者数は、新患者1,038例（平均90.6例／月、構成比8.2%）、再来患者21,060例、延患者数22,098例に達し、年間を通して安定した診療体制を維持した。再来患者の割合が高い状況は、進行肺がん患者を多数受け入れている当科の診療特性を反映している。一方で新患数は年度後半にやや減少傾向がみられたが、年間の総数としてはおおむね安定して推移した。

入院診療では、年間1,039例（平均86.6例／月）が入院し、退院患者数は1,040例であった。平均在院日数は8.9日と比較的短く、化学療法を目的とした短期入院が中心であった。治験および臨床研究については、2024年度に140件の実施・対応を行い、臨床試験登録体制を維持した。学術活動としては、学術英語論文41本（うち筆頭2本）を発表し、肺がん領域における診療と研究を継続的に推進した。

3. 教育・人材育成

レジデントおよび呼吸器内科専門医を志す若手医師、さらに気管支鏡診療を担当する非常勤医師に対して、診療、研究、および学会発表に関する指導を行った。教育・地域貢献の取り組みとして、地域の肺がん検診における読影サポートを行い、地域医療連携および地域のがん診療水準向上に寄与した。さらに、呼吸器グループとしての診療体制および専門性を広く周知し、連携強化を図ることを目的とした診療連携地域連携会を開催した。

4. 展望

個別化医療を中心とした肺がん診療を推進し、バイオマーカー検査および臨床試験体制を強化する。包括的遺伝子検査に基づく治療選択と臨床研究への参加拡大により、最適な治療が提供できる体制を整備する。

文責：村上修司

呼吸器外科

1. スタッフ

伊藤宏之、永島琢也、伊坂哲哉、菅野千晶、高田一樹、松山遼太郎、レジデント鍋木結衣

2. 診療実績

診療の「見える化」を重視しており、積極的にクリニカルパスを活用している。2024年度は約91.1%にパスを適用し、完遂率は92.8%、パス適応例の平均在院期間は9.1日で

あった。朝と夕方はチーム全員でブリーフィングを行い、手術内容や検査結果、患者さんの訴え、看護師からの報告を確認し、方針と問題点の共有化と多職種連携に重点を置いている。

日本胸部外科学会に報告した2024年の手術件数は554件であり、前年より50件減少した。原発性肺癌351件（前年比-33件）、転移性肺腫瘍72件（-8件）、縦隔腫瘍28件（-2件）などであった。原発性肺癌に対する術式は、肺葉切除142件（気管支形成15例）、区域切除136件、部分切除73件、肺全摘0件であった。2020年度より進めている、地域医療機関や医師会と連携して肺がん検診の啓蒙活動と、病院-病院連携、多職種連携に重点を置いている。

3. 教育・人材育成

毎年レジデント1名を継続して受け入れている。

4. 展望

県民に信頼される診療科を目指して、患者さんご家族の気持ちを尊重しつつ最良の医療が提供できるように、職員間および患者・家族とのコミュニケーションを充実していきたい。また呼吸器内科、病理診断科、放射線・重粒子線治療科との連携を深め、呼吸器腫瘍センターを立ち上げた。引き続き地域医師会でのがん検診活動の啓蒙を行い、積極的に情報発信を継続していきたい。

文責：伊藤宏之

血液・腫瘍内科（血液）

1. スタッフ

田中正嗣、立花崇孝、穂本昌寛、香月健吾、齋藤道城、

2. 診療実績

7W病棟（無菌）入院延患者数は9,613人（R4）、10,027人（R5）から9,780人に減少した。患者一人当たりの単価も123,325円（R4）、137,699円（R5）から123,971円に減少した。無菌治療室加算額は18.6千万（R4）、18.7千万（R5）から14.6千万と減少した。同種造血幹細胞移植は54例に行われた。移植患者の年齢は16～74歳（中央値59歳）であった。強度減弱前処置は47例（87%）と多い。疾患別では、AML 27例、ALL 4例、その他の白血病 1例、MDS 12例、CML 1例、MPN 3例、ML 5例、造血障害 1例であった。ドナー別では、血縁ドナーから10例、骨髄バンクドナーから9例、臍帯血バンクから52例の移植が行われた。外来患者延数は5,037人（R4）、4,974人（R5）より4,470人に減少した。移植後患者指導管理料の算定は136件（R4）、51件（R5）から159件と増加した。

3. 教育・人材育成

若手スタッフの穂本昌寛、香月健吾、齋藤道城に診療、研究について指導した。

4. 展望

令和6年度も令和5年度に引き続き国立がん研究センター中央病院が行う移植拠点病院事業に地域拠点病院とし

て参加した。この事業を通して核移植施設との連携、情報交換を密に行い移植診療の技術向上を図ると共に地域の紹介元施設との連携を深め、患者リクルートを積極的に行う。また、4年前から当院主催の近隣施設との移植連携講演会を行っており、紹介患者は徐々に増えつつある。さらに連携を強化し、逆紹介も増やしていきたい。

文責：田中正嗣

血液・腫瘍内科（腫瘍内科）

1. スタッフ

酒井リカ、橋本千寿子、高橋寛行、寺中 寛、廣瀬奈津季、山ノ川晴花

2. 診療実績

2024年4月～2025年3月の延べ新患者数（他科からの併診含む）は416人であり、内訳は成熟リンパ系悪性腫瘍253人（悪性リンパ腫210人、形質細胞性腫瘍43人）、上皮性悪性腫瘍133人（うち、原発不明がん70人）、その他30人であった。成熟リンパ系腫瘍以外では、原発不明がん（疑い）として紹介される患者割合が多く、カンサーボードによる診療科横断的な検討やがん遺伝子パネル検査などにより方針を決定した。2024年の延べ外来患者数12,406人、初来院338人、セカンドオピニオン外来27件、入院延患者数9,951人、新入院数716人、平均在院日数13.9日、自家造血幹細胞移植数11件であった。

3. 教育・人材育成

スタッフの経験年数に応じて人材育成を行った。専門研修プログラムに基づき、教育・指導した。後期研修医1名が専門医取得に向けて研鑽を積んだ。

4. 展望

成熟リンパ系腫瘍のほか、他院で対応困難な希少がんの患者を積極的に受け入れていく。丁寧な説明のもと、多職種と連携し、個々の患者のニーズにあわせて適切に医療提供する。また、医師主導臨床試験や治験を介した治療開発にも積極的に取り組み、県民ならびに県内外の紹介病院の信頼にこたえる努力を続けていく。

文責：橋本千寿子

消化器内科（消化管）

1. スタッフ

古田光寛、中野間 紘、濱 崇哲、大西美沙、町田 望

2. 診療実績

当該年度は消化器内科消化管から内視鏡科が独立し、消化器内科消化管は化学療法を中心とし、内視鏡処置は内視鏡科が中心となり診療を行った。それに伴い内視鏡科が独立したため初診患者数は減少しているが、薬物療法の対象となる患者数は増加している。

3. 教育・人材育成

院内では診療科カンサーボードおよび外科・放射線治療科合同カンサーボードを通じて、継続的な教育を行っている。学術活動においては、在籍2年目の医師はASCO-GIにてポスター発表を行い、さらに別の在籍2年目の医師は日本臨床腫瘍学会学術集会や日本食道学会学術集会などで発表を行っている。また、在籍5年目の医師はWJOGにおいて企業資金による前向き観察研究を行っており、次の第II相特定臨床試験に関する資金を獲得し試験準備を行っていた。これに加えて、全国の医師や医療スタッフを対象とした講演も複数回実施している。このように、臨床にとどまらず学術活動においても人材が育成され対外的に発信できるようになってきた。

4. 展望

臨床においては、親切かつ丁寧な診療を徹底し患者さんや地域の信頼を得られるような医療を努めつつ、若手には多くの症例の経験を積ませ医師のスキルアップを促進する。また、カンファレンスにおいて症例ごとに十分な検討を行い、適切な治療選択が可能となる臨床能力の向上を目指す。研究面では、治験や臨床試験への積極的な患者登録により、各試験での登録上位施設として全国的に認知されつつある。今後はこれを更に発展し、より多くの試験で症例を登録し、また自ら試験を立案しより全国的に発信しより影響力の高い施設とすることが目標である。

文責：古田光寛

消化器内科（内視鏡）

1. スタッフ

滝沢耕平、塩月一生、石川俊太郎（レジデント）

2. 診療実績

今年度（2024年4月）より消化器内科（消化管）から分離・独立する形で新設された。初年度の内視鏡（消化管）件数は、上部内視鏡5,213件、大腸内視鏡1,929件で、内視鏡切除844件（食道82/胃153/十二指腸22/大腸587、うちESD264（食道81/胃125/十二指腸1/大腸57））、消化管ステント68（食道13/胃十二指腸40/大腸15）、PEG61であった。

3. 教育・人材育成（注：研修会や講演会等も含む）

1名のレジデントを受け入れた。また、海外からの研修生として、フィリピン（3ヶ月間）とインドネシア（6週間）からの2名の受け入れを行った。

4. 展望

まずは院内の他部署から信頼を得ること。同時に県民および県内の医療機関に信頼される県内随一の内視鏡科を目指す。臨床のみならず学会や論文での発表も積極的に行い、国内有数の内視鏡センターを目標とする。海外からの研修受け入れも積極的に行い、Kanagawa Cancer Centerの名を世界に轟かせ、国際舞台で活躍できる人材の育成を行う。

文責：滝沢耕平

消化器内科（肝胆膵）

1. スタッフ

上野 誠、小林 智、福島泰斗、戸塚雄一朗、濱口智美、朝井靖二、榎本昌人、白石和雅

2. 診療実績

肝胆膵がんの早期診断、進行がんにおける化学療法を主として集学的治療を行っている。2024年度は、肝細胞がん153人、膵がん599人、胆道がん205人を診療した。集学的治療として、肝細胞がんに対し、経皮的ラジオ波焼灼術27件、肝動脈塞栓術86件を行った。内視鏡的胆管膵管造影、胆道ドレナージ1,164件、超音波内視鏡検査、関連処置487件を施行した。臨床試験として、肝胆膵癌で複数の企業治験、JCOGグループの複数の医師主導臨床研究を行っている。

3. 教育・人材育成（注：研修会や講演会等も含む）

なし。

4. 展望

一日でも早く、絶対に患者を断らないをモットーに、難治癌である肝胆膵がんの克服、早期診断のため、近隣病院との連携を重視して、診療を行っている。

文責：上野 誠

消化器外科（胃食道）

1. スタッフ

尾形高士、山田貴允、長澤伸介、兼松恭平、公盛啓介、中山雄太、秋元規宏

2. 診療実績

令和6年度の総手術件数は210件であった。胃癌手術は76件で、うちロボット支援下を含む腹腔鏡下手術は50件であった。食道癌（食道胃接合部腺癌を含む）手術は69件で、すべてが胸腔鏡下手術で行った。全国的に胃癌発生数が減少していて症例数は減っているものの、食道胃接合部癌は増加しており、食道切除術の数は県内有数の手術数を保っている。

3. 教育・人材育成

胃癌手術においては、若手医師の日本内視鏡外科学会技術認定医合格を支援するために、ドライラボやウェットラボ、講習会を通じて技術の継承や育成を行っている。令和6年度も1人の合格者を輩出した。またロボット手術支援下手術の術者育成も積極的に行い、現在胃癌手術では3名がコンソールサージョンとして手術を担当している。食道癌手術においては、新たに日本食道学会食道外科専門医2名を輩出し、合計4名が同専門医として診療にあたっている。ロボット手術も導入し、今後その経験を重ねていきたいと考えている。研究面では、研究生を含め、英文筆頭学術論文は16編であった。また国内学会での筆頭発表が16回、国際学会での筆頭発表2回だった。

4. 展望

医療安全を第一に、胃癌/食道癌を中心にチーム医療で

最良の治療を行うことに全力で取り組み、患者さんとその家族はもとより多くのクリニックや病院の医師に信頼され、「県民に対する医療」により大きく貢献するよう、あらゆる努力を積み重ねていく。さらに、消化管内科とも連携し、多施設共同臨床研究に限らず、臨床研究所や国内外の多くの大学や研究施設とグローバルな共同研究を積極的に行いたいと考えている。それらの結果を学会発表や学術英論文を通して、臨床および研究面での教育及び人材育成を推進していきたいと考えている。

文責：尾形高士／山田貴允

消化器外科（大腸）

1. スタッフ

塩澤 学、浅利昌大、岡本浩直、井口健太、土屋皓平、奥田尚子

2. 診療実績

地域に密着した大腸癌治療を主体としている。早期がんから進行再発大腸がんまですべて対処し手術は主に直腸癌が多い。特にステージ4や進行再発大腸癌に対して薬物療法および手術、放射線治療・重粒子線治療を組み合わせた集学的治療を行い、治癒を目指している。

3. 教育・人材育成

神奈川県内の医師を対象としたがん薬物療法セミナー、手術手技に関するセミナーをウェブで開催。手術教育では他の病院では手術困難な症例の手術を行っており高難易度手術技術の継承に貢献している。

4. 展望

神奈川県内での当科の役割は他の病院では治療困難な症例を治療していくことである。そのためには紹介医および患者のニーズに応えるべくどのような患者も受け入れる体制としている。当科でしかできない特色を持った治療を模索し、今後も地域の大腸癌医療の発展に貢献していく予定である。神奈川県内での大腸癌治療の最後の砦としての役割を今後も行っていく。

文責：塩澤 学

消化器外科（肝胆膵）

1. スタッフ

山本直人、森永聡一郎、村川正明、神谷真梨子、河原慎之輔、松下直彦、金本 滯（レジデント）

2. 診療実績

2024年の全手術は280例で前年比20例の増加。主な手術術式では、膵切除138例；膵頭十二指腸切除術 91例 膵全摘術 6例、膵体尾部切除 41例（うち腹腔鏡/ロボット支援下17例）、肝切除72例（うち腹腔鏡下44例）であった。膵体尾部切除、肝切除（部分切除、系統的切除）に対

する腹腔鏡下手術の割合は順調に増加傾向。膵癌治療件数は全国でも上位となるハイボリュームセンターであり、JCOG、JON、JASPAC、AMED等の多施設共同研究のメンバーとして積極的に症例登録し新規治療の開発に貢献している。近年の化学療法の進歩に伴い当初切除不能であった膵癌から切除可能にコンバージョンする症例が増加しており、手術難易度が高い膵癌コンバージョン手術にも積極的に取り組んでいる。

3. 教育・人材育成

肝胆膵外科学会高度技能専門医・指導医の資格を有するスタッフが4名在職し指導体制が充実。1名のレジデントを受け入れ、若手スタッフともども消化器外科学会専門医取得および肝胆膵外科学会高度技能医、日本内視鏡外科学会技術認定医などの取得に向けて指導・修練中である。

4. 展望

膵癌治療件数が全国で上位の施設として引き続き多くの患者の治療をより安全に遂行していく。低侵襲手術の取り組みも、肝細胞癌のほか低悪性度膵腫瘍から膵癌まで拡大して低侵襲手術を推進し、今後需要が見込まれるロボット支援下手術については膵体尾部切除、膵頭十二指腸切除および肝切除に導入し症例数を増やしていく。今後は、重粒子センターとの共同をさらに進め、重粒子線治療を組み入れた膵癌術前治療の開発、膵癌コンバージョン切除症例の治療成績向上に向けた治療開発、肝細胞癌切除例と重粒子線治療例の前向きコホート比較試験等に取り組んでいく。また臨床研究所との連携のなかで分子生物学的なアプローチから新規治療につながる研究も推進していく。

文責：山本直人

精神腫瘍科

1. スタッフ

横尾実乃里

2. 診療実績

精神腫瘍科の主な診療内容は、入院および外来患者の精神症状に関するコンサルテーション・リエゾン業務である。令和6年度の新規紹介患者数は186名であった。常勤精神腫瘍医は、院内緩和ケアチームのメンバーおよび身体的拘束最小化チームリーダーとしても活動した。

3. 教育・人材育成

診療科研究生の論文執筆の指導を行った。

4. 展望

精神面のみならず、身体面や心理社会的背景を考慮した包括的なアセスメントと対応を行い、患者がその人らしさを失わずに治療に取り組めるよう、チームでささえるがん医療を今後もめざしたい。また、ニーズのある家族および遺族への精神サポートについて、専門外来の開設の可能性を検討したい。

文責：横尾実乃里

脳神経外科

脳神経外科の役割は主には悪性脳腫瘍の治療の他にも院内発生の脳卒中やてんかん、意識障害等の対応を担っている。脳腫瘍は、当科は悪性脳腫瘍の治療に特化しており、治療対象は原発の悪性腫瘍（神経膠腫ならびに脳原発悪性リンパ腫）、転移性脳腫瘍が主体である。

悪性神経膠腫（グリオーマ）：WHO分類が2021年に改訂されグリオーマの診断に、病理診断と共に分子診断を加えることが診断確定に必要となり当院も対応している。遺伝子パネル検査も併用して治療を行う。

脳原発悪性リンパ腫：脳外科で生検後、化学療法は腫瘍内科と共同して行う。

転移性脳腫瘍：転移性脳腫瘍が当院の治療の主体であり手術件数も増えている。がん性髄膜炎に伴う水頭症に対しオマヤ設置やシャント術も行う。

脳梗塞：がんの進行により全身性の塞栓症を発症することがある（トルソー症候群）。全身塞栓の中でも脳梗塞が致命的となる可能性があり、当科へ相談されることが多くなった。

重粒子治療：脳腫瘍の場合は脊索腫が重粒子治療の対象疾患であり脳神経外科が窓口となって対応している。

治験：64Cu-ATSM の治療による生存期間の延長効果を標準治療と比較検証するための第Ⅲ相ランダム化医師主導治験（STEP-64 試験、試験番号 NCCH2301）を 2024年6月に開始し2025年度も継続している。本年度も対象患者は募集中である。

当科の診療体制：二名で診療している。手術日の木曜日以外が外来日である。

文責：佐藤秀光

頭頸部外科

1. スタッフ

古川まどか、松木 崇、吉田真夏、矢口凌平

2. 診療実績

超音波診断を中心とした診療を行い、経営状況は概ね横ばいであった。研究実績として松木を著者とする学術英語論文が3本あり、うち筆頭論文は2本あった。

3. 教育・人材育成

スタッフが代わり松木と矢口が参加した。学会におけるエコーのハンズオンセミナーなどで古川と吉田が全国の頭頸部外科医に指導を行った。2024年10月には松木が多施設共同研究会の成果について講演を行った。

4. 展望

2025年度から新体制となり、エビデンスに基づく手術を中心とした標準治療を行う体制とする。適応症例には手術を行い、再建を要する進行癌や再発例に対する難手術にも積極的に取り組む。特に遊離皮弁による再建術は単科で行

える日本有数の体制とする。術後の適応症例にはweekly CDDP併用の化学放射線療法を行う。また、IVR科と合同で進行上顎洞癌に対するRADPLAT（CDDP超選択的動注と放射線の併用療法）を導入する。重粒子線治療も相談症例を積極的に受け入れていく。薬物療法は適切な症例選択を行い治療成績は適宜発表する。術前術後のカンファレンスを導入し、合同カンサーボードで主体的なプレゼンテーションを行うなど、教育面も大きく強化する。施設として経験のない治療を導入するため、安全面を考慮して関連部署との勉強会やシミュレーションを繰り返し行いチームとして診療に取り組んでいく。

文責：松木 崇

形成外科

1. スタッフ

清水 調

2. 診療実績

がんセンターの形成外科は他診療科と協力して、円滑なあるいは、より良い癌治療を行うことが主な任務である。症例としては乳癌術後の乳房再建手術、頭頸部腫瘍外科の手術後の機能的あるいは整容的再建、骨軟部腫瘍外科やその他の科の腫瘍切除後の再建手術などが挙げられる。また、内科やその他の科からの依頼で、リンパ節生検や皮膚生検も多数行っている。その中でも、近年は乳房再建手術が当科の中で高い比重を占める。また、悪性黒色腫を中心に、皮膚悪性腫瘍の手術も行ってきたが、現在は皮膚科の常勤医が不在のため、原則皮膚悪性腫瘍の治療を行っていないため、これらの手術は行っていない。2024年の総手術件数は219件で、手術内訳は、入院手術120のうち、形成外科49、乳腺外科46、骨軟部腫瘍外科15、婦人科1、頭頸部外科1、その他8。外来手術は99件。手術の種類で分けると、乳癌あるいは乳癌術後後遺症に対して、組織拡張器を挿入する手術は47症例52乳房、人工乳房挿入手術は46症例51乳房、他科からの依頼のリンパ節生検は67件であった。

3. 教育・人材育成

特記事項なし

4. 展望

当科の現在の主題である乳房再建手術は前年よりやや増加し、前回目標とした、乳房再建手術を年間50症例（エキスパンダー50症例）程度はほぼ達成できた。今後も乳房再建手術件数増加を目指す。リンパ節生検の件数も前年より上回っている。今後も積極的に引き受け、症例を増やしていきたい。

文責：清水 調

乳 腺 外 科

1. スタッフ

山下年成、山中隆司、藤原沙織、合田杏子、高橋有佳里、深田玲於奈、水谷百代（レジデント）

2. 診療実績

乳腺の場合は手術を除き、外来での検査・診断や薬物療法が中心となるため外来診療が非常に重要です。また、インフォームドコンセントのためにも化学療法や手術についての説明に多くの時間を割く必要があります。当院で行うべき手術などの急性期治療や抗癌剤治療により集中できるように地域連携パスを用いたクリニックとの連携をほぼすべての術後患者さんで行っています。2024年の実績は乳腺手術件数415件（乳房切除273件、部分切除130件、悪性その他の手術で8件、良性4件）とほぼ横ばいでした。しかし、初回の化学療法を1泊入院としたことで入院患者数は激増しています。

臨周術期に免疫チェックポイント阻害剤やCDK4/6阻害剤が認可となり乳癌薬物療法は激動の変換期を迎えています。このような薬剤では通常の抗癌剤と違う免疫関連有害事象や間質性肺炎といった副作用があり各科の先生方にご相談する症例が増えます。何卒、よろしくお願いします。臨床研究に関しては多くの治験、医師主導治験、臨床試験に参加しています。国際共同治験でも登録数で世界の上位に入っている治験もあります。新たな抗体薬物複合体や分子標的剤の治験が開始します。今後も当院が臨床試験、治験で関わった薬剤が承認され、日常診療に入ってきます。今後も新規薬剤の承認や、新たなエビデンスの創出に向けて尽力していきます。

HBOC（遺伝性乳癌卵巣癌）に対してカウンセリングや予防手術を行っています。現在、HBOCの患者さんには進行乳癌の場合は術後治療としてPARP阻害剤が使用されています。BRCA検査については横浜市が支援を開始するため、検査を受ける患者さん、家族が増えます。遺伝診療科とさらなる連携が必要です。また、臨床研究については臨床研究所の宮城先生、星野先生、佐藤先生とオルガノイドや脂肪と癌に関わる研究を行っています。看護研究も現在、施行中です。当院から新たな知見を発信していきたいと思っています。

文責：山下年成

内 分 泌 外 科

1. スタッフ

益戸功彦、角谷芽依

2. 診療実績

内分泌外科では甲状腺癌とともに、圧迫症状が問題になるような腺腫様甲状腺腫、内科的治療抵抗性のパセドウ病、また副甲状腺疾患に対する治療も実施している。甲状

腺微小乳頭癌に対しては積極的な監視療法（非手術）を行い、また進行再発甲状腺癌、甲状腺未分化癌に対しては積極的に治療を行っており、幅広い対応となっている。他院で手術を受けた後に再発や遠隔転移をきたした症例の治療も行っている。手術が治療の中心であるが、放射性ヨード内用療法、分子標的治療を行い、また必要に応じて放射線外照射も依頼している。当科は進行再発、あるいは遠隔転移症例に対し、分子標的治療を多く実施している。2024年度の手術件数は133件であった。甲状腺癌、副甲状腺癌はそのうち97件であった。放射性ヨード内用療法（入院）は42件であった。放射性ヨード内用療法を実施できる専用病室は神奈川県内では当院のみが有するので、他院からの要請にも可能な範囲で応えていく。

3. 教育・人材育成

横浜市立大学附属市民総合医療センターの研修医（外科専攻医）が手術に参加し、研修を受けた。

4. 展望

進行・再発症例の依頼を受けることも多く、迅速に対応し、連携を深めていく。また得られた知見を発信していく。

文責：益戸功彦

婦 人 科

1. スタッフ

佐治晴哉、近内勝幸、内山亜弥、鈴木幸雄、横澤智美、吉川千晶

レジデント 中川沙綾子

2. 診療実績

初診数は650例であり前年比65名増加した。入院患者数は前年比180名増となり、更に効率性と質の高い診療体制を実現できるようになった。

神奈川県産科婦人科医会悪性腫瘍対策部による統計によれば、当科の2024年の婦人科悪性腫瘍治療患者総数は405例と初めて400例超の大台に乗る施設となり、2位以下を大きく引き離し神奈川県内施設で連続第1位を更新している。総手術数は伸び続け、前年比30件であり、月平均42件と院内外科診療科3位となっている。臨床試験参加にも力を入れJCOG（日本臨床腫瘍グループ）、JGOG（婦人科悪性腫瘍研究機構）への参加、4件のAMED（日本医療研究開発機構）の臨床研究に参画している。学術英語論文は執筆2本、共著は4本あった。

3. 教育・人材育成

婦人科腫瘍専門医、細胞診専門医の取得をめざし手術療法、放射線療法、化学療法、緩和ケア、細胞診所見の判定などにつき教育指導している。産婦人科内視鏡学会ロボット認定施設になり、内視鏡手術の教育指導も開始した。1名のレジデントと共に日本医科大学及び横浜市立大学からの学生実習を受け入れた。

4. 展望

低侵襲下手術のニーズはますます高まりロボット支援下手術の増加が見込まれ、高難度新規手術も予定している。重粒子線治療も適応が広がっており受け入れていきたい。

文責：佐治晴哉

泌尿器科

1. スタッフ

中井川 昇、岸田 健、臼井紹人、鈴木敦人、鮎瀬知彦、松本崇弘、久保勇人

2. 診療実績

・外来：新患数は2022年1,060人、2023年1,058人、2024年1,178人と、緩やかな増加傾向を示している。外来患者延べ数はそれぞれ16,381人、15,911人、16,541人であり、2024年は過去最多となった。今後、より多くの市民に当センターの高度専門医療を提供するため、地域の診療所・病院との連携を一層強化し、逆紹介を推進することで、外来診療の効率化を図る必要がある。

・入院：新規入院患者数は2022年1,294人、2023年1,348人、2024年1,360人と、こちらも緩やかな増加傾向を示している。平均在院日数は6.9日、7.3日、7.5日と大きな変動はなく、延べ入院患者数は8,988人、9,812人、10,153人と年々増加している。

・手術：ロボット支援手術は総計212件であった。内訳は、前立腺癌に対するロボット支援前立腺全摘術187件、腎癌に対するロボット支援腎部分切除術46件、膀胱癌に対するロボット支援膀胱全摘術24件であった。その他、腎癌に対する根治的腎摘除術は35件、精巣腫瘍に対する後腹膜リンパ節郭清術は6件であった。経尿道的内視鏡手術は121件施行した。

3. 教育・人材育成

2024年度は若手医師2名に対し、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術の指導を行った。その結果、スタッフ全員がロボット支援手術を安全に執刀可能な体制を構築するに至った。また、臨床研究所との共同研究を現在5件遂行中であり、診療と研究の両立を推進している。

4. 展望

今後は、低侵襲治療であるロボット支援手術を多様な病態、症例に安全に提供するため、診療技術のさらなる向上を目指す。また、同じく低侵襲治療である重粒子線治療を含む放射線治療の適切な提供に向け、放射線治療科との連携を強化する。加えて、がんゲノム医療に基づくより適切な治療選択を実現するため、がんゲノム診療科との連携体制の充実を図る方針である。

文責：中井川 昇

骨軟部腫瘍外科

1. スタッフ

竹山昌伸、志賀 輝、三松啓美 (24/4~9)、齋藤大皓 (24/10~25/3)

2. 診療実績

令和6年4月に診療部長が交代となり新体制にて診療を開始した。

新患 825例

手術件数 272件

初診患者数は増加、手術件数は昨年度同様である。

サルコーマセンターの運用の整備を進めた。後腹膜腫瘍を中心に症例の集積が進んでいる。また国際共同第Ⅲ試験であるSTRASS2 (JCOG2214INT) に参加し症例登録に結びつけた。

3. 教育・人材育成

講演1件の他、多地点合同カンファレンスにて報告を行った

4. 展望

サルコーマ診療の神奈川県における中核としてサルコーマセンターの運用を軌道にのせ、さらには周辺医療機関との連携を深めサルコーマ診療のネットワークを構築していきたい。

文責：竹山昌伸

放射線診断・IVR科

1. スタッフ

栗原宏明、土井内恒弘、山本弥生、柿内 明、鄭 仕堯、望月春海、前田俊空

2. 診療実績

放射線診断・IVR科では大きく分けて放射線検査業務、核医学診療業務、IVR業務という3分野の診療業務を担当し、年間約35,000件のCT検査と年間約7,000件のMRI検査、年間3,500件程のPET検査を含む核医学検査、年間150件程の核医学治療、年間900件程のIVR業務を行っている。検査業務では画像検査結果に対する画像診断報告書を作成し検査依頼医師に報告している。これらの検査に対する画像診断報告書作成件数は、医師一人あたり年約6,500件を超える。また、IVR実施件数も近年増加傾向にあり、飽和状態に達しつつある。

3. 教育・人材育成

日本専門医機構認定 放射線科専攻プログラムの基幹施設として放射線治療科とともに計5名の専攻医を受入れている。

4. 展望

日本ではがんの好発年齢ともいえる65歳以上の人口が年々増加し2040年には3,868万人のピークに達すると推計されている。治療の進歩に伴うがん患者の予後改善とフォ

ローアップ期間の延長を考慮すれば、今後も当センターを受診される患者数は増加し、必要とされる放射線画像診断検査数、IVR件数も増加していくことと予想される。引き続き放射線画像診断検査の管理運用を適切に行い、効率よく検査を実施しつつ、これら検査に係る診療体制の強化を目指していきたい。

文責：栗原宏明

放射線治療科 (光子線治療部門・重粒子線治療部門)

1. スタッフ

加藤弘之（兼任）、吉田大作（兼任）、溝口信貴（兼任）、川城壮平（兼任）、土田圭祐（兼任）、島 聖（兼任）、加納希生（兼任）、高下啓明（放射線科専攻医）、奥田達也（放射線科専攻医）

2. 診療実績

2024年の実績として、光子線治療部門として1,493症例の新患対応を行い、X線による外部照射治療1,235症例（うち382症例は高精度治療）、密封小線源治療130症例、重粒子線治療部門として890症例の新患対応を行い、739症例（先進医療A、先進医療B、保険診療）の治療を行なった。光子線治療部門として日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）の臨床研究にも参加している。重粒子線治療は、神奈川県立がんセンター・新規医療開発センターを通して重粒子線治療多施設共同臨床研究（J-CROS）の全例登録事業への登録を行なっている。当診療科の国内発表は7件、英語論文は3本であった。

3. 教育・人材育成

2名の放射線科専攻医を受け入れ研修中である。群馬大学、横浜市立大学、埼玉医科大学・国際医療センター、それぞれの医機構認定放射線科専門研修プログラムの研修連携施設となっている。これらに加えて、自治医科大学、杏林大学、がん研究会有明病院などから非常勤医師を受け入れ、重粒子線治療を含む当施設での研鑽を積んでいただいている。

4. 展望

「安全かつ継続可能で科学を推進する放射線治療の提供」をスローガンに、高精度な光子線治療と、世界的にも稀有な医療技術である重粒子線治療を、より多くの必要とする患者さんに適切に提供していきたい。

文責：加藤弘之

感染症内科

1. スタッフ

築地 淳

2. 診療実績

市中における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行（第9波～第10波）のために入院治療を要する患者・職員を受け入れ、全症例（延べ171名）の担当医（副主治医）となった。また院内におけるクラスター発生に対する感染対策を2度にわたり先導して収束させた。コロナ以外の一般感染症に関し、抗病原微生物薬適正使用推進チーム（AST）を介した抗病原微生物薬使用に係る指導・介入を計511症例（診療科直接相談92症例・AST指導419症例）に対して実施した。

3. 教育・人材育成

機構本部職員を兼任することとなり、近い将来、機構全体で複数名の感染症専門医体制を敷くための伏線となるように活動を行った。

4. 展望

感染症合併のためにがん患者が適切な抗がん治療を受ける機会を逸したり、治療の遅延が起きないように診療各科への支援強化に取り組み、患者・家族、院内および機構職員の信頼を勝ち取っていききたい。

文責：築地 淳

東洋医学科（漢方サポートセンター）

1. スタッフ

板倉英俊

2. 診療実績

手術・放射線・抗がん剤等の治療補助・合併症の軽減、ならびに体力維持によるQOLの向上を主目的とした診療を行った。累計外来人数は、5810人であった。

3. 教育・人材育成

日本東洋医学会の研修施設として、3人の研修医師を受け入れた。また共同研究している横浜薬科大学薬学部の臨床研修を1人受け入れた。

4. 展望

神奈川県における漢方医学の教育・研修の機会を増やしていきたい。

2024年度から続く横浜薬科大学との提携も継続する。

文責：板倉英俊

免疫療法科（がんワクチンセンター）

1. スタッフ

笹田哲朗、氷室秀知

2. 診療（研究）実績

当科では、がん免疫療法の臨床的有用性を科学的に検証するため、がん免疫療法の臨床試験・臨床研究を実施している。令和6年度には、免疫チェックポイント阻害薬のバイオマーカー開発や重粒子線治療の免疫学的影響に関する臨床研究を、呼吸器内科、泌尿器科、消化器外科、放射線治療科、頭頸部外科、骨軟部腫瘍外科、消化器内科、病理診断科と共同で実施した。新規の臨床研究は2件あった。学術英語論文は9本あり、学会発表15件を行った。

3. 教育・人材育成

がん免疫療法開発のための臨床試験・臨床研究に関する知識・技術を習得し、医学研究と実地臨床を両立できるように指導している。

4. 展望

当科の医師は臨床研究所（がん免疫療法研究開発学部）を兼任し、がん免疫診断・治療に関する基礎研究・トランスレーショナル研究を実施している。臨床研究所で得られた研究成果をもとに当科で臨床試験を実施することにより、新しいがん免疫療法やバイオマーカーの提供を可能とすることを目標としている。

文責：笹田哲朗

麻 酔 科

1. スタッフ

佐々木俊郎、古賀資和、山本 匠、大熊歌奈子
週3日勤務非常勤 4名 その他非常勤 29名

2. 診療実績

手術室で行われる局所麻酔以外のすべての手術で麻酔科の診療を行っている。外来では麻酔科管理症例の術前診察のほか術後の慢性疼痛症例の内服治療を行っている。

令和6年度の麻酔科管理症例は3,596件であった。内訳は、全身麻酔 2,328件、硬膜外麻酔併用全身麻酔 1,014件、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔または伝達麻酔25件、その他（静脈麻酔 鎮静など）229件であった。そのうち分離肺換気麻酔は584件であった。

常勤医師4名に加えて週3日勤務の非常勤医師が4名勤務してほぼ常勤に近い勤務を行っている。さらに多数の非常勤医師の応援により安全で質の高い麻酔科の診療を維持している。

手術のリスク評価により高リスク手術を把握して、関係診療科と連携して術前評価と準備のレベルアップをおこなっている。

3. 教育・人材育成

提携病院より初期研修医を受け入れた。特殊な麻酔管理

を要する手術や当院で初めて行われる術式などでは手術前に麻酔科医だけではなく主治医 看護師を含めてカンファランスを行った。

4. 展望

安全で質の高い麻酔科診療を推進するために麻酔科医師の拡充と周麻酔看護師の導入を検討している。看護師はじめコメディカルとのコミュニケーションをはかり業務を進めていく。手術室安全会議や手術室運営会議を通じて手術室部長、手術室看護科長、医療安全推進室と密接に意思疎通をして安全で質の高い医療を提供していく。

文責：佐々木俊郎

ICU科

1. スタッフ

古賀資和

2. 診療実績

HCU入室中の患者も主治医主体の診療は続くが、ICU科は、呼吸、循環などを中心に全身管理のサポートを行っている。令和6年4月より令和7年3月までの1年間のHCUへの入室総数は2081名で、病床削減もあり前年度に比べ993名減少した。診療科別では、呼吸器外科404名、乳腺外科171名、消化器外科大腸237名、泌尿器科203名、婦人科277名、消化器外科肝胆膵250名、消化器外科胃食道169名、骨軟部腫瘍外科118名、頭頸部外科42名、内分泌外科77名、脳外科44名、形成外科18名、消化器内科肝胆膵16名、血液内科18名、呼吸器内科8名、腫瘍内科6名、消化器内科消化管2名であった。HCUへの入室目的は、予定手術の術後管理目的1880名、緊急手術の術後管理目的111名、循環管理目的32名、呼吸管理目的41名、蘇生後管理目的7名、血液浄化目的5名、感染隔離目的2名、中枢神経系管理目的44名であった。人工呼吸器装着患者数は127名、延べ管理日数は1,094日、血液浄化療法では、CHDFを7名の患者に行い延べ施行日数は57日、血漿交換を1名の患者に7回、血液吸着療法を1名の患者に2回行った。

3. 教育・人材育成

当科では継続的な研修医、レジデントの受け入れは行っていない。過去に、足柄上病院の初期研修医へ1ヶ月間の研修を行った。

4. 展望

2024年10月より、HCUは8床に削減された。一方でHCU病棟の他、隣接する一般病棟の術後患者への対応、院内重症患者の初期相談、ラビッドレスポンスシステムの起動時連絡先となるなど、ICU科はHCU病棟外でも役割を持っている。

HCU病棟では、これまでどおり医療事故、院内感染防止を重点目標として取り組んでいる。標準的な医療を安全に提供しながら、新しいことも取り入れ、より良い診療の提供を目標とし、スタッフの知識や意識を高めることが重

要と考えている。

文責：古賀資和

緩和ケア内科

1. スタッフ

太田周平

2. 診療実績

7E病棟：令和6年度の入院受け入れ患者数は261名（前年度比+27名）で、診療科別の利用上位は肝胆膵内科、消化器内科、腫瘍内科の順であった。院外でがん治療を行っていた患者で、当院緩和ケア病棟の申し込み数は43名であった。最近では近隣にホスピス型住宅が急速に増えていて、長い予後が見込まれる患者さんは最期まで移動しないで過ごせることを優先してそちらを選択されることが増えている。医療施設ではなく賃貸住宅の位置づけなので、家賃の負担は地域や部屋の広さにより相応のものとなる。当院に限った話ではないが、コロナ禍で病棟の人の出入りが厳しく制限された間にボランティアの高齢化が進み、緩和ケア病棟において以前のような活動ができなくなっている話を耳にしている。

緩和ケア内科外来：院内併診がほとんどとなるが、当科初診139件（前年度比+47件）と大幅に増えた。診療科では腫瘍内科、呼吸器内科、泌尿器科の順に多く、骨転移が起りやすい悪性腫瘍の診療科が多い印象であった。個々のがん治療科が主治医となっている7E入院中の患者に関するコンサルトも増えている。症状別では圧倒的に疼痛悪化が理由のコンサルトが多く、次が悪心・嘔吐となる。抗がん治療薬が奏功しなくなった時期の患者が多いが、当院初診から30日以内のコンサルトも17件あった。がん対策推進基本計画では診断期からの緩和ケアの提供をうたっているので、院内各科の医師が趣旨を理解し対応している証だろうと思われる。できるだけ治療科と同一日に診察日を設定して、採血結果待ちの間に診察を行えるように配慮している。神経破壊薬を用いた除痛法は内臓神経ブロック1件、くも膜下フェノールサドルブロック1件であった。その他に局所麻酔薬を用いた神経ブロックは適宜外来処置室で行っている。

3. 教育・人材育成

日本緩和医療学会の専門医養成の認定施設となつてはいるが、一人診療科のためにその対象者はいない。認定看護師のための講義や実習教育を引き続き行った。例年行っている「がん医療従事者のための緩和ケア研修会」は11/16に開催した。

4. 展望

がん治療薬については個別化医療が進んで治療の選択肢が広がり、終末期医療は診療報酬の後押しもあり着実に在宅支援体制は充実してきた。一方で症状緩和に関する薬物療法の分野では画期的な進展は見られない。倫理的にも

RCTを計画しにくい分野のために、エビデンスが高い知見が非常に限られていて、緩和ケアチームのコンサルトを受けても他科の医師に推奨を出しにくいという状況もしばしばある。症状緩和の客観的な指標を改善するのはなかなか困難であるが、患者の満足度は丁寧な緩和ケアの提供によって必ず上げられると考えている。「緩和医療」ではなく「緩和ケア」という言葉が使用されるのは、薬理作用やインターベンションにより苦痛を軽減するだけではない意味が含まれていて、いかに患者が上手く病気に向き合えるかをサポートする全人的な支持療法の要素を含むからである。一人の優れたスキルを持つ医師が頑張ったところでこれらを達成できるわけではなく、当院職員全体がこのような緩和ケアの意味を知りつつ日々の業務にあたるのが、当院のポテンシャルをあげることに寄与すると考えている。残念なのはこういった緩和ケアの精神を全く診療報酬に反映できる仕組みがない点である。

文責：太田周平

歯科口腔外科

1. スタッフ

遠藤麻衣

2. 診療実績

歯科口腔外科初診478件、再来4,794件

3. 教育・人材育成

当該年度は常勤歯科医師が1名であり、常勤同職種に対する教育、人材育成の機会はなかったが、関連施設である横浜市立大学顎顔面口腔機能制御学より非常勤歯科医師の派遣を受け、がん口腔支持医療に関する診療を実施した。

4. 展望

当科は院内共通診療科の一つとして、がん治療に際して必要な歯科治療や、口腔有害事象への対応としての口腔外科診療を担っている。今後も歯科衛生士と協働し、他部門との連携を強化しながら、全身状態への高度な配慮が求められる症例への対応や、薬物療法に伴う有害事象対策など、治療特異性の高い歯科診療の充実、地域医療機関との連携強化による支援体制の構築に注力していきたい。また、所属学会での活動などを通して最新の知見を積極的に学び、当院での臨床に還元していきたい。

文責：遠藤麻衣

病理診断科

1. スタッフ

令和6年度は常勤病理医6名、非常勤5名、病理検査技師11名（細胞検査士6名、認定病理検査技師3名）、医療事務3名の体制で診療を行った。臓器担当制を軸とし、複数医によるダブルチェックで診断の均質化を図った。

大久保陽一郎、鷺見公太、吉岡恵美、長谷川知愛、湯口周、小野響子

2. 診療実績

通常の組織診は11,663件であり、術中迅速診断は755件であった。通常の細胞診は8,038件、術中迅速細胞診は113件であった。主要臓器から希少腫瘍まで多岐にわたる症例を取り扱い、診断難渋例は臨床各科との合同カンファレンスで検討した。がんゲノム医療では検体選択、結果解釈、エキスパートパネルへの参画を継続し、分子診断の質向上に寄与した。臨床研究所との協働により学術活動も活発で、筆頭・責任著者論文を含む複数の成果が報告された。病理解剖は3件であった。

3. 教育・人材育成

若手医師・レジデント等に対し、カンファレンスでの所見提示指導や研究支援を通じ、実践的な教育を行った。技師との協働で精度管理を強化し、検査工程の標準化と質向上に取り組んだ。

4. 展望

診療体制強化に向け常勤病理医の拡充を進めており、持続可能で高品質な診断体制の整備を目指す。多様な症例を生かした診断能力の向上、ゲノム医療の深化、デジタルパソロジー導入への取り組み、学術活動の推進を通じ、基幹がん診療拠点としての役割をより確実に果たしていく。

文責：大久保陽一郎

輸血医療科

1. スタッフ

田中正嗣（兼務）、金 錦麗（兼務）、田島正輝（兼務）、関根沙樹（兼務）

2. 業務実績

1) 業務改善

大量出血・緊急輸血時の輸血実施手順を見直し、安全性を担保しつつ輸血実施までのステップを簡略化することで速やかに輸血が施行できるよう院内マニュアルを改訂した。

2) 製剤使用量と廃棄量（2024年1月～12月）

- ①赤血球濃厚液（前年）：使用量5,816単位（5,966単位）、廃棄量8単位（16単位）、廃棄率0.14%（0.27%）、損失額72,528円（145,056円）
- ②新鮮凍結血漿（前年）：使用量800単位（924単位）（120mL=1単位換算）、廃棄量10単位（2単位）、廃棄率1.25%（0.21%）、損失額91,610円（18,322円）
- ③濃厚血小板（前年）：使用量21,110単位（22,635単位）、廃棄量20単位（10単位）、廃棄率0.09%（0.04%）、損失額163,488円（81,744円）
- ④アルブミン（前年）：使用量25%アルブミン396本（611本）・5%アルブミン164本（262本）、廃棄量0本（1本）、廃棄率0%（0.1%）、損失額0円（4,575円）
廃棄に伴う損失は327,626円で前年（249,697円）よりやや増加した。廃棄理由の半数は、払い出し後の患者状態悪化によるものであった。輸血施行時の手技が原

因で廃棄となった製剤もあり、貴重な献血の有効利用および病院経営の視点から引き続き廃棄血を減らす努力を行っていく。

3) 有害事象

なし

3. 展望

血液製剤の廃棄率は非常に低いものの廃棄を回避できた症例もあったため、輸血療法検討会議や輸血検査室から注意喚起を行うなど、引き続き対応を行っていく。

検査室では医師、看護師からの製剤取り扱いや輸血施行、適応に関する問い合わせが多くなっている。院内での勉強会や多職種カンファレンス開催なども今後の課題にしたい。

文責：田中正嗣

遺伝診療科

1. スタッフ

成松宏人、羽田恵梨、佐藤 杏

2. 診療実績

【遺伝カウンセリング外来】

本年度は265症例253家系のクライアントに対して、のべ450回の遺伝カウンセリングを行った。このうち遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）については189症4例、Lynch症候群は8症例、多発性内分泌腫瘍症1型／2型は1症例、その他の遺伝性腫瘍は18症例、がんゲノムプロファイリング検査後の来談は35症例、研究関連の来談は14症例であった。遺伝学的検査は全197件実施した（研究含む）。

【遺伝カウンセラーのみの面談】

AIを活用した拾い上げシステムを使用した家族歴の確認は、462名、各診療科からの依頼の面談は、16名、コンパニオン診断の遺伝学的検査に関する説明補助、85名だった。

【リスク低減手術】

リスク低減卵巣卵管摘出術が19名、リスク低減乳房切除術が6名実施された。

がん未発症でRRSO,RRMの両方を受けた方はいなかった。がん未発症でRRSOを受けた方は19名中3名だった。

3. 教育・人材育成

臨床遺伝専門医研修、遺伝性腫瘍専門医研修を受け入れている。各専門医研修者を対象とした臨床遺伝に関する研修会を原則月1回実施した。

4. 展望

遺伝学的検査、その関連する検査の普及により、対象となる遺伝性腫瘍の種類が広がってきている。引き続き、遺伝性腫瘍と診断されたがん患者、がん未発症者が適切な臨床マネジメントを受けられるように必要な支援を提供していく。

また、潜在的な遺伝性腫瘍患者が遺伝診療に繋がれるよう効率的・効果的な取り組みを模索していく。

文責：成松宏人

がんゲノム診療科

1. スタッフ

廣島幸彦、出町佑理

2. 診療実績

2019年8月からがんゲノムプロファイリング検査を開始し、2024年3月末までに2005例（令和5年度：606例）実施した。2019年9月には「がんゲノム医療拠点病院」に指定され、12月から自施設内でエキスパートパネルを週1回開催し、2025年3月末までに合計3,363症例を検討した。外来診療では、院外からの検査依頼患者、院内併診患者を担当し、1,014名（令和6年度：324名）に対して検査説明、同意取得、結果説明を行った。

また、自費遺伝子パネル検査を5例実施した。

文責：廣島幸彦

3. 教育・人材育成

神奈川県立がんセンター先端医療セミナー、神奈川県立がんセンターがんゲノムプロファイリング検査に関するプレゼンテーションを行った。また、地域連携勉強会として、足柄上病院、済生会東部病院、藤沢市民病院に対して、がんゲノム医療に関する講演会を開催した。

4. 展望

現行の遺伝子パネル検査のエキスパートパネルの運営整備とともに、保険診療での検査ではカバーできていない症例に対して、自由診療や先進医療でのがん遺伝子パネル検査をより多くの患者さんに提供していく。

第3節 がんゲノム診療センター

がんゲノム診療センターは、県内の医療施設に対してがんゲノム診療の連携拠点病院としての取組を推進する目的で設置された。がんゲノム診断・治療検討室、ゲノム情報管理室、がんゲノム診療相談センター、がんゲノム医療管理室の4室で構成され、センター長以下16名（兼務14名、専従2名）が、がんゲノム医療に係る諸手続や県民からの電話相談等に対応している。

当センターでは令和元年8月よりがんゲノムプロファイリング検査の受検者登録を開始（同年6月に保険収載）し、令和2年度の同検査の登録数は255件、令和3年度448件、令和4年度578件、令和5年度609件、令和6年度823件と増加している。がんゲノムプロファイリング検査は指定医療機関の専門家会議（エキスパートパネル：EP）での結果検討とレポート作成が必須であるが、当院は令和元年9月19日に厚生労働省より「がんゲノム医療拠点病院」に指

定され、12月より自施設のEPを開始した（それ以前は国立がん研究センターEPと連携）。令和2年度は、自施設EPで283例、令和3年度520例（うち連携病院72例）、令和4年度は730例（うち連携病院152例）、令和5年度は734例（うち連携病院128例）、令和6年度は983例（うち連携病院160例）を検討し、レポートを作成した。

人材育成、教育事業として、神奈川県立がんセンター先端医療セミナー、神奈川県立がんセンターがんゲノムプロファイリング検査に関するプレゼンテーションを行った。また、地域連携勉強会として、足柄上病院、済生会東部病院、藤沢市民病院に対して、がんゲノム医療に関する講演会を開催した。

文責：廣島幸彦

第4節 重粒子線治療センター

放射線治療技術科（重粒子線担当）

1. スタッフ

井手紳介、佐藤公彦、勝木芳幸、高橋 友、塩入憲二、鍋矢祐治、三樹学明、岩佐 脩、小倉昌也、齋藤雄介、志賀杏実、菅満喜人、藤井優作、森 玲央

2. 治療実績

2024年度の新規患者数は2023年度764人から4.6%減の729人となった。

今後は治療体制のさらなる強化および市民公開講座等を通じた地域医療機関との連携を重視し、安定した診療体制の構築に努めていく。研究活動においては重粒子線におけるワークフロー及び治療計画における検討を行った。

3. 教育・人材育成

学会発表ならびに研究会での発表や研修会及び講習会等

に積極的に参加する事で、個々の知識技術向上を進めていく。新採用職員に対しては光子線と同様な教育プログラムを実践し新人教育を行っていく。また全職員対象に人材育成プログラムも併せて開始していく。

4. 展望

2024年6月より診療報酬改定が行われ重粒子線治療の保険適用が拡大された。今後も前立腺以外の照射部位が増えることが予想されるため、新規患者の予約枠及び重粒子線照射枠を増加させ、積極的に治療患者受け入れに努めていく。また固定具作成、位置決めCTの並列運用、照射室運用を円滑に進めていく。

今後も最先端技術を取り入れながら患者さんに寄り添った治療を提供出来るように日々の研鑽に努めていく。

文責：井手紳介

第5節 医療技術部

放射線診断技術科

1. スタッフ

花坂信明、片野克彦、松田考司、佐藤貴文、江成一二、草切孝貴、長瀬智明、林 智史、笹尾忠弘、木幡良子、鈴木悠一、大槻有紀、阿部薫子、清本龍正、荒井祐輝、羽田日向子、五十嵐莉紗、伊沢和城、本坊夏音

2. 業務実績

感染対策を引き続き徹底し安全な医療の提供に努めた。

造影撮影は前年度比でPTCDは305件（-27.4%）、ERCPは2,699件（-4.1%）と減少した。泌尿器造影検査は544件（+12.2%）と増加した。

血管造影（IVR）は装置更新による休止期間の影響で803件（前年比-4.0%）となった。

CT検査は全体で106,532件（前年比+0.8%）と増加し、MRI検査10,844件（前年比-1.59%）は減となった。

CT検査は毎年増加傾向であり、今後もこの傾向は継続すると予想される。

核医学部門は、シンチグラムが1,216人（前年比+1.08%）と増加した。

PET-CTは2,494人（前年比-23.43%）と減少したが、放射性同位元素内用療法は118人（前年比+63.4%）と大幅な増加となった。

3. 教育・人材育成

告示研修、マンモ講習会、RIガイドライン講習会、PET研修セミナー、学会出張、学会発表等。

4. 展望

関係関連部署と協力し、安全で精度の高い医療情報の提供と患者さんに寄り添った検査を目指していく。放射線診断・IVR科、診療科と協力し安全かつ効率の高い検査が提供できるよう整備を行っていく。

文責：花坂信明

放射線治療技術科（光子線部門）

1. スタッフ

井手紳介、大津和義、芝田麗子、白戸友和、村田智津、大谷 慎、吉野慎一、青木麻美、小岩井知希、高根信明、小林航平、笹井悠楓、深山泰史、鶴来泰成、尾形舞花

2. 業務実績

2024年度は、通常放射線治療 1,074人、IMRT 158人、SRT 69人、小線源治療（RALS）127人 合計 1,428人となり、多くの治療項目において前年度より増加した。2023年度の合計1,311人と比較すると約8.9%の増加となっており、業務実績は着実に伸びている。特に小線源治療（RALS）は86人から127人へと大きく増加しており、診療体制整備の

成果が明確に表れた結果と考えられる。また研究活動においては、業務効率化を目指した放射線治療スケジュール自動作成について学会発表と院内発表の場での積極的な情報発信を行った。

3. 教育・人材育成

新採用者向け教育システムの運用を継続するとともに、全スタッフを対象とした階層別人材育成プログラムを本格的に開始した。現場では診療放射線技師が治療計画を担当する体制をさらに強化し、実務を通じたスキルアップを促進した。さらに診断技術科との人事交流を進め、診療放射線技師のスキル向上及び業務範囲拡大と様々な休暇制度に対し柔軟に対応できる体制作りの強化を進めた。

また、認定資格取得支援、学会発表、外部研修会への参加を積極的に奨励し、個人および組織全体の知識・技術力向上に努めた。

4. 展望

2024年度末から進められてきた高精度放射線治療装置の本格稼働（2025.7）が始まり、2025年度以降は治療精度の向上と高精度治療数増加による収益を向上させる事が可能となった。また、新たに頭部に対する定位放射線治療（SRT）も開始されることで、治療適応の拡大が図られる。装置更新によりバックアップ体制も強化され、装置トラブル発生時にも治療への影響を最小限に抑えられる体制が整いつつある。今後も最新の知見と技術の習得に努め、機器更新・人材育成を継続的に行いながら、安全かつ質の高い放射線治療を、より多くの患者に提供できる体制の構築を進めていく。

文責：井手紳介

医学物理工学科

1. スタッフ

草野陽介、楠 輝文、井村 航、高山佳樹、永田順也、黒川聖悟

2. 業務実績

重粒子線と光子線治療において治療計画立案と品質保証・管理、重粒子線治療装置の運転維持管理を主業務として行った。重粒子線治療では、治療期間中の患者体内での線量分布を定期的に確認し、必要に応じて照射プランを調整し、治療精度向上に努めた。令和6年度の重粒子線治療装置の稼働率は98.0%であり安定して治療を実施できた。光子線治療では治療装置1台の更新に伴い、検証測定と評価を実施した。高精度放射線治療（重粒子線治療、X線VMATなど）は腫瘍に高線量を効果的に投与できるが、システムや人によるエラーが発生すると重大な医療事故につながる。日本放射線腫瘍学会をはじめとした放射線治療

関連学会から発行されている各種ガイドラインに準じ、放射線治療の安全性確保に努めた。外部研究資金は新たに2件獲得した（科研費〔若手〕、がん研究助成金）。学術英語論文は4本あり、うち筆頭論文は2本あった。さらに、2件の共同研究を企業と実施した。

3. 教育・人材育成

各職員は実臨床に関連する研究テーマを持ち、研究活動を通じてスキルアップを図った。

4. 展望

我々の責務は、治療を希望する方々へ良質な医療を提供することにある。治療の質を落とさず効率化を図り、数多くの患者さんへ最先端の医療を提供できる体制を構築する必要がある。

文責：草野陽介

検 査 科

1. スタッフ

堀口早苗、佐々木健司、堀井晴美、為藤葉子、佐川孝夫、小嶋由香、関山晶子、戸田理恵子、酒井麻衣、原田和樹、林 麗奈、金 錦麗、田島正輝、滝澤梨紗、清水彩那、堤節江、佐藤祐一、山口直紀、那須隆二、市川雄一、杉山加奈、前田芽生、中辻彩加、米田弥生、石上友寛、岩沢祐希、權田菜月、佐々木菜子、関根沙樹、石田彩香、細矢 純、契約2名、非常勤18名、SRL15名

2. 業務実績

院内検査総数は3,667,079件（前年比102.8%）、外来採血件数は113,272件（前年比100.2%、稼働日は前年と同じ）だった。採血開始から2時間ほどは採血室の処理能力を超えた患者人数となり、待ち時間の延長が問題となっている。2023年度より病理検査担当者を病理診断科へ移管し検査科兼務とし、管理・指導育成を一元化している。

3. 教育・人材育成

麻布大学から実習生2名を8週間受け入れた。学会や研修等をWebも含めて積極的に受講しており、技術・知識向上に努めている。新たな資格取得者は認定超音波検査士1名、二級臨床検査士（血液学）1名であった。

4. 展望

ISO15189の要求事項に基づき、迅速で質の高い検査と情報を提供し、がん専門病院の診療の一端を担っていくと共に、ICT、NST、治験、がんゲノム医療等、チーム医療へも積極的に参加し、幅広くサポートを行っていく。また採血待ち時間短縮のために予約時間に合わせた対応を考えていきたい。

文責：大宮章子

栄養管理科

1. スタッフ

平山麻実子、須原広子、伊藤洋平、飯塚みさき、秋山紘槻、鈴木栞里、松崎葵生、野嶋日向子

2. 業務実績

栄養指導件数は前年度比104%、病棟訪問等入院患者対応は前年度比107%と増加傾向である。外来化学療法 of 患者に対しても栄養指導の仕組みを確立し前年度比130%と増加した。「化学療法を乗り切る栄養・料理教室」の開催はオンライン配信で実施を継続した。周術期センターに参画し術前の栄養状態改善のための栄養相談を実施、またカルテを参照しながら入院前評価を行い入院中の栄養管理、栄養指導につなげている。給食管理は衛生管理を徹底してニュークックチルシステムで提供され喫食率は75.8%であった。がんセンター独自のがん支援食の割合は26%で昨年度とはほぼ同様であった。

3. 教育・人材育成

管理栄養士養成校の実習生を2名受け入れた。科内においては毎月勉強会を開催、また学会や研修会等に積極的に参加し、知識の向上に努めた。資格の取得は、がん病態栄養専門管理栄養士2名、がん病態栄養専門管理栄養士研修指導師1名であった。

4. 展望

患者の栄養状態の評価を行い、低栄養に対し早期に栄養介入することはがん治療のサポートに繋がると考える。栄養管理科では入院前から退院後の外来までシームレスに栄養管理ができるよう体制作りに努めたい。

文責：平山麻実子

薬 剤 科

1. スタッフ

櫻井 学、小清水郁夫、辻 智大、戸津舞衣子、有木かみな、大西利佳、齋藤圭佑、内木義泰、山永雄介、片山真子、今舘 瞳、星野英司、古越幸奈、矢野莉帆、新本小百合、西野美沙、有元いずみ、福田真弓、松田佐紀子、近藤智洋、若崎優美、吉澤綾実、西崎百合恵、丸田愛美、齊藤太紀、松本美樹、相馬光里、加納日南子、小山 豪、青池滯、大場尚哉、小川琴未の32名

2. 業務実績

抗がん剤調製件数は、入院・外来あわせて年間39,719件であった。薬剤管理指導業務は、年間7,379件であった。ベバシズマブBS導入や後発品使用体制加算1の取得等、医療経済的な貢献ができた。また、医療安全管理会議を年12回開催し、医療安全に貢献できた。さらに、地域医療機関との連携を強化するため、研修会を年2回開催し、情報共有と連携体制の構築を図った。

3. 教育・人材育成

薬剤師レジデント4名、薬学生9名、がん研修生3名を受け入れ、人材育成を行うとともに各薬科大学、地域病院・薬局との連携も推進し、相互に理解を深めることができた。

4. 展望

チーム医療の一員として、安全で信頼性の高い薬物療法を提供し、専門性の高い人材の育成を通じて人材の成長を支援する。薬剤師の専門性を活かした情報提供・教育活動を推進し、患者中心の医療を実現する。今後も連携と教育を基盤に、持続的な医療の質向上を目指す。

文責：櫻井 学

臨床工学科

1. スタッフ

伊藤宏之、川口一夫、鈴木元朗、千野彩佳 他1名

2. 業務実績

主な業務は手術室業務（手術支援ロボットダヴィンチ・麻酔器管理、各手術医療機器設定）、HCU業務（人工呼吸器管理・特殊体外循環）、幹細胞採取、院内医療機器の保守点検・管理である。

今年度7月、新たにダヴィンチXiを導入し2台体制で運用を開始した。

ダヴィンチ手術件数310件、麻酔器管理3,538件、人工呼吸器管理は827件、医療機器保守点検件数は29,454件であった。

特殊体外循環療法は74件（内訳CRRT57件、PA7件、PMX2件、CART8件）、幹細胞採取、骨髄濃縮、ドナーリンパ球採取件数は47件行った。

また、足柄上病院へ出向（兼務）し、医療機器管理、医療安全研修を行った。

3. 教育・人材育成

医療機器取扱研修（新規購入医療機器・新入職員・異動職員、ヒヤリハット発生に伴う研修など）を対面式にて行い、医療機器を安全に使用するための定期研修では動画配信を行った。

救急体制検討会議メンバーとして全職員を対象にBLS研修を開催した。

医療機器の不具合や安全情報等の必要な情報を収集し、医療安全ニュースを提供した。

4. 展望

医療機器の高度化・多様化に伴い、適切な稼働管理や専門性向上がこれまで以上に求められる。当科として専門・認定臨床工学技士試験の取得を目指し、効率的かつ安全な運用体制の整備、病院全体の医療品質向上に寄与していく。

文責：川口一夫

リハビリテーション技術科

1. スタッフ

医師：佐久間藤子、理学療法士（PT）：遠原まりえ・成田春香・荒山洋平・船戸花音、作業療法士（OT）：結城 士・岩崎知美・大西洋之、言語聴覚士（ST）：須藤奈津子、受付：山本早紀

2. 業務実績

本年度の総単位数は23,254単位であり、前年度より3,500単位増加した。診療枠の制限により新規患者数は1,587件（前年度1,721件）と減少したが、患者1人当たりの訓練頻度や訓練時間を増加させることで総単位数の増加を図ることができた。

3. 教育・人材育成

PT・OT養成校3校から実習生計6名の受け入れを行った。科内においては、年度計画に基づいて学会・研修会に参加した。また科内における勉強会を医療安全・感染・教育・医療機器などの分野別に開催した。

例年通り、神奈川県がんリハビリテーション研修会のファシリテーターとして5名を派遣した。

4. 展望

診療枠を制限することで「各患者に対し適切な訓練時間と訓練頻度が確保できない」という課題の一部は解決が図られたが、当院でリハビリテーションを必要としている患者（クリニカルパス未介入・廃用症候群の患者等も含む）に十分なリハビリテーションを提供することは依然としてできておらず、この解決に向けた多方面からの検討が必要である。また今後セラピストが増員された際には、術前リハビリテーションの受け入れ拡充・病棟カンファレンスや院内各種チーム（緩和ケア、褥瘡対策、AYA支援など）への参加拡大、他職種や患者への啓蒙と教育などを通して、がんセンターにおけるリハビリテーションの質の向上を図っていきたいと考える。

文責：遠原まりえ

第6節 看護局

〈看護局の使命〉

がんと共に今を生きる患者に寄り添い、その人らしさを大切にしたい最良の看護を提供します。

〈看護局の目指す姿〉

- 1 すべての患者・家族の尊厳ある治療、療養を実現します。
- 2 がん看護の専門性を発揮し、患者・家族に信頼される看護を提供します。
- 3 誇りとやりがいを持ち続けられる組織を作ります。

〈行動指針〉

- ・その人の立場にたってその人の気持ちを理解し、的確な臨床判断に基づいて、信頼される看護を提供します。
- ・信頼される看護を提供するために、互いに学びを促します。
- ・相手の立場にたって考えを理解し、建設的に協働します。
- ・社会の変化に応じて、積極的にチャレンジします。

2024年度 看護局目標

- 1 患者家族のニーズを尊重し、安全で安心な看護を提供する
- 2 がん専門病院で働く看護職員として自立し、一人ひとりが誇りとやりがいをもつ
- 3 組織の一員として、病院経営改善に参画する

目標評価

- 1 患者家族のニーズを尊重し、安全で安心な看護を提供する

患者家族への療養支援に向けて、多職種カンファレンスや倫理カンファレンスの開催やACPテンプレートの活用

による意思決定支援を推進し、患者・ニーズに沿った看護につなげるよう活動した。また、IC同席推進と共に、患者説明テンプレートを共有して情報共有に努めた。前年度から2か年計画でPNS[®]マインドの醸成に向けた研修を実施し、更なるPNS[®]の充実を図った。また、RRSについては前年度からの課題の整理と職員への周知が整い、RRSの起動が円滑に行われ、RRS起動件数の増加とともに、No.5（緊急コール）件数の減少に寄与した。

2 がん専門病院で働く看護職員として自立し、一人ひとりが誇りとやりがいをもつ

看護補助者ラダーについては、「看護補助者の業務に必要な能力の指標（日本看護協会）」を参考にブラッシュアップし、看護補助者ラダー Ver.2を完成した。次年度は夜間補助者導入予定であり、運用・教育の仕組みの構築に向けて取り組んだ。

また、抗悪性腫瘍薬注射認定（抗がん剤Ⅳ認定）についての教育プログラムを整備し、病棟でも看護師が抗がん剤治療の静脈注射の実施が可能となった。

3 組織の一員として、病院経営改善に参画する

病床稼働効率化に向けて、病床稼働向上PJで医師と共に各部署の分析を行い改善策について検討した。診療科に関係なく入院受け入れを促進し、稼働率の向上に大きく貢献した。また、10月からHCU16床（8床休床）運用を、3E病棟（16床）とHCU（8床）に機能分化し、新病院移転以降初めて415床全床運用を開始した。

また、外来・入院・地域への切れ目のない療養支援を目指し、入退院センターと連携し、PFMの導入を開始した。

文責：長岡美穂

（看護局）2024年度 看護実習生の受け入れ

所 属	人 数	日 数	延べ人数	受け入れ期間
神奈川県立よこはま看護専門学校	79	105	601	2024. 5～2025. 2
神奈川県立保健福祉大学	18	56	198	2024. 5～2024. 12
慶應義塾大学看護医療学部	12	21	62	2024. 10～2025. 1
神奈川県立衛生看護専門学校	21	31	143	2024. 6～2024. 12
関東学院大学	4	7	28	2024. 9

(看護局) 2024年度 卒後教育実習受け入れ

学 校 名	課 程 名	科 目 名	人数	日数	延べ 人数	受け入れ期間
慶應義塾大学大学院	健康マネジメント研究科 看護学専攻	治療期実践実習	1	14	14	2024. 5. 7～5. 24
		緩和ケア実践実習	1	10	10	2024. 6. 3～6. 14
湘南医療大学大学院	保健医療学研究科 保健医療学専攻	がん看護学実習Ⅰ	1	5	5	2025. 1. 27～1. 31
神奈川県立保健福祉大学大学院	保健福祉学研究科 保健福祉学専攻	がん看護学実習Ⅰ	1	9	9	2025. 2. 17～2. 28
横浜市立大学大学院	医学研究科看護学専攻	がん看護学専門実習Ⅱ	1	20	20	2024. 6. 3～6. 28
		がん看護学専門実習Ⅲ	1	15	15	2024. 7. 10～7. 31
		がん看護学専門実習Ⅰ	1	10	10	2025. 2. 3～2. 21
			1	10	10	2025. 3. 3～3. 14
徳島大学大学院	保健科学研究科	がん看護学実習Ⅱ	1	10	10	2024. 6. 24～7. 5

(看護局) 2024年度 研修見学受け入れ

所 属	研 修 内 容	研 修 者	人数	日数	延べ 人数	受け入れ期間
日本輸血・細胞治療学会	学会認定 臨床輸血看護師研修	看 護 師	3	1	3	2025. 2. 4

第7節 医療安全推進部

医療安全推進室

医療安全推進室は、病院全体の医療安全に関することを担当する部署として2005年4月に開設され、専従の医療安全管理責任者、医療安全管理者、医療安全専従薬剤師のほか、副事務局長、医療放射線安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、放射線技術科長、検査科長、副看護局長で構成されている。

近年、がん治療はますます高度で専門的になっており、それに伴うリスクも生じている。そのため、より一層の安全管理体制の充実を目的とし、安全ラウンド、安全に関する情報の共有化、マニュアルの整備および周知、職員に対する医療安全研修・教育などを行い、医療安全の推進に力を注いでいる。医療安全と医療の質の向上は切り離すことができず、部門・職種を問わず組織横断的な活動が重要である。各医療チームとの連携を強化しながら、職種間の相互理解を深め、それぞれの専門性を発揮しながら患者の安全を確保し、質の高い医療の実現に貢献することを目標に活動している。

■ 医療安全推進室の主な業務

1. ヒヤリ・ハット事例及び医療事故報告、有害事象報告の収集と分析
2. 医療事故防止策の立案と運用状況の評価
3. 医療事故発生時の情報収集と対応
4. 医療安全に関わる患者からの相談と対応
5. 医療安全に関する研修の企画と実施
6. 医療安全に関する情報の収集と広報

■ 令和6年度の主な活動内容

- ・ リスクマネージャー会議の活性化（チーム活動、事例共有）
- ・ 誤嚥対策システム構築に向けた準備（多職種ワーキング活動の推進）
- ・ 現場における安全点検（安全ラウンドの継続）
- ・ 医療安全文化調査の実施
- ・ 医療安全対策マニュアルの再整備

月別 ヒヤリ・ハット事例及び医療事故報告

レベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
0	113	108	108	112	71	57	56	51	87	68	40	51	922	937
1	180	250	235	262	232	204	251	266	247	209	222	201	2,759	2,220
2	41	49	59	66	50	35	56	49	46	54	49	55	609	622
3a	2	5	5	24	19	16	15	10	4	6	9	11	126	27
3b	1	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	1	7	5
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	337	412	407	464	374	313	380	376	384	337	320	319	4,423	
前年度	278	272	346	298	290	301	340	307	394	328	317	341	3,812	

事象別ヒヤリ・ハット事例及び医療事故報告

事象	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4	レベル5	件数	(内:患者誤認件数)
指示・情報伝達	232	445	16	1	0	0	0	694	78
薬剤(処方・与薬・調剤・製剤管理)	307	1,142	145	19	0	0	0	1,613	22
注射・点滴	169	476	87	16	0	0	0	748	9
内服薬	116	630	51	3	0	0	0	800	13
その他	22	36	7	0	0	0	0	65	0
輸血	70	16	0	0	0	0	0	86	0
治療・処置・診察	25	115	25	4	2	0	0	171	5
手術	18	16	6	1	1	0	0	42	0
麻酔	0	3	1	0	0	0	0	4	0
その他治療	4	20	6	2	1	0	0	33	0
処置	3	71	9	1	0	0	0	84	5
診察	0	5	3	0	0	0	0	8	0
医療用具(機器)使用管理	46	106	63	21	0	0	0	236	1
ドレーン・チューブ類使用・管理	8	340	133	28	0	0	0	509	0
検査	160	196	23	1	1	0	0	381	4
療養上の場面	54	371	202	52	4	0	0	683	7
転倒・転落	4	198	110	17	3	0	0	332	0
給食・栄養	19	90	10	0	1	0	0	120	5
その他	31	83	82	35	0	0	0	231	2
その他	20	28	2	0	0	0	0	50	8
合 計	922	2,759	609	126	7	0	0	4,423	125

報告者内訳

職 種	令和5年度 件数 (%)	令和6年度 件数 (%)	内 患者誤認件数
医 師	241 (6.3)	173 (3.9)	28
看護 師	3,115 (81.7)	3,760 (85.0)	85
薬 剤 師	141 (3.7)	142 (3.2)	2
臨床検査技 師	124 (3.3)	106 (2.4)	1
放射線技 師	76 (2.0)	71 (1.6)	1
理学・作業・言語療法士	9 (0.2)	15 (0.3)	0
栄養 士	11 (0.3)	33 (0.7)	0
事務 職	40 (1.0)	67 (1.5)	6
そ の 他	55 (1.4)	56 (1.3)	2
合 計	3,812 (100)	4,423 (100)	125

■ 医療安全研修受講率

- ・ 医療安全の日研修 「過去に発生した事故事例から医療安全について再考する」 100%
- ・ 第1回医療安全研修「除細動の使用」「医療放射線の安全利用のために」 100%

- ・ 第2回医療安全研修「医療安全ヒューマンファクター」「医療ガス」 100%

第8節 医療の質管理部

感染制御室 院内感染対策チーム（Infection Control Team：ICT）

ICTは、すべての患者・職員を感染から守り、安全な医療環境を提供するための院内感染対策会議の実働組織であり、感染制御を担う感染制御医師（ICD）と感染管理認定看護師（CNIC）、薬剤師、臨床検査技師等の多職種で構成される。病院長から院内感染対策に関する権限が付与され、組織横断的に活動する部門として感染制御室が設置され、令和6年度は感染制御室長にICD 1名、副室長に医師2名、CNIC 1名、室員にCNIC 1名、薬剤師1名、臨床検査技師1名が所属する。感染制御室には2名のCNICが専従で配置されている。

感染対策に関する診療報酬加算として、感染対策向上加算1と指導強化加算を算定している。

感染対策向上加算1 連携施設：横浜市立大学附属市民総合医療センター

感染対策向上加算1-2 連携施設：桜ヶ丘中央病院、横浜鶴ヶ峰病院 横浜甞生病院

＜令和6年度の主な活動内容＞

- ・ 院内感染対策会議（月1回）
- ・ ICTミーティング（月1回）
- ・ ICT環境ラウンド（週1回）
- ・ 抗菌薬適正使用ラウンド（毎日）

- ・ ICTニュース発行（年9回）
- ・ 院内感染対策マニュアルの改訂
- ・ 院内感染対策講習会（全職員対象）
 - 前期：標準予防策
 - 後期：2023-2024シーズン 感染症のトレンド
- ・ 抗菌薬適正使用支援講習会（前期：看護師対象、後期：医師・薬剤師対象）
 - 前期：当院で採用されている抗微生物薬の違いについて、輸液管理について
 - 後期：抗菌薬選択のための必要な知識、最新のFNガイドラインの変更点
- ・ 院内感染対策マニュアルの改訂
- ・ サーベイランス：薬剤耐性菌、針刺し切創血液体液曝露、手指衛生、手術部位感染（全診療科対象）、中心ライン関連血流感染（全入院病棟）、カテーテル関連尿路感染（全入院病棟）、人工呼吸器関連事象（HCU病棟）
- ・ 感染事例（疑似症）発生時の対応
- ・ 感染対策の指導を目的とした施設訪問（年4回）
桜ヶ丘中央病院、横浜鶴ヶ峰病院 横浜甞生病院、神奈川県立精神医療センター

文責：中野了爾

医療の質評価推進室

医療の質評価推進室は、当院のバリューに謳われる「安全で質の高い医療」「人権尊重」「先進医療の開発」等を推進するために、以下の活動を主導している。

医療の質改善活動：日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価などの第三者評価を活用し、医療の質向上委員会を開催して部門横断的な改善活動を主導した結果、病院機能評価「一般病院3（機能種別評価項目3rdG：Ver.3.0）」を取得した。引き続き医療の質の維持とさらなる改善を目的として、医療の質評価推進会議が立ち上がった。

Cancer Quality Indicator (CQI) 研究会：がんの診療プロセスについて、DPCデータ等を用いて分析しCQI 研究会参加施設間で比較・評価している。また、分析ツールを用いた質の評価を診療科にフィードバックしている。

Quality Indicator (QI) 研究会：「質の高い医療の提供」「安全で安心な医療の提供」「患者視点にたった病院経営」「医療人材の確保」「業務の改善や効率化」という5つの視点に基づいて指標を数値化し、測定結果は「臨床指標」と

して公表するとともに改善活動を主導している。がん専門病院ならではの、がん治療のアウトカムを5年生存率として公表する方針とした。

高難度新規医療技術の審査・管理：主に外保連手術難度Eもしくは、登院で初めて行う術式に関して評価と管理を行っている。ロボット支援下の肝臓部分切除、膵頭十二指腸切除、卵巣癌の腹腔鏡下手術などを主に審議し、大静脈ステントや、脳室心房シャントなど手術以外のものも対象としている。

未承認等新規医薬品の審査・管理：未承認薬等新規医薬品を申請から承認、管理までを所管する担当部門で、すでに標準治療を終えほかに代替手段がない場合や、希少癌に対する薬物療法、治療後の合併症に対する適応外使用などを、がん薬物療法会議、がんセンターとも連携し、必要な治療をすみやかに患者さんに提供できる体制を整えている。

文責：伊藤宏之

第9節 地域連携室

地域連携室は、担当の副院長を室長とし、以下スタッフは常勤職員2名、契約職員2名の計4名。患者支援部と協力し、地域連携の中でも主に前方連携を推進している。

「顔の見える連携」を目標に医療機関への訪問活動を実施、地域医療連携懇親会を計画し、地域からのニーズを掴むためアンケートを実施した。従来から「がん地域連携パス」の普及を含めた逆紹介を推進するため、「二人主治医制」を掲げてきたが、再来数の減少は不十分であり、さらなる推進が必要と考えている。

主な業務と実績は以下の通り。1) 診療科と協力し地域医療機関・健診センター等へ訪問(202件、前年度103件)、2) 診療科案内(冊子)を作成し、地域医療機関へ配布、3) 地域連携システム(メディゲル)導入(271件の医療機関と契約)、4) がん診療連携施設登録証の発行(361件)、5) 呼吸器グループと協力し、肺がん検診の受診率向上と肺がん健診実施機関の普及活動のため「呼吸器グループ通信」を発行(1回)(医師会、生命保険会社に協力依頼)、

6) 地域医療機関向けにリニューアルした広報誌「がんセンターたより」の発行(3回)および院内向け広報誌「地連ニュース」を発行(3回)、7) がんゲノム診療科と協力し、がんゲノム拠点病院としてオンライン勉強会を企画運営(1回)、8) 保険適用が広がった重粒子線治療の広報を兼ねた先端医療セミナーを企画運営(2回)、9) 地域の医療機関との連携強化を目的とした「地域連携懇親会」を企画運営(1回)、10) 各診療科支援として製薬会社と協力し、院内外の医療関係者に対して、がんの基礎知識から最新の診断・治療までを学べる「臨床腫瘍セミナー」を運営(18回)12) 診療情報公開サービス「かもめ・ゆめいろネット」の推進(登録累計63施設)、13) 医療インバウンド受入調整を担う。

文責：岸田 健・野澤正充

第10節 患者医療対話推進室

患者支援部患者医療対話推進室は、コンフリクト担当副院長を室長におき、医療メディエーターが室員として配置されている。2023年度後期にメディエーターが退職し欠員状態であったが新年度から新採用のメディエーターが着任した。各部署で生じた患者とのコンフリクト案件は推進室に直接あるいは電子カルティインシデントレポートシステム（ファントル君）で報告される。部門で解決が困難な課題について、対話の場に室長あるいはメディエーターが同席し、さらに別の機会を設けて患者および医療者の話を聞き取り相互理解を推進することで、課題解決の道筋を支援するのが当室の役割である。相談苦情検討会議はコンフリクト担当副院長、医療局長、看護局長、医療技術部長、医療安全副室長、がん相談支担当科長、副事務局長、総務企画課課長、医療メディエーターで月一回開催され、患者、家族、職員からのコンフリクト案件について討議される。課

題の共有、解決への検討を経て当該部署へアドバイスや勧告を行う。さらにその結果は管理者会議に報告され、重要案件は管理者を交え定期的にミーティングを行う。

教育・人材育成として、メディエーターは、4月に院内新規採用者・転勤者を対象として、医療メディエーターの役割について説明を行った。さらに11月に神奈川県立病院機構本部が開催した医療メディエーション研修のサポートを行った。

コンフリクト案件は増加傾向にあり、今後も医療者と患者・家族の懸け橋となるべく業務に取り組むが、精神的負担の大きい職責でありメディエーターの心身の安定も配慮しつつ、多職種で連携して業務を遂行していくことが肝要である。

文責：岸田 健

第11節 患者支援部

概 要

令和6年度の患者支援部の目標は「信頼され選ばれる病院」、「生きがいと誇りを持てる病院」であった。これを達成すべく都道府県がん診療連携拠点病院として、院内外のがん相談支援体制や病診連携、緩和ケア体制の強化に努めた。

患者支援部は、緩和ケアセンター、がん相談支援センター、入退院センター、医療福祉相談室、アピアランスサポートセンターで構成されており、各部門と連携をとり業務を行なっている。

緩和ケアセンター

緩和ケアセンターは、緩和ケアチーム、緩和ケア内科外来、緩和ケア病棟、地域を有機的に統合する役割を担っている。苦痛のスクリーニングの実施、がん看護外来、緩和ケアチーム活動により、診断期からの緩和ケアの提供を行っている。月1回の定例会議やテーマ別の定期的なカンファレンスを開催した。また、緩和ケアの啓発活動とし

て、「人生会議（ACP）」の推進や緩和ケア週間を開催した。なお、緩和ケア病棟入棟面談は491件実施した。

1. 看護外来実績

令和6年度のがん看護外来での対応件数は、延べ患者数426件であった。

2. 医療従事者対象研修会の開催

研修会開催実績

研修会名	テーマ	対象者	参加者数	開催日時
コミュニケーション研修	基本的緩和ケア	ステップⅢを目指す院内看護師	20名	令和6年7月22日 7月31日
緩和ケア研修会（PEACE）		神奈川県内の歯科医師・鍼灸師・事務・看護師	12名	令和6年11月16日
介護サービス担当者のためのストーマケア講習会	ストーマケアについて	介護職看護師	9名	令和6年11月30日
訪問看護のための緩和ケア研修会	放射線療法と緩和ケア	神奈川県内の看護師	20名	令和7年3月1日

3. 緩和ケア週間

令和6年10月7日～11日の期間、緩和ケア週間を開催した。3年ぶりに対面イベントを再開し、院内は横断幕、のぼりで装飾した。多職種によるポスター掲示や病院幹部や

職員からの患者さんへの応援メッセージの掲示、緩和ケア病棟の見学ツアーを行い、患者さんがこれからについて考えるきっかけになることを意図し、ACPの啓蒙に努めた。

がん相談支援センター・入退院センター・医療福祉相談室

地域医療連携機能と相談機能を担い、がん患者の心理社会的な問題へ総合的に対応するよう、ソーシャルワーカーと看護師、メディカルアシスタント、事務の多職種で構成され、各専門性を活かしつつ、連携を図り業務を遂行している。

相談支援担当は、都道府県がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターの機能を併せて担う。相談内容に関する変化では「不安・精神的苦痛」に代わり「がんの治療」に関する相談が最も多くを占め、院内・院外の比率は半々となった。入退院センター・医療福祉相談室においては、経済的なことや単身者の療養に関する相談が増えている。

社会背景や家族状況の変化に対応できるように入退院センターでは、入院から退院を見据えた支援を強化するためPFM (Patient flow management) の体制を整えた。

〈実績〉

※地域連携クリニカルパス

前立腺がん術後地域連携パス134件

乳がん術後地域連携パス397件

※逆紹介168件

※歯科連携246件

※がん相談支援センター相談延べ件数8,745件（電話相談5,138件 対面相談3,337件 その他270件）

※療養調整件数 実件数1,675件、延べ6,546件

※患者会活動およびがん患者サロン運営の対面（9月より再開）・オンラインによる支援

がん患者サロンあさひ オンライン（第3金曜日）
開催数：12回 参加者：32名

対面（第4水曜日） 開催数：7回 参加者：128名
合計160名

ピアサポーター研修 開催数：2回 参加者：24名

※患者教室の定期開催

肝胆膵教室 オンライン 開催数：5回 参加者：34名

対面（3月再開）開催数：1回 参加者：11名 合計45名

※ハローワーク、社会保険労務士との連携

就労支援ナビゲーター（ハローワーク） 開催数：14回 相談件数：27件

社会保険労務士相談 開催数：12件 相談件数：12件

※両立支援コーディネータ（がん専門相談員）による就労支援

相談件数（延べ）：119件

相談件数（実件数）：88件

主治医意見書発行件数：7件

※がん診療連携拠点病院 相談支援部会事務局として会議・研修会等の運営

相談支援部会会議 開催数：2回 参加者：126名

※内容は以下に追加した

表1 医療連携実績（入退院センター）

		令和5年度	令和6年度
在宅	病 院	88	89
	在宅支援診療所／診療所	545	538
	訪問看護ステーション	768	657
	居宅介護支援事業所	474	358
施 設 等		93	92
総 数		1,968	1,734

表2 相談対応実績（がん相談支援センター）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談支援（延）	735	823	740	803	755	646	762	691	692	707	632	794	8,735
退院支援	161	161	171	183	166	148	172	158	153	157	149	158	1,943

表3 がん相談支援における主な相談内容（上位10項目、重複カウントあり）

No	相談内容	件数	No	相談内容	件数
1	がんの治療	2,158	6	介護・看護・養育	403
2	受診方法・入院	1,745	7	セカンドオピニオン（受け）	370
3	不安・精神的苦痛	1,402	8	医療機関紹介	339
4	医療費・生活費・社会保障制度	1,172	9	社会生活（仕事・就労）	322
5	症状・副作用・後遺症	1,046	10	セカンドオピニオン	300

表4 SWが対応した相談件数（がん相談支援センター）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2024年度	144	147	120	137	146	108	122	114	117	126	129	123	1,533
2023年度	123	100	143	122	125	105	139	161	132	116	159	135	1,560

*医療通訳業務は、2024年度から事務職へ業務移行。2023年度は相談件数（306件）に計上していた。

2023年度、医療通訳調整を除くと1254件。

*『治療方針の意思決定に関する確認書』への同席は、2023年度が166件、2024年度は221件と増加、単身者の療養支援が増えている。

表5 研修会・会議の実績

研修会名	テーマ	対象者	参加者数	日 時
地域連携懇親会	COVID-19感染症のため開催せず	院内外医師及び地域連携に関わる医療スタッフ	－	－
相談支援部会主催 第1回神奈川県がん相談員 研修会（オンライン）	がん診療連携拠点病院等の PDCAチェックリストの効果的 な活用について考える ～がん相談支援センターPDCA チェックリスト（国改訂版）を 通してPart2～	神奈川県内のがん 専門相談員	28施設 36名	令和6年7月12日(金) 13時00分～15時00分
相談支援部会主催 第2回神奈川県がん相談員 研修会（オンライン）	がん診療連携拠点病院等の PDCAチェックリストの効果的 な活用について考える ～がん相談支援センターPDCA チェックリスト（国改訂版）を通 してPart3～	神奈川県内のがん 専門相談員	30施設 51名	令和7年2月7日(金) 14時40分～17時00分 対面
令和6年度地域相談支援 フォーラム in 東京・埼玉・ 千葉・神奈川	超高齢化時代のがん治療 ～相談員として高齢者のがん治 療にどう向き合うか～	全国のがん専門相 談員	52施設 91名 (県内21施 設33名)	令和6年11月9日(土) 13時00分～16時30分 オンライン
第1回がん患者サロンピア サポーター研修 (オンライン)	がん患者サロンの意義と方法	患者会関係者（が ん患者サロン担当 者）	13名	令和6年6月7日(金) 13時30分～15時30分 オンライン
第2回がん患者サロンピア サポーター研修 (オンライン)	がん患者サロンの意義と方法	患者会関係者（が ん患者サロン担当 者）	12名 (新2名)	令和7年1月22日(水) 13時30分～15時30分 対面
相談支援部会 第1回会議	・相談支援部会組織について ・相談支援部会会議研修会年間 計画 ・第22回情報提供相談支援部会 報告 ・ワーキンググループ活動につ いて ・ピアサポート事前アンケート 報告 ・行政からの連絡	神奈川県内のがん 専門相談員	32施設 49名 こども医療 1名 横浜市 2名 川崎市 1名 相模原市 3名 神奈川県 1名	令和6年6月18日(火) 13時00分～15時15分 オンライン

研修会名	テーマ	対象者	参加者数	日 時
相談支援部会 第2回会議	・第23回情報提供相談支援部会報告 ・ワーキンググループ活動報告 ・事前アンケート結果報告と検討 2025年度相談員研修テーマ - ワーキンググループ活動について ・行政からの連絡	神奈川県内のがん 専門相談員	35施設 59名 横浜市 1名 川崎市 3名 相模原市 1名 神奈川県 1名	令和7年2月7日(金) 13時00分～14時30分 対面

アピアランスサポートセンター

アピアランスサポートセンターは、がん治療等に伴う外見上の変化による苦痛を抱える患者支援を行う目的で、平成28年度から新たに設置された。専従の看護師1名とアピアランスサポートセンター長の組織でスタートし、専用の相談室を1室整備している。アピアランスサポートセンターの業務は、専従看護師のほか、がん相談支援センター担当の看護師、MSWが専従看護師と協働して業務を遂行した。

令和6年度は、個別相談（494人）を実施した。県内のアピアランスケアに携わる医療従事者を対象とした研修を開催した。また、横浜市共催のもと対面による研修会を開催した。

コロナウィルス感染症の影響を鑑み、薬物療法を受ける患者を対象としたネイルケアセミナーはオンラインで開催した。

表1 個別相談件数

男女	男	女	不明	計
外 来	21	376	0	397
入 院	11	77	0	88
他 院	0	9	0	9
そ の 他	0	0	0	0
合計件数	32	462	0	494

化療関連	31	425	0	456
手術関連	0	29	0	29
放 射 線	1	8	0	9
そ の 他	0	0	0	0
合計件数	32	462	0	494

表5 研修会の実績

研修会名	テーマ	対象者	参加者数	日 時
第1回 アピアランスサポート センター主催研修会	アピアランスケアってなに？ 基礎編	県内の医療従事者	22名	令和6年10月11日(木) 18:00～19:00 オンライン
第2回 アピアランスサポート センター主催研修会	爪のケア	薬物療法を受け、症状の 出ている患者	4名	令和7年1月24日(金) 14:30～15:15 オンライン
第1回 横浜市アピアランス ケア実践研修	実践研修	県内の医療従事者	14名	令和7年1月11日(土) 14:00～16:00 対面

第12節 新規治療開発支援センター

1 概 要

新薬の開発は、医学の進歩にとって欠かすことのできないものであり、近年の新治療によりがんの生存率は大きく向上している。新薬開発までには、十分に安全性と有効性を確認する必要がある、そのために科学的根拠に基づいた、品質の高い臨床試験を実施することが求められている。新規治療開発支援センターは、当初治験管理室として平成12年4月から設置されていたが、令和元年6月の組織改正で新規治療開発支援センターとして新発足したものである。

具体的には、「医薬品(医療機器・再生医療等製品)の臨床試験の実施の基準に関する省令」、「医薬品(医療機器・再生医療等製品)の製造販売後の調査及び試験の実施の基準に関する省令」、及び神奈川県立がんセンターにおいて実施される治験に必要な手続き等を定めた「神奈川県立がんセンターにおける治験に係る標準的業務手順書」に基づき治験等の受託研究を実施している。

また、「臨床研究法」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、及び神奈川県立がんセンターにおいて実施される医学系研究に必要な手続き等を定めた「神奈川県立がんセンターにおける人を対象とする医学系研究に関する取扱い手順書」に基づき医学系研究を実施している。

職員は、医療職のセンター長・副センター長・薬剤師の

もと、一般事務2名、非常勤等事務14名、CRC（Clinical Research Coordinator）8名、DM（Data Manager）8名の計30名となっている。

(1) 治験審査委員会及び研究倫理審査委員会

第1章第4節所内会議・委員会参照

(2) CRC業務

治験コーディネーター（CRC）は、治験実施計画を遵守した精度の高い治験を実施するため、医師をはじめ治験に係わる各スタッフに治験について正しく理解してもらうよう説明すること、被験者に対しては人権・福祉を保証し安心して治験に参加してもらえるよう十分なケアを提供するなど治験が適正に実施できるように調整する重要な役割を担っている。

当室は7名常勤・1名契約のCRCを配置しており、薬剤師3名、看護師3名、臨床検査技師2名となっている。

(3) DM業務

データマネージャー（DM）は臨床研究の質を確保するため、臨床研究用データベースへのデータ入力やスケジュールの管理など、臨床研究を適正に実施できるように調整する重要な役割を担っている。

文責：山本陽平

(4) 令和6年度 受託研究実施状況

区 分	新規受託件数（件）		実施件数（症例）		収 入 額（円）	
	6年度	5年度	6年度	5年度	6年度	5年度
治 験	58	45	570	532	650,644,829	503,660,357
製造販売後臨床試験	0	0	6	18	1,744,629	10,759,739
製造販売後調査	4	8	60	63	2,473,900	2,472,800
副作用報告	2	2	2	1	22,000	22,000
臨床研究	27	29	661	883	17,766,980	16,638,400
計	91	84	1,299	1,497	672,652,338	533,553,296

※実施した58件の治験は、新規抗がん剤を始め第Ⅰ相～第Ⅲ相の臨床試験である。

(5) 令和6年度 臨床試験研究実施状況

科	件	科	件
呼吸器内科	3	乳腺外科	3
呼吸器外科	3	放射線治療科	1
血液腫瘍内科	1	緩和ケア内科	1
消化器内科	9	がん予防・情報学部	2
消化器外科	3	外来看護科	1

※2科以上の共同研究は責任医師所属科による

第13節 サルコーマセンター

サルコーマセンターは希少がんであるサルコーマの中でもさらに希少部位発生、希少な病態などより集学的治療の提供が必要な症例に対して高度な診療・医療の提供を目的に2023年度設置された。運営会議としてサルコーマセンター長、副院長（患者支援部担当）、血液・腫瘍内科（腫瘍）、呼吸器外科、消化器外科（肝胆膵）、消化器外科（大腸）、婦人科、泌尿器科、放射線治療科（重粒子線・光子線）、放射線診断IVR科、病理診断科のほか、看護部より看護支援部副部長、地域連携室員（事務）に参加いただき運営す

る準備を進めている。

サルコーマセンター設置以降、代表的な疾患である後腹膜（腹腔内）腫瘍症例は2022年度32例にとどまっていたが2023年度40例、2024年度は55例と確実に症例の集積が進んでいる。今後は更なる症例の集積のほか、近隣医療機関とも連携しサルコーマ治療の中核機能も果たせるようにより機能を充実させてまいりたい。

文責：竹山昌伸

第14節 前立腺センター

前立腺センターは、高齢化の進展に伴い急増している前立腺癌に対し、質の高い集学的医療を提供することを目的としている。泌尿器科を中心に、放射線治療科、放射線診断科、病理診断科が密接に連携し、診断から治療方針決定、治療実施に至るまでを一貫して行う体制を構築している。これにより、手術、放射線治療、薬物療法など多様な治療選択肢を症例ごとに適切に組み合わせ、患者一人ひとりに最適な治療を提供することが可能となっている。2024年には、前立腺癌と既に診断された症例および前立腺癌が疑われる症例を合わせて約1,000例が当セ

ンターを受診し、そのうち約400例に重粒子線治療、約200例に手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いた前立腺全摘術が実施された。これらの実績は、専門性の高い診療体制と多職種連携による円滑な診療フローの成果である。2025年からは、県内医療機関との連携を一層強化し、高齢者の前立腺癌患者や前立腺癌が疑われる患者に対しても積極的に診療を行っている。地域医療との連携を通じて、前立腺癌診療における中核拠点としての役割を担っている。

文責：中井川 昇

第15節 生体試料センター

生体試料センターは、センター長1名（臨床研究所所長兼任）、副センター長1名（臨床研究所がん分子病態学部兼務）、臨床検査技師3名（うち1名非常勤）、事務・informed consent（IC）取得業務補助3名（非常勤）の人員構成で、患者への包括的な研究協力へのIC取得業務と、同意取得患者の組織および血液試料の収集、保管・管理業務を中心に、個別同意で実施される臨床研究での検体収集・IC取得支援も業務の一環として定め、積極的に実施した。初診初来院患者全員への包括的同意IC実現に向け、入院時のIC取得に加え、一部診療科での初診時全ICを導入し、外来受診時のIC取得を進めた。IC取得の説明は、外来2,752件、入院時病棟2,305件の計5,057件実施し、同意4,715件、取得率は93%であった。全初来院患者への80.6%にICを实

施し、IC総数は前年比4%増となった。本年度は、凍結組織433件、血液（血清／血漿とゲノムDNA）2,471件を収集した。試料提供はがんセンターの医師、研究者の研究、或いは外部施設との共同研究に、新鮮生組織196件、血清407件、血漿74件、凍結組織10件を提供した。この中には、生体試料センターが試料収集・提供の中核を担う文部科学省科学研究費学術変革領域研究「学術研究支援基盤形成」の「コホート・生体試料支援プラットフォーム」(<http://cohort.umin.jp/>)との共同研究分も含まれる。試料提供に際しては、全ての研究課題についてがんセンター研究倫理審査委員会での審査・承認を受けていることを確認した。

文責：宮城洋平

第16節 がん情報センター

がん情報センターは、神奈川県から当センターが委任されている全国がん登録、地域がん登録と、当センターの医事・診療情報管理課が所管する院内がん登録を一元管理し、また、神奈川県がん診療連携協議会を通じて収集したがん診療に関するデータ、国立がん研究センターがん情報サービスの情報、当センターのQI活動、医療安全対策、感染制御対策等を加えて、県民の多様なニーズに応じたがん医療情報を地域に発信する役割を担って、令和5年度から発足した。本年度は、がん診療連携協議会から収集したデータを（国がん研）がん情報サービスの情報と適宜リンクさ

せ分かり易く加工した情報を県に提供した。また、神奈川県のがん情報について、り患数とその割合、年齢調整り患率の年次推移、年齢調整り患率と死亡率の年次推移、5年相対生存率（2016年診断症例）、がんになりしやすい年齢、がんになっても元気に生きることのできる時代へ、の6項目をコンテンツとする「がん情報ページ」をがんセンターホームページに掲載している。当センターの個々の活動については、それぞれ該当する項目を参照されたい。

文責：成松宏人

第17節 教育・研修・研究支援センター

教育・研修・研究支援センターは、教育・研修部門、研究支援部門、図書室の3部門で構成されています。各部門は関係会議で年間計画を立て、承認を得て着実に運用し、重要事項は管理者会議や病院運営会議、診療科科長会議へ随時報告しています。センター全体としては、教育・研修・研究支援センター会議で年2回活動を取りまとめ、前向きに改善を重ねながら取り組んでいます。

教育・研修部門では、職員の教育・研修が計画に沿って継続的に実施されるよう支援し、院外研修への参加も後押ししています。あわせて、各部署の職務や資格等の達成度を評価するキャリアラダーの実施状況を確認し、人材育成をより実りあるものにしています。また、臨床研修委員会およびレジデント制度運営会議を通じて、がん診療専門修練医とレジデントの採用・評価が円滑に進むよう運営しています。

研究支援部門は、臨床研究をさらに活性化し、がんセンターが国内にとどまらず世界に向けて発信し、よりグローバルに活躍していけるよう、論文発表力の強化に力を入れています。特定機能病院の要件である「病院職員が筆頭著

者となる査読付き英文学術誌への年70報以上の発表」を重要目標に、投稿から受理までの状況を確実に把握し、英文校正と掲載費支援を継続しています。今年度の発表論文数は96編、インパクトファクター平均は3.1でした。今後は論文数を維持しつつ、より高いインパクトの国際誌への挑戦を後押しし、質の向上を目指します。さらに、競争的外部資金の公募案内と申請支援にも注力し、月1回の研究支援センターニュース発行とポータルサイトの継続更新を通じて、支援内容と進捗を分かりやすくタイムリーに共有しています。

図書室は、和文・英文ジャーナルの契約管理に加え、リンクリゾルバを用いた論文取り寄せ支援を行い、教育・研究の基盤を力強く支えています。

教育・研修・研究支援センターは、次回の病院機能評価および特定機能病院を見据え、今後も確実な活動を積み重ねてまいります。

文責：大島 貴

教育・研修

国内研究（研修）受入

所 属	研 修 者	受入部署	受入期間
横浜市立大学医学部	学 生	外 科	2024/2/1～2024/2/1
横浜市立大学医学部	学 生	泌 尿 器 科	2024/1/29～2024/1/30
横浜市立大学医学部	学 生	泌 尿 器 科	2024/2/6～2024/2/7
個人	医 師	遺 伝 診 療 科	2024/4/1～2025/3/31
横浜市立大学医学部	学 生	泌 尿 器 科	2024/2/20～2024/2/21
横浜市立大学医学部	学 生	泌 尿 器 科	2024/2/26～2024/2/27
横浜市立大学医学部	学 生	泌 尿 器 科	2024/3/11～2024/3/12
個人	医 師	乳 腺 外 科	2024/4/1～2025/3/31
横浜市立大学医学部	学 生	消化器内科（肝胆膵・消化管・内視鏡）	2024/3/4～2024/3/5
個人	医 師	が ん 生 物 学 部	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	血 液・腫 瘍 内 科（血 液）	2024/4/17～2024/4/17
個人	医 師	血 液・腫 瘍 内 科（血 液）	2024/4/17～2024/4/17
個人	医 師	東 洋 医 学 科	2024/4/9～2025/3/31
個人	医 師	がんゲノム診療センター	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	がんゲノム診療センター	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	がんゲノム診療センター	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	がんゲノム診療センター	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	消 化 器 外 科（大 腸）	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	検 査 科	2024/4/1～2024/9/30
個人	医 師	東 洋 医 学 科	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	腫 瘍 内 科	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	消 化 器 外 科（肝 胆 膵）	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	呼 吸 器 外 科	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	東 洋 医 学 科	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	呼 吸 器 内 科	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	遺 伝 診 療 科	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	呼 吸 器 外 科	2024/4/1～2025/3/31
個人	看 護 師	精 神 腫 瘍 科	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	乳 腺 外 科	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	泌 尿 器 科	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	呼 吸 器 外 科	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	消 化 器 外 科（大 腸）	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	消 化 器 外 科（大 腸）	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	消 化 器 外 科（大 腸）	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	消 化 器 外 科（大 腸）	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	血 液・腫 瘍 内 科（血 液）	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	がんゲノム診療センター	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	がんゲノム診療センター	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	婦 人 科	2024/4/19～2024/4/19
個人	医 師	婦 人 科	2024/4/19～2024/4/19
個人	医 師	婦 人 科	2024/4/19～2024/4/19
個人	医 師	婦 人 科	2024/4/19～2024/4/19
個人	医 師	が ん 予 防・情 報 学 部	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	が ん 予 防・情 報 学 部	2024/4/1～2025/3/31
岩手県庁	研 究 員	が ん 予 防・情 報 学 部	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	が ん 予 防・情 報 学 部	2024/4/1～2025/3/31

所 属	研 修 者	受入部署	受入期間
慶応義塾大学スポーツ医学研究センター	研 究 員	が ん 予 防 ・ 情 報 学 部	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	が ん 予 防 ・ 情 報 学 部	2024/4/1～2025/3/31
神奈川県立保健福祉大学	研 究 員	が ん 予 防 ・ 情 報 学 部	2024/4/1～2025/3/31
神奈川県立保健福祉大学	研 究 員	が ん 予 防 ・ 情 報 学 部	2024/4/1～2025/3/31
神奈川県立保健福祉大学大学院	研 究 員	が ん 予 防 ・ 情 報 学 部	2024/4/1～2025/3/31
神奈川県立保健福祉大学	研 究 員	が ん 予 防 ・ 情 報 学 部	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	が ん 予 防 ・ 情 報 学 部	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	が ん 予 防 ・ 情 報 学 部	2024/4/1～2025/3/31
横浜市立大学医学部	学 生	泌 尿 器 科	2024/4/2～2024/10/9
個人	医 師	臨 床 研 究 所	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	臨 床 研 究 所	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	臨 床 研 究 所	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	臨 床 研 究 所	2024/4/1～2025/3/31
東京工業大学生命理工学院	研 究 員	臨 床 研 究 所	2024/4/1～2025/3/31
東京工業大学生命理工学院	研 究 員	臨 床 研 究 所	2024/4/1～2025/3/31
東京工業大学生命理工学院	研 究 員	臨 床 研 究 所	2024/4/1～2025/3/31
東京工業大学生命理工学院	研 究 員	臨 床 研 究 所	2024/4/1～2025/3/31
東京工業大学生命理工学院	研 究 員	臨 床 研 究 所	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	泌 尿 器 科	2024/4/22～2025/3/31
個人	医 師	泌 尿 器 科	2024/4/22～2025/3/31
個人	医 師	呼 吸 器 外 科	2024/4/22～2025/3/31
個人	医 師	消 化 器 内 科（肝 胆 膵）	2024/4/22～2025/3/31
個人	放 射 線 技 師	臨 床 研 究 所	2024/4/24～2025/3/31
個人	医 師	消 化 器 外 科（大 腸）	2024/4/25～2025/3/31
個人	医 師	歯 科 口 腔 外 科	2024/5/1～2025/3/31
横浜市立大学医学部	学 生	消化器内科（肝胆膵・消化管・内視鏡）	2024/5/7～2024/5/7
杏林大学	学 生	放 射 線 治 療 科	2024/5/7～2024/5/31
個人	医 師	婦 人 科	2024/5/10～2024/5/31
個人	医 師	内 分 泌 外 科	2024/5/20～2025/3/31
個人	医 師	消 化 器 内 科（肝 胆 膵）	2024/5/22～2025/3/31
東京工業大学生命理工学院	研 究 員	臨 床 研 究 所	2024/5/23～2025/3/31
東京工業大学生命理工学院	研 究 員	臨 床 研 究 所	2024/5/23～2025/3/31
個人	医 師	泌 尿 器 科	2024/5/24～2024/5/24
個人	医 師	栄 養 管 理 科	2024/6/3～2025/3/31
横浜市立大学医学部	学 生	消化器内科（肝胆膵・消化管・内視鏡）	2024/6/17～2024/6/18
横浜市立大学医学部	学 生	婦 人 科	2024/6/17～2024/6/18
個人	医 師	呼 吸 器 外 科	2024/6/20～2024/6/20
個人	医 師	遺 伝 診 療 科	2024/6/24～2025/3/31
個人	医 師	血 液・腫 瘍 内 科（血 液）	2024/6/25～2025/3/31
東邦大学大学院理学研究科	研 究 員	放 射 線 診 断・IVR科	2024/7/1～2025/3/31
個人	医 師	東 洋 医 学 科	2024/4/1～2025/3/31
横浜市立大学医学部	学 生	婦 人 科	2024/4/1～2025/3/31
個人	医 師	がんゲノム診療センター	2024/7/4～2025/3/31
個人	医 師	放 射 線 治 療 科	2024/7/8～2024/7/8
福島県立医科大学医学部	学 生	放 射 線 治 療 科	2024/7/8～2024/7/8
個人	医 師	呼 吸 器 外 科	2024/7/10～2024/7/10
東洋英和女学院	研 究 員	東 洋 医 学 科	2024/8/9～2024/8/9
横浜市立大学医学部	学 生	消化器内科（肝胆膵・消化管・内視鏡）	2024/7/29～2024/7/30
個人	医 師	呼 吸 器 外 科	2024/8/28～2024/8/29

所 属	研 修 者	受入部署	受入期間
個人	医 師	放 射 線 治 療 科	2024/ 8 /14～2024/ 8 /14
個人	医 師	消 化 器 内 科（消 化 管）	2024/ 8 /20～2025/ 3 /31
個人	医 師	乳 腺 外 科	2024/ 8 /20～2025/ 3 /31
個人	医 師	呼 吸 器 外 科	2024/10/10～2024/10/10
個人	医 師	呼 吸 器 外 科	2024/ 9 /19～2024/ 9 /19
個人	医 師	血 液・腫 瘍 内 科（腫 瘍）	2024/ 9 /18～2025/ 3 /31
海外	医 師	消 化 器 内 科（内 視 鏡）	2024/ 9 /30～2024/12/16
個人	医 師	血 液・腫 瘍 内 科（血 液）	2024/10/ 2 ～2024/10/ 2
個人	医 師	血 液・腫 瘍 内 科（血 液）	2024/10/ 2 ～2024/10/ 2
個人	医 師	が ん 予 防・情 報 学 部	2024/10/ 1 ～2025/ 3 /31
個人	医 師	が ん 予 防・情 報 学 部	2024/10/ 1 ～2025/ 3 /31
横浜市立大学医学部	学 生	消 化 器 内 科	2024/10/ 7 ～2024/10/ 8
個人	医 師	呼 吸 器 内 科	2024/10/ 8 ～2025/ 3 /31
独立行政法人医薬品医療機器総合機構	研 究 員	消 化 器 内 科（肝 胆 膵）	2024/11/29～2025/ 1 /10
横浜市立大学医学部	学 生	婦 人 科	2024/10/ 7 ～2024/10/ 8
個人	医 師	婦 人 科	2024/10/15～2025/ 3 /31
個人	医 師	婦 人 科	2024/10/15～2025/ 3 /31
個人	医 師	検 査 科	2024/11/ 6 ～2025/ 3 /31
個人	医 師	東 洋 医 学 科	2024/11/22～2024/11/22
横浜市立大学医学部	学 生	消 化 器 内 科（肝 胆 膵）	2024/11/18～2024/11/19
個人	医 師	呼 吸 器 外 科	2024/11/18～2025/ 3 /31
個人	医 師	呼 吸 器 外 科	2024/12/ 9 ～2024/12/ 9
横浜市立大学医学部	学 生	婦 人 科	2024/12/ 9 ～2024/12/10
神奈川柔整鍼灸専門学校附属鍼灸施術所	鍼 灸 師	東 洋 医 学 科	2025/ 1 /10～2025/ 1 /10
個人	医 師	呼 吸 器 外 科	2024/12/27～2024/12/27
個人	医 師	消 化 器 内 科（内 視 鏡）	2025/ 1 /27～2025/ 3 / 7
個人	医 師	呼 吸 器 外 科	2025/ 2 /10～2025/ 2 /10
個人	医 師	呼 吸 器 外 科	2025/ 1 /27～2025/ 1 /27
個人	医 師	呼 吸 器 外 科	2025/ 2 / 5 ～2025/ 2 / 5
横浜市立大学医学部	学 生	消化器内科（肝胆膵・消化管・内視鏡）	2025/ 2 /17～2025/ 2 /18
個人	医 師	婦 人 科	2025/ 3 / 3 ～2025/ 3 / 3

実習生受入

所 属	人 員	受 入 部 署	受 入 期 間
福 島 県 立 医 科 大 学 医 学 部	2 名	放 射 線 治 療 科	2024. 7. 8～2024. 7. 8
麻 布 大 学	2 名	検 査 科	2025. 1. 14～2025. 3. 12
横 浜 市 立 大 学 医 学 部	96 名	呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科	2024. 2. 2～2024. 11. 30
横 浜 市 立 大 学 医 学 部	10 名	消 化 器 内 科	2024. 4. 4～2024. 10. 11
横 浜 市 立 大 学 医 学 部	17 名	泌 尿 器 科	2024. 4. 4～2024. 10. 11
横 浜 市 立 大 学 医 学 部	4 名	婦 人 科	2024. 6. 26～2024. 10. 31
杏 林 大 学	4 名	放 射 線 治 療 科	2024. 5. 7～2024. 5. 31 2024. 6. 3～2024. 6. 28 2024. 11. 25～2024. 12. 20 2025. 2. 10～2025. 3. 7
北 里 大 学	3 名	薬 剤 科	2024. 5. 20～2024. 8. 4 2024. 8. 19～2024. 11. 3 2024. 11. 18～2025. 2. 9
日 本 臨 床 腫 瘍 学 会	2 名	薬 剤 科	2024. 5. 13～2024. 6. 24 2025. 1. 27～2025. 3. 11
星 薬 科 大 学	2 名	薬 剤 科	2024. 5. 20～2024. 8. 4 2024. 8. 19～2024. 11. 3
横 浜 薬 科 大 学	3 名	薬 剤 科	2024. 5. 20～2024. 8. 4 2024. 8. 19～2024. 11. 3 2024. 11. 18～2025. 2. 9
神 奈 川 県 立 保 健 福 祉 大 学	1 名	リハビリテーション科	2025. 1. 14～2025. 3. 7
城 西 国 際 大 学 薬 学 部	1 名	薬 剤 科	2024. 5. 20～2024. 8. 4
日 本 病 院 薬 剤 師 会	1 名	薬 剤 科	2025. 1. 27～2025. 3. 21
横 浜 南 共 済 病 院	1 名	栄 養 科	2024. 11. 7～2024. 12. 11
神 奈 川 県 立 保 健 福 祉 大 学	2 名	栄 養 科	2025. 2. 17～2025. 3. 10
東 京 工 科 大 学	2 名	リハビリテーション科	2024. 4. 15～2024. 6. 1 2024. 8. 26～2024. 10. 12
新 潟 福 士 医 療 学 園	2 名	リハビリテーション科	2024. 5. 13～2024. 6. 30 2024. 11. 1～2024. 11. 24

図 書 室

1 利用者サービス

- (1) 利用時間：24時間
(司書不在時でもテンキーで入室可)
- (2) 主な業務
 - ・資料の貸出、返却
 - ・文献複写
 - ・相互貸借
 - ・文献検索
 - ・レファレンスサービス 等

- ・カラープリンター 1台
- ・コピー機 1台
- ・閲覧席 8席
- ・キャレル席 8席

2 図書館設備・機器

- ・利用者用パソコン 6台
- ・電子カルテ (GX) 用パソコン 1台

3 電子リソース

- ・医中誌Web
- ・最新看護索引Web
- ・メディカルオンライン
- ・PubMed
- ・Up To Date
- ・Clinical Key 等

【図書室統計】

		令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）
入室者数（*24時間開室だが、司書在室時間内での数とした）		3,465人	3,359人
蔵 書		3,412冊	3,737冊
製 本 雑 誌		2,058冊	2,058冊
購 入 雑 誌	冊 子 体	41誌	37誌
	オンライン（個別契約）	37誌	27誌
	オ ン ラ イ ン （ パ ッ ケ ー ジ 含 む ）	（洋）2,835誌 （和）1,574誌	（洋）3,126誌 （和）1,623誌
貸 出		775冊	1,325冊
返 却		744冊	1,314冊
相 互 貸 借	依 頼 件 数	84件	85件
	受 付 件 数	212件	108件
医 中 誌 W e b		4,616件	5,488件
最 新 看 護 索 引 Web		117件	39件
メ デ ィ カ ル オ ン ラ イ ン		3,317件	4,002件
U p T o D a t e		745件	789件

第3章 事務局業務

第1節 概要

事務局は、事務局長、副事務局長のもと、総務企画課、財務経営課、医事・診療情報管理課の3課により構成され

ており、センター運営の調整、人事、給与、施設管理、経理、診療費等の管理等に関する業務を行っている。

第2節 総務企画課

総務企画課は、常勤職員11名、契約職員5名及び非常勤職員17名、合計33名（令和6年4月1日現在）でセンター

の運営に関わる院内・院外調整、人事、給与、服務、施設管理、及び広報業務等を行っている。

第3節 財務経営課

令和6年度の職員数は、常勤職員7名、契約職員1名及び非常勤職員2名の合計10名（令和6年4月1日現在）であった。

1 主な業務

- ・ 予算・決算・監査業務
- ・ 経費（委託料、賃借料、修繕費、消耗品費、光熱水費等）の執行
- ・ 材料費（薬品、診療材料等）の執行
- ・ 医療機器等の資産の購入と管理

- ・ 受託研究費、研究研修費の管理と執行
- ・ 各研究助成金の管理と執行
- ・ PFI事業の契約及び調整
- ・ 出納事務

2 令和6年度の実績

- ・ 競争性の確保及び経費の有効活用のため、緊急時以外の薬品購入について、入札を実施するとともに、価格交渉を粘り強く行った。
- ・ 材料の購入、医療機器の保守及び修繕について、医師や技師と連携した価格交渉を積極的に行った。

第4節 医事・診療情報管理課

令和6年度の職員数は、常勤職員6名（うち診療情報管理士2名）、契約職員1名、非常勤職員12名の合計19名であった。

1 主な業務

- ・ 医業収益等の収入調定業務
- ・ 未収金対策
- ・ DPC請求及びDPC調査データの作成に係る業務
- ・ 病歴管理、診療統計に係る業務
- ・ 医療情報システムの運用管理・調整
- ・ 医師の事務作業補助に係る業務
- ・ その他診療業務全般の調整に関すること

2 令和6年度の実績

- ・ DPCラウンド
DPCの分析データや医事統計をもとに、経営改善を図るべく診療科とディスカッションを実施

- ・ 施設基準の取得

他部門と連携を密にし、入退院支援加算の上位基準取得（加算2⇒加算1）や後発医薬品使用体制加算の新規取得の達成

- ・ 患者待ち時間の短縮

紹介状事前取込推奨、事前取込優先受付設置などの受付から診察までのプロセスの見直しと入院パンフレットの刷新による案内の簡素化

3 病歴管理

退院患者の疾病分類（平成7年よりICD-10を使用）、病歴管理情報のデータ入力、診療記録の確認、サマリーの点検、サマリー作成率の集計を行っている。

4 院内がん登録

院内がん登録は、成人病センターとして発足した昭和38年から登録カードにより開始し、登録の対象は悪性腫瘍と

一部の良性・境界悪性の腫瘍を登録している。平成2年より電算化の処理を行っている。

院内がん登録の目的は、病院内の対がん活動の状況を把握しがんの早期発見と治療、予後の向上に役立つことあり、ひいては地域レベル、国レベルのがん対策や腫瘍登録などの共同研究への参加を容易にして、研究・研修にも役立てることにある。

平成28年より「がん登録等の推進に関する法律」の施行により全国がん登録が開始され、法令により標準登録様式2016年版に準拠した院内がん登録を行っている。

院内におけるがん患者の把握漏れがないように資料の集積と、より正確・迅速な情報の入手と提供を主眼として登録業務を行っている。

昭和38年から医師主導による入院患者を対象とした院内がん登録を行っていたが、平成22年より院内がん登録担当者による全診療科の全がん登録を入院・外来に関わらず開始した。

令和6年の院内がん登録数は5,867件となっており、前年より-1.6%となっている。

昭和38年からの院内がん登録累積数は統計編 表25-(2)に示すとおり127,051件となっている。

主要部位における新登録状況は、統計編 表25-(1)に示すとおりで前立腺がん786件(13.4%)と最も多く、次いで、肺がん720件(12.3%)、膵臓がん576件(9.8%)、乳がん553件(9.4%)、大腸がん481件(8.2%) (結腸289件・直腸192件)、胃がん310件(5.3%)の順に多い。

地区別では統計編 表25-(4)に示すとおりで県内全域にわたってはいるが、横浜市内が3,475件で59.2%を占め、そのうち旭区が1,070件(18.2%)、ついで瀬谷区が380件(6.5%)、泉区が345件(5.9%)と周辺地区の患者が多い。県外の患者は478件(8.1%)となっている。

当院への来院経路は、紹介によるものが5,423件で92.4%と最も多く(旭区973件、県外452件、瀬谷区345件)、他疾患経過観察中409件(7.0%)、自主受診32件(0.5%)、剖検・その他・不明3件であり、紹介制が定着している。

症例区分は、初発がんの初回治療または治療継続症例が

4,576件(77.9%)、初回治療終了後の紹介が527件(8.9%)、診断のみの症例は154件(2.6%)であった。

初発がんの登録数は4,576件だった。このうち診断時病期(治療前病期)は0期154件(3.4%)、Ⅰ期1,441件(31.5%)、Ⅱ期658件(14.4%)、Ⅲ期530件(11.6%)、Ⅳ期882件(19.3%)、適応外または不明911件(19.9%)であった。

平成11年より登録後5年目および10年目を対象とする予後調査を施行し、平成18年からは登録後3年目についても施行し、登録内容の充実を図っている。予後に関する個人情報の把握は年々困難になってきているが院内の各セクションからの情報・紹介医師や家族からの連絡・外来の通院状況の把握・地域がん登録からの情報等により予後情報が集積されるよう周知を図っている。令和6年は14,556件の予後調査を実施した。受診確認による判明数は9,682件(66.5%)、住民票照会による判明数は4,874件(33.5%)であった。消息不明は242件(1.7%)であり、そのうち当院へ申請された居住地に住民票が登録されていないものや住民票照会不同意が192件(前年より115件増)、住民票交付不可が50件(前年と変わらず)であった。予後調査実施内の消息判明率は98.3%であった。

令和6年におけるがん登録死亡判明数は、院内死亡数が537件(前年より23.7%増)、院外死亡数が2,137件(前年より32.5%増)、その内訳としては他施設死亡338件(-5.6%)、自宅死亡570件(6.7%増)、不明及びその他1,229件(70.5%増)であった。全登録に対する死亡判明率は41.3%であり、その約半数はすでに死亡が判明している。

平成11年よりMicrosoft Accessによる院内がん登録を開始、平成24年11月よりHos-canR plus、平成29年Hos-canR Nextにシステムを変更した。

がん登録の分類は標準登録様式に準拠し平成16年よりICD-O-3を使用し、平成18年よりがん登録の局在分類にもICD-O-3を使用している。病期分類は平成30年登録よりUICCによるTNM悪性腫瘍の分類第8版を使用している。(統計編はICD10に変換 表25参照)

文責：院内がん登録

第4章 臨床研究所業務

第1節 概要

I はじめに

神奈川県立がんセンター臨床研究所は、がんの総合的な研究を臨床部門との連携のもとに行いがん医療に貢献するとして、昭和61年4月に開設されている。神奈川県立がんセンター及び神奈川県立病院機構の使命である、県内医療水準の向上、県民の健康の確保及び増進に貢献する研究を遂行した。

II 組織体制と運営

病院との密接な協調・連携のもと、本年度は、がん生物学部、がん分子病態学部、がん治療学部、がん免疫療法研究開発学部、がん予防・情報学部とがん教育ユニットの5学部・1ユニット体制で研究を実施した。学部長／ユニット長のもと、常勤の研究員、技官に加えて、特別研究員、特任研究員を始め、外部資金で雇用する多数の研究員、実験助手、事務補助、大学／企業から研究員・研究生を受け入れて精力的に研究業務を進めた。研究業務は、各研究学部の研究室に加えて、臨床研究所共通部門である、形態情報解析室（組織標本作製等）、細胞培養室、二つの共焦点顕微鏡・蛍光顕微鏡用暗室、次世代シーケンサー、逆相タンパク質アレイ（RPPA）など大型共通機器が設置されている中央機器・共通実験室、動物実験施設と液体窒素保管室などの施設設備を利用して実施した。また、代替研究技術の進歩で使用実績の乏しいRI実験施設を一般研究施設に変更する手続きを開始した。令和8年度内の新規開設を目指す。臨床研究所事務局には4名（常勤1名、非常勤3名）が勤務し、文科省科学研究助成事業、日本医療研究開発機構（AMED）の研究開発費を始めとする外部研究資金の申請・成果報告、管理・監査、研究者登録、などの研究関連実務を支援し、外部資金の獲得にも寄与した。また、遺伝子組み換え生物等安全委員会、動物実験委員会、など研究活動に必要な委員会の事務局機能を果たした。対外的な活動は、外部講師による臨床研究所セミナー1件、4月に第35回県民のための公開講演会「女性のがん～最新の話～」（関内ホール小ホール）、12月にはLiHubよこはま先端がん研究ユニット（東京科学大）と共催した「産学融合でがんバイオリソースを活かす！ ―バイオレポジトリ、ヒトがん組織由来モデルの利活用―」、中高生を対象とする夏の科学教室「がん研究体験プログラム」（がんセンター講堂／臨床研究所）を開催した。

臨床研究所の運営は、臨床研究所運営会議、病院・臨床研究所共同研究会議、のもとに円滑に遂行された。臨床研究所運営会議は毎月一回開催し、議事録を管理者会議に報告した。この他、臨床研究所長が主催する研究所全体会議と主任研究員以上によるスタッフ会議、及び、研究プログ

レス（研究学部、研究ユニットの研究進捗状況報告会）（原則として月1回）、臨床研究所長と研究学部部長による部長会（原則として週1回）を実施し、円滑な研究業務の遂行に努めた。論文抄読会、詳細な研究データの検討会などは、各研究学部／研究ユニット単位で実施した。

III 業務

(1) 各部門の研究概要

1) がん生物学部

がん生物学部では、これまでに有効な治療法が確立されていない難治、希少癌のプレジジョンメディシン実現に向けて、オルガノイドライブラリーを用いた短期間での治療効果予測系の確立と、それを利用した新規治療法開発を行っている。

2) がん分子病態学部

遺伝子変異・発現解析、病理形態学的解析を軸にがん分子診断技術の開発研究を進めると同時に、より効果的な診断法、治療法・治療薬を開発するための新たな分子標的発掘を目指して、がんの虚血低栄養微小環境、脂肪組織とがんの進展、がん患者に合併する血栓塞栓症を標的に、がんセンター内外とも共同して研究を進めた。

3) がん治療学部

臨床検体を用いたゲノム、エピゲノム、トランスクリプトーム、プロテオームなどマルチオミクス解析から標的となる分子を探索し、新たな診断薬、治療薬に関する研究・開発を行っている。また、患者腫瘍を移植したモデルマウスを作製し、研究開発の基盤整備を行っている。

4) がん予防・情報学部

本学部は30年以上にわたり神奈川県のがん登録を担っている。2016年には大規模ゲノムコホート研究「神奈川県みらい未病コホート研究」立ち上げた。これらの疫学・公衆衛生の研究資産を知的基盤としての活用し、神奈川県および神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科と連携して神奈川県の掲げる未病対策やヘルスイノベーションにつながるチャレンジングな取り組みを行っている。

5) がん免疫療法研究開発学部

がん免疫診断・治療に関する基礎研究・トランスレーショナル研究を実施し、得られた研究成果をがんワクチン・免疫センター（免疫療法科）で臨床応用することにより、科学的根拠に基づいた“次世代がん免疫療法”の

確立を目指している。

(2) 共同研究

共同研究はセンター病院および外部機関と積極的に行っている。

- 1) 病院との共同研究は臨床各科の医師が主となって研究テーマを提案し、それに研究員が協力する形で行われている。本年度は11課題が選定され研究が実施された。
- 2) 外部研究機関との共同研究は、国内外、産学を問わず積極的に行っている。共同研究先は以下の通りである（順不同）。

国立がん研究センター、国立成育医療研究センター、国立感染症研究所、千葉県がんセンター研究所、愛知県がんセンター研究所、量子医科学研究開発機構、理化学研究所、東京大学医科学研究所、国立医薬品衛生研究所、北海道大学、札幌医科大学、東北大学、山形大学、千葉大学、東京大学、東京大学・大学院新領域創成科学研究科、東京科学大学、東京女子医科大学、慶應義塾大学、明治大学、昭和大学、杏林大学、日本体育大学、立教大学、神奈川県立保健福祉大学、横浜市立大学、北里大学、帝京大学、明治薬科大学、順天堂大学、東海大学、静岡県立大学、名古屋大学、名古屋市立大学、中部大学、岐阜大学、金沢大学、敦賀市立看護大学、福井大学、滋賀医科大学、京都府立医科大学、京都産業大学、大阪公立大学、大阪大学、神戸大学、岡山大学、香川大学、愛媛大学、徳島大学、山口大学、久留米大学、長崎大学、福岡大学、九州大学、佐賀大学、鹿児島大学、National University of Singapore、Vanderbilt大学医学センター、東北大学東北メディカル・メガバンク機構、岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構、神奈川県立循環器呼吸器病センター、神奈川県、横浜市医師会、横浜市大附属病院、昭和大学北部病院、ロシュ・ダイアグノスティックス社、東ソー(株)、新日本科学TRカンパニー、(株)ニコン、味の素(株)、大鵬薬品工業(株)、Japan Breast Cancer Research Group (JBCRG)、Zene(株)、ライザップ(株)、LTTバイオファーマ、エーテンラボ(株)、湘南ロボケアセンター、(株)メタジェン、LifeSeq(株)、オプティ

セル(株)、ジェノプラン(株)、磐井AI(株)、ニューロスカイ(株)、Akrivo Labs、(株)JMDC、アクトメッド(株)、優和会、AMED BINDS、富士通Japan(株)、富士フィルム和光純薬(株)、武田薬品工業(株)、その他（大学・施設とその他施設臨床研究）

(3) 研究成果

当研究所の研究員が関与した英文論文は57編、学会発表数は66題であった。また特許の出願は1件であった。研究内容や成果の詳細は各研究部門の項を参照されたい。

(4) その他の業務

1) 「生体試料センター」の運営

臨床研究所は、がん分子病態学部を中心に生体試料センターの運営を積極的に支援している。（詳細は「生体試料センター」の項を参照。）

2) 県民の方々への情報発信

- ① 県民のための公開講演会：研究所開設以来毎年4月に科学技術週間への参加行事をかねて県民を対象としたがんに関する公開講演会を開催し、がんに関するさまざまな情報を提供している。令和6年度は第35回となり、「女性のがん～最新の話題～」をテーマに実施した。
- ② かながわサイエンスサマーへの参加：神奈川県では、未来を担う子どもたちに、科学の楽しさを知り、親しんでもらうため、夏休み期間から秋にかけて県内の科学館、大学、研究機関、企業等が開催する子ども向け科学関連のイベントを、「かながわサイエンスサマー」として実施しており、当研究所では中学生・高校生を対象に「がん研究体験プログラム」をテーマとして科学教室を実施した。
- ③ 横濱がんセミナー開催：LiHubよこはま先端がん研究ユニット（東京科学大）と共催し、「産学融合でがんバイオリソースを活かす！ ―バイオレポジトリ、ヒトがん組織由来モデルの利活用―」をテーマとして、外部講師ならびに臨床研究所研究員が講演を行った。

第2節 研 究 業 務

がん生物学部

がん生物学部の研究業務は大きく3つに分類される。

1. 患者由来オルガノイドライブラリーの構築

新薬開発の成功率は著しく低い。その原因は多種多様だが、基礎研究で使用している培養細胞株が原因の一つであることが指摘されている。例えば、いくつかの培養細胞株は、臓器の由来が異なること、生体内の性質を遺伝子変異レベルやタンパク質レベルで保持していないことが明らかになっている。これらの問題点を解決する手法として、我々はオルガノイド培養法の開発と最適化を行い、患者由来オルガノイドライブラリーの構築を行なっている。

2. 乳腺領域のリバーストランスレショナルリサーチ

乳腺では、抗HER2抗体に抗がん剤を付加されたADC（抗体薬物複合体、T-DXd）が、HER2 ultra low乳がん患者にも奏功するため、現在のサブタイプ別治療を根幹から覆す可能性が指摘されている。しかしながら、非常に高い奏功率を示す一方で、薬剤誘発性間質肺炎のため治療を中断せざるを得ないケースが生じている。そこで、我々は薬剤誘発性間質肺炎を起こすバイオマーカーの探索を実施している。また、T-DXdに対する耐性を示す症例や奏功後に、耐性化する症例も生じており、T-DXd耐性機構の解明が急務になっている。そこで、我々は、1. で樹立した乳がんオルガノイドを用いて、T-DXd 耐性機構の解明と、新規治療標的の同定を目指す。

3. がん細胞におけるミトコンドリア品質管理

損傷を受けたミトコンドリアは選択的に分解されることで、細胞内のミトコンドリア全体の品質が維持される。ユビキチンリン酸化酵素PINK1とユビキチンリガーゼParkinはミトコンドリア品質センサーとして働き、ミトコンドリア上にポリユビキチン鎖を付加することでマイトファジーを誘導する。これまでに私達は、PINK1とParkinを介したミトコンドリア品質管理が細胞内環境によって制御されることを明らかにしてきた。特に、細胞内のエネルギー生産状態とミトコンドリア品質管理には強い関連性が見られている。

がん分子病態学部

がん分子病態学部では、がんセンター臨床各科と多数の共同研究を進めると共に、「がん組織における低酸素環境を標的とした新規の早期診断マーカー・治療分子標的の開発」、「がん関連血栓塞栓症（CAT）の早期予測マーカー・治療分子標的の探索」、「がん微小環境における間質細胞の多面的理解による、転移進行がんに対する新規治療法の開発」、「形態情報・エピゲノム情報のAI解析から作出する新規診断・治療効果予測・予後判定ツール、デバ

イスの開発」、「がんゲノム解析技術を主体とする臓器・診療科横断的ながん分子病態解析研究」の5つの経常研究課題を遂行した。また、質の高い臨床研究基盤の構築と、それを用いた研究、特に個別化医療の開発研究を促進するために、がんセンター生体試料センターにおける臓器横断的な患者試料バンキングにおける中心的役割を継続して担った。がん治療学部と共同する患者由来異種移植片（Patient Derived Xenograft；PDX）モデルの作製も継続した。

がん組織の低酸素環境を標的とした研究では、低酸素・低栄養環境下で相加、相乗的に発現が誘導される遺伝子RIMLKLA、CD69、ICAMIについて研究を進め、ICAMIやCD69は卵巣明細胞腺癌患者の予後不良因子となることを見出した。RIMLKLA については、企業と連携し低酸素状態検知診断マーカー等として特許を出願した。CATの研究では、新規CAT研究用マウスモデルを開発し、肝胆膵内科・外科との共同研究により正確なCAT発症予測モデルの開発を目指している。

転移進行がんに対する新規脂肪標的療法の研究では、脂肪由来アディポカインの血中濃度が、前立腺癌の転移や治療効果予測因子であることを示した（論文業績3, 21）。細胞・動物実験では、アディポカインを介した乳癌抑制機構を検討した。がん患者由来脂肪細胞ストック、アディポネクチン改変マウスを作製し解析に供する。

形態情報のAI解析による診断治療ツール開発研究では、ニコン社と診断に重要な病理画像の自動取得デバイスを開発し、特許出願し社会実装した。また病理画像の機械学習を用いてがん脂肪相互作用を解析している。

がんゲノム解析技術を主体とする臓器・診療科横断的ながん分子病態解析研究では、がん分子病態学部が主体となった大部分の研究の分子病態解析に貢献し論文業績となっている（論文業績1, 6, 7, 9, 12, 30）。

がん治療学部

がん治療学部は、がんゲノム診療センターの運営（今年度拠点病院として約960例の症例をEPで検討）を通して得た癌腫横断的なバイオマーカーや分子標的治療の知見、クリニカルクエストを基に、臨床検体を用いたマルチオミクス解析手法による、新たな治療標的の探索的研究を行っている。また、日本有数のCGP検査の実績と臨床検体を用いたトランスレショナルリサーチの経験を生かし、複数のアカデミア、企業と共同研究を実施している。さらに、全国規模の臨床試験グループのバイオマーカー研究、レジストリー研究にも多数参画し、プレゼンスを示している。

具体的な研究内容を以下に列举する。

がん治療学部主導研究

■膵癌腫瘍関連線維芽細胞、インタラクトーム（癌間質相互作用）解析

- ・膵癌組織のCITE seqを実施し、CAF新規マーカーの同定、エピゲノム解析でマスター転写因子を同定する。

■クロマチン高次構造解析を用いた膵癌新規標的メカニズムの探索

- ・熊本大学黒滝先生との共同研究で膵癌細胞株のHi-C解析を実施し、他のエピゲノム解析と統合することでマスター転写因子を同定する。

■胃癌腹水中TAMのSignature genesの同定と治療標的への応用

- ・胃癌腹水中の免疫細胞群をFACS解析し、TAMを分離同定する。TAMを用いてCITE seqを実施し、TAM新規表面マーカーを同定し、播種予測因子としての意義を検討する。

■甲状腺未分化癌の治療標的分子の同定

- ・当院で樹立した未分化癌細胞株のマルチオミクス解析を実施し、TP53機能獲得型変異による腫瘍増悪機序を解明することにより、治療標的を探索している。

■肉腫検体を用いたクロマチン高次構造解析

- ・予後良好で組織学的な特徴を有して疾患概念としても確立しているmyxofibrosarcomaとundifferentiated sarcoma・Leiomyosarcoma・dedifferentiated liposarcoma・局所転移有のmyxofibrosarcomaを比較し、診断および治療に有効で特異的な遺伝子変異やエピゲノム変化を同定する。

がん予防・情報学部

地域がん登録・全国がん登録事業では、2022年診断の97,016件の罹患届出と97,890件の死亡小票を収集し、総マスター件数は181万件超と全国有数の規模を維持した。研究的利用申請は20件に達した。

がん検診精度管理事業は、横浜市医師会との共同で、がん登録データと検診データを突合し精度管理指標を算出。肺がん・胃がん・前立腺がんについて論文出版を達成し、大腸がん・乳がん・子宮頸がんについても論文を進行中である。横須賀市への拡大も計画準備した。

神奈川県みらい未病コホート研究は、目標5,000人を超える5,553名のリクルートを達成し、2036年までの追跡調

査を開始した。

介入コホート研究（ME-BYO and ME-RISEプロジェクト）では、データ包絡分析による高血圧予防介入のRCT論文を出版。HALロボットを用いたフレイル予防RCTも論文化され、デジタルピアサポートアプリ「みんなチャレ」の実証研究も進行中である。

AIを活用した医療介入システム研究では、遺伝性腫瘍患者拾い上げChatbotの特許が成立し、当センターでの実地運用を開始した。フィージビリティスタディー結果を論文出版し、国内3施設での多施設実証研究へと展開した。

がん免疫療法研究開発学部

科学的根拠に基づいた新規がん免疫療法を確立するため、がん免疫診断・治療に関する基礎研究・トランスレーショナル研究を実施している。本学部の目標は、得られた研究成果をもとに新たなシーズを育成し、がんワクチン・免疫センターで臨床試験（治験）を実施することにより、がん患者に“次世代がん免疫療法”や“新規バイオマーカー”の提供を可能とすることである。現在、臨床各科との共同研究を推進し、以下の研究プロジェクトに取り組んでいる。

(1) 次世代がん免疫療法の開発

- ① 免疫系からは非自己として認識されるために強力な特異的T細胞反応の誘導が期待できる“がん特異的遺伝子変異（ネオアンチゲン）”を標的とした個別化がんワクチン・免疫療法
- ② 悪性中皮腫特異抗原を標的としたキメラ抗原受容体遺伝子導入T（CAR-T）細胞療法
- ③ 重粒子線照射や漢方薬と免疫療法とを併用した複合免疫療法

などの臨床応用を目指した研究を実施している。

(2) がん免疫療法バイオマーカーの開発

がん免疫療法の治療効果が得られない原因の一つとして、がん細胞での免疫逃避やがん患者における免疫抑制などの問題が指摘されている。がん患者における免疫抑制メカニズムを詳細に検討するとともに、免疫チェックポイント阻害剤をはじめとしたがん免疫療法の臨床効果を予測するための新規バイオマーカーを開発することにより、個々のがん患者に適切な治療を提供する“個別化がん免疫治療”の確立を目指している。

第3節 実験動物施設

実験動物施設は、SPFマウス用飼育室3室、SPF動物用実験室、Conventionalマウス・ラット用飼育室、ウサギ飼育室、Conventional動物用実験室、検疫室、洗浄室、倉庫、床敷処理室、管理室、シャワー室等からなり、総面積317.4㎡の施設である。本施設は「がんセンター動物実験規程」に基づき管理運営されている。実験動物は「動物の愛護及び管理に関する法律」、「実験動物の適正な実施に向けたガイドライン」（日本学術会議）、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」（環境省告示）等を遵守した形で取り扱われている。すべての研究計画は動物実験委員会において審議され、上記の法律、ガイドライン、告示等に従っている計画が承認される。また、遺伝子組換え生物等を取り扱う実験に関しては、事前に当センターの「遺伝子組換え生物等安全委員会」による承認を得ることが申請の必要条件となっている。遺伝子改変動物（トランスジェニックマウス等）や遺伝子組換え培養細胞を移

植した動物等は「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」（カルタヘナ法）、「研究開発等に係る遺伝子組換え生物等の第二種使用等に当たって執るべき拡散防止措置等を定める省令」を遵守する形で管理、使用されている。また、本施設では国際規格に対応した飼育箱やインビボイメージングシステム「IVIS」を導入し動物愛護に即した飼育環境と低侵襲的な観察および動物数の低減化を実現している。全施設は年1回の消毒が行われていて、毎月の施設内落下細菌検査により飼育環境の清浄度がチェックされている。また、施設内で飼育されているマウス・ラットの微生物学的モニタリングを年2回実施している。令和6年度は33研究課題が実施され、使用動物総数はマウス1,719匹（延べ総数）であった。研究のために犠牲となった動物に感謝するとともに、動物愛護の精神を再確認するために、関係者 全員の参加による動物慰霊祭を毎年実施している。

第4節 神奈川県悪性新生物登録事業

本事業は、神奈川県下における悪性新生物（がん）の罹患と死亡の情報を収集、整理、解析することにより罹患の現状を把握し、今後におけるがん対策の推進及び医療水準の向上に資することを目的とする。

神奈川県の悪性新生物登録事業（地域がん登録）は全国の中で5番目に早い1970年から開始され、54年もの長い歴史の間に蓄積された腫瘍データは253万件に及ぶ。

全国がん登録の届出状況

2016年1月1日より「がん登録等の推進に関する法律」に基づき始まった全国がん登録では、全ての病院が、原発性のがん罹患情報の届出義務を負う。2024年は、207届出医療機関（病院197、クリニック10）より、95,458件の届出があった（届出対象：2023年診断、暦年集計）。

地域がん登録の継続

神奈川県ではこれまで蓄積されたデータの継続性を鑑み、全国がん登録の26項目に加え、病期「T,N,M,ステージ」情報の提供を求めている。また、死亡票についても引き続き厚生労働省の承認を得て県下各保健所において作成した2023年人口動態調査死亡小票を採録した。

2024年度事業の実施状況

1. 情報の収集

届出件数95,458件、死亡小票の採録件数99,365件、合計194,823件収集した。

2. 入力件数

入力件数96,321件、死亡小票入力件数43,153件（うち全死亡照合14,740件）、合計139,474件入力した。

3. 追跡調査

5年相対生存率を算出するための追跡調査では、2018年診断74,555件のうち死亡情報のない44,121名を住民基本台帳ネットワークシステムと照合した。照合できなかった2,636名について県内58市区町村へ公用による住民票照会を実施、さらに県外転出者475名の住民票照会を281市区町村へ実施し予後の把握につとめた。

4. データの利用

地域がん登録22件（届出医療機関からの予後調査、研究利用、行政への提供、既公表データ利用）

全国がん登録 2件 第18条申請（県知事による利用）2件

5. 住所異動確認調査（全国がん登録）

国立がん研究センターにおける2021年診断罹患確定へ向けた全国照合において、複数の候補者がいるものの同一人物と判断しかねる症例について、住所異動の追加の情報を得ることによって同一人物判定を補助する調査。1,790件を県内市区町村54か所へ実施し、回答結果を全国がん登録システムへ入力した。

6. 遡り調査（全国がん登録）

死亡者情報票で初めて把握されたがんについて、死亡診断書の作成にかかる医療機関または診療所へ遡ってのがん登録届出を求めるもの。国より対象者と調査対象医療機関が通知され（DCN通知）、都道府県がん登録室は対象医療機関へ遡り調査を通知、回答結果を全国がん登録システムに登録する。1,115件を223医療機関へ実施した。

7. 神奈川県のがんの罹患状況（2021年診断）

2021年診断の罹患数は、73,060人（男40,221人、女32,839

人）であった。そのうち県下医療機関からの届出によるものの69,830人、死亡票により確認されたものが3,230人であった。がんの部位別割合をみると、男で最も多いのは前立腺、次いで結腸、肺、女は乳房、次に結腸、子宮の順である。

2017年に診断された者の5年相対生存率は男67.9%、女72.7%である。生存率の高い部位は男で前立腺、皮膚、甲状腺、女は皮膚、甲状腺、乳房の順、逆に低い部位は男女ともに脾、胆のう・胆管、脳であった。

文責：今井香織

第5章 病院ボランティア会ランパスの活動

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため2020年2月20日から活動を休止しており、今年度の活動は行われなかった。

研 究 編

第1章 臨床研究所

第1節 研究課題一覧

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
が ん 生 物 学 部	1 乳腺、甲状腺疾患患者由来オルガノイド開発とプレシジョンメディシンを目指した応用展開とオルガノイド培養技術の確立 2 培養細胞株を用いた重粒子線の生物学的特徴の解明 3 乳がんの薬剤耐性機構の解明、および、薬剤誘発間質性肺炎のマーカー探索	星野大輔、猪狩瑞穂、柴田竜子、齋藤菜緒、関原和正（がん生物学部）安川美緒（横浜市大乳腺外科大学院生、がん生物学部）益戸功彦、角谷芽依、（内分泌外科）山下年成、藤原沙織（乳腺外科） 星野大輔、猪狩瑞穂、柴田竜子、齋藤菜緒、関原和正（がん生物学部）、蓑原伸一、草野陽介（物理工学科） 星野大輔、猪狩瑞穂、柴田竜子、齋藤菜緒、関原和正（がん生物学部） 安川美緒（横浜市大乳腺外科大学院生、がん生物学部） 山下年成、藤原沙織（乳腺外科）
が ん 分 子 病 態 学 部	1 がん組織における酸素、脂質欠乏環境を標的とした新規の早期診断マーカー・治療分子標的の開発 2 がん関連血栓塞栓症の早期予測マーカー・治療分子標的の探索 3 がん微小環境における間質細胞の多面的理解による、転移進行がんに対する新規治療法の開発 4 形態情報・エピゲノム情報のAI解析から作出する新規診断・治療効果予測・予後判定ツール・デバイスの開発 5 がんゲノム解析技術を主体とする臓器・診療科横断的ながん分子病態解析研究	小井詰史朗、佐藤慎哉、中村圭靖、吉原光代、笠島理加、宮城洋平（がん分子病態学部）、鷺見公太、大久保陽一郎（病理診断科）、佐治晴哉（婦人科）、岸田 健（泌尿器科） 小井詰史朗、佐藤慎哉、中村圭靖、吉原光代、笠島理加、宮城洋平（がん分子病態学部） 小林 智、上野 誠（消化器内科・肝胆膵） 佐藤慎哉、小井詰史朗、中村圭靖、笠島理加、宮城洋平（がん分子病態学部） 山下年成（乳腺外科）、比留間 徹、竹山昌伸（骨軟部腫瘍外科）、岸田健、中井川 昇（泌尿器科） 佐藤慎哉、小井詰史朗、中村圭靖、笠島理加、宮城洋平（がん分子病態学部）、山下年成（乳腺外科）、比留間 徹、竹山昌伸（骨軟部腫瘍外科）、岸田 健、中井川 昇（泌尿器科） 笠島理加、小井詰史朗、佐藤慎哉、中村圭靖、吉原光代、宮城洋平（がん分子病態学部）、鷺見公太、大久保陽一郎（病理診断科）

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
が ん 治 療 学 部	1 固形がん（特に睪癌）を対象にしたマルチオミクス解析 2 小児、AYA世代がん肺転移モデルの樹立とインタラクトーム解析による新規標的分子の探索 3 胃癌腹膜播種転移の初期過程における腫瘍関連マクロファージの新規 signature genesの同定と癌細胞との相互作用機構の解明 4 軟部肉腫のクロマチン高次構造の解明と新規治療薬の開発	廣島幸彦、川瀬 航、大津 敬、菊地慶司（がん治療学部）、笠島理加（がん分子病態学部）、山本直人、森永聡一郎（消化器外科肝胆脾）、大島 貴（消化器外科胃食道） 大津 敬、廣島幸彦、川瀬 航、菊地慶司（がん治療学部）、宮城洋平、笠島理加（がん分子病態学部）、北河徳彦、田中水緒、田中祐吉、後藤裕明（神奈川県立こども医療センター） 川瀬 航、廣島幸彦、菊池慶司、大津 敬（がん治療学部）、笠島理加（がん分子病態学部）、大島 貴（消化器外科）、笹田哲朗（がん免疫療法研究開発学部） 川瀬 航、廣島幸彦、大津 敬、菊池慶司（がん治療学部）、宮城洋平、笠島理加（がん分子病態学部）、鷺見公太（病理診断科）
が ん 予 防 ・ 情 報 学 部	1 人工知能（AI）を活用した効率的な遺伝性腫瘍診療システムの開発 2 神奈川県地域がん登録データを用いた疫学研究とがん対策への活用 3 神奈川県みらい未病コホート研究における介入実証研究（ME-BYO and ME-RISEプロジェクト） 4 神奈川県みらい未病コホート研究 5 がん登録データとがん検診データのリンケージによるがん検診精度管理	成松宏人、中村 翔（がん予防・情報学部）、羽田恵梨、佐藤 杏（遺伝診療科） 渡邊 要、中村 翔、CHEI CHOY LYE、今井香織、野口遼、成松宏人（がん予防・情報学部） 中村 翔、渡邊 要、CHEI CHOY LYE、成松宏人（がん予防・情報学部） 中村 翔、CHEI CHOY LYE、渡邊 要、高橋鴻志、新村直子、成松宏人（がん予防・情報学部） 中村 翔、CHEI CHOY LYE、高橋鴻志、渡邊 要、成松宏人（がん予防・情報学部）

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
が ん 免 疫 療 法 研 究 開 発 学 部	1 遺伝子変異由来新規抗原（ネオアンチゲン）を標的とした個別化がん免疫治療の開発	笹田哲朗、紅露 拓、氷室秀知、魏 菲菲、辻 嘉代子、駒橋 充（がん免疫療法研究開発学部）、星野大輔（がん生物学部）、廣島幸彦（がん治療学部）、中井川 昇、岸田 健、臼井公紹 他（泌尿器科）
	2 免疫チェックポイント阻害剤治療におけるバイオマーカーの同定	笹田哲朗、紅露 拓、氷室秀知、魏 菲菲、辻 嘉代子、駒橋 充（がん免疫療法研究開発学部）、宮城洋平 他（がん分子病態学部）、齋藤春洋 他（呼吸器内科）、岸田 健 他（泌尿器科）、上野 誠 他（消化器内科）、大島 貴 他（消化器外科）
	3 重粒子線照射の免疫学的影響に関する検討	氷室秀知、笹田哲朗、紅露 拓、魏 菲菲、辻 嘉代子、駒橋 充（がん免疫療法研究開発学部）、加藤弘之、吉田大作 他（放射線治療科）

第2節 研 究 業 績

がん生物学部

① 発表論文

1. Suganuma N*, Saito N*, Yasukawa M, Yamanaka T, Yamashita T, Miyagi Y, Saito A and Hoshino D. Anti Cancer Res, 2024
2. Suganuma N, Matsubara Y, Takahashi A, Yamanaka T, Yamashita T, Yoshioka E, Kawachi K, Yokose T, Narimatsu H, Hoshino D, Miyagi Y, Saito A. Anti Cancer Res, 2024
3. Ota Y, Uomoto M, Koizume S, Sato S, Hoshino D, Yoshihara M, Nakamura Y, Tadokoro H, Myoba S, Ohtake N, Miyagi E, Miyagi Y. BBRC, 2024
4. Miyazaki K, Hoshino D, Kasajima R, Koizume S, Koshikawa N, Miyagi Y. ECR, 2024
5. Toda S, Saito N, Kadoya M, Okubo Y, Yamazaki H, Suganuma N, Iwasaki H, Masudo K, Hoshino D. Anti Cancer Res, 2024
6. Kouro T, Higashijima N, Horaguchi S, Mano Y, Kasajima R, Xiang H, Fujimoto Y, Kishi H, Hamana H, Hoshino D, Himuro H, Matsuura R, Tsuji S, Imai K and Sasada T. Int J Cancer, 2024
7. Sekihara K, Himuro H, Toda S, Saito N, Hirayama R, Suganuma N, Sasada T, Hoshino D. Biomedicine, 2024
8. 星野大輔, 齋藤菜緒：第2節 難治がん検体由来完全型シングルセルオルガノイドの培養技術，オルガノイド研究—培養・作製，活用，臨床応用 谷口英樹監修 エヌ・ティール・エス 2024

② 学会等発表

1. 関原和正，氷室秀知，平山亮一，笹田哲朗，星野大輔。甲状腺未分化がんにおける重粒子線治療の有効性。第61回日本放射線腫瘍学会生物部会学術大会。5/2024
2. 関原和正，氷室秀知，平山亮一，笹田哲朗，星野大輔。重粒子線照射は甲状腺未分化がん細胞の増殖および遊走を抑制する。第33回日本がん転移学会学術集会・総会。6/2024
3. Kazumasa Sekihara, Hidetomo Himuro, Ryoichi Hirayama, Tetsuro Sasada, Daisuke Hoshino. A Novel Therapeutic Strategy for ATC: Carbon Ion Radiation Therapy Combined with Targeted Agents. The 48th European Radiation Research Society Annual Meeting. Aveiro, Portugal. 9/2024
4. 関原和正，氷室秀知，笹田哲朗，星野大輔。放射線単独および分子標的薬との併用療法は甲状腺未分化がん細胞を効果的に殺傷する。第83回日本癌学会学術総会。9/2024
5. 氷室秀知，関原和正，紅露 拓，魏 菲菲，辻 嘉代

子，駒橋 充，星野大輔，笹田哲朗。ヒト末梢血単核細胞に対する重粒子線とX線の及ぼす影響の比較検討。日本放射線腫瘍学会第37回学術大会。11/2024

6. 齋藤菜緒，戸田宗治，笠島理加，益戸功彦，星野大輔。第83回日本癌学会学術総会。9/2024
7. 齋藤菜緒，戸田宗治，笠島理加，益戸功彦，星野大輔。第33回日本がん転移学会学術集会・総会。6/2024

がん分子病態学部

① 発表論文

1. Washimi K, Kasajima R, Sato S, Nezu Y, Takahashi H, Sakai R, Nakamura N, Takagi M, Hasegawa C, Yoshioka E, Okubo Y, Katayama K, Imoto S, Yokose T, Miyagi Y. Chemokine Expression in Well-Differentiated Liposarcoma May Be Involved in the Tumorigenesis of Lymphoplasmacytic Lymphoma: A Case Study. Cancer Rep (Hoboken) 8(2): e70129, 2025 (Published 2025 Feb)
2. Okazaki H, Mezawa Y, Shi Y, Sakimoto M, Wang Z, Ishizuka A, Yamashita K, Satoh A, Koyama Y, Fukumura Y, Kajino K, Takano A, Yokose T, Yamashita T, Miyagi Y, Daigo Y, Katakura A, Yasukawa T, Orimo A. Expression of Lymphoid Enhancer-Binding Factor 1 in Cancer-Associated Fibroblasts Mediates Tumor Growth and Transdifferentiation Toward Squamous Cell Carcinoma in Human Breast Cancer. Cancer Med 14(3): e70627, 2025 (Published 2025 Feb)
3. Nagasaka H, Sato S, Suzuki A, Terao H, Nakamura Y, Yoshihara M, Okubo Y, Washimi K, Yokose T, Kishida T, Miyagi Y. Clinicopathological Significance of Extranodal Adipose Tissue Invasion in Metastatic Lymph Nodes in Patients With Prostate Cancer. Prostate 85(3): 283-293, 2025 (Published 2025 Feb)
4. Tadokoro H, Ota Y, Uomoto M, Koizume S, Sato S, Nakamura Y, Yoshihara M, Endo-Takahashi Y, Negishi Y, Miyagi E, Miyagi Y. A mouse model of deep vein thrombosis by inferior vena cava hypoperfusion using ameroid constrictors. Sci Rep 15(1): 928, 2024 (Published 2025 Jan 6)
5. Takeuchi K, Tabe S, Yamamoto Y, Takahashi K, Matsuo M, Ueno Y, Ohtsuka M, Morinaga S, Miyagi Y, Yamaguchi T, Tanimizu N, Taniguchi H. Protocol for generating a pancreatic cancer organoid associated with heterogeneous tumor microenvironment. STAR Protoc 6(1): 103539, 2025 (Published 2025 Jan 7)
6. Hibino Y, Sakai R, Takahashi H, Takeda T, Hirose

- N, Tokunaga M, Washimi K, Yokose T, **Kasajima R**, Hiroshima Y, **Miyagi Y**, Nakajima H. Efficacy of Combined Encorafenib and Binimetinib Treatment for Erdheim-Chester Disease Harboring Concurrent BRAFV600E and KRASG12R Mutations: A Case Report. *Cancer Rep (Hoboken)* 7(12):e70093, 2024. (Published 2024 Dec)
7. Nakajima T, Nakatani Y, **Kasajima R**, Nakazato Y, Aruga T, Tokuyama W, **Miyagi Y**, Chida M. Placental transmogrification of the lung in AKT 1 -related Proteus syndrome. *ERJ Open Research*: 00776-2024. (Early View 2024 Nov)
 8. Suganuma N, Saito N, Yasukawa M, Yamanaka T, Yamashita T, **Miyagi Y**, Saito A, Hoshino D. Exposure to Hypoxic Conditions Up-regulates HER2 in Breast Cancer Cell Lines. *Anticancer Res* 44(12): 5187-5192, 2024. (Published 2024 Dec)
 9. **Xiang H**, **Kasajima R**, Azuma K, Tagami T, Hagiwara A, Nakahara Y, Saito H, Igarashi Y, Wei F, Ban T, **Yoshihara M**, **Nakamura Y**, **Sato S**, **Koizume S**, Tamura T, Sasada T, **Miyagi Y**. Multi-omics analysis-based clinical and functional significance of a novel prognostic and immunotherapeutic gene signature derived from amino acid metabolism pathways in lung adenocarcinoma. *Front Immunol* 15: 1361992, 2024. (Published 2024 Dec 13)
 10. Suganuma N, Matsubara Y, Takahashi A, Yamanaka T, Yamashita T, Yoshioka E, Kawachi K, Yokose T, Narimatsu H, Hoshino D, **Miyagi Y**, Saito A. Impact of Warm Ischemia Time on HER2 Expression in Breast Cancer Surgical Specimens. *Anticancer Res* 44(12):5225-5230, 2024. (Published 2024 Dec)
 11. Blechter B, Hsiung CA, Wang X, Zhang H, Seow WJ, Shi J, Chatterjee N, Kim HN, Wong MP, Hong YC, Wong JY, Dai J, Hosgood HD, Wang Z, Chang IS, Choi J, Wang J, Song M, Hu W, Zheng W, Kim JH, Zhou B, Albanes D, Shin MH, Chung LP, An SJ, Zheng H, Yatabe Y, Zhang XC, Kim YT, Shu XO, Kim YC, Vermeulen RCH, Bassig BA, Chang J, Man Ho JC, Ji BT, Kubo M, Daigo Y, Momozawa Y, Kamatani Y, Honda T, Kunitoh H, Watanabe SI, **Miyagi Y** (the 45th author out of 152), Nakayama H, Matsumoto S, Tsuboi M, Goto K, Yin Z, Takahashi A, Goto A, Minamiya Y, Shimizu K, Tanaka K, Wu T, Wei F, Su J, Kim YH, Oh IJ, Fun Lee VH, Su WC, Chen YM, Chang GC, Chen KY, Huang MS, Lin HC, Seow A, Park JY, Kweon SS, Chen CJ, Gao YT, Wu C, Qian B, Lu D, Liu J, Jeon HS, Hsiao CF, Sung JS, Tsai YH, Jung YJ, Guo H, Hu Z, Chen TY, Burdett L, Yeager M, Hutchinson A, Berndt SI, Wu W, Wang J, Choi JE, Park KH, Sung SW, Liu L, Kang CH, Chen CH, Xu J, Guan P, Tan W, Wang CL, Loon Sihoe AD, Chen Y, Choi YY, Kim JS, Yoon HI, Cai Q, Park IK, Xu P, He Q, Chen CY, Wu J, Lim WY, Chen KC, Chan JKC, Li J, Chen H, Yu CJ, Jin L, Fraumeni JF Jr, Liu J, Landi MT, Yamaji T, Yang Y, Hicks B, Wyatt K, Li SA, Ma H, Song B, Wang Z, Cheng S, Li X, Ren Y, Iwasaki M, Zhu J, Jiang G, Fei K, Wu G, Chien LH, Tsai FY, Yu J, Stevens VL, Yang PC, Lin D, Chen K, Wu YL, Matsuo K, Rothman N, Shiraishi K, Shen H, Chanock SJ, Kohno T, Lan Q. Polygenic risk score and lung adenocarcinoma risk among never-smokers by EGFR mutation status-a brief report. *J Thorac Oncol* S1556-0864(24) 02482-1, 2024. (Published 2024 Nov 22)
 12. Okubo Y, Toyama N, **Kasajima R**, Toda S, Hayashi H, Yoshioka E, Washimi K, Sato S, Hiroshima Y, Hasegawa C, Yuguchi S, Kadoya M, Narimatsu H, Masudo K, Iwasaki H, Yokose T, **Miyagi Y**. Effective Preparation of FFPE Tissue Samples for Preserving Appropriate Nucleic Acid Quality for Genomic Analysis in Thyroid Carcinoma. *Endocr Pathol* 35(4): 372-384, 2024 (Published 2024 Dec)
 13. Oshima T, Yoshikawa T, **Miyagi Y**, Morita S, Yamamoto M, Tanabe K, Nishikawa K, Ito Y, Matsui T, Kimura Y, Aoyama T, Ogata T, Cho H, Tsuburaya A, Sakamoto J. Biomarker Study for Selecting Neoadjuvant Chemotherapy Regimens Based on Prognostic Prediction Using Gastric Cancer Biopsy Specimens from a Phase II Randomized Controlled Trial. *Anticancer Res* 44(11): 4951-4960, 2024. (Published 2024 Nov)
 14. Homma S, Ogasawara T, Suga M, **Nakamura Y**, Takenaka K, Marshall S, Kawauchi K, Mori N, Kuroda H, Nakamura N, **Miyagi Y**, Masunaga A. Triple immunostaining demonstrates the possible existence of segregated-nucleus-containing atypical monocytes in human primary myelofibrosis bone marrow: a case report. *J Med Case Rep* 18(1): 510, 2024. (Published 2024 Oct 30)
 15. Hirahara Y, Shimizu K, Yamasaki S, Iyoda T, Ueda S, **Sato S**, Harada J, Saji H, Fujii S, **Miyagi Y**, Miyagi E, Fujii SI. Crucial immunological roles of the invasion front in innate and adaptive immunity in cervical cancer. *Br J Cancer* 131(11): 1762-1774, 2024 (Published 2024 Dec)
 16. **Ota Y**, **Uomoto M**, **Koizume S**, **Sato S**, Hoshino D, **Yoshihara M**, **Nakamura Y**, **Tadokoro H**, Myoba S, Ohtake N, Miyagi E, **Miyagi Y**. Tissue factor pathway inhibitor-2 inhibits integrin β 1 activation and focal adhesion formation and suppresses peritoneal ovarian

- cancer dissemination in mice. *Biochem Biophys Res Commun* 736: 150890, 2024. (Published 2024 Dec 3)
17. Miwa M, Kitagawa M, Asami Y, Kobayashi-Kato M, Watanabe T, Ogasawara A, Hiranuma K, Kato H, Saito M, Miyagi Y, Kato T, Yoshida H, Momozawa Y, Kohno T, Shiraishi K, Hasegawa K. Prevalence and outcomes of germline pathogenic variants of homologous recombination repair genes in ovarian cancer. *Cancer Sci* 115(12): 3952-3962, 2024. (Published 2024 Dec)
 18. Oshima T, Hashimoto I, Hiroshima Y, Kimura Y, Tanabe M, Nakayama Y, Nagasawa S, Kanematsu K, Aoyama T, Yamada T, Ogata T, Miyagi Y. Clinical Significance of Granzyme B Gene Expression in Pathological Stage II/III Gastric Cancer After Curative Gastrectomy. *Anticancer Res* 44(10):4537-4542, 2024. (Published 2024 Oct)
 19. Oshima T, Hashimoto I, Hiroshima Y, Kimura Y, Tanabe M, Nakayama Y, Nagasawa S, Kanematsu K, Aoyama T, Yamada T, Ogata T, Miyagi Y. Clinical Significance of HRNR Expression in Patients With Stage II/III Gastric Cancer After Curative Gastrectomy. *Anticancer Res* 44(10): 4579-4584, 2024. (Published 2024 Oct)
 20. Tabe S, Takeuchi K, Aoshima K, Okumura A, Yamamoto Y, Yanagisawa K, Eto R, Matsuo M, Ueno Y, Konishi T, Furukawa Y, Yamaguchi K, Morinaga S, Miyagi Y, Ohtsuka M, Tanimizu N, Taniguchi H. A pancreatic cancer organoid incorporating macrophages reveals the correlation between the diversity of tumor-associated macrophages and cancer cell survival. *Biomaterials* 314: 122838. (Published 2025 Mar)
 21. Suzuki A, Sato S, Nakaigawa N, Kishida T, Miyagi Y. Combination of Blood Adiponectin and Leptin Levels Is a Predictor of Biochemical Recurrence in Prostate Cancer Invading the Surrounding Adipose Tissue. *Int J Mol Sci* 25(16): 8970, 2024. (Published 2024 Aug 17)
 22. Horaguchi S, Nakahara Y, Igarashi Y, Kouro T, Wei F, Murotani K, Udagawa S, Higashijima N, Matsuo N, Murakami S, Kato T, Kondo T, Xiang H, Kasajima R, Himuro H, Tsuji K, Mano Y, Komahashi M, Miyagi Y, Saito H, Azuma K, Uehara S, Sasada T. Prognostic Significance of Plasma Neutrophil Extracellular Trap Levels in Patients with Non-Small Cell Lung Cancer Treated with Immune Checkpoint Inhibitors. *Biomedicine* 12(8): 1831, 2024. (Published 2024 Aug 17)
 23. Uomoto M, Ota Y, Suzuki Y, Yumori A, Narimatsu H, Koizume S, Sato S, Nakamura Y, Myoba S, Ohtake N, Saji H, Miyagi E, Miyagi Y. Tissue factor pathway inhibitor 2 as a serum biomarker for endometrial cancer: a single-center retrospective study. *BMC Cancer* 24(1): 1058, 2024. (Published 2024 Aug 27)
 24. Miyazaki K, Hoshino D, Kasajima R, Koizume S, Koshikawa N, Miyagi Y. Oncofetal morphogenesis similar to embryonic gut formation by a subpopulation of DLD-1 human colon cancer cells. *Exp Cell Res* 442(2): 114188, 2024. (Published 2024 Oct)
 25. Kasai F, Fukushima M, Miyagi Y, Nakamura Y. Genetic diversity among the present Japanese population: evidence from genotyping of human cell lines established in Japan. *Hum Cell* 37(4): 944-950, 2024 (Published 2024 Jul)
 26. Washimi K, Hiroshima Y, Sato S, Ueno M, Kobayashi S, Yamamoto N, Hasegawa C, Yoshioka E, Ono K, Okubo Y, Yokose T, Miyagi Y. Evaluation of pancreatic cancer specimens for comprehensive genomic profiling. *Pathol Int* 74(5): 252-261, 2024 (Published 2024 May)
 27. Okubo Y, Toda S, Kadoya M, Sato S, Yoshioka E, Hasegawa C, Ono K, Washimi K, Yokose T, Miyagi Y, Masudo K, Iwasaki H, Hayashi H. Clinicopathological analysis of thyroid carcinomas with the RET and NTRK fusion genes: characterization for genetic analysis. *Virchows Arch* 485(3): 509-518, 2024. (Published 2024 Sep)
 28. Mbugua RW, Takano A, Tsevegjav B, Yokose T, Yamashita T, Miyagi Y, Daigo Y. Characterization of KIF20B as a novel prognostic biomarker and therapeutic target for breast cancer. *Int J Oncol* 64(4): 43, 2024. (Published 2024 Apr)
 29. Shinjo K, Umehara T, Niwa H, Sato S, Katsushima K, Sato S, Wang X, Murofushi Y, Suzuki MM, Koyama H, Kondo Y. Novel pharmacologic inhibition of lysine-specific demethylase 1 as a potential therapeutic for glioblastoma. *Cancer Gene Ther* 31(12): 1884-1894. (Published 2024 Dec)
 30. Koro T, Higashijima N, Horaguchi S, Mano Y, Kasajima R, Xiang H, Fujimoto Y, Kishi H, Hamana H, Hoshino D, Himuro H, Matsuura R, Tsuji S, Imai K, Sasada T. Novel chimeric antigen receptor-expressing T cells targeting the malignant mesothelioma-specific antigen siaylated HEG1. *Int. J. Cancer* 154:1828-1841, 2024. (Published 2024 Jan)
 31. Koizume S, Takahashi T, Miyagi Y. Lipid droplets: a candidate new research field for epithelial ovarian cancer. *Front Pharmacol* 15: 1437161, 2024. (Published 2024 Jul)
- ②著書
1. 笠島理加. H-FLACの治療法探索に向けた遺伝子ネットワーク推定への取り組みと希少がんへの応用. 月刊「Precision Medicine」2025年3月号, 北隆館 (2025年2月25日)

2. 項 慧慧, 宮城洋平 アミノ酸代謝基礎に基づく肺腺がん患者の層別化. 月刊「Precision Medicine」2025年3月号, 北隆館 (2025年2月25日)

③学会等発表

1. Wataru Kawase, Yukihiro Hiroshima, Itaru Hashimoto, Shizune Onuma, Mitsuhiro Furuta, Nozomu Machida, Takashi Oshima, Yohei Miyagi. Identification of tumor-associated macrophages promoting early-stage metastasis during peritoneal dissemination in gastric cancer. AACR Annual Meeting 2024. Mar 22, 2024 (San Diego, USA)
2. Yukihiro Hiroshima, Wataru Kawase, Itaru Hashimoto, Shizune Onuma, Hayato Watanabe, Mitsuhiro Furuta, Takashi Oshima, Yohei Miyagi. Identifying potential therapeutic targets through gene expression analysis of peritoneal cavity cells in gastric cancer with peritoneal dissemination. Mar 22, 2024 (San Diego, USA)
3. Rosalynn M. Nazarian, Yohei Miyagi, Yukio Nakatani. Secrets in the Stroma: Dermal Interstitial Glycogenosis in Fibrofolliculoma. USCAP 114th Annual Meeting, Mar 22-27, 2025 (Boston, USA)
4. Hiroko Tadokoro, Yukihiro Ota, Mari Uomoto, Shiro Koizume, Shinya Sato, Yoshiyasu Nakamura, Mitsuyo Yoshihara, Yoko Endo-Takahashi, Yoichi Negisi, Etsuko Miyagi, Yohei Miyagi. GTH 2025 (The 69th Annual Meeting of the Society of Thrombosis and Haemostasis Research), Feb 18-21, 2025 (Lausanne, Switzerland)
5. Huihui Xiang, Rika Kasajima, Tetsuro Sasada, Yohei Miyagi. Implication of kynureninase expression in lung adenocarcinoma cells for progression of the tumor. The 83th Annual meeting of the Japanese Cancer Association. Fukuoka. 9/2024.
6. 平原裕也, 伊豫田智典, 清水佳奈子, 山崎 哲, 植田翔悟, 佐藤慎哉, 原田丈太郎, 佐治 晴哉, 藤井誠志, 宮城洋平, 宮城悦子, 藤井眞一郎. 子宮頸がん患者の腫瘍組織内自然免疫と獲得免疫. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024.
7. 笠島理加, 清水英悟, 廣島幸彦, 片山琴絵, 山口 類, 山口貴世志, 古川洋一, 宮野 悟, 井元清哉, 宮城洋平. ライブラリ作成可能 FFPE サンプルにおける質の悪い NGS データの評価と特徴. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024.
8. Shiro Koizume, Satoshi Kobayashi, Tomoko Takahashi, Makoto Ueno, Tomomi Hamaguchi, Yohei Miyagi. Importance of tissue factor on cancer-associated thromboembolism in pancreatic cancer patients. The 83th Annual meeting of the Japanese Cancer Association. Fukuoka. 9/2024.
9. 大津 敬, 笠島理加, 鷺見公太, 横瀬智之, 比留間

徹, 宮城洋平, 廣島幸彦. 脱分化型脂肪肉腫ゼノグラフトにおけるパルボシクリブ投与の効果. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024.

10. 田所弘子, 太田幸秀, 魚本真理, 小井詰史朗, 佐藤慎哉, 中村圭靖, 吉原光代, 高橋葉子, 根岸洋一, 宮城悦子, 宮城洋平. ノードマウスを用いたがん関連血栓症のための血流維持深部静脈血栓症モデル. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024.
11. 高野 淳, 宮城洋平, 醍醐弥太郎. 肺がんの新規バイオマーカー, 治療標的分子URST1の解析. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024.
12. 岡野泰子, 宮城洋平. 日本人集団における NRF2遺伝子多型と乳癌リスクの関係. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024.
13. 山道 岳, 加藤大悟, 王谷英達, 増永奈苗, 宮城洋平, 明庭昇平, 吉村明洋, 奥田洋平, 石津谷 祐, 林 拓自, 山本致之, 波多野浩士, 河嶋厚成, 島津研三, 植村元秀, 野々村祝夫. GDPPは骨転移診断における癌種横断的な新規血液バイオマーカーとなる. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024.
14. 魚本真理, 太田幸秀, 鈴木幸雄, 祐森明日菜, 佐治晴哉, 成松宏人, 佐藤慎哉, 小井詰史朗, 中村圭靖, 明庭昇平, 大竹則久, 宮城悦子, 宮城洋平. 子宮体癌における血清TFPI2 (組織因子経路インヒビター 2) と免疫組織学的検討: 単施設後方視的研究. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024.
15. 谷水直樹, 竹内健太, 田部俊輔, 山本祐也, 青嶋研治, 奥村 歩, 宮城洋平, 森永聡一郎, 山口貴世志, 古川洋一, 大塚将之, 谷口英樹. ヒトiPS細胞由来間質細胞を含む新規腺癌オルガノイドを用いた腺癌微小環境の再現. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024.
16. 佐藤慎哉, 宮城洋平. 形態学を基盤とした転移微小環境におけるがん・脂肪細胞相互作用の解析. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024.
17. 池田純子, 岡野和広, 藤井紳一郎, 中嶋祥人, 三澤恵子, 中江裕樹, 小林博幸, 根本鮎子, 服部功太郎, 竹内朋代, 宮城洋平, 松下一之, 森田瑞樹, 萩島創一, 峯岸直子, 森崎隆幸. 生体試料取扱者を対象としたバイオリポゾトリ技術管理士認定試験プログラムの開発. 第47回日本分子生物学会年会, 福岡, 11/2024.
18. 佐藤慎哉, 宮城洋平. 病理学的解析が明らかにする転移環境に局在する脂肪細胞の多面的ながん制御機構. 第113回日本病理学会総会, 名古屋, 3/2024.
19. 佐藤慎哉. 腹大動脈移植による新規骨転移マウスモデル作製と骨微小環境におけるがん・脂肪相互作用研究への応用. 第33回日本がん転移学会学術集会・総会, 奈良, 6/2024.
20. 鈴木敦人, 佐藤慎哉. 前立腺癌に対する脂肪細胞および脂肪分泌因子の果たす役割の多面的解析. 第83回日本癌学会総会, 福岡, 9/2024.

21. 佐藤慎哉. 脂肪細胞は局所性・全身性にホルモン依存性がんの進展に関与する. 第45回日本肥満学会・第42回日本肥満症治療学会学術集会, 横浜, 10/2024.
22. Taku Kouro, Yasunobu Mano, **Rika Kasajima**, Daisuke Hoshino, Shoutaro Tsuji, Kohzoh Imai and Tetsuro Sasada. Conversion of CD28 co-stimulatory domain to 4-1BB in self-activating CAR results in alteration of tonic signaling from NFAT to NFkB. 第28回日本がん免疫学会総会, 東京, 7/2024.
23. Mitsuru Komahashi, Shun Horaguchi, Taku Kouro, Kayoko Tsuji, **Rika Kasajima** and Tetsuro Sasada. Single cell immunoprofiling of tumor infiltrating T cells in renal cell carcinoma. 第28回日本がん免疫学会総会, 東京, 7/2024.

がん治療学部

①発表論文

1. Tokunaga M, Takahashi H, Hirose N, Hibino Y, Teranaka H, Washimi K, Okubo Y, **Hiroshima Y**, Tanaka M, Sakai R. SMARCA4-deficient epithelioid sarcoma revealed by comprehensive genomic profiling, leading to a notable response by nivolumab treatment. Int Cancer Conf J. 2024 Oct 17;14(1): 1-6. doi: 10.1007/s13691-024-00701-6. eCollection 2025 Jan. PMID: 39758797.
2. Hibino Y, Sakai R, Takahashi H, Takeda T, Hirose N, Tokunaga M, Washimi K, Yokose T, Kasajima R, **Hiroshima Y**, Miyagi Y, Nakajima H. Efficacy of Combined Encorafenib and Binimetinib Treatment for Erdheim-Chester Disease Harboring Concurrent BRAFV600E and KRASG12R Mutations: A Case Report. Cacer Reports. 2024 Dec; 7(12): e70093. doi: 10.1002/cnr.2.70093. PMID: 39724464. I
3. Sato A, Haneda E, **Hiroshima Y**, Narimatsu H. Preliminary Screening for Hereditary Breast and Ovarian Cancer Using an AI Chatbot as a Genetic Counselor: Clinical Study. J Med Internet Res. 2024 Nov 27; 26: e48914. doi: 10.2196/48914. PMID: 39602801.
4. Okubo Y, Toyama N, Kasajima R, Toda S, Hayashi H, Yoshioka E, Washimi K, Sato S, **Hiroshima Y**, Hasegawa C, Yuguchi S, Kadoya M, Narimatsu H, Masudo K, Iwasaki H, Yokose T, Miyagi Y. Effective Preparation of FFPE Tissue Samples for Preserving Appropriate Nucleic Acid Quality for Genomic Analysis in Thyroid Carcinoma. Endocr Pathol. 2024 Dec; 35(4): 372-384. doi: 10.1007/s12022-024-09838-9. Epub 2024 Nov 19. PMID: 39560912.
5. Oshima T, Hashimoto I, **Hiroshima Y**, Kimura Y, Tanabe M, Nakayama Y, Nagasawa S, Kanematsu K,

- Aoyama T, Yamada T, Ogata T, Miyagi Y. Clinical Significance of Granzyme B Gene Expression in Pathological Stage II / III Gastric Cancer After Curative Gastrectomy. Anticancer Res. 2024 Oct; 44(10): 4537-4542. doi: 10.21873/anticancer.17282. PMID: 39348967.
6. Oshima T, Hashimoto I, **Hiroshima Y**, Kimura Y, Tanabe M, Nakayama Y, Nagasawa S, Kanematsu K, Aoyama T, Yamada T, Ogata T, Miyagi Y. Clinical Significance of HRNR Expression in Patients With Stage II / III Gastric Cancer After Curative Gastrectomy. Anticancer Res. 2024 Oct; 44(10): 4579-4584. doi: 10.21873/anticancer.17287. PMID: 39348954.
7. Toda S, Iwasaki H, Okubo Y, Hayashi H, Kadoya M, Takahashi H, Yokose T, **Hiroshima Y**, Masudo K. The frequency of mutations in advanced thyroid cancer in Japan: a single-center study. Endocr J. 2024 Apr 17: dgae271. doi: 10.1210/clinem/dgae271. Online ahead of print. PMID: 38630010.
8. Kota Washimi, **Yukihiko Hiroshima**, Shinya Sato, Makoto Ueno, Satoshi Kobayashi, Naoto Yamamoto, Chie Hasegawa, Emi Yoshioka, Kyoko Ono, Yoichiro Okubo, Tomoyuki Yokose, Yohei Miyagi. Evaluation of pancreatic cancer specimens for comprehensive genomic profiling (CGP). Pathology International. 2024 May; 74(5): 252-261. doi: 10.1111/pin.13416.

①学会等発表

1. **Yukihiko Hiroshima**, **Wataru Kawase**, Itaru Hashimoto, Shizune Onuma, Hayato Watanabe, Mitsuhiro Furuta, Takashi Oshima, Yohei Miyagi. Identifying Potential Therapeutic Targets through Gene Expression Analysis of Peritoneal Cavity Cells in Gastric Cancer with Peritoneal Dissemination. AACR2024, San Diego, 4/2024.
2. **Wataru Kawase**, **Yukihiko Hiroshima**, Itaru Hashimoto, Shizune Onuma, Mitsuhiro Furuta, Nozomu Machida, Takashi Oshima, Yohei Miyagi. Identification of tumor-associated macrophages promoting early-stage metastasis during peritoneal dissemination in gastric cancer. AACR2024, San Diego, 4/2024.
3. Tomoki Sakakida, Toshiki Masuishi, Takatsugu Ogata, Keigo Komine, Takao Fujisawa, Yoshito Komatsu, Kan Yonemori, Satoshi Hamauchi, Takuma Onoe, Wataru Okamoto, Taito Esaki, Masako Asayama, Naohisa Yoshida, Shinya Kajiura, Ayako Doi, Tetsuhiko Taira, **Yukihiko Hiroshima**, Hiroya Taniguchi, Hidetoshi Hayashi, Kei Muro. A multicenter phase II basket study of brigatinib in patients with ALK fusion-positive solid tumors using a decentralized clinical trial platform (WJOG15221M/ALLBREAK). ASCO2024, Chicago, 6/2024.

4. 古田光寛, 廣島幸彦, 石川俊太郎, 大西美沙, 濱 崇哲, 中野間 紘, 高橋寛行, 塩月一生, 滝沢耕平, 古瀬純司, 町田 望. 実臨床における大腸がん遺伝子パネル検査の現状. 第101回大腸癌研究会, 名古屋, 7/2024
5. Rika Kasajima, Eigo Shimizu, Yukihiko Hiroshima, Kotoe Katayama, Rui Yamaguchi, Kiyoshi Yamaguchi, Yoichi Furukawa, Satoru Miyano, Seiya Imoto, Shinya Sato, Yohei Miyagi. Evaluation and characterization of poor quality NGS data for library preparable FFPE samples. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024.
6. Wataru Kawase, Yukihiko Hiroshima, Yayoi Kimura, Soji Toda, Takashi Oshima, Katsuhiko Masudo, Hiroyuki Iwasaki. Elucidation of epigenetic regulation by mutant p53 gain-of-function in anaplastic thyroid carcinoma. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024.
7. Takashi Ohtsu, Rika Kasajima, Kota Washimi, Tomoyuki Yokose, Yohei Miyagi, Toru Hiruma, Yukihiko Hiroshima. Pathophysiological analysis of cancer and evaluation of new therapies using cancer models. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024.
8. Tomoki Sakakida, Toshiki Masuishi, Takatsugu Ogata, Keigo Komine, Takao Fujisawa, Yoshito Komatsu, Kan Yonemori, Satoshi Hamauchi, Takuma Onoe, Wataru Okamoto, Taito Esaki, Masako Asayama, Naohisa Yoshida, Shinya Kajiura, Ayako Doi, Tetsuhiko Tair, Yukihiko Hiroshima, Hiroya Taniguchi, Hidetoshi Hayashi, Kei Muro. A multicenter phase II basket study of brigatinib in patients with ALK fusion-positive solid tumors using a decentralized clinical trial platform (WJOG15221M/ALLBREAK). ESMO2024, Barcelona, Spain, 10/2024.
9. Ann Sato, Eri Haneda, Yukihiko Hiroshima, Hiroto Narimatsu. Preliminary Screening for Hereditary Breast and Ovarian Cancer Using a Chatbot: Feasibility in Clinical Practice. 第69回日本人類遺伝学会, 札幌, 10/2024.
10. Soji Toda, Yukihiko Hiroshima, Mei Kadoya, Chihiro Suzuki, Haruhiko Yamazaki, Katsuhiko Masudo. Prognostic impact of gene alterations related to PI3K and cell cycle pathways in differentiated thyroid carcinoma. 第22回日本臨床腫瘍学会学術総会, 神戸, 3/2025.
11. 中野間 紘, 古田光寛, 廣島幸彦, 大西美沙, 濱 崇哲, 石川俊太郎, 塩月一生, 山田貴允, 尾形高士, 大島 貴, 滝沢耕平, 古瀬純司, 町田 望, 前田 慎. 実臨床における胃・食道胃接合部腺癌に対するがん遺伝子パネル検査の現状. 第97回日本胃癌学会総会, 名古屋, 3/2025.

①発表論文

1. Chei CL, Nakamura S, Watanabe K, Watanabe R, Kurokawa A, Iwane T, Itoh S, Narimatsu H. Projection of future gastric cancer incidence and health-care service demand by geographic area in Kanagawa, Japan. Cancer Sci. 2025; 116(2): 488-99. Epub 20241128.
2. Uomoto M, Ota Y, Suzuki Y, Yumori A, Narimatsu H, Koizume S, Sato S, Nakamura Y, Myoba S, Ohtake N, Saji H, Miyagi E, Miyagi Y. Tissue factor pathway inhibitor 2 as a serum biomarker for endometrial cancer: a single-center retrospective study. BMC Cancer. 2024; 24(1): 1058. Epub 20240827.
3. Tran QA, Nakamura S, Watanabe K, Chei CL, Narimatsu H. The relationship between loneliness and blood glucose: a cross-sectional survey among Japanese. BMC Res Notes. 2024; 17(1): 201. Epub 20240722.
4. Suganuma N, Matsubara Y, Takahashi A, Yamanaka T, Yamashita T, Yoshioka E, Kawachi K, Yokose T, Narimatsu H, Hoshino D, Miyagi Y, Saito A. Impact of Warm Ischemia Time on HER2 Expression in Breast Cancer Surgical Specimens. Anticancer Res. 2024; 44(12): 5225-30.
5. Sato A, Haneda E, Hiroshima Y, Narimatsu H. Preliminary Screening for Hereditary Breast and Ovarian Cancer Using an AI Chatbot as a Genetic Counselor: Clinical Study. J Med Internet Res. 2024; 26: e48914. Epub 20241127.
6. Sasahara Y, Takumoto Y, Watanabe K, Takeda H, Umemoto K, Sunakawa Y, Suzuki N, Yoshioka T, Kobayashi S, Ueno M, Nakamura S, Akazawa M, Narimatsu H. Quality-of-life survey of pancreatic cancer patients: a comparison between general public and physicians. Front Health Serv. 2024; 4: 1275496. Epub 20240712.
7. Saito Y, Nakamura S, Kasukawa T, Nagasawa M, Oguma Y, Narimatsu H. Efficacy of exercise with the hybrid assistive limb lumbar type on physical function in mobility-limited older adults: A 5-week randomized controlled trial. Exp Gerontol. 2024; 195: 112536. Epub 20240803.
8. Okubo Y, Toyama N, Kasajima R, Toda S, Hayashi H, Yoshioka E, Washimi K, Sato S, Hiroshima Y, Hasegawa C, Yuguchi S, Kadoya M, Narimatsu H, Masudo K, Iwasaki H, Yokose T, Miyagi Y. Effective Preparation of FFPE Tissue Samples for Preserving Appropriate Nucleic Acid Quality for Genomic Analysis in Thyroid Carcinoma. Endocr Pathol. 2024;

35(4): 372-84. Epub 20241119.

9. Okamoto M, Saito Y, Nakamura S, Nagasawa M, Shibuya M, Nagasaka G, Narimatsu H. Smartphone-Based Digital Peer Support for a Walking Intervention Among Public Officers in Kanagawa Prefecture: Single-Arm Pre- and Postintervention Evaluation. JMIR Form Res. 2024; 8: e53759. Epub 20240924.
10. Okamoto M, Matsumura K, Takahashi A, Kurokawa A, Watanabe Y, Narimatsu H, Yoshida H. The Association between Menstrual Symptoms and Presenteeism: A Cross-Sectional Study for Women Working in Central Tokyo. Int J Environ Res Public Health. 2024; 21(3). Epub 20240308.
11. Nishiyama M, Nakamura S, Matsuki T, Narimatsu H. Association between gut microbiota and locomotive syndrome risk in healthy Japanese adults: a cross-sectional study. NPJ Aging. 2024; 10(1): 55. Epub 20241125.
12. Nagasawa M, Nakamura S, Narimatsu H. Characteristics of the most viewed Hybrid Assistive Limb-related videos on YouTube. Health Informatics J. 2024; 30(1): 14604582241236697.
13. Matsuki T, Nakamura S, Nishiyama M, Narimatsu H. Holistic Evaluation of the Gut Microbiota through Data Envelopment Analysis: A Cross-Sectional Study. Curr Dev Nutr. 2024; 8(11):104469. Epub 20240927.
14. Chei CL, Nakamura S, Watanabe K, Mizutani T, Narimatsu H. Assessing the performance of chest x-ray screening in detecting early-stage lung cancer in the general population. Int J Cancer. 2024 Epub 20241230.
15. Isaka T, Nagashima T, Washimi K, Saito H, Narimatsu H, Shigefuku S, Kanno C, Matsuyama R, Shigeta N, Sueishi Y, Ito H. Comparison of the Changes in Visceral Adipose Tissue After Lobectomy and Segmentectomy for Patients With Early-Stage Lung Cancer. J Cachexia Sarcopenia Muscle. 2025; 16(2): e13751.
16. 成松宏人. 自分で自分の健康をデザインする社会を創る—ヘルスイノベーションの疫学—。ヒューマンサービス学会誌. 2024 ; 2 : 8-16.

②学会等発表

1. 木村香里, 四十谷美樹, 友澤周子, 平岡弓枝, 松川愛未, 成松宏人, 仁科智裕, 高橋直樹, 森實千種, 桑田健, 中村能章. BRACAnalysis受検者を対象とした研究コホートにおけるBRCA1/2検査結果に対する心理的影響. 第48回日本遺伝カウンセリング学会学術集会. 東京, 8/2024
2. Mari Uomoto, Yukihide Ota, Yukio Suzuki, Asuna Yumori, Hiroto Narimatsu, Shinya Sato, Yoshiyasu Nakamura, Shohei Myoba, Norihisa Ohtake, Etsuko

Miyagi, Yohei Miyagi. Serum tissue factor pathway inhibitor-2 and immunohistochemistry of endometrial cancer; a single center retrospective study. The 83th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. Tokyo, 9/2024

3. Yu Kubota, Ryu Kawai, Yasutake Tomata, Michiko Ikuta, Mika Kigawa, Shouji Hironaka, Hiroto Narimatsu. Smartphone addiction and oral health related quality of life in Japanese university students. The 83rd Annual Meeting of Japanese Society of Public Health. Sapporo, 10/2024
4. Ann Sato, Eri Haneda, Yukihiko Hiroshima, Hiroto Narimatsu. Preliminary Screening for Hereditary Breast and Ovarian Cancer Using a Chatbot: Feasibility in Clinical Practice. The 69th annual meeting of human genetics. Sapporo, 10/2024
5. Jun Kawai, Eri Haneda, Ann Sato, Masakazu Nishigaki, Hiroto Narimatsu. Health behavior following risk communication between hereditary breast and ovarian cancer patients and their relative. The 69th annual meeting of human genetics. Sapporo, 10/2024
6. Choy-Lye Chei, Sho Nakamura, Kaname Watanabe, Ryo Watanabe, Akio Kurokawa, Taizo Iwane, Sayaka Itoh, Hiroto Narimatsu. Future projection of healthcare service demand in gastric cancer patients. The 83rd Annual Meeting of Japanese Society of Public Health. Sapporo, 10/2024
7. 根岸紘生, 中藤 学, 門脇里恵, 河野紘己, 市川愛弓, 牧野聖也, 狩野 宏, 中村 翔, 成松宏人, 福田真嗣. 新型コロナウイルスワクチン抗原に対する免疫応答と特異的抗体価に影響を与える食習慣ならびに腸内環境の解析. 口演. 第78回 日本栄養・食糧学会大会. 福岡県福岡市, 5/2024
8. 中村 翔, 渡邊 要, 成松宏人. 健常人における動脈硬化性疾患リスクと腸内細菌叢の関連解明. 口演. 第83回 日本公衆衛生学会総会. 北海道札幌市, 10/2024
9. 高橋鴻志, 中村 翔, 小笠原 悠, 阪口昌彦, 渡邊 要, 成松宏人. がん検診事業の効率性に対する, 人口規模と高齢化率の影響; 包絡分析法による知見. 口演. 第83回 日本公衆衛生学会総会. 北海道札幌市, 10/2024
10. 岡本真澄, 成松宏人, 中村 翔. 歩行促進のためのデジタルピアサポート活用に向けた探索的研究. ポスター発表. ヘルスイノベーションカンファレンス殿町2025. 神奈川県川崎市, 2/2025

がん免疫療法研究開発学部

①発表論文

1. Kouro T, Higashijima N, Horaguchi S, Mano Y, Kasajima R, Xiang H, Fujimoto Y, Kishi H, Hamana

- H, Hoshino D, Himuro H, Matsuura R, Tsuji S, Imai K, **Sasada T**. Novel chimeric antigen receptor-expressing T cells targeting the malignant mesothelioma-specific antigen sialylated HEG1. *Int J Cancer*. 2024 May 15; 154(10): 1828-1841.
2. Nagasaka H, Kishida T, **Kouro T**, **Igarashi Y**, Takebe S, Yamamoto S, Kondo T, Koizumi M, Terao H, Suzuki T, Nakaigawa N, **Himuro H**, **Wei F**, **Sasada T**. MMP1, IL-1 β , sTNFR1, and IL-6 are prognostic factors for patients with unresectable or metastatic renal cell carcinoma treated with immune checkpoint inhibitors. *Int J Clin Oncol*. 2024 Jun; 29(6): 832-839.
 3. Sekihara K, **Himuro H**, Toda S, Saito N, Hirayama R, Suganuma N, **Sasada T**, Hoshino D. Recent Trends and Potential of Radiotherapy in the Treatment of Anaplastic Thyroid Cancer. *Biomedicines*. 2024 Jun 10; 12(6): 1286.
 4. **Horaguchi S**, Nakahara Y, **Igarashi Y**, **Kouro T**, **Wei F**, Murotani K, Udagawa S, **Higashijima N**, Matsuo N, Murakami S, Kato T, Kondo T, Xiang H, Kasajima R, **Himuro H**, **Tsuji K**, **Mano Y**, **Komahashi M**, Miyagi Y, Saito H, Azuma K, Uehara S, **Sasada T**. Prognostic Significance of Plasma Neutrophil Extracellular Trap Levels in Patients with Non-Small Cell Lung Cancer Treated with Immune Checkpoint Inhibitors. *Biomedicines*. 2024 Aug 12; 12(8): 1831.
 5. Murata D, Azuma K, Murotani K, Kawahara A, Nishii Y, Tokito T, **Sasada T**, Hoshino T. Characterization of pre- and on-treatment soluble immune mediators and the tumor microenvironment in NSCLC patients receiving PD-1/L1 inhibitor monotherapy. *Cancer Immunol Immunother*. 2024 Sep 5; 73(11): 214.
 6. Xiang H, Kasajima R, Azuma K, Tagami T, Hagiwara A, Nakahara Y, Saito H, **Igarashi Y**, **Wei F**, Ban T, Yoshihara M, Nakamura Y, Sato S, Koizume S, Tamura T, **Sasada T**, Miyagi Y. Multi-omics analysis-based clinical and functional significance of a novel prognostic and immunotherapeutic gene signature derived from amino acid metabolism pathways in lung adenocarcinoma. *Front Immunol*. 2024 Dec 13; 15: 1361992.
 7. Murata D, Azuma K, Nishii Y, Murotani K, Matama G, Kawahara A, Tokito T, **Sasada T**, Hoshino T. The Impacts of Active and Inactive Ghrelin on Cachexia and Immune Checkpoint Inhibitor Monotherapy in Patients with Non-small Cell Lung Cancer. *Chemotherapy*. 2025 Jan 22: 1-15.
 8. **Mano Y**, **Igarashi Y**, Komori K, Hashimoto I, Watanabe H, Takahashi K, Kano K, Fujikawa H, Yamada T, **Himuro H**, **Kouro T**, **Wei F**, **Tsuji K**, **Horaguchi S**, **Komahashi M**, Oshima T, **Sasada T**. Characteristics and clinical significance of immune cells in omental milky spots of patients with gastric cancer. *Front Immunol*. 2025 Jan 30; 16: 1521278.
 9. Qin XY, Shirakami Y, Honda M, Yeh SH, Numata K, Lai YY, Li CL, **Wei F**, Xu Y, Imai K, Takai K, Chuma M, Komatsu N, Furutani Y, Gailhouse L, Aikata H, Chayama K, Enomoto M, Tateishi R, Kawaguchi K, Yamashita T, Kaneko S, Nagaoka K, Tanaka M, Sasaki Y, Tanaka Y, Baba H, Miura K, Ochi S, Masaki T, Kojima S, Matsuura T, Shimizu M, Chen PJ, Moriwaki H, and Suzuki H. Serum MYCN as a predictive biomarker of prognosis and therapeutic response in the prevention of hepatocellular carcinoma recurrence. *Int J Cancer*. 2024 Aug 1; 155(3): 582-594.
- ②著書
1. **Wei F**, **Sasada T**. A novel machine learning post-processing filter for mass spectrometry-based immunopeptidomics leveraging retention time deviation and peptide physiochemical properties. *Methods in Molecular Biology Series: Immunoproteomics* (3rd Edition), Kelly Fulton (Editor), Humana New York (Springer Protocols), 2024, in press.
 2. **Wei F**, Tanokura M. Chapter 13: Changes in Coffee Beans during Roasting. *Coffee in Health and Disease Prevention* (2nd Edition), Victor R. Preedy (Editor), Academic Press, 2025, pp 125-138.
 3. **魏 菲菲**. 機械学習を用いた末梢血サイトカインシグネチャーに基づく非小細胞肺癌免疫治療効果の予測. 細胞科学研究財団助成研究報告集, 第9巻, 2024年, 13-27.
 4. **魏 菲菲**. HLA結合親和性, アリファチックインデックスおよび保持時間偏差を活用した機械学習フィルターを用いた質量分析に基づく腫瘍特異的抗原由来ペプチドの同定の向上. 細胞科学研究財団助成研究報告集, 第9巻, 2024年, 28-40.
- ③学会等発表
1. 関原和正, **氷室秀知**, 平山亮一, **笹田哲朗**, 星野大輔. 重粒子線照射は甲状腺未分化がん細胞の増殖および遊走を抑制する. 第33回日本がん転移学会学術集会・総会. 奈良, 6/2024
 2. 中村有子, 福田暁子, 中山 綾, 近岡洋子, **紅露 拓**, **辻 嘉代子**, **魏 菲菲**, **笹田哲朗**, 川村 猛. メラノーマ細胞株A375におけるHLA class I, II免疫ペプチドーム解析. 第72回質量分析総合討論会. つくば, 6/2024
 3. **氷室秀知**, **眞野恭伸**, **魏 菲菲**, **紅露 拓**, **神谷郁也**, **辻 嘉代子**, **駒橋 充**, **笹田哲朗**. 漢方方剤「通導散」のアプスコパル効果への影響についての検討. 第28回日本がん免疫学会総会. 東京, 7/2024

4. 魏 菲菲, 紅露 拓, 中村有子, 上田宏生, 氷室秀知, 辻 嘉代子, 駒橋 充, 川村 猛, 笹田哲朗. Improving the identification of tumor immunopeptides by Mass spectrometry. 第28回日本がん免疫学会総会. 東京, 7/2024
5. 駒橋 充, 洞口 俊, 紅露 拓, 辻 嘉代子, 笠島理加, 笹田哲朗. Single cell immunoprofiling of tumor infiltrating T cells in renal cell carcinoma. 第28 回日本がん免疫学会総会. 東京, 7/2024
6. 項 慧慧, 東 公一, 笠島理加, 笹田哲朗, 宮城洋平. 末梢血単核細胞における遺伝子発現ががん免疫チェックポイント阻害剤治療法の予後に与る影響. 第28回日本がん免疫学会総会. 東京, 7/2024
7. 紅露 拓, 眞野恭伸, 笠島理加, 星野大輔, 辻 祥太郎, 今井浩三, 笹田哲朗. Conversion of CD28 co-stimulatory domain to 4-1BB in self-activating CARresults in alteration of tonic signaling from NFAT to NF κ B. 第28回日本がん免疫学会総会. 東京, 7/2024
8. 項 慧慧, 笠島理加, 笹田哲朗, 宮城洋平. 肺腺がん細胞におけるキヌレニナーゼの発現は腫瘍の悪性を促進する. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024
9. 関原和正, 氷室秀知, 笹田哲朗, 星野大輔. 放射線単独および分子標的薬との併用療法は甲状腺未分化がん細胞を効果的に殺傷する. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024
10. 辻 嘉代子, 洞口 俊, 紅露 拓, 魏 菲菲, 氷室秀知, 駒橋 充, 佐藤慎哉, 星野大輔, 笹田哲朗. 腎がんオルガノイドを用いた腫瘍細胞とT細胞の反応の解析. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024
11. 駒橋 充, 洞口 俊, 紅露 拓, 辻 嘉代子, 笠島理加, 上原秀一郎, 笹田哲朗. 腎細胞がんにおける腫瘍浸潤T細胞の免疫プロファイリング. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024
12. 紅露 拓, 眞野恭伸, 笠島理加, 星野大輔, 辻 祥太郎, 今井浩三, 笹田哲朗. CAR共刺激ドメインが下流のシグナル伝達とCAR-T細胞の疲弊に及ぼす影響. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024
13. 氷室秀知, 眞野恭伸, 魏 菲菲, 神谷郁也, 紅露 拓, 辻 嘉代子, 駒橋 充, 笹田哲朗. アプスコパル効果対する漢方方剤「通導散」の影響. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024
14. 氷室秀知, 関原和正, 紅露 拓, 魏 菲菲, 辻 嘉代子, 駒橋 充, 星野大輔, 笹田哲朗. ヒト末梢血単核細胞に対する重粒子線とX線の及ぼす影響の比較検討. 日本放射線腫瘍学会第37回学術大会. 横浜, 11/2024
15. Kouro T, Komahashi M, Horaguchi S, Tsuji K, Kasajima R, Sasada T. Single cell immunoprofiling of tumor infiltrating T cells in renal cell carcinoma. 第53回日本免疫学会学術集会, 長崎, 12/2024

第3節 臨床研究所・病院共同研究一覧

	研 究 課 題	研 究 者 名	研 究 学 部
共同1	分子生物学的エビデンスに基づいた泌尿器科領域免疫複合療法の効果予測法の確立	鮎瀬知彦（泌尿器科） ほか7名	がん分子病態学部
共同2	ドセタキセルによる周術期化学療法の浮腫の調査	勝呂加奈子（看護局 外来）ほか17名	がん予防・情報学部
共同3	RBM10遺伝子変異とpN1-N2 EGFR遺伝子変異陽性肺腺癌の臨床病理学的関連性の検討	伊坂哲哉（呼吸器外科）ほか10名	がん治療学部
共同4	重粒子線とホウ素を用いた新たながん治療法の開発—実臨床に向けた様々なLETにおける殺細胞効果の変化の評価	高下啓明（放射線治療科）ほか5名	がん免疫療法研究開発学部
共同5	膵癌における術前化学療法と血栓症発症リスクに関する前向き研究	神谷真梨子（消化器外科（肝胆膵））ほか18名	がん分子病態学部
共同6	尿路上皮がんのオルガノイド樹立と免疫学的病態の解明	臼井公紹（泌尿器科） ほか6名	がん免疫療法研究開発学部
共同7	膵癌における腫瘍内マイクロバイオームの解析と治療における潜在的役割	村川正明（消化器外科（肝胆膵））ほか7名	がん治療学部
共同8	若年性甲状腺乳頭がんの遺伝子とオルガノイド解析	角谷芽依（内分泌外科）ほか4名	がん生物学部
共同9	レナリドミド、ポマリドミドにおける遠隔的な薬剤管理とIADLモニタリング 前方視的研究	高橋寛行（血液・腫瘍内科（腫瘍））ほか9名	がん予防・情報学部
共同10	乳がん患者の薬剤誘発間質性肺炎の原因遺伝子変異解析	藤原沙織（乳腺外科） ほか9名	がん生物学部
共同11	胃癌切除検体のTissue microarrayを用いたFGFR2bを含むバイオマーカーの検討	古田光寛（消化器内科消化科管）ほか5名	がん分子病態学部

第4節 その他の学術講演

氏 名	題 名	会 合 名	年月日	形式
〈がん生物学部〉 星野大輔	乳がん患者由来オルガノイドを用いたドラッグリポジションの検討	第6回 Y-BREATH, 横浜市大外科治療学部主催	2024年7月	講演
〈がん分子病態学部〉 宮城洋平	バイオバンク試料の質：1病院併設型バイオバンクの現状と課題	三重大学大学院セミナー	2024年12月	講演
〈がん分子病態学部〉 宮城洋平	生体試料・組織	日本生物資源産業利用協議会バイオメディカルセミナー	2024年11月	Web
〈がん分子病態学部〉 佐藤慎哉	「産学融合に適したバイオリソース利活用を目指す」ー神奈川県立がんセンター生体試料センターの取り組みー	第3回横濱がんセミナー	2024年12月	講演
〈がん分子病態学部〉 魚本真理、 佐藤慎哉、 宮城洋平	Tissue Factor Pathway Inhibitor 2の子宮体癌マーカーとしての有用性の検討	2024年度文部科学省学術変革領域研究先端モデル動物支援プラットフォーム若手支援技術講習会	2024年8月	講演
〈がん治療学部〉 廣島幸彦	がん遺伝子パネル検査の使いどころとGenMineTOPの位置づけ	第62回日本癌治療学会	2024年10月	イブニングセミナー
〈がん治療学部〉 廣島幸彦	CGP検査の現在と今後の展望	神奈川県病理医会例会	2024年7月	講演
〈がん治療学部〉 廣島幸彦	固形がん患者における初回治療時の包括的ゲノムプロファイル(CGP)検査の実現性と治療選択への有用性を評価する多施設共同前向き試験(NCCH1908:UPFRONT試験)	第22回日本臨床腫瘍学会学術総会	2025年3月	シンポジウム
〈がん治療学部〉 廣島幸彦	婦人科がん治療におけるゲノム医療UP to DATE	第9回先端医療セミナー	2024年8月	講演
〈がん治療学部〉 廣島幸彦	がんゲノム医療拠点病院としての取り組み～年間600件を超える検査の管理と県内均てん化のために必要なこと～	多地点合同メディカル・カンファレンス	2024年9月	講演
〈がん治療学部〉 廣島幸彦	がんゲノム医療UP to DATE	済生会横浜市東部病院・神奈川県立がんセンターがん診療合同勉強会	2025年3月	講演
〈がん治療学部〉 廣島幸彦	がんゲノム医療とは？～新時代のがん診療～	小田原市立病院 市民公開講座	2025年3月	講演
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	自分で自分の健康をデザインする社会を創るーヘルスイノベーションの疫学ー	第2回ヒューマンサービス学会学術集会	2024年11月	講演
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	ME-BYO Prospective Cohort Study -Novel approaches for Healthy Aging	West Pacific Rim Consortium on Healthy Aging 2024	2024年11月	講演

氏 名	題 名	会 合 名	年月日	形式
〈がん予防・情報学部〉 渡邉 要、 成松宏人	プライバシーを保護した分散データ統合システムを用いた大規模ながん検診精度管理の汎用的な利用に向けて	第44回 医療情報学連合大会（第25回日本医療情報学会学術大会）公募シンポジウム 5	2024年11月	シンポジウム
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科・イノベーション政策研究センターの取り組み	ヘルスイノベーション・カンファレンス殿町2025	2025年 2 月	講演
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	学会発表に必要な研究の技法	山形県酒田市	2024年 6, 7, 8, 9月	講演
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	シニアの健康・保健（未病）	シニア向けの講演会「シニアライフのキホンのキ」	2024年 8 月	講演
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	Intervention Cohort Study, Novel Approach for Health Innovation	Singapore-Kanagawa Research meeting on Healthy Longevity 2024	2024年 9 月	シンポジウム
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	未病改善を支える科学技術と専門家の力	ME-BYOサミット神奈川2024	2024年11月	モデレーター
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	サイエンスからの未病改善「未病指標」これからの展望 未病改善を支える科学技術と専門家の力	ME-BYOサミット神奈川2024	2024年11月	講演
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	AIを活用した遺伝カウンセリングシステム	木原財団 BIBLIOイベント「医療現場発 研究シーズピッチ ～医師と企業の出会いで拓く社会実装～」	2024年11月	講演
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	公衆衛生学の基礎 神奈川みらい未病コホート研究と未病指標	未病産業研究会「未病エビデンス講座」	2025年 1 月	講演
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	神奈川県地域がん登録データから 都市部の胃がんに対する医療サービスの需要は 今後増加することが予測されました		2024年12月	プレスリリース
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	AIを活用した遺伝性乳がん卵巣がん拾い上げシステムの実証に成功		2024年12月	プレスリリース
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	デジタルピアサポートの効果を確認		2024年10月	プレスリリース
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	ロボットによる介護予防プログラムの効果を明らかにしました～通常歩行速度が 33%増～		2024年 9 月	プレスリリース
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	遺伝学的に肥満リスクが高くても減量は可能～低糖質食事法とレジスタンス運動の効果を確認～		2024年 5 月	プレスリリース
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	女性向け個別化予防医療サービス開発に向けた共同研究の開始		2025年 2 月	プレスリリース
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	「KISTEC Innovation Hub 2023「未病」に科学技術イノベーションをおこします！」		2024年 5 月	動画公開

氏 名	題 名	会 合 名	年月日	形式
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	臨床研究所がん予防・情報学部の主催研究に係るPatient and Public Involving: PPI（医療研究開発における患者・市民参画）組織「神奈川県みらい未病コホート倶楽部」を新規立ち上げ		2025年 1 月	
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	東京新聞「再生細胞医療などで議論」		2025年 2 月	取材
〈がん免疫療法研究開発学部〉 笹田哲朗	がん免疫療法の現状と展望	神奈川県立がんセンター第11回 臨床腫瘍セミナー	2024年10月	講演
〈がん免疫療法研究開発学部〉 氷室秀知	神奈川がん教育外部講師育成WEBセミナー2024		2024年 10, 11月	Web
〈がん免疫療法研究開発学部〉 辻 嘉代子	免疫療法開発のためのがん細胞三次元培養	公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団主催BIBLIOイベント「医療現場発 研究シーズピッチ ～医師と企業の出会いで拓く社会実装～」	2024年12月	講演

第5節 公的研究費による研究一覧

1 厚生労働省・文部科学省

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：骨髄脂肪細胞由来アディポネクチンの癌抑制メカニズム解明と骨転移治療への応用（2023－2025年度）
研究分担者名(所属)：星野大輔（がん生物学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：Hippo経路とEMT経路を基軸とした甲状腺未分化癌の病態解明（2024－2026年度）
研究代表者名(所属)：星野大輔（がん生物学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（B）
課 題 名：甲状腺癌オルガノイドを用いた放射性ヨウ素治療抵抗性機序の解明（2023－2025年度）
研究分担者名(所属)：星野大輔（がん生物学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・若手研究
課 題 名：Ⅱ型子宮体癌モデル培養細胞株の創出と発癌および悪性化機序の解明（2022－2024年度）
研究代表者名(所属)：齋藤菜緒（がん生物学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：CXCL2依存性の腸脳相関を介した放射線治療効果増感についての検討（2023－2025年度）
研究分担者名(所属)：関原和正（がん生物学部）

研 究 費 名：科学研究費助成事業（科研費）基盤研究（C）
課 題 名：従来法とオルガノイド培養法の重粒子線による生物効果解析（2023－2025年度）
研究代表者名(所属)：関原和正（がん生物学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：オルガノイドを用いた甲状腺濾胞性腫瘍の良悪性鑑別法の開発（2023－2025年度）
研究分担者名(所属)：星野大輔（がん生物学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：卵巣癌マーカーTFPI2の遺伝子発現機構と血中濃度規定メカニズムの解明（2024－2027年度）
研究代表者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）
研究分担者名(所属)：笠島理加（がん分子病態学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：卵巣明細胞腺がんにて発現するICAM-1：アポトーシス抑制機構を含む全容の解明（2021－2023年度）
研究代表者名(所属)：小井詰史郎（がん分子病態学部）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：HFLACの有用な分子を抽出するためのネットワーク解析法の確立（2024－2027年度）
研究代表者名(所属)：笠島理加（がん分子病態学部）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・学術変革領域研究「学術研究支援基盤形成」
課 題 名：コホート・生体試料支援プラットフォーム（2022－2027年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：疾患モデルライブラリーを活用した悪性ラブドイド腫瘍の病態解析（2022－2024年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：MED12野生型の子宮筋腫に対する新規治療戦略の確立（2022－2024年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・若手研究
課 題 名：肺がん進行におけるキヌレニナーゼの役割解明と新規がん治療法開発（2022－2024年度）
研究代表者名(所属)：項 慧慧（がん分子病態学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：骨髄脂肪細胞由来アディポネクチンの癌制御メカニズム解明と骨転移治療への応用（2023－2025年度）
研究代表者名(所属)：佐藤慎哉（がん分子病態学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：エピゲノム解析を用いたサブタイプ別の膀胱癌－間質相互作用マスター制御因子の探索（2023－2025年度）
研究代表者名(所属)：廣島幸彦（がん治療学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・若手研究
課 題 名：脱分化型脂肪肉腫のクロマチン高次構造の解明と新規治療薬の開発（2023－2026年度）
研究代表者名(所属)：川瀬 航（がん治療学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：疾患モデルライブラリーを活用した悪性ラブドイド腫瘍の病態解析（2022－2024年度）
研究分担者名(所属)：大津 敬（がん治療学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・学術変革領域研究「学術研究支援基盤形成」
課 題 名：コホート・生体試料支援プラットフォーム（2022－2027年度）
研究分担者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（B）
課 題 名：心理的形質から全死亡に至る因果経路に関する網羅的メンデルランダム化研究（2022－2025年度）
研究分担者名(所属)：成松宏人、中村 翔（がん予防・情報学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（B）
課 題 名：AI Chatbot を活用したAI遺伝カウンセリングの開発（2023年度－2025年度）
研究代表者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）
研究分担者名(所属)：中村 翔（がん予防・情報学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・若手研究
課 題 名：がん患者および一般集団におけるがん受診遅延モデルの定量的評価（2023年度－2025年度）
研究代表者名(所属)：渡邊 要（がん予防・情報学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（B）
課 題 名：身体活動推進のための地域介入 多世代複合コホート研究の活用と政策展開（2023－2026年度）
研究分担者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・挑戦的研究（萌芽）
課 題 名：ペプチドミクス解析とシングルセルTCR解析を用いたネオアンチゲン同定法の確立（2023－2024年度）
研究代表者名(所属)：笹田哲朗（がん免疫療法研究開発学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：AIによるデータ駆動型がん免疫治療臨床効果予測プラットフォームの構築（2022－2024年度）
研究代表者名(所属)：魏 菲菲（がん免疫療法研究開発学部）
研究分担者名(所属)：笹田哲朗（がん免疫療法研究開発学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・若手研究
課 題 名：放射線誘発HIF依存microbiome変化による転移抑制とabscopal効果（2020－2024年度）
研究代表者名(所属)：氷室秀知（がん免疫療法研究開発学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：CXCL2依存性の腸脳相関を介した放射線治療効果増感についての検討（2023－2025年度）
研究代表者名(所属)：氷室秀知（がん免疫療法研究開発学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：従来法とオルガノイド培養法の重粒子線による生物効果解析（2023－2025年度）
研究分担者名(所属)：氷室秀知（がん免疫療法研究開発学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：シングルセル解析による新たなTCR-T細胞作製法の検討—個別化TCR-T細胞療法に向けて（2023－2025年度）
研究代表者名(所属)：紅露 拓（がん免疫療法研究開発学部）
研究分担者名(所属)：辻 嘉代子（がん免疫療法研究開発学部）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：腫瘍浸潤T細胞とオルガノイドを用いた腎がん免疫病態の解明（2023－2025年度）
研究代表者名(所属)：辻 嘉代子（がん免疫療法研究開発学部）

2 日本医療研究開発機構

研究費名：日本医療研究開発機構 革新的がん医療実用化研究事業
課題名：難治がんの治療経過に伴うゲノム病理情報のトラジェクトリ（2024－2025年度）
研究分担者名(所属)：佐藤慎哉（がん分子病態学部）

研究費名：日本医療研究開発機構 次世代がん医療加速化研究事業
課題名：新規細胞外マトリックス融合遺伝子産物を標的とした発がん、早期がんの血清診断バイオマーカーの開発（2022－2025年度）
研究分担者名(所属)：佐藤慎哉（がん分子病態学部）

研究費名：日本医療研究開発機構 次世代がん医療加速化研究事業
課題名：膀胱癌における腫瘍関連マクロファージのマスター転写因子を標的とした新規治療法への探索研究（2022－2024年度）
研究分担者名(所属)：廣島幸彦（がん治療学部）

研究費名：日本医療研究開発機構 革新的がん医療実用化研究事業
課題名：難治がんの治療経過に伴うゲノム病理情報のトラジェクトリ（2024－2025年度）
研究分担者名(所属)：廣島幸彦（がん治療学部）

研究費名：日本医療研究開発機構「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業
課題名：漢方方剤「通導散」の抗腫瘍免疫活性化による新規がん治療戦略の創出（2023－2024年度）
研究代表者名(所属)：氷室秀知（がん免疫療法研究開発学部）
研究分担者名(所属)：笹田哲朗（がん免疫療法研究開発学部）

3 その他

研究費名：公益財団法人放射線影響会 令和6年度放射線影響研究奨励助成金
研究代表者名(所属)：関原和正（がん生物学部）

研究費名：国立研究開発法人科学技術振興機構 JST共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）地域共創分野（2023年度－2024年度）
研究分担者名(所属)：成松宏人、中村 翔、岡本真澄（がん予防・情報学部）

研究費名：地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所 令和6年度科学技術イノベーション共創拠点推進事業 2024年度
課題名：介入実証コホートによるヘルスケアロボットの新たなヘルスケアにおける可能性の探索 ゲノムコホート研究を活用した隠れ心房細動の早期発見システムの実証研究
研究代表者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）
研究分担者名(所属)：渡邊 要、中村 翔（がん予防・情報学部）

研究費名：地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所 令和6年度科学技術イノベーション共創拠点推進事業 2024年度
課題名：遺伝子パネル検査を活用したオーダーメイドがん検診の開発
研究代表者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）
研究分担者名(所属)：渡邊 要、中村 翔（がん予防・情報学部）

研 究 費 名：地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所 令和6年度科学技術イノベーション共創拠点推進事業 2024年度

課 題 名：認知症未病改善のためのデータプラットフォーム構築に向けた実施可能性の探索

研究代表者名(所属)：成松宏人(がん予防・情報学部)

研究分担者名(所属)：渡邊 要、中村 翔、岡本真澄(がん予防・情報学部)

研 究 費 名：神奈川県委託事業 国保ヘルスアップ事業

研究代表者名(所属)：成松宏人(がん予防・情報学部)

研究分担者名(所属)：チェイ チョイライ、渡邊 要、中村 翔(がん予防・情報学部)

研 究 費 名：神奈川県委託事業 未病指標の精緻事業／未病指標の効果測定における活用実証業

研究代表者名(所属)：成松宏人(がん予防・情報学部)

研究分担者名(所属)：渡邊 要、中村 翔、チェイ チョイライ(がん予防・情報学部)

第6節 臨床研究所セミナー

千葉県がんセンター研究所交流イベント

演 題 名：「ゲノム異常と細胞形質に基づく子宮体癌の病態形成の理解」

演 者：河津正人(千葉県がんセンター研究所 細胞治療開発研究部 部長)

開催年月日：2024年12月5日(木)

第7節 県民のための公開行事

I 科学技術週間参加行事 第35回県民のための公開講演会

テーマ：『女性のがん～最新の話～』

日 時：令和6年4月18日（木曜日）13：30～16：00

場 所：関内ホール（小ホール）

演題と講師

1. 「検体を活用したがん研究の新たな展望 ～現在、そして未来の患者さんのために～」
臨床研究所がん生物学部 星野大輔
2. 「最近の乳がん治療の話 ～個々に適する乳がん診療に向けて 拡大と縮小～」
乳腺外科 合田杏子
3. 「令和時代の婦人科がん診療の深化 ～ゲノム診断から低侵襲手術まで～」
婦人科 佐治晴哉
来場者数：132人

II かながわサイエンスサマー2024参加行事

神奈川県では、未来を担う子どもたちに、科学の楽しさを知り、親しんでもらうため、夏休み期間から秋にかけて県内の科学館、大学、研究機関、企業等が開催する子ども向け科学関連のイベントを、「かながわサイエンスサマー」として実施しており、当研究所でも中学生・高校生を対象として科学教室を実施している。

「がん研究体験プログラム」

日 時：令和6年8月2日（金曜日）13：00～17：00

場 所：管理・研究棟 5F講堂および4F臨床研究所

参加者：中学生と高校生 29人

講 師：臨床研究所がん生物学部 部門長 星野大輔

内 容：がん研究の最前線について講義、顕微鏡を使用

したがん細胞やたんぱく質の観察、DNAの抽出、PCR法体験の実験を行った。

がん研究における基礎から最前線の講義を実施した。研究体験として、がん細胞の立体的構造やアクチンの動態を顕微鏡で観察した。また、ゲノムの抽出とPCR実験を行った。

III 横濱がんセミナー開催

（LiHubよこはま先端がん研究ユニット（東京科学大）と共催）

テーマ：「産学融合でがんバイオリソースを活かす！
ー バイオレポジトリ、ヒトがん組織由来モデルの利活用 ー」

日 時：令和6年12月19日（木曜日）15：30～18：00

場 所：TKPガーデンシティーPREMIUM横浜西口

演題と講師

1. 「産学融合に適したバイオリソース活用形態を目指す」ー神奈川県立がんセンター生体試料センターの取り組みー
生体試料センター 副センター長／臨床研究所形態情報解析室 室長 佐藤慎哉
2. 「京大病院クリニカルバイオリソースセンターにおける産 in 学 生体試料利活用モデル」
京都大学医学部附属病院クリニカルバイオリソースセンター 特任病院教授 田澤裕光
3. 「毒性病理学からみたがん研究の展望と課題」
国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 病理部 主任研究官 小川久美子
4. 「創薬のために知っておきたいこと」
東京大学 医学部附属病院 臨床研究ガバナンス部 特任教授 野中孝浩

第2章 病 院

第1節 研究課題一覧

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
呼 吸 器 内 科	1. 非小細胞肺癌完全切除例に対するMEDI4736アジュバント療法のプロスペクティブ二重盲検プラセボ対照ランダム化第Ⅲ相比較試験（クリニベース株式会社依頼の企業治験） 2. IB～ⅢA期非小細胞肺癌の完全切除患者を対象に、シスプラチンをベースとする術後補助化学療法を施行した後にatezolizumab（抗PD-L1抗体）の有効性及び安全性を支持療法と比較する、第Ⅲ相非盲検ランダム化試験（中外製薬株式会社依頼の企業治験） 3. 早期NSCLC患者を対象にニボルマブ及びイピリムマブあるいはニボルマブ及びプラチナダブレットによる化学療法とプラチナダブレットによる化学療法を比較するランダム化オープンラベル第Ⅲ相試験（ブリストルマイヤーズ・スクイブ株式会社依頼の企業治験） 4. 治療薬を検討可能な体細胞遺伝子変異が血液検体より検出された、進行又は転移性の非小細胞肺癌患者を対象とした様々な標的療法薬の有効性及び安全性を評価する第Ⅱ/Ⅲ相多施設共同試験（BFAST：BLOOD FIRST ASSAY SCREENING TRIAL）（中外製薬株式会社依頼の企業治験） 5. Ⅱ期、ⅢA期又はⅢB（T3-4N2）期の切除可能な非小細胞肺癌患者を対象とした術前補助療法／術後補助療法としてMK-3475併用又は非併用のプラチナ製剤併用化学療法を比較する無作為化二重盲検第Ⅲ相試験（KEYNOTE-671）（MSD株式会社依頼の企業治験） 6. AJCC/UICC第8版ステージⅡ-ⅢA及びⅢB（最大5cm超、リンパ説転移N2）非小細胞肺癌の完全切除を受けた成人患者を対象に術後補助療法としてカナキヌマブの投与をプラセボと比較し有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相、多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照試験（ノバルティスファーマ株式会社依頼の企業治験） 7. 治療歴を有するc-Met陽性非小細胞肺癌患者を対象としてTelisotuzumab Vedotin（ABBV-399）の安全性及び有効性を検討する第Ⅱ相非盲検試験（アッヴィ合同会社依頼の企業治験）	齋藤春洋，加藤晃史 近藤哲郎，村上修司， 片倉誠悟，伊藤宏之， 永島琢也，伊坂哲哉， 横瀬智之，小野響子， 宮城洋平 齋藤春洋，加藤晃史 近藤哲郎，村上修司， 片倉誠悟，伊藤宏之， 永島琢也，伊坂哲哉， 菊西啓雄，繁田奈央子， 横瀬智之，小野響子 伊藤宏之，永島琢也， 伊坂哲哉，齋藤春洋， 加藤晃史，近藤哲郎， 村上修司，片倉誠悟， 横瀬智之，小野響子， 近藤哲郎，齋藤春洋， 加藤晃史，近藤哲郎， 村上修司，片倉誠悟， 横瀬智之 加藤晃史，近藤哲郎， 村上修司，片倉誠悟， 伊藤宏之，永島琢也， 伊坂哲哉，菊西啓雄， 繁田奈央子，横瀬智之， 小野響子 加藤晃史，齋藤春洋， 近藤哲郎，村上修司， 片倉誠悟，横瀬智之， 小野響子，伊藤宏之， 伊坂哲哉，菊西啓雄， 繁田奈央子，横瀬智之， 小野響子 加藤晃史，齋藤春洋， 近藤哲郎，村上修司， 片倉誠悟，横瀬智之， 小野響子

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	8. 白金製剤を含む根治的化学放射線療法後に病勢進行が認められていない局所進行切除不能EGFR変異陽性非小細胞肺癌（ステージⅢ）患者を対象とした、維持療法としてのオシメルチニブの第Ⅲ相無作為化二重盲検プラセボ対照国際多施設共同試験（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験） 9. 進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+ペメトレキセド+アテゾリズマブ療法とカルボプラチン+ペメトレキセド+アテゾリズマブ+ペバシズマブ療法の多施設共同オープンラベル無作為化第Ⅲ相比較試験（医師主導治験） 10. 転移性非扁平上皮非小細胞肺癌の未治療患者を対象としたペムブロリズマブ+ペメトレキセド+プラチナ製剤（カルボプラチン又はシスプラチン）併用投与後のペムブロリズマブ+オラパリブ維持療法とペムブロリズマブ+ペメトレキセド維持療法を比較する第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験） 11. 転移性扁平上皮非小細胞肺癌の未治療患者を対象としたペムブロリズマブ+カルボプラチン／タキサン（パクリタキセル又はnab-パクリタキセル）併用投与後のペムブロリズマブ+オラパリブ維持療法併用投与とペムブロリズマブ単独投与を比較する第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験） 12. 完全切除、病理病期Ⅱ-ⅢA期のEGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対するプラチナ併用療法+アテゾリズマブ術後補助化学療法の有効性および安全性を探索する多施設共同第Ⅱ相試験（医師主導治験） 13. KRAS p.G12C変異を有する既治療の局所進行切除不能又は転移性NSCLC患者を対象としてAMG510をドセタキセルと比較する第Ⅲ相、多施設共同、ランダム化、非盲検、実薬対照試験（アムジェン株式会社依頼の企業治験） 14. 前治療歴がありCEACAM5陽性腫瘍を有する転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象にSAR408701をドセタキセルと比較する、ランダム化、非盲検、第Ⅲ相試験（サノフィ株式会社依頼の企業治験） 15. 進展型小細胞肺癌の未治療患者を対象にペバシズマブ + アテゾリズマブ + カルボプラチン又はシスプラチン+エトポシドの併用とプラセボ + アテゾリズマブ+カルボプラチン又はシスプラチン + エトポシドの併用を比較する第Ⅲ相二重盲検ランダム化試験（中外製薬株式会社依頼の企業治験） 16. 切除可能なⅡ～ⅢB期の非小細胞肺癌患者を対象に、術前補助療法として化学療法及びニボルマブ又はプラセボ投与後、外科的切除を施行後に術後補助療法としてニボルマブ又はプラセボを比較するランダム化二重盲検第Ⅲ相試験（ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社依頼の企業治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子, 吉田大作 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子, 近内勝幸, 森本 学, 上野 誠, 小林 智, 福島泰斗, 長島周平, 山近由衣, 戸塚雄一郎, 角田翔太郎 村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子 村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟 伊藤宏之, 永島琢也, 伊坂哲哉, 菊西啓雄, 繁田奈央子, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	17. 日本人非小細胞肺癌患者を対象とした経口EGFR/HER2阻害薬TAK-788の第1/2相試験（武田薬品工業株式会社依頼の企業治験） 18. 非切除ステージⅠ/Ⅱリンパ節転移陰性非小細胞肺癌患者の治療として、体幹部定位放射線治療（SBRT）とデュルバルマブを併用する第Ⅲ相無作為化プラセボ対照二重盲検国際多施設共同試験（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験） 19. 完全切除を行ったⅡ～Ⅲ期のNSCLC患者において術後補助療法としてデュルバルマブを白金製剤を含む化学療法と併用した場合の有効性を検討する第Ⅲ相無作為化プラセボ対照二重盲検多施設共同試験（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験） 20. 第1・2世代EGFR-TKI治療後、脳転移単独増悪（T790M変異陰性／不明）もしくは第1・2世代EGFR-TKI治療およびプラチナ治療後Systemic PD（T790M変異陰性）を示したEGFR変異陽性非小細胞肺癌患者に対するオシメルチニブを用いた第Ⅱ相試験（医師主導治験） 21. 切除不能な局所進行Ⅲ期非小細胞肺癌患者を対象にペムプロリズマブ（MK-3475）併用同時化学放射線療法後のペムプロリズマブとオラパリブの併用療法又はペムプロリズマブ単独療法を同時化学放射線療法後のデュルバルマブ単独療法と比較する第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験） 22. 手術及び根治的治療後に微小残存病変を認めたⅡ～Ⅲ期のNSCLC患者に対する治療としてデュルバルマブとプラセボを比較する第Ⅲ相無作為化プラセボ対照二重盲検多施設共同試験（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験） 23. 未治療の局所進行非小細胞肺癌（LA NSCLC）患者を対象とした、ニボルマブと同時化学放射線療法（CCRT）後のニボルマブとイピリムマブの併用投与、又はニボルマブとCCRT後のニボルマブの単独投与を、CCRT後のデュルバルマブの投与と比較するランダム化オープンラベル第Ⅲ相臨床試験（プリストル・マイヤーズスクイブ株式会社依頼の企業治験） 24. 上皮成長因子受容体（EGFR）変異陽性・切除可能非小細胞肺癌患者の術前補助療法におけるオシメルチニブ単剤又は化学療法との併用を標準化学療法単独と比較する第Ⅲ相無作為化多施設国際共同3群比較試験（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子 吉田大作, 加藤弘之, 溝口信貴, 高草木陽介, 土田圭祐, 阿武 和, 島 聖, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 伊藤宏之, 横瀬智之, 村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子, 伊藤宏之, 永島琢也, 伊坂哲哉, 菊西啓雄, 繁田奈央子 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子, 吉田大作, 土田圭祐 村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子, 伊藤宏之, 村上浩太郎, 三浦 隼, 伊坂哲哉, 菊西啓雄, 繁田奈央子 村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子, 吉田大作, 土田圭祐 村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子, 伊藤宏之, 村上浩太郎, 三浦 隼, 伊坂哲哉, 菊西啓雄, 繁田奈央子

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	25. 固形がん患者を対象とした E7389リボソーム製剤及びニボルマブ併用の非盲検第1b/2相試験（エーザイ株式会社依頼の企業治験）	大島 貴, 尾形高士, 山田貴允, 末松秀明, 橋本 至, 長澤伸介, 大沼静音, 町田 望, 古田光寛, 井口靖弘, 林 慧, 渡部 衛, 古澤享子, 濱口智美, 村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟
	26. 未治療の限局型小細胞肺癌（LS-SCLC）患者を対象に、ペムプロリズマブ（MK-3475）と同時化学放射線療法の併用療法後のペムプロリズマブとオラパリブ（MK-7339）の併用療法又はペムプロリズマブの単独療法を同時化学放射線療法の単独療法と比較する無作為化、プラセボ対照、二重盲検、第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験）	村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子, 吉田大作, 土田圭祐
	27. 血漿遊離DNAからRET融合遺伝子が検出された進行非小細胞肺癌に対するセルベルカチニブの多施設共同第Ⅱ相臨床試験（医師主導治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之
	28. 血漿遊離DNAからROS1融合遺伝子が検出された進行または再発非小細胞肺癌に対するエヌトレクチニブの多施設共同第Ⅱ相臨床試験（医師主導治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之
	29. 未治療のPD-L1陽性の転移性非小細胞肺癌患者を対象に、MK-7684及びMK-3475の配合剤（MK-7684A）をMK-3475単独療法と比較する多施設共同無作為化二重盲検第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験）	村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子
	30. ONO-4578第Ⅰ相試験 抗PD-(L)1抗体及びプラチナ製剤を含む併用療法に不応の進行又は再発の非小細胞肺癌患者を対象に、二次治療としてONO-4578、ONO-4538 並びに標準治療であるドセタキセル及びラムシルマブを併用する非盲検非対照試験（小野薬品工業株式会社依頼の企業治験）	齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之
	31. 進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にカルボプラチンの併用又は非併用下でDatopotamab Deruxtecan（Dato-DXd）とデュルバルマブの併用療法を検討する多施設共同非盲検2パート第Ib相試験（アストラゼネカ株式会社依頼の企業試験）	村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子
	32. オシメルチニブが無効となったEGFR変異局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としてアミバンタマブ及びlazertinibとプラチナ製剤を含む化学療法の併用とプラチナ製剤を含む化学療法を比較する第3相、非盲検、ランダム化試験（ヤンセンファーマ株式会社依頼の企業治験）	村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子
	33. EGFR遺伝子変異陽性の非小細胞肺癌患者における獲得耐性機構を標的とした第1/2相試験（メドベイス・ジャパン株式会社依頼の企業治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之
	34. ONO-7475 第Ⅰ相試験EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌を対象としたONO-7475 及びオシメルチニブの併用投与による非盲検非対照試験（小野薬品工業株式会社依頼の企業治験）	村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	35. PD-L1発現で選定された、未治療の局所進行、切除不能、又は遠隔転移を伴う非小細胞肺癌患者を対象に抗TIGIT抗体BGB-A1217とtislelizumabの併用をペムブロリズマブと比較する第3相無作為化二重盲検試験（Bei Gene社依頼の企業治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之
	36. EGFRエクソン20挿入変異を有する非小細胞肺癌患者を対象に一次治療としてTAK-788を投与したときの有効性をプラチナ製剤ベースの化学療法と比較する第3相多施設共同非盲検ランダム化試験（武田薬品工業株式会社依頼の企業治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之
	37. HER2エクソン19又は20変異を有する切除不能、局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象とした一時治療としてのトラスツズマブ デルクステカンの有効性及び安全性を評価する第Ⅲ相多施設共同無作為化非盲検試験（第一三共株式会社依頼の企業治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之
	38. KRAS G12C変異を有する進行性固形がん患者を対象としたJDQ443の非盲検, 多施設共同, 用量漸増, 第Ib/Ⅱ相試験（ノバルティスファーマ株式会社依頼の企業治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之
	39. LIBRETTO-432: IB-ⅢA期RET融合遺伝子陽性NSCLC患者を対象とした根治目的の局所療法後のアジュバント療法におけるセルベルカチニブの無作為化二重盲検プラセボ対照第Ⅲ相試験（日本イーライリリー株式会社依頼の企業治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 伊藤宏之, 村上浩太郎, 三浦 隼, 伊坂哲哉, 菊西啓雄, 繁田奈央子
	40. MK-3475の治験で治療中又はフォローアップ中の進行悪性腫瘍患者を対象に、長期の安全性及び有効性を評価する多施設共同非盲検第Ⅲ相継続試験（MSD株式会社依頼の企業治験）	村上修司, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 加藤晃史, 山田貴允
	41. 前治療歴を有するRET融合遺伝子陽性の非小細胞肺癌患者を対象としたPralsetinibの第Ⅱ相臨床試験（中外製薬株式会社）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之
	42. 既治療EGFR遺伝子変異陽性非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+ペメトレキセド+ペムブロリズマブ（MK-3475）+レンバチニブ（E7080/MK-7902）併用療法の第Ⅱ相試験（医師主導治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之
	43. RET融合遺伝子陽性転移性非小細胞肺癌の一次治療における、Pralsetinibと標準治療を比較する第Ⅲ相非盲検ランダム化試験（AcceleRET-Lung）（中外製薬株式会社依頼の企業治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之
	44. 白金製剤を含む根治的同時化学放射線療法の施行後に病勢進行が認められていない局所進行切除不能非小細胞肺癌（Ⅲ期）患者を対象として、デュルバルマブ+Domvanalimab（AB154）を投与する第Ⅲ相ランダム化二重盲検プラセボ対照国際多施設共同試験（PACIFIC-8）（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験）	村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 吉田大作, 高草木陽介, 溝口信貴, 土田圭祐, 横瀬智之, 小野響子
	45. 未治療の転移性非小細胞肺癌患者を対象に、MK-7684A + 化学療法をMK-3475 + 化学療法と比較する無作為化二重盲検第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験）	村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子
	46. 進展型小細胞肺癌の未治療患者を対象に、MK-7684Aとエトポシド及びプラチナ製剤併用投与後のMK-7684A投与を、アテゾリズマブとエトポシド及びプラチナ製剤併用投与後のアテゾリズマブ投与と比較する無作為化二重盲検第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験）	村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	47. Actionable遺伝子変異がなく、治療歴のないPD-L1高発現（TPSが50%以上）の進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としたDato-DXd及びペムブロリズマブ併用療法とペムブロリズマブ単剤療法を比較する無作為化非盲検第Ⅲ相試験（Tropion Lung08）（第一三共株式会社依頼の企業治験）	村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子
	48. 切除不能な局所進行Ⅲ期非小細胞肺癌患者を対象にMK-7684A（MK-7684とMK-3475の配合剤）併用同時化学放射線療法後のMK-7684A投与を同時化学放射線療法後のデュルバルマブ投与と比較する非盲検第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験）	村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子, 吉田大作, 土田圭祐
	49. EGFR遺伝子変異陽性の非小細胞肺癌患者を対象とした高選択的EGFR阻害剤BLU-701の第1/2相試験（ブループリントメディシNZ株式会社依頼の企業治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之
	50. 未治療進行再発肺扁平上皮がん患者を対象にペムブロリズマブ+パクリタキセル（アルブミン懸濁型）+カルボプラチン療法にウベニメクスを併用する第Ⅱ相試験（TORG2241）（医師主導治験）	齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟
	51. NRG1融合遺伝子を有する進行固形癌患者に対するアフアチニブマレイン酸塩（BIBW2992）のバスケット試験（医師主導治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子
	52. KRAS G12C遺伝子変異陽性の進行固形がん患者を対象にMK-1084単独投与及びMK-3475と併用投与した際の安全性、忍容性、薬物動態及び有効性を評価する多施設共同、非盲検、第Ⅰ相試験（大鵬薬品工業株式会社依頼の企業治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子
	53. 固形癌患者を対象とした安全性、忍容性及び有効性を評価するTAS-120（Futibatinib）/MK-3475（ペムブロリズマブ）併用療法の臨床第1b相試験（MSD株式会社依頼の企業治験）	町田 望, 井口靖弘, 古澤享子, 林 慧, 古田光寛, 渡部 衛, 濱口智美, 尾形高士, 大島 貴, 山田貴允, 長澤伸介, 末松秀明, 大沼静音, 橋本 至, 兼松恭平, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之
	54. 上皮成長因子受容体（EGFR）遺伝子変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象に、一次治療におけるプラチナ製剤+ペメトレキセドの併用又は非併用下でオシメルチニブの有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相非盲検無作為化試験（FLAURA2）（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子
	55. 治療歴のないEGFR遺伝子変異を有する転移性非小細胞肺癌患者を対象としてエルロチニブとラムシルマブの併用療法とエルロチニブとプラセボの併用療法とを比較する多施設共同無作為化二重盲検試験（日本イーライリリー株式会社依頼の企業治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 横瀬智之, 伊藤宏之
	56. ONO-4538 第Ⅲ相試験 非扁平上皮非小細胞肺癌に対する多施設共同二重盲検無作為化試験（小野薬品工業株式会社依頼の企業治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 横瀬智之, 伊藤宏之

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	57. 進行又は転移性RET融合遺伝子陽性非小細胞肺癌の初回治療として selpercatinib をベムプロリズマブ併用あり／なしの白金製剤及びペメトレキセド療法と比較する多施設共同・無作為化・非盲検第Ⅲ相試験（日本イーライリリー株式会社依頼の企業治験） 58. 前治療歴のある進展型小細胞肺癌（ES-SCLC）患者を対象とした、DS-7300a（B7-H3抗体薬物複合体）の多施設共同、ランダム化、非盲検、第2相試験（第一三共株式会社依頼の企業治験） 59. 切除不能な進行又は再発の固形がん患者を対象としたONO-7119の単剤投与並びにONO-7119及びONO-4538の併用投与の忍容性及び安全性を評価する第Ⅰ相非盲検非対照用量漸増及び拡大試験（小野薬品工業株式会社依頼の企業治験） 60. プログラム細胞死リガンド1で選択した未治療の局所進行／転移性非小細胞肺癌患者を対象とした新規複合免疫療法を評価する、マスタープロトコルを用いた第Ⅱ相、無作為化、非盲検、プラットフォーム試験（グラクソ・スミスクライン株式会社依頼の企業治験） 61. オシメルチニブ及び化学療法後に進行したEGFR遺伝子変異陽性進行又は転移性非小細胞肺癌患者におけるラゼルチニブ併用投与時のアミバンタマブ手動注入による皮下投与とアミバンタマブ静脈内投与又はOBDSを用いたアミバンタマブ自動注入による皮下投与とを比較する、第3相、非盲検、ランダム化試験（ヤンセンファーマ株式会社依頼の企業治験） 62. 悪性腫瘍患者を対象にバイオマーカーの状態及び試験参加の適格性を判定するマスタースクリーニング試験／局所進行切除不能Ⅲ期非小細胞肺癌患者を対象としたバイオマーカーのステータスに応じて選択されたコホートにおける複数の治療の有効性及び安全性を評価する第Ⅰ-Ⅲ相多施設共同試験（中外製薬株式会社依頼の企業治験） 63. 進行固形がん患者を対象としたAB122プラットフォーム試験（大鵬薬品工業株式会社依頼の企業治験） 64. A Phase Ⅲ, Randomised, Open-label, Multicentre, Global Study of Datopotamab Deruxtecan (Dato-DXd) in Combination With Durvalumab and Carboplatin Versus Pembrolizumab in Combination With Platinum-based Chemotherapy for the First-line Treatment of Patients With Locally Advanced or Metastatic NSCLC Without Actionable Genomic Alterations（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験）	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子 村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 上野 誠, 小林智, 福島泰斗, 戸塚雄一郎, 長島周平, 山近由衣, 角田翔太郎, 町田 望, 井口靖弘, 古田光寛, 林 慧, 渡部 衛, 古澤享子, 濱口智美 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	65. 同時放射線化学療法後に進行しなかった、局所進行、切除不能のPD-L1発現で選定された非小細胞肺癌患者を対象に、ociperlimab (BGB-A1217) + tislelizumab (BGB-A317) の併用投与とデュルバルマブの投与とを比較する第3相無作為化非盲検試験（ノバルティスファーマ株式会社依頼の企業治験） 66. GDF-15濃度上昇を認めるがん悪液質患者を対象に、ponsegromabの有効性、安全性および忍容性を検討する、任意の非盲検治療期間を設けた第2相、二重盲検、無作為化、プラセボ対照試験（ファイザー株式会社依頼の企業治験） 67. オシメルチニブ投与中に進行したEGFR変異陽性でMET過剰発現及び／又は増幅を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にsavolitinibとオシメルチニブの併用療法と白金製剤を含む2剤併用化学療法を比較する第Ⅲ相無作為化非盲検試験（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験） 68. Actionable 遺伝子変異がなく、治療歴のないPD-L1 TPS50%未満の進行又は転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象としたDatopotamab Deruxtecán (Dato-DXd) とペムブロリズマブの併用療法（プラチナ製剤化学療法との併用又は非併用）を検討する無作為化第Ⅲ相試験（TROPION-Lung07）（第一三共株式会社依頼の企業治験） 69. 抗PD-(L)1抗体療法及び白金製剤ベースの化学療法の実施中又は実施後に進行した、Actionable遺伝子変異のない進行性又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としてCeralasertib+デュルバルマブをドセタキセルと比較する、非盲検、無作為化、多施設共同第Ⅲ相試験（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験） 70. EGFR又はHER2変異を有する進行非小細胞肺癌（NSCLC）患者を対象としたBAY2927088の非盲検first in human試験（バイエル薬品工業株式会社依頼の企業治験） 71. 上皮成長因子受容体エクソン20挿入変異を伴う局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者に対する一次療法としてのFurmonertinibの有効性及び安全性をプラチナ製剤併用化学療法と比較検討する第Ⅲ相国際多施設共同無作為化非盲検試験（ArriVent BioPharma依頼の企業治験） 72. PD-L1陽性 [Tumor Proportion Score (TPS) ≥50%] の転移性非小細胞肺癌患者を対象に、1次治療としてペムブロリズマブ (MK-3475) + sacituzumab govitecan の併用療法をMK-3475単独療法と比較する非盲検多施設共同無作為化実薬対照第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験） 73. AdvanTIG-306：局所進行又は転移性非小細胞肺癌（NSCLC）患者の一次治療として、ociperlimab (WCD118/BGB-A1217)、チスレリズマブ (VDT482/BGB-A317)、及びプラチナダブレットの併用投与とプラセボ、ペムブロリズマブ、及びプラチナダブレットの併用投与の有効性及び安全性を比較し評価するランダム化、二重盲検、プラセボ対照、第Ⅲ相試験（ノバルティスファーマ株式会社依頼の企業治験）	村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子, 吉田大作, 高草木陽介, 溝口信貴, 土田圭祐, 佐久間藤子 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之 村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子 村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子 村上修司, 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	74. An Open label, Multicenter, Phase 1b/2a Study to Evaluate Efficacy, Safety, Tolerability, and Pharmacokinetics of the ATR inhibitor M1774 in Combination with Cemiplimab in Participants with Non-Squamous Non-Small Cell Lung Cancer that has Progressed on Prior Anti-PD-(L)1 and Platinum-based Therapies (ア) 抗PD-(L)1療法及びプラチナ製剤ベースの前治療で進行した非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に、セミプリマブ併用下のATR阻害剤M1774の有効性、安全性、忍容性及び薬物動態を評価する非盲検多施設共同第1b/2a相試験 (イ) (メルクバイオフーマ株式会社依頼の企業治験) 75. プラチナ製剤をベースとした一次化学療法後の再発小細胞肺癌患者を対象としてtarlatamabと標準治療を比較するランダム化、非盲検、第Ⅲ相試験 (アムジェン株式会社依頼の企業治験) 76. KRAS p.G12C変異陽性かつPD-L1陰性の臨床病期ⅢB/C又はⅣの非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に一次治療としてのソトラシブとプラチナダブレット併用療法の有効性をベムプロリズマブとプラチナダブレット併用療法と比較評価する第Ⅲ相、多施設共同、ランダム化、非盲検試験 (CodeBreak 202) (アムジェン株式会社依頼の企業治験) 77. 上皮成長因子受容体及び未分化リンパ腫キナーゼ遺伝子変異のない転移性非小細胞肺癌患者を対象とした一次治療としてのzimberelimab, domvanalimab及び化学療法併用とベムプロリズマブ及び化学療法併用とを比較評価するランダム化、非盲検、第3相試験 (大鵬薬品工業株式会社依頼の企業治験) 78. 進行固形がん患者を対象としたMK-2870単独療法及びベムプロリズマブ±化学療法との併用療法の第Ⅰ相試験 (MSD株式会社依頼の企業治験) 79. BeamionLUNG-2: HER2チロシンキナーゼドメイン変異を有する切除不能、局所進行又は転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に、一次治療としてのBI 1810631の経口投与を標準治療と比較評価する第Ⅲ相非盲検ランダム化実薬対照多施設共同試 (日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社依頼の企業治験) 80. KRAS G12C変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌治験参加者を対象に、PD-L1発現率が50%以上の患者に対する一次治療としてLY3537982とベムプロリズマブの併用療法をプラセボとベムプロリズマブの併用療法と比較する、又は、PD-L1発現にかかわらず、LY3537982とベムプロリズマブ、ペメトレキセド、プラチナ製剤の併用療法をプラセボとベムプロリズマブ、ペメトレキセド、プラチナ製剤の併用療法と比較する国際共同ピボタル試験-SUNRAY-01試験 (日本イーライリリー株式会社依頼の企業治験)	齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之 村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子 片倉誠悟, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 横瀬智之, 小野響子 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之 片倉誠悟, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 横瀬智之, 小野響子

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	81. A Phase III, Two-Arm, Parallel, Randomized, Multi-Center, Open-Label, Global Study to Determine the Efficacy of Volrustomig (MEDI5752) Plus Chemotherapy Versus Pembrolizumab Plus Chemotherapy for First-Line Treatment of Patients with Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer (mNSCLC) (ア) 転移性非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者の一次治療としての Volrustomig (MEDI5752) + 化学療法とペムブロリズマブ + 化学療法の有効性を比較する第Ⅲ相 2 群並行群間比較ランダム化国際多施設共同非盲検試験 (eVOLVE-Lung02) (アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験) 82. 同時化学放射線療法後に進行が認められない限局型小細胞肺癌 (LS-SCLC) 患者を対象としたタルラタマブ療法の第Ⅲ 相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同試験 (DeLLphi-306) (アムジェン株式会社依頼の企業治験) 83. チロシンキナーゼ阻害剤 (TKI) 未治療の局所進行又は転移性 ROSI融合遺伝子陽性非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者を対象とした Repotrectinib とクリゾチニブを比較するランダム化、非盲検、多施設共同第 3 相試験 (TRIDENT-3) (プリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社依頼の企業治験) 84. A Randomized, Multicenter, Open-label, Phase III Study of Lurbinectedin Single-Agent or Lurbinectedin in Combination with Irinotecan versus Investigator's Choice (Topotecan or Irinotecan) in Relapsed Small Cell Lung Cancer (SCLC) Patients (LAGOON Trial) (ア) 再発小細胞肺癌 (SCLC) 患者を対象とした、Lurbinectedin 単剤投与又は Lurbinectedin とイリノテカンの併用投与を、治験担当医師が選択したトポテカン又はイリノテカンの対照群と比較する無作為化、多施設共同、非盲検、第Ⅲ相試験 (LAGOON 試験) (Pharma Mar S.A. 依頼の企業治験) 85. 治療歴のある KRAS G12D 変異陽性の局所進行性又は転移性固形がん患者を対象とした ASP3082 の第 1 相試験 (アステラス製薬株式会社依頼の企業治験) 86. プラチナ製剤、エトポシド及びデュルバルマブ投与後の進展型小細胞肺癌患者を対象にタルラタマブとデュルバルマブの併用投与をデュルバルマブ単剤投与と比較する第Ⅲ相、非盲検、多施設共同、ランダム化試験 (DeLLphi-305) (アムジェン株式会社依頼の企業治験) 87. A randomized, phase 3, open-label study to evaluate SGN-B6A compared with docetaxel in adult subjects with previously treated non-small cell lung cancer (ア) 治療歴のある非小細胞肺癌成人患者を対象に、SGN-B6A をドセタキセルと比較評価する無作為化、第Ⅲ相、非盲検試験 (Seagen 社依頼の企業治験)	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之 村上修司, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 加藤晃史, 片倉誠悟, 横瀬智之, 小野響子 加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之 村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 鷺見公太, 大久保陽一郎, 吉岡恵美 上野 誠, 小林 智, 福島泰斗, 戸塚雄一郎, 濱口智美, 朝井靖二, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 町田 望, 古田光寛, 濱 崇哲, 大西美沙, 鷺見公太, 大久保陽一郎, 吉岡恵美 村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 田川雄斗, 鷺見公太 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 田川雄斗, 鷺見公太

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	88. LUNAR-2:転移性非小細胞肺癌に対する治療として腫瘍治療電場(TTフィールド:150kHz)とペムプロリズマブ及びプラチナ製剤ベースの化学療法との併用を検討するピボタル、無作為化、非盲検試験(ノボキア株式会社依頼の企業治験)	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 田川雄斗
	89. 前治療歴のあるEGFR 遺伝子変異陽性又はその他の遺伝子異常陽性の進行又は転移性非小細胞肺癌(非扁平上皮癌)を対象にMK-2870と化学療法(ドセタキセル又はペメトレキセド)を比較する無作為化、非盲検、第Ⅲ相試験(MSD株式会社依頼の企業治験)	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 田川雄斗, 鷺見公太
	90. 転移性扁平上皮非小細胞肺癌の一次治療における ivonescimab + 化学療法とペムプロリズマブ + 化学療法を比較する無作為化国際共同第Ⅲ相試験(Summit Therapeutics Sub, Inc. 依頼の企業治験)	齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 田川雄斗
	91. EGFR チロシンキナーゼ阻害剤による前治療中に疾患進行したEGFR 遺伝子変異陽性進行非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に、MK-2870とプラチナ製剤を含む2剤併用化学療法を比較する無作為化、非盲検、第Ⅲ相試験(MSD株式会社依頼の企業治験)	片倉誠悟, 齋藤春洋, 村上修司, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 田川雄斗, 鷺見公太
	92. 転移性扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に、一次治療としてペムプロリズマブ、カルボプラチン及びタキサン系薬剤(パクリタキセル又は nab-パクリタキセル)の併用投与後に維持療法としてMK-2870の併用又は非併用下でペムプロリズマブを投与する第Ⅲ相試験(MSD株式会社依頼の企業治験)	村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 田川雄斗, 鷺見公太
	93. A Phase III, Randomised, Open-label, Global Study of Adjuvant Datopotamab Deruxtecán (Dato-DXd) in Combination With Rilvegostomig or Rilvegostomig Monotherapy Versus Standard of Care, Following Complete Tumour Resection, in Participants With Stage I Adenocarcinoma Non-small Cell Lung Cancer who are ctDNA-positive or Have High-risk Pathological Features (TROPION-Lung12) (ア) ctDNA陽性又は高リスクの病理学的特徴を有するステージ I 非小細胞肺癌患者を対象に、腫瘍完全切除後の術後補助療法としてのダトポタマブ デルクステカン (Dato-DXd) とRilvegostomigの併用療法又はRilvegostomig単剤療法と標準治療を比較する第Ⅲ相非盲検ランダム化国際共同試験(TROPION-Lung12) (アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験)	伊藤宏之, 永島琢也, 伊坂哲哉, 菅野千晶, 松山遼太郎, 繁田奈央子, 鍋木結衣, 高田一樹, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 田川雄斗, 鷺見公太
	94. EGFR遺伝子変異陽性進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するゲフィチニブまたはオシメルチニブ単剤療法とゲフィチニブまたはオシメルチニブにシスプラチン+ペメトレキセドを途中挿入する治療とのランダム化比較試験(JCOG1404/WJOG8214L)	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 牛尾良太, 片倉誠悟, 品田佳那子, 成田篤哉
	95. 非小細胞肺癌に対するPD-1経路阻害薬の継続と休止に関するランダム化比較第Ⅲ相試験(JCOG1701)	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 田川雄斗
	96. 高齢者切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する低用量カルボプラチンを用いた化学放射線療法とカルボプラチン+アルブミン結合パクリタキセルを用いた化学放射線療法を比較するランダム化第Ⅲ相試験(JCOG1914)	村上修司, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 加藤晃史, 片倉誠悟, 吉田大作
	97. 進展型小細胞肺癌に対する胸部放射線療法の追加を検討するランダム化第Ⅲ相試験(JCOG2002)	村上修司, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 加藤晃史, 片倉誠悟, 田川雄斗, 吉田大作

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	98. 肺尖部胸壁浸潤癌に対する化学放射線療法後の術前後デュルバルマブもしくはデュルバルマブ維持療法を併用した集学的治療に関する単群検証的試験 (JCOG1807C)	伊藤宏之, 永島琢也, 菊西啓雄, 村上浩太郎, 伊坂哲哉, 三浦 準, 菅野千晶, 松山遼太郎, 繁田奈央子, 鍋木結衣, 高田一樹, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 田川雄斗
	99. 画像上診断困難な胸膜播種を有する臨床病期ⅣA期(cT1-2bN0-1M1a)非小細胞肺癌に対する原発巣切除追加の治療的意義を検証するランダム化比較第Ⅲ相試験 (JCOG2103)	伊藤宏之, 永島琢也, 菊西啓雄, 村上浩太郎, 伊坂哲哉, 三浦 準, 菅野千晶, 松山遼太郎, 繁田奈央子, 鍋木結衣, 高田一樹, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 田川雄斗
	100. 間質性肺炎を合併する非小細胞肺癌の二次治療におけるニボルマブ療法とS-1療法を比較するランダム化第Ⅲ相試験 (JCOG2302)	村上修司, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 片倉誠悟, 田川雄斗
	101. JCOG1404/WJOG8214Lにおけるオシメルチニブ・コホートの長期的転帰に関する観察研究 (JCOG1404A)	加藤晃史, 近藤哲郎
	102. JCOG-バイオバンク・ジャパン連携バイオバンク)	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟
	103. JCOG0202「限局型小細胞肺癌に対する、エトポシド+シスプラチン (EP) と胸部放射線多分割照射同時併用療法に引き続く、イリノテカン+シスプラチン (IP) とEPを比較する第Ⅲ 相試験」とJCOG1011「限局型小細胞肺癌に対するエトポシド+シスプラチン+加速過分割胸部放射線同時併用療法に引き続くCODE 療法とアムルピシン+シスプラチン療法のランダム化第Ⅱ相試験」の附随研究 (JCOG2401A)	加藤晃史, 村上修司
	104. Sensitizing EGFR uncommon mutation 陽性未治療非扁平上皮非小細胞肺癌に対するAfatinib とChemotherapy を比較する第Ⅲ相試験 (TORIG1834)	齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟
	105. 中枢神経系への転移を有するEGFR遺伝子変異陽性の患者でオシメルチニブが無効となった患者に対して、白金製剤+ペメトレキセドと白金製剤+ペメトレキセド+オシメルチニブの比較試験 (TORIG1938)	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟
	106. 上皮成長因子受容体 (EGFR) 遺伝子変異陽性非扁平上皮非小細胞肺癌の初回治療におけるアファチニブからオシメルチニブへの切替療法の無作為化第Ⅱ相試験 (TORIG1939)	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 田川雄斗
	107. アジア人の非小細胞肺癌における個別化医療の確立を目指した、遺伝子スクリーニングとモニタリングのための多施設共同前向き観察研究 (LC-SCRUM-Asia)	加藤晃史, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 田川雄斗

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	120. 根治照射可能な進行・再発非小細胞肺癌でPS2あるいは高齢者に対する低用量カルボプラチン連日と胸部放射線同時併用療法後、デュルバルマブ維持療法の第Ⅱ相試験 (NEJ039A)	近藤哲郎, 齋藤春洋, 加藤晃史, 村上修司, 片倉誠悟
	121. 75歳以上の未治療進行非小細胞肺癌患者における免疫療法併用化学療法の有効性と安全性を検討する多機関共同後ろ向き観察研究 (NEJ057)	齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟
	122. 限定型小細胞肺癌に対する予防的全脳照射による認知機能への影響を評価する前向き観察研究 (LOGIK1901)	齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟
	123. 腎機能低下進行非扁平上皮非小細胞肺癌を対象としたカルボプラチン+nab-パクリタキセル+アテゾリズマブ併用療法の第Ⅱ相試験 (LOGIK2002)	齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟
	124. 脳転移を有するALK陽性進行非小細胞肺癌に対するブリゲチニブの第Ⅱ相試験 (LOGIK2201)	近藤哲郎, 齋藤春洋, 加藤晃史, 村上修司, 片倉誠悟, 田川雄斗
	125. 進行肺大細胞神経内分泌癌に対するカルボプラチン+エトポシド+デュルバルマブ併用療法の第Ⅱ相試験 (LOGIK2401)	近藤哲郎, 齋藤春洋, 加藤晃史, 村上修司, 片倉誠悟
	126. 高齢者局所進行非小細胞肺癌に対するWeeklyカルボプラチンと胸部放射線同時併用化学療法の第Ⅱ相試験 (LOGIK1902)	齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 成田篤哉, 吉田大作
	127. 切除不能stageⅢ非小細胞肺癌患者における同時化学放射線療法後のデュルバルマブの長期安全性および有効性に関する観察研究 (AYAME-Study)	齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟
	128. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 (NSCLC) または進展型小細胞肺癌 (ED-SCLC) 患者に対するアテゾリズマブ併用療法の多施設共同前向き観察研究 (J-TAIL2)	近藤哲郎, 齋藤春洋, 加藤晃史, 村上修司, 片倉誠悟
	129. MET遺伝子変異陽性非小細胞肺癌を対象とした遺伝子パネル検査毎の検出感度に関する研究	村上修司, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 加藤晃史, 片倉誠悟
	130. 非小細胞肺癌を対象としたオンコマインDX Target TestマルチCDxシステムを用いた遺伝子パネル検査に関する研究	村上修司, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 加藤晃史, 片倉誠悟, 田川雄斗
	131. 進展型小細胞肺癌に対する薬物療法に関する多施設共同観察研究 (レトロスペクティブ)	齋藤春洋, 近藤哲郎, 加藤晃史, 村上修司, 片倉誠悟
	132. AmoyDx肺癌マルチ遺伝子PCRパネルの性能評価	村上修司, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 加藤晃史, 片倉誠悟
	133. 細胞診検体等を用いた高感度肺がんマルチ遺伝子NGSパネルの有用性の多機関検証試験 (cPANEL試験)	村上修司, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 加藤晃史, 片倉誠悟
	134. 無症候性脳転移を有するドライバー遺伝子変異陽性非扁平上皮非小細胞肺癌におけるチロシンキナーゼ単独療法と頭部放射線照射併用療法の有効性を比較する後ろ向き研究 (Dramatic Study)	村上修司, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 加藤晃史, 片倉誠悟

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	135. 70歳以上のEpidermal Growth Factor Receptoractivating mutation positive未治療進行・再発非小細胞肺癌に対するオシメルチニブの至適投与量に関する多施設共同研究 136. 切除後の非小細胞肺癌に対するアテゾリズマブ術後補助療法の多機関共同前向き観察研究 (J-CURE) 137. 限局型小細胞肺癌 (LS-SCLC) 患者の治療パターン及び予後に関するリアルワールド研究 (J-SMART) 138. EGFR遺伝子変異陽性進行非小細胞肺癌におけるオシメルチニブ関連間質性肺炎患後のオシメルチニブの再投与：後向きコホート研究 (CRETE) 139. 切除可能な非小細胞肺癌を対象とした術前補助療法としてのニボルマブおよび化学療法併用療法の日本における治療実態、安全性および有効性に関する観察研究 (NivoLuminate) 140. ALK融合遺伝子陽性非小細胞肺癌の治療標的遺伝子診断におけるAmoyDx[®]肺癌マルチ遺伝子PCRパネルとベンタナ OptiView ALK (D5F3) の臨床検体を用いた性能評価試験 (PREMIA-CDx-011)	片倉誠悟, 村上修司, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 加藤晃史, 田川雄斗 村上修司, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 加藤晃史, 片倉誠悟, 田川雄斗 近藤哲郎, 齋藤春洋, 加藤晃史, 村上修司, 片倉誠悟, 田川雄斗 加藤晃史, 片倉誠悟 伊藤宏之, 永島琢也, 伊坂哲哉, 村上浩太郎, 重福俊佑, 菊西啓雄, 繁田奈央子, 齋藤春洋, 加藤晃史, 近藤哲郎, 村上修司, 片倉誠悟, 横瀬智之, 繁田奈央子, 菅野千晶, 松山遼太郎, 鎗木結衣, 高田一樹, 田川雄斗 村上修司, 齋藤春洋, 近藤哲郎, 加藤晃史, 片倉誠悟, 田川雄斗
血液・腫瘍内科 (血液)	1. 成人白血病関連疾患に対する同種造血幹細胞移植の成績向上に関する研究	田中正嗣
血液・腫瘍内科 (腫瘍)	1. 疫学調査「血液疾患登録」 2. 当院における成熟T細胞性リンパ腫に対する化学療法と同種移植の治療成績 3. 成人T細胞白血病・リンパ腫に対するバレメトスタットのバイオマーカー研究 (BIVAstudy) 4. 初発性外性NK/T細胞リンパ腫における治療実態把握と予後因子解析を目的とした国際共同研究プロジェクト 5. HBV既往感染歴を有する造血器腫瘍におけるiTACT-HBcrAgモニタリングによるHBV再活性化対策の有用性：多施設共同前方視的観察研究 (iTACTstudy) 6. がん診療に関する院内リアルワールドデータの網羅的収集および利活用に関する多施設共同研究 7. JCOG2008A1：JCOG2008「未治療高腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するオビヌツズマブ+ベンダムスチン療法後のオビヌツズマブ維持療法の省略に関するランダム化第Ⅲ相試験」の付随研究 未治療高腫瘍量濾胞性リンパ腫における予後を予測するバイオマーカーの探索的研究 8. 家族性多発性骨髄腫における原因遺伝子の探索	酒井リカ, 他4名 橋本千寿子, 廣瀬奈津季 高橋寛行, 橋本千寿子 橋本千寿子, 高橋寛行 高橋寛行, 他3名 酒井リカ 橋本千寿子, 他4名 高橋寛行

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	9. 本邦における二次性中枢神経病変を有する大細胞型B細胞リンパ腫 (LBCL) の臨床的特徴と治療成績に関する多施設共同後方視的研究 (Real world treatment data of secondary central nervous system involvement in patients with Large B-cell lymphoma multicenter retrospective study in japan consensus)	高橋寛行, 他 4 名
	10. 70歳以上の高齢びまん性大細胞型B細胞リンパ腫患者を対象とした高齢者機能評価の意義を明らかにするための多施設前方視的観察研究 (G-POWER)	高橋寛行, 他 4 名
	11. 実臨床における再発・難治多発性骨髄腫に対する治療選択の検討	高橋寛行, 他 3 名
	12. JOG2210未治療末梢性T細胞リンパ腫に対する初回導入化学療法後の完全奏功例に対する自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法のランダム化第Ⅲ相試験	橋本千寿子, 他 4 名
	13. 肺MALTリンパ腫の初診時および治療前病態、治療選択と予後に関する多施設共同調査研究	高橋寛行, 他 2 名
	14. 再発又は難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫患者を対象としてツシジノスタットとリツキシマブを併用投与する第Ⅱ相試験の遺伝子解析研究	高橋寛行
	15. ゲノム時代における原発不明がんの臨床病理学的解析	高橋寛行, 他 3 名
	16. レナリドミド、ポマリドミドにおける遠隔的な薬剤管理とIADLモニタリング前方視的観察研究	高橋寛行
	17. JCOG2201中枢神経系再発高リスクの未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する中枢神経系再発予防を組み入れた治療法のランダム化第Ⅲ相試験実施計画書	橋本千寿子, 他 4 名
	18. ポラツズマブベドチン併用療法導入後のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫および類縁疾患に対する初回治療の検討	橋本千寿子, 他 4 名
	19. 本邦におけるPOEMS症候群自家移植症例の長期予後の解析	高橋寛行, 酒井リカ
	20. 高リスクB細胞リンパ腫に対するDA EPOCH R療法の有効性および安全性についての検討	橋本千寿子, 他 4 名
	21. 進行または再発尿膜管癌に対するmFOLFOX療法の検討	高橋寛行, 他 3 名
	22. びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の臨床病理学的検討	高橋寛行, 他 3 名
	23. HTLV 1キャリアにおけるホジキンリンパ腫様組織像を示す病変の統合的解析研究	酒井リカ
	24. 再発・難治性末梢性T細胞リンパ腫に対するtucidinostat単剤治療の第Ⅱ相試験	高橋寛行, 他 4 名
	25. アグレッシブATLにおける予後因子の検討と個別化医療の確立を目的とした全国一元化レジストリおよびバイオレポジトリの構築	高橋寛行, 他 2 名
	26. 日本における骨髄腫関連疾患の予後に関する大規模他施設前向き観察研究Ⅱ	高橋寛行, 他 5 名
	27. がん診療におけるリアルワールドデータ収集に関する多施設共同研究	高橋寛行
	28. アグレッシブNK細胞白血病に関する他機関共同後方視的研究 ANKL22	高橋寛行, 他 3 名
	29. JCOG19111多発性骨髄腫に対するダラツマブ併用化学療法における効果予測因子および抵抗性機序に関する探索的研究について	橋本千寿子, 他 4 名
	30. JCOG2008未治療抗腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するオビスツズマブ+ベンダムスチン療法後のオビスツズマブ維持療法の省略に関するランダム化Ⅲ相試験	橋本千寿子, 他 4 名

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	31. JCOG1911：高齢者または移植拒否若年者の未治療多発性骨髄腫患者に対するダラツムマブ+メルファラン+プレドニゾロン+ボルテゾミブ導入療法後のダラツムマブ単独療法とダラツムマブ+ボルテゾミブ併用維持療法のランダム化第Ⅲ相試験	橋本千寿子，他4名
	32. 同種移植後インフルエンザウイルス感染症の二次調査結果	橋本千寿子，他4名
	33. JOCGバイオバンクジャパン連携バイオバンク	橋本千寿子，他4名
	34. 芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍の分子病理学的検討	高橋寛行
	35. 再発濾胞性リンパ腫に対するobinutuzumab+gendamustine併用の第Ⅱ相試験	高橋寛行
	36. 未治療低腫瘍量進行期濾胞性リンパ腫に対するリツキシマブ療法早期介入に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	高橋寛行
	37. アグレッシブATL前向きコホート研究他施設共同前方視的観察研究	酒井リカ，高橋寛行
	38. 神奈川エリアT細胞リンパ腫レジストリ	酒井リカ
	39. 新たに診断された濾胞性リンパ腫患者に関する多施設前方視的観察研究	橋本千寿子，他5名
	40. 未治療のFLIPI 2～5の濾胞性リンパ腫患者を対象としてMosunetuzumab+レナリドミド併用療法の有効性及び安全性を抗CD20抗体+化学療法併用療法と比較する第Ⅲ相多施設共同ランダム化非盲検試験	橋本千寿子，他4名
	41. 未治療の濾胞性リンパ腫を対象として，エプコリタマブとリツキシマブ+レナリドミド（R2）療法の安全性及び有効性を免疫化学療法と比較する第Ⅲ相，多施設共同，無作為化，非盲検試験	橋本千寿子，他4名
	42. 再発又は難治性のB細胞性非ホジキンリンパ腫患者を対象にAZD0486の有効性及び安全性を評価するモジュール型、第Ⅱ相、単群、多施設共同、非盲検試験	橋本千寿子，他4名
	43. 未治療の濾胞性リンパ腫患者を対象として、AZD0486とリツキシマブの併用療法の有効性及び安全性を化学療法とリツキシマブの併用療法と比較する第Ⅲ相、多施設共同、無作為化、非盲検試験	橋本千寿子，他4名
	44. 再発／難治性の濾胞性または辺縁体リンパ腫患者を対象にZanubrutinibと抗CD20抗体の併用療法をレナリドミドとリツキシマブの併用療法と比較する第Ⅲ相、無作為化、非盲検、多施設共同試験	橋本千寿子，他4名
	45. 再発／難治性マントル細胞リンパ腫患者を対象とした、Sonrotoclax+ザヌブルチニブとプラセボ+ザヌブルチニブを比較する第3相無作為化二重盲検多施設共同試験	橋本千寿子，他4名
	46. 再発又は難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫又はマントル細胞リンパ腫を対象としたGlofitamab+ゲムシタピン+オキサリプラチン（GemOx）併用療法又はGlofitamab単剤療法の有効性及び安全性を評価する国内第Ⅱ相多施設共同試験	橋本千寿子，他4名
	47. 再発・難治性末梢性T細胞リンパ腫に対するtucidinostat単剤治療の第Ⅱ相試験	橋本千寿子，他4名
	48. 抗CD38抗体及びレナリドミドを含む1～4ラインの前治療歴がある再発又は難治性の多発性骨髄腫患者を対象として、talquetamab及びポマリドミドの併用療法（Tal-P）、並びにtalquetamab及びteclistamabの併用療法（Tal-Tec）、並びに治験責任（分担）医師が選択するエロツズマブ、ポマリドミド、及びデキサメタゾン併用療法（EPd）又はポマリドミド、ボルテゾミブ、及びデキサメタゾン併用療法（PVd）を比較する第3相ランダム化試験	橋本千寿子，他4名

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
消 化 器 内 科 (消化管)	1. 高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃・食道胃接合部腺癌に対する術前trastuzumab併用化学療法の意義に関するランダム化第Ⅱ相試験(JCOG1301C)	町田 望ほか
	2. 治癒切除後病理学的StageⅠ/Ⅱ/Ⅲ小腸腺癌に対する術後化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験(JCOG1502)	町田 望ほか
	3. 切除不能局所進行胸部食道扁平上皮癌に対する根治的化学放射線療法と導入Docetaxel+CDDP+5-FU療法後のConversion Surgeryを比較するランダム化第Ⅲ相試験(JCOG1510)	町田 望ほか
	4. 消化管・膵原発の切除不能進行・再発神経内分泌腫瘍に対するエベロリムス単剤療法とエベロリムス+ランレオチド併用療法のランダム化第Ⅲ相試験(JCOG1901)	町田 望ほか
	5. 切除不能進行・再発大腸癌に対する二次化学療法におけるFOLFIRI療法と併用するVEGF阻害薬(ベバシズマブ、ラムシルマブ、アフリベルセプト)の選択に有用なバイオマーカーを探索するランダム化第Ⅱ相試験(JCOG2004)	町田 望ほか
	6. 大腸癌・大腸進行腺腫患者の血液循環腫瘍DNAのゲノム・エピゲノム統合解析(COSMOS-CRC-01)	町田 望ほか
	7. 胃癌・胃GIST患者の血液循環腫瘍DNAのゲノム・エピゲノム統合解析(COSMOS-GC-01)	町田 望ほか
	8. 前治療歴を有するvulnerable大腸がんに対するトリフルリジン・チピラシル塩酸塩(FTD/TPI)+ベバシズマブ(BEV)の有効性と安全性を探索する後方視的観察研究(WJOG14520G)	町田望ほか
	9. 未治療切除不能進行・再発胃癌に対するマイクロサテライト不安定性を評価する観察研究(WJOG13320GPS)	町田 望ほか
	10. MSI-Hを有する進行胃癌又は食道胃接合部癌患者を対象とした1次治療としてのニボルマブと低用量イピリムマブ併用の第Ⅱ相試験(NO LIMIT:WJOG13320G)	町田 望ほか
	11. 切除不能進行がんおよび転移・再発固形がん患者に対するElectronic Patient-Reported Outcome(ePRO)モニタリングの有用性を検証する多施設共同非盲検ランダム化比較試験(PRO-MOTE)	町田 望ほか
	12. 切除不能進行・再発胃癌3次治療以降におけるトリフルリジン・チピラシルとラムシルマブ併用療法の安全性と有効性を検証する第Ⅱ相試験(CCOG2104)	町田 望ほか
	13. 切除不能進行再発胃腺癌もしくは食道胃接合部腺癌に対する3次治療以降のTrifluridine/tipiracil(FTD/TPI)+Ramucirumab(RAM)併用療法とFTD/TPI単剤療法のランダム化第Ⅱ相比較試験(WJOG15822G)	古田光寛ほか
	14. 食道扁平上皮癌に対する根治的FOLFOX-RTおよび緩和的FOLFOX療法の観察研究	古田光寛ほか
	15. エンコラフェニブ・セツキシマブを含む併用療法に不応となったBRAF V600E変異型の切除不能進行・再発大腸癌患者に対するエンコラフェニブ+ビニメチニブ+セツキシマブ併用療法の逐次投与の有効性と安全性を探索する第Ⅱ相試験(BAYONET)	古田光寛ほか
	16. 高度腹水を伴うまたは経口摂取不能の腹膜転移を有する胃癌に対するmFOLFOX+ニボルマブ療法の第Ⅱ相試験(WJOG16322G)	古田光寛ほか
	17. 切除不能大腸がんに対するトリフルリジン・チピラシル+ベバシズマブの従来法と隔週法の実用的ランダム化第Ⅲ相試験(PRABITAS)	古田光寛ほか

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	18. 未治療の切除不能または再発食道癌に対するmFOLFOX6+ニボルマブ療法の第Ⅱ相試験 (FLONTALE) 19. 進行・再発HER2陽性胃癌患者を対象とした三次治療におけるトラスツズマブ デルクステカンの有効性の評価、及び一次治療後のバイオマーカーを探索的に検討する多施設共同前向きコホート研究 (EN-MARK) 20. 切除不能進行・再発胃癌に対するニボルマブ再投与における有効性と安全性の前向き観察研究 (NIVO-RETURNS) 21. 70歳以上HER2陽性の治癒切除不能な進行・再発胃癌患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカンの多機関共同観察研究 (ENCOURAGE) 22. HER2陰性・CLDN18.2陽性の切除不能進行再発胃または食道胃接合部癌に対するCapeOX+ゾルベツキシマブ療法を参照群とするSOX+ゾルベツキシマブ療法の有効性を検討するランダム化非比較第Ⅱ相臨床試験 (JACCRO-GC12 (C-SOLVE試験)) 23. 切除不能進行・再発大腸癌に対するフルキンチニブ単剤療法のバイオマーカー探索を含めた観察研究 (JACCRO-CC19 (FruBLOOM試験))	古田光寛ほか 町田 望ほか 町田 望ほか 町田 望ほか
消 化 器 内 科 (肝胆膵)	1. 消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌 (NEC) を対象としたエトボシド/シスプラチン (EP) 療法とイリノテカン/シスプラチン (IP) 療法のランダム化比較試験 2. 切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化同時対照試験 3. 治癒切除後病理学的Stage I / II / III小腸腺癌に対する術後化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験 4. 消化管・膵原発の切除不能進行・再発神経内分泌腫瘍に対するエベロリムス単剤療法とエベロリムス+ランレオチド併用療法のランダム化第Ⅲ相試験 5. 膵癌患者を対象としたS-1併用化学放射線療法+ニボルマブの第Ⅲ相試験 6. 切除可能胆道癌に対する術前補助化学療法としてのゲムシタビン+シスプラチン+S-1 (GCS) 療法の第Ⅲ相試験 7. 免疫チェックポイント阻害薬投与後かつAFP 400ng/mL以上の進行肝細胞癌に対するレンバチニブとラムシルマブのランダム化比較第Ⅲ相試験 8. 免疫チェックポイント阻害薬投与後の進行肝細胞癌に対するソラフェニブとレンバチニブのランダム化比較第Ⅲ相試験 9. 70歳以上の進行胆道癌患者に対する化学療法と高齢者機能評価に関する前向き観察研究 10. Monstar-screen 3 他 治験30件進行中	上野 誠ほか 上野 誠ほか 上野 誠ほか 上野 誠ほか 上野 誠ほか 上野 誠ほか 上野 誠ほか 上野 誠ほか 上野 誠ほか 上野 誠ほか 上野 誠ほか

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
消 化 器 外 科 (胃食道)	1. 深達度SS/SEの切除可能胃癌に対する網膜切除の意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験 (JCOG1001) 2. 食道がんEMR/ESD症例におけるヨード不染帯をバイオマーカーにした多発がん発生リスクと多発がん発生までの期間の検討に関する多施設共同前向きコホート研究 3. 病理学的StageⅡ胃癌に対するS-1術後補助化学療法の期間短縮の意義を検討するランダム化比較第Ⅲ相試験 (JCOG1104) 4. 胃癌に対する腹腔鏡補助下胃切除術 ～患者要因での対象拡大の妥当性に関する前向き研究～ 5. 局所進行胃癌に対する術前化学療法のレジメンとコース数を比較する無作為第Ⅱ相臨床試験 (S1+CDDP vs S1:CDDP+Docetaxel、2コース vs 4コース)「COMPASS-D試験」付随研究治療効果／予後を予測するバイオマーカー探索 6. 胃癌手術におけるサルコペニアの意義を評価する前向き探索的研究 7. 高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃・食道胃接合部腺癌に対する術前trastuzumab併用化学療法の意義に関するランダム化第Ⅱ相試験 (JCOG1301C) 8. 進行胃癌に対する大網温存のランダム化第Ⅱ相試験 9. 食道がん内視鏡治療後のヨード不染帯程度別の異時性他臓器がんの発生状況を調査する多施設共同前向きコホート研究 10. 局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第Ⅲ相試験 (JCOG1509) 11. JCOG-バイオバンク・ジャパン連携バイオバンク 消化器外科胃食道 12. プロテオミクスによる癌患者の新規血清診断マーカーの開発 13. 病理学的StageⅡ/Ⅲで“vulnerable”な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1術後補助化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験 (JCOG1507) 14. 深達度SS/SE 胃癌患者における遺伝子変異の臨床的有用性を評価する大規模バイオマーカー研究 (JCOG1001A1) 15. T1-T4a/M0胃癌に対する胃全摘術の術後アップリット®摂取の忍容性を検証する第Ⅱ相試験 16. 切除不能局所進行胸部食道扁平上皮癌に対する根治的化学放射線療法と導入Docetaxel+CDDP+5-FU療法後のConversion Surgeryを比較するランダム化第Ⅲ相試験 (JCOG1510) 17. 胃癌に対する全摘術後の末梢神経障害を伴う血清ビタミンB12低下症例を対象に経口ビタミンB12製剤の有効性と製剤の有効性と安全性を検証する多施設共同無作為化比較試験 18. 高齢(70歳以上)の切除可能病期胸部食道扁平上皮がん患者に対する高齢者アセスメントツールの前向き観察研究 19. 漿膜下浸潤及び漿膜浸潤を伴う進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第Ⅲ相試験 (JCOG1711) 20. 高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前Docetaxel+Oxaliplatin+S-1の第Ⅱ相試験 (JCOG1704)	山田貴允ほか 尾形高士ほか 山田貴允ほか 山田貴允ほか 大島 貴ほか 大島 貴ほか 山田貴允ほか 山田貴允ほか 尾形高士ほか 山田貴允ほか 尾形高士ほか 大島 貴ほか 山田貴允ほか 山田貴允ほか 山田貴允ほか 尾形高士ほか 山田貴允ほか 尾形高士ほか 山田貴允ほか 山田貴允ほか

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	21. 大弯に浸潤する胃上部進行胃癌に対する腹腔鏡下脾温存脾門郭清の安全性に関する第Ⅱ相試験 (JCOG1809) 22. 高齢者臨床病期IB-Ⅲ食道癌に対するPaclitaxelと放射線同時併用療法 (PTX+RT) の第Ⅰ/Ⅱ相試験 23. Clinical-T1bN0M0食道癌に対する総線量低減と予防照射の意義を検証するランダム化比較試験 (JCOG1904) 24. cT1-2N0-2胃癌におけるロボット支援下胃切除術の腹腔鏡下胃切除術に対する優越性を検証するランダム化比較試験 (JCOG1907) 25. 切除可能進行食道扁平上皮癌 [cT1N1-3M0-1 (M1は鎖骨上リンパ節転移陽性によるM1のみ許容), cT2-3N0-3M0-1 (M1は鎖骨上リンパ節転移陽性によるM1のみ許容)] を対象とした5-FU+ロイコボリン+オキサリプラチン+ドセタキセル (FOLFOX+DTX) の併用療法による術前補助化学療法の第Ⅱ相試験 (食道癌術前FOLFOX+DTX PⅡ) 26. 臨床病期Ⅰ-ⅣA (T4を除く) 胸部上中部食道扁平上皮癌に対する予防的鎖骨上リンパ節郭清省略に関するランダム化比較試験 (JCOG2013) 27. 胃癌に対する胃全摘術後の経口ビタミンB12製剤の有効性と安全性を検証する多施設共同無作為化比較試験 28. 食道胃接合部腺癌に対するDOS or FLOTを用いた術前化学療法のランダム化第Ⅱ/Ⅲ相試験 (JCOG2203) 29. 術前化学療法後に根治手術が行われ病理学的完全奏効とならなかった食道扁平上皮癌における術後無治療/ニボルマブ療法/S-1療法のランダム化比較第Ⅲ相試験 (JCOG2206) 30. 大型3型・4型胃癌に対する術前化学療法としての5-FU+レボホリナート+オキサリプラチン+ドセタキセル (FLOT) 療法とドセタキセル+オキサリプラチン+S-1 (DOS) 療法の有効性を探索するランダム化第Ⅱ相試験 (JCOG2204) 31. 化学療法が奏効した診断時切除不能cStageⅣ/pStageⅣ胃癌に対するConversion surgeryの意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験 (JCOG2301) 32. 切除不能または再発食道癌に対するNivo+Ipi (ニボルマブ+イピリムマブ) 療法と放射線治療+Nivo+Ipi療法を比較するランダム化第Ⅱ相試験 (JCOG2311) 33. 「StageⅢの治癒切除胃癌に対する術後補助化学療法としてのTS-1+Docetaxel併用療法とTS-1単独療法のランダム化比較第Ⅲ相試験 (JACCRO GC-07 (START-2))」におけるバイオマーカー研究 (JACCRO GC-07AR2) 34. 胃癌術前補助化学療法の対象選択における術前病期診断の妥当性の検討 35. 進行食道癌主病変に対する術前治療の臨床的効果判定は生存のSurrogate end point となり得るか? 36. 固形癌患者の早期診断および個別化治療を目指したリキッドバイオプシーによる新規診断法の開発 37. JCOG-バイオバンク・ジャパン連携バイオバンクJCOG1509登録患者の凍結組織・血液バンキング (JCOG1509B) 38. 胃癌症例における再発予後危険因子としての術前サルコペニアの意義	山田貴允ほか 尾形高士ほか 尾形高士ほか 山田貴允ほか 尾形高士ほか 尾形高士ほか 大島 貴ほか 尾形高士ほか 尾形高士ほか 山田貴允ほか 山田貴允ほか 尾形高士ほか 山田貴允ほか 大島 貴ほか 大島 貴ほか 大島 貴ほか 山田貴允ほか 大島 貴ほか

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	39. 食道癌の横断面による壁在性は術後の無再発生存に影響する	大島 貴ほか
	40. 胃癌に対するニボルマブ治療における予後因子の検索	山田貴允ほか
	41. 胃腫瘍のゲノム解析とその臨床病理学的意義の解明	大島 貴ほか
	42. 腹腔内洗浄液中のmicroRNA解析による胃癌再発予測マーカーの検索	大島 貴ほか
	43. 胃癌における脈管侵襲の臨床病理学的意義についての検討	大島 貴ほか
	44. 腹腔鏡下胃癌手術修練における修練前胃癌手術経験数と合併症発生割合に関する研究	山田貴允ほか
	45. 胃癌におけるMSI1の術前補助化学療法レジメン選択マーカーとしての有用性のメカニズム	大島 貴ほか
	46. 固形腫瘍術後標本におけるCancer stem cell marker発現の再発予測因子としての有用性の検討	大島 貴ほか
	47. 胃癌腹膜播種の免疫学的メカニズムの解明	大島 貴ほか
	48. 食道癌に対する食道切除後の筋肉量減少が予後に与える影響	大島 貴ほか
	49. 食道癌におけるリンパ節転移程度の評価に関する研究	大島 貴ほか
	50. 胃癌に対するE-pass scoreと予後の関係	大島 貴ほか
	51. 胃癌に対する根治切除後再発における予後因子	大島 貴ほか
	52. 腹腔鏡下胃切除術における術後合併症発症のリスク因子	大島 貴ほか
	53. 食道胃接合部腺癌における脾文部リンパ節転移のリスク因子の検討	大島 貴ほか
	54. UICC TNM第8版の臨床病期はSiewert type II/Ⅲ癌患者の予後を層別化できるか？	渡邊勇人ほか
	55. 再発高リスク消化管間質腫瘍に対する完全切除後の治療に関する研究（STAR ReGISTry）の追跡調査	山田貴允ほか
	56. 局所進行食道癌における、炎症・栄養マーカーと短期・長期成績との関連	大島 貴ほか
	57. 胃癌・胃GIST患者の血液循環腫瘍DNAのゲノム・エピゲノム統合解析（COSMOS-GC-01）	大島 貴ほか
	58. 術前GNRIによる胃癌術後の短期・長期成績についての検討	大島 貴ほか
	59. 術後再発胃癌と非切除胃癌の長期予後についての検討	大島 貴ほか
	60. 胃癌に対する胃切除後の術後経口摂取量に関する後ろ向き観察研究	大島 貴ほか
	61. 進行胃癌に対する術前病期診断による予後予測能についての附随研究（JCOG1302A2）	山田貴允ほか
	62. stageⅢ胃癌に対する術後補助化学療法としてのドセタキセル+S1併用療法の治療成績の解析	大島 貴ほか
	63. ダブルトラクト再建による腹腔鏡下噴門側胃切除と腹腔鏡下胃全摘の比較検討	末松秀明ほか
	64. 局所進行食道扁平上皮癌に対する輸血の予後への影響	大島 貴ほか
	65. 「標準治療不応の切除不能な進行・再発胃癌に対する局所放射線療法とNivolumab（抗PD-1抗体）併用療法の第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験（CIRCUIT試験）」における長期予後についての研究	大島 貴ほか
	66. 未治療進行又は再発胃癌を対象としたニボルマブ+化学療法の実臨床下における有効性と安全性に関する観察研究	大島 貴ほか
	67. 診断時切除不能StageⅣ胃癌に対するconversion therapyの治療成績に関する多機関共同観察研究	山田貴允ほか
	68. 進行胃癌患者におけるnivolumab療法とリンパ節転移への局所放射線療法の併用効果についての研究（CIRCUIT試験後ろ向き観察）	大島 貴ほか
	69. 術前の胃形態が胃切除後の体重減少に与える影響	長澤伸介ほか

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	70. 高度リンパ節転移を伴う進行胃癌を対象とした JCOG 試験の統合解析JCOG0001/JCOG0405/JCOG1002の統合解析研究 (JCOG2212A)	山田貴允ほか
	71. 胃上部進行癌に対する噴門側胃切除の妥当性に関する多機関共同観察研究	山田貴允ほか
	72. 腹腔鏡下幽門側胃切除術におけるB1再建方法の違いによる術後経過に関する検討	山田貴允ほか
	73. cT1-4aN0-3胃癌におけるロボット支援下胃切除術と腹腔鏡下胃切除術の術後PROの比較に関する観察研究 (JCOG1907A2)	山田貴允ほか
	74. 多発リンパ節転移を伴う早期胃癌 (pT1N2-3) に対する術後補助化学療法の有用性を評価する多施設共同後ろ向き観察研究	山田貴允
	75. 胃癌手術患者の術前CT画像を用いた骨格筋指標の年齢別標準値および予後を予測するカットオフ値の作成	大島 貴ほか
	76. 大腸癌患者の大腸癌組織におけるInterleukin-24 (IL-24) 発現の臨床的意義の検討	大島 貴ほか
	77. 栄養摂取のタイミングが胃切除後の体組成に与える影響	長澤伸介ほか
	78. 当院における胃癌コンバージョン手術の治療成績	田邊美恵ほか
	79. 臨床病期I期食道癌を対象とした臨床試験データを用いた統合解析に関する研究 (JCOG2218A)	尾形高士ほか
	80. 治癒切除後の局所進行胃癌患者における胃癌組織中のPregnancy Zone Protein遺伝子発現の臨床的意義	大島 貴ほか
	81. 周術期化学療法における効果予測因子および予後因子に関する探索的研究 (JCOG1509A1)	山田貴允ほか
	82. 局所進行胃癌患者の癌組織におけるasialoglycoprotein receptor 2遺伝子発現の臨床的意義	大島 貴ほか
	83. Stage IV 胃癌におけるConversion therapy (Adjuvant surgery) の意義に関する国際多施設共同後ろ向き研究 (CONVO-GC01) 試験における日本人データを用いた治療成績のサブグループ解析と予後因子に関する追加解析	山田貴允ほか
	84. 根治的胃癌術後患者の転帰評価におけるCONUTスコアの臨床的意義	田邊美恵ほか
	85. pStageⅢ胃癌に対するadjuvant S-1 + Docetaxel 療法の治療成績	森田順也ほか
	86. 大型3型・4型胃癌に対する低侵襲手術の妥当性に関する後ろ向き観察研究	山田貴允ほか
	87. 腹腔細胞診陽性の胃癌を対象とした周術期化学療法に関する多施設共同後ろ向き観察研究	山田貴允ほか
	88. 食道胃接合部癌における食道浸潤長による再発リスクの比較検討	山田貴允ほか
	89. JCOG2311「切除不能または再発食道癌に対するニボルマブ+イピリムマブ (Nivo+Ipi) 療法と放射線治療+Nivo+Ipi療法を比較するランダム化第Ⅱ相試験」の附随研究 切除不能または再発食道癌に対するニボルマブ+イピリムマブ療法±放射線治療の有効性及び有害事象の予測因子及び予後因子に関する探索的研究書	尾形高士ほか
	90. 局所進行食道癌における術前治療のバイオマーカーに関する探索的研究	尾形高士ほか

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
消 化 器 外 科 (大腸)	1. 大腸癌肝転移切除後患者を対象としたフルオロウラシル/1-ロイコボリンとオキサリプラチン併用補助化学療法 (mFOLFOX6) vs. 手術単独によるランダム化Ⅱ/Ⅲ相試験	塩澤 学ほか
	2. 直腸癌側方リンパ節転移の術前診断能の妥当性に関する観察研究	塩澤 学ほか
	3. StageⅢ治癒切除大腸癌に対する術後補助療法としてのアスピリンの有用性を検証する二重盲検ランダム化比較試験	塩澤 学ほか
	4. 化学療法にて消失した大腸癌肝転移病変に対するDW-MRIの術前診断能の妥当性に関する研究	塩澤 学ほか
	5. 局所切除後の垂直断端陰性かつ高リスク下部直腸粘膜下層浸潤癌 (pT1癌) に対するカペシタビン併用放射線療法の単群検証的試験	塩澤 学ほか
	6. 「再発リスク因子」を有するStageⅡ大腸癌に対する術後補助化学療法の有用性に関するランダム化第Ⅲ相比較試験	塩澤 学ほか
	7. 利活用を目的とした日本疾患バイオバンクの運営・管理	塩澤 学ほか
	8. RAS野生型進行大腸癌患者におけるFOLFOXIRI+CmabとFOLFOXIRI+Bevの最大腫瘍縮小率 (DpR) を検討する無作為化第Ⅱ相臨床試験	塩澤 学ほか
	9. 「RAS野生型進行大腸癌患者における FOLFOXIRI+セツキシマブとFOLFOXIRI+ベバシズマブの 最大腫瘍縮小率 (DpR) を検討する無作為化第Ⅱ相臨床試験」におけるバイオマーカー研究	塩澤 学ほか
	10. 結腸癌の至適切離腸管長に関する前向き研究	塩澤 学ほか
	11. 治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌患者に対してラムシルマブとイリノテカン塩酸塩水和物、レボホリナート及びフルオロウラシルを併用したときの安全性及び有効性の評価	塩澤 学ほか
	12. 後期高齢者低位直腸癌 (高リスクpT1、低リスクpT2) に対する標準的治療を評価する多施設共同前向き観察研究	塩澤 学ほか
	13. RAS遺伝子野生型切除不能進行・再発大腸癌における二次治療FOLFIRI+ラムシルマブ併用療法の第Ⅱ相試験ランダム化比較試験	塩澤 学ほか
	14. RAS遺伝子野生型切除不能進行・再発大腸癌における二次治療FOLFIRI+ラムシルマブ併用療法の第Ⅱ相試験におけるバイオマーカー研究	塩澤 学ほか
	15. 結腸・直腸癌を含む消化器・腹部悪性腫瘍患者を対象としたリキッドバイオプシーに関する研究GI-screen付随研究	塩澤 学ほか
	16. 抗EGFR抗体薬の治療歴のあるRAS/BRAF V600E野生型の切除不能進行・再発大腸癌患者に対するctDNA解析に基づくパニツムマブ+イリノテカン療法リチャレンジの有効性と安全性を探索する第Ⅱ相試験	塩澤 学ほか
	17. 抗EGFR抗体薬の治療歴のあるRAS/BRAF V600E野生型の切除不能進行・再発大腸癌患者を対象としたctDNA解析によるRAS変異モニタリングの臨床的有用性を評価する観察研究	塩澤 学ほか
	18. 治癒切除不能な固形悪性腫瘍における血液循環腫瘍DNAのがん関連遺伝子異常及び腸内細菌叢のプロファイリング・モニタリングの多施設共同研究	塩澤 学ほか
	19. 進行固形悪性腫瘍患者に対するAIマルチオミックスを活用したバイオマーカー開発の多施設共同研究	塩澤 学ほか
	20. 直腸癌術後骨盤内再発に対する重粒子線治療に関する有効性安全性試験	塩澤 学ほか
	21. 大腸癌Oligometastases切除例に対するmFOLFOXIRI療法の第Ⅱ相試験	塩澤 学ほか

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	22. 切除不能な進行・再発大腸癌に対する初回治療としてのCAPOXIRI + ベバシズマブ療法とFOLFOXIRI + ベバシズマブ療法の多施設共同ランダム化第Ⅱ相臨床研究	塩澤 学ほか
	23. 大腸癌・大腸進行腺腫患者の血液循環腫瘍DNAのゲノム・エピゲノム統合解析	塩澤 学ほか
	24. 腹腔鏡下直腸癌術後性機能障害に関する多施設前向き観察研究	塩澤 学ほか
	25. 大腸切除術の機能的端々吻合における術後合併症に関する前向きコホート緩急	塩澤 学ほか
	26. 血液循環腫瘍DNA陰性の高リスクStageⅡ及び低リスクStageⅢ結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのCAPOX療法と手術単独を比較するランダム化第Ⅲ相比較試験	塩澤 学ほか
	27. 根治的外科治療可能な結腸・直腸癌を対象としたレジストリ研究	塩澤 学ほか
	28. 臨床病期Ⅰ-Ⅲ大腸癌の原発巣切除前のCT検査で認められ良悪性の診断が得られない肺結節（Indeterminate Pulmonary Nodule：IPN）に関する多施設共同前向き観察研究	塩澤 学ほか
	29. 切除可能な大腸癌肝転移及びその他の遠隔臓器転移に対する遺伝子異常に基づく個別化周術期治療の開発を目的とした多施設共同研究	塩澤 学ほか
	30. 直腸癌検体CRM評価のための新しい切り出し方法（準MERCURY、部分環状切開法）導入に関する多施設共同研究	塩澤 学ほか
	31. RAS遺伝子変異型腫瘍を有する切除不能進行・再発大腸癌患者における化学療法後の血液中RAS遺伝子変異を評価する観察研究	塩澤 学ほか
	32. 切除不能進行がんおよび転移・再発固形がん患者に対するElectronic Patient-Reported Outcome（ePRO）モニタリングの有用性を検証する多施設共同非盲検ランダム化比較試験	塩澤 学ほか
	33. 腹腔鏡下右側結腸癌手術における体腔内吻合の安全性に関する前向き観察研究	塩澤 学ほか
	34. リキッドバイオプシーを用いた切除不能大腸癌に対する血管新生阻害薬の効果予測	塩澤 学ほか
	35. 閉塞性大腸癌におけるステント治療が腫瘍細胞と予後に与える影響	塩澤 学ほか
	36. 切除可能な局所高度進行結腸癌に対する術前mFOLFOX6療法と術前FOLFOXIRI療法のランダム化第Ⅱ相試験	塩澤 学ほか
	37. BRAF変異型大腸癌に対するBRFA阻害薬併用療法のバイオマーカー探索を含めた観察研究	塩澤 学ほか
	38. RAS/BRAF野生型進行大腸癌抗EGFR抗体薬治療例のRAS変異頻度の観察研究	塩澤 学ほか
	39. Neo RAS野生型切除不能進行・再発大腸癌患者に対するパニツムマブ、イリノテカン併用療法の安全性と有効性を評価する第Ⅱ相試験	塩澤 学ほか
	40. 「Neo RAS野生型切除不能進行・再発大腸癌患者に対するパニツムマブ、イリノテカン併用療法の安全性と有効性を評価する第Ⅱ相試験」に付随するバイオマーカー研究	塩澤 学ほか
	41. エンコラフェニブ・セツキシマブを含む併用療法に不応となったBRAFFV600E変異型の切除不能進行・再発大腸癌患者に対するエンコラフェニブ+ビニメチニブ+セツキシマブ併用療法の逐次投与の有効性を探索する第Ⅱ相試験	塩澤 学ほか

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	42. 切除不能進行・再発大腸癌に対する二次化学療法におけるFOLFIRI療法と併用するVEGF阻害薬（ベバシズマブ、ラムシルマブ、アフリベルセプト）の選択に有用なバイオマーカーを探索するランダム化第Ⅱ相試験	塩澤 学ほか
	43. BRAFV600E変異を有する切除可能大腸癌遠隔転移患者に対する周術期化学療法としてのエンコラフェニブ+ビニメチニブ+セツキシマブ併用療法の有効性及び安全性を評価する多施設共同第Ⅱ相臨床試験に付随するバイオマーカーの探索研究	塩澤 学ほか
	44. BRAFV600E変異を有する切除可能大腸癌遠隔転移患者に対する周術期化学療法としてのエンコラフェニブ+ビニメチニブ+セツキシマブ併用療法の有効性及び安全性を評価する多施設共同第Ⅱ相臨床試験（NEXUS試験）の長期予後に関する観察研究	塩澤 学ほか
	45. 局所進行直腸癌に対する術前治療としての短期放射線療法とCAPOX及び短期放射線療法とCAPOXIRIの多施設共同ランダム化第Ⅲ相試験（ENSEMBLE）	塩澤 学ほか
	46. がん患者の臨床検体を用いた遺伝子プロファイリングと臨床的意義に関する研究	塩澤 学ほか
	47. JCOG1801「直腸癌局所再発に対する術前化学放射線療法の意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験」の附随研究ctDNAによる直腸癌局所再発の予後因子・治療効果予測因子に関する探索的研究	塩澤 学ほか
	48. S状結腸-下行結腸移行部（Sigmoid-Descending junction）のS状結腸癌に対する手術術式による治療成績を検討する多施設前向き観察共同研究 SDJtrial（KYCC2301）	塩澤 学ほか
	49. 「ミスマッチ修復異常を認める切除可能直腸癌を対象に免疫チェックポイント阻害薬の有効性・安全性を検討する多施設共同臨床第Ⅱ相試験（略名：VOLTAGE-2試験）」に付随するバイオマーカー研究	塩澤 学ほか
	50. 直腸腫瘍術後患者における新低位前方切除術後症候群定義8症状の発生頻度/重症度/リスク因子を検討する多機関共同観察研究	塩澤 学ほか
	51. 進行大腸癌を対象とした組織と血漿RAS/BRAFの不均一性が抗EGFR抗体薬の有効性に及ぼす影響を検討する観察研究	塩澤 学ほか
	52. StageⅢ大腸癌における新たな病理組織学的因子を用いた予後予測および補助療法の治療効果予測に関する研究	塩澤 学ほか
	53. TNT+watch and wait療法を行う直腸癌におけるctDNAの効果予測因子および予後因子としての意義に関する探索的研究	塩澤 学ほか
	54. 臨床病期Ⅲの下部直腸癌に対するtotal neoadjuvant therapy（TNT）および選択的側方リンパ節郭清の意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	塩澤 学ほか
	55. 腹腔鏡下右側結腸切除の安全性に影響を与える因子に関する前向き観察研究（SCRLET試験）	塩澤 学ほか
	56. ctDNAによるStageⅡ大腸癌の予後予測および術後補助化学療法の効果予測に関する探索的研究	塩澤 学ほか
	57. 右側結腸癌に対する右側結腸切除術で副右結腸静脈根部付近のリンパ節の取り扱いに関する多施設共同前向き観察研究	塩澤 学ほか
	58. 進行横行結腸がんに対する結腸部分切除術の有用性に関するランダム化第Ⅲ相試験	塩澤 学ほか

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	59. 切除不能進行・再発大腸癌に対するフルキンチニブ単剤療法のバイオマーカー探索を含めた観察研究（JACCRO CC-19（FruBLOOM 試験））	塩澤 学ほか
	60. 「ミスマッチ修復異常を認める切除可能直腸癌を対象に免疫チェックポイント阻害薬の有効性・安全性を検討する多施設共同臨床第Ⅱ相試験」の長期有効性・安全性とQuality of life（QOL）に関する観察研究	塩澤 学ほか
	61. 全国大腸癌登録事業及び登録情報に基づく研究	塩澤 学ほか
	62. 肛門管癌の病態解明とStagingに関する研究	塩澤 学ほか
	63. 次世代医療機器開発へ向けた内視鏡外科手術における暗黙知のデータベース構築	塩澤 学ほか
	64. 高齢者StageⅢ大腸癌に対する術後補助化学療法の現状調査	塩澤 学ほか
	65. 腹腔鏡下直腸癌切除における技術認定医手術参加の有用性に関する検討	塩澤 学ほか
	66. BRAF遺伝子変異を有する転移性結腸・直腸がんを対象にした拡大治験フォローアップ延長に関する後ろ向き観察研究（BEACON EAP 後ろ向き観察研究）	塩澤 学ほか
	67. pStageⅡ 結腸癌において、腫瘍局在が予後不良因子としての低リンパ節検索個数に与える影響を検討する多施設共同後ろ向き観察研究	塩澤 学ほか
	68. 横行結腸癌における腫瘍局在（肝弯/中央部/脾弯）別の遺伝子プロファイルの解析	塩澤 学ほか
	69. 直腸癌を対象としたミスマッチ修復（MMR）タンパク、BRAF変異タンパクのスクリーニング研究	塩澤 学ほか
	70. 進行再発大腸癌におけるRAS遺伝子変異の時間的・空間的多様性を解析する単施設後ろ向き観察研究	塩澤 学ほか
	71. 直腸癌術後局所再発のデータベース作成と臨床病理学的研究（多施設共同後ろ向き観察研究）	塩澤 学ほか
	72. 内視鏡外科手術におけるAI自動技術評価システムの構築	塩澤 学ほか
	73. 根治切除を行った大動脈周囲リンパ節陽性大腸癌におけるリンパ節郭清個数の意義	塩澤 学ほか
	74. 大腸癌における免疫抑制機構の解析と臨床的意義の解明	塩澤 学ほか
	75. StageⅡ/Ⅲ大腸癌を対象とした臨床病理学的特徴と予後の関連に関する探索的研究（JCOG2310A）	塩澤 学ほか
	76. 腸管吻合を伴う外科手術を行った大腸疾患を対象とした臨床病理学的特徴と手術成績に関する探索的研究	塩澤 学ほか
	77. 大腸癌の大動脈周囲リンパ節転移治癒切除症例における領域リンパ節（壁在・中間・主リンパ節）の転移状況（転移個数・部位）が予後に与える影響の検討	塩澤 学ほか
	78. DNAメチル化が進行再発右側大腸癌における抗EGFR抗体薬の有効性に及ぼす影響を検討する後ろ向き観察研究	塩澤 学ほか
	79. 切除不能進行再発大腸癌における二次治療としてのRamucirumab併用療法の治療成績	塩澤 学ほか
	80. 術前治療を施行した直腸癌の組織浮腫量の変化と治療効果の検討	塩澤 学ほか
	81. RAS遺伝子（KRAS/NRAS遺伝子）野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発大腸癌患者に対するmFOLFOX6＋ベパズマブ併用療法とmFOLFOX6＋パニツムマブ併用療法後の外科的切除における予後因子の解析	塩澤 学ほか

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	82. 切除不能進行・再発大腸癌におけるEMT関連病理組織学的因子と予後・治療耐性の関連についての探索的コホート研究 83. 高頻度マイクロサテライト不安定性（MSI-H）又はミスマッチ修復機構欠損（dMMR）を有する治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸がんの患者を対象に、ニボルマブ単独療法、ニボルマブとイピリムマブの併用療法又は治験医師選択化学療法を評価する無作為化第Ⅲ相試験（治験実施計画書番号：ONO-4538-87/CA2098HW） 84. 血中循環腫瘍DNA陽性の治癒切除後結腸・直腸がん患者を対象としたFTD/TPI療法とプラセボとを比較する無作為化二重盲検第Ⅲ相試験（治験実施計画書番号：EPOC1905） 85. ONO-4578第Ⅰ相試験根治切除不能な進行又は再発の結腸・直腸がん患者を対象に、一次治療としてONO-4578、ONO-4538並びに標準治療であるXELOX及びベバシズマブを併用する非盲検非対照試験（治験実施計画書番号：ONO-4578-02/ONO-4538-101） 86. HER2過剰発現の切除不能進行再発大腸癌の患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカンの多施設共同、ランダム化、第Ⅱ相試験（DESTINY-CRC02）（治験実施計画書番号：DS8201-A-U207） 87. BRAF V600E遺伝子変異を有する転移性結腸・直腸癌患者を対象に、安全性導入期として化学療法、エンコラフェニブおよびセツキシマブの併用療法を評価し、その後、一次治療として化学療法の併用または非併用下で、エンコラフェニブおよびセツキシマブの併用療法と標準治療を比較する非盲検、多施設共同、無作為化第Ⅲ相試験（治験実施計画書番号：C4221015） 88. ONO-7913 第Ⅰ相試験根治切除不能な進行又は再発の結腸・直腸がん患者を対象に、一次治療としてONO-7913、ONO-4538並びに標準治療であるFOLFOX及びベバシズマブ又はセツキシマブを併用する非盲検非対照試験（治験実施計画書番号：ONO-7913-04/ONO-4538-107） 89. 原発性直腸癌における腹腔鏡下手術及び一時的人工肛門造設時のCyt-006のセプラフィルム®に対する非劣性試験 90. 直腸癌の腹腔鏡下手術又はロボット支援下手術を受ける 患者を対象としてTRM-270の有効性、安全性及び 操作性をセプラフィルム®と比較する検証的試験	塩澤 学ほか 塩澤 学ほか 塩澤 学ほか 塩澤 学ほか 塩澤 学ほか 塩澤 学ほか 塩澤 学ほか 塩澤 学ほか 塩澤 学ほか
頭 頸 部 外 科	1. 再発・転移頭頸部癌に対して免疫チェックポイント阻害薬の投与を行った症例に対する後方視的研究 2. 上咽頭癌照射後再発へのアルミノックス治療に関する多機関共同観察研究	松木 崇, ほか3名 松木 崇, ほか3名
乳 腺 外 科	1. 高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とベルツズマブ+トラスツズマブ+ドセタキセル療法のランダム化比較第Ⅲ相試験 2. 薬物療法非抵抗性StageⅣ乳癌に対する原発巣切除の意義（原発巣切除なしversusあり）に関するランダム化比較試験 3. 再発高リスク乳癌術後患者の標準的フォローアップとインテンシブフォローアップ比較第Ⅲ相試験 4. 薬物療法により臨床的完全奏効が得られたHR陰性HER2陽性原発乳癌に対する非切除療法の有用性に関する単群検証的試験	山下年成・山中隆司他 山下年成・山中隆司他 山下年成・山中隆司他 山下年成・山中隆司他

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	5. 「再発高リスク乳癌術後患者の標準的フォローアップとインテンシブフォローアップの比較Ⅲ相試験」の附随研究ctDNAによる乳癌再発の早期検出に関する探索的研究 6. cN+原発性乳癌に対する新たな腋窩縮小手術Tailored axillary surgery (TAS) の安全性と有用性に関するFeasibility試験 7. オリゴ転移を有する進行乳癌に対する根治的局所療法追加の意義を検証するランダム化比較試験 8. ホルモン受容体陽性HER2陰性乳癌局所領域再発に対する根治的治療後アベマシクリブの有効性を評価するランダム化比較試験 (AURA) 9. PD-L1陽性転移再発トリプルネガティブ乳癌に対するパクリタキセル+ベバシズマブ導入療法後アテゾリズマブ+ナブパクリタキセル療法の効果を評価するランダム化第Ⅱ相試験 (INDUCE trial) 10. 日本のリアルワールドデータを用いた進行・再発乳癌に対するオラパリブ治療の検討 11. 化学療法歴のあるHER2低発現の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたトラスツマブ デルクテスカンの多機関共同前向き観察研究 12. 男性乳がんの臨床病理学的特徴と予後因子についての多機関共同後ろ向き研究 (OASIS MALE BC) 13. HR+, HER2- 高リスク早期乳癌の患者及びアベマシクリブ治療6か月時点の継続性を調査する国際共同リアルワールドエビデンス研究 14. 薬物療法により臨床的完全奏効が得られた HER2 陽性原発乳癌に対する非切除療法を目指す JCOG1806 治療戦略を経験した際の心理的葛藤の有無を患者経験価値にて評価する横断的観察研究 15. 「周術期乳癌を対象とした新規薬剤開発に関する持続可能なプラットフォーム試験 (S-FACT)」の附随研究	山下年成・山中隆司他 山下年成・山中隆司他 山下年成・山中隆司他 山下年成・山中隆司他 山下年成・山中隆司他 山下年成・山中隆司他 山下年成・山中隆司他 山下年成・山中隆司他 山下年成・山中隆司他 山下年成・山中隆司他 山下年成・山中隆司他
婦 人 科	1. プラチナ製剤を含む化学療法による一時治療が奏功した卵巣癌患者を対象に、Rucapalib 及び ニボルマブの維持療法を検討する、多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、第Ⅲ相試験 (ATHENA) 2. JCOG1412リンパ節転移リスクを有する子宮体癌に対する傍大動脈リンパ節郭清の治療的意義に関するランダム化第Ⅲ相試験 3. JCOG1402子宮頸癌術後再発高リスクに対する強度変調放射線治療 (IMRT) を用いた術後同時化学療法の多施設共同非ランダム化検証的試験 4. JGOG3020ステージング手術が行われた上皮性卵巣癌Ⅰ期における補助化学療法の必要性に関するランダム化第Ⅲ相比較試験 5. ONO-4538 ヒト型抗PD-1抗体 第Ⅲ相試験 卵巣がんに対する多施設共同非盲検無作為化試験 6. 個別化医療に向けたマルチプレックス遺伝子パネル検査研究 (Protocol No. NCCH1616) 7. JCOG (日本臨床腫瘍研究グループ) - バイオバンク・ジャパン連携 バイオバンク 8. 卵巣明細胞腺癌が産生するTFPI2の臨床病理学的解析 9. 卵巣がんにおけるIL-34関連分子発現の解析 10. 子宮体がんリンパ節転移予測診断マーカーを用いた術中迅速検査技術の開発	佐治晴哉 佐治晴哉 佐治晴哉 佐治晴哉 佐治晴哉 佐治晴哉他 佐治晴哉 佐治晴哉 佐治晴哉 佐治晴哉他

科 別	研 究 課 題	研 究 者 名
	11. リブタヨ 進行再発子宮頸がん患者を対象とした特定使用成績調査 12. ゼジュラ錠 卵巣癌患者を対象とした特定使用成績調査 13. JCOG1203上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験 14. JCOG1311試験 IVB期および再発・増悪・残存子宮頸癌に対するConventional Paclitaxel/Carboplatin±Bevacizumab併用療法 vs. Dose-dense Paclitaxel/Carboplatin±Bevacizumab併用療法のランダム化第Ⅱ/Ⅲ相比較試験 15. 局所進行子宮頸部腺癌に対する炭素イオン線治療の第Ⅱ相臨床試験 16. 卵巣癌の治療応答性予測におけるHE4の有用性に関する検討 17. JGOG2055s試験 術後化学療法後の進行・再発子宮体癌患者に対する全身薬物療法に関する観察研究（PEACH試験） 18. JGOG2055s-TR1切除不能な施行・再発の子宮体癌患者に対する前向き観察研究における付随研究（JGOG2055s-TR1試験） 19. 日本医療研究開発機構：卵巣癌早期発見のためのAI血液診断モデルの開発 ～癌関連糖蛋白と網羅的血清糖ペプチドビッグデータを用いて～ 20. 子宮頸癌に対するROS1/ALKバイオマーカー探索研究（JGOG1089s MARK study） 21. JGOG-ToMMOo（東北メディカル・メガバンク機構）バイオバンク事業	佐治晴哉 佐治晴哉他 佐治晴哉他 佐治晴哉他 佐治晴哉他 佐治晴哉 佐治晴哉 佐治晴哉 佐治晴哉 佐治晴哉 佐治晴哉
東 洋 医 学 科	1. 漢方サポートとがんのQOL 2. 東洋医学AIの開発	板倉英俊 板倉英俊
免 疫 療 法 科	1. 「切除不能または再発胆道癌を対象としたゲムシタビン/シスプラチン/S-1（GCS）療法とゲムシタビン/シスプラチン/免疫チェックポイント阻害薬療法のランダム化比較第Ⅲ相試験」に付随するバイオマーカーの探索研究 2. がん細胞の遺伝子変異に対する免疫応答の解析 3. 免疫チェックポイント阻害剤治療におけるバイオマーカー同定および耐性メカニズムの解明 4. 進行・再発非小細胞肺癌における免疫チェックポイント阻害剤の患者層別化マーカーに関する検証研究 5. 進行・再発胃癌・食道がんにおける免疫チェックポイント阻害剤の患者層別化マーカーに関する探索的研究 6. 放射線治療の免疫学的影響の解析 7. 頭頸部粘膜悪性黒色腫に対する重粒子線治療後のニボルマブによる維持療法の前向き観察研究	笹田哲朗, 上野 誠ほか, ほか国内44施設 笹田哲朗, 廣島幸彦, 中井川 昇ほか 笹田哲朗ほか, ほか国内3施設 笹田哲朗, 斎藤春洋ほか, ほか国内4施設 笹田哲朗, 大島 貴ほか, ほか国内3施設 氷室秀知, 加藤弘之ほか, ほか国内1施設 氷室秀知, 加藤弘之ほか
麻 酔 科	1. 術前経口補水摂取量と麻酔導入直後の血圧低下に関する検討—待機手術患者1,000例を対象としたレトロスペクティブ研究—	古賀資和, 谷口英喜, 大熊歌奈子, 高野修身, 佐々木俊郎
病 理 診 断 科	1. 前立腺癌における転移機構の解明 2. 肉腫における鎌状血管形成に関する研究 3. 原発不明癌におけるBRG1発現の意義	大久保陽一郎 鷺見公太 長谷川知愛

第2節 研 究 業 績

循環器内科

学会発表

1. 常松尚志, 有症候性と無症候性がん治療関連心機能障害 (CTRCD) の差違, 第7回日本腫瘍循環器学会学術集会, 姫路, 8/2024
2. 常松尚志, がん治療関連心機能障害におけるダパグリフロジンの有用性に関する検討, 第7回日本腫瘍循環器学会学術集会, 姫路, 8/2024

呼吸器内科

発表論文

(英文)

1. Murakami S, Shinada K, Yuka Otsutsumi, Fumiko Komine, Yuan Yuan, Junko Nakamura, Katakura S, Kondo T, Kato T, Tomoyuki Yokose, Saito H: Comparison between next - generation sequencing and multiplex polymerase chain reaction assays for nonsmall - cell lung cancer molecular diagnosis. Cancer Med, Apr; 13 (7): e7162, 2024
2. Peters S, Cho BC, Luft AV, Alatorre-Alexander J, Geater SL, Laktionov K, Trukhin D, Kim SW, Ursol GM, Hussein M, Lim FL, Yang CT, Araujo LH, Saito H, Reinmuth N, Lowery C, Mann H, Stewart R, Jiang H, Garon EB, Mok T, Johnson ML: Durvalumab With or Without Tremelimumab in Combination With Chemotherapy in First-Line Metastatic NSCLC: Five-Year Overall Survival Outcomes From the Phase 3 POSEIDON Trial. J Thorac Oncol, Jan; 20(1): 76-93, 2025
3. Garon EB, Cho BC, Luft A, Alatorre-Alexander J, Geater SL, Trukhin D, Kim SW, Ursol G, Hussein M, Lim FL, Yang CT, Araujo LH, Saito H, Reinmuth N, Kohlmann M, Lowery C, Mann H, Peters S, Mok TS, Johnson ML: A Brief Report of Durvalumab With or Without Tremelimumab in Combination With Chemotherapy as First-Line Therapy for Metastatic Non-Small-Cell Lung Cancer: Outcomes by Tumor PD-L1 Expression in the Phase 3 POSEIDON Study. Clin Lung Cancer, May; 25(3): 266-273, 2024
4. Imai H, Kijima T, Azuma K, Kishi K, Saito H, Yamaguchi T, Tanizaki J, Yoneshima Y, Fujita K, Watanabe S, Kitazono S, Fukuhara T, Hataji O, Toi Y, Mizutani H, Hamakawa Y, Maemondo M, Ohsugi T, Suzuki K, Horinouchi H, Ohe Y: First-line nivolumab plus ipilimumab with or without chemotherapy for Japanese patients with non-small cell lung cancer: LIGHT-NING study. Jpn J Clin Oncol, Apr 6; 54(4): 452-462, 2024
5. Nishio M, Watanabe S, Udagawa H, Aragane N, Nakagawa Y, Kobayashi Y, Saito H: Integrated analysis of older adults and patients with renal dysfunction in the IMpower130 and IMpower132 randomized controlled trials for advanced non-squamous non-small cell lung cancer. Lung Cancer, Oct; 196: 107859, 2024
6. Shigeta N, Murakami S, Yokose T, Isaka T, Shinada K, Nagashima T, Adachi H, Shigefuku S, Murakami K, Miura J, Kikunishi N, Watabe K, Saito H, Ito H: Comparison of SP263 and 22C3 pharmDx assays to test programmed death ligand-1 (PD-L1) expression in surgically resected non-small cell lung cancer. Thorac Cancer, Jun; 15(17): 1343-1349, 2024
7. Harada T, Sasaki T, Ishii H, Takemoto S, Hisamatsu Y, Saito H, Yoneshima Y, Komiya K, Kashiwabara K, Naoki K, Ogawa T, Takeoka H, Saruwatari K, Ito K, Tsuchiya-Kawano Y, Mizuno K, Shimose T, Shioyama Y, Okamoto I: A phase II study of weekly carboplatin and concurrent radiotherapy in older adults with locally advanced non-small cell lung cancer (LOGIK1902). Thorac Cancer, Oct; 15(29): 2128-2135, 2024
8. Horaguchi S, Nakahara Y, Igarashi Y, Kouro T, Wei F, Murotani K, Udagawa S, Higashijima N, Matsuo N, Murakami S, Kato T, Kondo T, Xiang H, Kasajima R, Himuro H, Tsuji K, Mano Y, Komahashi M, Miyagi Y, Saito H, Azuma K, Uehara S, Sasada T: Prognostic Significance of Plasma Neutrophil Extracellular Trap Levels in Patients with Non-Small Cell Lung Cancer Treated with Immune Checkpoint Inhibitors. Biomedicines, Aug 12; 12(8): 1831, 2024
9. Xiang H, Kasajima R, Azuma K, Tagami T, Hagiwara A, Nakahara Y, Saito H, Igarashi Y, Wei F, Ban T, Yoshihara M, Nakamura Y, Sato S, Koizume S, Tamura T, Sasada T, Miyagi Y: Multi-omics analysis-based clinical and functional significance of a novel prognostic and immunotherapeutic gene signature derived from amino acid metabolism pathways in lung adenocarcinoma. Front Immunol, Dec 13; 15: 1361992, 2024
10. Hamaguchi T, Ueno M, Kobayashi S, Tezuka S, Morimoto M, Kato T, Saito H, Sato S, Furuse J, Maeda S: Steroid-Refractory Immune-Related Hepatitis Caused by Pembrolizumab with Stage IVB Non-Small Cell

Lung Cancer: A Case Report. Case Rep Gastroenterol, Dec 23; 19(1): 14-21,2024

11. Tanaka K, Sugisaka J, Shiraishi Y, Watanabe Y, Daga H, Azuma K, Nishino K, Mori M, Ota T, **Saito H**, Hata A, Sakaguchi T, Kozuki T, Akamatsu H, Matsumoto H, Tachihara M, Wakuda K, Sato Y, Ozaki T, Tsuchiya-Kawano Y, Yamamoto N, Nakagawa K, Okamoto I: Serum VEGF-A as a biomarker for the addition of bevacizumab to chemo-immunotherapy in metastatic NSCLC. Nat Commun, Mar 22; 16(1): 2825, 2025
12. Nakamichi S, Kubota K, Misumi T, **Kondo T**, **Murakami S**, Shiraishi Y, Imai H, Harada D, Isobe K, Itani H, Takata S, Wakui H, Misumi Y, Ikeda S, Asao T, Furuya N, Hosokawa S, Kobayashi Y, Takiguchi Y, Okamoto H: Phase II Study of Durvalumab Immediately after Completion of Chemoradiotherapy in Unresectable Stage III Non-small Cell Lung Cancer: TORG1937 (DATE Study). Clin Cancer Res, Mar 15; 30(6): 1104-1110, 2024
13. Hayashi H, Nishio M, Akamatsu H, Goto Y, Miura S, Gemma A, Yoshino I, Misumi T, Kijima T, Takase N, Fujita M, Tasaka S, Mouri A, **Kondo T**, Takamura K, Kawashima Y, Imaizumi K, Iwasawa S, Nakagawa S, Mitsudomi T: Association between Immune-Related Adverse Events and Atezolizumab in Previously Treated Patients with Unresectable Advanced or Recurrent Non-Small Cell Lung Cancer. Cancer Res Commun, Nov 1; 4(11): 2858-2867, 2024
14. Ashizawa K, Maruyama Y, Kobayashi T, **Kondo T**, Nakagawa T, Hatakeyama M, Matsusako M, Hayashi H, Subcommittee LCDC: Guidelines for the management of pulmonary nodules detected by low-dose CT lung cancer screening 6th edition: compiled by the Japanese Society of CT Screening. Jpn J Radiol, Mar; 43(3): 333-346, 2025
15. Lu S, **Kato T**, Dong X, Ahn MJ, Quang LV, Soparattanapaisarn N, Inoue T, Wang CL, Huang M, Yang JC, Cobo M, Özgüroğlu M, Casarini I, Khiem DV, Sriuranpong V, Cronemberger E, Takahashi T, Rungludvatana Y, Chen M, Huang X, Grainger E, Ghiorghiu D, van der Gronde T, Ramalingam SS; LAURA Trial Investigators: Osimertinib after Chemoradiotherapy in Stage III EGFR-Mutated NSCLC. N Engl J Med, Aug 15; 391(7): 585-597, 2024
16. Spicer JD, Garassino MC, Wakelee H, Liberman M, **Kato T**, Tsuboi M, Lee SH, Chen KN, Dooms C, Majem M, Eigendorff E, Martinengo GL, Bylicki O, Rodríguez-Abreu D, Chaft JE, Novello S, Yang J, Arunachalam A, Keller SM, Samkari A, Gao S; KEYNOTE-671 Investigators: Neoadjuvant pembrolizumab plus chemotherapy followed by adjuvant pembrolizumab compared with neoadjuvant chemotherapy alone in patients with early-stage non-small-cell lung cancer (KEYNOTE-671): a randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. Lancet, Sep 28; 404(10459): 1240-1252, 2024
17. Wu YL, Guarneri V, Voon PJ, Lim BK, Yang JJ, Wislez M, Huang C, Liam CK, Mazieres J, Tho LM, Hayashi H, Nhung NV, Chia PL, de Marinis F, Raskin J, Zhou Q, Finocchiaro G, Le AT, Wang J, Dooms C, **Kato T**, Nadal E, Hin HS, Smit EF, Wermke M, Tan D, Morise M, O'Brate A, Adrian S, Pfeiffer BM, Stroh C, Juraeva D, Strotmann R, Goteti K, Berghoff K, Ellers-Lenz B, Karachaliou N, Le X, Kim TM; INSIGHT 2 investigators: Tepotinib plus osimertinib in patients with EGFR-mutated non-small-cell lung cancer with MET amplification following progression on first-line osimertinib (INSIGHT 2): a multicentre, open-label, phase 2 trial. Lancet Oncol, Aug; 25(8): 989-1002, 2024
18. Ikeda S, Ogura T, **Kato T**, Kenmotsu H, Agemi Y, Tokito T, Ito K, Isomoto K, Takiguchi Y, Yoneshima Y, Yokoyama T, Harada T, Tanzawa S, Kobayashi N, Iwasawa T, Misumi T, Okamoto H: Nintedanib plus Chemotherapy for Small Cell Lung Cancer with Comorbid Idiopathic Pulmonary Fibrosis. Ann Am Thorac Soc, Apr; 21(4): 635-643, 2024
19. Morise M, **Kato T**, Matsumoto S, Inoue T, Sakamoto T, Tokito T, Atagi S, Kozuki T, Takeoka H, Chikamori K, Shinagawa N, Tanaka H, Horii E, Adrian S, Bruns R, John A, Paik PK, Sakai H: Long-term experience with tepotinib in Japanese patients with MET exon 14 skipping NSCLC from the Phase II VISION study. Cancer Sci, Apr; 115(4): 1296-1305, 2024
20. **Kato T**, Yang JC, Ahn MJ, Sakai H, Morise M, Chen YM, Han JY, Yang JJ, Zhao J, Hsia TC, Berghoff K, Bruns R, Vioix H, Lang S, John A, Le X, Paik PK: Efficacy and safety of tepotinib in Asian patients with advanced NSCLC with MET exon 14 skipping enrolled in VISION. Br J Cancer, Jun; 130(10): 1679-1686, 2024
21. Okahisa M, Udagawa H, Matsumoto S, **Kato T**, Yokouchi H, Furuya N, Kanemaru R, Toyozawa R, Nishiyama A, Ohashi K, Miyamoto S, Nishino K, Nakamura A, Iwama E, Niho S, Oi H, Sakai T, Shibata Y, Izumi H, Sugiyama E, Nosaki K, Umemura S, Zenke Y, Yoh K, Kah Mun Low G, Zhuo J, Goto K: Clinical outcomes in patients with non-small cell lung cancer harboring EGFR Exon20 in-frame insertions in the near-loop and far-loop: Results from LC-SCRUM-Asia. Lung Cancer, May; 191: 107798, 2024

22. Hochmair MJ, Vermaelen K, Mountzios G, Carcereny E, Doms C, Lee SH, Morocz E, **Kato T**, Ciuleanu TE, Dy GK, Parente B, O'Byrne KJ, Chu QS, Castro Junior G, Girard N, Snyder W, Tran Q, Kormany W, Houk B, Mehta B, Curioni-Fontecedro A: Sotorasib (960 mg or 240 mg) once daily in patients with previously treated KRAS G12C-mutated advanced NSCLC. *Eur J Cancer*, Sep; 208: 114204, 2024
23. Umemura S, Udagawa H, Ikeda T, Murakami H, Daga H, Toyozawa R, Kozuki T, Sakakibara-Konishi J, Ohe Y, Morise M, **Kato T**, Shingyoji M, Hara S, Furuya N, Teranishi S, Takata S, Miyamoto S, Nakachi I, Wakabayashi M, Nomura S, Sato A, Ishii G, Tsuchihara K, Sugiyama E, Kirita K, Sakai T, Shibata Y, Izumi H, Nosaki K, Zenke Y, Matsumoto S, Yoh K, Niho S, Goto K: Clinical Significance of a Prospective Large Genomic Screening for SCLC: The Genetic Classification and a Biomarker-Driven Phase 2 Trial of Gedatolisib. *J Thorac Oncol*, Feb; 20(2): 177-193, 2025
24. Takeda M, Shimokawa M, Nakamura A, Nosaki K, Watanabe Y, **Kato T**, Hayakawa D, Tanaka H, Takahashi T, Oki M, Tachihara M, Fujimoto D, Hayashi H, Yamaguchi K, Yamamoto S, Iwama E, Azuma K, Hasegawa K, Yamamoto N, Nakagawa K: Corrigendum to "A phase II study (WJOG12819L) to assess the efficacy of osimertinib in patients with EGFR mutation-positive NSCLC in whom systemic disease (T790M-negative) progressed after treatment with first- or second-generation EGFR TKI and platinum-based chemotherapy" [*Lung Cancer* 177 (2023) 44-50]. *Lung Cancer*, Jul; 193: 107852, 2024
25. Hochmair M, Schenker M, Cobo Dols M, Kim TM, Ozyilkan O, Smagina M, Leonova V, **Kato T**, Fedenko A, De Angelis F, Rittmeyer A, Gray JE, Greystoke A, Aggarwal H, Huang Q, Zhao B, Lara-Guerra H, Nadal E: Pembrolizumab With or Without Maintenance Olaparib for Metastatic Squamous NSCLC That Responded to First-Line Pembrolizumab Plus Chemotherapy. *J Thorac Oncol*, Feb; 20(2): 203-218, 2025
26. Kato Y, Udagawa H, Matsumoto S, Izumi H, Ohe Y, **Kato T**, Nishino K, Miyamoto S, Kawana S, Chikamori K, Shingyoji M, Sato Y, Takada Y, Toyozawa R, Azuma K, Tanaka Y, Sakai T, Shibata Y, Sugiyama E, Nosaki K, Zenke Y, Umemura S, Yoh K, Seike M, Goto K: Efficacy of immune checkpoint inhibitors plus platinum-based chemotherapy as 1st line treatment for patients with non-small cell lung cancer harboring HER2 mutations: Results from LC-SCRUM-Asia. *Lung Cancer* Nov; 197: 107992, 2024
27. Fujimoto D, Hayashi H, Murotani K, Toi Y, Yokoyama T, **Kato T**, Yamaguchi T, Tanaka K, Miura S, Tamiya M, Tachihara M, Shukuya T, Tsuchiya-Kawano Y, Sato Y, Ikeda S, Sakata S, Masuda T, Takemoto S, Otsubo K, Shibaki R, Makino M, Okamoto I, Yamamoto N: Prediction of prognosis in lung cancer using machine learning with inter-institutional generalizability: A multicenter cohort study (WJOG15121L: REAL-WIND). *Lung Cancer*, Aug; 194: 107896, 2024
28. Wu YL, Kim HR, Soo RA, Zhou Q, Akamatsu H, Chang GC, Chiu CH, Hayashi H, Kim SW, Goto Y, **Kato T**, Zhou J, Lee VH, Nishio M, Han B, Kim DW, Lu S, Polli A, Martini JF, Toffalorio F, Wong CH, Mok T: First-line lorlatinib versus crizotinib in Asian patients with advanced ALK-positive NSCLC: 5-year outcomes from the CROWN study. *J Thorac Oncol*, Feb 28: S1556-0864(25) 00097-8, 2025
29. Gray JE, Schenker M, Sendur MAN, Leonova V, Kowalski D, **Kato T**, Orlova R, Yang JC, Langleben A, Pilz A, Ungureanu A, Mak MP, De Angelis F, Aggarwal H, Zimmer Z, Zhao B, Shamoun M, Kim TM: The Phase 3 KEYLYNK-006 Study of Pembrolizumab Plus Olaparib Versus Pembrolizumab Plus Pemetrexed as Maintenance Therapy for Metastatic Nonsquamous NSCLC. *J Thorac Oncol*, Feb; 20(2): 219-232, 2025
30. Kenmotsu H, Sakai K, Mori K, **Kato T**, Sugawara S, Kirita K, Yoneshima Y, Azuma K, Nishino K, Teraoka S, Koyama R, Masuda K, Hayashi H, Toyozawa R, Miura S, Sato Y, Nakagawa K, Yamamoto N, Nishio K, Takahashi T: Final Analysis Data and Exploratory Biomarker Analysis of a Randomized Phase 2 Study of Osimertinib Plus Bevacizumab Versus Osimertinib Monotherapy for Untreated Patients With Nonsquamous NSCLC Harboring EGFR Mutations: The WJOG9717L Study. *JTO Clin Res Rep*, Aug 23; 5(11): 100716, 2024
31. Herbst RS, John T, Grohé C, Goldman JW, **Kato T**, Laktionov K, Bonanno L, Tiseo M, Majem M, Dómine M, Ahn MJ, Kowalski DM, Pérol M, Sriuranpong V, Özgüroğlu M, Bhetariya P, Markovets A, Rukazenzov Y, Muldoon C, Robichaux J, Hartmaier R, Tsuboi M, Wu YL: Molecular residual disease analysis of adjuvant osimertinib in resected EGFR-mutated stage I B- IIIA non-small-cell lung cancer. *Nat Med*, Mar 17, 2025
32. Garassino MC, He Y, Ahn MJ, Orlov SV, Potter V, **Kato T**, Laskin J, Voon PJ, Reungwetwattana T, Ramalingam SS, Wu YL, Albayaty M, Cross SL, Huang X, Kulkarni D, Cho BC: Osimertinib long-term tolerability in patients with EGFRm NSCLC enrolled in the AURA program or FLAURA study. *Lung Cancer*,

Jan 31; 202: 108417, 2025

33. Horaguchi S, Nakahara Y, Igarashi Y, Kouro T, Wei F, Murotani K, Udagawa S, Higashijima N, Matsuo N, Murakami S, **Kato T**, **Kondo T**, Xiang H, Kasajima R, Himuro H, Tsuji K, Mano Y, Komahashi M, Miyagi Y, **Saito H**, Azuma K, Uehara S, Sasada T: Prognostic Significance of Plasma Neutrophil Extracellular Trap Levels in Patients with Non-Small Cell Lung Cancer Treated with Immune Checkpoint Inhibitors. *Biomedicines*, Aug 12; 12(8): 1831, 2024
34. Nakayama S, Yoshizawa A, Tsurutani J, Yoshimura K, Aoki G, Iwamoto T, Nagase H, Sugimoto N, Kobayashi K, Izumi S, **Kato T**, Miyazaki Y, Kurihara Y, Taira N, Aihara T, Kikawa Y, Mukai H: Real-world incidence of and risk factors for abemaciclib-induced interstitial lung disease in Japan: a nested case-control study of abemaciclib-induced interstitial lung disease (NOSIDE). *Breast Cancer*, Jan; 32(1): 177-185, 2025
35. Jänne PA, Wang BC, Cho BC, Zhao J, Li J, Hochmair M, Peters S, Besse B, Pavlakakis N, Neal JW, **Kato T**, Wu YL, Nguyen D, Lin J, Lin J, Vranceanu F, Szumski A, Lin HM, Fram RJ, Mok TSK: First-Line Mobocertinib Versus Platinum-Based Chemotherapy in Patients With EGFR Exon 20 Insertion-Positive Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer in the Phase III EXCLAIM-2 Trial. *J Clin Oncol*, Jan 29; JCO2401269, 2025
36. Jänne PA, Planchard D, Kobayashi K, Cheng Y, Lee CK, Valdiviezo N, Laktionov K, Yang TY, Yu Y, **Kato T**, Jiang L, Chewaskulyong B, Geater SL, Maurel JM, Rojas C, Takahashi T, Shepherd FA, Tanaka K, Ghiorghiu D, Amin NP, Armenteros-Monterroso E, Huang X, Ahmed Chaudhry A, Yang JC: A plain language summary of results from the FLAURA2 study: Effects of initial (first-line) osimertinib plus chemotherapy on the brain in patients with EGFR-mutated advanced non-small cell lung cancer. *Future Oncol*, Mar 6: 1-12, 2025
37. Akamatsu H, Sakata S, Azuma K, Yoshioka H, Uemura T, Tsuchiya-Kawano Y, Esumi S, Kurosaki T, Sato Y, Sakamoto T, Ninomiya K, Toyozawa R, Yoneshima Y, Shukuya T, Kozuki T, Watanabe K, Daga H, Kato T, Takahashi T, Osuga M, Koh Y, Morita S, Yamamoto N: A single-arm, phase II study of sotorasib plus carboplatin/pemetrexed in advanced non-squamous non-small cell lung cancer patients with KRAS G12C mutation (WJOG14821L, SCARLET). *J Thorac Oncol*, Jan 17: S1556-0864(25) 00007-3, 2025
38. Shiraishi Y, Nomura S, Sugawara S, Horinouchi H, Yoneshima Y, Hayashi H, Azuma K, Hara S, Niho S, Morita R, Yamaguchi M, Yokoyama T, Yoh K, Kurata T, Okamoto H, Okamoto M, Kijima T, Kasahara K, Fujiwara Y, **Murakami S**, Kanda S, Akamatsu H, Takemoto S, Kaneda H, Kozuki T, Ando M, Sekino Y, Fukuda H, Ohe Y, Okamoto I: Comparison of platinum combination chemotherapy plus pembrolizumab versus platinum combination chemotherapy plus nivolumab-ipilimumab for treatment-naïve advanced non-small-cell lung cancer in Japan (JCOG2007): an open-label, multicentre, randomised, phase 3 trial. *Lancet Respir Med*, Nov; 12(11): 877-887, 2024
39. Nogami N, Kubo T, Bessho A, Sakugawa M, Ikeo S, Yokoyama T, Seki N, Ochiai R, Fujimoto N, **Murakami S**, Kaira K, Harada T, Kishino D, Takiguchi Y, Shimokawa T, Kiura K, Yamashita N, Okamoto H: A single arm Phase I / II trial on the combination of carboplatin, nab-paclitaxel and avastin as first-line treatment for advanced non-squamous non-small cell lung cancer (TORIG1424/OLCSG1402: CARNAVAL). *Jpn J Clin Oncol*, Jul 7; 54(7): 805-812, 2024
40. Tsukita Y, Tozuka T, Kushihiro K, Hosokawa S, Sumi T, Uematsu M, Honjo O, Yamaguchi O, Asao T, Sugisaka J, Saito G, Shiihara J, Morita R, **Katakura S**, Yasuda T, Hisakane K, Miyauchi E, Morita S, Kobayashi K, Asahina H: Immunotherapy or Chemoimmunotherapy in Older Adults With Advanced Non-Small Cell Lung Cancer. *JAMA Oncol*, Apr 1; 10(4): 439-447, 2024
41. Kobayashi N, **Katakura S**, Fukuda N, Somekawa K, Kaneko A, Kaneko T: The Impact of Bevacizumab and miR200c on EMT and EGFR-TKI Resistance in EGFR-Mutant Lung Cancer Organoids. *Genes*, Dec 19; 15(12): 1624, 2024

(日本語)

- 森川 慶, 高島雄太, 沖 昌英, 都竹晃文, **村上修司**, 南 大輔, 藤井慎嗣, 品川尚文, 浅野文祐, 佐藤慶治, 中村誠二, 上田由美, 鈴木史彦, 横瀬智之, 峯下昌道: 気管支鏡検体を用いた肺癌マルチ遺伝子検査の現状と課題 細胞検体を用いた肺がんコンパクトパネル検査 (LCCP) の多施設前向き試験 (cPANEL) ペア細胞検体の解析 (会議録). 気管支学 (0287-2137) 46巻Suppl: S178, 2024
- 鈴木祐一郎, **村上修司**, 田中杏奈, 品田佳那子, 成田篤哉, **片倉誠悟**, **近藤哲郎**, **加藤晃史**, 金子 猛, **齋藤春洋**: 当院における気管支鏡的生検検体のがんゲノムプロファイリング検査成功率の検討 (会議録). 気管支学, 0287-2137 46巻 Suppl: 291, 2024
- 成田篤哉, **村上修司**, 品田佳那子, **片倉誠悟**, **近藤哲郎**, **加藤晃史**, **齋藤春洋**: 免疫チェックポイント阻害薬投与後に免疫関連有害事象の肺臓炎を発症しシクロホスファミドの追加投与が奏効した1例 (会議録). 肺癌, 0386-

9628 64巻3号:258, 2024

4. 繁田奈央子, 伊坂哲哉, 村上修司, 横瀬智之, 菊西啓雄, 村上浩太郎, 重福俊佑, 永島琢也, 齋藤春洋, 伊藤宏之: 肺癌における術前気管支鏡下生検検体と手術検体におけるPD-L1発現率の比較. 日本呼吸器外科学会雑誌, 0919-094538巻3号: O15-3, 2024
5. 品田佳那子, 廣島幸彦, 村上修司, 成田篤哉, 片倉誠悟, 近藤哲郎, 加藤晃史, 齋藤春洋, 伊藤宏之, 横瀬智之: 転移再発か異時性多発かの鑑別にがん遺伝子プロファイル検査が有用であった非小細胞肺癌の1例. 肺癌, 0386-9628 64巻2号: 135, 2024
6. 村上浩太郎, 繁田奈央子, 菊西啓雄, 重福俊祐, 伊坂哲哉, 永島琢也, 伊藤宏之, 齋藤春洋, 横瀬智之: 石灰化を認めた肺粘表皮癌に対して右中葉+S6スリーブ切除を施行した1例. 肺癌, 0386-9628 64巻2号: 141, 2024
7. 田川雄斗, 村上修司, 片倉誠悟, 近藤哲郎, 加藤晃史, 齋藤春洋: オンコマインDxTT陰性だがALK-IHC陽性でロルラチニブが奏効したALK融合遺伝子陽性肺癌の1例. 肺癌, 0386-9628 64巻7号: 945, 2024
8. 時任高章, 三浦 理, 三角俊裕, 吉岡弘鎮, 福原達朗, 佐藤悠城, 白石祥理, 楠原政一郎, 赤松弘朗, 倉田宝保, 加藤晃史, 堀之内秀仁, 滝口裕一, 後藤康洋, 田中謙太郎, 森 雅秀, 池田 慧, 市原英基, 田中洋史, 岡本浩明: ACHILLES/TORG1834試験の用量別年齢別サブグループ解析. 肺癌, 0386-9628 64巻5号: 462, 2024
9. 鳥居厚志, 沖 昌英, 森川 慶, 高島雄太, 都竹晃文, 村上修司, 南 大輔, 藤井慎嗣, 品川尚文, 浅野文祐, 中村誠二, 佐藤慶治, 上田由美, 鈴木史彦, 横瀬智之, 峯下昌道: 細胞検体を用いた肺がんコンパクトパネル検査の多施設前向き試験 (cPANEL) ペア細胞検体の解析. 肺癌, 0386-9628 64巻5号: 523, 2024
10. 泉 大樹, 大森翔太, 釦持広知, 高橋利明, 野村尚吾, 原田英幸, 石倉 聡, 安藤昌彦, 新野祐樹, 沖 昌英, 益田 武, 横山俊秀, 細見幸生, 下川恒生, 村上修司, 黒崎 隆, 吉岡弘鎮, 吉田博徳, 平野 聡, 大江裕一郎: 非小細胞肺癌の治療 高齢切除不能Ⅲ期NSCLCに対する化学放射線療法ランダム化第Ⅲ相試験JCOG1914. 肺癌, 0386-9628, 64巻5号: 416, 2024
11. 岡本 勇, 大江裕一郎, 西尾誠人, 渡部 聡, 村上修司, 片上信之, 加藤高英, 中川雄貴, 林 盛彦, 南木敏宏, 山本信之: 小細胞肺癌に対する治療戦略 進展型小細胞肺癌日本人患者に対するアテゾリズマブ+化学療法とベバシズマブの併用 BEAT-SC試験. 肺癌, 0386-9628, 64巻5号: 408, 2024
12. 丸山雄一郎, 芦澤和人, 小林 健, 近藤哲郎, 松迫正樹, 林 秀行: 低線量CTによる肺がん検診の肺結節の判定基準と経過観察の考え方第6版の要点. 肺癌, 0386-9628, 64巻5号: 630, 2024
13. 木村泰浩, 杉本栄康, 田川雄斗, 徳永貴子, 宮沢直幹:

肺多発結節影をきたしたヒストプラズマ症の1例. 神奈川医学会雑誌, 0285-0680, 51巻2号: 147, 2024

著書

村上修司: NGS時代の組織検体処理. 気管支鏡ベストテクニック. 改訂3版, 中外医学社, 2024

学会等発表

1. Kiyotaka Yoh, Kato T, Yoshiro Nakahara, Reiko Isomura, Toshihiro Misumi, Motohiro Tamiya, Naoki Furuya, Akira Ono, Yuichi Takiguchi, Kenichi Koyama, Satoshi Ikeda, Kageaki Watanabe, Takaaki Tokito, Nobuhiko Seki, Hisao Imai, Takehito Shukuya, Yuji Shibata, Shinobu Hosokawa, Toshiyuki Kozuki, Hiroaki Okamoto: Overall survival results of a randomized phase II study of osimertinib plus ramucirumab versus osimertinib alone as initial chemotherapy for EGFR mutation-positive non-squamous non-small cell lung cancer. ASCO 2024 Chicago, 6/2024
2. S Lu, M-J Ahn, T Reungwetwattana, M Özgüroğlu, Kato T, J C-H Yang, M Huang, F Fujiki, T Inoue, L-V Quang, V Sriuranpong, D Vicente, C Fuentes, A A Chaudhry, L Poole 15, E Armenteros Monterroso, Y Rukazenzov, T van der Gronde, S S Ramalingam: Osimertinib after definitive chemoradiotherapy (CRT) in patients with unresectable stage III epidermal growth factor receptor-mutated (EGFRm) non-small cell lung cancer (NSCLC): Primary results of phase 3 LAURA study. ASCO 2024, Chicago, 6/2024
3. Tsuyoshi Hirata, Hiroki Izumi, Shingo Matsumoto, Kazumi Nishino, Kato T, Masahiro Kodani, Kenichi Chikamori, Yukio Hosomi, Satoshi Hara, Yosuke Kawashima, Shoichi Kuyama, Yuji Shibata, Hibiki Udagawa, Tetsuya Sakai, Eri Sugiyama, Kaname Nosaki, Yoshitaka Zenke, Shigeki Umemura, Kiyotaka Yoh, Koichi Goto: Clinical-genomic characteristics in patients with EGFR-mutated non-small cell lung cancer harboring MET copy number gains after progression on EGFR-TKI: A report from LC-SCRUM-TRY. ASCO 2024, Chicago, 6/2024
4. Yuki Kato, Hibiki Udagawa, Shingo Matsumoto, Hiroki Izumi, Yuichiro Ohe, Kato T, Kazumi Nishino, Shingo Miyamoto, Yosuke Kawashima, Kenichi Chikamori, Masato Shingyoji, Yuki Sato, Satoshi Hara, Ryo Toyozawa, Koichi Azuma, Tetsuya Sakai, Yoshitaka Zenke, Shigeki Umemura, Kiyotaka Yoh, Koichi Goto: Efficacy of immunotherapy in first line treatment for non-small cell lung cancer with HER2 mutation: Results from LC-SCRUM-Asia. ASCO 2024, Chicago, 6/2024

5. Marina Chiara Garassino, Heather A. Wakelee, Jonathan Spicer, Moishe Liberman, **Kato T**, Masahiro Tsuboi, Se-Hoon Lee, Ke-Neng Chen, Christophe Alfons Doms, Margarita Majem, Ekkehard Eigendorff, Gastón L. Martinengo, Olivier Bylicki, Delvys Rodriguez-Abreu, Jamie E. Chaff, Jing Yang, Ashwini Arunachalam, Josephine M Norquist, Steven M. Keller, Shugeng Gao: Health-related quality of life (HRQoL) outcomes from the randomized, double-blind phase 3 KEYNOTE-671 study of perioperative pembrolizumab for early-stage non-small-cell lung cancer (NSCLC). ASCO 2024, Chicago, 6/2024
6. Tom John, Christian Grohe, Jonathan W. Goldman, **Kato T**, Konstantin K. Laktionov, Laura Bonanno, Marcello Tiseo, Margarita Majem, Manuel Domine Sr., Myung-Ju Ahn, Maurice Perol, Ryan Hartmaier, Jacquelyne Robichaux, Preetida Bhetariya, Aleksandra Markovets, Yuri Rukazenzov, Caitlin Muldoon, Roy S. Herbst, Masahiro Tsuboi, Yi-Long Wu: Molecular residual disease (MRD) analysis from the ADAURA trial of adjuvant (adj) osimertinib in patients (pts) with resected EGFR mutated (EGFRm) stage I B–III A non-small cell lung cancer (NSCLC). ASCO 2024, Chicago, 6/2024
7. Akito Hata, Taira Ninomaru, Hideaki Okada, Yoshihito Kogure, Masahide Oki, Nobuyuki Katakami, Takashi Kijima, Toshihide Yokoyama, Hirotaka Matsumoto, Yuki Sato, **Kato T**, Shunichi Sugawara, Takeshi Sawada, Kenichi Yoshimura, Takashi Seto, Kazuhiko Nakagawa, Isamu Okamoto, Nobuyuki Yamamoto: Radiation therapy (RT)-free pembrolizumab plus chemotherapy (P+C) for PD-L1 TPS $\geq$ 50% locally advanced non-small cell lung cancer (LA-NSCLC): Primary analysis from multicenter single arm phase II study (Evolution trial; WJOG11819L). ASCO 2024, Chicago, 6/2024
8. Yuki Sato, Satoru Miura, Toshihiro Misumi, Hiroshige Yoshioka, Takaaki Tokito, Tatsuro Fukuhara, Ou Yamaguchi, Toshihide Yokoyama, Shoichi Kuyama, Takayasu Kurata, **Kato T**, Hidehito Horinouchi, Yuichi Takiguchi, Yasuhiro Goto, Kentaro Tanaka, Masahide Mori, Satoshi Ikeda, Eiki Ichihara, Hiroshi Tanaka, Hiroaki Okamoto: Survival outcomes and subgroup analyses derived from a phase III randomized trial comparing afatinib to chemotherapy in treatment-naïve non-small cell lung cancer with a sensitizing uncommon epidermal growth factor receptor mutation (ACHILLES/TORG1834). ASCO 2024, Chicago, 6/2024
9. Melissa Lynne Johnson, Edurne Arriola, **Kato T**, Nicolas Girard, Shirish M. Gadgil, Jie Wang, Xia Li, Caitlin Lowery, Lee M. Krug, Myung-Ju Ahn: eVOLVE-Lung02: A phase 3 study of first-line (1L) volrustomig plus chemotherapy (CT) versus pembrolizumab plus CT in metastatic non-small-cell lung cancer (mNSCLC) with PD-L1 tumor cell (TC) expression $<50\%$. ASCO 2024, Chicago, 6/2024
10. **Kato T**: Osimertinib After Definitive CRT in Unresectable Stage III EGFR-mutated NSCLC: Safety Outcomes from the Phase 3 LAURA Study. WCLC 2024, San Diego, 9/2024
11. **Kato T**: Cemiplimab monotherapy for 1L advanced NSCLC 第22回日本臨床腫瘍学会, 神戸, 3/2025
12. **村上修司**, 品田佳那子, 成田篤哉, **片倉誠悟**, **近藤哲郎**, 築地 淳, **加藤晃史**, **齋藤春洋**: NSCLCにおける血液検体を使用したCGP検査の経験. 第64回日本呼吸器学会学術集会, 横浜, 4/2024
13. 山口哲平, 今井久雄, 戸井之裕, 東 公一, 木島貴志, 岸一 馬, 渡部 聡, **齋藤春洋**, 高島雄太, 丹保裕一, 安田浩之, 畑地 治, 岡田守人, 佐藤悠城, 青江啓介, 大杉友之, 飛嶋 雄, 堀之内秀仁, 大江裕一郎: 免疫チェックポイント阻害剤 LIGHT-NING第4回中間解析 日本におけるNSCLCに対する1L nivolumab+ipilimumab+/-化学療法 (LIGHT-NING 4 th interim analysis: 1L nivolumab+ipilimumab+/-chemotherapy for NSCLC in Japan). 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
14. 田中謙太郎, 杉坂 淳, 白石祥理, 渡辺恭孝, 駄賀晴子, 東 公一, 西野和美, 森 雅秀, 寺嶋広顕, **齋藤春洋**, 秦 明登, 坂口 直, 上月稔幸, 山本信之, 中川和彦, 岡本 勇: 血清中VEGF-Aは, 免疫療法にベバシズマブを併用すべき患者を同定する効果予測因子である. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
15. 繁田奈央子, **村上修司**, 伊坂哲哉, 鷺見公太, 末石結衣, 松山遼太郎, 菅野千晶, 重福俊祐, 永島琢也, **齋藤春洋**, 伊藤宏之: 原発性肺癌の術前生検検体においてPD-L1発現が過小評価される因子についての検討. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
16. 戸井之裕, 今井久雄, 山口哲平, 東 公一, 木島貴志, 岸一 馬, 渡部 聡, **齋藤春洋**, 高島雄太, 丹保裕一, 安田浩之, 畑地 治, 岡田守人, 佐藤悠城, 青江啓介, 大杉友之, 飛嶋 雄, 堀之内秀仁, 大江裕一郎: NSCLCにおける1Lnivolumab+ipilimumab後の早期進行の解析 LIGHT-NING. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
17. 品田佳那子, **村上修司**, **片倉誠悟**, **近藤哲郎**, 横瀬智之, **齋藤春洋**: MET exon 14 skippingをOncomineDxのみで検出した非小細胞肺癌患者の内MET増幅を有す割合についての探索的研究. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
18. **加藤晃史**: EGFR変異肺がん治療ラインは前へ前へ. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024

19. 竹ヶ原京志郎, 久保田晶子, 後藤まどか, 川原光恵, 朝山慶, 村上修司: 治療を考える病理診断 ドライバー変異アレル頻度と腫瘍含有率の関係: cPANEL探索的解析. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
20. 加藤晃史: がんゲノム医療におけるリキッドバイオプシーの有用性肺がんゲノム医療のホライズンを追いかけて〜ドライバーマルチ検査では終わらないCGPでリ・スクリーニングを!〜. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
21. 加藤晃史: 使用成績調査という名のRWD 〜だんだんわかってきたテブミトコの実力〜. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
22. 加藤晃史, 藤本大智, 室谷健太: 進展型小細胞肺癌の治療戦略. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
23. 加藤晃史: テポチニブにおける実臨床下での間質性肺疾患の発現状況の検討中間報告2. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
24. 田川雄斗, 村上修司, 片倉誠悟, 近藤哲郎, 加藤晃史, 齋藤春洋: EGFR陽性肺癌1EGFR遺伝子変異陽性NSCLCに対する一次治療オシメルチニブの検討. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
25. 齋藤春洋: 肺癌治療における有害事象マネジメント. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
26. 近藤哲郎, 田川雄斗, 片倉誠悟, 村上修司, 加藤晃史, 齋藤春洋: 抗PD-L1抗体を用いた術後補助化学療法例に関する検討. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
27. 片倉誠悟, 田川雄斗, 村上修司, 近藤哲郎, 加藤晃史, 齋藤春洋: 当院におけるアレクチニブ耐性ALK融合遺伝子陽性肺癌に対するALK阻害薬について第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
28. 村上修司, 品田佳那子, 小堤由香, 横瀬智之, 袁 媛, 仲村順子, 小峰富美子, 田川雄斗, 片倉誠悟, 近藤哲郎, 加藤晃史, 齋藤春洋: 胸水セルブロック検体を用いたAmoyDx肺癌PCR遺伝子マルチの検討. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
29. 村上修司: ドライバー変異アレル頻度と腫瘍含有率の関係: cPANEL探索的解析. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
30. 泉 大樹, 平田剛士, 松本慎吾, 西野和美, 加藤晃史, 小谷昌広, 細見幸生, 後藤功一: EGFR-TKI耐性後にMETコピー数増加を有するEGFR変異陽性非小細胞肺癌の特徴 LC-SCRUM-TRY. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
31. 柴木亮太, 赤松弘朗, 室谷健太, 岡田守人, 西野和美, 加藤晃史, 和久田一茂, 光富徹哉, 多田弘人, 吉村健一, 山本信之: 完全切除EGFR陽性NSCLCに対するプラチナ併用+Atezo術後療法第2相試験(WJOG11719L)IMPACT試験の統合解析. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
32. 佐治 久, 加藤晃史, 岡田守人, 池田徳彦, 高持一矢, 杉尾賢二, 堀尾芳嗣, 田中文啓, 西尾 渉, 武藤哲史, 堀之内秀仁, Wakelee Heather, Spicer Jonathan, Moishe Liberman, Shugeng Gao, 韓 士榮, 森 智子, Keller Steven, Deng Xuan, 坪井正博: 周術期治療の到達点と課題. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
33. 泉 大樹, 松本慎吾, 葉 清隆, 西野和美, 加藤晃史, 榊原 純, 後藤功一: 臨床現場における遺伝子解析の現状と未来 LTK融合遺伝子を標的とした個別化治療の開発を目指したLTK融合遺伝子スクリーニング. 第65回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 11/2024
34. 村上修司: -Osimertinib After Definitive CRT in Unresectable Stage III EGFR-mutated NSCLC: Safety Out comes from the Phase 3 LAURA Study. 第199回日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 07/2024
35. 村上修司: さらに飛躍を目指す肺がん治療: EGFR uncommon変異の検出と治療戦略の最新動向. 第199回日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 07/2024
36. 齋藤春洋: 免疫チェックポイント阻害剤の現状とみらい. 第64回日本呼吸器学会学術講演会, 横浜, 4/2024
37. 田中良太, 島田直樹, 村上修司, 高崎俊和, 羽場礼次: 肺がんにおける僅少検体を用いた遺伝子パネル検査の現状. 第63回日本臨床細胞学会秋期大会, 千葉, 11/2024

呼吸器外科

(論文)

1. Shigeta N, Murakami S, Yokose T, Isaka T, Shinada K, Nagashima T, Adachi H, Shigefuku S, Murakami K, Miura J, Kikunishi N, Watabe K, Saito H, Ito H. Comparison of SP263 and 22C3 pharmDx assays to test programmed death ligand-1 (PD-L1) expression in surgically resected non-small cell lung cancer Thorac Cancer. 2024 May 3.
2. Cascone T, Awad MM, Spicer JD, He J, Lu S, Sepesi B, Tanaka F, Taube JM, Cornelissen R, Havel L, Karaseva N, Kuzdzal J, Petruzella LB, Wu L, Pujol JL, Ito H, Ciuleanu TE, de Oliveira Muniz Koch L, Janssens A, Alexandru A, Bohnet S, Moiseyenko FV, Gao Y, Watanabe Y, Coronado Erdmann C, Sathyanarayana P, Meadows-Shropshire S, Blum SI, Provencio Pulla M; CheckMate 77T Investigators. Perioperative Nivolumab in Resectable Lung Cancer. N Engl J Med. 2024 May 16; 390(19): 1756-1769.
3. Tsubokawa N, Mimae T, Saeki A, Miyata Y, Kanno C, Kudo Y, Nagashima T, Ito H, Ikeda N, Okada M Feasibility and Comparative Prognosis of Segmentectomy vs. Lobectomy in Centrally Located

- Small and Solid Dominant cN0 Non-Small Cell Lung Cancer J Thorac Cardiovasc Surg. 2025 Feb; 169(2): 427-435. e2.
4. Tsutani Y, Miyata Y, Suzuki K, Tanaka F, Ito H, Yamashita Y, Okada M. Pathologic Response and Survival after Neoadjuvant Chemotherapy with Bevacizumab Followed by Surgery for Clinical Stage II/III A Nonsquamous Non-Small Cell Lung Cancer: Results from a Phase II Feasibility Study (NAVAL). Cancers (Basel). 2024 Jun 27; 16(13): 2363.
 5. Shigeta N, Isaka T, Ono K, Tanaka M, Yokose T, Adachi H, Usuba W, Ito H. Primary lung chordoma: a case report, Diagnostic Pathology (2024) 19:91
 6. Tane S, Okami J, Maniwa Y, Shintani Y, Ito H, Ohtsuka T, Toyooka S, Mori T, Watanabe S, Chida M, Endo S, Nakanishi R, Kadokura M, Suzuki H, Miyaoka E, Yoshino I, Date H; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry Clinical outcomes of left upper segmentectomy vs lobectomy for early non-small-cell lung cancer; A nationwide database study in Japan Surg Today. 2024 Oct; 54(10): 1162-1172.
 7. Kadoya M, Masudo K, Ito H, Okubo Y, Miyagi Y, Hayashi H, Iwasaki H. Neoadjuvant Chemotherapy With Selpercatinib for Locally Advanced RET Fusion-Positive Papillary Thyroid Carcinoma: A Case Report. Case Rep Endocrinol. 2025 Jun 3; 2025: 6676471.
 8. Mimae T, Miyata Y, Tsubokawa N, Kudo Y, Nagashima T, Ito H, Ikeda N, Okada M. Omitting Lymph Node Dissection for Small Ground-Glass Opacity-Dominant Tumors. Ann Thorac Surg. 2025 Jan; 119(1): 192-198.
 9. Tsubokawa N, Mimae T, Saeki A, Miyata Y, Kanno C, Kudo Y, Nagashima T, Ito H, Ikeda N, Okada M. Feasibility and comparative prognosis of segmentectomy versus lobectomy in centrally located small and solid dominant cN0 non-small cell lung cancer. J Thorac Cardiovasc Surg. 2025 Feb; 169(2): 427-435. e2.
 10. Kamigaichi A, Mimae T, Tsubokawa N, Miyata Y, Kudo Y, Nagashima T, Ito H, Ikeda N, Okada M. Segmentectomy versus lobectomy in younger patients with early-stage non-small cell lung cancer. Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg. 2025 Feb 5; 40(2): ivaf024.
 11. Shintani Y, Yamamoto H, Sato Y, Inoue M, Asakura K, Ito H, Uramoto H, Okada Y, Sato T, Fukui M, Hoshikawa Y, Chen-Yoshikawa TF, Chida M, Ikeda N, Yoshino I. Effects of the COVID-19 pandemic on surgical treatment for thoracic malignant tumor cases in Japan: a national clinical database analysis. Surg Today. 2025 Feb; 55(2): 265-272.
 12. Kayawake H, Okami J, Shintani Y, Ito H, Ohtsuka T, Toyooka S, Mori T, Watanabe SI, Asamura H, Chida M, Endo S, Kadokura M, Nakanishi R, Miyaoka E, Yoshino I, Date H; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. Predictors of nodal upstaging in clinical N1 nonsmall cell lung cancer. Jpn J Clin Oncol. 2025 Mar 5; 55(3): 283-289.
 13. Takamochi K, Suzuki K, Okada M, Niho S, Ishikura S, Oyamada S, Yamaguchi T, Horio H, Ikeda N, Tanaka F, Shiono S, Haruki T, Yoshino I, Ito H, Uramoto H, Okumura N, Iwata H, Saji H, Fujiwara T, Funai K, Ueno T, Sugio K, Tsuboi M; Advanced Clinical Trial Chest Surgery Group ACTG. CRES3T: A single-arm confirmatory trial of S-1 plus cisplatin with concurrent radical-dose radiotherapy followed by surgery for superior sulcus tumors. Lung Cancer. 2025 Apr; 202: 108506.
 14. Shigeta N, Yokose T, Isaka T, Nagashima T, Saito H, Ito H, Saito A. Pulmonary Carcinosarcoma Imitating Teratocarcinosarcoma: A Case Report. Pathol Int 75 (4): 196-202. 2025
 15. Tsubokawa N, Mimae T, Miyata Y, Kanno C, Kudo Y, Nagashima T, Ito H, Ikeda N, Okada M. Comparative oncological features of centrally and peripherally located small-sized radiologically solid-dominant non-small-cell lung cancer. Eur J Cardiothorac Surg. 2025 Mar 28; 67(4): ezaf072.
 16. Isaka T, Miyagi Y, Kasajima R, Washimi K, Murakami S, Saito H, Sueishi Y, Shigeta N, Takada I, Matsuyama R, Kanno C, Nagashima T, Ito H. Prognostic implications of MDM2 expression in surgically resected epidermal growth factor receptor mutant lung cancer with pathological lymph node metastasis. Transl Lung Cancer Res. 2025 Jul 31; 14(7): 2571-2583. 2025. 01. 31

(総説)

1. 永島琢也, 伊藤宏之：心膜腔穿刺法と開窓術，呼吸器疾患最新の治療2025-2026 106-108, 2025/2/15

(学会発表)

1. 齋藤春洋, 繁田奈央子, 菊西啓雄, 重福俊佑, 村上浩太郎, 伊坂哲哉, 永島琢也, 品田佳那子, 築地 淳, 成田篤也, 片倉誠悟, 村上修司, 近藤哲郎, 加藤晃史, 伊藤宏之：当センターの肺癌手術例における肺癌CT検診の現状の検討。第64回日本呼吸器学会学術講演会(横浜) 2024. 04. 05
2. 伊坂哲哉, 繁田奈央子, 菊西啓雄, 重福俊佑, 村上浩太郎, 永島琢也, 伊藤宏之：早期肺癌に対する区域切除術と肺葉切除後の長期的内臓脂肪変化の比較。第64回日本呼吸器学会学術講演会(横浜) 2024. 04. 05

3. 伊坂哲哉, 渡部こずえ, 繁田奈央子, 菊西啓雄, 重福俊佑, 村上浩太郎, 永島琢也, 伊藤宏之: 臨床病期0-I 非小細胞肺癌に対する区域切除術と肺葉切除後の内臓脂肪変化の比較. 第124回日本外科学会定期学術集会 (名古屋) 2024. 04. 20
4. 村上浩太郎, 伊坂哲哉, 工藤勇人, 宮田義浩, 繁田奈央子, 菊西啓雄, 重福俊佑, 永島琢也, 岡田守人, 池田徳彦, 伊藤宏之: 臨床病期IB期肺腺癌切除後予後に影響する術前因子の検討: 多施設共同試験. 第124回日本外科学会定期学術集会 (名古屋) 2024. 04. 20
5. 保浦慶之, 村田玄太郎, 中村 生, 山本健嗣, 野間大督, 五来厚生, 安藤耕平, 石川善啓, 禹 哲漢, 山仲一輝, 荒井宏雅, 渡部克也, 大沢宏至, 熊切 寛, 諸星隆夫, 伊藤宏之, 齋藤 綾: 重喫煙歴が, 原発性肺癌における縮小切除症例の再発に及ぼす影響. 第124回日本外科学会定期学術集会 (名古屋), 2024. 04. 20
6. 重福俊佑, 伊坂哲哉, 繁田奈央子, 菊西啓雄, 村上浩太郎, 永島琢也, 宮田義浩, 工藤勇人, 岡田守人, 池田徳彦, 伊藤宏之: 原発巣SUVmax値が非小細胞肺癌臨床病期IB-IIIa術後の患者予後に与える影響. 第124回日本外科学会定期学術集会 (名古屋), 2024. 04. 20
7. Broderick S, Wang C, Tanaka F, Chen KN, Ito H, Liberman M, Chen Q, Girard N, Lu S, Provencio M, Mitsudomi T, Awad MM, Felip E, Swanson S, Forde PM, Cai J, Mahmood J, Hu N, Tran P, Spicer J: Neoadjuvant Nivolumab Plus Chemotherapy Versus Chemotherapy for Resectable Non-Small Cell Lung Cancer: Event-Free Survival by Surgical Outcomes From CheckMate 816, 104th American Association for Thoracic Surgery Annual Meeting; Toronto, Canada 2024. 04. 27
8. Kuzdzal J, Tanaka F, He J, Awad MM, Provencio M, Cascone T, Lu S, Petruzella LB, Ito H, Gao Y, Kambartel K, Gonzalez R, Cornelissen R, Karaseva N, Pujol JL, Bestvina C, Lupinacci L, Faisal W, Erdmann CC, Sathyanarayana P, Devas V, Spicer J: Surgical outcomes with perioperative Nivolumab in patients with resectable NSCLC from the phase 3 CheckMate 77T study, 104th American Association for Thoracic Surgery Annual Meeting; Toronto, Canada 2024. 04. 27
9. 上垣内 篤, 見前隆洋, 坪川典史, 宮田義浩, 工藤勇人, 永島琢也, 伊藤宏之, 池田徳彦, 岡田守人: 病変全体径2 cm超3 cm以下かつ充実成分優位な肺野末梢早期非小細胞肺癌における区域切除の妥当性. 第41回日本呼吸器外科学会 (長野) ワークショップ, 2024. 05. 31
10. 工藤勇人, 嶋田善久, 見前隆洋, 萩原 優, 垣花昌俊, 大平達夫, 永島琢也, 宮田義浩, 伊藤宏之, 岡田守人, 池田徳彦: 腫瘍径3 cmを超える非小細胞肺癌に対する区域切除術. 第41回日本呼吸器外科学会 (長野) ワークショップ, 2024. 05. 31
11. 永島琢也, 繁田奈央子, 菊西啓雄, 重福俊佑, 村上浩太郎, 伊坂哲哉, 伊藤宏之: 原発性肺癌に対し区域切除を施行し, 局所再発をきたした症例の検討. 第41回日本呼吸器外科学会 (長野) 会長企画, 2024. 05. 31
12. 保浦慶之, 小林美駒, 中村 生, 山本健嗣, 野間大督, 五来厚生, 安藤耕平, 石川善啓, 禹 哲漢, 山仲一輝, 荒井宏雅, 渡部克也, 大沢宏至, 熊切 寛, 諸星隆夫, 伊藤宏之, 齋藤 綾: 重喫煙歴が, 原発性肺癌に対する術式毎の再発に及ぼす影響. 第41回日本呼吸器外科学会 (長野), 2024. 05. 31
13. 江里口大介, 伊藤宏之, 足立広幸, 永島琢也, 坪川典史, 見前隆洋, 宮田義浩, 嶋田善久, 岡田守人, 池田徳彦: 胸膜浸潤を伴う小型肺癌における区域切除の是非, 第41回日本呼吸器外科学会 (長野), 2024. 05. 31
14. 足立広幸, 伊藤宏之, 永島琢也, 伊坂哲哉, 村上浩太郎, 重福俊佑, 菊西啓雄, 繁田奈央子, 工藤勇人, 宮田義浩, 岡田守人, 池田徳彦: 積極的區域切除術後の補助化学療法の有効性. 第41回日本呼吸器外科学会 (長野), 2024. 05. 31
15. 繁田奈央子, 伊坂哲哉, 村上修司, 横瀬智之, 菊西啓雄, 村上浩太郎, 重福俊佑, 永島琢也, 齋藤春洋, 伊藤宏之: 肺癌における術前気管支鏡下生検検体と手術検体におけるPD-L1発現率の比較. 第41回日本呼吸器外科学会 (長野), 2024. 05. 31
16. 重福俊佑, 伊坂哲哉, 繁田奈央子, 菊西啓雄, 村上浩太郎, 永島琢也, 伊藤宏之: 肺腺癌臨床病期II-IIIa期完全切除例における原発巣SUVmax値の与える影響. 第41回日本呼吸器外科学会 (長野), 2024. 06. 01
17. 村上浩太郎, 伊坂哲哉, 工藤勇人, 宮田義浩, 繁田奈央子, 菊西啓雄, 重福俊佑, 永島琢也, 岡田守人, 池田徳彦, 伊藤宏之: 臨床病期IB期肺腺癌切除後予後を予測するスコアリングシステムの検討: 多施設共同試験. 第41回日本呼吸器外科学会 (長野), 2024. 06. 01
18. 三好智裕, 伊藤宏之, 若林将史, 関野雄太, 鈴木健司, 坪井正博, 守屋康充, 吉野一郎, 津谷康大, 佐治 久, 岡田守人, 青景圭樹, 福田治彦, 渡辺俊一: すりガラス影優位な末梢型小型肺癌に対する肺部分切除術後に生じる呼吸機能低下のリスク因子. 第41回日本呼吸器外科学会 (長野), 2024. 06. 01
19. 長瀬和可子, 工藤勇人, 永島琢也, 嶋田善久, 萩原 優, 垣花昌俊, 大平達夫, 宮田義浩, 伊藤宏之, 岡田守人, 池田徳彦: 非小細胞肺癌における病理学的胸膜浸潤とリンパ節転移について. 第41回日本呼吸器外科学会 (長野), 2024. 06. 01
20. Hida Y, Suzuki J, Endo M, Takahama M, Kato T, Iyoda A, Watanabe A, Kato H, Ito H, Murakawa T, Nakagawa T, Adachi H, Mikubo M, Asakura K, Minami M, Yamamoto H, Horie N, Sato N: A Phase III Randomized Trial Investigating Preventive Effects of Perioperative Landiolol, a Selective Beta1 Blocker, on

- the Reduction of Recurrence of Completely Resected NSCLC ESMO Congress 2024, the annual scientific meeting of the European Society for Medical Oncology, Barcelona, Spain 2024. 09. 15
21. Mimae T, Miyata Y, Tsubokawa N, Kudo Y, Nagashima T, Ito H, Ikeda N, Okada M: The role of lymph node dissection on segmentectomy for small-sized and radiologically solid dominant non-small cell lung cancer. American Association for Thoracic Surgery 104th Annual Meeting, Toronto, Canada, 2024. 09. 27
22. Cascone T, Awad MM, Spicer JD, He J, Lu S, Sepesi B, Tanaka F, Taube JM, Cornelissen R, Havel L, Karaseva N, Kuzdzal J, Petruzella LB, Wu L, Pujol JL, Ito H, Ciuleanu TE, de Oliveira Muniz Koch L, Janssens A, Alexandru A, Bohnet S, Moiseyenko FV, Gao Y, Watanabe Y, Coronado Erdmann C, Sathyanarayana P, Meadows-Shropshire S, Blum SI, Provencio Pulla M; CheckMate 77T Investigators. Surgical Outcomes With Perioperative Nivolumab in Patients With Resectable Non-Small Cell Lung Cancer From the Phase 3 CheckMate 77T Study, International Thoracic Surgical Oncology Summit 2024, New York, NY, USA, 2024. 09. 27
23. 伊藤宏之, 永島琢也, 伊坂哲哉, 重福俊祐, 菅野千晶, 松山遼太郎, 繁田奈央子, 末石結衣: 免疫チェックポイント阻害薬を用いた術前化学療法の実践. 第62回日本癌治療学会学術集会, 福岡, ワークショップ, 2024. 10. 24
24. 伊藤宏之: 局所進行肺癌の治療戦略における外科の役割と技術的課題. 第93回呼吸器合同北陸地方会特別講演, 2024. 10. 27
25. 坪川典史, 見前隆洋, 上垣内 篤, 網岡 潤, 佐伯 彬, 森田竣介, 菅野千晶, 工藤勇人, 永島琢也, 伊藤宏之, 池田徳彦, 宮田義浩, 岡田守人: 中枢型病変全体径2cm以下かつ充実成分優位な早期非小細胞肺癌に対する区域切除の妥当性. 第65回日本肺癌学会総会 (横浜), 2024. 10. 30
26. 伊坂哲哉, 末石結衣, 繁田奈央子, 松山遼太郎, 菅野千晶, 重福俊祐, 永島琢也, 伊藤宏之: 肋間神経による横隔神経再建が術後横隔膜機能に与える影響について. 第65回日本肺癌学会総会 (横浜), 2024. 10. 30
27. 末石結衣, 伊坂哲哉, 繁田奈央子, 松山遼太郎, 菅野千晶, 重福俊祐, 永島琢也, 伊藤宏之: 肺腫瘍術後早期に血流障害を伴う中葉捻転をきたし, 残中葉切除を行った2例. 第65回日本肺癌学会総会 (横浜), 2024. 10. 31
28. 上垣内 篤, 濱田 顕, 岡田守人, 齊藤朋人, 矢島俊樹, 佐治 久, 永島宗晃, 黒田耕志, 竹中朋祐, 伊藤宏之, 春木朋広, 坪井正博, 岡本 勇, 山本信之, 津谷康大: 臨床病期IA3期の肺野末梢充実型非小細胞肺癌に対する肺葉切除と区域切除のランダム化比較Ⅲ相試験. 第65回日本肺癌学会総会 (横浜), 2024. 10. 31
29. 繁田奈央子, 村上修司, 伊坂哲哉, 鷺見公太, 末石結衣, 松山遼太郎, 菅野千晶, 重福俊祐, 永島琢也, 齋藤春洋, 伊藤宏之: 原発性肺癌の術前生検検体においてPD-L1発現が過小評価される因子についての検討. 第65回日本肺癌学会総会 (横浜), 2024. 11. 01
30. Tanaka F, Watanabe Y, Sugawara S, Okami J, Muto S, Okada M, Horio Y, Tsuboi M, Sato Y, Takamochi K, Horinouchi H, Tambo Y, Seike M, Okishio K, Erdmann CC, Sathyanarayana P, Shropshire SM, Ito H: Neoadjuvant nivolumab (N)+chemo (C) and adjuvant N in resectable NSCLC: CheckMate 77T Japanese data. 第65回日本肺癌学会総会 (横浜), 2024. 11. 02
31. Ito H, T Nagashima, T Isaka, S Shigefuku, C Kanno, R Matsuyama, N Shigeta, Y Sueishi: Actual clinical situation of induction therapy with immune checkpoint inhibitors for locally advanced NSCLC. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会 (金沢), ワークショップ, 2024. 11. 02
32. 伊坂哲哉, 末石結衣, 繁田奈央子, 松山遼太郎, 菅野千晶, 重福俊祐, 永島琢也, 伊藤宏之: 早期肺癌患者に対する肺葉切除術と区域切除術後の内臓脂肪組織の変化の比較. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会 (金沢), 2024. 11. 02
33. 菅野千晶, 伊藤宏之, 末石結衣, 繁田奈央子, 松山遼太郎, 重福俊祐, 伊坂哲哉, 永島琢也: 当院における間質性肺炎合併肺癌の治療成績と, 術後間質性肺炎急性増悪に関する検討. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会 (金沢), 2024. 11. 02
34. 坪川典史, 見前隆洋, 上垣内 篤, 網岡 潤, 佐伯 彬, 森田竣介, 菅野千晶, 工藤勇人, 永島琢也, 伊藤宏之, 池田徳彦, 宮田義浩, 岡田守人: 末梢型病変全体径2cm以下かつ画像上GGOを伴うsolid優位な臨床病期IA期非小細胞肺癌に対する部分切除は妥当な術式か?. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会 (金沢), 2024. 11. 03
35. 重福俊祐, 伊坂哲哉, 末石結衣, 松山遼太郎, 繁田奈央子, 菅野千晶, 永島琢也, 伊藤宏之: 高齢者における腫瘍径2-4cmの臨床病期I期pure-solid型非小細胞肺癌における術式毎の予後比較. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会 (金沢), 2024. 11. 03
36. 見前隆洋, 宮田義浩, 坪川典史, 上垣内 篤, 網岡 潤, 佐伯 彬, 森田竣介, 伊藤宏之, 池田徳彦, 岡田守人: 充実性小型肺癌に対する積極的區域切除. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会 (金沢), 2024. 11. 03
37. 工藤勇人, 嶋田善久, 見前隆洋, 永島琢也, 古本秀行, 萩原 優, 垣花昌俊, 大平達夫, 宮田義浩, 伊藤宏之, 岡田守人, 池田徳彦: 人工知能による充実性肺結節診断とリンパ節転移局在の多施設データ解析. 第77回日本胸

部外科学会定期学術集会（金沢），2024. 11. 03

38. 伊藤宏之：Minimally invasive surgery for extended resection after non-surgical treatment. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会（金沢），パネルディスカッション，2024. 11. 04
39. 足立広幸，伊藤宏之，塩見 和，鈴木浩介，高橋伸政，上野 剛，岡崎敏昌，遠藤 誠，塩野知志，関原圭吾，齋藤雄一，齋藤 綾，澤端章好：No-touch isolation techniqueとしての肺部分切除先行肺葉切除法の有用性—本邦25施設の共同研究結果—。第77回日本胸部外科学会定期学術集会（金沢），2024. 11. 04
40. 松山遼太郎，鎗木結衣，繁田奈央子，高田一樹，菅野千晶，伊坂哲哉，永島琢也，伊藤宏之，横瀬智之：病理病期IA2完全切除後1か月で多発遠隔転移再発を来し，急激な転帰を辿ったKRASQ61H変異陽性肺扁平上皮癌の一例，第201回日本肺癌学会関東支部学術集会，2025. 03. 08
41. 菅野千晶，鎗木結衣，繁田奈央子，高田一樹，松山遼太郎，伊坂哲哉，永島琢也，伊藤宏之：左主気管支スリーブ切除を要した中縦隔神経鞘腫の一例。第197回胸部外科学会関東甲信越地方会，2025. 03. 15

（座長）

1. 伊藤宏之：肺-肺癌_周術期治療。第124回日本外科学会定期学術集会（名古屋），2024. 04. 20
2. 伊藤宏之：一般演題14 肺癌周術期治療4。第41回日本呼吸器外科学会（長野），2024. 05. 31
3. 伊藤宏之：局所進行非小細胞肺癌3。第65回日本肺癌学会総会（横浜），2024. 10. 30
4. 伊藤宏之：呼吸器外科における再手術の工夫。第86回日本臨床外科学会学術集会（宇都宮），2024. 11. 21

血液・腫瘍内科（血液）

発表論文

1. Tachibana T, Tanaka M, Noguchi Y, Najima Y, Sadato D, Harada Y, Tamai Y, Doki N, Nakajima H. Successful treatment of two cases with Philadelphia-chromosome positive acute lymphoblastic leukemia who relapsed after allogeneic stem cell transplantation and the treatments with novel immunotherapies and ponatinib. Hematology. 2024 Dec; 29(1): 2360843.
2. Tachibana T, Miyazaki T, Matsumura A, Hagihara M, Tanaka M, Koyama S, Ogusa E, Aoki J, Nakajima Y, Takahashi H, Suzuki T, Ishii Y, Teshigawara H, Matsumoto K, Hatayama M, Izumi A, Ikuta K, Yamamoto K, Kanamori H, Fujisawa S, Nakajima H. Investigation of biomarkers to predict outcomes in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Cytotherapy. 2024 Aug; 26(8): 921-929.

3. Katsuki K, Tachibana T, Izumi A, Kim K, Suzuki T, Tanaka M, Nakajima H. Acute mixed-lineage leukemia treated with desensitization therapy prior to HLA-haploidentical transplantation with high donor-specific antibodies. Int J Hematol. 2024 Aug; 120(2): 256-261.
4. Arai S, Tachibana T, Izumi A, Takeda T, Tamai Y, Sato S, Hashimoto C, Fujimaki K, Ishii R, Kabasawa N, Hirasawa A, Inoue Y, Tanaka M, Suzuki T, Nakajima H. WT1-guided pre-emptive therapy after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in patients with acute myeloid leukemia. Int J Hematol. 2024 Sep; 120(3): 337-346.
5. Nukui J, Tachibana T, Miyazaki T, Tanaka M, Matsumoto K, Ishii Y, Numata A, Nakajima Y, Matsumura A, Suzuki T, Izumi A, Hirose N, Yamamoto K, Hagihara M, Fujisawa S, Nakajima H. Impact of bone marrow nucleated cell subfractions on transplant outcomes in patients with acute lymphoblastic leukemia. Hematology. 2024 Dec; 29(1): 2424053.

（関連論文）

1. Miyazaki T, Tachibana T, Suzuki T, Izumi A, Fujimaki K, Sato S, Tamai Y, Michishita Y, Suzuki T, Ishii R, Hirasawa A, Hashimoto C, Kabasawa N, Inoue Y, Ishiyama T, Yamamoto K, Kanamori H, Tanaka M, Nakajima H. Pretransplantation Inflammatory and Nutritional Status in Elderly Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation: Prognostic Value of C-Reactive Protein-to-Albumin Ratio. Transplant Cell Ther. 2024 Apr; 30(4): 400. e1-400. e9.
2. Ishida H, Arakawa Y, Hasegawa D, Usami I, Hashii Y, Arai Y, Nishiwaki S, Keino D, Kato K, Sato M, Yoshida N, Ozawa Y, Okada K, Hidaka M, Yuza Y, Tanaka M, Watanabe K, Takita J, Kosaka Y, Fujita N, Tanaka J, Sato A, Atsuta Y, Imamura T. Reduced-intensity allogeneic transplantation for children and adolescents with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia. Ann Hematol. 2024 Mar; 103(3): 843-854.
3. Jo T, Inoue K, Ueda T, Iwasaki M, Akahoshi Y, Nishiwaki S, Hatsusawa H, Nishida T, Uchida N, Ito A, Tanaka M, Takada S, Kawakita T, Ota S, Katayama Y, Takahashi S, Onizuka M, Hasegawa Y, Kataoka K, Kanda Y, Fukuda T, Tabuchi K, Atsuta Y, Arai Y. Machine learning evaluation of intensified conditioning on haematopoietic stem cell transplantation in adult acute lymphoblastic leukemia patients. Commun Med (Lond). 2024 Nov 25; 4(1): 247.
4. Jo T, Ueda T, Akahoshi Y, Kondo T, Uchida N, Tanaka M, Nakamae H, Doki N, Ota S, Sawa M,

- Ohigashi H, Maruyama Y, Takayama N, Nishida T, Hiramoto N, Katayama Y, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Arai Y; Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy (JSTCT). First complete remission favours haploidentical haematopoietic stem cell transplantation with post-transplant cyclophosphamide over cord blood transplantation in acute lymphoblastic leukaemia. *Br J Haematol*. 2024 May; 204(5): 1913-1919.
5. Kanda J, Mitsuyoshi T, Sakurai M, Nishimori H, Murata M, Uchida N, Doki N, Inamoto Y, Nishida T, Tanaka M, Katayama Y, Eto T, Matsuoka KI, Yoshihara S, Sawa M, Kawakita T, Jun G, Kurata M, Ichinohe T, Fukuda T, Teshima T, Atsuta Y, Terakura S. Real-World Outcomes of Graft-versus-Host Disease after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation in Japan: Retrospective Analysis of the Transplant Registry Unified Management Program Registry. *Transplant Cell Ther*. 2024 Sep; 30(9): 907. e1-907. e16.
 6. Kawamura S, Tamaki M, Konuma T, Onizuka M, Sakaida E, Hayashi H, Doki N, Nishida T, Sawa M, Ohigashi H, Fukuda T, Ishikawa J, Matsuoka KI, Kawakita T, Tanaka M, Ishimaru F, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda Y, Yakushijin K, Kanda J, Nakasone H. Superiority of BM over PBSC for recipients with pre-transplant lung dysfunction in HLA-matched allogeneic HCT. *Cytotherapy*. 2024 Nov; 26(11): 1353-1361.
 7. Konuma T, Miyao K, Nakasone H, Ouchi F, Fukuda T, Tanaka M, Ozawa Y, Ota S, Kawakita T, Uchida N, Sawa M, Katayama Y, Hiramoto N, Eto T, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda J; Donor/Source Working Group of the Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy. Allogeneic transplantation of bone marrow versus peripheral blood stem cells from HLA-identical sibling donors for hematological malignancies in 6064 adults from 2003 to 2020: different impacts on survival according to time period. *Cytotherapy*. 2024 Aug; 26(8): 910-920.
 8. Konuma T, Uchida N, Takeda W, Doki N, Yoshihara S, Nishida T, Kuriyama T, Tanaka M, Ohigashi H, Nakamae H, Katayama Y, Ota S, Hashii Y, Ishimaru F, Fukuda T, Ohbiki M, Atsuta Y. RhD mismatch does not affect haematopoietic recovery, graft-versus-host disease and survival in allogeneic haematopoietic cell transplantation: A Japanese registry-based study. *Vox Sang*. 2024 Jun; 119(6): 612-618.
 9. Kuriyama K, Fuji S, Ito A, Doki N, Katayama Y, Ohigashi H, Nishida T, Serizawa K, Eto T, Uchida N, Kanda Y, Tanaka M, Matsuoka KI, Nakazawa H, Kanda J, Fukuda T, Atsuta Y, Ogata M. Impact of Different Fludarabine Doses in the Fludarabine-Based Conditioning Regimen for Unrelated Bone Marrow Transplantation. *Transplant Cell Ther*. 2024 May; 30(5): 514. e1-514. e13.
 10. Kurosawa S, Shimomura Y, Ishiyama K, Fuse K, Shimazu Y, Doki N, Uchida N, Tanaka M, Takahashi S, Sakurai M, Kobayashi H, Katayama Y, Takada S, Ozeki K, Nakamae H, Ishimaru F, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Itonaga H. Updated comparable efficacy of cord blood transplantation for chronic myelomonocytic leukaemia: a nationwide study. *Bone Marrow Transplant*. 2024 Jun; 59(6): 742-750.
 11. Kurosawa S, Shimomura Y, Itonaga H, Katayama Y, Onizuka M, Tanaka M, Kobayashi H, Ozawa Y, Sawa M, Kanda J, Doki N, Fujisawa S, Uchida N, Fukuda T, Atsuta Y, Ishiyama K. Comparison of Melphalan Dose in Patients with Myelodysplastic Syndrome Undergoing Allogeneic Transplantation with Reduced-Intensity Conditioning. *Transplant Cell Ther*. 2024 May; 30(5): 510. e1-510. e10.
 12. Kuwatsuka Y, Ito H, Tabuchi K, Konuma T, Uchida N, Inamoto Y, Inai K, Nishida T, Ikegame K, Eto T, Katayama Y, Kataoka K, Tanaka M, Takahashi S, Fukuda T, Ichinohe T, Kimura F, Kanda J, Atsuta Y, Matsuo K. Trends in allogeneic hematopoietic cell transplantation survival using population-based descriptive epidemiology method: analysis of national transplant registry data. *Bone Marrow Transplant*. 2024 Sep; 59(9): 1295-1301.
 13. Kuwatsuka Y, Kasajima R, Yamaguchi R, Uchida N, Konuma T, Tanaka M, Shingai N, Miyakoshi S, Kozai Y, Uehara Y, Eto T, Toyosaki M, Nishida T, Ishimaru F, Kato K, Fukuda T, Imoto S, Atsuta Y, Takahashi S. Machine Learning Prediction Model for Neutrophil Recovery after Unrelated Cord Blood Transplantation. *Transplant Cell Ther*. 2024 Apr; 30(4): 444. e1-444. e11.
 14. Miyashita E, Sugihara N, Tanaka M, Iwasaki H, Monna-Oiwa M, Isobe M, Kato S, Takahashi S, Nannya Y, Tsuru Y, Konuma T. Prevalence and factors of polypharmacy among disease-free survivors of adults after allogeneic hematopoietic cell transplantation. *Leuk Lymphoma*. 2024 Apr; 65(4): 516-520.
 15. Mizuno S, Hosoi H, Takami A, Kawata T, Doki N, Takeda W, Tanaka M, Nishida T, Uchida N, Hasegawa Y, Sawa M, Ota S, Onizuka M, Nakamae H, Asada N, Fukuda T, Yoshimitsu M, Kanda Y, Ohbiki M, Atsuta Y, Konuma T, Yanada M. Reappraising the prognostic relevance of cytogenetic risk in patients with acute myeloid leukemia undergoing allogeneic hematopoietic cell transplantation. *Ann Hematol*. 2024 Dec; 103(12):

5903-5913.

16. Motomura Y, Yoshifuji K, Tachibana T, Takase H, Arai A, Tanaka K, Okada K, Nogami A, Umezawa Y, Sakashita C, Yamamoto M, Mori T, Nagao T. Clinical factors for central nervous system progression and survival in primary vitreoretinal lymphoma. *Br J Haematol.* 2024 Apr; 204(4): 1279-1287.
17. Nishiwaki S, Sugiura I, Fujisawa S, Hatta Y, Atsuta Y, Doki N, Kurahashi S, Ueda Y, Dobashi N, Maeda T, Matsumura I, Tanaka M, Kako S, Ichinohe T, Fukuda T, Ohtake S, Ishikawa Y, Miyazaki Y, Kiyoi H; Japan Adult Leukemia Study Group. Utility of allogeneic stem cell transplantation for adult Ph+ALL with complete molecular remission. *Am J Hematol.* 2024 May; 99(5): 806-815.
18. Ohwada C, Sakaida E, Takeda Y, Doki N, Igarashi A, Onizuka M, Toyosaki M, Tanaka M, Tachibana T, Kataoka K, Kato J, Fujisawa S, Kato S, Nakasone H, Naganuma K, Saitoh T, Shono K, Hagihara M, Saito T, Usuki K, Mori T, Nakaseko C, Okamoto S, Kanda Y. Survival impact of response within the first year in a multicenter prospective observational study of chronic GVHD in a Japanese cohort. *Int J Hematol.* 2024 Sep; 120(3): 347-355.
19. Shimizu H, Kato J, Tanoue S, Kimura SI, Tachibana T, Hatano K, Usuki K, Taguchi J, Hagihara M, Tsukada N, Harada K, Takahashi S, Takada S, Sakaida E, Fujisawa S, Onoda M, Aotsuka N, Handa H, Hatta Y, Nakaseko R, Yano S, Ohashi K, Kanda Y; Kanto Study Group for Cell Therapy (KSGCT). Allogeneic stem cell transplant with TBI-based myeloablative conditioning in adolescents and young adults with Philadelphia chromosome-negative ALL treated with pediatric protocols. *Leuk Res.* 2024 Sep; 144: 107562.
20. Shimomura Y, Kitamura T, Sugita J, Terao T, Satake A, Hirakawa T, Uchida N, Shimabukuro M, Tanaka M, Eto T, Hiramoto N, Kataoka K, Nakamae H, Takase K, Kawakita T, Arai Y, Takeda W, Ishimaru F, Fukuda T, Atsuta Y, Nakasone H, Kanda J. Impact of donor type on the outcomes of acute graft versus host disease to systemic corticosteroid therapy. *Bone Marrow Transplant.* 2024 Dec; 59(12): 1763-1772.
21. Tamaki M, Akahoshi Y, Inamoto Y, Morita K, Uchida N, Doki N, Tanaka M, Nishida T, Ohigashi H, Nakamae H, Onizuka M, Katayama Y, Matsuoka KI, Sawa M, Ishimaru F, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Terakura S, Kanda J. Associations between acute and chronic graft-versus-host disease. *Blood Adv.* 2024 Aug 27; 8(16): 4250-4261.
22. Terao T, Matsuoka KI, Fuji S, Kawamura S, Toya T, Doki N, Uchida N, Tanaka M, Fukuda T, Sawa M, Ishikawa J, Nishida T, Ohigashi H, Maruyama Y, Fujiwara SI, Kanda Y, Ota S, Ishimaru F, Atsuta Y, Kanda J, Ogata M, Yakushijin K, Nakasone H. Association between human herpesvirus-6 encephalitis and antiviral prophylaxis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in the letermovir era. *Bone Marrow Transplant.* 2024 Sep; 59(9): 1224-1231.
23. Mitsuyoshi T, Arai Y, Kondo T, Kawata T, Hirabayashi S, Tanaka M, Mori Y, Doki N, Nishida T, Kotani T, Ogata M, Tabayashi T, Eto T, Sawa M, Imada K, Kanda J, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M. HLA-matched related peripheral blood stem cell and bone marrow transplantation with RIC regimens yield comparable outcomes for adult AML. *EJHaem.* 2025 Jan 21; 6(1): e21088.
24. Tokunaga M, Takahashi H, Hirose N, Hibino Y, Teranaka H, Washimi K, Okubo Y, Hiroshima Y, Tanaka M, Sakai R. SMARCA4-deficient epithelioid sarcoma revealed by comprehensive genomic profiling, leading to a notable response by nivolumab treatment. *Int Cancer Conf J.* 2024 Oct 17; 14(1): 1-6.
25. Mitsuyuki S, Shimomura Y, Mizumaki H, Yanada M, Mizuno S, Uchida N, Doki N, Ito A, Tanaka M, Nishida T, Katayama Y, Yoshihara S, Eto T, Takada S, Ota S, Toyosaki M, Hasegawa Y, Nakamae H, Kawamura K, Onizuka M, Fukuda T, Ohbiki M, Atsuta Y, Konuma T. Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in adult acute myeloid leukemia with t(16;21)(p11;q22)/FUS::ERG. *Leukemia.* 2025 Feb; 39(2): 495-498.
26. Shimomura Y, Kitamura T, Yanada M, Mizuno S, Kondo T, Yoshihara S, Tanaka M, Inai K, Katayama Y, Onizuka M, Fukuda T, Nakamae H, Kurokawa M, Yano S, Nara M, Masuko M, Miyakoshi S, Eto T, Yoshimitsu M, Ishimaru F, Kanda J, Atsuta Y, Konuma T. Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation using reduced intensity conditioning regimen for patients with acute myeloid leukemia not in complete remission. *Cytotherapy.* 2025 Mar; 27(3): 316-323.
27. Harada K, Kanda J, Hirayama M, Wada F, Uchida N, Tanaka M, Nakamae H, Tokunaga M, Ishiwata K, Onizuka M, Hasegawa Y, Fukuda T, Eto T, Kurita N, Kawakita T, Jinguji A, Ishimaru F, Atsuta Y, Nakasone H. Comparison of Nonrelapse Mortality After Haploidentical Hematopoietic Stem Cell Transplantation With Post-transplant Cyclophosphamide Versus Single Umbilical Cord Blood Transplantation in Hematologic Disease. *Transplant Cell Ther.* 2025 Feb; 31(2): 103. e1-103. e13.
28. Konuma T, Kameda K, Morita K, Kondo T, Kimura

- F, Nakasone H, Ouchi F, Uchida N, Tanaka M, Nishida T, Fukuda T, Hasegawa Y, Sakata-Yanagimoto M, Onizuka M, Sawa M, Ota S, Asada N, Fujiwara SI, Yoshihara S, Ishimaru F, Yoshimitsu M, Kanda Y, Ohbiki M, Atsuta Y, Yanada M. Different impacts of granulocyte colony-stimulating factor administration on allogeneic hematopoietic cell transplant outcomes for adult acute myeloid leukemia according to graft type. *Am J Hematol*. 2025 Jan; 100(1): 66-77.
29. Miyao K, Murata M, Nishida T, Ozawa Y, Uchida N, Fukuda T, Doki N, Eto T, Kawakita T, Mori Y, Takada S, Ohigashi H, Tanaka M, Kanda Y, Matsuoka KI, Ishimaru F, Atsuta Y, Kanda J, Terakura S; GVHD Working Group of the Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy. Association between early anti-cytomegalovirus therapy and the incidence of chronic graft-versus-host disease. *Int J Hematol*. 2025 Jan; 121(1): 110-125.
30. Okada Y, Tachi N, Shimazu Y, Murata M, Nishiwaki S, Onishi Y, Jinguiji A, Uchida N, Tanaka M, Hasegawa Y, Ito A, Kako S, Nishida T, Onodera K, Sawa M, Nakamae H, Toyosaki M, Kanda Y, Onizuka M, Fukuda T, Ohbiki M, Atsuta Y, Arai Y, Tachibana T. Comparing de novo chronic myeloid leukemia in blastic phase with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia after allogeneic hematopoietic cell transplantation. *Cancer*. 2025 Jan 1; 131(1): e35627.
31. Yoshimitsu M, Tanaka T, Nakano N, Kato K, Muranushi H, Tokunaga M, Ito A, Ishikawa J, Eto T, Morishima S, Kawakita T, Itonaga H, Uchida N, Tanaka M, Akizuki K, Ishitsuka K, Ohigashi H, Ota S, Ando T, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Fuji S; ATL Working Group of the Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy. Comparative outcomes of various transplantation platforms, highlighting haploidentical transplants with post-transplantation cyclophosphamide for adult T-cell leukaemia/lymphoma. *Br J Haematol*. 2025 Jan; 206(1): 235-249.

(関連論文：和文)

1. 竹田喬亮, 鈴木泰生, 江中牧子, 泉 陽彦, 立花崇孝, 田中正嗣, 藤巻克通, 中島秀明, 臍帯血移植後の髄外再発にvenetoclax + azacitidine併用療法が有効であった急性骨髄性白血病. *臨床血液* 2024 ; 65 (10), 1259-1264,

(学会等発表：海外)

- Akahoshi Y, Inamoto Y, Spyrou N, Nakasone H, Ayuk FA, Choe H, Doki N, Eto T, Etra A, Hexner EO, Hiramoto N, Hogan WJ, Holler E, Kataoka K, Tanaka M, Tanaka T, Uchida N, Vasova I, Ishimaru F, Fukuda T, Chen YB, Kanda J, Nakamura R, Atsuta Y, Ferrara JLM, Kanda Y, Levine J, Teshima T. Refinement of Day 28 Treatment Response Criteria for Acute GVHD: A Collaboration Study of the JSTCT and MAGIC. 66thASH Annual Meeting & Exposition. San Diego, 2024 Dec.
1. Takahashi R, Zaimoku Y, Hosokawa K, Ogawa S, Takahashi Y, Miyamura T, Onishi Y, Koike T, Nishida T, Uchida N, Doki N, Tanaka M, Eto T, Itagaki M, Sawa M, Hasegawa Y, Fukuda T, Onizuka M, Atsuta Y, Nakao S, Katagiri T. Frequent Loss of HLA-B*40:02 from Leukocytes in Male Patients with Hepatitis-Associated Aplastic Anemia. 66th ASH Annual Meeting & Exposition. San Diego, 2024 Dec.
2. Shimizu H, Ashizawa M, Inamoto Y, Kato J, Kimura S, Tanaka M, Tsukamoto S, Nishihara A, Toyosaki M, Nakajima Y, Takada S, Aotsuka N, Takei T, Hagihara M, Shono K, Hatta Y, Umezawa Y, Kobayashi N, Naganuma K, Ohwada C, Kanda Y. The Outcome of Fertility Preservation Strategy in Female Hematopoietic Stem Cell Transplant Recipients of Reproductive Age. Retrospective Study from the Kanto Study Group for Cell Therapy. 66th ASH Annual Meeting & Exposition. San Diego, 2024 Dec.
3. Mitsuyuki S, Shimomura Y, Mizumaki H, Yanada M, Mizuno S, Uchida N, Doki N, Ito A, Tanaka M, Nishida T, Katayama Y, Yoshihara S, Eto T, Kawamura K, Onizuka M, Fukuda T, Ohbiki, Atsuta Y, Konuma T. Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation in Adult Acute Myeloid Leukemia with t(16;21)(p11;q22). 66thASH Annual Meeting & Exposition. San Diego, 2024 Dec.
4. Kurita N, Maruo K, Kimura F, Kuwatsuka Y, Matsukawa T, Konuma T, Kobayashi S, Sakata-Yanagimoto M, Dok N, Tanaka M, Uchida N, Nishida T, Sawa M, Hasegawa Y, Nakamae H, Ota S, Onizuka M, Fukuda T, Ishimaru F, Tabuchi K, Atsuta Y, Kanda J, Nakasone H. Kinetics of Recipients with Thrombocytopenia and Its Impact on Outcomes after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation: A Nationwide Retrospective Study, 66th ASH Annual Meeting & Exposition. San Diego, 2024 Dec.
5. Mizuta S, Ugai T, Nishiwaki S, Doki N, Fukuda T, Nishida T, Katayama Y, Ota S, Hasegawa Y, Tanaka M, Onizuka M, Ichinohe T, Kawamura K, Atsuta Y, Arai Y. To What Extent Have Post-Transplant Outcomes Improved Following the Introduction of Tyrosine Kinase Inhibitors in Elderly Patients with Philadelphia

- Chromosome-Positive Acute Lymphoblastic Leukemia? a Retrospective Nationwide Survey in Japan. 66th ASH Annual Meeting & Exposition. San Diego, 2024 Dec.
6. Hatta Y, Hayakawa F, Yamazaki E, Murayama T, Saito T, Tanaka M, Doki N, Nishida T, Katsuoka Y, Takada S, Sakamoto T, Sato S, Atsuta Y, Ohtake S, Sakaida E, Maeda Y, Yamauchi T, Matsumura I, Miyazaki Y, Kiyoi H. JALSG Ph (-) B-ALL213 Study: Pediatric-Type Chemotherapy Improves Prognosis in Adult Ph-Negative Acute Lymphoblastic Leukemia Patients, Including Older Adults. 66th ASH Annual Meeting & Exposition. San Diego, 2024 Dec.
 7. Itonaga H, Miyazaki Y, Kondo T, Shimazu Y, Aoki J, Kurosawa S, Ikeda T, Eto T, Uchida N, Nakazawa H, Kawamura K, Kanda J, Atsuta Y, Tachibana T. Optimal Procedures of Allogeneic Transplantation for BCR:: ABL1-Negative Atypical Chronic Myeloid Leukemia. 66th ASH Annual Meeting & Exposition. San Diego, 2024 Dec.
 8. Shimizu H, Najima Y, Kako S, Tachibana T, Izumi, Tanoue S, Sakaida E, Miyazaki T, Shono K, Yoshifuji K, Machida S, Toya T, Doki N, Takada S, Hatano K, Kato J, Takahashi S, Taguchi J, Yano S, Kanda Y. Treatment Outcomes of Adult Patients with B-Cell Acute Lymphoblastic Leukemia Relapsed after Allogeneic Stem Cell Transplant in the Era of Novel Immunochemotherapeutic Agents. 66th ASH Annual Meeting & Exposition. San Diego, 2024 Dec.
 9. Yosuke Okada Y, Usui Y, Hayashi H, Nishikubo M, Toubai T, Uchida N, Tanaka M, Onizuka M, Takahashi S, Doki N, Uehara Y, Maruyama Y, Ishiwata K, Kawakita T, Sawa M, Eto T, Ishimaru F, Kato K, Fukuda T, Atsuta Y, Kanda J, Yakushijin K, Nakasone H. Development of the Umbilical Cord Blood Transplantation-Specific Non-Relapse Mortality Risk Assessment Score: A Study from the Donor/Source and Transplant Complication Working Groups of Jstct. Tandem Meetings. San Antonio, 2024 Feb.
 10. Akahoshi Y, Inamoto Y, Spyrou N, Uchida N, Doki N, Tanaka T, Kataoka K, Hiramoto N, Eto T, Tanaka M, Ishimaru F, Fukuda T, Kanda Y, Atsuta Y, Nakasone H, Kanda J. Validation and Refinement of Day 28 Overall Response after Treatment for Acute Graft-Versus-Host Disease. Tandem Meetings. San Antonio, 2024 Feb.

(学会等発表：国内)

1. 立花崇孝. NCCN中間リスク群に対してCR1で移植を実施すべきか. Clinical Debate1, 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024年10月.
2. 立花崇孝, 塚本祥吉, 山本紘司, 名島悠峰, 賀古真一,

- 清水啓明, 鬼塚真仁, 加藤 淳, 長尾侑平, 勅使河原晴佳, 藤原慎一郎, 宮崎拓也, 遠矢 嵩, 青墳信之, 横山和明, 小林 武, 田中正嗣, 横山洋紀, 木村俊一, 町田真一郎, 片岡圭亮, 堺田恵美子, 土岐典子, 神田善伸. 骨髄異形成症候群の同種移植における予後予測スコアリングモデル：KSGCT多施設共同研究. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024年10月.
3. 泉 陽彦, 立花崇孝, 小西宏明, 竹田喬亮, 宮崎拓也, 田中正嗣, 中島秀明. 再発難治性急性リンパ性白血病に対するクロファラビンを用いた連続レジメン移植の有効性と安全性. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024年10月.
 4. 香月健吾, 立花崇孝, 新井翔太, 小西宏明, 竹田喬亮, 廣瀬奈津季, 貫井 淳, 泉 陽彦, 佐藤 淑, 玉井洋太郎, 藤巻克通, 山本 晃, 田中正嗣, 中島秀明. 当科におけるSOS/VODとdefibrotideの後方視的解析. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024年10月.
 5. 香月健吾, 立花崇孝, 泉 明彦, 金 錦麗, 鈴木泰生, 田中正嗣, 中島秀明. 高力価のドナー特異的抗体に対してHLA半合致移植前に脱感作療法を行った急性混合性白血病. 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 東京, 2024年3月.
 6. 香月健吾, 小西宏明, 泉 陽彦, 立花崇孝, 田中正嗣, 中島秀明. 心膜開窓術, ruxolitinibの投与でコントロールを得た臍帯血移植後の心嚢液貯留の1例. 第21回日本血液学会関東甲信越地方会. 箱根, 2024, 9月.
 7. 齋藤道城, 立花崇孝, 穂本昌寛, 香月健吾, 田中正嗣, 中島秀明. CAR-T療法後早期再発に対して臍帯血移植を行ったびまん性大細胞型B細胞リンパ腫. 第34回神奈川移植医学会. 横浜. 2024年6月.
 8. 宮川直将, 加藤元博, 岡本康裕, 篠原明仁, 立花崇孝, 名島悠峰, 堺田恵美子, 吉田奈央, 照井君典, 佐野秀樹, 吉原 哲, 康 勝好, 岡田恵子, 佐藤真穂, 川口浩史, 佐藤 篤, 日野もえ子, 田淵 健, 坂口大俊. 移植後再発急性リンパ性白血病の小児若年患者に対する2回目の造血細胞移植の成績と予後因子. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024年10月.
 9. 清水啓明, 名島悠峰, 賀古真一, 立花崇孝, 泉 陽彦, 田上 晋, 堺田恵美子, 宮崎拓也, 鐘野勝洋, 吉藤康太, 町田真一郎, 遠矢 嵩, 土岐典子, 高田 覚, 畑野かおる, 加藤 淳, 高橋 聡, 田口 淳, 矢野真吾, 神田善伸. 同種造血幹細胞移植後再発B細胞性急性リンパ性白血病に対する新規免疫化学療法の安全性. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024年10月.
 10. 糸永英弘, 宮崎泰司, 近藤 健, 島津 裕, 青木 淳, 黒澤修兵, 池田宇次, 衛藤徹也, 内田直之, 中澤英之, 河村浩二, 諫田淳也, 熱田由子, 立花崇孝. 非定型慢性骨髄性白血病に対する同種移植成績の年次推移. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024年10月.
 11. 玉置雅治, 赤星 佑, 稲本賢弘, 森田 薫, 内田直

- 之, 土岐典子, 田中正嗣, 西田徹也, 大東寛幸, 中前博久, 鬼塚真仁, 片山雄太, 松岡賢市, 澤 正史, 石丸文彦, 神田善伸, 福田隆浩, 熱田由子, 寺倉精太郎, 諫田淳也. 急性GVHDが慢性GVHD発症に与える影響に関する検討. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024年10月.
12. 日比野勇人, 高山康輔, 竹田喬亮, 松村彩子, 鈴木泰生, 石井好美, 中嶋ゆき, 宮崎拓也, 萩原真紀, 田中正嗣, 藤巻克通, 藤田浩之, 藤澤 信, 中島秀明. 慢性骨髓性白血病における治療不要寛解 (TFR) 率の検討: 100例の後方視的解析. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024年10月.
13. 中村信彦, 森下哲司, 兼村信宏, 林 裕美, 岡部基人, 仲宗根秀樹, 内田直之, 土岐典子, 福田隆浩, 吉原 哲, 田中正嗣, 西田徹也, 長谷川祐太, 松岡賢市, 澤 正史, 加藤剛二, 石丸文彦, 田淵 健, 熱田由子, 豊嶋崇徳. COVID-19パンデミックが日本の臍帯血移植に与えた影響—分割時系列分析—. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024年10月.
14. 櫻井政寿, 片岡圭亮, 水野洸太, 森 拓人, 白根脩一, 坂口大俊, 森 毅彦, 内田直之, 田中正嗣, 中野伸亮, 石綿一哉, 鬼塚真仁, 栗田尚樹, 石川 淳, 片山雄太, 加藤剛二, 石丸文彦, 熱田由子, 諫田淳也, 仲宗根秀樹, 寺倉精太郎. 臍帯血移植における生着前免疫反応 (PIR) の発症リスクと移植成績への影響の解析. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024年10月.
15. 赤星 佑, 稲本賢弘, 内田直之, 土岐典子, 田中 喬, 片岡圭亮, 平本展大, 衛藤徹也, 田中正嗣, 石丸文彦, 福田隆浩, 神田善伸, 熱田由子, 仲宗根秀樹, 諫田淳也, JamesFerrara, JohnLevine, 豊嶋崇徳. 新規急性GVHDエンドポイントの開発: JSTCT/MAGIC国際共同研究. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024年10月.
16. 蘆澤正弘, 稲本賢弘, 清水啓明, 加藤 淳, 木村俊一, 田中正嗣, 塚本祥吉, 西原彩佳, 豊崎誠子, 中嶋ゆき, 高田 覚, 青墳信之, 武井智美, 萩原真紀, 鐘野勝洋, 八田善弘, 梅澤佳央, 小林宣彦, 永沼 謙, 大和田千桂子, 神田善伸. 造血幹細胞移植後の女性の残存妊娠能の評価. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024年10月.
17. 岡田陽介, 田地規朗, 島津 裕, 村田 誠, 西脇聡史, 大西 康, 土岐典子, 内田直之, 田中正嗣, 長谷川祐太, 賀古真一, 西田徹也, 神田善伸, 鬼塚真仁, 福田隆浩, 大引真理恵, 熱田由子, 新井康之, 立花崇孝. 初発急性転化期慢性骨髓性白血病とPh染色体陽性急性リンパ芽球性白血病の移植成績の比較. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024年10月.
18. 長谷川広大, 宮崎拓也, 田中正嗣, 萩原真紀, 新井翔太, 廣瀬奈津季, 貫井 淳, 泉 陽彦, 青木 淳, 中嶋ゆき, 立花崇孝, 藤澤 信, 中島秀明. 急性白血病における移植後再発から2回目移植までの栄養状態悪化が予後へ及ぼす影響. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024年10月.
19. 立花崇孝, 塚本祥吉, 名島悠峰, 賀古真一, 清水啓明, 鬼塚真仁, 加藤 淳, 永尾侑平, 勅使河原晴佳, 藤原慎一郎, 宮崎拓也, 遠矢 嵩, 青墳信之, 横山和明, 小林武, 田中正嗣, 横山洋紀, 木村俊一, 町田真一郎, 片岡圭亮, 堺田恵美子, 土岐典子, 山本紘司, 神田善伸. 骨髓異形成症候群における同種移植決断時染色体リスクの意義: KSGCT多施設共同研究. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 2025年2月. 大阪.
20. 齋藤道城, 立花崇孝, 穂本昌寛, 香月健吾, 小西宏明, 新井翔太, 竹田喬亮, 廣瀬奈津季, 泉 陽彦, 田中正嗣, 鈴木隆浩, 中島秀明. MDS移植におけるAraC/AZAによるpreconditioninginterventionの意義. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 2025年2月. 大阪.
21. 穂本昌寛, 立花崇孝, 齋藤道城, 香月健吾, 新井翔太, 竹田喬亮, 廣瀬奈津季, 泉 陽彦, 田中正嗣, 中島秀明. AMLに対するFM80TBIを前処置とした初回臍帯血移植成績. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 2025年2月. 大阪.
22. 香月健吾, 齋藤道城, 新井翔太, 穂本昌寛, 立花崇孝, 田中正嗣, 中島秀明. 重症類洞閉塞症候群/肝中心静脈閉塞症についての単施設後方視的検討. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 2025年2月. 大阪.
23. 本田さやか, 平野弘美, 伊藤洋平, 飯塚みさき, 立花崇孝, 香月健吾, 穂本昌寛, 齋藤道城, 田中正嗣. 医師, 看護師, 栄養士が連携した移植後患者の栄養サポート～移植後1年の回復過程～. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 2025年2月. 大阪.
24. 伊藤洋平, 秋山紘槻, 飯塚みさき, 平山麻実子, 榎本雄太, 平野弘美, 齋藤道城, 香月健吾, 穂本昌寛, 貫井淳, 立花崇孝, 田中正嗣. 胃切除術後の同種造血幹細胞移植において経腸栄養が栄養状態の維持に有用であった一例. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 2025年2月. 大阪.
25. 戸津舞衣子, 立花崇孝, 泉 陽彦, 本田さやか, 平野弘美, 末竹亜紀, 河野ひろみ, 櫻井 学, 田中正嗣. 携帯型輸液ポンプを用いたブリナツモマブ療法の外来投与のための取り組み. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 2025年2月. 大阪.
26. 横山知明希, 長谷川広大, 大橋卓馬, 酒井洋平, 石井 怜, 齋藤道城, 泉 陽彦, 田中まりか, 國本博義, 萩原真紀, 松本憲二, 立花崇孝, 田中正嗣, 日比 潔, 中島秀明. 円滑な病診連携が救命につながった移植後重症心合併症. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 2025年2月. 大阪.
27. 新井康之, 大引真理恵, 太田秀一, 田中正嗣, 今田和典, 福田隆浩, 片山雄太, 土岐典子, 神田善伸, 坂田 (柳元) 麻実子, 豊嶋崇徳, 石田 隆, 内田寛樹, 馬場龍一, 宇野 慧, 高見昭良, 小沼貴晶, 柳田正光, 熱田由子, 矢野真吾. 同種移植後FLT3変異陽性AMLに対するゲリテリチニブ投与の再発抑制効果～産学共同研究による全

国調査結果. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 2025年2月. 大阪.

28. 水野昌平, 細井裕樹, 高見昭良, 河田岳人, 土岐典子, 武田 航, 田中正嗣, 西田徹也, 内田直之, 長谷川祐太, 澤 正史, 太田秀一, 鬼塚真仁, 中前博久, 浅田 騰, 福田隆浩, 吉満 誠, 神田善伸, 大引真理恵, 熱田由子, 小沼貴晶, 柳田正光. 本邦の急性骨髄性白血病における染色体リスクと同種造血細胞移植成績. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 2025年2月. 大阪.
29. 兵頭和樹, 藤原慎一郎, 立花崇孝, 名島悠峰, 堺田恵美子, 田波貴彬, 塚本祥吉, 岩田紫乃, 神谷 育, 田上晋, 酒寄 葉, 宮崎拓也, 田中正嗣, 泉 陽彦, 土岐典子, 矢野真吾, 藤澤 信, 賀古真一, 横田 朗, 高橋 聡, 神田善伸. 高齢者急性骨髄性白血病の同種造血幹細胞移植における予後予測モデル. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 2025年2月. 大阪.
30. 赤星 佑, 仲宗根秀樹, 竹中克斗, 荒 隆英, 多田雄真, 土岐典子, 内田直之, 田中正嗣, 長谷川祐太, 武田航, 西田徹也, 石川 淳, 栗田尚樹, 澤 正史, 鬼塚真仁, 賀古真一, 藤原慎一郎, 片岡圭亮, 河村浩二, 福田隆浩, 神田善伸, 熱田由子, 薬師神公和. レテルモビル予防により生存率の改善が期待できる症例の選択: 線形回帰モデル vs 機械学習モデル. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 2025年2月. 大阪.
31. 木村俊一, 川村俊人, 遠矢 嵩, 冲中敬二, 細井裕樹, 内田直之, 土岐典子, 福田隆浩, 田中正嗣, 西田徹也, 長谷川祐太, 坂田(柳元)麻実子, 神田善伸, 吉満 誠, 鬼塚真仁, 大引真理恵, 熱田由子, 薬師神公和. 同種造血細胞移植におけるレテルモビル予防投与と細菌・真菌感染症との関連: JSTCT合併症WG. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 2025年2月. 大阪.

血液・腫瘍内科(腫瘍)

原書論文

1. Tachibana T, Izumi A, Arai S, Takeda T, Hirose N, Tamai Y, Sato S, Hashimoto C, Fujimaki K, Ishii R, Sakai H, Yamazaki E, Inoue Y, Tanaka M, Nakajima H: Preconditioning intervention prior to allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in patients with high-risk acute myeloid leukemia. *Exp Hematol*. 44: 104746. 2025
2. Takahashi H, Sakai R, Hirose N, Hibino Y, Tokunaga M, Nakajima H: Poor outcome of older patients with diffuse large B-cell lymphoma after progression. *J Clin Exp Hematop*. 65(1): 40-48. 2025
3. Kuji S, Nozawa K, Toma S, Arao H, Imoto S, Kajiyama H, Kitano A, Kodera Y, Saito R, Sakai R, Taketomi A, Nakayama R, Hiyama E, Futamura M, Matsui M, Yonemura M, Oya M, Suzuki N: Survey of healthcare professionals' awareness of appearance care for Japanese cancer patients and their institutions' appearance care systems: report from the Japan Society of Clinical Oncology. *Int J Clin Oncol*. 30(4): 655-665. 2025
4. Izutsu K, Ando K, Nishikori M, Shibayama H, Goto H, Kuroda J, Kato K, Imaizumi Y, Nosaka K, Sakai R, Abe M, Hojo S, Nakanishi T, Rai S: Zanubrutinib in Japanese treatment-naïve and relapsed/refractory patients with Waldenström macroglobulinemia and CLL/SLL. *Int J Hematol*. 121(4): 483-493. 2025
5. Fujimoto A, Miyazaki K, Yakushijin K, Fujino T, Munakata W, Ejima Y, Maruyama D, Kubota N, Maeda T, Takizawa J, Hiramoto N, Takeuchi M, Sakai R, Fukuhara N, Taguchi S, Asano N, Yamaguchi M, Suzuki R: Improved prognosis of advanced-stage extranodal NK/T-cell lymphoma: results of the NKEA-Next study. *Leukemia*. 39(4): 909-916. 2025
6. Nato Y, Miyazaki K, Maruyama D, Takahashi H, Sunami K, Murakami S, Negoro E, Miyazawa Y, Choi I, Okada T, Takayama N, Tomita N, Momose S, Kaneda Y, Yoshida M, Gomyo H, Toyama K, Nishikori M, Saito A, Hiraga J, Masunari T, Takahashi N, Makiyama J, Suzuki T, Tsunemine H, Takizawa J, Kato T, Masaki Y, Fukuhara N, Okamoto M, Tawara I, Asano N, Ohshima K, Izutsu K, Kato K, Suzuki R, Yamaguchi M: Treatments and Outcomes of Newly Diagnosed CD5-Positive Diffuse Large B-Cell Lymphoma: A Multi-Institutional Observational Study. *Hematological Oncology*. 43(2): e70047. 2025
7. Ishii Y, Fujisawa S, Miyazaki T, Nakajima Y, Matsumura A, Fujimaki K, Suzuki T, Hagihara M, Tanaka M, Hashimoto C, Nakajima H: Real-world toxicity and efficacy of asciminib in heavily pretreated patients with chronic myeloid leukemia. *Int J Hematol*. 121(2): 187-193. 2025
8. Washimi K, Kasajima R, Sato S, Nezu Y, Takahashi H, Sakai R, Nakamura N, Takagi M, Hasegawa C, Yoshioka E, Okubo Y, Katayama K, Imoto S, Yokose T, Miyagi Y: Chemokine Expression in Well-Differentiated Liposarcoma May Be Involved in the Tumorigenesis of Lymphoplasmacytic Lymphoma: A Case Study. *Cancer Rep (Hoboken)*. 8(2): e70129. 2025
9. Numata A, Sakai R, Kawachi K, Ishiyama Y, Hattori Y, Takasaki H, Yokose T, Nakamura N, Nakajima H: Clinicopathological and genetic analyses of thyroid large B-cell lymphoma in a Japanese population. *J Clin Exp Hematop*. 25; 64(4): 286-291. 2025
10. Hibino Y, Sakai R, Takahashi H, Takeda T, Hirose N, Tokunaga M, Washimi K, Yokose T, Kasajima

- R, Hiroshima Y, Miyagi Y, Nakajima H: Efficacy of Combined Encorafenib and Binimetinib Treatment for Erdheim-Chester Disease Harboring Concurrent BRAFV600E and KRASG12R Mutations: A Case Report. *Cancer Rep (Hoboken)*, 7(12): e70093, 2024
11. Izutsu K, Ando K, Nishikori M, Shibayama H, Goto H, Kuroda J, Kato K, Imaizumi Y, Nosaka K, **Sakai R**, Abe M, Hojo S, Nakanishi T, Rai S: Tazemetostat for relapsed/refractory B-cell non-Hodgkin lymphoma with EZH2 mutation in Japan: 3-year follow-up for a phase II study. *Int J Hematol.* ; 120(5): 621-630. 2024
 12. Tokunaga M, **Takahashi H**, **Hirose N**, Hibino Y, **Teranaka H**, Washimi K, Okubo Y, Hiroshima Y, Tanaka M, **Sakai R**: SMARCA4-deficient epithelioid sarcoma revealed by comprehensive genomic profiling, leading to a notable response by nivolumab treatment. *Int Cancer Conf J*, 17; 14(1): 1-6, 2024
 13. Tachibana T, Miyazaki T, Matsumura A, Hagihara M, Tanaka M, Koyama S, Ogusa E, Aoki J, Nakajima Y, **Takahashi H**, Suzuki T, Ishii Y, Teshigawara H, Matsumoto K, Hatayama M, Izumi A, Ikuta K, Yamamoto K, Kanamori H, Fujisawa S, Nakajima H: Investigation of biomarkers to predict outcomes in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Cytotherapy*. 26(8): 921-929, 2024
 14. Arai S, Tachibana T, Izumi A, Takeda T, Tamai Y, Sato S, **Hashimoto C**, Fujimaki K, Ishii R, Kabasawa N, Hirasawa A, Inoue Y, Tanaka M, Suzuki T, Nakajima H: WT1-guided pre-emptive therapy after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in patients with acute myeloid leukemia. *Int J Hematol*, 120(3): 337-346, 2024
 15. Miyazaki T, Tachibana T, Suzuki T, Izumi A, Fujimaki K, Sato S, Tamai Y, Michishita Y, Suzuki T, Ishii R, Hirasawa A, **Hashimoto C**, Kabasawa N, Inoue Y, Ishiyama T, Yamamoto K, Kanamori H, Tanaka M, Nakajima H: Pretransplantation Inflammatory and Nutritional Status in Elderly Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation: Prognostic Value of C-Reactive Protein-to-Albumin Ratio. *Transplant Cell Ther*. 30(4): 400. e1-400. e9, 2024
 16. 酒井リカ：リーダーシップと余生医師のキャリア形成促進を考える。 *Rinsho Ketsueki*. 2025 ; 66 (8) : 810-813

その他出版物

1. **高橋寛行**：がん化学療法の薬—抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬・支持療法薬—はや調ベノート2025・2026年版一部執筆，メディカ出版，2025年2月発行（一部執筆）

2. **寺中 寛**，**高橋寛行**：ホジキンリンパ腫治療後の男性乳がん発症リスク。 *血液内科*. 88 (4), 406-411, 2024-04. 科学評論社
3. **高橋寛行**：小児・AYA世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン，2024年12月改訂第2版一部執筆，金原出版株式会社，2024年12月発行（一部執筆）

学会等発表

1. **Takahashi H**, **Yamanokawa H**, **Hirose N**, **Teranaka H**, **Hashimoto C**, **Sakai R**, Nakajima H: Retrospective survey of myeloma patients who received carfilzomib with daratumumab or isatuximab. 第86回日本血液学会学術集会，京都，2024/10
2. **Takahashi H**, **Hirose N**, Tokunaga M, **Teranaka H**, Tanaka M, **Sakai R**, Nakajima H: Clinical characteristics of extranodal lesion of follicular lymphoma. 第64回日本リンパ網内系学会学術集会総会，東京，2024/6
3. **山ノ川晴花**，**廣瀬奈津季**，**寺中 寛**，**高橋寛行**，**橋本千寿子**，**酒井リカ**，中島秀明：胃びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対して胃全摘を先行して実施し，未然に出血穿孔を防いだ症例。第23回日本血液学会関東甲信越地方会，千葉，2025/7
4. **橋本千寿子**：悪性リンパ腫患者における遷延性COVID-19感染症に対するNirmatrelver。第22回日本臨床腫瘍学会学術集会，神戸，2025. 3
5. **山ノ川晴花**，**高橋寛行**，佐藤秀光，宮田裕也，**廣瀬奈津季**，長谷川知愛，**寺中 寛**，鷺見公太，**橋本千寿子**，**酒井リカ**，中島秀明：癌性腹膜炎で発症したCUPに対し，mFOLFOX療法を導入し奏効がみられてきている症例。第22回日本臨床腫瘍学会学術集会，神戸，2025. 3
6. **廣瀬奈津季**，**高橋寛行**，**寺中 寛**，**山ノ川晴花**，**橋本千寿子**，**酒井リカ**，中島秀明：肝外胆管原発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の1例。第22回日本血液学会関東甲信越地方会，東京，2025. 3
7. 洞下由記，葉山智工，中村健太郎，黒田晋之介，竹島徹平，村瀬真理子，高江正道，榊原秀也，湯村 寧，**酒井リカ**，宮城悦子，鈴木 直：神奈川県のがん妊孕性温存地域ネットワーク（KanaOF-Net）における妊孕性温存医療の実績。第15回日本がん・生殖医療学会学術集会，大阪，2025/2
8. **廣瀬奈津季**，**高橋寛行**，徳永真由美，**寺中 寛**，田中正嗣，**酒井リカ**，中島英明：急激に進行する髄外腫瘍形成性再発難治性多発性骨髄腫に対するCHOP療法の治療経験。第21回日本血液学会関東甲信越地方会，箱根，2024/7
9. **寺中 寛**，**高橋寛行**，**廣瀬奈津季**，徳永真由美，吉岡恵美，鷺見公太，大久保陽一郎，中村直哉，田中正嗣，**酒井リカ**，中島秀明：治療経過中にホジキンリンパ腫とびまん性大細胞型B細胞リンパ腫が交互に出現した1例。第21回日本血液学会関東甲信越地方会，箱根，

2024/7

10. **高橋寛行**, **廣瀬奈津季**, 徳永真由美, **寺中 寛**, 田中正嗣, **酒井リカ**, 中島秀明: 脾摘により診断された脾腫を伴う多発性骨髄腫の一例. 第49回日本骨髄腫学会学術集会, 福岡, 2024/6
11. 光永幸代, **高橋寛行**: 多発性骨髄腫に対する骨修飾薬投与による薬剤関連顎骨壊死の発症状況. 第49回日本骨髄腫学会学術集会, 福岡, 2024/6
12. **酒井リカ**: リーダーシップと女性医師のキャリア形成促進を考える. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024/10
13. 入山智沙子, **酒井リカ**: 再発濾胞性リンパ腫に対するオビヌツズマブ+ベンダムスチン療法第Ⅱ相試験の安全性評価 (造血器腫瘍研究会). 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024/10
14. 頼 晋也, **酒井リカ**: EZH2変異陽性FL/DLBCLに対するタゼメトスタット国内第二相試験の長期フォローアップ結果. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024/10
15. 石井好美, **橋本千寿子**: 慢性骨髄性白血病21例に対する、アシミニブの使用経験. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024/10
16. 名藤佑真, **高橋寛行**: 未治療CD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の診療実態と予後に関する国内多機関共同観察研究. 第86回日本血液学会学術集会, 京都, 2024/10

その他

1. 酒井リカ: 第64回日本リンパ網内系学会学術集会総会副会長 2024
2. 高橋寛行: 医療従事向けシンポジウム「薬剤関連顎骨壊死とは」 演者. 横浜市歯科医師会, 2025/3/23, 横浜
3. 高橋寛行: ガイドライン改定から考えるリンパ腫治療 現状と課題「びまん性大細胞型B細胞リンパ腫」第64回日本リンパ網内系学会学術集会総会モーニングセミナー. 2024/6/29 東京

消化器内科 (消化管)

発表論文

1. **Onishi M**, **Furuta M**, Yoshioka E, Yamada T, **Hama T**, Furusawa K, Hayashi K, Inokuchi Y, **Machida N**, Furuse J, Maeda S. Complete response induced by nivolumab monotherapy in gastric neuroendocrine carcinoma: a case report. Int Cancer Conf J.;13(3):319-324. 2024 May
2. Tokunaga M, **Machida N**, Mizusawa J, Ito S, Yabusaki H, Hirao M, Watanabe M, Imamura H, Kinoshita T, Yasuda T, Hihara J, Fukuda H, Yoshikawa T, Boku N, Terashima M. Early endpoints of a

randomized phase II trial of preoperative chemotherapy with S-1/CDDP with or without trastuzumab followed by surgery for HER2-positive resectable gastric or esophagogastric junction adenocarcinoma with extensive lymph node metastasis: Japan Clinical Oncology Group study JCOG1301C (Trigger Study). Gastric Cancer. ; 27(3): 580-589. 2024 May

3. Hashimoto T, Nakamura Y, Komatsu Y, Yuki S, Takahashi N, Okano N, Hirano H, Ohtsubo K, Ohta T, Oki E, Nishina T, Yasui H, Kawakami H, Esaki T, **Machida N**, Doi A, Boku S, Kudo T, Yamamoto Y, Kanazawa A, Denda T, Goto M, Iida N, Ozaki H, Shibuki T, Imai M, Fujisawa T, Bando H, Naito Y, Yoshino T. Different efficacy of tyrosine kinase inhibitors by KIT and PGFRA mutations identified in circulating tumor DNA for the treatment of refractory gastrointestinal stromal tumors. BJC Rep. ; 2(1): 54. 2024 Jul
4. Inokuchi Y, Furusawa K, Hayashi K, **Furuta M**, **Machida N**, Maeda S. Upper gastrointestinal endoscopic submucosal dissection using an ultrathin endoscope: a retrospective, single-center evaluation. Surg Endosc.; 38(7): 3615-3624. 2024 Jul
5. **Furuta M**, Hayashi K, Watanabe M, **Hama T**, **Onishi M**, Furusawa K, Inokuchi Y, Notsu A, **Machida N**, Furuse J, Maeda S. Palliative use of self-expanding metal stents in initially anticancer treatment-intolerant patients with esophageal cancer. BMC Gastroenterol. ; 24(1): 264. 2024 Aug
6. Ishida A, Inokuchi Y, Hirata M, Narimatsu H, Yoshioka E, Washimi K, **Machida N**, Maeda S. A case of an unreported point mutation in promoter 1B of the adenomatous polyposis coli gene, which is responsible for gastric adenocarcinoma and proximal polyposis of the stomach. Clin J Gastroenterol. ; 17(4): 602-606. 2024 Aug
7. Takashima A, Ishiguro M, Sasaki K, Machida R, Nagashima F, Imaizumi J, Hamaguchi T, Yamamoto Y, Masuishi T, Asayama M, Ueno H, Shinozaki K, Kudo T, **Machida N**, Matsuoka H, Ishida H, Yamaguchi T, Nogami H, Yamada T, Takegawa N, Kito Y, Tonoike Y, Sawada R, Tsukamoto S, Kanemitsu Y; Colorectal Cancer Study Group (CCSG) of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG). Real-world treatment costs of first-line treatment for metastatic colorectal cancer: a survey of the JCOG colorectal cancer study group. Jpn J Clin Oncol. ; 54(10): 1107-1114. 2024 Oct
8. Shiraishi K, Okada M, Yamamoto S, Matsubara Y, Masuishi T, Shimozaki K, Yamamoto Y, Hirose S, Sugiyama K, **Furuta M**, **Machida N**, Takahashi N, Yoshii T, Kito Y, Tsuzuki T, Boku S, Tsuchihashi

K, Sugaya A, Takayama T, Komori A, Mitani S, Matsumoto T, Nishimura T, Hirata K. The efficacy and safety of FOLFOX therapy for advanced esophageal squamous cell carcinoma. Sci Rep. ; 15(1): 8031. 2025 Mar

9. Komori A, Hironaka S, Kadowaki S, Mitani S, **Furuta M**, Kawakami T, Makiyama A, Takegawa N, Sugiyama K, Hirano H, Ando T, Matsushima T, Chida A, Kashiwada T, Komoda M, Matsumoto T, Oda H, Yabusaki H, Kawakami H, Yamazaki K, Boku N, Hyodo I, Yoshimura K, Muro K. Prevalence and clinicopathological features of microsatellite instability-high metastatic or recurrent gastric and esophagogastric junction cancer: WJOG13320GPS. ; West Japan Oncology Group (WJOG). Gastric Cancer. ; 28(2): 301-308. 2025 Mar

学会等発表

1. **Misa Onishi**, **Mitsuhiro Furuta**, Shuntaro Ishikawa, **Takanori Hama**, Kazuo Shiotsuki, **Hiroshi Nakanoma**, Yohei Miyagi, Kohei Takizawa, Junji Furuse, **Nozomu Machida**, Shin Maeda: Retesting of HER2 status after chemotherapy exposure for advanced gastric cancer. 第62回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 10/2024
2. **Misa Onishi**, Nozomu Ogura, Rin Inamoto, Yosuke Kito, Kengo Nagashima, Naoki Takahashi, **Mitsuhiro Furuta**, Hirokazu Shoji, **Nozomu Machida** : Correlation between PD-L1 CPS and clinical outcomes in patients treated with first-line nivolumab plus chemotherapy for advanced gastric or gastroesophageal junction cancer: a multi-center retrospective study in Japan. 2025 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, Poster Session A: Cancers of the Esophagus and Stomach and Other Gastrointestinal Cancers, San Francisco, 1/2025
3. **Takanori Hama**, **Mitsuhiro Furuta**, **Hiroshi Nakanoma**, **Misa Onishi**, **Nozomu Machida**, Shuntaro Ishikawa, Kazuo Shiotsuki, Kohei Takizawa, Junji Furuse, Shin Maeda: Comparison of chemotherapy plus PD-1 inhibitor with chemoradiotherapy for metastatic ESCC patients with severe dysphagia. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 3/2025
4. **Mitsuhiro Furuta**, Wataru Okamoto, Toshihiko Matsumoto, Chiaki Inagaki, Yuki Matsubara, Kaori Hino, Kenro Hirata, Shigenori Kadowaki, Hiroyuki Arai, Ayumu Hosokawa, Naotoshi Sugimoto, Hisateru Yasui, Akifumi Notsu, Kei Muro: A Questionnaire Survey on the Utility of CyberOncology®: Insights from the PROCEED Study (WJOG15922G). 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 3/2025
5. **Nozomu Machida**, Kohei Shitara, Yelena Y. Janjigian, Elena Elimova, Jun Zhang, Ming-Huang Chen, Elizabeth Smyth, Jeeyun Lee, Rui Miao, Silver Liu, Marielle Holmblad, Rui-Hua Xu: CLARITY-Gastric 01: a randomized Phase 3 study of AZD0901 in 2L+ advanced gastric/gastroesophageal junction cancers. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 3/2025
6. **Mitsuhiro Furuta**, Akifumi Notsu, Hirofumi Yasui, Yukinori Yamagata, Rie Makuuchi, Takanobu Yamada, Michihiro Ishida, Kunihiro Tsuji, Shigeaki Baba, Noriaki Tokumoto, Shusuke Haruta, Masaya Watanabe, Takuya Hamakawa, Yasuyuki Kawachi, Yasuhiro Hasegawa, Hiroshi Yabusaki, Rhohei Kawabata, Narikazu Boku, Masanori Terashima, **Nozomu Machida**, Takaki Yoshikawa : Adjuvant chemotherapy for resected gastric neuroendocrine carcinoma. 第97回日本胃癌学会総会, 名古屋, 3/2025
7. **町田 望**, **古田光寛**, 井口靖弘, 林 慧, 古澤享子, **大西美沙**, **濱 崇哲**, 古瀬純司, 前田 慎 : 胃癌における新たな分子標的薬の登場と予想される臨床導入時の問題点. 第110回日本消化器病学会総会, 徳島, 5/2024
8. **濱 崇哲**, **古田光寛**, **大西美沙**, 古澤享子, 林 慧, 井口靖弘, **町田 望**, 古瀬純司, 前田 慎 : Stage IVB 食道扁平上皮癌におけるPD-1阻害剤併用化学療法との嚥下障害改善効果の検討. 第78回日本食道学会学術集会, 東京, 7/2024
9. **中野間 紘**, **古田光寛**, 廣島幸彦, 石川俊太郎, **大西美沙**, **濱 崇哲**, 山田貴允, 尾形高士, 塩月一生, 滝沢耕平, 古瀬純司, **町田 望**, 前田 慎 : 実臨床における胃・食道胃接合部腺癌に対するがん遺伝子パネル検査の現状. 第97回日本胃癌学会総会, 名古屋, 3/2025

消化器内科（内視鏡）

発表論文

1. **Shiotsuki K**, **Takizawa K**, Nose Y, Kondo Y, Homma H, Inada T, Daikaku M, Maehara K, Fukuda SI, Aoki H, Sumida Y, Akiho H, Watari J, Nakajima K. Endoscopic closure using a dedicated device following gastric endoscopic submucosal dissection: Multicenter, prospective, observational pilot study. Endosc Int Open. 2025 Jan 13; 13: a25031684. doi: 10.1055/a-2503-1684. eCollection 2025. PMID: 39958661

学会発表等

1. **石川俊太郎**, **古田光寛**, **塩月一生**, **大西美沙**, **濱 崇哲**, **中野間 紘**, **滝沢耕平**, **町田 望**, 古瀬純司, 前田 慎 : 十二指腸癌術後再発症例の腹膜播種による腸閉塞に対して回腸末端に安全かつ有効に大腸ステントを挿入した一例. 第21回日本消化管学会総会学術集会, 新宿

2. 塩月一生, 滝沢耕平, 中島清一「新しい軟性内視鏡用粘膜縫縮装置を用いた胃ESD粘膜欠損部に対する粘膜縫縮の実施可能性に関する多施設共同前向き観察研究」: 第107回内視鏡学会総会ワークショップ1
3. 塩月一生, 滝沢耕平, 石川俊太郎, 大西美沙, 濱 崇哲, 中野間 紘, 古田光寛, 町田 望, 前田 慎「当院における大腸ポリープに対するUnderwater precuttingEMRの治療成績」第119回内視鏡学会関東地方会 シンポジウム
4. 塩月一生, 滝沢耕平, 石川俊太郎, 大西美沙, 濱 崇哲, 中野間 紘, 古田光寛, 町田 望, 前田 慎「食道ESD広範切除後の粘膜欠損部に対する高用量トリウムシノロン局注による狭窄予防の可能性」GI week 2025一般演題
5. 滝沢耕平, 塩月一生, 中島清一「新規粘膜縫縮専用デバイス (FLEXLOOP) を用いた胃ESD後出血ハイリスク患者における後出血予防の可能性」第107回日本消化器内視鏡学会総会VWビデオワークショップ (東京)
6. 滝沢耕平「早期胃がん内視鏡診療におけるAIの役割」第83回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 スポンサードセミナー (川崎)
7. 滝沢耕平「早期胃がん内視鏡診療におけるAIの役割」第62回日本消化器がん検診学会大会 (JDDW2024) ランチョンセミナー (神戸)
8. 滝沢耕平「Cold Snare Polypectomyの適応・コツ・臨床成績」第7回十二指腸腫瘍の診断と低侵襲治療に関する研究会 セッションⅢ治療～state of arts～(WEB)
9. 滝沢耕平, 他「胃内視鏡的粘膜下層剥離術における局注液へのエビネフリン添加の有用性に関する国際多施設ランダム化比較試験」第119回日本消化器内視鏡学会関東支部例会主題7「内視鏡診療におけるリスクマネジメント・周術期管理」(東京)
10. Shiotsuki K, Takizawa K, Ishikawa S, et al. ENDOSCOPIC MUCOSAL CLOSURE USING A NOVEL DEDICATED DEVICE FOLLOWING GASTRIC ENDOSCOPIC SUBMUCOSAL DISSECTION: A MULTICENTER PROSPECTIVE OBSERVATIONAL PILOT STUDY. Digestive Disease Week 2024.
11. Shiotsuki K, Takizawa K, Ishikawa S, et al. ENDOSCOPIC MUCOSAL CLOSURE USING A NOVEL DEDICATED DEVICE FOLLOWING GASTRIC ENDOSCOPIC SUBMUCOSAL DISSECTION: A MULTICENTER PROSPECTIVE OBSERVATIONAL PILOT STUDY. ENDO2024
12. Takizawa K. Diagnosis of duodenal neoplasm: are they all the same? ENDO2024 (4th World Congress of GI Endoscopy) (Seoul, Korea)
13. Takizawa K. Diagnosis of duodenal neoplasm: are they all the same? 2024 LiangXi Digestive Disease

Week of Wuxi (Wuxi, China)

14. Takizawa K. IEE-based Diagnosis & Classification of Esophageal Squamous Cell Carcinoma. Advanced Diagnosis Endoscopy Course (ADEC), A-PSDE-JGES-WEO Program. APDW2024 (Bali, Indonesia)
15. Takizawa K. Diagnosis of duodenal neoplasm. ANBII G Interactive Session: Learning the Experts' Approach in Using the NBI. APDW2024 (Bali, Indonesia)
16. Takizawa K. Latest advancement in UGI endoscopy. XXIII SBAD Brazilian Digestive Disease Week, Symposium (Brazil)
17. Takizawa K. Current and Future Perspective of Third Space Endoscopy. SOBED-JGES joint Symposium: The future of Upper GI Endoscopy, XXIII SBAD Brazilian Digestive Disease Week. (Brazil)

消化器内科 (肝胆膵)

発表論文

1. Kawahara S, Aoyama T, Murakawa M, Kanemoto R, Takahashi D, Kamioka Y, Hashimoto I, Maezawa Y, Kobayashi S, Ueno M, Yamamoto N, Oshima T, Yukawa N, Rino Y, Saito A, Morinaga S. Clinical Impact of Preoperative Prognostic Nutritional Index in Surgical Patients With Pancreatic Cancer Treated With Perioperative Adjuvant Chemotherapy. Anticancer Res. 2024 Apr; 44(4): 1711-1718, 2024
2. Washimi K, Hiroshima Y, Sato S, Ueno M, Kobayashi S, Yamamoto N, Hasegawa C, Yoshioka E, Ono K, Okubo Y, Yokose T, Miyagi Y. Evaluation of pancreatic cancer specimens for comprehensive genomic profiling. Pathol Int. 2024 May; 74(5): 252-261, 2024
3. Rodón J, Damian S, Furqan M, García-Donas J, Imai H, Italiano A, Spanggaard I, Ueno M, Yokota T, Veronese ML, Oliveira N, Li X, Gilmartin A, Schaffer M, Goyal L. Nat Med. Pemigatinib in previously treated solid tumors with activating FGFR1-FGFR3 alterations: phase 2 FIGHT-207 basket trial. 2024 Jun; 30(6): 1645-1654, 2024
4. Kobayashi S, Fukushima T, Ueno M, Chuma M, Numata K, Tsuruya K, Arase Y, Hirose S, Kagawa T, Hattori N, Watanabe T, Matsunaga K, Uojima H, Hidaka H, Kusano C, Morimoto M, Maeda S. Progression pattern and post-progression survival following atezolizumab and bevacizumab treatment in advanced hepatocellular carcinoma. Liver Int. 2024 Jun; 44(6): 1343-1350, 2024
5. Sasahara Y, Takumoto Y, Watanabe K, Takeda H, Umemoto K, Sunakawa Y, Suzuki N, Yoshioka

- T, **Kobayashi S**, **Ueno M**, Nakamura S, Akazawa M, Narimatsu H. Quality-of-life survey of pancreatic cancer patients: a comparison between general public and physicians *Front Health Serv*. 2024 Jul 12; 4: 1275496, 2024
6. **Ueno M**, Shirakawa S, Tokumaru J, Ogi M, Nishida K, Hirai T, Shinozaki K, Hamada Y, Kitagawa H, Horiguchi A. Real-world evidence of systemic treatment practices for biliary tract cancer in Japan: Results of a database study. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*. 2024 Jul; 31(7): 468-480, 2024
7. Ikeda M, Hijioka S, Ito T, Matsumoto S, Honma Y, **Ueno M**, Okano N, Aoki T, **Furuse J**. Multicenter validation study of a treatment selection MAP for pancreatic neuroendocrine tumors. *Jpn J Clin Oncol*. 2024 Aug 14; 54(8): 880-886, 2024
8. Rodón J, Damian S, Furqan M, García-Donas J, Imai H, Italiano A, Spanggaard I, **Ueno M**, Yokota T, Veronese ML, Oliveira N, Li X, Gilmartin A, Schaffer M, Goyal L. Nat Med. Publisher Correction: Pemigatinib in previously treated solid tumors with activating FGFR1-FGFR3 alterations: phase 2 FIGHT-207 basket trial. 2024 Aug; 30(8): 2377, 2024
9. **Fukushima T**, **Kobayashi S**, **Ueno M**. The correlation between immune-related adverse events and efficacy of immune checkpoint inhibitors. *Jpn J Clin Oncol*. 2024 Sep 4; 54(9): 949-958, 2024
10. **Furuse J**, Ikeda M, **Ueno M**, Furukawa M, Morizane C, Takehara T, Nishina T, Todaka A, Okano N, Hara K, Nakai Y, Ohkawa K, Sasaki T, Sugimori K, Yokoyama N, Yamamoto K. A Phase II Placebo-Controlled Study of the Effect and Safety of Nanvuranlat in Patients with Advanced Biliary Tract Cancers Previously Treated by Systemic Chemotherapy. *Clin Cancer Res*. 2024 Sep 13; 30(18): 3990-3995, 2024
11. Ohba A, Morizane C, Kawamoto Y, Komatsu Y, **Ueno M**, **Kobayashi S**, Ikeda M, Sasaki M, **Furuse J**, Okano N, Hiraoka N, Yoshida H, Kuchiba A, Sadachi R, Nakamura K, Matsui N, Nakamura Y, Okamoto W, Yoshino T, Okusaka T. Trastuzumab Deruxtecan in Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-Expressing Biliary Tract Cancer (HERB; NCCH1805): A Multicenter, Single-Arm, Phase II Trial *J Clin Oncol*. 2024 Sep 20; 42(27): 3207-3217, 2024
12. **Tezuka S**, Ozaka M, **Furuse J**, Yokoyama M, Uemura K, Sano Y, Nakachi K, Imaoka H, Unno M, Shirakawa H, Shimizu S, Kato N, Kojima Y, Sano K, **Kobayashi S**, Terashima T, Morizane C, Ikeda M, **Ueno M**. Early tumor shrinkage as a prognostic predictor in chemotherapy-naïve patients with locally advanced pancreatic cancer treated with modified FOLFIRINOX or gemcitabine plus nab-paclitaxel combination therapy: An exploratory analysis of JCOG1407. *Pancreatol*. 2024 Sep; 24(6): 909-916, 2024
13. Imaoka H, Sasaki K, Machida R, Nagano H, Satoi S, Ikeda M, **Kobayashi S**, Yamashita T, Okusaka T, Ido A, Hatano E, Miwa H, **Ueno M**, Nakao K, Shimizu S, Kuramochi H, Sakamori R, Tsumura H, Okano N, Shioji K, Shirakawa H, Akutsu N, Tsuji K, Ishii H, Umemoto K, Asagi A, **Ueno M**; Current status of the cost burden of first-line systemic treatment for patients with advanced hepatocellular carcinoma in Japan, 2021-22. *JCOG Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group. Jpn J Clin Oncol*. 2024 Oct 3; 54(10): 1071-1077, 2024
14. Kawahara S, Aoyama T, Murakawa M, Kanemoto R, Matsushita N, Hashimoto I, Kamiya M, Maezawa Y, **Kobayashi S**, **Ueno M**, Yamamoto N, Oshima T, Yukawa N, Saito A, Morinaga S. Langenbecks Arch Surg. Clinical usefulness of C-reactive protein-albumin-lymphocyte (CALLY) index as a prognostic biomarker in patients undergoing surgical resection of pancreatic cancer. 2024 Oct 21; 409(1): 317, 2024
15. Kawahara S, Aoyama T, Hashimoto I, Kanemoto R, Matsushita N, Kamiya M, Atsumi Y, Maezawa Y, Kazama K, Murakawa M, **Kobayashi S**, **Ueno M**, Yamamoto N, Oshima T, Yukawa N, Saito A, Morinaga S. Loss of Skeletal Muscle Mass During Neoadjuvant Chemotherapy for Pancreatic Cancer Is Related to the Continuation of S-1 Adjuvant Chemotherapy After Pancreatectomy. *Anticancer Res*. 2024 Oct; 44(10): 4569-4577, 2024
16. Sudo K, Nakamura Y, **Ueno M**, Furukawa M, Mizuno N, Kawamoto Y, Okano N, Umemoto K, Asagi A, Ozaka M, Ohtsubo K, Shimizu S, Matsuhashi N, Itoh S, Matsumoto T, Satoh T, Okuyama H, Goto M, Hasegawa H, Yamamoto Y, Odegaard JI, Bando H, Yoshino T, Ikeda M, Morizane C. Clinical utility of BRCA and ATM mutation status in circulating tumour DNA for treatment selection in advanced pancreatic cancer. *Br J Cancer*. 2024 Oct; 131(7): 1237-1245, 2024
17. Hashimoto T, Nakamura Y, Fujisawa T, Imai M, Shibuki T, Iida N, Ozaki H, Nonomura N, Morizane C, Iwata H, Okano S, Yamagami W, Yamazaki N, Kadowaki S, Taniguchi H, **Ueno M**, Boku S, Oki E, Komatsu Y, Yuki S, Makiyama A, Otsuka T, Hara H, Okano N, Nishina T, Sakamoto Y, Miki I, **Kobayashi S**, Yuda J, Kageyama SI, Nagamine M, Sakashita S, Sakamoto N, Yamashita R, Koga Y, Bando H, Ishii G, Kuwata T, Park WY, Ohtsu A, Yoshino T. The SCRUM-MONSTAR Cancer-Omics Ecosystem: Striving

- for a Quantum Leap in Precision Medicine. *Cancer Discov.* 2024 Nov 1; 14(11): 2243-2261, 2024
18. Sano Y, Kanai M, Morizane C, Sasaki K, Yoshimura M, Ito Y, **Furuse J**, Ozaka M, Fukuda H, **Ueno M**; Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group in Japan Clinical Oncology Group. Protocol digest of a randomized phase III trial comparing S-1-based chemoradiotherapy with/without nivolumab for unresectable locally advanced or borderline resectable pancreatic cancer: JCOG1908E (PENETRATE). *Jpn J Clin Oncol.* 2024 Nov 2; 54(11): 1214-1218, 2024
 19. Kratz JD, Klein AB, Gray CB, Märten A, Vilu HL, Knight JF, Kumichel A, **Ueno M**. The Epidemiology of Biliary Tract Cancer and Associated Prevalence of MDM2 Amplification: A Targeted Literature Review. *Target Oncol.* 2024 Nov; 19(6): 833-844, 2024
 20. Kawahara S, Aoyama T, Murakawa M, Kanemoto R, Takahashi D, Kamioka Y, Hashimoto I, Maezawa Y, **Kobayashi S**, **Ueno M**, Yamamoto N, Oshima T, Yukawa N, Rino Y, Saito A, Morinaga S. Prognostic nutritional index is an independent risk factor for continuing S-1 adjuvant chemotherapy in patients with pancreatic cancer who received neoadjuvant chemotherapy and surgical resection. *BMC Cancer.* 2024 Nov 29; 24(1): 1469, 2024
 21. Okano N, Kawai M, **Ueno M**, Yu X, Inoue Y, Takahashi S, Wang W, Takahashi H, Okamura Y, Morinaga S, Matsumoto I, Shimizu Y, Yoshida K, Yamamoto T, Ohtsuka M, Inokawa Y, Nara S, Tamura J, Shinoda S, Yamamoto K, Yamaue H, **Furuse J**; PC-CURE-1 study group. Outcomes of patients with initially unresectable pancreatic cancer who underwent conversion surgery after FOLFIRINOX or gemcitabine plus nab-paclitaxel chemotherapy: A multicenter retrospective cohort study (PC-CURE-1). *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 2024 Nov; 31(11): 816-829, 2024
 22. Ishida M, Fujii T, Kishiwada M, Shibuya K, Satoi S, **Ueno M**, Nakata K, Takano S, Uchida K, Ohike N, Masugi Y, Furukawa T, Hirabayashi K, Fukushima N, Yi SQ, Isayama H, Itoi T, Ohtsuka T, Okusaka T, Inoue D, Kitagawa H, Takaori K, Tani M, Nagakawa Y, Yoshitomi H, Unno M, Takeyama Y. Japanese classification of pancreatic carcinoma by the Japan Pancreas Society: Eighth edition. *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 2024 Nov; 31(11): 755-768, 2024
 23. **Hamaguchi T**, **Ueno M**, **Kobayashi S**, **Tezuka S**, Morimoto M, Kato T, Saito H, Sato S, **Furuse J**, Maeda S. Steroid-Refractory Immune-Related Hepatitis Caused by Pembrolizumab with Stage IVB Non-Small Cell Lung Cancer: A Case Report. *Case Rep Gastroenterol.* 2024 Dec 23; 19(1): 14-21, 2024
 24. Mitsunaga S, Ikeda M, Nomura S, Morizane C, Todaka A, Yamamoto N, Kamata K, Yanagibashi H, Mizuno N, Kawamoto Y, Gotoh K, Shirakawa H, Okano N, Nomura T, Tanaka K, Takahashi A, Yagi S, Ohta K, Takayama Y, Miwa H, Nagano H, Kojima Y, Hisano T, Tahara M, Sakuma Y, Arai H, Nakamura I, Katayama H, Konishi M, **Ueno M**; Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG-HBPOG). 5-Fluorouracil metabolic pathway genes predict recurrence risk following adjuvant S-1 therapy: Results of an ancillary analysis from a phase III trial of resected biliary tract cancer (JCOG1202A1). *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 2024 Dec; 31(12): 886-896, 2024
 25. Zhang Y, Numata K, Imajo K, Uojima H, Funaoka A, Komiyama S, Ogushi K, Chuma M, Irie K, Kokubu S, Yoneda M, Kobayashi T, Hidaka H, **Fukushima T**, **Kobayashi S**, Morimoto M, Kagawa T, Hattori N, Watanabe T, Iwase S, Maeda S. Lenvatinib radiofrequency ablation sequential therapy offers survival benefits for patients with unresectable hepatocellular carcinoma at intermediate stage and the liver reserve of Child-Pugh A category: A multicenter study. *Hepatol Res.* 2024 Dec; 54(12): 1174-1192, 2024
 26. **Tozuka Y**, Sugimori K, Miwa H, Kaneko T, **Ueno M**, **Furuse J**, Maeda S. Endoscopic ultrasound-guided gallbladder drainage using a forward-viewing echoendoscope after Billroth II gastrectomy. *Endoscopy.* 2024 Dec; 56(S 01): E238-E239, 2024
 27. Terashima T, Nio K, Koshikawa N, **Ueno M**, Toyama T, Miyazawa M, Hayashi T, Seki A, Nakagawa H, Iida N, Yamada S, Takatori H, Shimakami T, Yoshimura T, Yoshida E, Nakagawa M, Seiki M, Yamashita T. Serum laminin γ 2 monomer as a novel diagnostic and prognostic marker for pancreatic ductal adenocarcinoma. *BJC Rep.* 2025 Jan 14; 3(1): 2, 2025
 28. Mitsunaga S, Ikeda M, **Ueno M**, **Kobayashi S**, Tsuda M, Miki I, Kuwahara T, Hara K, Takayama Y, Matsunaga Y, Hanada K, Shimizu A, Yoshida H, Nomoto T, Takahashi K, Iwamoto H, Iwama H, Hatano E, Nakata K, Nakamura M, Sudo H, Takizawa S, Ochiai A. Robust circulating microRNA signature for the diagnosis and early detection of pancreatobiliary cancer. *BMC Med.* 2025 Jan 21; 23(1): 23, 2025
 29. Okuno T, Morizane C, Mizusawa J, Yanagimoto H, **Kobayashi S**, Imaoka H, Terashima T, Kawakami H, Sano Y, Okusaka T, Ikeda M, Ozaka M, Miwa H, Todaka A, Shimizu S, Mizuno N, Sekimoto M, Sano

- K, Tobimatsu K, Katanuma A, Gotoh K, Yamaguchi H, Ishii H, **Furuse J**, **Ueno M**. Influence of major hepatectomy on gemcitabine-based chemotherapy for recurrent biliary tract cancer after surgery: a subgroup analysis of JCOG1113. *Int J Clin Oncol*. 2025 Jan; 30(1): 83-91, 2025
30. Nakamura Y, Ozaki H, **Ueno M**, Komatsu Y, Yuki S, Esaki T, Taniguchi H, Sunakawa Y, Yamaguchi K, Kato K, Denda T, Nishina T, Takahashi N, Satoh T, Yasui H, Satake H, Oki E, Kato T, Ohta T, Matsushashi N, Goto M, Okano N, Ohtsubo K, Yamazaki K, Yamashita R, Iida N, Yuasa M, Bando H, Yoshino T. Targeted therapy guided by circulating tumor DNA analysis in advanced gastrointestinal tumors. *Nat Med*. 2025 Jan; 31(1): 165-175, 2025
31. Morizane C, **Ueno M**, Ioka T, Tajika M, Ikeda M, Yamaguchi K, Hara H, Yabusaki H, Miyamoto A, Iwasa S, Muto M, Takashima T, Minashi K, Komatsu Y, Nishina T, Nakajima TE, Takeno A, Moriwaki T, Furukawa M, Sahara T, Ikezawa H, Nomoto M, Takashima S, Uehara T, Funasaka S, Yashiro M, **Furuse J**. Tasurgratinib in patients with cholangiocarcinoma or gastric cancer: Expansion part of the first-in-human phase I study. *Cancer Sci*. 2025 Jan; 116(1): 192-203, 2025
32. Saito K, Nakai Y, Sasaki T, Takeda T, **Ueno M**, **Tezuka S**, Isayama H, Tomishima K, Kojima Y, Yamamoto N, Ito Y, Oyama H, Toda N, Takagi K, Matsubara S, Mohri D, Sato T, Fujishiro M. Impact of Statin Use on Survival in Patients With Unresectable Pancreatic cancer Receiving Gemcitabine Plus Nab-Paclitaxel: A Multicenter Retrospective Study. *Pancreas*. 2025 Feb 1; 54(2): e107-e113, 2025
33. Nagashima S, **Kobayashi S**, Tsunoda S, Yamachika Y, **Tozuka Y**, **Fukushima T**, Morimoto M, **Ueno M**, **Furuse J**, Maeda S. A case of complete remission by cabozantinib as an end-line treatment for advanced hepatocellular carcinoma. *Clin J Gastroenterol*. 2025 Feb; 18(1): 125-129, 2025
34. Morizane C, **Ueno M**, Ikeda M, Okusaka T, Ishii H, **Furuse J**. Update for: New developments in systemic therapy for advanced biliary tract cancer. *Jpn J Clin Oncol*. 2025 Mar 5; 55(3): 210-218, 2025
35. Kodama Y, Ueshima K, Moriguchi M, Inaba Y, Yamashita T, Iwamoto H, **Ueno M**, Ogasawara S, Kuzuya T, Kodama T, Sato Y, Tada T, Tsuchiya K, Nishiofuku H, Yamakado K, Sone M, Ikeda M, Takehara T, Hamano T, Kudo M. Protocol of the IMPACT study: randomized, multicenter, phase 3 study evaluating the efficacy of immunotherapy (Atezolizumab) plus anti-VEGF therapy (Bevacizumab) in combination with transcatheter arterial chemoembolization for unresectable hepatocellular carcinoma. *BMC Cancer*. 2025 Mar 11; 25(1): 434, 2025
36. Shibuki T, Ikeda M, Yokoyama M, Sano Y, **Furuse J**, **Kobayashi S**, Ohba A, Todaka A, Horie Y, Shioji K, Kanai M, Nishina T, Kumamoto Y, Fujimori N, Katanuma A, Takayama Y, Tsumura H, Miwa H, Ozaka M, **Ueno M**. Depth of response in patients with locally advanced pancreatic cancer treated with first-line chemotherapy: A supplementary analysis of JCOG1407. *Pancreatol*. 2025 Mar; 25(2): 275-283, 2025
37. Imaoka H, Ikeda M, **Kobayashi S**, Ohba A, **Ueno M**, Suzuki Y, Tsumura H, Kimura N, Kawaguchi S, Kawamoto Y, Nakachi K, Tsuji K, Kobayashi N, Ashida R, Okano N, Umemoto K, Murohisa G, Hosokawa A, Asagi A, Nebiki H, Suzuki R, Terashima T, Shibata R, Kawata K, Doi T, Ohyama H, Kitano Y, Shioji K, Okuyama H, Naganuma A, Negoro Y, Sakamoto Y, Shimizu S, Morizane C, **Ueno M**, **Furuse J**, Nagano H; Japan Oncology Network in Hepatobiliary and Pancreas. Efficacy of liposomal irinotecan + 5-FU/LV vs. S-1 in gemcitabine-refractory metastatic pancreatic cancer: a real-world study using inverse probability of treatment weighting. *J Gastroenterol*. 2025 Mar; 60(3): 356-367, 2025
38. Imaoka H, Ikeda M, **Kobayashi S**, Ohba A, **Ueno M**, Suzuki Y, Tsumura H, Kimura N, Kawaguchi S, Kawamoto Y, Nakachi K, Tsuji K, Kobayashi N, Ashida R, Okano N, Umemoto K, Murohisa G, Hosokawa A, Asagi A, Nebiki H, Suzuki R, Terashima T, Shibata R, Kawata K, Doi T, Ohyama H, Kitano Y, Shioji K, Okuyama H, Naganuma A, Negoro Y, Sakamoto Y, Shimizu S, Morizane C, **Ueno M**, **Furuse J**, Nagano H; Japan Oncology Network in Hepatobiliary and Pancreas. Correction: Efficacy of liposomal irinotecan + 5-FU/LV vs. S-1 in gemcitabine-refractory metastatic pancreatic cancer: a real-world study using inverse probability of treatment weighting. *J Gastroenterol*. 2025 Mar; 60(3): 368-369, 2025

学会等発表

1. **上野 誠**：胆道癌の分子異常と治療の新展開 胆道癌のゲノム診断・治療の現状と今後の展望. 第110回日本消化器病学会総会, 徳島, 05/2024
2. **榎本昌人**, **福島 泰斗**, **白石和雅**, **濱口智美**, **戸塚雄一朗**, **朝井靖二**, **小林 智**, **上野 誠**：肝転移を有していたものの, 原発巣のコントロールのためにSSPPDを施行した膵腺房細胞癌の一例. 日本消化器病学会関東支部第380回例会, 東京, 07/2024

発表論文

3. 小林 智, 角田翔太郎, 濱口智美, 山近由衣, 朝井靖二, 戸塚雄一郎, 福島泰斗, 森本 学, 上野 誠: NAPOLI-1療法による二次薬物療法により2年半の無増悪生存期間が得られた膵癌の一例. 第55回日本膵臓学会大会, 宇都宮, 07/2024
4. 朝井靖二, 小林 智, 角田翔太郎, 濱口智美, 山近由衣, 戸塚雄一郎, 福島泰斗, 手塚 瞬, 森本 学, 上野 誠: イリノテカン既治療例におけるnal-IRI+5FU/LV療法の効果予測因子の検討. 第55回日本膵臓学会大会, 宇都宮, 07/2024
5. 村川正明, 金本 滯, 河原慎之輔, 高橋大志, 上岡祐人, 小林 智, 上野 誠, 山本直人, 森永聡一郎: 二次治療が奏功し, Conversion surgeryを行った初診時切除不能進行膵癌症例. 第55回日本膵臓学会大会, 宇都宮, 07/2024
6. 戸塚雄一郎, 上野 誠, 角田翔太郎, 濱口智美, 山近由衣, 朝井靖二, 福島泰斗, 手塚 瞬, 小林 智, 山本直人, 森本 学, 古瀬純司, 前田 慎: Under 40 Clinical and Research Symposium (臨床治療部門) 切除可能膵癌に対し, 術前のRBOが周術期の治療成績に与える影響についての検討. 第55回日本膵臓学会大会, 宇都宮, 07/2024
7. 戸塚雄一郎, 上野 誠, 白石和雅, 榎本昌人, 濱口智美, 朝井靖二, 福島泰斗, 手塚 瞬, 小林 智, 古瀬純司, 前田 慎: BRAFV600E変異を有する肝内胆管癌に対し, ダブラフェニブ・トラメチニブ併用療法が奏効した1例. 日本消化器病学会関東支部第381回例会, 東京, 09/2024
8. 小井詰史朗, 小林 智, 高橋朋子, 上野 誠, 濱口智美, 宮城洋平: 膵臓癌患者の血栓塞栓症発症における組織因子の重要性 (Importance of tissue factor on cancer-associated thromboembolism in pancreatic cancer patients) (英語). 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 09/2024
9. 上野 誠, 小林 智: オリゴ転移の治療戦略～転移性腫瘍に対する局所療法の意義を見直す～ 胆膵癌のオリゴ転移に対する治療戦略 (英語). 第62回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 10/2024
10. 白石和雅, 小林 智, 榎本昌人, 濱口智美, 朝井靖二, 戸塚雄一郎, 福島泰斗, 上野 誠: 切除不能膵癌に対するがん薬物療法中にS状結腸憩室穿孔を来した1例. 神奈川医学会, 横浜, 01/2025
11. 朝井靖二, 小林 智, 白石和雅, 榎本昌人, 濱口智美, 戸塚雄一郎, 福島泰斗, 上野 誠: イリノテカン既治療例におけるnal-IRI+5FU/LV療法の有効性予測因子の解析. 第56回日本膵臓学会大会, 東京, 07/2025
12. 戸塚雄一郎, 上野 誠, 白石和雅, 榎本昌人, 濱口智美, 朝井靖二, 福島泰斗, 手塚 瞬, 小林 智, 加藤弘之, 山本直人, 前田 慎, 古瀬純司: 高齢者・超高齢者における膵癌治療の現状と展望 80歳以上の切除可能膵癌に対する手術と重粒子線治療の比較. 第56回日本膵臓学会大会, 東京, 07/2025

1. Hashimoto I, Tanabe M, Onuma S, Morita J, Nagasawa S, Maezawa Y, Kanematsu K, Aoyama T, Yamada T, Ogata T, Yukawa N, Rino Y, Saito A, Oshima T: A propensity-matched analysis of the prognostic value of advanced lung cancer inflammation index in patients with gastric cancer after curative resection. Oncol Lett. 26; 27(6): 285. 2024.
2. Komori K, Yamada T, Ando S, Hashimoto I, Watanabe H, Maezawa Y, Fujikawa H, Sawazaki S, Numata M, Aoyama T, Yukawa N, Rino Y, Saito A, Ogata T, Oshima T: Comparison of Survival Between ypStage and pStage in Gastric Cancer. Anticancer Res. 44(6): 2661-2670. 2024.
3. Kato K, Machida R, Ito Y, Daiko H, Ozawa S, Ogata T, Hara H, Kojima T, Abe T, Bamba T, Watanabe M, Kawakubo H, Shibuya Y, Tsubosa Y, Takegawa N, Kajiwarra T, Baba H, Ueno M, Takeuchi H, Nakamura K, Kitagawa Y, JCOG1109 investigators: Doublet chemotherapy, triplet chemotherapy, or doublet chemotherapy combined with radiotherapy as neoadjuvant treatment for locally advanced oesophageal cancer (JCOG1109 NExT): a randomised, controlled, open-label, phase 3 trial. The Lancet; Vol. 404, No. 10447. pp. 55-66. Available online 2024.
4. Oshima T, Hashimoto I, Hiroshima Y, Kimura Y, Tanabe M, Nakayama Y, Nagasawa S, Kanematsu K, Aoyama T, Yamada T, Ogata T, Miyagi Y: Clinical Significance of Granzyme B Gene Expression in Pathological Stage II/III Gastric Cancer After Curative Gastrectomy. Anticancer Res. 44(10): 4537-4542. 2024.
5. Oshima T, Hashimoto I, Hiroshima Y, Kimura Y, Tanabe M, Nakayama Y, Nagasawa S, Kanematsu K, Aoyama T, Yamada T, Ogata T, Miyagi Y: Clinical Significance of HRNR Expression in Patients With Stage II/III Gastric Cancer After Curative Gastrectomy. Anticancer Res. 44(10): 4579-4584. 2024.
6. Hashimoto I, Nakayama Y, Tanabe M, Morita J, Nagasawa S, Maezawa Y, Kanematsu K, Aoyama T, Yamada T, Yukawa N, Rino Y, Saito A, Ogata T, Oshima T: Inflammatory burden index prognostic impact in patients with gastric cancer after gastrectomy: A propensity-matched analysis. Anticancer Res. 44(9): 3995-4001. 2024.
7. Hashimoto I, Komori K, Maezawa Y, Nagasawa S, Kawabe T, Aoyama T, Hayashi T, Yamada T, Sato T, Ogata T, Cho H, Yoshikawa T, Yukawa N, Rino Y, Saito A, Oshima T: Prognostic value of computed

- tomography-derived skeletal muscle index and radiodensity in patients with gastric cancer after curative gastrectomy. *Oncol Lett.* 25; 28(4): 458. 2024.
8. Hashimoto I, Komori K, Onuma S, Watanabe H, Suematsu H, Nagasawa S, Kano K, Kawabe T, Aoyama T, Hayashi T, Yamada T, Sato T, Ogata T, Cho H, Yoshikawa T, Rino Y, Saito A, Oshima T.: Preoperative Visceral-to-subcutaneous Fat Ratio by Sex as a Predictor of Postoperative Survival in Patients With Gastric Cancer. *Anticancer Res.* 44(8): 3515-3524. 2024.
 9. Morita J, Aoyama T, Nakazono M, Maezawa Y, Tanabe M, Kawahara S, Hashimoto I, Komori K, Hara K, Kanematsu K, Nagasawa S, Yamada T, Cho H, Yukawa N, Ogata T, Saito A, Oshima T: Comparison of the Dietary Intake After Gastrectomy Between Male and Female Patients With Gastric Cancer. *In Vivo.* 38(4): 1847-1853. 2024.
 10. Oshima T, Yamamoto S, Kawakami H, Makino H, Kawazoe A, Masuishi T, Tsushima T, Hirano M, Tsuda M, Hino K, Yamamoto M, Hara H, Kaname S, Matsuoka D, Otake Y, Yasuda K, Takase T, Takashima S, Semba T, Ooki A: Phase 1b/2 study of the liposomal formulation of eribulin (E7389-LF) in combination with nivolumab: Results from the phase 2 esophageal cancer cohort. *BJC Rep* 2, 66. 2024.
 11. Nagasawa S, Akiyama H, Tanabe M, Nakayama Y, Onuma S, Morita J, Hashimoto I, Suematsu H, Nakazono M, Yamada T, Ogata T, Yukawa N, Saito A, Oshima T: Breakfast Protein Intake of One-third of Daily Requirement Can Maintain Lean Body Mass Post-distal Gastrectomy. *In Vivo.* 38(6): 2897-2903. 2024.
 12. Oshima T, Yoshikawa T, Miyagi Y, Morita S, Yamamoto M, Tanabe K, Nishikawa K, Ito Y, Matsui T, Kimura Y, Aoyama T, Ogata T, Cho H, Tsuburaya A, Sakamoto J: Biomarker Study for Selecting Neoadjuvant Chemotherapy Regimens Based on Prognostic Prediction Using Gastric Cancer Biopsy Specimens from a Phase II Randomized Controlled Trial. *Anticancer Res.* 44(11): 4951-4960. 2024.
 13. Hashimoto I, Komori K, Onuma S, Watanabe H, Suematsu H, Nagasawa S, Kano K, Kawabe T, Aoyama T, Hayashi T, Yamada T, Sato T, Saito A, Ogata T, Cho H, Yoshikawa T, Rino Y, Oshima T.: Prognostic impact of adipopenia progression in gastric cancer patients one month after surgery: Prospective cohort study. *World J Surg.* 49(2): 472-482. 2025.
 14. Kanematsu K, Nakayama Y, Tanabe M, Morita J, Nagasawa S, Yamada T, Ogata T, Oshima T.: Hazard rates of recurrence for gastric cancer after curative resection: implications for postoperative surveillance. *Gastric Cancer.* 28(2): 275-282. 2025.
 15. Yamada T, Nagasawa S, Kanematsu K, Morita J, Onuma S, Tanabe M, Nakayama Y, Shiozawa M, Yamamoto N, Ogata T, Oshima T.: Comparison of Clinical Outcomes Between Delta-Shaped and Circular Anastomoses After Laparoscopic Distal Gastrectomy. *Asian J Endosc Surg.* 18(1): e70014. 2024.
 16. Komori K, Yamada T, Ando S, Nagasawa S, Kanematsu K, Morita J, Tanabe M, Nakayama Y, Rino Y, Saito A, Ogata T, Oshima T.: Clinical Significance of Residual Lymph Node Metastasis in Predicting Recurrence After Preoperative Chemotherapy and Surgery for Gastric Cancer. *Anticancer Res.* 45(3): 1205-1214. 2025.
- 学会発表等
- 【国内学会】
1. 山田貴允, 長澤伸介, 兼松恭平, 森田順也, 大沼静音, 田邊美恵, 尾形高士, 大島 貴: 腹腔鏡下幽門側胃切除術後ビルロート I 法の吻合法による術後経過の比較. 第124回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2024, 4.
 2. 兼松恭平, 田邊美恵, 大沼静音, 森田順也, 橋本 至, 末松秀明, 長澤伸介, 山田貴允, 尾形高士, 大島 貴: CTでの筋肉量評価を用いたGLIM基準低栄養が進行食道癌長期予後に与える影響. 第124回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2024, 4.
 3. 大島 貴, 木村弥生, 廣島幸彦, 橋本 至, 宮城洋平: 胃癌患者の臨床検体を用いた術前高度リンパ節転移の補助診断法の構築. 第110回日本消化器病学会総会, 徳島, 2024, 5.
 4. 尾形高士, 加藤 健, 伊藤芳紀, 大幸宏幸, 小澤壯治, 原浩樹, 小島隆嗣, 町田龍之介, 北川雄光: 食道癌術前治療第Ⅲ相比較試験 (JCOG1109) ~ 5年経過最終解析. 第78回日本食道学会学術集会, 東京, 2024, 6.
 5. 尾形高士, 兼松恭平, 長澤伸介, 森田順也, 大沼静音, 田邊美恵, 山田貴允, 大島 貴, 古田光寛, 町田望: 当センターにおける Nivolumab を用いたステージ IV 症例の治療成績. 第78回日本食道学会学術集会, 東京, 2024, 6.
 6. 兼松恭平, 田邊美恵, 大沼静音, 森田順也, 長澤伸介, 山田貴允, 尾形高士, 大島 貴: 反回神経麻痺を回避するための術中神経モニタリングを用いた胸腔鏡下食道癌手術. 第78回日本食道学会学術集会, 東京, 2024, 6.
 7. 山田貴允, 長澤伸介, 兼松恭平, 森田順也, 大沼静音, 田邊美恵, 尾形高士, 大島 貴: 腹腔鏡下幽門側胃切除術後Circular再建とDelta再建の術後経過の比較. 第79回日本消化器外科学会総会, 下関, 2024, 7.
 8. 長澤伸介, 秋山紘槻, 田邊美恵, 大沼静音, 森田順也, 兼松恭平, 中園真聡, 山田貴允, 尾形高士, 大島 貴:

たんぱく質の摂取タイミングは幽門側胃切除後の除脂肪体重減少に影響する。第79回日本消化器外科学会総会、下関、2024、7。

9. 兼松恭平, 田邊美恵, 大沼静音, 森田順也, 長澤伸介, 山田貴允, 尾形高士, 大島 貴: 食道癌手術後の周術期輸液管理が感染性合併症に及ぼす影響。第79回日本消化器外科学会総会、下関、2024、7。
10. 田邊美恵, 山田貴允, 大沼静音, 森田 順也, 兼松恭平, 長澤伸介, 利野 靖, 斎藤 綾, 尾形高士, 大島 貴: 当院における胃癌に対するConversion Surgeryの治療成績。第79回日本消化器外科学会総会、下関、2024、7。
11. 山田貴允, 神田光郎, 田 千恵, 三澤一成, 望月能成, 渡邊卓哉, 末岡 智, 石山聡治, 大島 貴, 小寺泰弘: 胃全摘術と噴門側胃切除術の術後長期体重変化とquality of lifeを比較する多施設共同前向き観察研究(CCOG1602)。JDDW2024, 神戸、2024、10。
12. 森田順也, 中園真聡, 青山 徹, 田邊美恵, 中山雄太, 大沼静音, 兼松恭平, 長澤伸介, 山田貴允, 利野靖, 斎藤綾, 尾形高士, 大島貴: 胃癌に対する根治的胃切除術後における経口摂取量と体重変化の性別間比較検討。JDDW2024, 神戸、2024、10。
13. 尾形高士, 兼松恭平, 長澤伸介, 中山雄太, 田邊美恵, 森田順也, 山田貴允, 大島 貴: 外科医が行う免疫チェックポイント阻害剤を用いた治療<単剤からNIVO+IPIまで>。第86回日本臨床外科学会学術集会、宇都宮、2024、11。
14. 田邊美恵, 長澤伸介, 森田順也, 兼松恭平, 山田貴允, 斎藤 綾, 尾形高士, 大島 貴: 脾静脈の走行異常を伴う早期胃癌に対して腹腔鏡下幽門側胃切除術を施行した1例。第37回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024、12。
15. 森田順也, 田邊美恵, 中山雄太, 兼松恭平, 長澤伸介, 山田貴允, 尾形高士, 大島 貴: 当院における高齢者pStageⅢ胃癌に対する補助療法としてのS-1+Docetaxel療法の安全性と有効性。第97回日本胃癌学会総会、名古屋、2025、3。
16. 田邊美恵, 中山雄太, 森田順也, 兼松恭平, 長澤伸介, 山田貴允, 尾形高士, 大島 貴: 根治的胃癌術後患者の転帰評価におけるCONUTスコアの臨床的意義。第97回日本胃癌学会総会、名古屋、2025、3。

【国際学会】

1. Ogata T, Kanematsu K, Nagasawa S, Morita J, Ohnuma S, Tanabe M, Yamada T, Oshima T, Furuta M, Machida N: Treatment using NIVO+Chemo or NIVO+IPI for unresectable/recurrent esophageal squamous cancer in our institute. 20th ISDE World Congress for Esophageal Diseases By ISDE2024, Edinburgh, Scotland, Sep22-24/2024。
2. Morita J, Tanabe M, Nakayama Y, Kanematsu K, Nagasawa S, Yamada T, Maezawa Y, Kazama K,

Numata K, Aoyama T, Yukawa N, Ogata T, Saito A, Oshima T: A comparison of the dietary intake after surgery in gastric cancer patients between laparoscopic-assisted and conventional gastrectomy. ESMO Asia Congress 2024, Singapore, 2024, 12。

消化器外科 (大腸)

発表論文

1. Kataoka K, Yamada T, Shiozawa M, Takase N, Ito K, Yamazaki K, Watanabe J, Kudo T, Suto T, Matsumoto T, Murata K, Suwa Y, Boku S, Yasui H, Matsuhashi N, Maeda A, Sugimoto K, Matsumoto Y, Yokota M, Fredebohm J, Mori K, Ikeda M: Monitoring ctDNA RAS Mutational Status in Metastatic Colorectal Cancer: Trial Protocol of RAS-trace and RAS-trace-2 Studies. Journal of the Anus, Rectum and Colon, 8(2): 132-136, 2024。
2. Song J, Kataoka K, Inoue M, Yamada T, Shiozawa M, Beppu N, Kuriyama S, Suto T, Matsuhashi N, Sakura Y, Kanazawa A, Kagawa H, Kanemitsu Y, Ceelen W, Ikeda M: Lymphatic spread patterns in young versus elderly patients with stage Ⅲ colon cancer. BJS Open, 8(3): zrae036, 2024。
3. Ono Y, Okubo Y, Washimi K, Mikayama Y, Doiuch T, Hasegawa C, Yoshioka E, Ono K, Shiozawa M, Yokose T: Primary omental smooth muscle tumor in an adult male: a diagnostic dilemma for leiomyoma: a case report. Journal of Medical Case Reports, 18(1): 222, 2024。
4. Iguchi K, Shiozawa M, Uchiyama M, Asari M, Numata K, Rino Y, Saito A: Temporal dynamics of RAS mutations in circulating tumor DNA in metastatic colorectal cancer: clinical significance of mutation loss during treatment. J Cancer Res Clin Oncol, 150(5): 281, 2024。
5. Yuki S, Yamazaki K, Sunakawa Y, Taniguchi H, Bando H, Shiozawa M, Nishina T, Yasui H, Kanazawa A, Ando K, Horita Y, Goto M, Okano N, Moriwaki T, Satoh T, Tsuji A, Yamashita K, Asano C, Abe Y, Nomura S, Yoshino T: Plasma Angiogenic Factors as Predictors of the Efficacy of Second-line Chemotherapy Combined with Angiogenesis Inhibitors in Metastatic Colorectal Cancer: Results From the GI-SCREEN CRC-Ukit Study. Clinical Colorectal Cancer, 23(2): 147-159. e7., 2024。
6. Kotani D, Takashima A, Kato T, Satoh T, Masuishi T, Komatsu Y, Shiozawa M, Esaki T, Izawa N, Takeuchi S, Bando H, Iwasa S, Hasegawa H, Yamaguchi T, Taniguchi H, Ushida Y, Oizaki T, Inoue C, Yoshino

- T: Safety and Efficacy of Encorafenib, Binimetinib, and Cetuximab for BRAFV600E-Mutant Metastatic Colorectal Cancer: Results of the Japanese Expanded Access Program. *Clin Colorectal Cancer*, 23(2): 174-182. e6., 2024.
7. Osumi H, Shinozaki E, Nakamura Y, Esaki T, Yasui H, Taniguchi H, Satake H, Sunakawa Y, Komatsu Y, Kagawa Y, Denda T, **Shiozawa M**, Satoh T, Nishina T, Goto M, Takahashi N, Kato T, Bando H, Yamaguchi K, Yoshino T: Clinical features associated with NeoRAS wild-type metastatic colorectal cancer A SCRUM-Japan GOZILA substudy. *Nature Communications*, 15(1): 5885, 2024.
 8. Ishiyama Y, Hirano Y, **Shiozawa M**, Otsuji E, Natsume S, Akagi T, Nakajima K, Kagawa Y, Ohnuma S, Saito S, Inomata M, Yamamoto S, Sakai Y, Watanabe M, Naitoh T, on behalf of the Japan Society of Laparoscopic Colorectal Surgery: Risk factors of bleeding during rectal cancer surgery in obese patients in Japan. *Asian Journal of Endoscopic Surgery*, 17(3): e13316, 2024.
 9. Kataoka K, Yamada T, Yamazaki K, Mori K, Matsuhashi N, **Shiozawa M**, Iwai T, Goto M, Yasui M, Takii Y, Suto T, Takamizawa Y, Takase N, Sharma S, Ensor J, Jurdi A, Liu C M, Ikeda M, Kanemitsu Y: Trial Protocol of a Phase II Study of mFOLFOXIRI after Metastasectomy in Patients with Oligometastatic Colorectal Cancer (FANTASTIC Study). *J Anus Rectum Colon*, 8(3): 246-252, 2024.
 10. **Iguchi K**, Sugiyama A, Mushiake H, Hasegawa S, Rino Y, Saito A, **Shiozawa M**: True significance of the number of retrieved lymph nodes in stage II colon cancer resected by minimally invasive surgery: Influence of tumor sidedness. *Asian J Endosc Surg*, 17(3): e13312, 2024.
 11. **Iguchi K**, Sato S, **Shiozawa M**, Mushiake H, Uchiyama M, Numata K, Nukada S, Kohmura T, Mikayama Y, Ono Y, Kazama K, Katayama Y, Numata M, Higuchi A, Godai T, Sugano N, Rino Y, Saito A: Usefulness of the one-step technique in functional end-to-end anastomosis for colonic surgery: results of a prospective multicentre cohort study from the Japanese KYCC group. *Tech Coloproctol*, 28(1), 82, 2024.
 12. Iida N, Imai M, Okamoto W, Kato T, Esaki T, Kato K, Komatsu Y, Yuki S, Masuishi T, Nishina T, Ebi H, Taniguchi H, Nonomura N, Sunakawa Y, **Shiozawa M**, Yamazaki K, Boku S, Bando H, Shiraish Y, Kobayashi M, Goto H, Sato A, Fujii S, Yoshino T, Nakamura Y: Novel ERBB2 Variant Potentially Associated with Resistance against Anti-HER2 Monoclonal Antibody-Based Therapy in ERBB2-Amplified Metastatic Colorectal Cancer. *Clin Cancer Res*, 30(18): 4167-4178, 2024
 13. Bando H, Kotani D, Satake H, Hamaguchi T, **Shiozawa M**, Kotaka M, Masuishi T, Yasui H, Kagawa Y, Komatsu Y, Oki E, Yamamoto Y, Kawakami H, Misumi T, Taniguchi H, Yamazaki K, Muro K, Yoshino T, Kato T, Tsuji A: QUATTRO-II randomized trial: CAPOXIRI+bevacizumab vs. FOLFOXIRI+bevacizumab as first-line treatment in patients with mCRC. *Med*, 5(9): 1164-1177, 2024.
 14. Numata K, **Shiozawa M**, Ono Y, **Iguchi K**, Uchiyama M, **Asari M**, Rino Y, Saito A: Clinical Significance of the Post/Preoperative Anti-p53 Antibody Ratio in Predicting the Prognosis of Patients with Colorectal Cancer after Curative Surgery and Its Usefulness in Combination with Carcinoembryonic Antigen. *Oncology*, 102(10): 841-849, 2024.
 15. Nakamura Y, Tsukada Y, Matsuhashi N, Murano T, **Shiozawa M**, Takahashi Y, Oki E Goto M, Kagawa Y, Kanazawa A, Ohta T, Ouchi A, Bando H, Uchigata H, Notake C, Ikematsu H, Yoshino T: Colorectal Cancer Recurrence Prediction Using a Tissue-Free Epigenomic Minimal Residual Disease Assay. *Clinical Cancer Research*, 30(19): 4377-4387, 2024.
 16. Komori K, Takii Y, Mizusawa J, Kanemitsu Y, **Shiozawa M**, Ohue M, Ikeda S, Kobatake T, Hamaguchi T, Katayama H, Fukuda H: Long-term follow-up of the conventional versus no-touch isolation technique for resection of primary colon cancer (JCOG1006): randomized clinical trial. *BJS Open*, 8(6): zrae133, 2024.
 17. Ito S, Kinugasa Y, Yamauchi S, Sato H, Hirakawa A, Ishihara S, Shiomi A, Kanemitsu Y, Suto T, Takahashi H, Itabashi M, **Shiozawa M**, Hiyoshi M, Kobatake T, Komori K, Egi H, Ozawa H, Yamaguchi T, Inada R, Ito M, Hirano Y, Furutani A, Tanabe Y, Ueno H, Ohue M, Hida K, Kawai K, Sunami E, Ishida H, Uehara K, Watanabe J, Hotchi M, Ishibe A, Takii Y, Hiro J, Numata M, Takemasa I, Kato T, Kakeji Y, Hirata A, Ajioka Y: Long-term Outcome After Surgical Resection of Para-aortic Lymph Node Metastasis of Colorectal Cancer: A Multicenter Retrospective Study. *Dis Colon Rectum*, 67(11): 1423-1436, 2024.
 18. **Shiozawa M**, Sunakawa Y, Watanabe T, Ota H, Yasui H, Yabuno T, Tei M, Kochi M, Manaka D, Otori H, Yamaguchi T, Sagawa T, Kotaka M, Kubota Y, Sekikawa T, Nakamura M, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M, Tsuji A: Modified FOLFOXIRI plus cetuximab versus bevacizumab in RAS wild-type metastatic

colorectal cancer: a randomized phase II DEEPER trial. *Nature Communications*, 15(1): 10217, 2024.

19. Kato A, Numata M, Izukawa S, Ohgimi T, **Okamoto H**, Atsumi Y, Kazama K, **Asari M**, Numata K, Sawazaki S, Watanabe T, Mikayama Y, Godai T, Higuchi A, Saeki H, Hatori S, Mushiake H, Matsumoto S, Rino Y, Saito A, **Shiozawa M**: Prospective observational study comparing the perioperative outcomes of laparoscopic colectomy with or without epidural anesthesia: the Kanagawa Yokohama Colorectal Cancer Study Group (KYCC) 1806. *Surg Today*, 54(11): 1353-1359, 2024.
20. Taniguchi H, Uehara K, Ishikawa T, Okochi O, Akazawa N, Okuda H, Hasegawa H, **Shiozawa M**, Kataoka M, Satake H, Shimura T, Kondoh C, Kuramochi H, Matsumoto T, Takegawa N, Yamaguchi T, Nagase M, Nakamura M, Takano N, Fujita H, Watanabe T, Nishina T, Sakamoto Y, Moriwaki T, Ohori H, Nakanishi M, Kito Y, Utsunomiya S, Ishikawa T, Manaka D, Matsuoka H, Suto T, Arai T, Shinazaki S, Funakoshi T, Nakayama G, Negoro Y, Tsuji Y, Makiyama A, Takuma K, Arimoto A, Shinozaki K, Mishima A, Masuishi T: BRAF V600E and Non-V600E Mutations in RAS Wild-Type Metastatic Colorectal Cancer: Prognostic and Therapeutic Insights from a Nationwide, Multicenter, Observational Study (J-BROS). *Cancers (Basel)*, 17(3): 399, 2025.
21. Yamada T, Nagasawa S, Kanematsu K, Morita J, Onuma S, Tanabe M, Nakayama Y, **Shiozawa M**, Yamanoto N, Ogata T, Oshima T: Comparison of Clinical Outcomes Between Delta-Shaped and Circular Anastomoses After Laparoscopic Distal Gastrectomy. *Asian J Endosc Surg*, 18(1): e70014, 2025.
22. Hirano H, Kataoka K, Yamaguchi T, Wagner D A, Shimada Y, Inomata M, Hamaguchi T, Takii Y, Mizusawa J, Sano Y, Shiomi A, **Shiozawa M**, Ohue M, Adachi T, Ueno H, Ikeda S, Komori K, Tsukamoto S, Takashima A, Kanemitsu Y: Sex differences in toxicities and survival outcomes among Japanese patients with Stage III colorectal cancer receiving adjuvant fluoropyrimidine monotherapy: A pooled analysis of 4 randomized controlled trials (JCOG2310A). *Eur J Cancer*, 214: 115139, 2025.
23. Ono Y, Numata K, **Iguchi K**, Uchiyama M, **Asari M**, Rino Y, Saito A, **Shiozawa M**: Clinicopathological Features and Prognosis of Unresectable Colorectal Cancer With the BRAF V600E Mutation. *Cancer Diagn Progn*, 5(2): 216-222, 2025.

【国際学会】

1. Kobayashi S, Takamota T, Shiomi A, Takahashi

- A, **Shiozawa M**, Shimizu Y, Kagawa Y, Nobuoka D, Yamauchi J, Kato T, Oki E, Taketomi A, Takahashi Y, Natsume S, Niguma T, Kani S, Nakamura Y: Characteristics of patients (pts) with disease relapse despite absence of molecular residual disease (MRD) after resection of colorectal oligometastases (CRM): Implications from PRECISION study. *ASCO Annual Meeting*, Chicago, 2024, 5.
2. Uetake H, Yamashita R, Shitara K, Yoshino T, Watanabe J, Yasui H, Ohori H, **Shiozawa M**, Muro K, Yamazaki K, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Soeda J, Yamamoto K, Akagi K, Ochiai A, Tsuchihara K: Acquired gene alteration patterns and post-progression survival: PARADIGM study analysis. *ASCO Annual Meeting*, Chicago, 2024, 5.
3. Sunakawa Y, **Shiozawa M**, Kawai T, Ota H, Yasui H, Kochi M, Manaka D, Ohori H, Matsuura M, Shinohara Y, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M, Tsuji A: Modified (m)-FOLFOXIRI plus cetuximab versus bevacizumab for right-sided or BRAF mutant metastatic colorectal cancer (mCRC): Subgroup analysis of the DEEPER trial (JACCRO CC-13). *ESMO Gastrointestinal Cancers Congress*, Munich, 2024, 6.
4. Kagawa Y, Kato T, **Shiozawa M**, Yamaguchi K, Gotoh M, Yasui H, Hamaguchi T, Hara H, Yoshino T: Safety, efficacy, and biomarkers of ONO-4578, an EP4 antagonist, in combination with nivolumab and chemotherapy in treatment-naïve and proficient mismatch repair (pMMR)/microsatellite stable (MSS) metastatic colorectal cancer (mCRC). *ESMO Gastrointestinal Cancers Congress*, Munich, 2024, 6.
5. Ikeda M, Kataoka K, Yamada T, Yamazaki K, Mori K, Matsuhashi N, **Shiozawa M**, Gotoh M, Iwai T, Ito K, Yasui M, Takii Y, Suto T, Takamizawa Y, Takase N, Sharma S, Ensor J, Jurdi A, Liu M C, Kanemitsu Y: A phase II study of mFOLFOXIRI after metastasectomy in patients with oligometastatic colorectal cancer (FANTASTIC study). *ESMO Gastrointestinal Cancers Congress*, Munich, 2024, 6.
6. Ito K, Takahashi K, Kataoka K, Ouchi A, **Shiozawa M**, Akiyoshi T, Yoshida T, Ikeda M, Shinto E, Takamizawa Y, Ajioka Y, Kobayashi H, Kanemitsu Y: Optimal cut-off value for lymph node harvesting in colon cancer based on tumor stage and sidedness: A retrospective analysis of a Japanese nationwide cohort. *ASCO GI*, San Francisco, 2025, 1.
7. Yasui M, Ohue M, Taguchi S, Ito Y, Kudo T, Ikeda S, Takii Y, **Shiozawa M**, Ueno H, Hamaguchi T, Takashima A, Tsukamoto S, Hashimoto T, Sano Y, Mizusawa J, Fukuda H, Kanemitsu Y: Total

neoadjuvant therapy followed by total mesorectal excision and selective lateral lymph node dissection for locoregionally advanced low rectal cancer: A phase III randomized controlled trial (JCOG2207). ASCO GI, San Francisco, 2025, 1.

8. Kobayashi A, Nakamura Y, Hashimoto T, Taniguchi H, Komatsu Y, Esaki T, Sunakawa Y, Yamaguchi K, Kato T, **Shiozawa M**, Takahashi N, Ohta T, Denda T, Satake H, Nishina T, Yasui H, Bando H, Yoshino T: Association between ctDNA levels, timing of blood collection, and overall survival in metastatic colorectal cancer. ASCO GI, San Francisco, 2025, 1.
9. Sunakawa Y, Inoue E, Kotani D, Denda T, Inagaki C, Kashiwada T, Horita Y, Sugaya A, Suwa Y, Ohta T, Kuramochi H, Oshima K, **Shiozawa M**, Yuki S, Tsuji A, Muro K, Ichikawa W, Fujii M: Encorafenib and cetuximab with/without binimetinib therapies for patients with BRAF-mutated metastatic colorectal cancer with prognostic factors: The BEETS trial (JACCRO CC-18). ASCO GI, San Francisco, 2025, 1.
10. Sunami E, Yamazaki K, **Shiozawa M**, Manaka D, Kotaka M, Sakamoto Y, Shiomi A, Shinohara Y, Munemoto Y, Rikiyama T, Fukunaga M, Ueki T, Shitara K, Yamada J, Tanida N, Misumi T, Ohtsu A, Maehara Y, Yoshino T: Seven-year efficacy and safety in a randomized phase III trial investigating duration of adjuvant oxaliplatin-based therapy (3 vs. 6 months) for patients with high-risk stage II colon cancer: ACHIEVE-2 trial. ASCO GI, San Francisco, 2025, 1.
11. Bando H, Watanabe J, Kotaka M, Matsushashi N, Oki E, Komatsu Y, **Shiozawa M**, Hirata K, Miyamoto Y, Yeh K, Aleshin A, Takemasa I, Kotani D, Sato A, Misumi T, Nakamura Y, Shi Q, Taniguchi H, Kato T, Yoshino T: A randomized, double-blind, phase III study comparing trifluridine/tipiracil (FTD/TPI) versus placebo in patients with molecular residual disease following curative resection of colorectal cancer (CRC): The ALTAIR study. ASCO GI, San Francisco, 2025, 1.
12. Tsuji A, Sunakawa Y, **Shiozawa M**, Kawai T, Ota H, Yasui H, Yabuno T, Tei M, Kochi M, Manaka D, Ohori H, Yamaguchi T, Matsuura M, Katsuya H, Makiyama A, Ikenaga M, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M: Final analysis of modified (m)-FOLFOXIRI plus cetuximab versus bevacizumab for RAS wild-type and left-sided metastatic colorectal cancer: The DEEPER trial (JACCRO CC-13). ASCO GI, San Francisco, 2025, 1.
13. Hirano H, Kataoka K, Yamaguchi T, Wagner D A, Shimada Y, Inomata M, Hamaguchi T, Takii Y, Mizusawa J, Sano Y, Shiomi A, **Shiozawa M**, Ohue M, Adachi T, Ueno H, Ikeda S, Komori K, Tsukamoto

S, Takashima A, Kanemitsu Y: Sex differences in toxicities and survival outcomes among patients with stage III colorectal cancer receiving adjuvant fluoropyrimidine monotherapy: A pooled analysis of four randomized controlled trials (JCOG2310A). ASCO GI, San Francisco, 2025, 1.

14. Kataoka K, Mauer E M, **Shiozawa M**, Marreud S, Kishi Y, Cabrieto J, Onaya H, Ducreux P M, Suto T, Kang H, Mitsushashi N, Fung A, Yasui M, Rivoire M, Tonooka T, Troisi R, Nakamura K, Staettner S, Kanemitsu Y, Evrard Serge: EORTC1527/JCOG1609INT/ESSO02: Diffusion-weighted magnetic resonance imaging (DW-MRI) assessment of initially unresectable liver metastasis to improve surgical planning (DREAM)—Primary analysis. ASCO GI, San Francisco, 2025, 1.

【国内学会】

1. 仲 なつき, 角田美穂, 若月智和, 井内勝哉, 山本 剛, 吉田玲子, 市川直明, 田邊裕貴, 三口真司, 藤原ありさ, 横井佐奈, 栗野宏之, 齋藤 誠, 山北伊知子, **塩澤 学**, 藤吉健司, 檜井孝夫, 石田秀行, 赤木 究: 日本人におけるPMS2関連Lynch症候群の特徴. 第30回日本遺伝性腫瘍学会学術集会, 仙台, 2024, 5.
2. **塩澤 学**, 小高雅人, 大北仁裕, 賀川義規, 沖 英次, 松橋延壽, 金澤旭宣, 三角俊裕, 辻 晃仁, 加藤健志: 転移性大腸癌に対するCAPOXIRI+ベバシズマブとFOLFOXIRI+ベバシズマブの多施設ランダム化試験: QUATTRO-II. 第79回日本消化器外科学会総会, 下関, 2024, 7.
3. **井口健太**, 小野由香利, 内山 護, **浅利昌大**, 沼田幸司, **塩澤 学**: 横行結腸癌に対する手術戦略: 外科医が考慮すべき点は何か?. 第79回日本消化器外科学会総会, 下関, 2024, 7.
4. 小野由香利, **井口健太**, 内山 護, **浅利昌大**, 沼田幸司, **塩澤 学**: 一時的的小腸人工肛門造設を伴う直腸切除患者における潜在性縫合不全の検討. 第79回日本消化器外科学会総会, 下関, 2024, 7.
5. 沼田幸司, 小野由香利, **井口健太**, 内山 護, **浅利昌大**, 利野 靖, 齋藤 綾, **塩澤 学**: ストーマ閉鎖術における再生可能エネルギーデバイス使用の有用性に関する検討. 第79回日本消化器外科学会総会, 下関, 2024, 7.
6. 内山 護, **井口健太**, 小野由香利, **浅利昌大**, 沼田幸司, 利野 靖, 齋藤 綾, **塩澤 学**: 大腸癌の術前CTで指摘され, 良悪性の診断がつかない肺小結節に関する検討. 第79回日本消化器外科学会総会, 下関, 2024, 7.
7. 赤澤直也, 池永雅一, 秋山泰樹, 松浦正徒, 中村将人, 佐川 保, **塩澤 学**, 太田博文, 小高雅人, 大北仁裕, 砂川 優, 竹内正弘, 市川 度, 藤井雅志, 辻 晃仁: Final results of the JACCRO CC-16: ramucirumab

- plus FOLFIRI for RAS wild-type anti-EGFR antibody refractory metastatic colorectal cancer. 第62回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2024, 10.
8. 稲垣千晶, 傳田忠道, 小谷大輔, 井上永介, 柏田知美, 三原良明, 天貝賢二, 諏訪雄亮, 太田高志, 結城敏志, **塩澤 学**, 辻 晃仁, 室 圭, 市川 度, 砂川 優: An Observational Study of BRAF Inhibitor Combination Therapy for BRAF-mutated Metastatic Col-orectal Cancer Patients: Real-World Evidence from BEETS Trial (JACCRO CC-18). 第62回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2024, 10.
 9. 田島ジェシー雄, 片岡幸三, 山田岳史, 盛 啓太, 工藤敏啓, **塩澤 学**, 高瀬直人, 伊藤一真, 宮坂俊光, 松橋延壽, 大井由佳, 山崎健太郎, 池田正孝: RAS/BRAF 野生型進行大腸癌抗EGFR抗体薬治療例のRAS/BRAF/PIK3CA 変異頻度の観察研究. 第62回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2024, 10.
 10. **井口健太**, 佐藤純人, **塩澤 学**, 虫明寛行, 内山 護, 沼田幸司, 額田 卓, 高村卓志, 三箇山 洋, 小野由香利, 風間慶祐, 片山雄介, 沼田正勝, 樋口晃生, 五代天偉, 菅野伸洋, 利野 靖, 齋藤 綾: 大腸切除術における機能的端々吻合は安全か～多施設前向き研究の結果から～. 第32回日本消化器関連学会週間JDDW2024, 神戸, 2024, 10.
 11. **浅利昌大**, **井口健太**, 内山 護, 沼田幸司, **塩澤 学**: 大腸癌RAS statusによるFTD/TPI+Bevacizumab療法治療効果の違い. 第32回日本消化器関連学会週間JDDW2024, 神戸, 2024, 10.
 12. **井口健太**, **奥田尚子**, **土屋皓平**, **岡本浩直**, **浅利昌大**, **塩澤 学**: 大腸癌診療におけるCirculating tumor DNA RAS assayを用いたRAS遺伝子ダイナミクスの臨床的意義～RAS monitoringから見えること～. 第86回日本臨床外科学会学術集会, 宇都宮, 2024, 11.
 13. 渥美陽介, 沼田正勝, 沼田幸司, **塩澤 学**, 風間慶祐, 澤崎 翔, 杉山敦彦, 虫明寛行, 菅野伸洋, 五代天偉, 片山雄介, 樋口晃生, 内山 護, 三箇山洋, 齋藤健太郎, 高村卓志, 佐藤 勉, 齋藤 綾: 直腸腫瘍術後患者における新低位前方切除術後症候群定義をもとにした発症頻度/リスク因子を検討する多施設共同横断観察研究. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 横浜, 2024, 11.
 14. **浅利昌大**, **奥田尚子**, **土屋皓平**, **井口健太**, **岡本浩直**, **塩澤 学**: 大腸癌RAS statusによるFTD/TPI+Bevacizumab療法治療効果の違い. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 横浜, 2024, 11.
 15. 沼田幸司, 小野由香利, **井口健太**, 内山 護, **浅利昌大**, 湯川寛夫, 齋藤 綾, **塩澤 学**: 高齢者進行・再発大腸癌におけるFOLFOXIRI+bevacizumab治療の有用性について. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 横浜, 2024, 11.
 16. 佐藤純人, 大杉純子, 太田川沙織, 平澤真弓, 関 宣明,

- 塩澤 学**, 湯座美幸, 山井美樹, 高橋恵理子, 藤森晶子, 西井正造, 沼田 努, 佐藤亮介, 松下直樹, 青木議宏, ヴィヴィアン フェイ, 岡田晴樹, 今野 拓, 浜野 孝, 小林靖幸: ストーマ保有者の主観的ウェルビーイングを改善するデザインストーマパウチの開発. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 横浜, 2024, 11.
17. **井口健太**, **奥田尚子**, **土屋皓平**, **岡本浩直**, **浅利昌大**, **塩澤 学**: 横行結腸癌に対する低侵襲手術手技の定型化～結腸癌手術に対するCMEの最後のピース～. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 横浜, 2024, 11.
 18. 沼田正勝, 山口智弘, 塩見明生, 稲田 涼, 發知将規, 山本大輔, 肥田侯矢, 赤木智徳, 山口茂樹, 長谷川 傑, 賀川弘康, **塩澤 学**, 絹笠祐介, 渡邊昌彦, 内藤 剛: 直腸癌術後性機能障害に関する多施設前向き観察研究(LANDMARC試験). 第37回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2024, 12.
 19. **奥田尚子**, **井口健太**, **土屋皓平**, **岡本浩直**, **浅利昌大**, 大久保陽一郎, 成松宏人, **塩澤 学**: 同部位に同胞発生し腹腔鏡下手術を行い診断し得たLynch症候群の2例. 第37回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2024, 12.
 20. 額田 卓, **塩澤 学**, 伊豆川翔太, 大宜見 崇, 渥美陽介, 高村卓志, 風間慶祐, 片山雄介, 沼田幸司, 沼田正勝, 三箇山 洋, 樋口晃生, 菅野伸洋, 虫明寛行, 齋藤 綾: 直腸癌検体CRM評価のための新しい切り出し方法導入に関する多施設共同研究: LEARN (KYCC2001). 第37回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2024, 12.
 21. **井口健太**, **奥田尚子**, **土屋皓平**, **岡本浩直**, **浅利昌大**, **塩澤 学**: 3つの医原性臓器損傷をゼロにする、低侵襲大腸癌手術における脾彎曲部授動手技の定型化. 第37回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2024, 12.

消化器外科 (肝胆膵)

発表論文

1. Kawahara S, Aoyama T, Murakawa M, Kanemoto R, Matsushita N, Hashimoto I, Kamiya M, Maezawa Y, Kobayashi S, Ueno M, Yamamoto N, Oshima T, Yukawa N, Saito A, Morinaga S. Clinical usefulness of C-reactive protein-albumin-lymphocyte (CALLY) index as a prognostic biomarker in patients undergoing surgical resection of pancreatic cancer. Langenbecks Arch Surg. 2024 Oct 21; 409(1): 317.
2. Kawahara S, Aoyama T, Murakawa M, Kanemoto R, Takahashi D, Kamioka Y, Hashimoto I, Maezawa Y, Kobayashi S, Ueno M, Yamamoto N, Oshima T, Yukawa N, Rino Y, Saito A, Morinaga S. Prognostic nutritional index is an independent risk factor for continuing S-1 adjuvant chemotherapy in patients with pancreatic cancer who received neoadjuvant

- chemotherapy and surgical resection. BMC Cancer. 2024 Nov 29; 24(1): 1469.
3. Kawahara S, Aoyama T, Hashimoto I, Kanemoto R, Matsushita N, Kamiya M, Atsumi Y, Maezawa Y, Kazama K, Murakawa M, Kobayashi S, Ueno M, Yamamoto N, Oshima T, Yukawa N, Saito A, Morinaga S. Loss of Skeletal Muscle Mass During Neoadjuvant Chemotherapy for Pancreatic Cancer Is Related to the Continuation of S-1 Adjuvant Chemotherapy After Pancreatectomy. Anticancer Res. 2024 Oct; 44(10): 4569-4577.
 4. Kawahara S, Aoyama T, Murakawa M, Kanemoto R, Takahashi D, Kamioka Y, Hashimoto I, Maezawa Y, Kobayashi S, Ueno M, Yamamoto N, Oshima T, Yukawa N, Rino Y, Saito A, Morinaga S. Clinical Impact of Preoperative Prognostic Nutritional Index in Surgical Patients With Pancreatic Cancer Treated With Perioperative Adjuvant Chemotherapy. Anticancer Res. 2024 Apr; 44(4): 1711-1718.
 5. Okano N, Kawai M, Ueno M, Yu X, Inoue Y, Takahashi S, Wang W, Takahashi H, Okamura Y, **Morinaga S**, Matsumoto I, Shimizu Y, Yoshida K, Yamamoto T, Ohtsuka M, Inokawa Y, Nara S, Tamura J, Shinoda S, Yamamoto K, Yamaue H, Furuse J; PC - CURE - 1 study group. Outcomes of patients with initially unresectable pancreatic cancer who underwent conversion surgery after FOLFIRINOX or gemcitabine plus nab-paclitaxel chemotherapy: A multicenter retrospective cohort study (PC-CURE-1). J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Nov; 31(11): 816-829.
 6. Tabe S, Takeuchi K, Aoshima K, Okumura A, Yamamoto Y, Yanagisawa K, Eto R, Matsuo M, Ueno Y, Konishi T, Furukawa Y, Yamaguchi K, **Morinaga S**, Miyagi Y, Ohtsuka M, Tanimizu N, Taniguchi H. A pancreatic cancer organoid incorporating macrophages reveals the correlation between the diversity of tumor-associated macrophages and cancer cell survival. Biomaterials. 2025 Mar; 314: 122838.
 7. Takeuchi K, Tabe S, Yamamoto Y, Takahashi K, Matsuo M, Ueno Y, Ohtsuka M, **Morinaga S**, Miyagi Y, Yamaguchi T, Tanimizu N, Taniguchi H. Protocol for generating a pancreatic cancer organoid associated with heterogeneous tumor microenvironment. STAR Protoc. 2025 Mar 21; 6(1): 103539.
- 学会等発表**
1. 村川正明, 金本 滯, 河原慎之輔, 高橋大志, 上岡祐人, 小林 智, 上野 誠, 山本直人, 森永聡一郎. 二次治療が奏功し, Conversion surgeryを行った初診時切除不能進行膵癌症例. 第55回日本膵臓学会大会, 2024. 07, 宇都宮
 2. 上岡祐人, 村川正明, 金本 滯, 河原慎之輔, 高橋大志, 山本直人, 大島 貴, 利野 靖, 齋藤 綾, 森永聡一郎. 膵癌における切除可能性分類 (Resectability definition) の検討. 第79回日本消化器外科学会総会, 2024. 07, 下関
 3. 金本 滯, 村川正明, 河原慎之輔, 高橋大志, 上岡祐人, 山本直人, 大島 貴, 利野 靖, 齋藤 綾, 森永聡一郎. 術前補助療法を施行した切除可能境界膵癌における予後因子の検討. 第79回日本消化器外科学会総会, 2024. 07, 下関
 4. 河原慎之輔, 村川正明, 金本 滯, 高橋大志, 上岡祐人, 山本直人, 湯川寛夫, 利野 靖, 齋藤 綾, 森永聡一郎. 術前化学療法後に根治切除を行った膵癌患者における術前Prognostic Nutritional Indexの臨床的意義. 第79回日本消化器外科学会総会, 2024. 07, 下関
 5. 谷合信彦 (日本医科大学武蔵小杉病院), 遠藤 格, 熊本宜文, 田中邦哉, 小泉 哲, 西澤伸恭, 高橋進一郎, 榎並延太, 山本直人, 三浦文彦. 薬物治療奏効後肝切除に対する外科と内科の考え方 神奈川内科-外科HCC治療連携meetingアンケート調査より. 第79回日本消化器外科学会総会, 2024. 07, 下関
 6. 高橋大志, 村川正明, 金本 滯, 河原慎之輔, 上岡祐人, 澤崎 翔, 青山 徹, 山本直人, 利野 靖, 齋藤 綾, 森永聡一郎. 膵癌術後肺転移再発症例に対する外科切除の意義. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024. 04, 愛知
 7. 田部俊輔 (東京大学医科学研究所 再生医学分野), 谷水直樹, 竹内健太, 青嶋研治, 山本祐也, 宮城洋平, **森永聡一郎**, 大塚将之, 谷口英樹. 腫瘍関連マクロファージの多様性を模倣する膵癌オルガノイドの構築(Pancreatic cancer organoid including macrophages replicates the diversity of tumor-associated macrophages). 第83回日本癌学会総会, 2024. 09, 福岡
 8. 谷水直樹 (東京大学医科学研究所 再生医学), 竹内健太, 田部俊輔, 山本祐也, 青嶋研治, 奥村 歩, 宮城洋平, **森永聡一郎**, 山口貴世志, 古川洋一, 大塚将之, 谷口英樹. がんモデルはどこまでCancer Hallmarkをモデル化できるか? ヒトiPS細胞由来間質細胞を含む新規膵癌オルガノイドを用いた膵癌微小環境の再現 (How deeply model system can recapitulate cancer hallmarks Recapitulation of tumor microenvironment with a PDAC organoid incorporating stromal cells derived from human iPS cells). 第83回日本癌学会総会, 2024. 09, 福岡
 9. 大津智尚, 岡村行泰, 蘆田 良, 林 真路, 小西 大, 外山博近, 前田敦行, 清水泰博, 酒井健司, 高橋 遍, **森永聡一郎**, 加藤 厚, 三井伸二, 榎本 篤, 猪川祥邦, 高見秀樹, 山口淳平, 横山幸浩, 小寺泰弘, 上坂克彦. 膵癌術後補助化学療法の治療効果に関連する遺伝子の同

定 JASPAC01付随研究. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024. 04, 愛知

頭頸部外科

発表論文

1. Fushimi C, Takahashi H, Kawakita D, Kano S, Tsukahara K, Ozawa H, Okami K, Sakai A, Yamazaki K, Okada T, Hanazawa T, Sato Y, Imanishi Y, Shimizu A, Matsuki T, Nagao T, Tada Y. Brain metastases in patients with salivary duct carcinoma: A retrospective study. Cancer Med, 13(5): e7037, 2024
2. Hagiwara K, Matsuki T, Okada T, Fushimi C, Kondo T, Takahashi H, Okamoto I, Tokashiki K, Hanyu K, Kishida T, Ito T, Yamashita G, Tsukahara K, Masubuchi T, Tada Y, Momiyama K, Yaguchi R, Oridate N, Omura G, Yamashita T. Role of Hematological Markers in Recurrent/Metastatic Head and Neck Squamous Cell Carcinoma Treated With Pembrolizumab. Anticancer res, 44(9): 4057-4072, 2024
3. Matsuki T, Kawakita D, Takahashi H, Okada T, Sakai A, Ueki Y, Tsuge H, Hanyu K, Momiyama K, Shodo R, Yamauchi M, Asako Y, Hirai H, Nagao T, Tada Y. PD-L1 Expression as a Predictive Biomarker in Patients with Recurrent or Metastatic Salivary Gland Carcinoma Treated with Pembrolizumab. Sci Rep, 14(1): 19794, 2024
4. 下出祐造, 北村守正, 出原立子, 古川まどか, 辻 裕之. 医工連携技術を活用した遠隔超音波技術者指導支援システムの検討. 日本内分泌外科学会雑誌, 41 (4) : 262-268, 2024

著書

1. 古川まどか : 【外来でみる甲状腺疾患】 甲状腺の触診と超音波検査. ENTONI (1346-2067) 298号 Page1-8 (2024. 06. 21), 6/2024

学会等発表

1. 古川まどか, 橋本香里, 木谷有加, 吉田真夏 : 唾液腺疾患と鑑別が必要な頭頸部疾患の超音波による鑑別. 日本乳腺甲状腺超音波医学会 第1回春季大会, 横浜, 5/2024
2. 古川まどか : 確実なICで患者を支える頭頸部癌診療—頸部エコーの徹底活用—. 日本歯科放射線学会 第64回学術大会, 新潟, 5/2024
3. 古川まどか : 「激アツ！症例検討会」～それって何科の疾患？～「くびがはれた」「くびがいたい」それって何科の疾患？. 日本超音波医学会 第97回学術集会, 横浜, 5/2024
4. 溝口信貴, 加納希生, 奥田達也, 高下啓明, 島 聖,

土田圭祐, 川越壮平, 吉田真夏, 木谷有加, 橋本香里, 古川まどか, 白井克幸, 鎌田 正, 吉田大作, 加藤弘之: 頭頸部粘膜悪性黒色腫に対する重粒子線治療後のICIによる維持療法についての遡及的解析. 第48回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 浜松, 6/2024

5. 吉田真夏, 古川まどか : 唾液腺腫瘍・癌の超音波診断. 第48回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 浜松, 6/2024
6. 古川まどか : 頭頸部超音波ハンズオンセミナー総論. 第48回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 浜松, 6/2024
7. 古川まどか : 私が追い求める理想の頭頸部がん診療. 第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 大阪, 6/2024
8. 古川まどか : リンパ節の超音波像と病理. 第52回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 札幌, 11/2024
9. 矢口凌平, 松本 崇, 溝口信貴, 加納希生, 竹山昌伸, 志賀 輝, 佐久間 巴, 折館伸彦, 古川まどか. 重粒子線治療を施行した鼻副鼻腔原発胞巣型横紋筋肉腫の2例. 第34回日本頭頸部外科学会, 台場, 2/2025

乳 腺 外 科

発表論文

【英文論文】

1. Mbugua RW, Takano A, Tsevegjav B, Yokose T, Yamashita T, Miyagi Y, Daigo Y. Characterization of KIF20B as a novel prognostic biomarker and therapeutic target for breast cancer. Int J Oncol. 2024 Apr; 64(4): 43.
2. Sato S, Yamashita T. Metabolomics combined with mathematical analysis reveals metabolic pathways specific to metastatic cancers. Transl Breast Cancer Res. 2024 Apr 25; 5: 15.
3. Borrego MR, Lu YS, Reyes-Cosmelli F, Park YH, Yamashita T, Chiu J, Airoidi M, Turner N, Fein L, Ghaznawi F, Singh J, Pantoja K, Schnell C, Akdere M, Chia S. SGLT2 inhibition improves PI3Ka inhibitor-induced hyperglycemia: findings from preclinical animal models and from patients in the BYLieve and SOLAR-1 trials. Breast Cancer Res Treat. 2024 Nov; 208(1): 111-121.
4. Shimoi T, Pathadka S, Sekine N, Cai Z, Tanizawa Y, Kawaguchi T, Saji S, Yamashita T. Real-world data on patients with early breast cancer who were prescribed abemaciclib adjuvant therapy in Japan. Future Oncol. 2024; 20(29): 2179-2188.
5. André F, Cortés J, Curigliano G, Modi S, Li W, Park YH, Chung WP, Kim SB, Yamashita T, Pedrini JL, Im SA, Tseng LM, Harbeck N, Krop I, Nakatani

- S, Tecson K, Ashfaq S, Egorov A, Hurvitz SA. A pooled analysis of trastuzumab deruxtecan in patients with human epidermal growth factor receptor 2 (HER2)-positive metastatic breast cancer with brain metastases. *Ann Oncol*. 2024 Dec; 35(12): 1169-1180.
6. Takahashi S, Sato N, Kaneko K, Masuda N, Kawai M, Hirakawa H, Nomizu T, Iwata H, Ueda A, Ishikawa T, Bando H, Inoue Y, Ueno T, Ohno S, Kubo M, Yamauchi H, Okamoto M, Tokunaga E, Kamigaki S, Aogi K, Komatsu H, Kitada M, Uemoto Y, Toyama T, Yamamoto Y, Yamashita T, Yanagawa T, Yamashita H, Matsumoto Y, Toi M, Miyashita M, Ishida T, Fujishima F, Sato S, Yamaguchi T, Takahashi F, Ishioka C. TP53 signature predicts pathological complete response after neoadjuvant chemotherapy for breast cancer: Observational and confirmational study using prospective study cohorts. *Transl Oncol*. 2024 Oct; 48: 102060.
 7. Iwata H, Xu B, Kim SB, Chung WP, Park YH, Kim MH, Tseng LM, Chung CF, Huang CS, Kim JH, Chiu JWY, Yamashita T, Li W, Egorov A, Nishijima S, Nakatani S, Nishiyama Y, Sugihara M, Cortés J, Im SA. Trastuzumab deruxtecan versus trastuzumab emtansine in Asian patients with HER2-positive metastatic breast cancer. *Cancer Sci*. 2024 Sep; 115(9): 3079-3088.
 8. Yamashita T, Sohn JH, Tokunaga E, Niikura N, Park YH, Lee KS, Chae YS, Xu B, Wang X, Im SA, Li W, Lu YS, Aguilar CO, Nishijima S, Nishiyama Y, Sugihara M, Modi S, Tsurutani J. Trastuzumab deruxtecan versus treatment of physician's choice in previously treated Asian patients with HER2-low unresectable/metastatic breast cancer: subgroup analysis of the DESTINY-Breast04 study. *Breast Cancer*. 2024 Sep; 31(5): 858-868.
 9. Mukohara T, Park YH, Sommerhalder D, Yonemori K, Hamilton E, Kim SB, Kim JH, Iwata H, Yamashita T, Layman RM, Mita M, Clay T, Chae YS, Oakman C, Yan F, Kim GM, Im SA, Lindeman GJ, Rugo HS, Liyanage M, Saul M, Le Corre C, Skoura A, Liu L, Li M, LoRusso PM. Inhibition of lysine acetyltransferase KAT6 in ER+HER2- metastatic breast cancer: a phase I trial. *Nat Med*. 2024 Aug; 30(8): 2242-2250.
 10. Saura C, Modi S, Krop I, Park YH, Kim SB, Tamura K, Iwata H, Tsurutani J, Sohn J, Mathias E, Liu Y, Cathcart J, Singh J, Yamashita T. Trastuzumab deruxtecan in previously treated patients with HER2-positive metastatic breast cancer: updated survival results from a phase II trial (DESTINY-Breast01). *Ann Oncol*. 2024 Mar; 35(3): 302-307.
 11. Suganuma N, Saito N, Yasukawa M, Yamanaka T, Yamashita T, Miyagi Y, Saito A, Hoshino D. Exposure to Hypoxic Conditions Up-regulates HER2 in Breast Cancer Cell Lines. *Anticancer Res*. 2024 Dec; 44(12): 5187-5192.
 12. Suganuma N, Matsubara Y, Takahashi A, Yamanaka T, Yamashita T, Yoshioka E, Kawachi K, Yokose T, Narimatsu H, Hoshino D, Miyagi Y, Saito A. Impact of Warm Ischemia Time on HER2 Expression in Breast Cancer Surgical Specimens. *Anticancer Res*. 2024 Dec; 44(12): 5225-5230.
 13. Yamashita T. Trastuzumab Deruxtecan for the Treatment of HER2- low Advanced or Metastatic Breast Cancer. *touch REVIEWS in Oncology & Haematology*. 2024; 20(1): 36-40
 14. Sakai H, Tsurutani J, Ozaki Y, Ishiguro H, Nozawa K, Yamanaka T, Aogi K, Matsumoto K, Iwasa T, Tokiwa M, Tsuneizumi M, Miyoshi Y, Kitagawa C, Yamamoto M, Takano Y, Imamura CK, Chiba Y, Takiguchi D, Ezumi T, Takano T. A randomized, double-blind, placebo-controlled phase II study of olanzapine-based prophylactic antiemetic therapy for delayed and persistent nausea and vomiting in patients with HER2-positive or HER2-low breast cancer treated with trastuzumab deruxtecan: ERICA study (WJOG14320B). *Ann Oncol*. 2025 Jan; 36(1): 31-42.
 15. Nakayama T, Niikura N, Yamanaka T, Yamamoto M, Matsuura K, Inoue K, Takahara S, Nomura H, Kita S, Yamaguchi M, Aruga T, Shibata N, Shimomura A, Ozaki Y, Sakai S, Takiguchi D, Takata T, Bastanfard A, Shiosakai K, Tsurutani J. Trastuzumab deruxtecan for the treatment of patients with HER2-positive breast cancer with brain and/or leptomeningeal metastases: an updated overall survival analysis using data from a multicenter retrospective study (ROSET-BM). *Breast Cancer*. 2024 Nov; 31(6): 1167-1175.
 16. Takano T, Masuda N, Ito M, Inoue K, Tanabe Y, Kawaguchi K, Yasojima H, Bando H, Nakamura R, Yamanaka T, Ishida K, Aruga T, Yanagita Y, Tokunaga E, Aogi K, Ohno S, Kasai H, Kataoka TR, Morita S, Toi M. Long-term outcomes of neoadjuvant trastuzumab emtansine + pertuzumab (T-DM1 + P) and docetaxel + carboplatin + trastuzumab + pertuzumab (TCbHP) for HER2-positive primary breast cancer: results of the randomized phase 2 JBCRG20 study (Neo-peaks). *Breast Cancer Res Treat*. 2024 Aug; 207(1): 33-48.
 17. Hattori M, Serelli-Lee V, Naito Y, Yamanaka T, Yasojima H, Nakamura R, Fujisawa T, Imai M, Nakamura Y, Bando H, Kawaguchi T, Yoshino T, Iwata H. Genomic Landscape of Circulating Tumor

DNA in Patients With Hormone Receptor-Positive/Human Epidermal Growth Factor Receptor-2-Negative Metastatic Breast Cancer Treated With Abemaciclib: Data From the SCRUM-Japan Cancer Genome Screening Project. *JCO Precis Oncol*. 2024 Apr; 8: e2300647.

18. Noguchi E, **Yamanaka T**, Mukai H, Yamamoto N, Chung CF, Lu YS, Chang DY, Sohn J, Kim GM, Lee KH, Lee SC, Iwasa T, Iwata H, Watanabe K, Jung KH, Tanabe Y, Kang SY, Yasojima H, Aogi K, Tokunaga E, Sim SH, Yap YS, Matsumoto K, Tseng LM, Umeyama Y, Sudo K, Kojima Y, Hata T, Kuchiba A, Shibata T, Nakamura K, Fujiwara Y, Tamura K, Yonemori K. A phase 3 study (PATHWAY) of palbociclib plus tamoxifen in patients with HR-positive/HER2-negative advanced breast cancer. *NPJ Breast Cancer*. 2024 Aug 22; 10(1): 76.

【和文論文】

1. Okano Yasuko, Usui Kengo, Hanami Takeshi, Taguri Masataka, **Yamashita Toshinari**, Miyagi Yohei 日本人におけるNRF2の遺伝子多型と乳癌の危険性との関連性 (Association Between Polymorphisms of NRF2 and Breast Cancer Risk in Japanese Population) 臨床薬理 (0388-1601)55巻2号 Page67-73 (2024. 03)

学会発表

【国際学会】

1. Ueno N, Cottone F, Dunton K, Cardoso F, Yamashita T, Losada MV, Niikura N, Zagouri F, Sohn JH, Gombos A, Im SA, Pierga JY, Krop I, Tanabe Y, Kim JH, Gori S, Jacot W, Bauer R, Aguilar CO, Modi S. A Health-Related Quality of Life (QOL) Analysis From DESTINY-Breast04: Trastuzumab Deruxtecan (T-DXd) Versus Capecitabine (CAP) in Patients With Hormone Receptor-Positive (HR+), HER2-Low Metastatic Breast Cancer (NBC) ESMO Breast Cancer Annual Meeting. May 15-17, 2024. (Berlin)
2. Park YH, Jacot W, Hurvitz SA, Modi S, Yamashita T, Xu B, Tokunaga E, Wang X, Lee KS, Iwata H, Krop I, André F, Harbeck N, Rugo HS, Mathias E, Pastiner WT, Karnoub M, Ashfaq S, Cheng Y, Kim SB. Exploratory pooled safety analysis of trastuzumab deruxtecan (T-DXd) in patients With HER2+ or HER2-low unresectable and/or metastatic breast cancer (mBC) in DESTINY-Breast trials ESMO Breast Cancer Annual Meeting. May 15-17, 2024. (Berlin)
3. Yamashita T, Saji S, Takano T, Naito Y, Tsuneizumi M, Yoshimura A, Takahashi M, Tsurutani J, Iwatani T, Kitada M, Tada H, Mori N, Higuchi T, Iwasa T, Araki K,

Sakai K, Hasegawa H, Uchida Y, Morita S, Masuda N. Trastuzumab and pertuzumab in combination with eribulin mesylate or a taxane as first-line chemotherapeutic treatment for HER2-positive, locally advanced or metastatic breast cancer: results of a multicenter, randomized, non-inferiority phase 3 trial in Japan (JBCRG-M06/EMERALD) American Society of Clinical Oncology (ASCO). May 31- Jun7, 2024 (Chicago)

4. Kogawa T, Yamashita T, Ishida T, Yonemori K, Iwata H, Shimomura A, Aogi K, Inoue K, Mukohara T, Nakayama T, Sakai H, Kitano S, Kobayashi S, Nakada T, Suzuki I, Otake Y, Tsurutani J. Phase Ib Trial of Tasurgratinib With or Without Endocrine Therapies for Patients With ER+, HER2 – Recurrent/Metastatic Breast Cancer After Receiving a CDK4/6 Inhibitor American Society of Clinical Oncology (ASCO). May 31- Jun7, 2024 (Chicago)
5. Masuda N, Saji S, Iwatani T, Takano T, Koizumi K, Sagara Y, Naito Y, Tsuneizumi M, Yoshimura A, Takahashi M, Tsurutani J, Kitada M, Tada H, Higuchi T, Kojima Y, Kadoya T, Hasegawa H, Uchida Y, Morita S, Yamashita T. Quality-of-life outcomes in patients with HER2-positive, locally advanced or metastatic breast cancer treated with eribulin mesylate in combination with trastuzumab and pertuzumab in the phase 3 JBCRG-M06/EMERALD study European Society of Medical Oncology (ESMO) Annual Meeting, Sep13-17, 2024 (Barcelona,)
6. Ueno N, Niikura N, Yamashita T, Jacot W, Cameron D, Tsurutani J, Sohn JH, Tokunaga E, Vidal M, Park YH, Lee KS, Chae YS, Prat A, Suto F, Kuwahara Y, Boran A, Kobayashi M, Kumar V, Aguilar CO, Modi S. Exploratory biomarker analysis of trastuzumab deruxtecan versus treatment of physician's choice in HER2-low, hormone receptor-positive metastatic breast cancer in DESTINY-Breast04 European Society of Medical Oncology (ESMO) Annual Meeting, Sep13-17, 2024 (Barcelona,)
7. George MA, Frenel JS, Cortés J, Schmidt M, García Saenz JÁ, Blau S, Abdulla NE, Nishimura M, Sakai H, Babu S, McAndrew N, Ali A, Pavic M, Jhaveri K, Jones JM, Rugo HS, Mody K, Smith A, Yamashita T. An Open-Label, Multicenter, Phase 2 Study to Evaluate the Safety and Efficacy of BB-I701, a Novel Antibody-Drug Conjugate Targeting HER2 in Previously Treated Patients WithHER2-Positive or HER2-Low Unresectable or Metastatic Breast Cancer European Society of Medical Oncology (ESMO) Annual Meeting, Sep13-17, 2024 (Barcelona,)
8. Harbeck N, Ciruelos E, Jerusalem G, Müller V,

- Niikura N, Viale G, Bartsch R, Kurzeder C, Higgins MJ, Laurentiis MD, Collignon J, Yamashita T, Prahlanadan M, Bridge H, Antony R, Lin NU. Effects of trastuzumab deruxtecan on health-related quality of life and neurological function in patients with HER2+ advanced/metastatic breast cancer with or without brain metastases: DESTINY-Breast12 results San Antonio Breast Cancer Symposium 2024, Dec 10-13, 2024. (San Antonio)
9. Nakagawa R, Kawaguchi-Sakita N, Harris A, Ueno T, Chow L, Han W, Huang CS, Mann GB, Morita S, Toi M, Haga H, Takada M, Imoto S, Tanabe Y, Yamashita T, Iwata H, Bando H, Suwa H, Tokunaga E, Sagara Y, Masuda N, Fakhrejahani E. Subtype by PAM50 changes after Neoadjuvant Endocrine therapy, from A Phase III Randomized, Double-Blind, Neoadjuvant Study of Hormonal Therapy plus Palbociclib versus Hormonal Therapy plus Placebo in Women with Operable, Hormone Sensitive and HER2-Negative Primary Breast Cancer San Antonio Breast Cancer Symposium 2024, Dec 10-13, 2024. (San Antonio)
10. Mukohara T, LoRusso PM, Sommerhalder D, Yonemori K, Hamilton E, Kim SB, Im SA, Lindeman GJ, Rugo HS, Iwata H, Layman RM, Kim GM, Yamashita T, Kim JH, Yan F, Shimizu T, Chae YS, Clay T, Joshi R, Mita M, Hui M, Dong B, Holbrook B, Kent S, Skoura A, Liu L, Li M, Park YH. PF-07248144, a first-in-class KAT6 inhibitor, in patients with HR+ HER2 – metastatic breast cancer: Updated results from phase 1 dose expansion study San Antonio Breast Cancer Symposium 2024, Dec 10-13, 2024. (San Antonio)
11. Yamashita T, Kogawa T, Ishida T, Yonemori K, Kataoka A, Shimomura A, Aogi K, Takai K, Mukohara T, Nakayama T, Sakai H, Kitano S, Kobayashi S, Uehara T, Li S, Song T, Otake Y, Tsurutani J. Potential Predictive Biomarkers for a Fibroblast Growth Factor Receptor (FGFR) Inhibitor: Phase 1B Trial of Tasurgratinib (E7090) With Endocrine Therapies For ER+, HER2 – Recurrent/Metastatic Breast Cancer Resistant to CDK4/6 Inhibitors San Antonio Breast Cancer Symposium 2024, Dec 10-13, 2024. (San Antonio)

【国内学会】

1. 高橋有佳里, 山下年成, 磯田まや, 岡本 咲, 合田杏子, 藤原沙織, 山中隆司, 齋藤 綾
がん化学療法後に増悪したTMB (Tumor Mutation Burden) -Highの乳癌に対してペンプロリズマブを投与した2例

- 第32回日本乳癌学会総会. 2024年7月11日-13日 (仙台)
2. 山中 歩, 山中隆司, 磯田まや, 高橋有佳里, 岡本 咲, 合田杏子, 藤原沙織, 山下年成
当院におけるオラパリブの治療成績
第32回日本乳癌学会総会. 2024年7月11日-13日 (仙台)
3. 岡本 咲, 山中隆司, 磯田まや, 高橋有佳里, 合田杏子, 藤原沙織, 山下年成, 齋藤 綾
第32回日本乳癌学会総会. 2024年7月11日-13日 (仙台)
4. 磯田まや, 山下年成, 高橋有佳里, 岡本 咲, 合田杏子, 藤原沙織, 安川美緒, 吉岡恵美, 山中隆司, 松原由佳, 山下年成, 磯田まや, 安川美緒, 岡本 咲, 戸田宗治, 山中隆司, 藤原
神奈川県立がんセンターでのKEYNOTE522レジメンの施行症例の検討
第32回日本乳癌学会総会. 2024年7月11日-13日 (仙台)
5. 合田杏子, 山下年成, 山中隆司, 藤原沙織, 岡本 咲, 高橋有佳里, 磯田まや
HBOC検査が早期乳癌治療に与える影響について
第32回日本乳癌学会総会. 2024年7月11日-13日 (仙台)
6. 五十嵐莉紗, 大槻有紀, 山本弥生, 山下年成
当院における薄い乳房厚に対するステレオガイド下マンモトーム生検の検討
第32回日本乳癌学会総会. 2024年7月11日-13日 (仙台)
7. 佐治重衡, 山下年成, 高野利実, 内藤陽一, 常泉道子, 吉村章代, 高橋将人, 鶴谷純司, 岩谷胤生, 北田正博, 多田 寛, 森菜採子, 斎藤 毅, 岩朝 勤, 荒木和浩, 坂井和子, 長谷川広季, 内田洋平, 森田智視, 増田慎三
HER2陽性進行・再発乳癌に対するHP療法にタキサン併用とエリブリン併用を比較する第Ⅲ相JBCRG-M06試験
第32回日本乳癌学会総会. 2024年7月11日-13日 (仙台)
8. 山下年成, Hurvitz SA, Modi S, Park YH, Chung WP, Kim SB, Javier C, Pedrini JL, Im SA, Tseng LM, Harbeck N, Krop I, Curigliano G, Mathias E, Cathcart J, Cagnazzo A, Ashfaq S, Egorov A, Andre F
脳転移を有するHER2陽性転移性乳癌患者におけるT-DXdの投与 臨床試験の統合解析 (T-DXd in HER2+ metastatic breast cancer patients with brain mets: Pooled analysis of clinical trials)
第32回日本乳癌学会総会. 2024年7月11日-13日 (仙台)
9. 鶴谷純司, Jacot W, 山下年成, Riaz F, Yerushalmi R, Im SA, 新倉直樹, Hasler-SU, Cortes J, Wennstig AK, Chae YS, Wang X, Li W, Simon H, Masci G, Tamburini E, Aguilar CO, Tecson K, Yung L, Modi S
脳転移を有するHER2低発現転移性乳癌患者におけるT-DXdの投与, DESTINY-Breast04より (T-DXd in HER2-low metastatic breast cancer patients with brain metastases from DESTINY-Breast04)
第32回日本乳癌学会総会. 2024年7月11日-13日 (仙台)
10. 山中隆司, 磯田まや, 高橋有佳里, 岡本 咲, 合田杏子, 藤原沙織, 山中 歩, 山下年成

第32回日本乳癌学会総会. 2024年7月11日-13日 (仙台)

【学会共催セミナー】

1. 山下年成

HER2陽性転移・再発乳癌における治療の展望—エリブリンの位置づけ—

2024年9月28日 第22回日本乳癌学会九州地方会 スイーツセミナー1

2. 山下年成

HER2陽性転移・再発乳癌における治療の現状と展望

2024年11月23日 第22回日本乳癌学会近畿地方会 教育講演6

3. 山中隆司

転移再発乳癌に対する新たな治療戦略～DESTINY-Breast04試験, ILDマネジメント～

2024年7月11日 第32回日本乳癌学会総会 ランチョンセミナー7

4. 山中隆司

トリプルネガティブ乳癌の最前線: Sacituzumab govitecanによる新たな治療選択肢

2024年12月7日 第20回日本乳癌学会関東地方会 ランチョンセミナー1

内分泌外科

発表論文

1. Toda S, Iwasaki H, Okubo Y, Hayashi H, **Kadoya M**, Takahashi H, Yokose T, Hiroshima Y, **Masudo K**. The frequency of mutations in advanced thyroid cancer in Japan: a single-center study. *Endocr J*. 29; 71(1): 31-37, 2024
2. **Kadoya M**, Suganuma N, Matsubara Y, Takase H, Kumagai E, Toda S, Yamazaki H, **Masudo K**, Fijii S, Saito A. Selpercatinib for treating recurrent mixed medullary and follicular cell-derived thyroid carcinoma: a case report. *Surg Case Rep*. 22; 10(1): 92, 2024
3. Okubo Y, Toyama N, Kasajima R, Toda S, Hayashi H, Yoshioka E, Washimi K, Sato S, Hiroshima H, Hasegawa C, Yuguchi S, **Kadoya M**, Narimatsu H, **Masudo K**, Iwasaki H, Yokose T, Miyagi Y. Effective Preparation of FFPE Tissue Samples for Preserving Appropriate Nucleic Acid Quality for Genomic Analysis in Thyroid Carcinoma. *Endocr Pathol*. 35(4): 372-384, 2024
4. Okubo Y, Toda S, **Kadoya M**, Sato S, Yoshioka E, Hasegawa C, Ono K, Washimi K, Yokose T, Miyagi Y, **Masudo K**, Iwasaki H, Hayashi H. Clinicopathological analysis of thyroid carcinomas with the RET and NTRK fusion genes: characterization for genetic analysis. *Virchows Arch*. 485(3): 509-518, 2024

5. Toda S, Hiroshima Y, Iwasaki H, **Masudo K**. Genomic Landscape and Clinical Features of Advanced Thyroid Carcinoma: A National Database Study in Japan. *J Clin Endocrinol Metab*. 15; 109(11): 2784-2792, 2024

学会発表

1. 戸田宗治, 鈴木智裕, 角谷芽依, 山崎春彦, 益戸功彦: 甲状腺癌におけるNTRK融合遺伝子検出方法の検討. 第37回日本内分泌外科学会総会, 神奈川, 5/2025
2. 角谷芽依, 益戸功彦, 岩崎博幸: 融合遺伝子陽性甲状腺癌の臨床病理学的検討. 第37回日本内分泌外科学会総会, 神奈川, 5/2025

婦人科

発表論文

1. Yoshiizumi E, Onuki M, Kukimoto I, Takahashi F, Matsui T, Hamasaki K, Kanao H, Nio A, Yahata H, Goda M, Yokoyama T, Hisa T, Tasaki K, Tenjimbayashi Y, **Saji H**, Kudaka W, Takei Y, Shigeta S, Motohara T, Matsumiya H, Nakamura K, Yoshida H, Ishikawa M, Hamanishi J, Nakai H, Mori-Uchino M, Hirashima Y, Sekizawa A, Yoshikawa H, Yaegashi N, Matsumoto K; MINT Study Group. Declining prevalence of Human papillomavirus co-Infections among young Japanese women with Cervical cancer and its precursors. *J Med Virol*. 2024 Dec; 96(12): 370096. doi: 10.1002/jmv.70096.
2. Hirahara Y, Shimizu K, Yamasaki S, Iyoda T, Ueda S, Sato S, Harada J, **Saji H**, Fujii S, Miyagi Y, Miyagi E, Fujii S. Crucial immunological roles of the invasion front in innate and adaptive immunity in cervical cancer. *Br J Cancer*. 2024; 131(11): 1762-74. doi:10.1038/s41416-024-02877-3.
3. Uomoto M, Ota Y, **Suzuki Y**, Yumori A, Narimatsu H, Koizume S, Sato S, Nakamura Y, Myoba S, Ohtake N, **Saji H**, Miyagi E, Miyagi Y. Tissue factor pathway inhibitor 2 as a serum biomarker for endometrial cancer: a single-center retrospective study. *BMC Cancer*. 2024 27; 24(1): 1058. doi: 10.1186/s12885-024-12827-0.
4. **Suzuki Y**, Ferris JS, Chen L, Dioun S, Usseglio, Matsuo K, Xu X, Hershman DL, Wright JD. Fertility-preserving treatment for stage IA endometrial cancer: a systematic review and meta-analysis. *Am J Obstet Gynecol*. 2024; 231(6): 599-610. E17. doi: 10.1016/j.ajog.2024.07.018.
5. **Suzuki Y**, Chen L, Matsuo K, Ferris JS, Elkin EB, Melamed A, Kong CY, Bickell N, Myers ER, Havrilesky LJ, Xu X, Blamk SV, Hazelton WD, Hershman DL, Wright JD. Weight-loss therapy in patients with

obesity with endometrial intraepithelial neoplasia and uterine cancer. Gynecol Oncol 2024;190:78-83. Doi: 10.1016/j.ygyno.2024.08.003.

6. 上田麗子, 近内勝幸, 吉川千晶, 納富嗣人, 横澤智美, 小野瀬 亮, 佐治晴哉. 遺伝性乳癌卵巣癌症候群に発症した腔悪性腫瘍の1例. 神奈川県臨床細胞学会誌 2024; 29: 17-22.

著書

1. 近内勝幸. 専門医・認定医をとろう! 私の体験記 細胞診専門医. 産科と婦人科. 診断と治療社 2024: 590-591.
2. 佐治晴哉. 妊娠期の異常 各論 血液不適合妊娠 双胎, 発育不全, 羊水過多症, 羊水過少症. 看護テキスト NiCE 病態・治療論 (13) 産科婦人科疾患 (改訂第2版)

その他の出版物

1. 鈴木幸雄 (監修): 看護師・看護学生のためのレビューブック2025 (第26版). MEDIC MEDIA, P章 女性生殖器疾患, 2024.
2. 鈴木幸雄 (監修): クエスチョン・バンク Select 必修 2025 看護師国家試験問題集 第20版. MEDIC MEDIA, 2024.
3. 鈴木幸雄 (監修): クエスチョン・バンク 看護師国家試験問題解説2025 (第25版). MEDIC MEDIA, 2024.

学会等発表 シンポジウム (S) ワークショップ (W)

1. Suzuki Y, Huang Y, Harvrilesky LJ, Blank SV, Elkin EB, Melamed A, Ferris JS, Saji H, Miyagi E, Kong CY, Myers ER, Wright JD: Long-term survival outcomes for hormonal therapy in premenopausal patients with clinical stage I endometrial cancer. ASCO2024 annual meeting, Chicago, 2024, 6.
2. Suzuki Y, Chen L, Ferris JS, Blank S, Havrilesky L, Wright JD: Utilization and Effectiveness of Adjuvant Chemotherapy in Combination with Immunotherapy in Patients with Newly Diagnosed, Advanced Endometrial Cancer. The 2024 CISNET Annual Meeting Common Day Poster Session, National Cancer Institute (USA), Bethesda, 2024, 12.
3. 佐治晴哉, 河江里奈, 菅江貞亨: 地域中核病院におけるHBOC診療の変遷と展開を振り返る. 第30回日本遺伝性腫瘍学会学術集会, 仙台, 2024, 5.
4. 佐治晴哉, 横澤智美, 峰 優子, 納富嗣人, 片山佳代, 近内勝幸: ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術における4thアームの左右経験がもたらす影響. 第12回日本婦人科ロボット手術学会, 大津, 2024, 6.
5. 佐治晴哉: 当センターにおけるセミプリマブ使用経験と考察. 第147回関東連合産科婦人科学会 総会・学術集会, 東京, 2024, 6.

6. 佐治晴哉: 子宮頸がんのパラダイムシフト～HPV検査単独法導入に向けて, 横浜市の取り組み～. 第33回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会/第60回東北臨床細胞学会学術集会, 弘前, 2024, 10.
7. 内山亜弥, 杉山加奈, 吉川千晶, 中川沙綾子, 横澤智美, 鈴木幸雄, 近内勝幸, 吉岡恵美, 大久保陽一郎, 佐治晴哉: 組織型推定に苦慮し免疫染色が有効であった, 子宮体部内腎様腺癌の一例. 第41回神奈川県臨床細胞学会学術集会, 伊勢原, 2024, 10.
8. 上田麗子, 吉川千晶, 納富嗣人, 横澤智美, 近内勝幸, 小野瀬 亮, 佐治晴哉: 骨盤内に孤発性再発を認めた卵巣mesonephric-like adenocarcinomaの一例. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 鹿児島, 2024, 7.
9. 鈴木幸雄: 医師の研鑽の闇を光に. 第49回日本外科系連合学会学術集会 (シンポジウム5 働き方改革「働き方改革における自己研鑽のあり方は?」), 東京, 2024, 6.
10. 鈴木幸雄: ナッジ理論をヒントに手指衛生改善アプローチを考える. 第39回日本環境感染学会総会・学術集会 (シンポジウム6 手指衛生遵守率向上へのアプローチ～次のステップへ～), 京都, 2024, 7.
11. 鈴木幸雄, 吉川千晶, 中川沙綾子, 横澤智美, 内山亜弥, 近内勝幸, 佐治晴哉: メタ分析における異質性の高い統合データへの対処. 日本臨床疫学会第7回年次学術大会, 東京, 2024, 11.
12. 鈴木幸雄, 倉澤健太郎, 佐治晴哉, 宮城悦子: 外科的閉経患者のホルモン補充療法の実態と長期生命予後への影響. 第39回日本女性医学学会学術集会, 宇都宮, 2024, 11.
13. 鈴木幸雄: サブスペシャルティ領域専門医制度の最近の動向. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会 (講演1 日本専門医機構の考えるサブスペシャルティ領域専門医), 横浜, 2024, 4.
14. 鈴木幸雄: HPV関連疾患予防の後進国から脱却する. 第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会 (共催セミナー26, もっと知ってほしい! HPVワクチンのこと), 大阪, 2024, 6.
15. 横澤智美, 吉川千晶, 納富嗣人, 上田麗子, 近内勝幸, 小野瀬亮, 佐治晴哉: 当科における再発子宮頸癌に対するセミプリマブの使用経験. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 鹿児島, 2024, 7.
16. 横澤智美, 鈴木幸雄, 吉川千晶, 中川沙綾子, 内山亜弥, 近内勝幸, 佐治晴哉: 早期子宮体癌に対するロボット支援下手術と腹腔鏡下手術の手術成績と安全性の比較. 第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 東京, 2024, 9. 優秀ポスター賞
17. 魚本真理, 太田幸秀, 鈴木幸雄, 祐森明日菜, 佐治晴哉, 成松宏人, 佐藤慎哉, 小井詰史朗, 中村圭靖, 明庭昇平, 大竹則久, 宮城悦子, 宮城洋平: 子宮体癌における血清TFPI2 (組織因子経路インヒビター2) と免疫組織学的検討: 単施設後方視的研究. 第83回日本癌学会学

術総会, 福岡, 2024, 9.

18. 土田圭祐, 吉田大作, 島 聖, 加納希生, 高下啓明, 川城莊平, 溝口信貴, 鎌田 正, 吉川千晶, 横澤智美, 近内勝幸, 佐治晴哉, 加藤弘之: 局所進行子宮頸部腺癌に対する画像誘導小線源治療併用重粒子線治療の治療成績. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 鹿児島, 2024, 7.
19. 納富嗣人, 吉川千晶, 横澤智美, 上田麗子, 近内勝幸, 小野瀬 亮, 佐治晴哉: 進行卵巣癌初回治療におけるCTガイド下生検の有用性の検討. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 鹿児島, 2024, 7.
20. 望月怜奈, 酒井麻衣, 那須隆二, 杉山加奈, 仲村 武, 近内勝幸, 鷺見公太, 大久保陽一郎: 診断に苦慮した腔原発性黒色腫の1例. 第41回神奈川県臨床細胞学会学術集会, 伊勢原, 2024, 10.
21. 吉川千晶, 納富嗣人, 横澤智美, 上田麗子, 近内勝幸, 小野瀬 亮, 佐治晴哉: 術前に卵巣癌を疑った子宮頸癌の一例. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 鹿児島, 2024, 7.
22. 吉川千晶, 中川沙綾子, 横澤智美, 鈴木幸雄, 内山亜弥, 近内勝幸, 佐治晴哉: 審査腹腔鏡下手術が婦人科癌との鑑別に有用であった一例. 第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 東京, 2024, 9.
23. 吉川千晶, 中川沙綾子, 横澤智美, 鈴木幸雄, 内山亜弥, 近内勝幸, 佐治晴哉: 腹水細胞診で悪性との鑑別に苦慮したadenomatoid tumorの一例. 第63回日本臨床細胞学会秋期大会学術講演会, 千葉, 2024, 11.
24. 佐治晴哉: 神奈川県民公開講座「いまこそ知りたい! 子宮頸がん予防」開催報告. 第443回神奈川県産科婦人科学会学術講演会, 川崎, 2024, 9.

泌尿器科

発表論文

英文

1. Suzuki A, Ito H, Uemura K, Muraoka K, Tatenuma T, Osaka K, Yokomizo Y, Hayashi N, Hasumi H, Makiyama K. Surgical proficiency in laparoscopic radical cystectomy with extracorporeal urinary diversion and its adequacy for the execution of robot-assisted radical cystectomy with intracorporeal urinary diversion. *Asian J Endosc Surg*. 2024 Apr; 17(2): e13289.
2. Suzuki A, Sato S, Nakaigawa N, Kishida T, Miyagi Y. Combination of Blood Adiponectin and Leptin Levels Is a Predictor of Biochemical Recurrence in Prostate Cancer Invading the Surrounding Adipose Tissue. *International Journal of Molecular Sciences*. 2024 Aug 17; 25(16): 8970.
3. Nagasaka H, Yamamoto S, Suzuki A, Usui K, Terao H, Nakaigawa N, Kishida T. C-reactive Protein Is a

Prognostic Factor for Survival in Metastatic Upper Tract Urothelial Carcinoma Patients Receiving Pembrolizumab. *In Vivo*. 2024 Jul-Aug; 38(4): 1823-1828.

4. Nagasaka H, Kishida T, Kouro T, Igarashi Y, Takebe S, Yamamoto S, Kondo T, Koizumi M, Terao H, Suzuki T, Nakaigawa N, Himuro H, Wei F, Sasada T. MMP1, IL-1 β , sTNFR-1, and IL-6 are prognostic factors for patients with unresectable or metastatic renal cell carcinoma treated with immune checkpoint inhibitors. *Int J Clin Oncol*. 2024 Jun; 29(6): 832-839.
5. Nagasaka H, Suzuki T, Kondo T, Koizumi M, Terao H, Murohashi Y, Okubo Y, Yokose T, Kishida T. Retroperitoneal Doege-Potter syndrome with intraoperative blood glucose monitoring. *IJU Case Rep*. 2024 Jul 30; 7(5): 391-394.
6. Terao H, Nagasaka H, Yamamoto S, Suzuki A, Usui K, Nakaigawa N, Kishida T, Watanabe K, Nakamura S, Narimatsu H. Screening for prostate cancer in a city in Japan: age-specific prostate-specific antigen cutoff thresholds. *Cancer Causes Control*. 2024 Apr; 35(4): 671-677.
7. Nakaigawa N, Hasumi H, Utsunomiya D, Yoshida K, Ishiwata Y, Oka T, Hayward C, Makiyama K. Evaluation of PET/CT imaging with [89Zr] Zr-DFO-girentuximab: a phase 1 clinical study in Japanese patients with renal cell carcinoma (Zirdac-JP). *Jpn J Clin Oncol*. 2024 Aug 14; 54(8): 873-879.
8. Terauchi M, Yamashiro T, Sawamura S, Koyama S, Nakaigawa N, Kondo K, Hasumi H, Makiyama K, Utsunomiya D. Combining Transarterial Embolization and Percutaneous Cryoablation for Early-Stage Renal Cell Carcinoma: Embolization Materials and Impacts of Tumor Size. *Tomography*. 2024 Nov 7; 10(11): 1767-1779.
9. Ito H, Jikuya R, Myoba S, Tatenuma T, Noguchi G, Ueno D, Ito Y, Komeya M, Muraoka K, Yao M, Hasumi H, Nakaigawa N, Makiyama K. Tissue factor pathway inhibitor 2 (TFPI2) is a potential serum biomarker for clear cell renal carcinoma. *Sci Rep*. 2024 Nov 19; 14(1): 28639.
10. Wei F, Kouro T, Nakamura Y, Ueda H, Iizumi S, Hasegawa K, Asahina Y, Kishida T, Morinaga S, Himuro H, Horaguchi S, Tsuji K, Mano Y, Nakamura N, Kawamura T, Sasada T. Enhancing Mass spectrometry-based tumor immunopeptide identification: machine learning filter leveraging HLA binding affinity, aliphatic index and retention time deviation. *Comput Struct Biotechnol J*. 2024 Feb 3; 23: 859-869.
11. Terauchi M, Yamashiro T, Sawamura S, Koyama

S, Nakaigawa N, Kondo K, Hasumi H, Makiyama K, Utsunomiya D. Tomography. Combining Transarterial Embolization and Percutaneous Cryoablation for Early-Stage Renal Cell Carcinoma: Embolization Materials and Impacts of Tumor Size. 2024 Nov 7; 10(11): 1767-1779.

12. Ito H, Jikuya R, Myoba S, Tatenuma T, Noguchi G, Ueno D, Ito Y, Komeya M, Muraoka K, Yao M, Hasumi H, Nakaigawa N, Makiyama K. Tissue factor pathway inhibitor 2 (TFPI2) is a potential serum biomarker for clear cell renal carcinoma. Sci Rep. 2024 Nov 19; 14(1): 28639.

13. Terao H, Nagasaka H, Yamamoto S, Suzuki A, Usui K, Kishida T, Nakaigawa N. Urinary Continence After Robot-Assisted Laparoscopic Radical Prostatectomy Using the Peritoneal Fixation Technique. Asian J Endosc Surg. 2025 Jan-Dec; 18(1): e 70000. doi: 10.1111/ases.70000.

14. Editorial Comment Kishida T. Editorial Comment to Clinical characteristics and survival outcomes of elderly patients with de novo metastatic germ cell tumors. Int J Urol. 2024 Jul; 31(7): 812.

和文

1. 中井川 昇 腎癌と血管新生 日本臨床82 (増刊号8) 36-40, 2024.

2. 中井川 昇 腎細胞癌に対する新しいPET診断薬と核医学治療薬 臨床泌尿器科78 (6) 392-396, 2024.

3. 岸田 健【臨床腎・泌尿器癌(下) —基礎・臨床研究の進歩—】精巣癌の診断予後因子(解説)日本臨床82 (増刊10) 174-178, 2024.

4. 岸田 健【腎疾患の診断と治療最前線】泌尿器疾患(診断と治療)精巣癌(解説)腎と透析97 (増刊) 441-446, 2024.

5. 佐藤慎哉, 岸田 健, 宮城洋平 前立腺癌骨転移とAdipo-oncology遺伝子・蛋白質発現解析から見た骨髄脂肪の治療抵抗性への寄与(解説)泌尿器外科37 (8) 894-899, 2024.

6. 岸田 健【キャッチアップ精巣腫瘍—今, 知っておくべき進歩】精巣胚細胞腫瘍の原因となりうる遺伝子変異の解析(解説)臨床泌尿器科78 (7) 470-474, 2024.

7. 岸田 健 難治性精巣腫瘍最後の一手残存腫瘍切除尿路悪性腫瘍研究会記録4927-332024.

学会発表

国際学会

1. Atsuto Suzuki: Complete Resection of Post-chemotherapy Residual Tumor Could Improve the Prognosis in non-seminomatous germ cell tumors (NSGCT), 16th European Multidisciplinary Congress on

Urological Cancers, Lisbon, 2024. 11

国内学会

1. 鈴木敦人: Predictive factors for pT3 upstaging in robot-assisted laparoscopic partial nephrectomy (RAPN). 第111回日本泌尿器科学会総会, 横浜, 2024. 4.

2. 鈴木敦人: 80歳以上の高齢者における腎癌治療のReal World Data, 第54回腎癌研究会, 新潟, 2024. 7

3. 鈴木敦人: Multifaceted analysis of the role of adipocytes and adipose-secreting factors in prostate cancer, 第83回日本癌学会, 福岡, 2024. 9

4. 鈴木敦人, 佐藤慎哉, 中井川 昇, 岸田 健, 中井川 昇 再発・治療抵抗性前立腺癌にアディポカインが果たす臨床的・生物学的意義の検討 (Clinical and Biological Significance of Adipokines in Recurrent and Refractory Prostate Cancer) 第62回日本癌治療学会 2024. 9

5. 鈴木敦人: 一酸化炭素肺拡散能 (DLCO) はBleomycinによる肺障害 (BIP) を予測する, 日本泌尿器腫瘍学会 第10回学術集会, 福岡, 2024. 10

6. 鮎瀬知彦: Clinical outcomes between Upfront Abiraterone acetate and bicalutamide for patients with Latitude high risk metastatic hormone-sensitive prostate cancer, 第111回日本泌尿器科学会総会, 横浜, 2024. 4.

7. 鮎瀬知彦: The outcomes of second-line treatment after upfront abiraterone acetate for metastatic hormone sensitive prostate cancer 第62回日本癌治療学会, 福岡, 2024. 10

8. 久保勇人: 播種性骨髄癌症を呈した膀胱癌の一例, 第69回神奈川地方会, 神奈川, 2024. 9

9. 久保勇人: 当院における進行性尿路上皮癌に対するEnfortumab vedotinの治療成績, 第89回 日本泌尿器科学会東部総会, 山形, 2024. 10

10. Usui K, Nagasaka H, Yamamoto S, Suzuki A, Terao H, Umemoto S, Nakaigawa N, Kishida T: Investigation of the effect of darolutamide plus docetaxel plus androgen-deprivation triplet therapy for hormone-sensitive metastatic prostate cancer, 2024 The 111th Annual Meeting of the JUA, Yokohama, 2024. 4.

11. 臼井公紹, 久保勇人, 松本崇宏, 鮎瀬知彦, 鈴木敦人, 水野伸彦, 梅本 晋, 中井川 昇, 岸田 健 当院におけるホルモン感受性転移性前立腺がんに対する3剤併用療法の検討第62回日本癌治療学会 2024. 10

12. 臼井公紹, 久保勇人, 松本崇宏, 鮎瀬知彦, 鈴木敦人, 水野伸彦, 梅本 晋, 中井川 昇, 岸田 健: 当院における膀胱癌に対するロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘術の治療成績. 第38回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 千葉, 2024. 11.

13. 寺尾秀行, 長坂拓学, 山本章太郎, 鈴木敦人, 臼井公紹, 中井川 昇, 岸田 健 Peritoneal Fixationテクニッ

クを用いたRARF後尿禁制の検討（会議録／英語）第62回日本癌治療学会 2024. 9

14. 長坂拓学, 岸田 健, 竹部慎一, 山本章太郎, 近藤拓也, 寺尾秀行, 中井川 昇, 笹田哲郎 免疫チェックポイント阻害剤を使用した転移性腎癌患者の治療効果予測因子について 第54回腎癌研究会 2024. 07 新潟
15. 岸田 健 次世代の薬物療法 HIF阻害剤, トリプレットについて von Hippel-Lindau病におけるHIF阻害薬 日本人研究者の貢献 第54回腎癌研究会 2024. 07 新潟
16. 山本章太郎, 長坂拓学, 鈴木敦人, 臼井公紹, 寺尾秀行, 中井川 昇, 岸田 健 腎血管原発が疑われる腎門部平滑筋肉腫の1例 日本泌尿器科学会 神奈川地方会 2024. 3

感染症内科

学会等発表

1. Chizuko Hashimoto, Jun Tsukiji, Haruka Yamanokawa, Natsuki Hirose, Hiroshi Teranaka, Hiroyuki Takahashi, Rika Sakai, Hideaki Nakajima : Successfully management in three lymphoma cases under B cell depleting therapy combined with COVID-19 by NMV/RNV, 第22回臨床腫瘍学会, 神戸, 3/2025
2. 築地 淳, 村上修司, 片倉誠悟, 成田篤哉, 高橋寛行, 光永幸代, 齋藤春洋 : COVID-19急性期の嗅覚/味覚障害発症例におけるindoleamine 2, 3-dioxygenase (IDO)-1活性化, 第64回日本呼吸器学会学術講演会, 横浜, 4/2024
3. 村上修司, 品田佳那子, 成田篤哉, 片倉誠悟, 近藤哲郎, 築地 淳, 加藤晃史, 齋藤春洋 : NSCLCにおける血液検体を使用したCGP検査の経験. 第64回日本呼吸器学会学術講演会, 横浜, 4/2024
4. 片倉誠悟, 品田佳那子, 成田篤哉, 村上修司, 近藤哲郎, 加藤晃史, 築地 淳, 齋藤春洋 : 当院における切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する化学放射線療法およびデュアルバルブ地固め療法の検討. 第64回日本呼吸器学会学術講演会, 横浜, 4/2024
5. 原 悠, 築地 淳, 樋口研朗, 大西よしか, 廣瀬春香, 工藤 誠, 海老名俊明, 金子 猛 : COVID-19患者における血清マクロファージ活性マーカーの臨床的有用性 第64回日本呼吸器学会学術講演会, 横浜, 4/2024
6. 齋藤春洋, 繁田奈央子, 菊西啓雄, 重福俊祐, 村上浩太郎, 伊坂哲哉, 永島琢也, 品田佳那子, 築地 淳, 成田篤哉, 片倉誠悟, 村上修司, 近藤哲郎, 加藤晃史, 伊藤宏之 : 当センターの肺癌手術例における肺癌CT検診の現状の検討, 第64回日本呼吸器学会学術講演会, 横浜, 4/2024

骨軟部腫瘍外科

学会発表

1. 竹山昌伸, 川端佑介, 齋藤桂樹, 藤田真太郎, 吉田智隆, 志賀 輝, 稲葉 裕 : メトトレキサート・レボホリナート救援療法における有害事象の検討. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術学会, 福井, 7/2024
2. 志賀 輝, 根津 悠, 鷺見公太, 比留間 徹, 稲葉裕 : 後腹膜肉腫の予後予測にScarclatorは有用か. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術学会, 福井, 7/2024
3. 志賀 輝, 根津 悠, 鷺見公太, 高木正行, 吉田朗彦, 比留間徹, 稲葉裕 : 足関節内果に発生したosteoclastic giant rich tumor with HMGA2-NCOR2 fusionの1例. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術学会, 福井, 7/2024
4. 吉田智隆, 川端佑介, 齋藤桂樹, 林田健太, 藤田真太郎, 竹山昌伸, 稲葉 裕 : Prognostic nutritional indexによる原発性悪性骨腫瘍患者の予後予測. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術学会, 福井, 7/2024
5. 吉田智隆, 川端佑介, 齋藤桂樹, 栗本怜美, 藤田真太郎, 竹山昌伸, 稲葉裕 : 骨腫瘍術後インプラント周囲感染における持続局所抗菌薬還流療法 (CLAP) を用いた感染制御率の解析. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術学会, 福井, 7/2024
6. 根津 悠, 比留間 徹, 志賀 輝, 稲葉 裕 : 進行軟部肉腫に対する二次治療のリアルワールドデータ. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術学会, 福井, 7/2024

放射線診断・IVR科

発表論文

1. Akira Kambe, Yayoi Yamamoto, Chie Hasegawa, Akira Kakiuchi, Daichi Kojima, Ayako Hino, Ayumi Horikawa, Tsunehiro Doiuchi, Hiroaki Kurihara: SMARCA4-deficient tumors in the adrenal gland and small intestines: A rare case report. Radiol Case Rep, 19(2): 794-797, 2024. doi: 10.1016/j.radcr.2023.11.038.
2. Shinada M, Takahashi M, Igarashi C, Matsumoto H, Hihara F, Tachibana T, Oikawa M, Suzuki H, Zhang MR, Higashi T, Kurihara H, Yoshii Y, and Doi Y: 64Cu²⁺ Complexes of Tripodal Amine Ligands' In Vivo Tumor and Liver Uptakes and Intracellular Cu Distribution in the Extrahepatic Bile Duct Carcinoma Cell Line TFK-1: A Basic Comparative Study. Pharmaceuticals 17(7): 820, 2024. DOI: 10.3390/ph17070820.
3. Yayoi Yamamoto, Daichi Kojima, Hiroaki Kurihara: Pitfalls in FDG-PET/CT: Unique brown fat activation due to a β 3-adrenergic receptor agonist in a patient

with trated uterine cervical cancer. Journal of Clinal Images and Medial Case Reports, 5(1): 2805,2024. DOI: 10.52768/2766-7820/2805.

学会等発表

1. 望月春海, 山本弥生, 小嶋大地, 神戸 亮, 柿内 明, 日野彩子, 土井内恒宏, 栗原宏明: 当院におけるデンバーシャント造設術58例の合併症の検討. 第13回緩和IVR研究会, 奈良, 2024, 9.
2. 望月春海, 山本弥生, 小嶋大地, 鄭 仕堯, 柿内 明, 日野彩子, 土井内恒宏, 栗原宏明: カテーテル位置調整にてシャント機能不全を解消できたデンバーシャントの一例. 第462回日本医学放射線学会関東地方会定期大会. 高崎, 2024, 12.
3. 柿内 明, 山本弥生, 小嶋大地, 神戸 亮, 望月春海, 鄭仕堯, 日野彩子, 土井内恒宏, 栗原宏明: 出血を繰り返すストマ静脈瘤に対しエコーガイド下直接穿刺による血管塞栓術で治療した一例. 第462回日本医学放射線学会関東地方会定期大会, 高崎, 2024, 12.
4. 前田倭空: Fitz-Hugh-Curtis症候群の一例. 第461回日本医学放射線学会関東地方会定期大会, 東京, 2024, 6.
5. Kurihara H et al. Phase I clinical trial of 64Cu-ATSM for malignant brain tumors. 2024 ASCO annual Meeting, Abstract #2052.
6. Yamamoto et al. Prognostic factors of spine chordoma after Carbon-ion radiotherapy. ECR 2025 Abstract #12844.
7. Hino A et al. The Prognostic Value of Pretreatment [18F]-FDG PET/CT Parameters in Patients with Sinonasal Mucosal Melanoma Treated with Carbon Ion Radiotherapy. ECR 2025 Abstract #10032.

文責: 栗原宏明

東洋医学科

その他出版物

1. 板倉英俊: 低血圧に対する漢方. 漢方と最新治療33(2), 75-77, 2024-05

免疫療法科

発表論文

1. Kouro T, Higashijima N, Horaguchi S, Mano Y, Kasajima R, Xiang H, Fujimoto Y, Kishi H, Hamana H, Hoshino D, Himuro H, Matsuura R, Tsuji S, Imai K, Sasada T. Novel chimeric antigen receptor-expressing T cells targeting the malignant mesothelioma-specific antigen sialylated HEG1. Int J Cancer. 2024 May 15; 154(10): 1828-1841.

2. Nagasaka H, Kishida T, Kouro T, Igarashi Y, Takebe S, Yamamoto S, Kondo T, Koizumi M, Terao H, Suzuki T, Nakaigawa N, Himuro H, Wei F, Sasada T. MMP1, IL-1 β , sTNFR1, and IL-6 are prognostic factors for patients with unresectable or metastatic renal cell carcinoma treated with immune checkpoint inhibitors. Int J Clin Oncol. 2024 Jun; 29(6): 832-839.
3. Sekihara K, Himuro H, Toda S, Saito N, Hirayama R, Suganuma N, Sasada T, Hoshino D. Recent Trends and Potential of Radiotherapy in the Treatment of Anaplastic Thyroid Cancer. Biomedicines. 2024 Jun 10; 12(6): 1286.
4. Horaguchi S, Nakahara Y, Igarashi Y, Kouro T, Wei F, Murotani K, Udagawa S, Higashijima N, Matsuo N, Murakami S, Kato T, Kondo T, Xiang H, Kasajima R, Himuro H, Tsuji K, Mano Y, Komahashi M, Miyagi Y, Saito H, Azuma K, Uehara S, Sasada T. Prognostic Significance of Plasma Neutrophil Extracellular Trap Levels in Patients with Non-Small Cell Lung Cancer Treated with Immune Checkpoint Inhibitors. Biomedicines. 2024 Aug 12; 12(8): 1831.
5. Murata D, Azuma K, Murotani K, Kawahara A, Nishii Y, Tokito T, Sasada T, Hoshino T. Characterization of pre- and on-treatment soluble immune mediators and the tumor microenvironment in NSCLC patients receiving PD-1/L1 inhibitor monotherapy. Cancer Immunol Immunother. 2024 Sep 5; 73(11): 214.
6. Xiang H, Kasajima R, Azuma K, Tagami T, Hagiwara A, Nakahara Y, Saito H, Igarashi Y, Wei F, Ban T, Yoshihara M, Nakamura Y, Sato S, Koizume S, Tamura T, Sasada T, Miyagi Y. Multi-omics analysis-based clinical and functional significance of a novel prognostic and immunotherapeutic gene signature derived from amino acid metabolism pathways in lung adenocarcinoma. Front Immunol. 2024 Dec 13; 15: 1361992.
7. Murata D, Azuma K, Nishii Y, Murotani K, Matama G, Kawahara A, Tokito T, Sasada T, Hoshino T. The Impacts of Active and Inactive Ghrelin on Cachexia and Immune Checkpoint Inhibitor Monotherapy in Patients with Non-small Cell Lung Cancer. Chemotherapy. 2025 Jan 22: 1-15.
8. Mano Y, Igarashi Y, Komori K, Hashimoto I, Watanabe H, Takahashi K, Kano K, Fujikawa H, Yamada T, Himuro H, Kouro T, Wei F, Tsuji K, Horaguchi S, Komahashi M, Oshima T, Sasada T. Characteristics and clinical significance of immune cells in omental milky spots of patients with gastric cancer. Front Immunol. 2025 Jan 30; 16: 1521278.

著書

1. Wei F, Sasada T. A novel machine learning post-processing filter for mass spectrometry-based immunopeptidomics leveraging retention time deviation and peptide physiochemical properties. Methods in Molecular Biology Series: Immunoproteomics (3rd Edition), Kelly Fulton (Editor), Humana New York (Springer Protocols), 2024, in press.

学会等発表

1. 関原和正, 氷室秀知, 平山亮一, 笹田哲朗, 星野大輔. 重粒子線照射は甲状腺未分化がん細胞の増殖および遊走を抑制する. 第33回日本がん転移学会学術集会・総会. 奈良, 6/2024
2. 中村有子, 福田暁子, 中山 綾, 近岡洋子, 紅露 拓, 辻 嘉代子, 魏 菲菲, 笹田哲朗, 川村 猛. メラノーマ細胞株A375におけるHLA class I, II免疫ペプチドーム解析. 第72回質量分析総合討論会. つくば, 6/2024
3. 氷室秀知, 眞野恭伸, 魏 菲菲, 紅露 拓, 神谷郁也, 辻 嘉代子, 駒橋 充, 笹田哲朗. 漢方方剤「通導散」のアブスコバル効果への影響についての検討. 第28回日本がん免疫学会総会. 東京, 7/2024
4. 魏 菲菲, 紅露 拓, 中村有子, 上田宏生, 氷室秀知, 辻 嘉代子, 駒橋 充, 川村 猛, 笹田哲朗. Improving the identification of tumor immunopeptides by Mass spectrometry. 第28回日本がん免疫学会総会. 東京, 7/2024
5. 駒橋 充, 洞口 俊, 紅露 拓, 辻 嘉代子, 笠島理加, 笹田哲朗. Single cell immunoprofiling of tumor infiltrating T cells in renal cell carcinoma. 第28回日本がん免疫学会総会. 東京, 7/2024
6. 項 慧慧, 東 公一, 笠島理加, 笹田哲朗, 宮城洋平. 末梢血単核細胞における遺伝子発現ががん免疫チェックポイント阻害剤治療法の予後に与える影響. 第28回日本がん免疫学会総会. 東京, 7/2024
7. 紅露 拓, 眞野恭伸, 笠島理加, 星野大輔, 辻 祥太郎, 今井浩三, 笹田哲朗. Conversion of CD28 co-stimulatory domain to 4-1BB in self-activating CAR results in alteration of tonic signaling from NFAT to NF κ B. 第28回日本がん免疫学会総会. 東京, 7/2024
8. 項 慧慧, 笠島理加, 笹田哲朗, 宮城洋平. 肺腺がん細胞におけるキヌレニナーゼの発現は腫瘍の悪性化を促進する. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024
9. 関原和正, 氷室秀知, 笹田哲朗, 星野大輔. 放射線単独および分子標的薬との併用療法は甲状腺未分化がん細胞を効果的に殺傷する. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024
10. 辻 嘉代子, 洞口 俊, 紅露 拓, 魏 菲菲, 氷室秀知, 駒橋 充, 佐藤慎哉, 星野大輔, 笹田哲朗. 腎がんオルガノイドを用いた腫瘍細胞とT細胞の反応の解析. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024
11. 駒橋 充, 洞口 俊, 紅露 拓, 辻 嘉代子, 笠島理加, 上原秀一郎, 笹田哲朗. 腎細胞がんにおける腫瘍浸潤T細胞の免疫プロファイリング. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024
12. 紅露 拓, 眞野恭伸, 笠島理加, 星野大輔, 辻 祥太郎, 今井浩三, 笹田哲朗. CAR共刺激ドメインが下流のシグナル伝達とCAR-T細胞の疲弊に及ぼす影響. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024
13. 氷室秀知, 眞野恭伸, 魏 菲菲, 神谷郁也, 紅露 拓, 辻 嘉代子, 駒橋 充, 笹田哲朗. アブスコバル効果に対する漢方方剤「通導散」の影響. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 9/2024
14. 氷室秀知, 関原和正, 紅露 拓, 魏 菲菲, 辻 嘉代子, 駒橋 充, 星野大輔, 笹田哲朗. ヒト末梢血単核細胞に対する重粒子線とX線の及ぼす影響の比較検討. 日本放射線腫瘍学会第37回学術大会. 横浜, 11/2024
15. Kouro T, Komahashi M, Horaguchi S, Tsuji K, Kasajima R, Sasada T. Single cell immunoprofiling of tumor infiltrating T cells in renal cell carcinoma. 第53回日本免疫学会学術集会, 長崎, 12/2024

麻 酔 科

学会等発表

1. 山本 匠, 荒川仁美, 大熊歌奈子, 古賀資和, 高野修身, 佐々木俊郎: 気管の拡張を伴う気管管状切除術の1例 A Case of Anesthetic Management for Tracheal Sleeve Resection with distal dilatation. 関東甲信越・東京支部第64回合同学術集会, 東京, 9/2024

緩和ケア内科

学会等発表

1. 太田周平: 県の緩和ケア部会での情報共有により, 持続くも膜下鎮痛法を行い, 自宅療養を実現した難治性がん性痛の一例. 日本ペインクリニック学会 第58回学術集会, 宇都宮, 7/2024

歯科口腔外科

学会等発表

1. 橋本富美, 柴田翔吾, 遠藤麻衣. 無菌病棟における菌ブラシ保管についての現状と課題. 第34回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 東京, 3/2025
2. 出田ゆか, 大屋貴志, 下田愛美, 遠藤麻衣, 光藤健司. 抜歯後の口腔内血腫を契機に診断された後天性血友病Aの1例. 第218回日本口腔外科学会関東支部学術集会, 神奈川, 12/2024

病理診断科

発表論文

1. Washimi K, Kasajima R, Sato S, Nezu Y, Takahashi H, Sakai R, Nakamura N, Takagi M, Hasegawa C, Yoshioka E, Okubo Y, Katayama K, Imoto S, Yokose T, Miyagi Y: Chemokine expression in well-differentiated liposarcoma may be involved in tumorigenesis of lymphoplasmacytic lymphoma. *Cancer Rep*. 2025 Feb; 8(2): e70129.
2. Okubo Y, Toyama N, Kasajima R, Toda S, Hayashi H, Yoshioka E, Washimi K, Sato S, Hiroshima Y, Hasegawa C, Yuguchi S, Kadoya M, Narimatsu H, Masudo K, Iwasaki H, Yokose T, Miyagi Y: Effective preparation of FFPE tissue samples for preserving nucleic acid quality for genomic analysis in thyroid carcinoma. *Endocr Pathol*. 2024 Dec; 35(4): 372-384.
3. Tokunaga M, Takahashi H, Hirose N, Hibino Y, Teranaka H, Washimi K, Okubo Y, Hiroshima Y, Tanaka M, Sakai R: SMARCA4-deficient epithelioid sarcoma revealed by comprehensive genomic profiling. *Int Cancer Conf J*. 2024; 14(1): 1-6.
4. Nagasaka H, Suzuki T, Kondo T, Koizumi M, Terao H, Murohashi Y, Okubo Y, Yokose T, Kishida T: Retroperitoneal Doege-Potter syndrome with intraoperative blood glucose monitoring.: *IJU Case Rep*. 2024 Sep; 7(5): 391-394.

学会等発表

1. 大久保陽一郎, 鷺見公太, 長谷川知愛, 中井川 昇, 湯口 周, 吉岡恵美, 岸田 健, 宮城洋平: mCSPCにおける臨床病理学的検討: 篩状構造とIDC-Pの解析を中心に。第13回日本泌尿器病理研究会学術集会 (東京) 2025年2月

遺伝診療科

発表論文

〈英文原著論文〉

1. Chei CL, Nakamura S, Watanabe K, Watanabe R, Kurokawa A, Iwane T, Itoh S, Narimatsu H. Projection of future gastric cancer incidence and health-care service demand by geographic area in Kanagawa, Japan. *Cancer Sci*. 2025; 116(2): 488-99. Epub 20241128. IF 4.5
2. Tran QA, Nakamura S, Watanabe K, Chei CL, Narimatsu H. The relationship between loneliness and blood glucose: a cross-sectional survey among Japanese. *BMC Res Notes*. 2024; 17(1): 201. Epub 20240722. IF 1.6

3. Suganuma N, Matsubara Y, Takahashi A, Yamanaka T, Yamashita T, Yoshioka E, Kawachi K, Yokose T, Narimatsu H, Hoshino D, Miyagi Y, Saito A. Impact of Warm Ischemia Time on HER2 Expression in Breast Cancer Surgical Specimens. *Anticancer Res*. 2024 ;44(12): 5225-30. IF 1.8
4. Sato A, Haneda E, Hiroshima Y, Narimatsu H. Preliminary Screening for Hereditary Breast and Ovarian Cancer Using an AI Chatbot as a Genetic Counselor: Clinical Study. *J Med Internet Res*. 2024; 26: e48914. Epub 20241127. IF 5.8
5. Sasahara Y, Takumoto Y, Watanabe K, Takeda H, Umemoto K, Sunakawa Y, Suzuki N, Yoshioka T, Kobayashi S, Ueno M, Nakamura S, Akazawa M, Narimatsu H. Quality-of-life survey of pancreatic cancer patients: a comparison between general public and physicians. *Front Health Serv*. 2024; 4: 1275496. Epub 20240712. IF 1.6
6. Saito Y, Nakamura S, Kasukawa T, Nagasawa M, Oguma Y, Narimatsu H. Efficacy of exercise with the hybrid assistive limb lumbar type on physical function in mobility-limited older adults: A 5-week randomized controlled trial. *Exp Gerontol*. 2024; 195: 112536. Epub 20240803. IF 3.3
7. Okamoto M, Saito Y, Nakamura S, Nagasawa M, Shibuya M, Nagasaka G, Narimatsu H. Smartphone-Based Digital Peer Support for a Walking Intervention Among Public Officers in Kanagawa Prefecture: Single-Arm Pre- and Postintervention Evaluation. *JMIR Form Res*. 2024; 8: e53759. Epub 20240924. IF 2.2
8. Okamoto M, Matsumura K, Takahashi A, Kurokawa A, Watanabe Y, Narimatsu H, Yoshida H. The Association between Menstrual Symptoms and Presenteeism: A Cross-Sectional Study for Women Working in Central Tokyo. *Int J Environ Res Public Health*. 2024; 21(3). Epub 20240308. IF 4.6
9. Nishiyama M, Nakamura S, Matsuki T, Narimatsu H. Association between gut microbiota and locomotive syndrome risk in healthy Japanese adults: a cross-sectional study. *NPJ Aging*. 2024; 10(1): 55. Epub 20241125. IF 5.4
10. Nagasawa M, Nakamura S, Narimatsu H. Characteristics of the most viewed Hybrid Assistive Limb-related videos on YouTube. *Health Informatics J*. 2024; 30(1): 14604582241236697. IF 2.2
11. Matsuki T, Nakamura S, Nishiyama M, Narimatsu H. Holistic Evaluation of the Gut Microbiota through Data Envelopment Analysis: A Cross-Sectional Study. *Curr Dev Nutr*. 2024; 8(11): 104469. Epub 20240927. IF 3.8
12. Chei CL, Nakamura S, Watanabe K, Mizutani T,

Narimatsu H. Assessing the performance of chest x-ray screening in detecting early-stage lung cancer in the general population. *Int J Cancer*. 2024 Epub 20241230. IF 5.7

〈和文総説〉

1. **成松宏人**. 自分で自分の健康をデザインする社会を創る—ヘルスイノベーションの疫学—. ヒューマンサービス学会誌. 2024 ; 2 : 8-16. IFなし

学会等発表

一般演題

1. 木村香里, 四十谷美樹, 友澤周子, 平岡弓枝, 松川愛未, **成松宏人**, 仁科智裕, 高橋直樹, 森實千種, 桑田健, 中村能章. BRACAnalysis受検者を対象とした研究コホートにおけるBRCA1/2検査結果に対する心理的影響. 第48回日本遺伝カウンセリング学会学術集会. 東京, 8/2024
2. **Ann Sato**, **Eri Haneda**, Yukihiro Hiroshima, **Hiroto Narimatsu**. Preliminary Screening for Hereditary Breast and Ovarian Cancer Using a Chatbot: Feasibility in Clinical Practice. The 69th annual meeting of human genetics. Sapporo, 10/2024
3. Jun Kawai, **Eri Haneda**, **Ann Sato**, Masakazu Nishigaki, **Hiroto Narimatsu**. Health behavior following risk communication between hereditary breast and ovarian cancer patients and their relative. The 69th annual meeting of human genetics. Sapporo, 10/2024
4. Choy-Lye Chei, Sho Nakamura, Kaname Watanabe, Ryo Watanabe, Akio Kurokawa, Taizo Iwane, Sayaka Itoh, **Hiroto Narimatsu**. Future projection of healthcare service demand in gastric cancer patients. The 83rd Annual Meeting of Japanese Society of Public Health. Sapporo, 10/2024
5. 中村 翔, 渡邊 要, **成松宏人**. 健常人における動脈硬化性疾患リスクと腸内細菌叢の関連解明. 口演. 第83回日本公衆衛生学会総会. 北海道札幌市, 10/2024
6. 高橋鴻志, 中村 翔, 小笠原 悠, 阪口昌彦, 渡邊 要, **成松宏人**. がん検診事業の効率性に対する, 人口規模と高齢化率の影響; 包絡分析法による知見. 口演. 第83回日本公衆衛生学会総会. 北海道札幌市, 10/2024
7. 岡本真澄, **成松宏人**, 中村 翔. 歩行促進のためのデジタルピアサポート活用に向けた探索的研究. ポスター発表. ヘルスイノベーションカンファレンス殿町2025. 神奈川県川崎市, 2/2025
8. Sho Nakamura, Kaname Watanabe, Choy-Lye Chei, **Hiroto Narimatsu**. The Kanagawa Prospective “ME-BYO” Cohort Study: Initiatives by the Graduate School of Health Innovation. ヘルスイノベーションカンファレンス殿町2025. 神奈川県川崎市, 2/2025

9. 井上里奈, 中村 翔, 會田陽子, **成松宏人**. 包絡分析法を活用した一次予防手法の社会実装 ~ケンコーチによる疾病予測~. ヘルスイノベーションカンファレンス殿町2025. 神奈川県川崎市, 2/2025

がんゲノム診療科

発表論文

1. **Tokunaga M**, **Takahashi H**, **Hirose N**, **Hibino Y**, **Teranaka H**, **Washimi K**, **Okubo Y**, **Hiroshima Y**, **Tanaka M**, **Sakai R**. SMARCA4-deficient epithelioid sarcoma revealed by comprehensive genomic profiling, leading to a notable response by nivolumab treatment. *Int Cancer Conf J*. 2024 Oct 17; 14(1):1-6. doi: 10.1007/s13691-024-00701-6. eCollection2025Jan. PMID: 39758797.
2. **Hibino Y**, **Sakai R**, **Takahashi H**, **Takeda T**, **Hirose N**, **Tokunaga M**, **Washimi K**, **Yokose T**, **Kasajima R**, **Hiroshima Y**, **Miyagi Y**, Nakajima H. Efficacy of Combined Encorafenib and Binimetinib Treatment for Erdheim-Chester Disease Harboring Concurrent BRAFV600E and KRASG12R Mutations: A Case Report. 2024 Dec; 7(12): e70093. doi: 10.1002/cnr.270093. PMID: 39724464.
3. **Sato A**, **Haneda E**, **Hiroshima Y**, **Narimatsu H**. Preliminary Screening for Hereditary Breast and Ovarian Cancer Using an AI Chatbot as a Genetic Counselor: Clinical Study. 2024 Nov 27; 26: e48914. doi: 10.2196/48914. PMID: 39602801.
4. **Okubo Y**, **Toyama N**, **Kasajima R**, **Toda S**, **Hayashi H**, **Yoshioka E**, **Washimi K**, **Sato S**, **Hiroshima Y**, **Hasegawa C**, **Yuguchi S**, **Kadoya M**, **Narimatsu H**, **Masudo K**, **Iwasaki H**, **Yokose T**, **Miyagi Y**. Effective Preparation of FFPE Tissue Samples for Preserving Appropriate Nucleic Acid Quality for Genomic Analysis in Thyroid Carcinoma. *Endocr Pathol*. 2024 Dec; 35(4): 372-384. doi: 10.1007/s12022-024-09838-9. Epub 2024 Nov 19. PMID: 39560912.
5. **Oshima T**, Hashimoto I, **Hiroshima Y**, Kimura Y, **Tanabe M**, Nakayama Y, **Nagasawa S**, **Kanematsu K**, Aoyama T, **Yamada T**, **Ogata T**, **Miyagi Y**. Clinical Significance of Granzyme B Gene Expression in Pathological Stage II/III Gastric Cancer After Curative Gastrectomy. *Anticancer Res*. 2024 Oct;44(10):4537-4542. doi: 10.21873/anticancer.17282. PMID: 39348967.
6. **Oshima T**, Hashimoto I, **Hiroshima Y**, Kimura Y, **Tanabe M**, Nakayama Y, **Nagasawa S**, **Kanematsu K**, Aoyama T, **Yamada T**, **Ogata T**, **Miyagi Y**. Clinical Significance of HRNR Expression in Patients With Stage II/III Gastric Cancer After Curative Gastrectomy. *Anticancer Res*. 2024 Oct; 44(10): 4579-4584. doi:

10.21873/anticancerres.17287. PMID: 39348954.

7. Toda S, Iwasaki H, Okubo Y, Hayashi H, Kadoya M, Takahashi H, Yokose T, Hiroshima Y, Masudo K. The frequency of mutations in advanced thyroid cancer in Japan: a single-center study. *Endocr J.* 2024 Apr 17: dgae271. doi: 10.1210/clinem/dgae271. Online ahead of print. PMID: 38630010. IF=2.9
8. Kota Washimi, Yukihiro Hiroshima, Shinya Sato, Makoto Ueno, Satoshi Kobayashi, Naoto Yamamoto, Chie Hasegawa, Emi Yoshioka, Kyoko Ono, Yoichiro Okubo, Tomoyuki Yokose, Yohei Miyagi. Evaluation of pancreatic cancer specimens for comprehensive genomic profiling (CGP). *Pathology International.* 2024 May; 74(5): 252-261. doi: 10.1111/pin.13416. Epub 2024 Mar 13. PMID: 38477638. IF=2.2

学会等発表

1. Hiroyuki Takahashi, Natsuki Hirose, Mayumi Tokunaga, Hiroshi Teranaka, Yukihiro Hiroshima, Masatsugu Tanaka, Rika Sakai, Hideaki Nakajima. Clinical outcome of patients with cancer of primary unknown in the era of genomics and immune therapy. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会, 名古屋, 2/2024
2. 品田佳那子, 廣島幸彦, 村上修司, 成田篤哉, 片倉誠悟, 近藤哲郎, 加藤晃史, 横瀬智之, 齋藤春洋. 転移再発か異時性多発かの鑑別にがん遺伝子プロファイル検査が有用であった非小細胞肺癌の一例. 第194回日本肺癌学会関東支部例会, 東京, 12/2023
3. 品田佳那子, 廣島幸彦, 村上修司, 成田篤哉, 片倉誠悟, 近藤哲郎, 加藤晃史, 伊藤宏之, 横瀬智之, 齋藤春洋. 浸潤性粘液性肺腺癌の検討 (TruSight Oncology 500). 第64回日本肺癌学会総会, 千葉, 11/2023
4. Ann Sato, Eri Haneda, Yukihiro Hiroshima, Hiroto Narimatsu. Preliminary Screening for Hereditary Breast and Ovarian Cancer Using an AI Chatbot: Interview Survey in a Clinical Setting. 第68回日本人類遺伝学会, 東京, 10/2023
5. Mitsuhiro Furuta, Yukihiro Hiroshima, Shinya Sato, Misa Ohnishi, Takanori Hama, Kyoko Furusawa, Kei Hayashi, Yasuhiro Inokuchi, Mie Tanabe, Shizune Onuma, Junya Morita, Shinsuke Nagasawa, Kyohei Kanematsu, Takanobu Yamada, Takashi Ogata, Takashi Oshima, Yohei Miyagi, Tomoyuki Yokose, Nozomu Machida, Junji Furuse. Claudin 18.2 expression in resected gastric cancer. ESMO2023, Madrid Spain, 10/2023
6. Mayumi Tokunaga, Hiroyuki Takahashi, Natsuki Hirose, Yuto Hibino, Hiroshi Teranaka, Kouta Washimi, Yoichiro Okubo, Yukihiro Hiroshima, and Rika Sakai. Optimal response to nivolumab in a patient with

Cancer of Unknown Primary with concurrent high tumor mutational burden and SMARCA4 deficiency. 第61回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 10/2024

7. 笠島理加, 清水英悟, 廣島幸彦, 片山琴絵, 山口 類, 山口貴世志, 古川洋一, 宮野 悟, 井元清哉, 佐藤慎哉, 横瀬智之, 宮城洋平. RNAseqの品質一リボスクレアーゼによるRNAの分解一. 第82回日本癌学会学術総会, 横浜, 9/2023.
8. Yukihiro Hiroshima, Wataru Kawase, Itaru Hashimoto, Shizune Onuma, Hayato Watanabe, Mitsuhiro Furuta, Takashi Oshima, Yohei Miyagi. Identifying Potential Therapeutic Targets through Gene Expression Analysis of Peritoneal Cavity Cells in Gastric Cancer with Peritoneal Dissemination. 第82回日本癌学会学術総会, 横浜, 9/2023
9. Wataru Kawase, Yukihiro Hiroshima, Itaru Hashimoto, Shizune Onuma, Mitsuhiro Furuta, Takashi Oshima, Yohei Miyagi. Characterization of TAMs promoting early-stage metastasis during peritoneal dissemination in gastric cancer. 第82回日本癌学会学術総会, 横浜, 9/2023
10. Juri Ichikawa, Hiroshi Okuda, Kuniyuki Kawano, Shingo Kato, Daisuke Kurotaki, Ryo Kuroishikawa, Wataru Kawase, Haruka Yoshida, Yukihiro Hiroshima, Itaru Endo, Shin Maeda, Atsushi Nakajima and Tomohiko Tamura. A combined effect of immune checkpoint inhibitors and a CD40 agonistic antibody in a pancreatic cancer mouse model. 第82回日本癌学会学術総会, 横浜, 9/2023
11. 羽田恵梨, 廣島幸彦, 佐藤 杏, 成松宏人. がんゲノム医療における認定遺伝カウンセラー®の役割. 第48回日本外科系連合学会学術集会 ワークショップ パシフィコ横浜 6/2023

その他の出版物

1. 廣島幸彦. 「ゲノム検査の実地臨床での課題」腫瘍内科, 34 (3) : 1-5, 2024
2. 廣島幸彦. 「新しく承認されたがんパネル検査の位置づけ (Guardant360, GenMineTop)」腫瘍内科, 34 (4) : 1-5, 2024

特別講演, シンポジウム, ワークショップ等

1. 廣島幸彦. 「がん遺伝子パネル検査の使いどころと GenMineTOPの位置づけ」, 第62回日本癌治療学会 イブニングセミナー, 福岡, 10/2024
2. 廣島幸彦. 講演会: 神奈川県病理医会例会: 「CGP検査の現在と今後の展望」, 横浜, 7/2024
3. Takaaki Mizuno, Tatsuya Yoshida, Kuniko Sunami, Takafumi Koyama, Natsuko Okita, Tatsunori Shimoi, Hideki Ueno, Taro Shibata, Junki Mizusawa, Yukihiro

Hiroshima, Makoto Ueno, Yasutoshi Kuboki, Atsuo Takashima, Yuta Maruki, Chigusa Morizane, Hirokazu Shoji, Toshihiko Doi, Yasushi Yatabe, Kenichi Nakamura, Noboru Yamamoto. 固形がん患者における初回治療時の包括的ゲノムプロファイル (CGP) 検査の実現性と治療選択への有用性を評価する多施設共同前向き試験 (NCCH1908: UPFRONT試験). 第22回日本臨床腫瘍学会学術総会, 神戸, 3/2025.

医学物理工学科

発表論文

1. Tsuchida K, Yoshida D, Shima S, Kusunoki T, Takayama Y, Koge H, Kano K, Takakusagi Y, Mizoguchi N, Kamada T, Kusano Y, Kato H, Katoh H. Preliminary result of combined treatment with scanning carbon-ion radiotherapy and image-guided brachytherapy for locally advanced cervical adenocarcinoma. J Radiat Res., 65(4): 512-522, Jul 2024.
2. Miyasaka Y, Kusano Y, Mizoguchi N, Takayama Y, Kamada T, Iwai T, Katoh H. Development of a Tumor Growth-responsive Robust Planning Method for Head and Neck Cancer in Carbon-ion Radiotherapy. Anticancer Res., 44(11): 5113-5122, Nov 2024
3. Toyohara M, Kusano Y, Kobayashi N, Gotoh H, Wada S, Shimono Y. Three-dimensional radiation dosimetry of carbon ion beams using surfactant hydrogels: Fundamental investigation. Med Phys., 52(1): 454-470, Jan 2025.
4. Kurokawa S, Okamoto H, Nakaichi T, Mikasa S, Nakamura S, Iijima K, Chiba T, Nakayama H, Kashihara T, Inaba K, Igaki H. Machine learning prediction for lung dose in locally advanced esophageal cancer using volumetric modulated arc therapy. Med. Dosim., 50(3): 229-236, Feb 2025

学会等発表

1. Takayama Y, Kadoya N, Yamamoto T, Miyasaka Y, Kusano Y, Katsuta Y, Tanaka S, Arai K, Takeda K, Jingu K: Can deep learning-based segmentation enable organs in CBCT images by learning CT images of the male pelvis? The 10th Japan-Korea Joint Meeting on Medical Physics, 9/2024, Nagoya.
2. Kusano Y, Nagata J, Takayama Y, Kurokawa S, Kusunoki T, Imura K, Kamada T, Yoshida D, Katoh H. Analysis of the modification frequency and factors of irradiation conditions during carbon-ion scanning radiotherapy. 24th Asia-Oceania Congress of Medical Physics (AOCMP), 10/2024, Malaysia.
3. Kusunoki T, Tsuchida K, Kusano Y, Takayama Y,

Imura K, Kurokawa S, Nagata J, Yoshida D, Katoh H. Evaluation of inter-fractional organ motion between supine and prone positions for locally advanced cervical adenocarcinoma. 24th Asia-Oceania Congress of Medical Physics (AOCMP), 10/2024, Malaysia.

4. 永田順也, 草野陽介, 楠 輝文, 高山佳樹, 井村 航, 黒川聖悟, 吉田大作, 加藤弘之: 膀胱がん炭素線治療における肝内留置Gold Anchorを用いた高精度照射の検討. 日本放射線腫瘍学会第37回学術大会, 11/2024, 横浜.
5. 楠 輝文, 高山佳樹, 井村 航, 黒川聖悟, 永田順也, 蓑原伸一, 土田圭祐, 吉田大作, 草野陽介: 磁気センサー誘導によるIGBT高精度線源配置ナビゲーションシステム. マイクロセレクトロンHDR研究会第20回学術研究会, 12/2024, 東京.

放射線治療技術科

学会等発表

1. 白戸友和 業務効率化を目指した放射線治療スケジュール自動作成のための基礎的アルゴリズムの開発. 第1回日本放射線医療技術学術大会, 10/2024, 沖縄
2. 鵜矢祐治 座長
第7回日本粒子線治療技術研究会, 1/2025, WEB開催

放射線診断技術科

学会等発表

1. 五十嵐莉紗, 大槻有紀, 山本弥生, 山下年成: 当院における薄い乳房厚に対するステレオガイド下マンモトーム生検の検討 第32回日本乳癌学会学術総会 PDF抄録 e-Poster仙台, 2024. 7
2. 清本龍正, 長瀬智明, 花坂信明: 半導体PET/CTを用いた18F-FDG-PETにおける短時間収集の試み 第62回全国自治体病院学会, 新潟, 2024. 10
3. 長瀬智明: 「半導体PET-CTを用いた検査における肝SNRの予測」 第44回日本核医学技術学会 横浜 2024. 11

その他出版物

1. 長瀬智明: 「半導体PET-CTにおけるファントム試験とFDG2検定使用における臨床画像評価」投稿 日本診療放射線技師会誌 2024. 4 Vol. 7

検査科

【学会発表】

1. 望月玲奈「診断に苦慮した腔原発悪性黒色腫の1例」 第41回神奈川県臨床細胞学会学術集会 東海大学医学部付属病院 2024. 10.5
望月玲奈, 酒井麻衣, 那須隆二, 杉山加奈, 仲村 武,

近内勝幸, 鷺見公太, 大久保陽一郎

2. 金 錦麗「当院における造血幹細胞処理の問題点と対策」
第72回日本輸血・細胞治療学会 京王プラザホテル新宿
2024. 5. 30~6. 1

金 錦麗, 田島正輝, 立花崇孝, 高橋寛行, 寺中 寛,
平野弘美, 本田さやか, 川口一夫, 岡部雅一, 田中正嗣

リハビリテーション技術科

学会発表

1. 須藤奈津子, 成田春香, 遠原まりえ, 結城 士, 松本充寿, 佐久間藤子, 吉田真夏, 伊藤宏之: 気管癌再発に対する気管管状切除術施行後に経口摂取を獲得した一症例. 第25回日本言語聴覚学会, 神戸, 6/2024
2. 成田春香, 遠原まりえ, 荒山洋平, 佐久間藤子: 転移性骨腫瘍に対する大腿骨腫瘍用人工骨頭置換術後患者の自宅復帰に向けたチームアプローチ. 第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 幕張, 10/2024
3. 須藤奈津子, 佐久間藤子, 角谷芽衣, 益戸功彦: 甲状腺癌周術期リハビリテーションにおける言語聴覚療法. 第13回日本がんリハビリテーション研究会, 松山, 3/2025
4. 荒山洋平, 佐久間藤子, 成田春香, 遠原まりえ: 人工距骨置換術を施行した高齢多発性骨髄腫の一例の理学療法経過. 第13回日本がんリハビリテーション研究会, 松山, 3/2025
5. 結城 士, 荒山洋平, 須藤奈津子, 岩崎知美, 大西洋之, 佐久間藤子: 相貌失認を呈した進行肺がん患者の作業療法を経験して. 第13回日本がんリハビリテーション研究会, 松山, 3/2025

感染制御室

学会等発表

1. 中野了爾, 秋葉和秀, 山永雄介, 相馬光里, 林 麗奈, 光永幸代, 築地 淳: がん専門病院におけるCOVID-19濃厚接触者の隔離期間に関する検討. 第39回日本環境感染学会総会・学術総会, 京都, 7/2024

看護局

著書(看護局)

1. 佐藤律子: 意思決定支援場面での関係葛藤(以下コンフリクト)のパターンと調整法~「患者と家族メンバー間」「患者. 家族と医療者間」「医療者間」に分けて~がん終末期の過ごし方について方向が出せない(ACPの齟齬)(遠慮して語り合えない型, 互いにおつかり合っ

イト. 2024. 12. 14配信

2. 村田美梨: がん患者さんのアピアランスケア. ナース専科. 2024. 12. 24配信

学会等発表

1. 浅野あさみ, 太田周平, 森本 学, 舩田佳子, 中井川昇, 山内桂子, 緒方文子, 中村匡志: 当院におけるアドバンス・ケア・プランニングを含めた意思決定支援の導入に向けた活動. 第29回日本緩和医療学会, 兵庫県神戸市, 6/2024
2. 中野了爾, 秋葉和秀, 山永雄介, 相馬光里, 林 麗奈, 佐々木健司, 光永幸代, 築地 淳: がん専門病院におけるCOVID-19濃厚接触者の隔離期間に関する検討. 第39回日本環境感染学会総会・学術集会, 京都府京都市, 7/2024
3. 嶋原まゆみ, 茂木光代, 大塚明子, 齊木由紀子: 看護補助者の確保・定着に向けて一看護補助者ラダーの導入一. 第28回日本看護管理学会学術集会, 愛知県名古屋, 8/2024
4. 佐藤律子, 柳原清子, 他: 「渡辺式」家族アセスメント・支援モデルその15 医療メディエーションと家族看護: 何が違うの?!!, 日本家族看護学会第31回学術集会, 神奈川県鎌倉市, 9/2024
5. 佐藤律子, 濱田裕子, 他: 子どもを亡くした家族のグリーフサポートを考えるその3, 日本家族看護学会第31回学術集会, 神奈川県鎌倉市, 9/2024
6. 佐藤律子, 渡邊さやか, 池田麻左子: COVID-19感染拡大における家族看護の現状に関する文献検討, 日本家族看護学会第31回学術集会, 神奈川県鎌倉市, 9/2024
7. 藤田今日子, 井上玲子, 塚越みどり: がん看護専門看護師による家族への看護実践の概念分析, 日本家族看護学会第31回学術集会, 神奈川県鎌倉市, 9/2024
8. 皆川由香, 関 宣明, 平澤真弓, 舩田佳子: オストメイトの価値の転換を支えたスキンケア外来での一考察, 第42回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 福島県郡山市, 2/2025
9. 岡 多恵, 渡邊真理, 清水奈緒美, 三堀いずみ, 日塔裕子, 山内桂子, 井上智香, 池田恵理, 岡本理奈, 古矢尚子, 高瀬由佳, 川越久実子, 谷村美希, 小笠原利枝, 小川朝生: 認知症高齢がん患者の意思決定支援研修会の評価一意思決定支援の取り組みと今後の課題認識の質的分析一, 第39回日本がん看護学会学術集会, 北海道札幌市, 2/2025
10. 本田さやか, 平野弘美, 伊藤洋平, 飯塚みさき, 立花崇孝, 香月健吾, 穂本昌寛, 斎藤道城, 田中正嗣: 医師, 看護師, 栄養士が連携した移植後患者の栄養サポート~移植後1年の回復過程~, 第47回日本造血・免疫細胞療法学会, 大阪府大阪市, 2/2025

薬 剤 科

その他出版物

1. 戸津舞衣子：当院での抗がん剤曝露対策の取り組み：オレンジマール通信第18号（抗がん剤曝露対策協議会）：P2-4, 2024

学会等発表

1. 西崎百合恵, 齊藤太紀, シュワルツ史子, 浅野あさみ, 藤井理恵薫, 佐藤裕子, 横尾実乃里, 太田周平, 櫻井 学: メサドン導入により難治性疼痛コントロールを行った1例, 第17回日本緩和医療薬学会年会, 東京, 5/2024
2. 中野了爾, 秋葉和秀, 山永雄介, 相馬光里, 林 麗奈, 光永幸代, 築地 淳：がん専門病院におけるCOVID-19

濃厚接触者の隔離期間に関する検討, 第39回日本環境感染学会総会・学術集会, 京都, 7/2024

3. 多田純平, 西崎百合恵, 今渕 瞳, 櫻井 学他：横浜市旭区・瀬谷区における腎機能評価の合同研修会後の理解度調査, 第34回日本医療薬学会年会, 千葉, 11/2024
4. 丸田愛美, 福田真弓, 齋藤圭佑, 戸津舞衣子, 櫻井 学, 佐治晴哉：子宮頸がん患者に対するシスプラチンレジメンの補液法変更による安全性の評価, 第14回日本臨床腫瘍薬学会学術大会2025, 神奈川, 3/2025
5. 新海優幸, 櫻井 学, 山永雄介, 齋藤圭佑, 大西利佳, 相馬光里, 小山 豪, 大場尚哉：痩せ型と標準体型のがん患者におけるバンコマイシン投与量に関する比較研究, 第14回日本薬剤師レジデントフォーラム, 三重, 3/2025

第3節 その他の学術講演

テレビ・ラジオ・Web等（メディア）・講演会など

氏 名	題 名	メディア名	年 月 日	形 式
〈婦人科〉 鈴木幸雄	医師の働き方改革が医師キャリアの可能性を広げる	香川県 研修医向け「医師の働き方改革」動画講義	2024. 8	WEB開催
鈴木幸雄	医師の働き方改革が医師キャリアの可能性を広げる.	山口県 研修医に向けた「医師の働き方」に関する動画提供	2024. 8	WEB開催
鈴木幸雄	医師の働き方改革が医師キャリアの可能性を広げる	青森県 臨床研修医向け医師の働き方改革に関する講義	2024. 8	WEB開催
鈴木幸雄	医師の働き方改革が医師キャリアの可能性を広げる	労働法教育に関する普及事業（厚生労働省委託事業）宮城県 初期臨床研修医向け	2024. 8	WEB開催
鈴木幸雄	Outcomes of Hormonal Therapy in Premenopausal Endometrial Cancer Patients.	Oncology Times,	2024. 6. 3	取材協力
鈴木幸雄	on Endometrial Cancer: Long-Term Survival Outcomes With Hormonal Therapy in Reproductive-Age Patients.	The ASCO Post	2024. 6	インタビュー
鈴木幸雄	ew Insights Into Endometrial Cancer Treatment and Etiology	ASCO 2024	2024. 6	取材
鈴木幸雄	Hormonal Therapy Trends in Premenopausal Endometrial Cancer	ASCO24 Updates	2024. 10	取材
鈴木幸雄	Fertility-preserving hormonal therapy in early-stage endometrial cancer. VJOnco	ASCO 2024	2024. 6	取材
佐治晴哉	NHK首都圏ニュース 子宮頸がんのHPVワクチン 重要性を伝えるセミナー	NHK首都圏ニュース	2024. 9. 22	メディア出演
佐治晴哉	令和時代の婦人科がん診療の深化～ゲノム診断から低侵襲下手術まで～	神奈川県立がんセンター 第35回県民のための公開講演会～女性のがん～	2024. 4	
鈴木幸雄	教育・研究の役割，明確化を評価	ディファックス9140号（じほう）	2024. 1	取材協力
鈴木幸雄	免疫療法で変わる子宮体癌治療	週刊日経メディカルPDF版	2024. 5. 24号 (No.153)	取材協力
鈴木幸雄	40歳未満の臨床病期 I 期閉経前子宮体癌では子宮全摘術の代わりにホルモン療法を行っても長期予後が変わらない可能性【ASCO 2024】	日経メディカルOncology,	2024. 6	取材協力
鈴木幸雄	月は子宮体がん月間です スクリーニング検査がなく，若年患者も増加傾向	Yahoo! ニュース	2024. 6	取材協力・監修

氏 名	題 名	メディア名	年 月 日	形 式
鈴木幸雄	産婦人科医が教えるHPVワクチンのホントのところ（上）（下）	Yahoo!ニュース,2024	2024	
鈴木幸雄	私たちの命を守るヘルスケア（第40回）. 体験談「子宮頸がんは私にとって試練と使命を与える出来事」.	シアトルの生活情報誌 SoySource	2024	
鈴木幸雄	遺伝学的検査を盛り込むも実行可能性に疑念の声・子宮体癌のFIGO分類が大改訂,治療戦略への影響も懸念	日経メディカルOncology	2024	インタビュー
鈴木幸雄	婦人科癌. 再発卵巣癌へのICI開発は難路が続く, 個別化治療への展開が必須か	日経メディカルOncology	2024	エリアレビュー ASCO 2024
鈴木幸雄	デリケートゾーンのアンチエイジング目的でレーザー治療をする際の注意点	産婦人科オンラインジャーナル キッズパブリック社,	2024	
鈴木幸雄	未来志向の「医師の働き方改革」を目指して	2024年度がんセンター主催 医師の働き方改革講演会	2024. 10	Web
〈血液・腫瘍内科（腫瘍）〉 高橋寛行	薬剤関連顎骨壊死とは	医療従事向けシンポジウム	2025. 3	演者
高橋寛行	ガイドライン改定から考えるリンパ腫治療 現状と課題「びまん性大細胞型B細胞リンパ腫」	第64回日本リンパ網内系学会 学術集会総会モーニングセミナー	2024. 6	東京
〈消化器内科(消化管)〉 町田 望	胃癌薬物療法のマネジメント～治療選択と運用～	Lilly Gastric Cancer Webinar	2024. 4. 26	講演（東京）
町田 望	第11回がん専門薬剤師全体会議 スイーツセミナー～ビロイ使用における薬剤師への期待～	第11回がん専門薬剤師全体会議 スイーツセミナー	2024. 5. 11	講演（横浜）
町田 望	高度腹膜播種を有する胃癌に対する戦略	Gastric Cancer Expert Seminar	2024. 5. 21	Web講演（横浜）
町田 望	胃癌一次治療に望むもの～Well-beingを求めて～	オブジーボワンポイントWEBセミナー	2024. 6. 7	Web講演（横浜）
町田 望	胃がん薬物療法～最近の話題と治療マネジメント～	Gastric Cancer Web Conference	2024. 6. 17	ハイブリッド講演（東京）
町田 望	ICI併用時代の進行食道癌治療戦略	食道癌WEBセミナー	2024. 6. 18	全国Web講演（横浜）
町田 望	ICI併用時代の進行食道癌治療戦略	倉敷消化器セミナー	2024. 6. 19	講演（岡山）
町田 望	胃がん薬物療法～最近の話題と治療マネジメント～	Lilly Gastric Cancer Seminar	2024. 6. 26	Web講演（東京）
町田 望	ICI併用時代の進行食道癌治療戦略	消化器癌薬物療法セミナー	2024. 6. 27	講演（富山）
町田 望	リアルワールドにおける消化管癌CINV諸問題	南区薬剤師会地域医療連携研修会	2024. 7. 18	Web講演（横浜）
町田 望	胃癌1次治療ビロイの導入と実践	ビロイ新発売記念講演会 in Kanagawa	2024. 9. 4	Web講演（横浜）

氏 名	題 名	メディア名	年 月 日	形 式
町田 望	最新胃癌一次療法における治療方針決定プロセス～理想と現実～	北海道 Team Oncology Meeting	2024. 9. 6	Web講演 (横浜)
町田 望	切除不能進行・再発胃癌一次治療の現状2024	Gastric Cancer Treatment Strategy by EXPERTS	2024. 10. 11	Web講演 (横浜)
町田 望	切除不能進行・再発胃癌薬物療法 Update ～ESMO2024と今後の展開～	第一三共株式会社社内講演	2024. 10. 17	講演 (東京)
町田 望	大腸癌薬物療法の進歩と課題 ～後方治療を中心に～	長岡大腸癌講演会	2024. 10. 18	講演 (新潟)
町田 望	大腸癌薬物療法Update ～ガイドラインから新規薬剤開発まで～	GI Expert Web Seminar	2024. 11. 1	講演 (東京)
町田 望	消化管がんの薬物療法 ～ガイドラインを中心に～	ノバルティス社内講演会	2024. 11. 15	講演 (東京)
町田 望	進行食道癌薬物療法 ～KEYNOTE-590日本人長期生存データと治療強度を意識した使い分けの戦略～	ICI併用時代の進行食道癌治療戦略	2024. 11. 25	全国Web講演
町田 望	進行食道癌薬物療法 ～治療強度を意識した使い分けの現状～	BeiGene Japan 合同会社社内 レクチャー	2025. 2. 7	ハイブリッド講演 (東京)
町田 望	オプジーボ胃癌治療 Webカンファレンス in 多摩	オプジーボ胃癌治療 Webカンファレンス in 多摩	2025. 2. 6	ハイブリッド講演 (東京)
町田 望	胃癌薬物療法 ～臨床の現在地と将来展望～	第97回日本胃癌学会総会イブニングセミナー 3	2025. 3. 13	講演 (名古屋)
〈消化器内科(内視鏡)〉 塩月一生	「IT knife 2の歴史とPros and Cons」	神奈川ESD症例検討会	2025. 2	神奈川
滝沢耕平	食道がん内視鏡治療で知っておくべきこと	静岡県中部食道癌セミナー 特別講演	2024. 6	(静岡)
滝沢耕平	イマドキの上部内視鏡検査～最近のトレンドと知っておくべきこと～	実地医家のためのGI Skill up seminar 特別講演	2024. 7	盛岡
滝沢耕平	食道がん内視鏡治療 最新のエビデンス —JCOG試験を中心に—	2024年度 第2回 北海道大学 消化器内科セミナー 特別講演	2024. 7	札幌
滝沢耕平	胃がん内視鏡治療の現状と課題	胃がんトータルケアセミナー	2024. 9	Web
滝沢耕平	早期胃がんの内視鏡診療 ～基本から最新のトピックスまで～	第19回 愛仁会消化器内科カンファレンス (神戸)	2024. 11	神戸
滝沢耕平	胃がんの内視鏡治療のこれまでとこれから	GI Total Management Web Seminar	2024. 11	WEB
滝沢耕平	食道がん内視鏡治療で知っておくべきエビデンス	GI Expert Web Seminar	2024. 11	Web
滝沢耕平	今さら人に聞けない最新の胃ESD適応・治療基準・追加治療など	第1回 ESTIMa	2024. 11	新宿

氏 名	題 名	メディア名	年 月 日	形 式
滝沢耕平	上部内視鏡検査の最新トレンドと知っておくべき事	令和6年度第1回横浜市医師会胃がん内視鏡検診研修会 第3回横浜市医師会胃がん内視鏡検診読影管理委員会指定研修会（横浜）	2024. 12	横浜
滝沢耕平	十二指腸非乳頭部上皮性腫瘍に対する内視鏡診断と治療	第3回 Chiba Gastroenterology Web Seminar	2025. 1	千葉
滝沢耕平	これだけはおさえておきたい食道・胃・十二指腸の内視鏡切除適応2025～専門施設紹介のタイミングと治療後のフォローについて～	横浜市西部消化器カンファレンス（横浜）	2025. 1	横浜
滝沢耕平	「早期胃癌に対する内視鏡治療」	病棟レクチャー	2024. 8	
〈消化器外科(胃食道)〉 大島 貴	消化管がんの治療戦略～上から下まで～	第107回日本消化器内視鏡学会総会 共催セミナー	2024. 5	講演
山田貴允	当院の術後再発に対するNivolumab+Chemotherapyの成績	オプジーボ胃癌WEBライブセミナー in 神奈川	2024. 6	WEB講演
森田順也	当院におけるchemo+Nivoの一次治療	GI Cancer WEB Meeting	2025. 2	WEB講演
山田貴允	当院における噴門側胃切除後mSOFY再建	Gastric Cancer Seminar ～治療戦略を考える～	2025. 2	WEB講演
尾形高士	食道癌1次治療を考える～エビデンスと経験を踏まえた治療戦略～	食道癌オプジーボWEBライブセミナー	2025. 2	WEB講演
〈消化器外科(大腸)〉 塩澤 学	Total Treatment Sequence for CRC～手術から薬物療法まで～	CRC & GC Web Seminar in Saitama	2024. 4	講演 大宮
塩澤 学	ランチョンセミナー 消化管がんの治療戦略～上から下まで～	第107回日本消化器内視鏡学会総会	2024. 5	講演 東京
塩澤 学	PARADIGM試験Updateを踏まえた大腸癌治療戦略	ベクティビックス全国WEB講演会	2024. 6	WEB講演
塩澤 学	大腸癌治療ガイドライン2024 update	大腸癌患者のOS延長を考える～個別化医療の上進～(相模原)	2024. 7	講演
塩澤 学	これからの進行再発大腸癌の後方治療	TAIHO Web Lecture on Colorectal Cancer これからの大腸癌治療～2024～	2024. 8	WEB講演
塩澤 学	大腸癌術後補助療法のGL改定ポイント	TAKATA Academic Café for Oncologists ～医師・薬剤師の為のオンコロジーセミナー～	2024. 8	WEB講演
塩澤 学	大腸癌治療ガイドライン2024改定ポイントを紐解く	CRC Meet The Expert In Kanagawa (厚木)	2024. 8	講演
塩澤 学	大腸癌薬物療法 ～DEEPPER試験を含むトピックス～	消化器外科セミナー 肝臓・大腸の最前線を知る	2024. 9	講演 厚木

氏 名	題 名	メディア名	年 月 日	形 式
塩澤 学	これからの大腸癌薬物治療はこうなる！ ～変わりゆく日本のプラクティス～	Lilly CRC Web Conference Expert Cross Talk	2024. 11	WEB講演
塩澤 学	ランチョンセミナー 大腸癌治療戦略の考え方～手術から薬物療法まで～	第28回日本外科病理学会学術集会	2024. 11	講演 東京
〈頭頸部外科〉 松木 崇	中堅頭頸部外科医による多施設共同研究会の成果 ～Clinical Questionへの意識～	Head & Neck I-O Seminar	2024. 10	講演 日本橋
〈婦人科〉 吉川千晶, 納富嗣人, 横澤智美, 上田麗子, 近内勝幸, 小野瀬 亮, 佐治晴哉	術後に卵管癌と診断できた原発不明癌の一例	第3回NMSで考える卵巣がん治療戦略	2024. 4	Web
鈴木幸雄	医師の働き方改革が未来の可能性を広げる	順天堂大学医学部講義	2024. 5	対面講義 (東京)
鈴木幸雄	医師のキャリアと世界への扉	札幌医科大学医学部4年生「国際医療」講義	2024. 6	対面講義 (札幌)
鈴木幸雄	ASCO2024 婦人科がん総括～今年のトピックを掴め～	第7回OSP抄読会	2024. 7	Web
鈴木幸雄	ソーシャルイノベーション「行動経済学、ナッジについて」行動デザイン(ナッジ理論)～医療分野における展開とエビデンス～	横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科 講義	2024. 7	対面講義 (横浜)
鈴木幸雄	医師の働き方改革が医師キャリアの可能性を広げる。労働法教育に関する普及事業(厚生労働省委託事業)	長崎県医師臨床研修協議会新・鳴滝塾	2024. 8	Web
鈴木幸雄	医師の長時間労働改善の突破口：現状を認めて改善へ	医師の働き方カイゼンプロジェクト主催 若手医師のための「医師の働き方改革」セミナー	2024. 9	Web
鈴木幸雄	医師の働き方改革で日本の医療の未来はどうなる	日本病院経営支援機構 オンラインセミナー	2024. 9	Web
鈴木幸雄	いち早くキャッチアップ！DUO-E試験と子宮体癌FIGO2023	OSP Lectures	2024. 11	Web
鈴木幸雄	医師の働き方改革が 医師キャリアの未来を広げる	「医と社会Ⅱ」労働法教育に関する支援対策事業長崎大学医学部2年生	2024. 11	対面講義 (長崎)
鈴木幸雄	子宮頸部異形成と子宮頸がんを知る～子宮頸がんの撲滅を目指す予防法とは～	マニユライフ生命保険会社医務講義	2024. 11	対面講義 (東京)

氏 名	題 名	メディア名	年 月 日	形 式
鈴木幸雄	名 卵巣癌初回治療のベストオプションを求めて～エビデンスパズルの実践～	Gynecologic Oncology Breakthrough Summit	2024. 11	対面講義 (横浜)
鈴木幸雄	婦人科腫瘍医のキャリアパスと薬物療法の今を見つめる	さいたま婦人科癌セミナー 2024	2024. 12	対面講演 (大宮)
佐治晴哉	令和時代のゲノム診療～伝える, 受け止める, 情報共有のあり方を考える～	いまからはじめるゲノム教室 2024	2024. 4	WEB
佐治晴哉	知っておきたい患者さんへの聴き方と伝え方	いまこそ確認したい! 子宮がんWEBセミナー	2024. 5	WEB
佐治晴哉	がんゲノム診療と卵巣癌治療のシナジー効果を振り返る	卵巣がんゲノムセミナー	2024. 6	WEB
佐治晴哉	当センターにおける子宮体癌治療のいまとこれから	Eisai Lectual Meeting	2024. 6	WEB
佐治晴哉	低侵襲下手術の周術期“視る”ポイントと管理について	婦人科手術手技 スキルアップセミナー～助手力を磨く～	2024. 6	WEB
佐治晴哉	薬物療法のパラダイムシフトをゲノムから概観する	令和6年度全国都市立病院薬局長協議会研修会	2024. 7	対面講義 (京都)
佐治晴哉	進行子宮頸癌の最新治療を俯瞰する	第9回先端医療セミナー	2024. 9	WEB
佐治晴哉	医師のお仕事～ゲノムの成り立ちとHPVワクチン～	NPO法人小田原寺子屋スクールⅡ特別講座	2024. 9	対面講義 (小田原)
佐治晴哉	さあ, ロボット手術をはじめよう!	神奈川県悪性腫瘍対策部会 第1回ロボット実機体験研修会	2024. 10	対面講義 (東京)
佐治晴哉	セミプリマブのインパクトから薬物療法のリテラシーを考える	Cervical Cancer Webinar	2024. 10	WEB
佐治晴哉	HPV検査単独法の概要	横浜市子宮頸がん検診(HPV検査単独法)実施医療機関向け説明会	2024. 11	対面講義・ WEB
佐治晴哉	HPV検査単独法検診に向けた横浜市の取り組み	令和6年日本医科大学産婦人科学教室同窓会研究会	2024. 11	WEB
佐治晴哉	セミプリマブのインパクトをナラティブに読み解く	Cervical Cancer Conference in 静岡	2024. 11	対面講義 (静岡)
佐治晴哉	HPV検査単独法	第11回日本婦人科腫瘍学会 研修会	2024. 12	WEB
佐治晴哉	今こそ知っておきたい令和時代のゲノム診療と薬物療法の新展開	令和6年度東京都立病院がん薬剤業務研究会講演会	2024. 12	WEB
佐治晴哉	知っておきたい新しい大事な情報の捉え方と伝え方	いまこそ確認したい! 子宮がんWEBセミナー	2024. 12	WEB
〈骨軟部外科〉 竹山昌伸	骨軟部腫瘍におけるOICの診断と治療経験	OICマネジメントセミナー	2024. 7	web演

氏 名	題 名	メディア名	年 月 日	形 式
〈放射線診断IVR科〉 日野彩子	FDG-PET検査について	ラジオ日本	2024. 10. 24	講演
日野彩子	FDG-PET検査の保険適応について	ラジオ日本	2024. 10. 31	講演
〈東洋医学科〉 板倉英俊	不眠症と漢方	第6回 高齢者医療と漢方を考える会	2024. 6. 20	講演
板倉英俊	便秘に対する漢方治療の考え方	第7回高齢者医療と漢方を考える会	2024. 12. 5	講演
板倉英俊	低血圧の漢方	実践東洋医学講座	2024. 5. 26	講演
板倉英俊	陽明病について	KANAGAWA KAMPO MEETING	2024. 11. 28	講演
板倉英俊	高齢者に見られる不定愁訴	第3回 墨田区高齢者医療と漢方を考える会	2024. 9. 26	講演
板倉英俊	緩和医療における鍼灸	神奈川県鍼灸師会第4回学術講演	2024. 12. 15	講演
板倉英俊	緩和ケア領域の漢方	滋賀医科大学漢方勉強会	2024. 12. 12	Web講演
〈免疫療法科〉 笹田哲朗	がん免疫療法の現状と展望	神奈川県立がんセンター 第2回 臨床腫瘍セミナー	2024. 10	講演
氷室秀知	神奈川がん教育外部講師育成 WEBセミナー 2024		2024. 10 2024. 11	講演
〈病理診断科〉 鷺見公太	バイオマーカー時代の病理医の役割	第119回神奈川県病理医会例会(横浜)	2024. 7	ミニレクチャー
大久保陽一郎	甲状腺癌の病理診断：日常症例を中心に	第回神奈川県病理医会例会若手病理医のための勉強会,	2024. 7	横浜
〈遺伝診療科〉 成松宏人	シリーズ 学会発表に必要な研究の技法		2024. 6, 2024. 7, 2024. 8, 2024. 9	講演 山形県 酒田市,
成松宏人	シニアの健康・保健（未病）シニア向けの講演会「シニアライフのキホンのキ」		2024. 8	講演 神奈川県 藤沢市
成松宏人	Intervention Cohort Study, Novel Approach for Health Innovation,	Research meeting on Healthy Longevity 2024, Singapore	2024. 9	シンポジウム Singapore-Kanagawa
成松宏人	未病改善を支える科学技術と専門家の力	ME-BYOサミット神奈川2024	2024. 11	モデレーター 神奈川県 箱根町,
成松宏人	サイエンスからの未病改善「未病指標」これからの展望 未病改善を支える科学技術と専門家の力	ME-BYOサミット神奈川2024	2024. 11	講演
成松宏人	AIを活用した遺伝カウンセリングシステム	木原財団 BIBLIOイベント「医療現場発 研究シーズピッチ ～医師と企業の出会いで拓く社会実装～」	2024. 11	講演

氏 名	題 名	メディア名	年 月 日	形 式
成松宏人	公衆衛生学の基礎 神奈川みらい未病 コホート研究と未病指標	未病産業研究会「未病エビデ ンス講座」	2025. 1	講演
佐藤 杏	大事な情報の伝え方と活かし方	第 6 回いまからはじめるゲノ ム教室2024	2024. 4	講演Web 開催
佐藤 杏	護師が知っておきたいBRCA遺伝子検 査について	前立腺がん個別化医療の最前 線！～看護師・医師からのコ ミュニケーション～	2024. 10	講演Web 開催
佐藤 杏	BRCA遺伝子検査とHBOC診療～認定 遺伝カウンセラーの立場から見えてく るもの～	第14期よこはま乳がん学校共 催セミナー	2025. 2	講演 Web開催
〈がんゲノム診療科〉 廣島幸彦	「婦人科がん治療におけるゲノム医療 UP to DATE」	第 9 回先端医療セミナー	2024. 8	講演会横浜
廣島幸彦	がんゲノム医療拠点病院としての取り 組み～年間600件を超える検査の管理 と県内均てん化のために必要なこと～	多地点合同メディカル・カン ファレンス	2024. 9	講演会 東京
廣島幸彦	がんゲノム医療UP to DATE」、	足柄上病院・神奈川県立がん センターがん診療合同勉強会	2025. 1	講演会 横浜
廣島幸彦	がんゲノム医療UP to DATE	済生会横浜市東部病院・神奈 川県立がんセンターがん診療 合同勉強会：	2025. 3	講演会 横浜
廣島幸彦	がんゲノム医療とは？～新時代のがん 診療～	小田原市立病院市民公開講座	2025. 3	
〈検査科〉 酒井麻衣	鏡検実習（総合）	令和 6 年度生活習慣病検診従 事者研修会	2024. 9. 29	鏡検実習
酒井麻衣	肺の腺癌と扁平上皮癌を鑑別するた めに押さえておきたい細胞所見	第63回日本臨床細胞学会秋季 大会	2024. 11. 17	教育講演
那須隆二	担当領域：「消火器」・「泌尿器」	令和 6 年度神奈川県臨床検査 技師会細胞診研修班検査細胞 士資格取得に向けて	2024. 10. 13	スライドセミナー
金 錦麗	「輸血テクニカルセミナー2024 講義・ 実技」	日本輸血・細胞治療学会 輸 血テクニカルセミナー2024	2025. 3. 23	
佐藤祐一	2024年度血液形態（血液像・骨髓像） 鏡検実技講習会	2024年度第 2 回神奈川県臨床 検査技師会血液検査研究班研 修会	2024. 12. 8	骨髓像講師
〈薬剤科〉 櫻井 学	肺がんについて治療・投与設計などの 問題解決	悪性腫瘍治療学（横浜薬科大 学）	2024. 5. 16	講義
櫻井 学	先端最新がん薬物治療における臨床薬 剤師の職能と臨床実習での学びと実践 について	悪性腫瘍治療学（横浜薬科大 学）	2024. 6. 27	講義
齊藤圭佑	高齢者におけるがん薬物療法マネジメ ントの取り組み	薬剤師のためのオンコロジー セミナー	2024. 7. 23	Web講演

氏 名	題 名	メディア名	年 月 日	形 式
加納日南子	抗悪性腫瘍薬の血管外漏出時の対応	神奈川県抗がん薬調製セミナー	2024. 10. 3	Web講演
齋藤圭佑	ビロイ投与における取り組み	ビロイ副作用マネジメントWEB講演会	2024. 12. 13	Web講演
丸田愛美	曝露対策への取り組み	EPS～化学療法マネジメント～	2025. 1. 30	Web講演
(リハビリテーション技術科) 結城 士		日本作業療法士学会主催がんのリハビリテーション研修会	2024. 12. 7	ファシリテーター
遠原まりえ, 成田春香, 結城 士, 大西洋之, 須藤奈津子		神奈川県主催がんのリハビリテーション研修会	2024. 9. 16	ファシリテーター
〈看護局〉 山本香奈恵	緩和ケア・リンパ浮腫ケアの 実際について	横浜市福祉サービス協会 訪問看護ステーションにし 職員研修	2024. 11. 22	対面講義
砂山明子	口から食べることを支える 看護師の役割	口腔健康論 (東京情報大学)	2024. 5. 18	WEB講義
植村敏子	緩和ケア研修	PEACEプロジェクト	2024. 11. 16	アドバイザー
塩澤 綾	医療・看護倫理	医療・看護倫理 (神奈川県立平塚看護大学校)	2024. 8. 30 2024. 10. 18 2024. 11. 26 2024. 12. 13	対面講義
塩澤 綾	消化器がん（大腸がん）の薬物療法を 受ける患者の有害事象のマネジメント と療養過程の支援	がん看護学特講Ⅴ (横浜市立大学大学院)	2025. 1. 17	WEB講義
小野礼子	周手術期看護：急性疼痛マネジメント	成人看護学（急性期）Ⅱ (神奈川県立保健福祉大学)	2024. 5. 9	対面講義
嘉山雅子	薬物療法に対する反応のアセスメント と症状マネジメントについて	がん看護学演習Ⅱ (神奈川県立保健福祉大学)	2025. 1. 21	WEB講義
松浦 碧	成人看護援助論Ⅳ	成人看護学 (神奈川県立よこはま看護専門学校)	2025. 1. 29	共同授業
佐藤律子	周産期看護に必要な ヘルスカウンセリング	ウィメンズヘルス看護学Ⅳ (北里大学大学院)	2024. 4. 24 2024. 5. 13	対面講義
佐藤律子	専門職間でのコミュニケーション ～患者と医療者、背景の異なる人をつ なぐコミュニケーション～	ヘルスコミュニケーション学 (東京大学)	2024. 5. 29	対面講義
佐藤律子	家族支援専門看護師の役割	家族と健康 (東京大学)	2024. 11. 21	対面講義
出井あゆみ	女性生殖機能障害を持つ患者の看護	成人看護方法論Ⅱ (神奈川県立衛生看護専門学校)	2024. 11. 11	対面講義

氏 名	題 名	メディア名	年 月 日	形 式
出井あゆみ	看護の統合演習	看護の統合と実践 (神奈川県立よこはま看護専門学校)	2024. 12. 4	共同授業
堀越美保	看護倫理	看護のための倫理学Ⅱ (神奈川県立よこはま看護専門学校)	2024. 5. 23 2024. 6. 13 2024. 6. 20 2024. 6. 27 2024. 7. 4	対面講義
堀越美保	医療従事者に求められる実践可能な Shared Decision Making	日本肺癌学会 医療従事者セミナー2024	2024. 10. 5	対面 バーチャル キャンサーボード
相原 慎	①先天異常を持ち生まれた子ども	小児看護学Ⅱ (学校法人成学舎 横浜中央看護専門学校)	2024.4. 22	対面講義
相原 慎	②呼吸器疾患/アレルギー疾患を持つ子ども	小児看護学Ⅱ (学校法人成学舎 横浜中央看護専門学校)	2024. 5. 1	対面講義
相原 慎	③代謝性疾患（Ⅰ型糖尿病）を持つ子ども	小児看護学Ⅱ (学校法人成学舎 横浜中央看護専門学校)	2024. 5. 13	対面講義
関矢さとみ	日本救急医学会認定 東海大学ICLSコース	東海大学 看護師キャリア支援 センター	2024. 6. 8	対面演習 (ICLSインストラクター)
岡本理奈 勝呂加奈子	意思決定支援	高齢がん患者の意思決定支援 に関する研修会国立がん研究 センター(国立がん研究センター)	2024. 10. 12 2024. 12. 14 2025. 3. 1	WEB・対面 ファシリテーター
勝呂加奈子	「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠した緩和ケア研修会	第17回緩和ケア研修会 (神奈川県立がんセンター)	2024.11.16	対面 ファシリテーター
舩田佳子 平澤真弓 関 宣明 皆川由香	ストーマケア及び ストーマサイトマーキング演習	第39回神奈川ストーマリハビリテーション講習会	2024. 8. 10	対面 講義・演習
舩田佳子 平澤真弓 関 宣明 皆川由香	ストーマの基礎知識と演習	介護サービス担当者のための ストーマケア講習会 (神奈川県立がんセンター 緩和ケアセンター)	2024. 11. 30	対面講義 演習
関 宣明	オストメイトの個別相談	秋季 相談・交流会（横浜市オストミー協会）	2024. 9. 14	対面相談
関 宣明	皮膚統合性と排泄の系統的なアセスメントと症状マネジメントについて	がん看護学演習Ⅱ（神奈川県立保健福祉大学）	2025. 1. 28	対面講義

氏 名	題 名	メディア名	年 月 日	形 式
渡邊千景	「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠した緩和ケア研修会	第17回緩和ケア研修会 (神奈川県立がんセンター)	2024. 11. 16	対面 ファシリテーター
大高良子	・緩和照射とは何だろう ・地域の医療、介護スタッフと病院が連携してできること	第131回かんわサロン（神奈川県立がんセンター）	2024. 9. 18	対面講義
大高良子	放射線治療におけるチーム医療 ～看護師の立場から～	放射線（診療）業務従事者の教育訓練（神奈川県放射線管理士部会）	2024. 11. 24	対面講義
大高良子	・放射線療法に対する反応のアセスメントと症状マネジメントについて ・放射線療法への反応に対する身体管理と援助について	がん看護学演習Ⅱ（神奈川県立保健福祉大学）	2025. 1. 23	WEB講義
末竹亜紀	がんとともに生きる人と その家族への看護②	健康段階別看護論Ⅲ（神奈川県立平塚看護大学）	2024. 12. 2	対面講義
大竹晴子	・病院、病棟の特徴と設備 ・地域社会における病院の機能と役割 ・入院患者の状況 ・職員組織等	看護臨地実習 (神奈川県立二俣川看護福祉高等学校)	2024. 6. 25	対面講義
砂田麻奈美	多職種チームのマネジメント（リーダーシップの実際）	人材管理Ⅱ 認定看護管理者教育課程セカンドレベル (神奈川県立保健福祉大学実践教育センター)	2024. 5. 11	対面講義
砂田麻奈美	看護管理 トップマネージャーによる組織マネジメント	看護管理（神奈川県立よこはま看護専門学校）	2024. 7. 3	対面講義
砂田麻奈美	2024年度認定看護管理者教育課程 セカンドレベル フォローアップ研修	2024年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル (公益財団法人神奈川県看護協会)	2024. 9. 6	対面研修
砂田麻奈美	統合演習Ⅱ	認定看護管理者教育課程セカンドレベル統合演習Ⅱ（公益社団法人神奈川県看護協会）	2024. 11. 22 2024. 12. 6 2024. 12. 25 2025. 1. 16 2025. 1. 31	対面講義
鳴原まゆみ	ベッドサイドの安全を守ろう ～人間の行動特性をふまえた 安全対策～	2024年度神奈川県看護協会育 研修会（公益財団法人神奈川県看護協会）	2024. 10. 22	対面講義
皆川由香	オストメイトの個別相談	春季相談・講習会②（横浜市オストミー協会）	2024. 4. 21	対面講義
皆川由香	・術後日の浅い方向けのストーマケア などを中心とした講演 ・オストメイトの個別相談	初心者相談会（横浜市オストミー協会）	2024. 7. 7	対面講義

氏 名	題 名	メディア名	年 月 日	形 式
皆川由香	ストーマケア	成人看護援助論Ⅲ（神奈川県立よこはま看護専門学校）	2025. 2. 14	対面講義
山内桂子	がん診療連携拠点病院等のPDCA チェックリストの効果的な 活用について考える	2024年度第1回神奈川県 がん相談員研修会（神奈川県 がん診療連携協議会）	2024. 7. 12	WEB講義
山内桂子	ファシリテーター養成研修	高齢がん患者の意思決定支援 に関する研修会（看護職のた めの神奈川緩和ケア研究会）	2024. 12. 14	WEB ファシリテーター
山内桂子	「高齢がん患者に対する意思決定支援 を実装することを目指した多職種教育 プログラムの普及を目指したプロジェ クト」	高齢がん患者の意思決定支援 に関する研修会 （日本癌治療学会・ファイザー 公募型医学教育プロジェクト 助成）	2025. 3. 1	対面 ファシリテーター
成川明子	指導者研修	2024年度がん相談支援セン ター相談員指導者研修（国立 がん研究センター）	2024. 6. 26	WEB ファシリテーター
成川明子	がん患者・家族へのケアリングに 基づく援助の実践について	がん看護学特論Ⅲ（神奈川県 立保健福祉大学実践教育セン ター）	2024. 8. 9	対面講義
村田美梨	基礎研修（3）	2024年度がん相談支援セン ター相談員基礎研修3（国立 がん研究センター）	2024. 9. 10 2024. 9. 11	WEB
村田美梨	アピアランスケアってなに？	医療従事者対象アピアランス ケア研修神奈川県立がんセン ターアピアランスサポートセン ター）	2024. 10. 11	WEB
村田美梨	アピアランスケア	横浜市アピアランスケア研修 会（横浜市医療局 がん・疾 病対策課）	2025. 1. 11	対面
シュワルツ史子	がん看護の実際	成人臨床看護Ⅳ（神奈川歯科 大学短期大学部）	2024. 6. 21	対面講義
シュワルツ史子	がん治療に伴う看護③ 放射線治療	がん看護学特論Ⅲ（横浜市立 大学医学研究科 看護学専攻）	2024. 8. 30	WEB講義
シュワルツ史子	がん患者の看護 手術療法	がん患者支援講座（神奈川県 立保健福祉大学 実践教育セン ター）	2024. 9. 21	WEB講義
シュワルツ史子	がん患者の看護 放射線療法	がん患者支援講座神奈川県立 保健福祉大学 実践教育セン ター）	2024. 9. 21	WEB講義
シュワルツ史子	緩和ケアにおける地域包括ケアシス テム病院と地域を繋ぐがん看護専門看護 師の役割・機能と多職種協働	地域包括ケア実践Ⅰ（川崎市 立看護大学）	2024. 10. 3	対面講義

氏 名	題 名	メディア名	年 月 日	形 式
シュワルツ史子	組織の中での専門看護師による様々な コンサルテーションの活動の実際と課 題：がん専門病院におけるがん看護専 門看護師の立場からコンサルテーショ ン活動の実際と組織において果たして いる役割について	コンサルテーション論（東京 慈恵会医科大学大学院 医学 研究科）	2024. 12. 5	対面講義
シュワルツ史子	がん治療に伴う看護・最新の放射線治 療と治療に伴う看護 ・放射線治療の有害事象の予防と対処 法	がん看護学特論Ⅲ（湘南医療 大学大学院 保健医療学研究 科）	2025. 1. 23	対面講義
浅野あさみ	終末期における緩和ケアの実際	成人臨床看護Ⅴ（神奈川歯科 大学短期大学部）	2024. 10. 11	対面講義
浅野あさみ	がん患者等への支援	第17回緩和ケア研修会（神奈 川県立がんセンター）	2024. 11. 16	対面講義
佐藤裕子	がん医療における緩和医療-緩和医療 の概念と動向-	がん看護学特論Ⅱ（神奈川県 立保健福祉大学大学院）	2024. 7. 12	WEB講義
佐藤裕子	緩和ケアにおける包括的なケアの提供 緩和ケアにおけるチームアプローチの 実際	がん看護学特論Ⅳ（神奈川県 立保健福祉大学大学院）	2024. 11. 21	WEB講義
江崎まり子	慢性的な健康状態で在宅療養する人へ の支援	成人看護援助論Ⅰ（神奈川県 立よこはま看護専門学校）	2024. 9. 11	対面講義
中野了爾	感染予防の基本と今後の感染予防対策	感染症基礎講義（神奈川県子 ども自立生活支援センター）	2024. 9. 26	対面講義

第4節 公的研究費による研究一覧

1 厚生労働省・文部科学省・日本医療研究開発機構

研究費名：厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合研究事業
課題名：がん診療連携拠点病院等における情報提供の適切な方法・項目の確立に資する研究
主任研究者(所属)：若尾文彦(国立がん研究センター)
分担課題名：施設および都道府県レベルの情報の検討
分担研究者名(所属)：酒井リカ(病院長)

研究費名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課題名：新規ドライバー遺伝子であるLTK融合遺伝子陽性の進行非小細胞肺癌に対する個別化治療の開発を目指した研究
主任研究者名(所属)：葉 清隆(国立がん研究センター東病院)
分担課題名：医師主導治験・付随研究の実施
分担研究者名(所属)：加藤晃史(呼吸器内科)

研究費名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課題名：高齢者切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する化学放射線療法のランダム化比較第Ⅲ相試験
主任研究者名(所属)：高橋利明(静岡県立静岡がんセンター)
分担課題名：臨床試験の実施(患者登録・治療・データ収集)
分担研究者名(所属)：村上修司(呼吸器内科)

研究費名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課題名：高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法の標準治療確立のための研究
主任研究者名(所属)：釵持広知(静岡県立静岡がんセンター)
分担課題名：臨床試験遂行の助言・データ解釈
分担研究者名(所属)：伊藤宏之(呼吸器外科)

研究費名：文部科学省科学研究助成事業 若手研究
課題名：EGFR遺伝子変異陽性pN1-2肺癌術後の予後に関するシグナル経路・分子の解明
主任研究者(所属)：伊坂哲哉(神奈川県立がんセンター・呼吸器外科)

研究費名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課題名：未治療末梢性T細胞リンパ腫に対する初回導入化学療法後の完全奏効例に対する自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法のランダム化第Ⅲ相試験(JCOG2210)
主任研究者名(所属)：石塚賢治(鹿児島大学)
分担課題名：未治療末梢性T細胞リンパ腫に対する初回導入化学療法後の完全奏効例に対する自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法のランダム化第Ⅲ相試験(JCOG2210)
分担研究者名(所属)：高橋寛行(血液・腫瘍内科)

研究費名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課題名：局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する第Ⅲ相試験
主任研究者名(所属)：寺島雅典(静岡県立静岡がんセンター)
分担課題名：局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する第Ⅲ相試験
分担研究者名(所属)：町田 望(消化器内科・消化管)

研 究 費 名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課 題 名：切除不能膵癌に対する標準治療の確立に関する研究
主任研究者名(所属)：上野 誠(神奈川県立がんセンター・消化器内科肝胆膵)
分 担 課 題 名：切除不能膵癌に対する標準治療の確立に関する研究

研 究 費 名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課 題 名：切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化同時対照試験
主任研究者名(所属)：秋元哲夫(国立がん研究センター東病院)
分 担 課 題 名：切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化同時対照試験の登録推進
分担研究者名(所属)：上野 誠(消化器内科・肝胆膵)

研 究 費 名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課 題 名：消化管・膵原発の切除不能進行・再発神経内分泌腫瘍に対するエベロリムス単剤療法とエベロリムス
＋ランレオチド併用療法のランダム化第Ⅲ相試験
主任研究者名(所属)：水野伸匡(愛知県がんセンター)
分 担 課 題 名：JCOG1901への患者登録対照試験の登録推進
分担研究者名(所属)：上野 誠(消化器内科・肝胆膵)

研 究 費 名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課 題 名：切除可能膵癌に対する低侵襲膵体尾部切除術のランダム化第Ⅲ相試験
主任研究者名(所属)：中村雅史(九州大学)
分 担 課 題 名：切除可能膵癌に対する低侵襲膵体尾部切除術のランダム化第Ⅲ相試験
分担研究者名(所属)：上野 誠(消化器内科・肝胆膵)

研 究 費 名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課 題 名：切除可能胆道癌に対する術前補助化学療法としてのゲムシタビン＋シスプラチン＋S-1(GCS)療法の
第Ⅲ相試験
主任研究者名(所属)：奥坂拓志(国立がん研究センター中央病院)
分 担 課 題 名：JCOG肝胆膵グループ代表者として参加施設の統括を行う
分担研究者名(所属)：上野 誠(消化器内科・肝胆膵)

研 究 費 名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課 題 名：高齢者切除可能膵癌に対する術前ゲムシタビン＋S-1療法と術前ゲムシタビン＋ナブパクリタキセル療
法のランダム化比較第Ⅲ相試験
主任研究者名(所属)：海野倫明(東北大学)
分 担 課 題 名：高齢者切除可能膵癌に対する術前化学療法と外科治療の術前・周術期・術後の高齢者機能評価
分担研究者名(所属)：上野 誠(消化器内科・肝胆膵)

研 究 費 名：AMED／臨床研究・治験推進研究事業
課 題 名：膵がん早期発見・精密治療方針決定を実現する新規放射性抗体医薬を用いた超音波内視鏡ガイド投与
による革新的PET画像診断の第Ⅰ相医師主導治験
主任研究者名(所属)：上野 誠(神奈川県立がんセンター・消化器内科肝胆膵)
分 担 課 題 名：第Ⅰ相医師主導臨床試験の実施、第Ⅱ相計画策定・施設準備

研 究 費 名：国立がん研究センター研究開発費
課 題 名：成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究
主任研究者名(所属)：大江裕一郎(国立がん研究センター中央病院)
分 担 課 題 名：肝胆膵がんに対する標準治療確立のための多施設共同研究
分担研究者名(所属)：上野 誠(消化器内科・肝胆膵)

研 究 費 名：文部科学省科学研究費補助金 基盤（S）
課 題 名：組織空間とゲノム情報の定量的統合による胃癌多様性の新しい定義
主任研究者（所属）：石川俊平（東京大学）
分担研究者名（所属）：大島 貴（消化器外科・胃食道）

研 究 費 名：AMED／ゲノム研究を創薬等出口に繋げる研究開発プログラム
課 題 名：クローン性がん間質の空間ゲノミクスによる医薬品初期開発
主任研究者（所属）：石川俊平（東京大学）
分 担 課 題 名：臨床検体の収集、臨床的視点からの適用検討
分担研究者名（所属）：大島 貴（消化器外科・胃食道）

研 究 費 名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課 題 名：進行食道胃接合部腺癌に対する標準的な周術期治療の開発研究
主任研究者（所属）：黒川幸典（大阪大学）
分 担 課 題 名：進行食道胃接合部腺癌に対する標準的な周術期治療の開発研究
分担研究者名（所属）：尾形高士（消化器外科・胃食道）

研 究 費 名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課 題 名：術前化学療法後に手術が施行された局所進行食道がんに対する、最適な術後治療の開発を目指す研究：
JCOG2206（SUNRISE Trial）
主任研究者（所属）：松田 諭（慶應義塾大学）
分 担 課 題 名：患者登録、プロトコル治療の遂行
分担研究者名（所属）：尾形高士（消化器外科・胃食道）

研 究 費 名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課 題 名：進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第Ⅲ相試験
主任研究者（所属）：吉川貴己（国立がんセンター中央病院）
分 担 課 題 名：進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第Ⅲ相試験にて
検証
分担研究者名（所属）：山田貴允（消化器外科・胃食道）

研 究 費 名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課 題 名：下部直腸癌に対するtotal neoadjuvant therapy（TNT）および watch and wait strategyの第Ⅱ／Ⅲ相
単群検証的試験
主任研究者名（所属）：金光幸秀（国立がん研究センター中央病院）
分 担 課 題 名：下部直腸癌に対するtotal neoadjuvant therapy（TNT）および watch and wait strategyの第Ⅱ／Ⅲ相
単群検証的試験
分担研究者名（所属）：塩澤 学（消化器外科・大腸）

研 究 費 名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課 題 名：再発低リスク大腸癌患者における根治切除後のレスインテンシブなサーベイランスの単群検証的試験
（JCOG1915）
主任研究者名（所属）：金光幸秀（国立がん研究センター中央病院）
分 担 課 題 名：再発低リスク大腸癌患者における根治切除後のレスインテンシブなサーベイランスの単群検証的試験
（JCOG1915）
分担研究者名（所属）：塩澤 学（消化器外科・大腸）

研 究 費 名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課 題 名：直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発
主任研究者名(所属)：伊藤雅昭(国立がん研究センター東病院)
分 担 課 題 名：直腸癌局所再発に対する術前化学放射線療法の意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験(JCOG1801)の実施
分担研究者名(所属)：塩澤 学(消化器外科・大腸)

研 究 費 名：AMED／臨床研究・治験推進研究事業
課 題 名：切除可能な高頻度マイクロサテライト不安定性結腸直腸癌に対して免疫チェックポイント阻害薬を用いた根治治療の有効性・安全性を検討する研究
主任研究者名(所属)：坂東英明(国立がん研究センター東病院)
分 担 課 題 名：症例登録
分担研究者名(所属)：塩澤 学(消化器外科・大腸)

研 究 費 名：AMED／臨床研究・治験推進研究事業
課 題 名：再発・難治性悪性神経膠腫に対する治療用放射性薬剤⁶⁴Cu-ATSMの有効性を検証する研究開発
主任研究者名(所属)：栗原宏明(神奈川県立がんセンター・放射線診断IVR)
分 担 課 題 名：臨床試験の実施
分担研究者名(所属)：佐藤秀光(脳神経外科)

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業 基盤研究C
課 題 名：唾液腺導管癌における腫瘍浸潤リンパ球の解析と治療効果・予後予測因子としての意義
主任研究者名(所属)：松木 崇(神奈川県立がんセンター・頭頸部外科)

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業 基盤研究C
課 題 名：唾液腺導管癌の分子発癌機構の解明とその治療戦略基盤
主任研究者名(所属)：松木 崇(神奈川県立がんセンター・頭頸部外科)

研 究 費 名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課 題 名：乳がん患者の乳がん切除後疼痛症候群に対するスマホ精神療法の開発：革新的な分散型基盤を用いた多機関共同無作為割付比較試験
主任研究者名(所属)：明智龍男(名古屋市立大学)
分 担 課 題 名：乳がん患者の乳がん切除後疼痛症候群に対するスマホ精神療法の開発：革新的な分散型基盤を用いた多機関共同無作為割付比較試験
分担研究者名(所属)：山下年成(乳腺外科)

研 究 費 名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業
課 題 名：周術期乳癌を対象とした新規薬剤開発に関する持続可能なプラットフォーム試験
主任研究者名(所属)：能澤一樹(名古屋市立大学)
分 担 課 題 名：NACを受けたトリプルネガティブ乳癌患者における血漿のみのctDNA測定法を用いた再発リスク評価と術後再発予測のためのサーベイランス
分担研究者名(所属)：山下年成(乳腺外科)

研 究 費 名：AMED／新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業
課 題 名：思春期女性へのHPVワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18陽性割合の推移に関する疫学研究
主任研究者名(所属)：松本光司(昭和大学)
分 担 課 題 名：HPVワクチンの有効性評価(症例登録)
分担研究者名(所属)：佐治晴哉(婦人科)

研 究 費 名：AMED／次世代がん医療加速化研究事業
課 題 名：卵巣癌早期発見のためのAI血液診断モデルの開発—癌関連糖蛋白と網羅的血清糖ペプチドピークデータを用いて—

主任研究者名(所属)：三上幹夫(湘南医療大学)

分 担 課 題 名：卵巣癌早期発見のためのAI血液診断モデルの開発—癌関連糖蛋白と網羅的血清糖ペプチドピークデータを用いて—

分担研究者名(所属)：佐治晴哉(婦人科)

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業 基盤研究C

課 題 名：卵巣癌マーカーTFPI4の遺伝子発現機構と血中濃度規定メカニズムの解明

主任研究者名(所属)：宮城洋平(神奈川県立がんセンター・臨床研究所)

分担研究者名(所属)：佐治晴哉(婦人科)

研 究 費 名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業

課 題 名：進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究

主任研究者名(所属)：田仲和宏(大分大学)

分 担 課 題 名：進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究

分担研究者名(所属)：竹山昌伸(骨軟部腫瘍外科)

研 究 費 名：AMED／革新的がん医療実用化研究事業

課 題 名：高リスク後腹膜肉腫に対する標準治療法開発のための国際多施設共同臨床試験

主任研究者名(所属)：尾崎敏文(岡山大学)

分 担 課 題 名：高リスク後腹膜肉腫に対する標準治療法開発のための国際多施設共同臨床試験

分担研究者名(所属)：竹山昌伸(骨軟部腫瘍外科)

研 究 費 名：AMED／臨床研究・治験推進研究事業

課 題 名：睪がん早期発見・精密治療方針決定を実現する新規放射性抗体医薬を用いた 超音波内視鏡ガイド投与による革新的PET画像診断の第Ⅰ相医師主導治験

主任研究者名(所属)：上野 誠(神奈川県立がんセンター・消化器内科肝胆膵)

分 担 課 題 名：睪がん早期発見・精密治療方針決定を実現する新規放射性抗体医薬を用いた 超音波内視鏡ガイド投与による革新的PET画像診断の第Ⅰ相医師主導治験

分担研究者名(所属)：栗原宏明(放射線診断IVR科)

研 究 費 名：AMED／臨床研究・治験推進研究事業

課 題 名：再発・難治性悪性神経膠腫に対する治療用放射性薬剤⁶⁴Cu-ATSMの有効性を検証する研究開発

主任研究者名(所属)：成田善孝(国立がん研究センター)

分 担 課 題 名：再発・難治性悪性神経膠腫に対する治療用放射性薬剤⁶⁴Cu-ATSMの有効性を検証する研究開発

分担研究者名(所属)：栗原宏明(放射線診断IVR科)

研 究 費 名：国立がん研究センター研究開発費

課 題 名：画像診断支援AIを持続的に開発・性能評価する基盤環境の構築に関する研究

主任研究者名(所属)：渡辺裕一(国立がん研究センター)

分 担 課 題 名：画像診断支援AIを持続的に開発・性能評価する基盤環境の構築に関する研究

分担研究者名(所属)：栗原宏明(放射線診断IVR科)

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・挑戦的研究(萌芽)

課 題 名：ペプチドミクス解析とシングルセルTCR解析を用いたネオアンチゲン同定法の確立

研究代表者名(所属)：笹田哲朗(免疫療法科)

研 究 費 名：文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）
課 題 名：AIによるデータ駆動型がん免疫治療臨床効果予測プラットフォームの構築
研究代表者名(所属)：魏 菲菲（神奈川県立がんセンター・臨床研究所）
研究分担者名(所属)：笹田哲朗（免疫療法科）

研 究 費 名：AMED／「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業
課 題 名：漢方方剤「通導散」の抗腫瘍免疫活性化による新規がん治療戦略の創出
研究代表者名(所属)：氷室秀知（神奈川県立がんセンター・免疫療法科）
研究分担者名(所属)：笹田哲朗（免疫療法科）

研 究 費 名：文部科学省科学研究費補助金 若手研究
課 題 名：放射線誘発HIF依存microbiome変化による転移抑制とabscopal効果
研究代表者名(所属)：氷室秀知（免疫療法科）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：CXCL2依存性の腸脳相関を介した放射線治療効果増感についての検討
研究代表者名(所属)：氷室秀知（免疫療法科）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業・基盤研究（C）
課 題 名：従来法とオルガノイド培養法の重粒子線による生物効果解析
研究代表者名(所属)：関原和正（神奈川県立がんセンター・臨床研究所）
研究分担者名(所属)：氷室秀知（免疫療法科）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業 若手研究
課 題 名：肉腫における鎌状血管形成に関する研究
研究代表者名(所属)：鷺見公太（神奈川県立がんセンター 臨床研究所・病理診断科）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業 基盤研究（C）
課 題 名：骨髄脂肪細胞由来アディポネクチンの癌抑制メカニズム解明と骨転移治療への応用
研究代表者名(所属)：佐藤慎哉（神奈川県立がんセンター・研究所）
研究分担者名(所属)：鷺見公太（病理診断科）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業 基盤研究（C）
課 題 名：miRNAに着目したPanNETの薬剤耐性獲得メカニズムの解明と革新的治療法の開発
研究代表者名(所属)：平林健一（富山大学）
研究分担者名(所属)：大久保陽一郎（病理診断科）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業 若手研究
課 題 名：転移性子宮頸癌に対する最適な放射線治療法の開発—生存とQOLの向上を目指して—
研究代表者名(所属)：土田圭祐（神奈川県立がんセンター・放射線治療科）

研 究 費 名：文部科学省科学研究助成事業 基盤研究（C）
課 題 名：粒子線治療における線量分布をベースとしたアダプティブ患者位置決めシステムの構築
研究代表者（所属）：草野陽介（神奈川県立がんセンター 医学物理工学科）

2 その他

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金指定研究助成金
課 題 名：成人白血病関連疾患に対する同種造血幹細胞移植の成績向上に関する研究
研究担当者（所属）：田中正嗣（血液・腫瘍内科）

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金指定研究助成金
課 題 名：悪性リンパ腫の臨床病理学的研究
研究担当者（所属）：酒井リカ（血液・腫瘍内科）

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金指定研究助成金
課 題 名：大腸癌における腫瘍局在特異的バイオマーカーに基づいた新規治療法の確立
研究担当者（所属）：塩澤 学（消化器外科・大腸）

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金指定研究助成金
課 題 名：局所進行胃癌患者におけるchitinase-3like protein1遺伝子発見の臨床的意義
研究担当者（所属）：塩澤 学（消化器外科・大腸）

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金指定研究助成金
課 題 名：マイクロ流路を用いたヒト癌組織培養法の確立と薬剤耐性獲得メカニズムの解明
研究担当者（所属）：中井川 昇（泌尿器科）

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金指定研究助成金
課 題 名：チェックポイント阻害剤効果予測マーカーの同定と評価系の構築
研究担当者（所属）：山下年成（乳腺外科）

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金指定研究助成金
課 題 名：局所進行胃癌患者の癌組織におけるasialoglycoprotein receptor2 遺伝子発現の臨床的意義
研究担当者（所属）：大島 貴（消化器外科・胃食道）

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金指定研究助成金
課 題 名：治癒切除後の局所進行胃癌患者における胃癌組織中のPregnancy Zone protein 遺伝子発現の臨床的意義
研究担当者（所属）：大島 貴（消化器外科・胃食道）

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金指定研究助成金
課 題 名：治癒切除後の局所進行胃癌患者における胃癌組織中のPregnancy Zone protein 遺伝子発現の臨床的意義
研究担当者（所属）：大島 貴（消化器外科・胃食道）

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金一般研究助成金
課 題 名：脊索腫に対する重粒子線治療後再発転移診断における画像評価の検討
研究担当者（所属）：山本弥生（放射線診断IVR科）

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金一般研究助成金
課 題 名：横行結腸癌における腫瘍局在（肝弯／中央部／脾弯）別の遺伝子プロファイルの解析
研究担当者（所属）：井口健太（消化器外科・大腸）

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金一般研究助成金
課 題 名：RBM10遺伝子変異とEGFR遺伝子変異陽性肺腺癌の臨床病理および薬剤耐性との関連性の検討
研究担当者（所属）：伊坂哲哉（呼吸器外科）

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金一般研究助成金
課 題 名：子宮体癌の黄体ホルモン治療最適化のための分子遺伝学的探索
研究担当者（所属）：鈴木幸雄（婦人科）

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金一般研究助成金
課 題 名：悪性骨軟部腫瘍におけるPin1発現と予後に関する多施設共同研究
研究担当者（所属）：志賀 輝（骨軟部腫瘍外科）

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金一般研究助成金
課 題 名：遺伝子異常診断のための甲状腺がん検体取扱いとスクリーニング手法の最適化
研究担当者（所属）：大久保陽一郎（病理診断科）

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金一般研究助成金
課 題 名：原発不明がんにおけるBrg1染色の有用性の検討
研究担当者（所属）：鷺見公太（病理診断科）

研 究 費 名：かながわ県立病院がん基金一般研究助成金
課 題 名：患者血清を用いた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）病態に係る蛋白質・ペプチドの調査
研究担当者（所属）：築地 淳（感染症内科）

研 究 費 名：横浜市トライアル助成金 公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団
課 題 名：アディポカインを介した新規前立腺癌去勢抵抗性獲得メカニズムの解明
研究担当者（所属）：鈴木敦人（泌尿器科）

研 究 費 名：公益財団法人がん研究振興財団（がん研究助成金：B課題）
課 題 名：粒子線治療における体厚変動に適応した治療システムの開発と臨床応用
主任研究者名(所属)：高山佳樹（医学物理工学科）

第5節 主催学会・セミナー

◆主催学会

学会の名称：第119回神奈川県病理医会例会

学会長氏名：病理診断科 宮城洋平

学会規模：約80名参加

開催年月日：2024年7月27日(土)

開催場所：神奈川県立がんセンター（講堂）

第6節 受賞

賞の名称：肝胆膵外科高度技能専門医

受賞者氏名(所属)：消化器外科肝胆膵 河原慎之輔

賞の名称：JGES Best Abstract Award ENDO2024

受賞者氏名(所属)：消化器内科（内視鏡）塩月一生

賞の名称：優秀ポスター賞 早期子宮体癌に対するロボット支援下手術と腹腔鏡下手術の手術成績と安全性の比較

第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、

受賞者氏名(所属)：婦人科 横澤智美

第7節 県民のための公開行事

I 市民公開講座等公開行事

第14回市民公開講座「がんを知る」

テーマ：「肺がん治療の今～専門医が語る最新治療法～」

日時：令和6年11月4日（月・祝）13：00～15：45

場所：はまぎんホールヴィアマーレ

演題と講師：

第1部 司会 副院長 大島 貴

1. 「肺がん検診を受けていますか？～受診方法とその重要性について～」

呼吸器内科 齋藤春洋

2. 「手術で肺がんを治す～負担の少ない手術、他の治療法との相乗効果～」

呼吸器外科 永島琢也

第2部 司会 副院長 森永聡一郎

3. 「肺がんの放射線治療」

放射線治療科 吉田大作

4. 「肺がんに立ち向かう：進化する薬物療法の現状」

呼吸器内科 村上修司

第3部 司会 副院長 岸田 健

5. 「総合討論（質疑応答）」

放射線治療科 吉田大作

来場者数：199名

II ブラックジャックセミナー（中高生を対象とした手術体験等）

日時：2024年8月24日(土) 13：30～16：30

場所：神奈川県立がんセンター

共催：神奈川県立がんセンター／ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

III 泌尿器科 市民公開講座

テーマ：「いま知ってほしいがんの診断と治療—前立腺がん・腎がんを中心に—」

日時：2024年12月7日(土) 13：30～16：15

場所：若葉台カルチャースクール（横浜市旭区）

講師：中井川 昇（泌尿器科）

若葉台泌尿器科クリニック 院長 奥野紀彦先生

第3章 所内研究会

第1節 所内カンファレンス一覧（臓器ボード含む）

曜日	名 称	時 間	場 所
月	消化器内科消化管抄読会 血液・腫瘍内科合同抄読会 放射線診断技術科連絡会 放射線治療科新患カンファレンス 緩和ケア病棟入退棟判定会議 放射線治療計画カンファレンス 呼吸器内科病棟カンファレンス 乳腺術後カンファレンス 乳腺病理カンファレンス 消化器内科肝胆膵カンファレンス 消化器内科消化管術前症例カンファレンス 婦人科放射線治療科合同カンファレンス 婦人科医局会	8：00～（隔週） 8：05～ 8：15～ 8：15～ 11：30～ 15：30～ 16：00～ 16：00～ 17：00～ 17：00～ 17：00～ 17：00～ 17：00～ 17：15～	管理研究棟医局応接室 管理研究棟総合診断室 病院棟1階中央操作室 重粒子線治療棟カンファレンス室 7E病棟カンファレンス室 放射線治療計画室 総合診断室 医局 医局 4W病棟 医局 重粒子線治療棟カンファレンス室 管理研究棟総合診断室
火	放射線治療科抄読会 腫瘍分子生物検査室抄読会 呼吸器外科カンファレンス 放射線治療計画カンファレンス 泌尿器科臨床検討会 消化器疾患カンファレンス（大腸・肝胆膵） 乳腺病棟カンファレンス 緩和ケアチームカンファレンス 重粒子線治療計画カンファレンス 大腸外科・消化器内科消化管・放射線治療科合同カンファレンス 血液・腫瘍内科・移植症例カンファレンス 乳腺術前カンファレンス 臨床病理肝胆膵カンファレンス 腫瘍内科放射線治療科合同カンファレンス 消化器内科消化管科内カンファレンス	8：15～ 9：30～ 15：00～ 15：30～ 16：00～ 16：00～ 16：00～ 16：00～ 16：00～ 16：00～ 17：00～ 17：00～ 17：00～ 17：00～ 17：00～19：00（第4） 17：00～（第2、4週） 17：30～	重粒子線治療棟カンファレンス室 腫瘍分子生物検査室 6W病棟 放射線治療計画室 5E病棟 管理研究棟総合診断室 6E病棟 504会議室 重粒子線治療棟カンファレンス室 管理研究棟総合診断室 7W病棟カンファレンス室 504会議室 病理診断部門カンファレンス室 重粒子線治療棟カンファレンス室 医局
水	腫瘍免疫化学療法抄読会 3科（頭頸部外科・骨軟部腫瘍外科・リハ科）合同抄読会 緩和ケア病棟入退棟判定会議 リハビリテーションカンファレンス NST症例検討会 腫瘍内科リンパ腫病理カンファレンス 臨床研究所プログレス会議 放射線治療計画カンファレンス 消化器疾患カンファレンス（食道・胃） 病理CPC MMC読影会 免疫療法科カンファレンス 臨床研究所プログレス会議	8：15～ 8：15～8：30 11：30～ 16：00～16：30 13：00～ 15：00～17：00（第3） 15：30～（第1） 15：30～ 16：00～ 18：00～（不定期） 17：00～（不定期） 17：00～（不定期） 15：30～（第1）	管理研究棟503会議室 管理研究棟総合診断室 7E病棟カンファレンス室 リハビリテーションセンター 301会議室 病理診断部門カンファレンス室 管理研究棟大会議室 放射線治療計画室 管理研究棟総合診断室 病理診断部門カンファレンス室 202会議室 管理研究棟がんワクチン・免疫センター 管理研究棟大会議室
木	泌尿器科抄読会リサーチカンファレンス 頭頸部外科放射線治療科合同カンファレンス 消化器切出症例画像カンファレンス 臨床研究所抄読会（がん分子病態学部） がん分子病態学部カンファレンス 放射線治療計画カンファレンス 婦人科症例カンファレンス及び病理検討会 重粒子線治療計画カンファレンス 消化器内科消化管病棟カンファレンス 乳腺術後カンファレンス 血液内科症例検討会 呼吸器科CT読影カンファレンス 検査科合同抄読会 消化器内科消化管科内カンファレンス 甲状腺薬物療法カンファレンス 遺伝診療科カンファレンス 前立腺センター合同カンファレンス 消化器内科消化管内視鏡治療カンファレンス 胃食道外科抄読会・研究カンファレンス 神奈川骨軟部腫瘍臨床病理カンファレンス 臨床研究所抄読会（がん分子病態学部）	7：30～ 8：00～ 8：30～ 9：00～ 13：00～（隔週） 15：30～ 16：00～17：30 16：00～ 16：00～ 16：00～ 17：00～（不定期） 17：00～ 17：30～18：30（第4） 17：00～ 17：30～（第2・4） 17：30～（第4） 17：30～（第1、3週） 18：00～ 18：00～ 18：30～（第4） 9：00～	管理研究棟503会議室 重粒子線治療棟カンファレンス室 病院棟1階読影室 Web 臨床研究所ミーティング室 放射線治療計画室 管理研究棟総合診断室→病理診断室 重粒子線治療棟カンファレンス室 3S病棟 医局 管理研究棟総合診断室 病院棟1階読影室 検査科技術室 3S病棟 504会議室 中会議室または大会議室 重粒子線治療棟カンファレンス室 3S病棟 医局応接室 病理診断部門カンファレンス室 Web
金	呼吸器科抄読会 麻酔科ICU科勉強会 放射線治療科医局会 気管支鏡フィルム検討会 放射線グループカンファレンス 臨床研究所抄読会（がん免疫療法研究開発学部） 緩和ケア病棟入退棟判定会議 呼吸器外科抄読会 放射線治療計画カンファレンス 臨床病理検討会 呼吸器グループカンファレンス 放射線診断技術科技術カンファレンス 臨床研究所抄読会（がん免疫療法研究開発学部）	8：00～8：30 8：00～8：20 8：15～ 8：30～ 8：30～ 10：00～（隔週） 11：30～ 15：00～16：00 15：30～ 15：30～17：00（第4、不定期） 16：00～18：00 17：15～（不定期） 10：00～（隔週）	管理研究棟総合診断室 麻酔科医局 重粒子線治療棟カンファレンス室 管理研究棟総合診断室 重粒子線治療棟カンファレンス室 管理研究棟中会議室 7E病棟カンファレンス室 管理研究棟総合診断室 放射線治療計画室 管理研究棟総合診断室 管理研究棟総合診断室 病院棟1階中央捜査室 管理研究棟中会議室

第2節 所内研究会

1 病院・研究所研究会

研 究 会 名 称	演 題	演者・講師（所属）	開催年月日
第9回先端医療セミナー	婦人科がん治療におけるゲノム医療UP to DATE	廣島幸彦	8/2024横浜
多地点合同メディカル・カンファレンス	がんゲノム医療拠点病院としての取り組み ～年間600件を超える検査の管理と県内均てん化のために必要なこと～	廣島幸彦	9/2024東京
足柄上病院・神奈川県立がんセンター がん診療合同勉強会	がんゲノム医療UP to DATE	廣島幸彦	1/2025横浜
済生会横浜市東部病院・神奈川県立 がんセンターがん診療合同勉強会	がんゲノム医療UP to DATE	廣島幸彦	3/2025横浜
小田原市立病院 市民公開講座	がんゲノム医療とは？～新時代のがん診療～	廣島幸彦	3/2025小田原
2024年度がんセンター主催 医師の 働き方改革講演会	未来志向の「医師の働き方改革」を目指して	鈴木幸雄	10/2024WEB

2 看護研究会（看護局）

長期研修報告会・看護研究等発表会

項目	内 容	演者・講師（所属）	開催年月日
第1回	●研修報告 1. 認定看護管理者教育課程サードレベル 2. 認定看護管理者教育課程ファーストレベル 3. 認定看護管理者教育課程ファーストレベル 4. 実習指導者講習会 5. 実習指導者講習会 6. 実習指導者講習会 7. NST専門療法士実地修練 ●看護研究 1. がん看護専門看護師による家族への看護実践の概念分析 ーハイブリッド・モデルを用いてー	大番美奈子（看護局） 大竹 晴子（看護教育科） 守屋久美子（6 E） 忠本 暁子（手術室） 中村華菜子（4 W） 小菅 沙希（5 W） 榎本 雄太（7 W） 藤田今日子（7 E）	2024. 5. 22 対面開催
第2回	●研修報告 1. 認定看護管理者教育課程ファーストレベル 2. 認定看護管理者教育課程ファーストレベル ●看護研究 1. オストメイトの価値の転換を支えたスキンケア外来の一考察	生川 剛（7 W） 秋山 良恵（外来） 皆川 由香（看護局）	2024. 10. 23 対面開催 2024. 11. 11～ 12. 10 動画配信
第3回	●研修報告 1. 認定看護管理者教育課程 セカンドレベル 2. 実習指導者講習会 3. リンパ浮腫セラピスト ●看護研究 1. 術後合併症により治療に難渋し入院が長期化した患者の退院支援 ～患者を医療チームの一員としたかかわり～ 2. 切除不能進行食道癌患者における治療介入時の栄養評価の重要性 3. 切除不能進行食道癌患者における高齢者機能評価 ～G8を用いた評価～ ●実践報告 1. 自部署におけるRRSの現状と課題 ～病棟看護師が病状悪化の兆候に気づき、急変を未然に防ぐための取り組み～ 2. 医師、看護師、栄養士が連携した移植後患者の栄養サポート ～移植後1年の回復過程～ 3. ルタテラ治療稼働に向けて、3S病棟の取り組みと今後の課題 ●業務改善報告 1. 4W病棟のPNS®看護体制の修正と課題 ～グループリーダーのミドルアップマネジメントとグループダイナミクス～	由井 志穂（4 W） 柏木 菜月（6 E） 宇佐美未知瑠（外来） 中村華菜子（4 W） 長沼 由子（3 S） 福田 尚子（3 S） 設楽 剛広（4 W） 本田さやか（外来） 宗次 陽子（3 S） 上遠野千夏（4 W）	2025. 1. 17 対面開催 2025. 2. 3～3. 3 動画配信

看護研究発表会

項目	内 容	演者・講師（所属）	開催年月日
第15回がん看護専門研修	1. 頭頸部がん患者が化学放射線療法を受ける際の、頭部脱毛体験について 2. 1泊2日の入院で初回化学療法を受ける婦人科がんと乳がん患者の看護へのニーズ 3. 肺がん術後に呼吸不全を伴う患者の早期離床における看護師の判断プロセス 4. 長期入院における造血器がん患者の親役割遂行のための看護の実際 ～無菌病棟看護師の暗黙知の顕在化～ 5. B細胞枯渇療法を行い、COVID-19の再燃を繰り返す患者を看護する看護師の困難感	山口理恵子（5 E） 室井 裕美（6 E） 上原亜沙美（6 W） 久志田友美（7 W） 皆川 真弓（感染制御室）	2025. 3. 4 対面開催

看護局 齊田

3 臨床腫瘍セミナー

	日 付	テ ー マ	講 師（所属）	参加者数
第1回	2024年5月16日	乳癌	乳腺外科	51名
第2回	2024年6月6日	尿路系腫瘍	泌尿器科	28名
第3回	2024年6月20日	大腸癌	消化器内科／消化器外科	36名
第4回	2024年7月4日	腫瘍循環器学	循環器内科	20名
第5回	2024年8月1日	甲状腺腫瘍	内分泌外科	16名
第6回	2024年8月15日	放射線治療	放射線治療科	28名
第7回	2024年8月20日	肺癌	呼吸器内科／呼吸器外科	27名
第8回	2024年8月29日	画像診断学	放射線診断科・IVR科	26名
第9回	2024年9月5日	胆・膵癌	消化器内科／消化器外科	39名
第10回	2024年10月3日	食道癌	消化器内科／消化器外科	48名
第11回	2024年10月17日	免疫療法「がん免疫療法の現状と展望」	免疫療法科	41名
第12回	2024年11月7日	放射線治療	放射線治療科	37名
第13回	2024年12月5日	頭頸部腫瘍	頭頸部外科	38名
第14回	2024年12月19日	多発性骨髄腫	血液・腫瘍内科	35名
第15回	2025年1月30日	緩和ケア総論	緩和ケア内科	36名
第16回	2025年2月6日	東洋医学	東洋医学科	35名
第17回	2025年2月20日	病理診断学	病理診断科	28名
第18回	2025年3月13日	婦人科腫瘍	婦人科	33名

*参加者数は、オンライン視聴希望者数を含む

統計編

(令和 6 年)

凡 例

- 1 記述内容は各暦年の数値である。
- 2 当センターのカルテは一患者一診療録としている。
- 3 この内容における字句の定義および算出方法は次のとおりである。

新 患 数	外来における新患者数
外 来 患 者 延 数	暦年内における毎日の外来患者数を合計した数
一日平均患者数	
外 来 患 者	暦年内の外来患者延数を実外来診療日数で除した数
入 院 患 者	暦年内の入院患者延数を暦日で除した数
入 院 患 者 数	暦年内における毎日の新入院患者を合計した数
退 院 患 者 数	暦年内における退院患者数（死亡退院も含む。）
入 院 患 者 延 数	暦年内における毎日（24時現在）の在院患者数を合計した数
病 床 利 用 率	病床数に対する入院患者の割合。次の算出方法によった。

$$\text{病床利用率} = \frac{\text{一日平均患者数}}{\text{病床数}} \times 100 = \frac{\text{入院患者数}}{\text{定床数} \times \text{暦日数}} \times 100$$

平 均 在 院 日 数 1 人の患者が入院してから退院するまでの在院日数で次の算出方法によった。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{入院患者延数}}{(\text{入院患者数} + \text{退院患者数}) \times \frac{1}{2}}$$

病 床 回 転 率 利用病床（病床数×病床利用率）の暦年内回転数で次の算出方法によった。

$$\text{病床回転率} = \frac{(\text{入院患者数} + \text{退院患者数}) \times \frac{1}{2}}{\text{病床数} \times \text{病床利用率}} = \frac{\text{暦日数}}{\text{平均在院日数}}$$

平 均 通 院 回 数 1 人の患者の初診から転帰までの通院回数で次の算出方法によった。

$$\text{平均通院回数} = \frac{\text{外来患者延数}}{\text{新患実数}}$$

院 内 死 亡 率 暦年内における退院患者に対する年間死亡数の比率で次の算出方法によった。

$$\text{院内死亡率} = \frac{\text{年間死亡患者数}}{\text{退院患者数}} \times 100$$

解 剖 率 院内死亡者に対する解剖件数の割合。次の算出方法によった。

$$\text{解剖率} = \frac{\text{年間解剖数}}{\text{年間死亡患者数}} \times 100$$

表1 診療業務総括表

区 分 \ 年 度			令和 6 年度	令和 5 年度
病 床 数 (A)			415 床	415 床
稼 働 病 床 数 (B)			※※※ 415 床	※※※ 415 床
入 院 患 者	延 患 者 数 (C)		125,258人	119,946人
	前 年 度 か ら の 繰 越 患 者 数 (D)		215人	300人
	当 年 度 内 新 入 院 患 者 数 (E)		13,884人	13,196人
	当 年 度 内 退 院 患 者 数 (F)		13,796人	13,281人
	病 床 利用率	病 床 $\frac{(C)}{(A) \times \text{暦日数}} \times 100$	82.7%	79.1%
		稼 働 $\frac{(C)}{(B) \times \text{暦日数}} \times 100$	82.7%	79.1%
	平 均 在 院 日 数 $\frac{(C)}{1/2 (E + F)}$ (G)		9.1	9.1
	病 床 回 転 率 $\frac{\text{暦日数}}{(G)}$		40.3回	40.2回
外 来 患 者	実 患 者 数 (H)		27,483人	27,205人
	延 患 者 数 (I)		270,173人	271,921人
	平 均 通 院 日 数 $\frac{(I)}{(H)}$		9.8日	10.0日
入 院 ・ 外 来 患 者 比 率 $\frac{(I)}{(C)}$			2.16	2.27

※ 平成23年11月5日から稼働387床

※※ 平成24年5月8日から稼働393床

※※※平成25年11月2日から稼働415床

表２ 収益的收入及び支出（令和６年度）

(1)がんセンター

収 入

(単位：円)

区 分	令和５年度	令和６年度	増 減
営 業 収 益	25,748,688,753	26,083,482,984	334,794,231
医 業 収 益	23,562,072,395	23,972,746,122	410,673,727
入 院 収 益	11,003,840,920	11,428,294,362	424,453,442
外 来 収 益	11,289,605,971	11,117,323,990	△ 172,281,981
そ の 他 医 業 収 益	1,268,625,504	1,427,127,770	158,502,266
補 助 金 等 収 益	95,383,000	35,685,091	△ 59,697,909
運 営 費 負 担 金 収 益	2,026,371,801	2,028,947,328	2,575,527
寄 附 金 収 益	11,297,994	12,774,141	1,476,147
資 産 見 返 負 債 戻 入	53,563,563	33,330,302	△ 20,233,261
営 業 外 収 益	273,324,985	245,244,050	△ 28,080,935
受 取 利 息 及 び 配 当 金	1,125	84,775	83,650
運 営 費 負 担 金 収 益	83,112,000	104,529,000	21,417,000
そ の 他 営 業 外 収 益	190,211,860	140,630,275	△ 49,581,585
臨 時 利 益	0	155,000	155,000
収 入 合 計	26,022,013,738	26,328,882,034	306,868,296

費 用

区 分	令和５年度	令和６年度	増 減
営 業 費 用	26,271,169,325	26,507,506,179	236,336,854
医 業 費 用	24,706,569,268	24,947,751,237	241,181,969
給 与 費	8,038,737,059	8,344,193,552	305,456,493
材 料 費	10,344,686,391	10,091,734,778	△ 252,951,613
う ち 薬 品 費	8,869,025,516	8,506,106,854	△ 362,918,662
う ち 診 療 材 料 費	1,460,710,373	1,565,416,650	104,706,277
経 費	4,167,058,994	4,288,360,559	121,301,565
減 価 償 却 費	1,171,037,256	1,225,532,168	54,494,912
研 究 研 修 費	985,049,568	997,930,180	12,880,612
寄 附 金 支 出	10,233,920	10,360,366	126,446
控 除 対 象 外 消 費 税	1,554,366,137	1,549,394,576	△ 4,971,561
営 業 外 費 用	167,826,004	190,218,364	22,392,360
支 払 利 息 及 び 病 院 債 取 扱 諸 費	167,826,004	190,218,364	22,392,360
雑 支 出	0	0	0
臨 時 損 失	10,510,410	9,604,953	△ 905,457
固 定 資 産 除 却 損	10,510,410	9,604,953	△ 905,457
費 用 合 計	26,449,505,739	26,707,329,496	257,823,757

収 支

区 分	令和５年度	令和６年度	増 減
医 業 損 益	△ 1,144,496,873	△ 975,005,115	169,491,758
営 業 損 益	△ 522,480,572	△ 424,023,195	98,457,377
経 常 損 益	△ 416,981,591	△ 368,997,509	47,984,082
純 損 益	△ 427,492,001	△ 378,447,462	49,044,539

表２ 収益的收入及び支出（令和６年度）

(2)重粒子線治療施設

収 入

(単位：円)

区 分	令和５年度	令和６年度	増 減
営 業 収 益	1,554,418,661	1,517,862,277	△ 36,556,384
医 業 収 益	1,505,102,893	1,470,218,972	△ 34,883,921
入 院 収 益	84,250,000	92,550,000	8,300,000
外 来 収 益	1,418,833,403	1,374,764,420	△ 44,068,983
そ の 他 医 業 収 益	2,019,490	2,904,552	885,062
運 営 費 負 担 金 収 益	0	0	0
資 産 見 返 負 債 戻 入	49,315,768	47,643,305	△ 1,672,463
営 業 外 収 益	33,289,000	30,807,000	△ 2,482,000
運 営 費 負 担 金 収 益	33,289,000	30,807,000	△ 2,482,000
そ の 他 営 業 外 収 益	0	0	0
臨 時 利 益	0	0	0
収 入 合 計	1,587,707,661	1,548,669,277	△ 39,038,384

費 用

区 分	令和５年度	令和６年度	増 減
営 業 費 用	1,566,164,509	1,703,800,730	137,636,221
医 業 費 用	1,498,827,274	1,630,754,043	131,926,769
給 与 費	308,025,643	393,972,526	85,946,883
材 料 費	2,726,518	30,467,610	27,741,092
う ち 薬 品 費	570,053	657,869	87,816
う ち 診 療 材 料 費	806,965	28,211,741	27,404,776
経 費	630,291,261	657,478,355	27,187,094
減 価 償 却 費	557,783,852	548,835,552	△ 8,948,300
控 除 対 象 外 消 費 税	67,337,235	73,046,687	5,709,452
営 業 外 費 用	66,577,788	62,377,384	△ 4,200,404
支 払 利 息 及 び 病 院 債 取 扱 諸 費	66,577,788	62,377,384	△ 4,200,404
臨 時 損 失	93,160	137,000	43,840
固 定 資 産 除 却 損 失	93,160	137,000	43,840
そ の 他 臨 時 損 失	0	0	0
費 用 合 計	1,632,835,457	1,766,315,114	133,479,657

収 支

区 分	令和５年度	令和６年度	増 減
医 業 損 益	6,275,619	△ 160,535,071	△ 166,810,690
営 業 損 益	△ 11,745,848	△ 185,938,453	△ 174,192,605
経 常 損 益	△ 45,034,636	△ 217,508,837	△ 172,474,201
純 損 益	△ 45,127,796	△ 217,645,837	△ 172,518,041

表3 診療報酬診療行為別割合（令和6年度）

外 来 収 益

（単位：円）

年 度 行為別	令 和 6 年 度	令 和 5 年 度	前 年 度 比
初 診 料	25,386,944	23,875,100	106.3%
再 診 料	108,512,322	108,429,581	100.1%
指 導 料	691,577,746	625,799,734	110.5%
投 薬 料	571,554,474	607,826,814	94.0%
注 射 料	6,109,981,443	6,412,287,576	95.3%
検 査 料	1,735,014,682	1,671,550,395	103.8%
処 置 及 び 手 術 料	112,398,763	129,167,481	87.0%
放 射 線 料	2,922,838,751	2,933,304,455	99.6%
輸 血 料	24,496,040	23,044,170	106.3%
麻 酔 料	35,950	94,820	37.9%
そ の 他	295,721,538	363,128,995	81.4%
合 計	12,597,518,653	12,898,509,121	97.7%

入 院 収 益

（単位：円）

年 度 行為別	令 和 6 年 度	令 和 5 年 度	前 年 度 比
入 院 料	6,030,631,413	5,644,071,784	106.8%
重 症 者 特 別 加 算 料			
特 別 食 料			
初 診 料	530,390	483,840	109.6%
指 導 料	126,988,070	120,968,943	105.0%
投 薬 料	167,570,252	131,785,085	127.2%
注 射 料	1,225,041,322	1,408,353,226	87.0%
検 査 料	174,306,403	188,106,493	92.7%
処 置 及 び 手 術 料	2,585,360,740	2,548,695,624	101.4%
放 射 線 料	340,606,205	298,259,257	114.2%
輸 血 料	304,874,220	320,748,590	95.1%
麻 酔 料	411,649,291	409,661,761	100.5%
そ の 他	473,837,756	344,432,914	137.6%
合 計	11,841,396,062	11,415,567,517	103.7%

表 4 診療科別外来患者数

科 別		区分	月別	1	2	3	4	5	6
循 環 器 内 科		新 患 者 数		0	0	2	1	0	0
		再 来 患 者 数		613	646	607	570	606	596
		延 患 者 数		613	646	609	571	606	596
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 科		新 患 者 数		0	0	0	0	0	0
		再 来 患 者 数		459	482	529	530	531	515
		延 患 者 数		459	482	529	530	531	515
呼 吸 器 内 科		新 患 者 数		95	80	104	90	93	93
		再 来 患 者 数		1,791	1,734	1,772	1,751	1,733	1,697
		延 患 者 数		1,886	1,814	1,876	1,841	1,826	1,790
呼 吸 器 外 科		新 患 者 数		5	2	4	4	9	5
		再 来 患 者 数		788	773	873	822	751	779
		延 患 者 数		793	775	877	826	760	784
血 液 ・ 腫 瘍 内 科	血 液	新 患 者 数		13	11	15	9	13	9
		再 来 患 者 数		372	375	408	388	396	392
		延 患 者 数		385	386	423	397	409	401
	腫 瘍	新 患 者 数		17	23	47	57	25	30
		再 来 患 者 数		871	900	1,082	1,055	1,034	978
		延 患 者 数		888	923	1,129	1,112	1,059	1,008
消 化 器 内 科	消 化 管	新 患 者 数		67	56	52	78	70	69
		再 来 患 者 数		1,308	1,411	1,445	1,464	1,415	1,414
		延 患 者 数		1,375	1,467	1,497	1,542	1,485	1,483
	肝 ・ 胆 ・ 膵	新 患 者 数		94	97	103	99	101	96
		再 来 患 者 数		2,128	2,142	2,373	2,224	2,290	2,180
		延 患 者 数		2,222	2,239	2,476	2,323	2,391	2,276
消 化 器 外 科	胃 食 道	新 患 者 数		1	1	5	12	7	3
		再 来 患 者 数		716	619	777	692	785	740
		延 患 者 数		717	620	782	704	792	743
	大 腸	新 患 者 数		15	18	22	26	23	17
		再 来 患 者 数		1,133	1,155	1,177	1,153	1,284	1,221
		延 患 者 数		1,148	1,173	1,199	1,179	1,307	1,238
	肝 ・ 胆 ・ 膵	新 患 者 数		4	5	3	2	4	3
		再 来 患 者 数		411	424	460	460	468	439
		延 患 者 数		415	429	463	462	472	442
精 神 腫 瘍 科		新 患 者 数		0	0	0	0	0	0
		再 来 患 者 数		70	69	86	75	87	71
		延 患 者 数		70	69	86	75	87	71
脳 神 経 外 科		新 患 者 数		1	1	3	4	1	3
		再 来 患 者 数		131	115	118	118	123	119
		延 患 者 数		132	116	121	122	124	122
頭 頸 部 外 科 (耳鼻・口腔)		新 患 者 数		23	26	27	22	21	25
		再 来 患 者 数		668	679	768	821	751	718
		延 患 者 数		691	705	795	843	772	743
形 成 外 科		新 患 者 数		0	0	1	0	0	0
		再 来 患 者 数		105	113	120	99	118	133
		延 患 者 数		105	113	121	99	118	133
皮 膚 科		新 患 者 数		0	0	0	0	0	1
		再 来 患 者 数		78	75	99	109	94	101
		延 患 者 数		78	75	99	109	94	102

(令和6年)

(単位：人)

7	8	9	10	11	12	計	1日平均	構成比(%)
0 627 627	1 621 622	0 610 610	0 686 686	0 606 606	1 630 631	5 7,418 7,423	30.4	2.7%
0 584 584	0 499 499	0 484 484	0 545 545	0 471 471	0 521 521	0 6,150 6,150	25.2	2.3%
113 1,890 2,003	80 1,774 1,854	67 1,661 1,728	80 1,825 1,905	64 1,640 1,704	79 1,792 1,871	1,038 21,060 22,098	90.6	8.2%
2 816 818	7 795 802	17 789 806	16 933 949	15 773 788	14 827 841	100 9,719 9,819	40.2	3.6%
11 357 368	14 357 371	10 326 336	12 366 378	10 311 321	6 368 374	133 4,416 4,549	18.6	1.7%
29 1,078 1,107	24 1,037 1,061	17 1,003 1,020	16 1,051 1,067	26 1,008 1,034	27 971 998	338 12,068 12,406	50.8	4.6%
70 1,481 1,551	60 1,348 1,408	52 1,367 1,419	69 1,531 1,600	70 1,417 1,487	68 1,376 1,444	781 16,977 17,758	72.8	6.6%
107 2,501 2,608	98 2,283 2,381	77 2,170 2,247	103 2,468 2,571	95 2,167 2,262	102 2,140 2,242	1,172 27,066 28,238	115.7	10.4%
18 789 807	15 691 706	12 753 765	12 772 784	11 745 756	13 707 720	110 8,786 8,896	36.5	3.3%
24 1,178 1,202	29 1,113 1,142	20 1,080 1,100	25 1,273 1,298	17 1,164 1,181	22 1,195 1,217	258 14,126 14,384	59.0	5.3%
2 457 459	1 433 434	4 425 429	1 541 542	1 487 488	3 484 487	33 5,489 5,522	22.6	2.0%
0 98 98	0 73 73	0 71 71	0 125 125	0 103 103	0 102 102	0 1,030 1,030	4.2	0.4%
1 138 139	2 100 102	2 160 162	5 143 148	4 138 142	5 108 113	32 1,511 1,543	6.3	0.6%
22 708 730	26 659 685	29 672 701	22 698 720	24 672 696	25 752 777	292 8,566 8,858	36.3	3.3%
0 128 128	0 95 95	0 94 94	1 115 116	0 96 96	0 113 113	2 1,329 1,331	5.5	0.5%
0 106 106	0 91 91	0 82 82	0 101 101	0 110 110	0 101 101	1 1,147 1,148	4.7	0.4%

表４ 診療科別外来患者数

(つづき)

科 別		月別 区分		1	2	3	4	5	6
内 分 泌 外 科		新	患 者 数	16	20	23	24	27	28
		再	来 患 者 数	357	350	398	418	415	397
		延	患 者 数	373	370	421	442	442	425
乳 腺 外 科		新	患 者 数	53	52	52	64	59	45
		再	来 患 者 数	1,896	1,927	2,052	1,954	1,975	1,806
		延	患 者 数	1,949	1,979	2,104	2,018	2,034	1,851
婦 人 科		新	患 者 数	50	58	52	64	42	65
		再	来 患 者 数	1,417	1,430	1,435	1,475	1,521	1,428
		延	患 者 数	1,467	1,488	1,487	1,539	1,563	1,493
泌 尿 器 科		新	患 者 数	83	98	107	102	98	103
		再	来 患 者 数	1,222	1,295	1,304	1,139	1,432	1,253
		延	患 者 数	1,305	1,393	1,411	1,241	1,530	1,356
骨 軟 部 腫 瘍 外 科		新	患 者 数	43	40	44	55	74	58
		再	来 患 者 数	360	426	471	419	570	512
		延	患 者 数	403	466	515	474	644	570
放 射 線 診 断・IVR 科		新	患 者 数	1	8	3	3	4	2
		再	来 患 者 数	9	9	5	6	1	9
		延	患 者 数	10	17	8	9	5	11
放射線治療科	光 子 線	新	患 者 数	6	10	7	13	3	9
		再	来 患 者 数	1,587	1,690	1,728	2,016	2,298	1,783
	重 粒 子	再	来 患 者 数	1,593	1,700	1,735	2,029	2,301	1,792
		延	患 者 数	0	1	1	0	0	0
		再	来 患 者 数	1,161	1,255	1,308	1,338	1,299	1,100
		延	患 者 数	1,161	1,256	1,309	1,338	1,299	1,100
東 洋 医 学 科		新	患 者 数	0	2	4	1	10	5
		再	来 患 者 数	420	363	373	413	399	382
		延	患 者 数	420	365	377	414	409	387
免 疫 療 法 科		新	患 者 数	0	0	0	0	0	0
		再	来 患 者 数	0	0	0	0	0	2
		延	患 者 数	0	0	0	0	0	2
麻 酔 科		新	患 者 数	0	0	0	0	1	0
		再	来 患 者 数	118	133	129	116	141	123
		延	患 者 数	118	133	129	116	142	123
緩 和 ケ ア 内 科		新	患 者 数	2	2	0	3	0	0
		再	来 患 者 数	21	21	21	26	29	33
		延	患 者 数	23	23	21	29	29	33
歯 科 口 腔 外 科		新	患 者 数	23	33	50	49	39	40
		再	来 患 者 数	383	383	438	434	415	422
		延	患 者 数	406	416	488	483	454	462
リハビリテーション科		新	患 者 数	0	0	0	0	0	0
		再	来 患 者 数	21	18	15	19	20	20
		延	患 者 数	21	18	15	19	20	20
遺 伝 診 断 科		新	患 者 数	0	1	2	0	1	0
		再	来 患 者 数	53	56	52	54	63	63
		延	患 者 数	53	57	54	54	64	63
がんゲノム診療科		新	患 者 数	24	26	18	20	22	27
		再	来 患 者 数	31	34	34	33	33	35
		延	患 者 数	55	60	52	53	55	62
感 染 症 内 科		新	患 者 数	2	2	1	1	0	1
		再	来 患 者 数	3	0	1	0	1	2
		延	患 者 数	5	2	2	1	1	3
合 計		新	患 者 数	638	673	752	803	747	737
		再	来 患 者 数	20,701	21,102	22,458	22,191	23,078	21,463
		延	患 者 数	21,339	21,775	23,210	22,994	23,825	22,200

(令和6年)

(単位：人)

7	8	9	10	11	12	計	1日平均	構成比(%)
13 432 445	28 413 441	21 414 435	20 434 454	12 421 433	19 421 440	251 4,870 5,121	21.0	1.9%
53 1,901 1,954	56 1,893 1,949	48 1,840 1,888	62 2,014 2,076	69 1,902 1,971	51 1,859 1,910	664 23,019 23,683	97.1	8.7%
65 1,494 1,559	46 1,344 1,390	43 1,432 1,475	60 1,613 1,673	50 1,322 1,372	55 1,468 1,523	650 17,379 18,029	73.9	6.7%
110 1,348 1,458	107 1,333 1,440	93 1,183 1,276	101 1,392 1,493	77 1,152 1,229	99 1,310 1,409	1,178 15,363 16,541	67.8	6.1%
57 528 585	46 512 558	50 513 563	59 572 631	47 536 583	51 537 588	624 5,956 6,580	27.0	2.4%
4 1 5	3 4 7	2 3 5	6 4 10	7 10 17	3 6 9	46 67 113	0.5	0.0%
6 1,837 1,843	9 1,854 1,863	5 1,705 1,710	13 1,764 1,777	11 1,380 1,391	9 1,439 1,448	101 21,081 21,182	86.8	7.8%
0 1,164 1,164	0 1,090 1,090	0 1,121 1,121	0 1,472 1,472	0 1,227 1,227	0 1,282 1,282	2 14,817 14,819	60.7	5.5%
2 408 410	3 388 391	1 410 411	4 451 455	3 406 409	2 424 426	37 4,837 4,874	20.0	1.8%
0 1 1	0 1 1	1 2 3	0 1 1	0 0 0	0 1 1	1 8 9	0.0	0.0%
0 142 142	0 140 140	0 125 125	0 144 144	0 140 140	0 137 137	1 1,588 1,589	6.5	0.6%
1 33 34	3 26 29	5 23 28	1 44 45	3 30 33	4 25 29	24 332 356	1.5	0.1%
40 401 441	54 336 390	36 384 420	38 421 459	39 335 374	49 441 490	490 4,793 5,283	21.7	1.9%
0 8 8	0 15 15	0 14 14	0 13 13	0 20 20	0 21 21	0 204 204	0.8	0.1%
0 51 51	0 54 54	0 47 47	1 68 69	0 74 74	1 68 69	6 703 709	2.9	0.3%
16 32 48	31 34 65	24 33 57	32 49 81	27 34 61	31 40 71	298 422 720	3.0	0.3%
1 1 2	1 2 3	0 0 0	1 1 2	0 0 0	1 0 1	11 11 22	0.1	0.0%
767 22,718 23,485	744 21,408 22,152	636 20,996 21,632	760 23,630 24,390	682 20,897 21,579	740 21,666 22,406	8,679 262,308 270,987	1,110.6	100.0%

表5 外来新患者年齢別数（令和6年）

（単位：人）

月別 年齢別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	構成比 (%)
～ 19	4	1	3	2	4	2	5	4	1	2	4	4	36	0.4%
20 ～ 29	15	14	19	17	16	14	12	13	16	14	12	13	175	2.0%
30 ～ 39	18	34	31	28	25	24	24	20	20	33	20	25	302	3.5%
40 ～ 49	53	59	61	61	67	61	63	72	71	83	54	57	762	8.8%
50 ～ 59	109	132	121	144	111	138	137	137	108	119	115	143	1,514	17.4%
60 ～ 64	72	75	77	74	67	59	84	83	59	71	66	64	851	9.8%
65 ～ 69	83	64	101	88	85	67	91	75	61	94	84	97	990	11.4%
70 ～ 74	98	101	131	130	116	97	111	100	88	118	99	96	1,285	14.8%
75以上	186	193	208	259	256	275	240	240	212	226	228	241	2,764	31.8%
合 計	638	673	752	803	747	737	767	744	636	760	682	740	8,679	100.0%

表6 外来新患者地域別数（令和6年）

（単位：人）

市町村別	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	構成比 (%)
横 浜 市		394	426	464	514	479	478	476	454	399	448	425	468	5,425	62.5%
鶴 見 区		9	12	13	9	14	12	10	12	12	13	11	20	147	2.7%
神 奈 川 区		12	17	11	14	9	14	16	10	11	13	22	14	163	3.0%
西 区		9	12	4	8	11	8	6	8	4	10	7	7	94	1.7%
中 区		8	6	11	6	7	11	16	7	9	8	8	9	106	2.0%
南 区		15	17	12	16	17	22	5	19	13	9	9	8	162	3.0%
港 南 区		11	13	22	11	14	18	23	15	15	9	4	8	163	3.0%
保土ヶ谷区		31	27	32	46	35	38	24	39	22	26	33	34	387	7.1%
旭 区		116	140	131	158	140	148	141	148	114	147	128	144	1,655	30.5%
磯 子 区		3	4	9	5	4	7	10	5	9	5	5	9	75	1.4%
金 沢 区		4	8	4	7	8	10	2	6	4	2	5	7	67	1.2%
港 北 区		21	14	22	22	21	16	25	21	18	19	18	16	233	4.3%
緑 区		14	14	25	24	15	20	28	16	17	19	18	18	228	4.2%
戸 塚 区		36	27	38	41	45	31	37	35	37	34	31	36	428	7.9%
瀬 谷 区		29	42	48	55	58	48	51	34	42	51	44	49	551	10.2%
栄 区		6	6	3	7	4	1	4	2	2	6	5	4	50	0.9%
泉 区		52	35	51	55	42	50	44	48	44	42	53	57	573	10.6%
青 葉 区		13	16	13	15	15	9	17	17	15	16	12	15	173	3.2%
都 筑 区		5	16	15	15	20	15	17	12	11	19	12	13	170	3.1%
川 崎 市		12	20	22	24	27	21	32	22	15	31	21	23	270	3.1%
横 須 賀 市		5	12	10	10	15	14	15	11	13	15	8	9	137	1.6%
平 塚 市		9	6	6	10	6	6	8	5	4	12	11	7	90	1.0%
鎌 倉 市		7	9	6	3	7	7	9	7	9	9	8	5	86	1.0%
藤 沢 市		26	26	28	19	29	28	27	24	27	34	30	16	314	3.6%
小 田 原 市		4	3	4	1	3	4	3	7	5	6	1	5	46	0.5%
茅 ヶ 崎 市		9	14	10	6	9	15	10	11	17	11	7	15	134	1.5%
逗 子 市		0	1	2	2	3	0	2	2	2	2	0	2	18	0.2%
相 模 原 市		17	19	31	24	30	17	27	30	23	23	28	34	303	3.5%
三 浦 市		1	2	2	3	2	1	0	0	1	1	0	0	13	0.1%
秦 野 市		7	4	2	3	8	3	2	5	0	11	3	2	50	0.6%
厚 木 市		6	8	14	7	3	2	4	5	7	7	5	7	75	0.9%
大 和 市		37	30	34	52	44	44	45	40	28	36	38	43	471	5.4%
伊 勢 原 市		0	4	3	2	3	1	3	3	2	6	3	2	32	0.4%
海 老 名 市		20	15	16	26	8	12	10	15	14	7	13	17	173	2.0%
座 間 市		14	11	14	14	12	16	11	14	15	9	17	10	157	1.8%
南 足 柄 市		1	2	4	1	0	0	0	2	1	3	2	2	18	0.2%
綾 瀬 市		9	10	13	17	10	10	14	12	6	11	13	13	138	1.6%
葉 山 町		3	0	5	2	2	0	2	1	3	0	0	2	20	0.2%
寒 川 町		4	3	0	1	0	6	3	3	2	6	3	3	34	0.4%
愛 川 町		1	3	2	1	1	0	0	0	1	4	1	2	16	0.2%
清 川 村		0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.0%
大 磯 町		2	0	1	1	1	1	1	0	1	3	2	2	15	0.2%
二 宮 町		0	2	1	0	0	1	3	1	1	1	0	0	10	0.1%
中 井 町		0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0.0%
大 井 町		0	1	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	6	0.1%
松 田 町		0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0.0%
山 北 町		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0.0%
開 成 町		0	0	2	0	1	1	1	0	0	1	0	0	6	0.1%
箱 根 町		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
真 鶴 町		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.0%
湯 河 原 町		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	4	0.0%
県 内 計		588	633	696	746	703	689	710	675	599	700	641	691	8,071	93.0%
県 外 計		50	40	56	57	44	48	57	69	37	60	41	49	608	7.0%
総 計		638	673	752	803	747	737	767	744	636	760	682	740	8,679	100.0%

表7 診療科別入院・退院患者数

科 別		区分 \ 月別	1	2	3	4	5	6
循 環 器 内 科		入 院 数	0	0	0	0	0	0
		退 院 数	0	0	0	0	0	0
		在 院 延 数	0	0	0	0	0	0
呼 吸 器 内 科		入 院 数	88	96	85	87	84	80
		退 院 数	81	92	93	80	79	91
		在 院 延 数	644	631	688	670	699	775
呼 吸 器 外 科		入 院 数	55	51	47	49	49	44
		退 院 数	45	50	56	44	46	43
		在 院 延 数	442	493	481	442	450	415
血液・腫瘍内科	血 液	入 院 数	18	19	16	28	32	26
		退 院 数	13	17	25	23	25	23
		在 院 延 数	669	736	698	662	731	908
	腫 瘍	入 院 数	58	47	67	55	58	49
		退 院 数	58	48	64	52	64	46
		在 院 延 数	818	579	746	770	734	652
消化器内科	消 化 管	入 院 数	101	96	81	89	92	94
		退 院 数	82	96	92	86	81	97
		在 院 延 数	755	821	696	712	732	862
	肝 ・ 胆 ・ 膵	入 院 数	230	217	248	235	250	262
		退 院 数	207	219	267	213	258	261
		在 院 延 数	1,582	1,688	1,652	1,462	1,820	1,705
消化器外科	胃 食 道	入 院 数	56	35	46	38	49	61
		退 院 数	52	45	42	31	48	56
		在 院 延 数	680	552	576	597	629	690
	大 腸	入 院 数	53	56	54	63	53	49
		退 院 数	48	55	59	59	50	51
		在 院 延 数	545	558	591	601	643	643
	肝 ・ 胆 ・ 膵	入 院 数	32	23	21	24	24	19
		退 院 数	20	23	21	23	25	25
		在 院 延 数	269	383	382	400	351	276
脳 神 経 外 科		入 院 数	8	3	5	7	4	5
		退 院 数	7	5	5	5	6	3
		在 院 延 数	84	67	65	130	145	178
頭 頸 部 外 科		入 院 数	81	60	79	80	76	58
		退 院 数	70	64	76	70	78	66
		在 院 延 数	408	365	475	437	489	443
形 成 外 科		入 院 数	6	4	7	4	6	5
		退 院 数	5	4	8	4	6	5
		在 院 延 数	21	15	28	16	24	20
皮 膚 科		入 院 数	0	0	0	0	0	0
		退 院 数	0	0	0	0	0	0
		在 院 延 数	0	0	0	0	0	0
内 分 泌 外 科		入 院 数	14	19	14	17	14	15
		退 院 数	13	17	16	19	11	16
		在 院 延 数	95	101	95	108	101	109

(令和6年)

(単位：人)

7	8	9	10	11	12	計	平均在院日数	構成比 (%)
0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	—	0.0%
110 94 887	83 94 839	83 76 916	85 86 857	81 87 895	77 87 700	1,039 1,040 9,201	8.9	7.5%
53 54 443	52 49 490	35 43 378	49 53 467	42 37 314	43 43 359	569 563 5,174	9.1	4.2%
26 29 1,029	18 21 892	27 28 823	19 21 799	24 21 848	23 22 771	276 268 9,566	35.2	7.8%
70 62 983	53 61 878	53 47 847	78 72 991	59 67 1,035	69 71 918	716 712 9,951	13.9	8.1%
119 124 938	95 100 756	98 91 721	121 117 945	105 108 838	103 121 957	1,194 1,195 9,733	8.1	7.9%
261 246 1,645	262 278 1,804	213 219 1,472	246 232 1,607	229 223 1,682	224 256 1,581	2,877 2,879 19,700	6.8	16.0%
75 69 887	68 76 833	68 70 772	79 65 1,018	57 72 919	44 57 644	676 683 8,797	12.9	7.1%
57 58 573	51 45 652	43 50 568	63 63 647	46 42 606	48 53 686	636 633 7,313	11.5	5.9%
41 33 442	23 28 434	28 24 347	30 31 415	36 26 515	16 39 402	317 318 4,616	14.5	3.7%
9 8 239	3 7 135	4 2 62	5 4 100	7 8 138	5 7 106	65 67 1,449	22.0	1.2%
68 68 385	57 64 328	74 73 289	70 65 337	66 69 355	54 59 334	823 822 4,645	5.6	3.8%
3 2 10	2 3 10	1 1 11	4 5 26	2 1 9	4 5 30	48 49 220	4.5	0.2%
0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	—	0.0%
14 16 83	17 15 84	15 17 77	18 16 95	15 16 110	14 17 91	186 189 1,149	6.1	0.9%

表 7 診療科別入院・退院患者数

(つづき)

科 別		区分 \ 月別	1	2	3	4	5	6
乳 腺 外 科		入 院 数	75	76	77	74	81	76
		退 院 数	75	61	83	73	79	82
		在 院 延 数	410	390	474	561	544	543
婦 人 科		入 院 数	89	102	102	128	125	113
		退 院 数	80	98	113	109	136	120
		在 院 延 数	734	835	797	916	983	850
泌 尿 器 科		入 院 数	116	102	114	98	112	115
		退 院 数	105	104	117	101	100	119
		在 院 延 数	836	721	743	675	867	826
骨 軟 部 腫 瘍 外 科		入 院 数	31	36	43	35	49	51
		退 院 数	24	35	40	39	45	56
		在 院 延 数	342	350	529	430	478	486
放 射 線 治 療 科	光 子 線	入 院 数	0	0	0	0	0	0
		退 院 数	0	0	0	0	0	0
		在 院 延 数	0	0	0	0	0	0
	重 粒 子	入 院 数	0	0	0	0	0	0
		退 院 数	0	0	0	0	0	0
		在 院 延 数	0	0	0	0	0	0
緩 和 ケ ア 内 科		入 院 数	1	1	0	0	0	0
		退 院 数	1	2	0	0	0	0
		在 院 延 数	12	10	0	0	0	0
感 染 症 内 科		入 院 数	0	0	0	0	0	0
		退 院 数	0	0	0	0	0	0
		在 院 延 数	0	0	0	0	0	0
合 計		入 院 数	1,112	1,043	1,106	1,111	1,158	1,122
		退 院 数	986	1,035	1,177	1,031	1,137	1,160
		在 院 延 数	9,346	9,295	9,716	9,589	10,420	10,381

(令和6年)

(単位：人)

7	8	9	10	11	12	計	平均在院日数	構成比 (%)
74 73 455	83 86 563	76 66 458	69 72 472	85 88 521	51 62 393	897 900 5,784	6.4	4.7%
114 105 942	119 129 865	134 130 870	121 123 835	102 106 634	112 111 738	1,361 1,360 9,999	7.3	8.1%
119 116 835	126 120 880	116 113 975	119 123 982	118 119 922	105 122 891	1,360 1,359 10,153	7.5	8.2%
51 42 381	50 49 542	49 44 466	56 59 471	63 66 578	58 65 548	572 564 5,601	9.9	4.5%
1 0 1	0 0 0	0 0 0	1 0 1	0 0 0	0 0 0	2 0 2	2.0	0.0%
0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	—	0.0%
1 0 7	3 2 26	1 2 67	2 2 55	1 1 28	2 2 45	12 12 250	20.8	0.2%
0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	—	0.0%
1,266 1,199 11,165	1,165 1,227 11,011	1,118 1,096 10,119	1,235 1,209 11,120	1,138 1,157 10,947	1,052 1,199 10,194	13,626 13,613 123,303	9.1	100.0%

表 8 入院患者年齢階級別数（令和 6 年）

（単位：人）

月別 年齢別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	構成比 (%)
～ 19	2	4	2	2	3	9	3	4	3	3	2	7	44	0.3%
20 ～ 29	19	18	13	18	15	15	14	12	15	11	18	16	184	1.4%
30 ～ 39	36	34	33	39	27	23	34	31	23	30	29	30	369	2.7%
40 ～ 49	73	71	78	77	100	80	87	102	96	101	88	94	1,047	7.7%
50 ～ 59	197	183	202	209	243	187	221	195	199	256	201	198	2,491	18.3%
60 ～ 64	140	127	150	150	135	134	142	144	143	160	122	124	1,671	12.3%
65 ～ 69	140	118	123	129	136	154	168	158	131	147	169	135	1,708	12.5%
70 ～ 74	186	189	211	186	186	191	216	170	167	180	203	168	2,253	16.5%
75以上	319	299	294	301	313	329	381	349	341	347	306	280	3,859	28.3%
合 計	1,112	1,043	1,106	1,111	1,158	1,122	1,266	1,165	1,118	1,235	1,138	1,052	13,626	100.0%

表9 入院患者地域別数（令和6年）

（単位：人）

市町村別	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	構成比 (%)
横 浜 市		646	632	666	697	721	697	779	724	675	724	703	607	8,271	60.7%
鶴 見 区		20	13	19	20	19	19	22	16	18	14	11	20	211	2.6%
神 奈 川 区		17	21	18	19	25	16	22	15	17	22	22	23	237	2.9%
西 区		13	10	13	12	10	7	16	20	17	9	17	7	151	1.8%
中 区		12	13	8	12	7	6	10	12	10	13	11	13	127	1.5%
南 区		18	11	19	21	18	26	17	21	21	14	23	14	223	2.7%
港 南 区		23	23	23	13	24	18	29	19	20	17	19	7	235	2.8%
保土ヶ谷区		43	46	48	47	78	58	58	66	57	58	46	43	648	7.8%
旭 区		201	191	191	212	193	194	238	217	202	221	186	170	2,416	29.2%
磯 子 区		7	7	9	9	8	8	10	10	5	4	8	4	89	1.1%
金 沢 区		9	9	6	5	8	2	6	8	1	3	5	5	67	0.8%
港 北 区		21	31	26	28	20	25	42	36	29	37	39	25	359	4.3%
緑 区		31	30	34	33	35	30	44	34	37	39	45	37	429	5.2%
戸 塚 区		49	38	47	70	52	59	51	43	50	63	60	43	625	7.6%
瀬 谷 区		66	74	77	80	83	83	78	82	71	78	78	86	936	11.3%
栄 区		11	11	8	12	5	14	5	1	5	6	10	7	95	1.1%
泉 区		70	66	71	56	81	72	77	60	65	71	69	47	805	9.7%
青 葉 区		15	20	21	21	26	26	24	24	23	27	21	22	270	3.3%
都 筑 区		20	18	28	27	29	34	30	40	27	28	33	34	348	4.2%
川 崎 市		23	37	35	26	37	30	31	42	38	32	34	41	406	3.0%
横 須 賀 市		19	11	25	18	16	19	25	9	18	33	20	16	229	1.7%
平 塚 市		10	21	17	11	14	10	10	14	12	12	20	16	167	1.2%
鎌 倉 市		11	13	17	11	12	10	10	9	10	20	14	12	149	1.1%
藤 沢 市		37	35	33	39	42	38	52	50	44	55	40	46	511	3.8%
小 田 原 市		11	12	9	7	5	7	12	7	8	13	8	6	105	0.8%
茅ヶ崎市		33	22	19	31	16	19	18	25	17	13	14	20	247	1.8%
逗 子 市		2	2	1	3	0	2	1	1	4	0	1	1	18	0.1%
相 模 原 市		40	35	34	31	43	47	46	30	27	41	47	46	467	3.4%
三 浦 市		9	4	7	5	6	6	4	3	4	5	2	3	58	0.4%
秦 野 市		8	7	10	5	7	8	6	4	8	9	6	2	80	0.6%
厚 木 市		8	8	15	17	12	5	11	8	9	16	9	8	126	0.9%
大 和 市		89	63	58	49	76	84	86	72	68	84	62	66	857	6.3%
伊 勢 原 市		4	3	4	5	6	5	7	7	2	2	5	5	55	0.4%
海 老 名 市		25	22	29	29	36	34	34	34	41	39	25	35	383	2.8%
座 間 市		28	28	27	24	21	27	30	30	19	27	22	17	300	2.2%
南 足 柄 市		0	0	2	0	1	1	0	1	0	1	2	0	8	0.1%
綾 瀬 市		29	27	27	30	23	14	32	26	28	27	22	30	315	2.3%
葉 山 町		4	1	3	8	4	5	2	2	6	7	6	6	54	0.4%
寒 川 町		4	6	4	6	3	5	6	7	12	5	4	2	64	0.5%
愛 川 町		4	4	5	3	2	2	2	2	2	1	4	2	33	0.2%
清 川 村		0	0	0	0	3	1	0	1	0	2	0	0	7	0.1%
大 磯 町		2	3	3	0	3	2	2	2	2	3	4	5	31	0.2%
二 宮 町		0	1	3	1	0	0	2	4	3	2	1	2	19	0.1%
中 井 町		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.0%
大 井 町		0	1	1	3	2	2	1	1	1	0	0	1	13	0.1%
松 田 町		0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3	0.0%
山 北 町		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
開 成 町		2	1	1	4	1	1	1	0	0	0	0	0	11	0.1%
箱 根 町		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
真 鶴 町		0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	1	1	6	0.0%
湯 河 原 町		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.0%
県 内 計		1,048	999	1,055	1,063	1,113	1,081	1,211	1,115	1,059	1,178	1,077	996	12,995	95.4%
県 外 計		64	44	51	48	45	41	55	50	59	57	61	56	631	4.6%
総 計		1,112	1,043	1,106	1,111	1,158	1,122	1,266	1,165	1,118	1,235	1,138	1,052	13,626	100.0%

表10 科別死亡退院患者数・剖検数

月 別		1			2			3			4			5			6		
科別	性別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	内 科	0 18	0 7	0 25	0 17	0 6	0 23	0 17	1 10	1 27	0 14	0 10	0 24	0 20	0 11	0 31	0 14	0 8	0 22
消化器内科	消化管	2	1	3	5		5	4	1	5	3		3	6	1	7	1		1
	肝胆膵	7	4	11	8	4	12	5	3	8	4	6	10	7	6	13	6	4	10
呼吸器内科		6		6	2	1	3	6	1	11	7	2	9	6		6	7		7
血液科		1		1	1	1	2					1	1		2	2		1	1
腫瘍内科		2	2	4	1		1	2	1	3		1	1	1	2	3		3	3
循環器内科																			
外 科		0 6	0 10	0 16	0 3	0 4	0 7	0 5	0 3	0 8	0 5	0 7	0 12	0 2	1 9	1 11	1 6	0 12	1 18
消化器外科	胃食道	2	1	3	2		2				2		2				1 2		1 2
	大腸	1	1	2				1		1	1		1	1		1			
	肝胆膵							1	1	2					1	1			
呼吸器外科											1		1				1		1
内分泌外科			1	1		1	1		1	1		1	1					1	1
乳腺外科			1	1					1	1					2	2		2	2
婦人科			5	5		2	2					4	4		4	4		7	7
泌尿器科		3	1	4	1		1	1		1		2	2				1	1	2
皮膚科																			
頭頸部外科								1		1	1		1						
形成外科																			
脳神経外科						1	1								1	1			
骨軟部腫瘍外科								1		1				1	1	2	2	1	3
放射線腫瘍科																			
緩和ケア内科			1	1	1	1	2												
合 計		0 24	0 18	0 42	0 21	0 11	0 32	0 22	1 13	1 35	0 19	0 17	0 36	0 22	1 20	1 42	1 20	0 20	1 40

※ ゴシックは各科合計数

※ 外来剖検数 0

(令和6年)

上段の数字は剖検数 剖検率0.7% (単位:人)

7			8			9			10			11			12			合 計		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
22	7	29	19	9	28	17	13	30	16	8	24	16	14	30	17	7	24	207	110	317
3	3	6	4	2	6	2	1	3	6		6	8	2	10	3		3	0	0	0
																		0	0	0
9	2	11	4	4	8	6	5	11	3	4	7	5	7	12	7	4	11	71	53	124
			1		1													1	1	2
4	2	6	4		4	4	2	6	4	2	6	2	1	3	4		4	56	15	71
																		0	0	0
4		4	2		2	2	2	4	2	2	4	1	1	2	1		1	14	10	24
																		0	0	0
2		2	5	3	8	3	3	6	1		1		3	3	2	3	5	19	21	40
																		0	0	0
																		0	0	0
1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	4
11	4	15	9	6	15	5	6	11	6	5	11	3	4	7	6	4	10	67	74	141
																		1	0	1
1		1	2	1	3							1	1	2	2		2	14	3	17
																		0	0	0
	1	1	1		1				1		1		1	1	1		1	7	3	10
						1		1										1	0	1
						1		1										2	2	4
1		1																1	0	1
3		3																5	0	5
																		0	0	0
							1	1							1	1	2	1	7	8
																		0	0	0
	1	1		1	1					2	2							0	10	10
																		0	1	1
	2	2		2	2		4	4		3	3		2	2		1	1	0	36	36
																		0	0	0
3		3	4		4	1		1	5		5	1		1	2	1	3	22	5	27
																		0	0	0
																		0	0	0
																		0	0	0
3		3	1	1	2	2		2										8	1	9
																		0	0	0
																		0	0	0
																		0	0	0
1		1										1		1		1	1	2	3	5
																		0	0	0
			1	1	2	1	1	2										6	4	10
																		0	0	0
																		0	0	0
				1	1		2	2		1	1		1	1	2		2	3	7	10
1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	6
33	11	44	28	16	44	22	21	43	22	14	36	19	19	38	25	11	36	277	191	468

表11 科別手術件数（令和6年）

（単位：件）

診療科 \ 月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計	構成比 (%)
形 成 外 科	12	16	15	9	20	17	12	8	10	10	7	17	153	4.0%
呼 吸 器 外 科	49	61	49	44	49	39	51	51	38	41	41	42	555	14.6%
呼 吸 器 内 科	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0.1%
骨 軟 腫 瘍 外 科	21	24	30	16	22	22	13	24	19	23	27	25	266	7.0%
消 外 胃 食 道	18	15	17	17	16	16	24	21	17	23	18	16	218	5.7%
消 外 肝 胆 膵	22	24	21	19	15	16	31	28	22	30	30	18	276	7.3%
消 外 大 腸	28	21	27	31	29	22	20	30	23	29	27	26	313	8.3%
消 内 消 化 管	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3	6	0.2%
消 内 肝 胆 膵	11	12	11	11	5	6	11	7	9	11	6	9	109	2.9%
頭 頸 部 外 科	32	33	35	35	39	34	34	39	32	42	36	29	420	11.1%
乳 腺 外 科	10	9	12	10	11	18	11	12	10	12	11	10	136	3.6%
内 分 泌 外 科	7	5	6	9	5	5	7	4	5	4	5	6	68	1.8%
脳 神 経 外 科	56	55	66	53	58	71	70	77	74	72	81	70	803	21.2%
泌 尿 器 科	32	35	35	38	49	30	36	40	38	43	41	38	455	12.0%
婦 人 科	1	2	1	1	0	0	1	2	1	1	0	0	10	0.3%
血 液 内 科	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0.1%
緩 和 ケ ア 内 科	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.0%
合 計	299	313	325	293	321	297	322	345	298	341	330	309	3,793	100.0%

表12 麻酔別手術件数（令和6年）

（単位：件）

麻酔法 \ 月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計	構成比 （%）
全 身 麻 酔	261	268	277	252	271	248	275	304	255	306	286	264	3,267	86.5%
局 所 麻 酔	17	19	20	16	22	20	17	11	11	10	10	20	193	5.2%
腰 椎 麻 酔	0	0	0	0	1	1	2	1	3	0	1	0	9	0.2%
静 脈 麻 酔	20	24	26	23	24	28	28	29	27	24	30	24	307	8.1%
合 計	298	311	323	291	318	297	322	345	296	340	327	308	3,776	100.0%

表13 放射線検査件数

撮影別		1 月		2 月		3 月		4 月		5 月		6 月		7 月	
		件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数
単 純 撮 影	頭 部	21	39	16	28	20	40	20	41	12	23	12	22	11	23
	胸 部	3,225	3,844	3,083	3,687	3,209	3,836	3,219	3,849	3,408	4,071	3,257	3,850	3,636	4,320
	腹 部	1,053	1,845	982	1,700	1,020	1,752	1,005	1,742	1,181	2,038	1,100	1,910	1,187	2,004
	椎 骨	21	40	24	48	36	82	33	64	37	82	25	45	18	35
	四 肢 骨	61	117	63	121	94	182	88	163	112	209	106	188	86	164
	乳 房	281	1,825	295	1,830	290	1,754	296	1,884	320	1,974	232	1,382	324	3,188
	乳 房 生 検	2	24	7	67	7	38	3	28	1	10	2	20	4	53
	軟 部 組 織	33	67	35	81	35	77	31	69	38	79	36	78	34	74
	計	4,697	7,801	4,505	7,562	4,711	7,761	4,695	7,840	5,109	8,486	4,770	7,495	5,300	9,861
造 影 撮 影	食 道 ・ 胃	39	171	32	136	48	205	47	183	48	187	44	216	58	242
	注 腸 法	4	20	4	20	9	41	9	37	10	46	7	31	7	36
	胆 嚢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P T C D	25	99	38	147	27	110	13	56	20	96	17	83	39	166
	E R C P	276	728	196	556	205	571	207	577	280	749	242	679	247	667
	泌 尿 器	47	186	46	194	41	145	39	156	50	182	35	128	39	157
	ミ エ 口	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血 管	58	4,643	51	3,961	56	3,936	73	7,553	71	6,641	72	8,125	95	7,332
	そ の 他	4	19	8	34	3	11	13	71	6	27	4	16	7	38
	計	453	5,866	375	5,048	389	5,019	401	8,633	485	7,928	421	9,278	492	8,638
特 殊 撮 影	断 層	27	28	42	43	65	65	42	42	39	41	43	43	38	40
	C T 単 純	3,381	318,585	3,312	374,444	3,545	323,057	3,258	323,875	3,488	339,037	3,537	344,070	3,559	344,413
	C T 造 影	5,163	543,810	5,153	534,120	5,427	570,277	5,386	555,927	5,712	594,206	5,235	553,125	5,772	602,201
	M R I	836	149,555	861	156,724	935	163,315	858	154,806	923	172,661	905	158,770	940	171,207
	計	9,407	1,011,978	9,368	1,065,331	9,972	1,056,714	9,544	1,034,650	10,162	1,105,945	9,720	1,056,008	10,309	1,117,861
総 合 計		14,557	1,025,645	14,248	1,077,941	15,072	1,069,494	14,640	1,051,123	15,756	1,122,359	14,911	1,072,781	16,101	1,136,360

(令和 6 年)

8 月		9 月		10 月		11 月		12 月		合 計		1 日平均		構成比 (%)	
件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数
14	26	16	33	14	27	13	28	8	15	177	345	0.9	1.7	0.10%	0.00%
3,584	4,216	3,197	3,757	3,601	4,262	3,236	3,833	3,223	3,839	39,878	47,364	199.4	236.8	21.99%	0.37%
1,235	2,128	1,009	1,735	1,271	2,169	1,138	1,968	1,121	1,942	13,302	22,933	66.5	114.7	7.34%	0.18%
28	54	19	37	37	69	36	74	37	73	351	703	1.8	3.5	0.19%	0.01%
103	191	81	154	96	171	90	180	100	185	1080	2025	5.4	10.1	0.60%	0.02%
257	1657	287	1739	299	1,818	286	1,875	258	1,627	3,425	22,553	17.1	112.8	1.89%	0.17%
3	37	5	33	3	7	7	74	7	64	51	455	0.3	2.3	0.03%	0.00%
43	87	33	74	42	93	36	72	27	60	423	911	2.1	4.6	0.23%	0.01%
5,267	8,396	4,647	7,562	5,363	8,616	4,842	8,104	4,781	7,805	58,687	97,289	293.4	486.4	32.36%	0.75%
56	231	32	149	41	187	51	241	41	171	537	2319	2.7	11.6	0.30%	0.02%
7	34	8	40	6	30	4	20	5	25	80	380	0.4	1.9	0.04%	0.00%
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.00%	0.00%
35	146	17	80	34	139	21	86	19	80	305	1,288	1.5	6.4	0.17%	0.01%
209	576	162	452	229	677	148	394	186	504	2,587	7,130	12.9	35.7	1.43%	0.06%
46	173	50	195	46	187	50	203	55	215	544	2,121	2.7	10.6	0.30%	0.02%
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.00%	0.00%
60	4,795	71	3,901	80	7,748	59	5,384	57	3,621	803	67,640	4.0	338.2	0.44%	0.52%
4	16	4	20	5	21	3	19	3	6	64	298	0.3	1.5	0.04%	0.00%
417	5,971	344	4,837	441	8,989	336	6,347	366	4,622	4,920	81,176	24.6	405.9	2.71%	0.63%
47	49	48	50	44	45	45	46	54	54	534	546	2.7	2.7	0.29%	0.00%
3,388	317,950	3,370	319,200	3,627	359,885	3,419	327,000	3,295	318,816	41,179	4,010,332	205.9	20,051.7	22.71%	31.11%
5,256	532,564	5,245	536,210	5,987	626,502	5,471	551,560	5,546	574,920	65,353	6,775,422	326.8	33,877.1	36.04%	52.56%
865	159,657	836	149,525	935	167,462	918	166,955	860	156,567	10,672	1,927,204	53.4	9,636.0	5.88%	14.95%
9,556	1,010,220	9,499	1,004,985	10,593	1,153,894	9,853	1,045,561	9,755	1,050,357	117,738	12,713,504	588.7	63,567.5	64.92%	98.62%
15,240	1,024,587	14,490	1,017,384	16,397	1,171,499	15,031	1,060,012	14,902	1,062,784	181,345	12,891,969	906.7	64,459.8	100.0%	100.0%

表14 放射線治療件数（光子線）（令和6年）

(1)第1 リニアック

月 別 区 分		2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1 - 12 合計
脳	人件 延回数 数数数数													
頭 頸 部	人件 延回数 数数数数													
乳 房	人件 延回数 数数数数													
胸 部	人件 延回数 数数数数													
消 化 器	人件 延回数 数数数数													
泌 尿 器	人件 延回数 数数数数													
前 立 腺	人件 延回数 数数数数													
婦 人 科	人件 延回数 数数数数													
骨 / 軟 部	人件 延回数 数数数数													
血 / リンパ	人件 延回数 数数数数													
小 児	人件 延回数 数数数数													
そ の 他	人件 延回数 数数数数													
良 性	人件 延回数 数数数数													
全 身	人件 延回数 数数数数													
合 計	人件 延回数 数数数数													

(2)第2 リニアック

月 別 区 分		2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1 - 12 合計
脳	人件数				1	3	2	6	1	1	1	1	1	17
	延人数				1	3	2	6	1	1	1	1	1	17
	延回数				3	4	4	46	8	2	10	1	10	88
	延回数				6	11	17	183	32	8	30	2	40	329
頭 頸 部	人件数	4	4	4	5	3	5	3	1	2	3	3	3	40
	延人数	4	4	4	5	3	5	3	1	2	3	3	3	40
	延回数	58	41	48	28	41	43	21	4	9	35	28	40	396
	延回数	144	101	116	64	89	89	42	8	23	80	56	80	892
乳 房	人件数	32	36	20	31	36	35	27	26	24	25	23	25	340
	延人数	49	52	31	44	60	55	44	42	43	40	40	41	541
	延回数	514	361	297	499	601	511	416	402	367	514	354	437	5,273
	延回数	1,965	1,327	1,106	1,844	2,085	1,692	1,473	1,490	1,277	1,786	1,279	1,570	18,894
胸 部	人件数	4	5	7	5	9	9	7	9	11	2	5	5	78
	延人数	5	5	7	5	10	9	7	11	12	2	5	7	85
	延回数	41	47	44	45	105	93	65	114	133	31	75	76	869
	延回数	129	174	152	186	372	345	183	345	451	124	202	294	2,957
消 化 器	人件数	13	15	18	21	16	16	16	17	15	16	10	9	182
	延人数	14	17	20	23	17	16	22	19	19	18	12	9	206
	延回数	82	142	196	212	210	164	193	190	185	163	104	58	1,899
	延回数	319	558	788	828	812	665	677	713	713	616	411	189	7,289
泌 尿 器	人件数	1				1	1				1			4
	延人数	3				1	2				1			7
	延回数	13				11	19				1			44
	延回数	52				44	86				4			186
前 立 腺	人件数													
	延人数													
	延回数													
	延回数													
婦 人 科	人件数		2	1	1	2	4	2	3	2		1	2	20
	延人数		2	2	1	2	6	2	4	4		1	2	26
	延回数		3	19	4	22	17	25	38	17		1	19	165
	延回数		12	70	12	88	53	100	150	50		4	77	616
骨 / 軟 部	人件数	7	6	8	13	9	7	15	8	10	7	12	8	110
	延人数	9	8	11	16	11	9	19	9	13	8	14	12	139
	延回数	34	44	72	91	77	47	78	39	69	52	56	24	683
	延回数	78	98	182	226	184	121	195	141	224	96	114	48	1,707
血 / リンパ	人件数	5	12	7	15	9	6	11	14	9	7	10	9	114
	延人数	5	12	9	18	13	7	11	16	10	7	10	10	128
	延回数	34	66	106	146	114	66	75	163	96	67	76	109	1,118
	延回数	108	190	296	483	415	255	235	462	288	206	244	341	3,523
小 児	人件数													
	延人数													
	延回数													
	延回数													
そ の 他	人件数	1	1		2	2	1	4	3	2		1		17
	延人数	2	1		3	3	2	5	5	2		1		24
	延回数	4	2		11	47	8	19	26	17		1		135
	延回数	5	2		44	178	32	48	52	61		3		425
良 性	人件数													
	延人数													
	延回数													
	延回数													
合 計	人件数	67	81	65	94	90	86	91	82	76	62	66	62	922
	延人数	91	101	84	116	123	113	119	108	106	80	87	85	1,213
	延回数	789	712	787	1,046	1,241	979	938	984	895	873	696	773	10,713
	延回数	2,836	2,486	2,730	3,721	4,314	3,383	3,136	3,393	3,095	2,942	2,315	2,639	36,990
全 身 照 射	延人数	9	6	5	7	9	7							43
	延回数	36	24	20	28	36	28							172

(3)第3 リニアック

月 別 区 分		2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1 - 12 合計
脳	人件数	3	1	1		3	1	6	8	4	4	5	4	40
	延人数	4	1	1		3	1	7	8	4	4	5	4	42
	延回数	40	2	3		31	2	50	40	25	32	45	34	304
	延回数	166	10	12		112	6	185	158	87	138	162	136	1,172
脳 I M R T	人件数													
	延人数													
	延回数													
	延回数													
頭 頸 部	人件数	1	1	4			2	2		1			1	12
	延人数	1	1	4			2	2		1			1	12
	延回数	1	17	19			11	7		5			1	61
	延回数	3	51	56			28	14		10			2	164
頭 頂 部 I M R T	人件数													
	延人数													
	延回数													
	延回数													
乳 房	人件数	8	9	5	1	4	5	3	2	4	3	1	5	50
	延人数	11	12	9	2	6	6	5	2	5	4	2	7	71
	延回数	68	96	66	4	54	27	16	21	42	29	5	24	452
	延回数	214	375	231	14	197	90	61	84	153	77	7	95	1,598
胸 部	人件数	4	4	1	1	2	1	2	1	1		2	4	23
	延人数	4	4	1	1	2	1	2	1	1		2	4	23
	延回数	38	19	6	1	5	12	2	1	1		6	20	111
	延回数	132	73	24	2	60	154	5	2	3		12	55	522
胸 部 I M R T	人件数													
	延人数													
	延回数													
	延回数													
消 化 器	人件数	6	8	4	10	11	5	4	7	7	5	4	4	75
	延人数	6	8	4	12	11	6	5	8	8	5	4	4	81
	延回数	58	69	27	79	101	59	45	59	55	52	17	12	633
	延回数	232	276	106	313	402	243	165	245	201	206	63	43	2,495
消 化 器 I M R T	人件数		1	1	1	2	1	2	1	5	5	1	1	21
	延人数		1	2	1	2	2	2	2	2	9	1	1	25
	延回数		17	16	1	19	16	26	16	74	75	2	4	266
	延回数		34	19	3	49	32	52	32	149	135	2	8	515
泌 尿 器	人件数	1	1	2	3	2	1	1	1	1	2	1		16
	延人数	1	1	2	6	2	1	2	1	1	3	2		22
	延回数	13	12	29	45	10	4	22	6	12	32	15		200
	延回数	65	60	133	183	38	12	66	18	48	128	60		811
泌 尿 器 I M R T	人件数								1	1	1			3
	延人数								1	1	1			3
	延回数								13	19	1			33
	延回数								26	38	2			66
前 立 腺	人件数			1	3	2	1				1	1	1	10
	延人数			2	4	2	1				1	2	2	14
	延回数			10	25	24	6				4	13	10	92
	延回数			20	110	144	36				16	52	40	418
前 立 腺 I M R T	人件数	6	7	13	11	13	16	23	23	13	11	5	3	144
	延人数	6	7	14	11	13	16	24	23	13	11	5	3	146
	延回数	29	107	171	163	147	215	312	286	192	109	76	27	1,834
	延回数	59	233	357	326	294	417	603	567	384	218	152	54	3,664
婦 人 科	人件数	8	6	6	12	15	14	16	13	10	13	9	11	133
	延人数	12	9	10	19	20	18	21	20	16	22	12	13	192
	延回数	106	52	79	129	172	151	159	179	114	161	72	109	1,483
	延回数	422	194	323	472	655	557	592	694	407	585	210	393	5,504

月 別 区 分		2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1 - 12 合計
婦 人 科 I M R T	人 数	4	3	6	7	7	4	1	1	1	3	6	4	47
	件 数	5	3	7	9	9	4	1	1	3	4	7	6	59
	延 人 数	37	43	51	92	72	38	1	21	11	24	71	67	528
	延 回 数	74	86	102	180	139	76	2	42	19	48	142	134	1,044
骨 / 軟 部	人 数	17	10	14	10	10	6	1	7	4	7	18	17	121
	件 数	20	13	16	11	15	9	14	8	5	7	21	24	163
	延 人 数	62	25	60	46	37	17	30	22	17	19	60	81	476
	延 回 数	166	56	143	126	82	34	61	49	39	57	159	200	1,172
骨 / 軟 部 I M R T	人 数			1	1									2
	件 数			1	2									3
	延 人 数			14	19									33
	延 回 数			28	38									66
骨 / 軟 部 S R T	人 数													
	件 数													
	延 人 数													
	延 回 数													
血 / リンパ	人 数	7	8	5	8	9	4	2	1	2	4	4	9	63
	件 数	7	11	7	11	10	5	3	1	2	4	5	12	78
	延 人 数	57	84	43	67	70	52	24	1	11	38	37	86	570
	延 回 数	218	356	122	188	227	180	96	4	44	132	116	245	1,928
血 / リンパ I M R T	人 数	2			2	3	1				1	1	1	11
	件 数	3			2	3	3				1	1	1	14
	延 人 数	29			16	42	6				2	20	8	123
	延 回 数	58			32	84	7				4	40	16	241
原 体	人 数													
	件 数													
	延 人 数													
	延 回 数													
小 児	人 数													
	件 数													
	延 人 数													
	延 回 数													
そ の 他	人 数	1	1	2	1	1		1		2	1	2		12
	件 数	1	1	4	1	1		1		2	1	2		14
	延 人 数	1	8	33	10	2		1		2	4	19		80
	延 回 数	3	32	168	40	8		3		5	12	62		333
そ の 他 I M R T	人 数			1	1									2
	件 数			1	1									2
	延 人 数			4	10									14
	延 回 数			12	30									42
良 性	人 数													
	件 数													
	延 人 数													
	延 回 数													
合 計	人 数	68	60	67	72	84	62	64	66	56	61	60	65	785
	件 数	81	72	85	93	99	75	89	76	64	77	71	82	964
	延 人 数	539	551	631	707	786	616	695	665	580	582	458	483	7,293
	延 回 数	1,812	1,836	1,856	2,057	2,491	1,872	1,905	1,921	1,587	1,758	1,239	1,421	21,755
I M R T	人 数	12	11	22	23	25	22	26	26	20	21	13	9	230
	件 数	14	11	25	26	27	25	27	27	19	26	14	11	252
	延 人 数	95	167	256	301	280	275	339	336	296	211	169	106	2,831
	延 回 数	191	353	518	609	566	532	657	667	590	407	336	212	5,638
S R T	人 数													
	件 数													
	延 人 数													
	延 回 数													

(4)第4 リニアック

月 別		2024												1 - 12
区 分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
脳	人件 延回数	1 1 3 12				1 1 12 36	1 1 3 9		1 1 10 40		2 2 7 22	1 1 3 18	1 1 3 6	8 8 41 143
脳 I M R T	人件 延回数										1 1 4 8	1 1 20 40	2 2 12 24	4 4 36 72
頭 頸 部 S R T	人件 延回数						1 1 5 10	1 1 5 10						2 2 10 20
頭 頸 部	人件 延回数		4 4 20 76	5 6 33 143	9 10 39 159	6 6 32 88	1 1 11 44		2 3 13 53	1 2 2 7	3 3 23 79	3 3 25 80		40 44 223 829
頭 頸 部 I M R T	人件 延回数	17 22 244 495	16 20 168 334	19 24 223 436	24 30 310 615	24 33 354 701	16 18 160 320	7 7 111 266	8 8 95 216	10 10 130 260	11 12 140 280	15 16 172 344	16 17 237 496	244 284 3,122 6,439
乳 房	人件 延回数													0 0 0 0
乳 I M R T	人件 延回数		1 1 17 51	1 1 8 24	1 1 3 9	1 1 21 63	2 2 15 59	1 1 11 44			1 1 16 32			8 8 91 282
胸 部	人件 延回数	2 2 11 44	1 1 2 8	2 2 10 30		1 1 9 18	3 3 9 32	4 5 39 137	5 5 47 173	2 2 16 64	2 2 24 96		2 2 25 90	24 25 192 692
胸 I M R T	人件 延回数	4 4 57 114	4 4 32 64	5 5 57 142	6 7 66 158	4 4 47 94	2 2 20 40	1 1 15 30	2 3 30 60	3 4 26 52	2 3 24 48	3 3 50 100	4 4 42 84	45 49 538 1,130
胸 部 S R T	人件 延回数	3 3 11 22	4 4 17 38	6 6 21 42	5 5 21 74		4 4 14 40	6 6 33 163	1 1 1 9	3 3 16 52	4 4 16 32	3 3 20 72	3 3 13 26	48 48 207 738
消 化 器 I M R T	人件 延回数	1 1 13 26	3 3 34 68	3 4 32 59	1 2 9 15		1 1 3 6	6 7 69 180	8 11 95 193	3 6 49 98	2 2 16 32	4 5 52 99	6 8 58 106	50 67 593 1,213
消 化 器 S R T	人件 延回数		1 1 5 10		1 1 5 45	1 1 3 6	1 1 2 4	1 1 5 10	1 1 3 6	3 3 10 20	1 1 5 5			15 15 58 181
消 化 器	人件 延回数	1 1 11 33	4 4 30 133	2 2 15 72			1 1 5 15	4 5 24 77	3 4 25 82		1 1 5 20	1 1 5 20	3 3 17 53	20 22 137 505
泌 尿 器	人件 延回数								1 1 1 2					1 1 1 2
泌 尿 器 I M R T	人件 延回数													0 0 0 0
前 立 腺	人件 延回数													0 0 0 0
前 立 腺 I M R T	人件 延回数													0 0 0 0

月 別 区 分		2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1 - 12 合計
婦 人 科 I M R T	人件数	1	2	2		1	3	3	3	4	3	2		24
	延回数	1	2	2		1	3	3	3	4	3	2		24
	人件数	7	30	21		7	25	43	28	33	60	6		260
	延回数	14	60	42		14	57	96	56	71	142	13		565
婦 人 科	人件数					1	3	1						5
	延回数					1	5	1						7
	人件数					9	30	2						41
	延回数					36	109	4						149
骨 / 軟 部	人件数	1	1			7	4	3	3	3	4			26
	延回数	1	1			8	5	3	3	4	4			29
	人件数	10	10			25	13	24	5	16	16			119
	延回数	30	30			78	38	70	15	37	47			345
骨 / 軟 部 I M R T	人件数	1	1				1		3	1	1			8
	延回数	1	1				1		4	2	1			10
	人件数	11	1				5		28	19	4			68
	延回数	22	2				10		56	38	8			136
骨 / 軟 部 S R T	人件数				1				1				1	3
	延回数				2				1				1	4
	人件数				10				5				5	20
	延回数				30				10				10	50
血 / リンパ	人件数					1	1	1		4	2	1		11
	延回数					1	1	1		4	2	1		11
	人件数					5	1	5		16	24	1		57
	延回数					20	2	25		41	68	3		189
血 / リンパ I M R T	人件数	3	1	2	4	3	2	2	1		2	2		24
	延回数	5	2	2	4	3	2	2	1		2	3		29
	人件数	59	26	21	51	36	23	23	3		9	26		303
	延回数	118	52	26	85	72	46	46	6		18	52		573
血 / リンパ S R T	人件数					2		1	1	1				5
	延回数					2		2	2	1				7
	人件数					10		6	4	5				25
	延回数					20		12	8	10				50
小 児	人件数													0
	延回数													0
	人件数													0
	延回数													0
そ の 他	人件数						1							1
	延回数						1							1
	人件数						10							10
	延回数						30							30
そ の 他 I M R T	人件数										1			1
	延回数										1			1
	人件数										5			5
	延回数										10			10
そ の 他 S R T	人件数			1								1	1	3
	延回数			1								1	1	3
	人件数			5								5	5	15
	延回数			10								10	10	30
良 性 I M R T	人件数													0
	延回数													0
	人件数													0
	延回数													0
良 性	人件数													0
	延回数													0
	人件数													0
	延回数													0
合 計	人件数	35	43	48	52	53	48	42	44	38	43	37	39	522
	延回数	42	48	55	62	63	53	46	52	45	45	40	42	593
	人件数	437	392	446	514	570	354	415	393	338	398	385	417	5,059
	延回数	930	926	1,026	1,190	1,246	871	1,170	985	750	947	851	905	11,797
I M R T 計	人件数	27	28	32	36	33	27	20	25	21	24	27	28	328
	延回数	34	33	38	44	42	29	21	30	26	26	30	31	384
	人件数	391	308	362	439	465	251	272	279	257	278	326	349	3,977
	延回数	789	631	729	882	944	538	662	587	519	578	648	710	8,217
S R T 計	人件数	3	5	7	7	3	6	9	4	7	5	4	5	65
	延回数	3	5	7	8	3	6	10	5	7	5	4	5	68
	人件数	11	22	26	36	13	21	49	13	31	21	25	23	291
	延回数	22	48	52	149	26	54	195	33	82	37	82	46	826

(5)小線源治療

月 別 区 分		2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1 - 12 合計
脳	人件 延回数 数数数													
頭 頸 部	人件 延回数 数数数													
乳 房	人件 延回数 数数数													
胸 部	人件 延回数 数数数													
消 化 器	人件 延回数 数数数													
泌 尿 器	人件 延回数 数数数													
前 立 腺	人件 延回数 数数数													
婦 人 科	人件 延回数 数数数	20 20	15 15	23 23	20 20	28 28	27 27	20 20	28 28	28 28	40 40	18 18	19 19	286 286
骨 / 軟 部	人件 延回数 数数数													
血 / リンパ	人件 延回数 数数数													
小 児	人件 延回数 数数数													
そ の 他	人件 延回数 数数数													
良 性	人件 延回数 数数数													
組 織 内	人件 延回数 数数数	2 2	11 11	1 1	5 5	6 6	5 5	14 14	5 5	10 10	8 8	6 6	8 8	81 81
合 計	人件 延回数 数数数	22 22	26 26	24 24	25 25	34 34	32 32	34 34	33 33	38 38	48 48	24 24	27 27	367 367

表15 放射線治療件数（重粒子線）（令和 6 年）

(1)重粒子照射室 1

月 別 区 分		2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1 - 12 合計
脳	人件 延人数 延回数													
頭 頸 部	人件 延人数 延回数													
乳 房	人件 延人数 延回数													
胸 部	人件 延人数 延回数													
消 化 器	人件 延人数 延回数													
泌 尿 器	人件 延人数 延回数													
前 立 腺	人件 延人数 延回数	24 24 159 159	24 24 167 167	25 25 170 170	26 26 187 187	26 26 171 171	22 22 137 137	25 25 157 157	21 21 130 130	22 22 156 156	33 33 235 235	30 30 200 200	25 25 202 202	303 303 2,071 2,071
婦 人 科	人件 延人数 延回数													
骨 / 軟 部	人件 延人数 延回数													
血 / リンパ	人件 延人数 延回数													
小 児	人件 延人数 延回数													
そ の 他	人件 延人数 延回数													
良 性	人件 延人数 延回数													
合 計	人件 延人数 延回数	24 24 159 159	24 24 167 167	25 25 170 170	26 26 187 187	26 26 171 171	22 22 137 137	25 25 157 157	21 21 130 130	22 22 156 156	33 33 235 235	30 30 200 200	25 25 202 202	303 303 2,071 2,071

(注) 1. 延人数：1 部位の照射につき，1 件とする。複数部位の場合は，その部位数に準じる。
2. 延回数：運動照射の場合はアーク数とする。

(2)重粒子照射室 2

月 別 区 分		2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1 - 12 合計
脳	人件 延人数 延回数													
頭 頸 部	人件 延人数 延回数							1 1 11 22	3 3 22 44	2 2 30 60		2 2 10 20	2 2 22 44	10 10 95 190
乳 房	人件 延人数 延回数													
胸 部	人件 延人数 延回数			1 1 1 2		1 1 4 8	2 2 8 16	1 1 4 8		1 1 4 8	2 2 4 8	2 2 5 10	4 4 15 30	14 14 45 90
消 化 器	人件 延人数 延回数	4 4 20 31	6 6 17 32	7 7 24 48	8 8 28 56	7 7 30 40	7 7 46 54	6 6 35 45	12 12 39 61	5 5 18 28	5 5 39 43	8 8 37 51	12 12 81 93	87 87 414 582
泌 尿 器	人件 延人数 延回数													
前 立 腺	人件 延人数 延回数	23 23 144 144	29 29 176 176	23 23 168 168	22 22 182 182	28 28 170 170	15 15 108 108	13 13 90 90	8 8 42 42	5 5 34 34	15 15 118 118	10 10 73 73	9 9 46 46	200 200 1,351 1,351
婦 人 科	人件 延人数 延回数					1 1 1 1			1 1 2 2	2 2 13 13	1 1 4 8			5 5 20 24
骨 / 軟 部	人件 延人数 延回数	1 1 15 15							1 1 8 8	1 1 7 7	4 4 47 53	3 3 21 31	1 1 12 12	11 11 110 126
血 / リンパ	人件 延人数 延回数		1 1 11 11	1 1 5 5						1 1 12 12	1 1 2 2	1 1 10 10		5 5 40 40
小 児	人件 延人数 延回数													
そ の 他	人件 延人数 延回数													
良 性	人件 延人数 延回数													
合 計	人件 延人数 延回数	28 28 179 190	36 36 204 219	32 32 198 223	30 30 210 238	37 37 205 219	24 24 162 178	21 21 140 165	25 25 113 157	17 17 118 162	28 28 214 232	26 26 156 195	28 28 176 225	332 332 2,075 2,403

1. 延人数：1部位の照射につき、1件とする。複数部位の場合は、その部位数に準じる。

2. 延回数：運動照射の場合はアーク数とする。

(3)重粒子照射室 3

月 別 区 分		2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1 - 12 合計
脳	人件 延人数 延回数													
頭 頸 部	人件 延人数 延回数		1 1 2 4	1 1 14 28	2 2 22 44	3 3 21 42	2 2 7 14	2 2 15 30			1 1 1 2	1 1 15 30	1 1 3 6	14 14 100 200
乳 房	人件 延人数 延回数													
胸 部	人件 延人数 延回数		1 1 2 2	2 2 13 16	2 2 8 16						3 3 17 22	4 4 14 28	1 1 4 8	13 13 58 92
消 化 器	人件 延人数 延回数	12 12 81 81	10 10 91 91	4 4 47 47	9 9 60 63	19 19 122 127	11 11 64 68	13 13 68 69	19 19 128 133	11 11 74 74	14 14 120 120	8 8 47 48	11 11 72 81	141 141 974 1,002
泌 尿 器	人件 延人数 延回数			1 1 12 12										1 1 12 12
前 立 腺	人件 延人数 延回数	4 4 4 4	3 3 17 17	2 2 3 3	3 3 12 12	2 2 3 3						2 2 2 2		16 16 41 41
婦 人 科	人件 延人数 延回数	3 3 21 22	4 4 27 31	4 4 33 33	3 3 29 34	3 3 14 17	5 5 48 48	3 3 36 40	2 2 11 11	2 2 21 29		1 1 8 8	4 4 35 35	34 34 283 308
骨 / 軟 部	人件 延人数 延回数	4 4 21 23	2 2 20 20	2 2 18 26	1 1 8 16	1 1 16 32	2 2 16 16	3 3 32 32	3 3 18 18	3 3 25 25	2 2 14 14	5 5 42 42	5 5 45 45	33 33 275 309
血 / リンパ	人件 延人数 延回数		1 1 12 12		1 1 2 2	1 1 14 14					2 2 9 9	2 2 19 19	1 1 16 16	8 8 72 72
小 児	人件 延人数 延回数													
そ の 他	人件 延人数 延回数										1 1 13 13	1 1 3 3		2 2 16 16
良 性	人件 延人数 延回数											1 1 13 13	1 1 3 3	2 2 16 16
合 計	人件 延人数 延回数	23 23 127 130	22 22 171 177	16 16 140 165	21 21 141 187	29 29 190 235	20 20 135 146	21 21 151 171	24 24 157 162	16 16 120 128	23 23 174 180	25 25 163 193	24 24 178 194	264 264 1,847 2,068

(注) 1. 延人数: 1 部位の照射につき, 1 件とする。複数部位の場合は, その部位数に準じる。

2. 延回数: 運動照射の場合はアーク数とする。

(4)重粒子照射室 4

月 別 区 分		2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2025 1	2	3	1 - 12 合計	4 - 3 合計
脳	人件 延人数 回数																	
頭 頸 部	人件 延人数 回数																	
乳 房	人件 延人数 回数																	
胸 部	人件 延人数 回数																	
消 化 器	人件 延人数 回数																	
泌 尿 器	人件 延人数 回数																	
前 立 腺	人件 延人数 回数	33 33 223 223	34 34 242 242	33 33 244 244	35 35 259 259	32 32 246 246	24 24 148 148	27 27 214 214	23 23 170 170	28 28 202 202	37 37 298 298	36 36 250 250	27 27 233 233	24 24 187 187	33 33 236 236	31 31 212 212	369 369 2,729 2,729	357 357 2,655 2,655
婦 人 科	人件 延人数 回数								1 1 1 1								1 1 1 1	1 1 1 1
骨 / 軟 部	人件 延人数 回数																0 0 0 0	0 0 0 0
血 / リンパ	人件 延人数 回数																0 0 0 0	0 0 0 0
小 児	人件 延人数 回数																0 0 0 0	0 0 0 0
そ の 他	人件 延人数 回数																0 0 0 0	0 0 0 0
良 性	人件 延人数 回数																0 0 0 0	0 0 0 0
合 計	人件 延人数 回数	33 33 223 223	34 34 242 242	33 33 244 244	35 35 259 259	32 32 246 246	24 24 148 148	27 27 214 214	24 24 171 171	28 28 202 202	37 37 298 298	36 36 250 250	27 27 233 233	24 24 187 187	33 33 236 236	31 31 212 212	370 370 2,730 2,730	358 358 2,656 2,656

(注) 1. 延人数: 1 部位の照射につき, 1 件とする。複数部位の場合は, その部位数に準じる。

2. 延回数: 運動照射の場合はアーク数とする。

(5)その他関連業務件数（重粒子）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
固 定 具 作 成	延人数	68	64	68	67	57	54	59	54	64	76	74	47	752
位 置 決 め X 線 撮 影	延人数	12	8	8	9	9	6	10	7	6	10	11	9	105
C T シ ミ ュ レ ー タ	延人数	70	65	67	68	59	56	58	54	63	76	74	48	758
治 療 関 連	外部同期	9	11	11	17	18	8	14	16	12	17	13	17	163
	内部同期													0
保 険	先進医療	12	17	15	21	24	14	17	23	16	26	23	26	234
	保険	48	48	49	52	47	32	36	26	38	58	41	30	505
	合計	60	65	64	73	71	46	53	49	54	84	64	56	739

2023/4/1より保険適応の変更があり、先進医療と保険適応の件数が正確ではありません

表16 ラジオアイソトープ検査件数（体外測定）（令和6年）

検査項目			月 別												計
シ ン チ ゲ ラ ム	脳	人 数 S P E C T 業 務 件 数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
															0
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲状腺 摂取率	¹²³ I 人 数 部 分 シ ン チ 業 務 件 数								2					2
										4					4
			0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	4
		^{99m} Tc 人 数 部 分 シ ン チ 業 務 件 数													0
															0
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲状腺 ¹³¹ I	人 数	2	6	6	8	3	2	4	9	4	4	3	6	57
		全 身 シ ン チ	4	12	12	16	6	4	8	15	8	8	6	12	111
		部 分 シ ン チ								1					1
		S P E C T				1		1	1			1		1	5
	副甲状腺	業 務 件 数	4	12	12	17	6	5	9	16	8	9	6	13	117
		人 数								1					1
		部 分 シ ン チ								4					4
	肺血流	S P E C T													0
		業 務 件 数	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	4
		人 数	1	1	1									3	6
		部 分 シ ン チ	8	8	8									24	48
ラ ム	心筋	S P E C T	1	1	1									3	6
		業 務 件 数	9	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	27	54
		人 数	3	2	4	4	3	3	1	3	1	2	4	2	32
		部 分 シ ン チ	3	2	4	4	3	3	1	3	1	2	4	2	32
	肝・脾	S P E C T	6	4	8	8	6	6	2	6	2	4	8	4	64
		業 務 件 数	9	6	12	12	9	9	3	9	3	6	12	6	96
		人 数									1				1
		部 分 シ ン チ									4				4
	副腎	S P E C T									1				1
		業 務 件 数	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	5
		人 数								1			1		2
		全 身 シ ン チ								2			2		4
	骨	部 分 シ ン チ								2			2		4
		S P E C T								1			1		2
		業 務 件 数	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5	0	10
		人 数	58	54	67	60	66	61	65	64	63	68	55	62	743
	骨髄 (ゼヴァリン の確認)	全 身 シ ン チ	116	108	134	120	132	122	130	128	126	136	112	124	1,488
		部 分 シ ン チ	174	162	201	182	198	184	195	192	190	206	168	184	2,236
		S P E C T													0
		業 務 件 数	290	270	335	302	330	306	325	320	316	342	280	308	3,724
ム	腫	人 数													0
		全 身 シ ン チ													0
		部 分 シ ン チ													0
		S P E C T													0
	瘍	業 務 件 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		人 数	3	4	2	3	5	2	4	2	1	8	5	4	43
		全 身 シ ン チ	12	16	10	12	20	8	18	6	4	32	20	16	174
		部 分 シ ン チ													0
	センチネル リンパ節	S P E C T	6	8	5	6	11	4	9	4	2	18	12	8	93
		業 務 件 数	18	24	15	18	31	12	27	10	6	50	32	24	267
		人 数	25	25	29	28	26	27	27	28	24	35	28	21	323
		全 身 シ ン チ													0
	リンパ節	部 分 シ ン チ	78	84	99	90	84	90	81	87	78	114	84	72	1,041
		S P E C T													0
	リンパ節	業 務 件 数	78	84	99	90	84	90	81	87	78	114	84	72	1,041

(つづき)

検査項目			月 別												計
動 態 シ ン チ ゲ ラ ム P E T 合 計	その他 心臓	人 数													0
		部 分 シ ン チ													0
		S P E C T													0
		血 流 件 数													0
		業 務 件 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	肝 (アシ アロ)	人 数								1					1
		部 分 シ ン チ								6					6
		S P E C T								1					1
		動 態								1					1
		業 務 件 数	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	8
	腎動態 (レノグラム)	人 数	1				1			1			1	1	5
		部 分 シ ン チ	2				2			2			2	2	10
		血流件数(動態)	1				1			1			1	1	5
		業 務 件 数	3	0	0	0	3	0	0	3	0	0	3	3	15
	消化管 出血	人 数													0
		部 分 シ ン チ													0
		S P E C T													0
		血 流 件 数													0
		業 務 件 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	上下肢 動 態	人 数													0
		部 分 シ ン チ													0
		血 流 件 数													0
	その他	業 務 件 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		人 数													0
		全 身 シ ン チ													0
		部 分 シ ン チ													0
		血 流 件 数													0
	P E T	業 務 件 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		PET 人数 (早期)	213	247	238	200	184	202	229	220	185	197	193	186	2,494
		PET 件数 (早期)	1,102	1,264	1,224	1,026	948	1,044	1,179	1,133	945	1,023	1,002	952	12,842
		PET 人数 (後期)													0
		PET 件数 (後期)													0
	合 計	業 務 件 数	1,102	1,264	1,224	1,026	948	1,044	1,179	1,133	945	1,023	1,002	952	12,842
		人 数	306	339	347	303	288	297	330	332	279	314	290	285	3,710
		全 身 シ ン チ	132	136	156	148	158	134	156	151	138	176	140	152	1,777
		部 分 シ ン チ	265	256	312	276	287	277	277	301	273	322	260	284	3,390
		血流件数(動態)	1	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	1	6
		E C T	13	13	14	15	17	11	12	12	5	23	21	16	172
		業 務 件 数	411	405	482	439	463	422	445	466	416	521	422	453	5,345

2日間にわたる検査でも1人とカウント。ゼヴァリンは撮影1人、治療1人とカウント。

PETの「業務件数」は「PET件数 (早期)」「PET件数 (後期)」の合計数。合計の「ECT」と「データ処理」は別表から記入。

放射性同位元素内用療法人数 (非密封線源治療)

区 分		月 別												計
内放射 性同位 元素 療法	甲状腺治療 (入院治療)	3	5	5	4	2	1	3	5	4	3	4	3	42
	甲状腺治療 (外来アブレーション)		1	2	3		1	2	3	1		1	1	15
	塩化ラジウムを用いたRI内用療法	1	2	2	1	3	2	2	3	4	4	4	4	32
	¹⁷⁷ Lu注射液を用いたSSR陽性の内用療法	2	2	2	2	3	2	2	2	2	4	3	3	29
	放射性同位元素内用療法人数	6	10	11	10	8	6	9	13	11	11	12	11	118

表17－(1) 臨 床 検 査 統 計

分 類		令和 6 年 1 月～12月の院内検査統計											
大分類	中 分 類	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月
1 一 般	一般検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	A. 尿一般検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B. 糞便一般検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C. 髄液検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Z. その他（穿刺液）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 血 液	血液学的検査	5,890	5,866	6,114	6,059	6,443	5,998	6,529	6,214	5,881	6,562	5,973	5,872
	A. 血液一般形態検査	5,889	5,866	6,114	6,055	6,437	5,998	6,529	6,214	5,881	6,562	5,973	5,872
	B. 凝固・線溶検査	1	0	0	4	6	0	0	0	0	0	0	0
	C. 血球化学検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Z. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 生 化 学	生化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	A. 蛋白・膠質反応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B. 酵素及び関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C. 低分子・窒素化合物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	D. 糖質及び関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	E. F. 脂質及び関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	G. ビタミン及び関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H. 電解質・血液ガス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	I. 生体微量元素	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	J. 生体色素関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	L M. 薬物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Z. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再記	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生化学丸め（5～7）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生化学丸め（8～9）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生化学丸め（10以上）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 内 分 泌	内分泌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	A. 下垂体ホルモン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B C. 甲状腺・副甲状腺H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	D E. 副腎皮質・副腎髄質H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	F. 性腺・胎盤H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	G. 消化管H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H Z. ホルモン受容体・その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 免 疫	免疫学的検査	4,189	4,286	4,529	4,680	4,570	4,418	4,882	4,924	4,500	4,904	4,833	4,616
	A. 免疫グロブリン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B. 補体及び関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C. 血漿蛋白	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	D. 腫瘍関連抗原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	E. 非ウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	F G. ウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H. 輸血免疫検査	4,073	4,154	4,383	4,566	4,429	4,272	4,721	4,791	4,361	4,770	4,688	4,495
	I. 細胞性免疫検査	116	132	146	114	141	146	161	133	139	134	145	121
	J. サイトカイン												
	K, Z. その他												
6 微 生 物	細菌学的検査	2,126	2,018	2,020	1,934	2,205	1,849	1,874	1,701	1,569	2,062	1,740	1,831
	A. 塗抹・形態検査	293	293	287	284	339	278	352	309	311	364	280	290
	B. 培養検査	1,226	1,112	1,036	1,012	1,092	939	847	709	694	899	892	1,043
	B. 同定検査（コロナ含む）	376	374	424	380	468	380	391	404	342	492	346	316
	C. 薬剤感受性（一般細菌）	219	219	232	224	283	246	281	279	222	306	221	182
	C. 薬剤感受性（抗酸菌）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Z. その他	12	20	41	34	23	6	3	0	0	1	1	0
7 病 理	病理学的検査	13,562	13,405	13,886	12,481	6,284	7,011	14,209	14,462	12,580	15,865	14,825	7,618
	A. 細胞診検査	1,931	1,763	1,757	1,653	1,713	1,618	1,724	1,568	1,505	1,795	1,534	1,575
	B. 病理組織（生検組織）検査	1,334	1,589	1,436	1,390	1,473	1,373	1,557	1,547	1,247	1,530	1,431	1,299
	B. 病理組織（試験切除）検査	403	397	352	298	362	358	359	363	378	438	422	373
	B. 病理組織（手術切除）検査	9,754	9,521	10,159	8,889	2,527	3,537	10,408	10,726	9,202	11,918	11,298	4,219
	C. 迅速凍結組織検査	140	125	157	162	163	117	161	147	142	184	140	152
	D. 電子顕微鏡検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Z. 病理組織（剖検）検査	0	10	24	89	45	7	0	110	105	0	0	0
	Z. 解剖（体数）	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0
	その他検体検査	5	10	15	14	9	6	19	11	5	14	24	18
8 そ の 他	A. 負荷試験・機能検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B. 遺伝子関連検査	5	10	15	14	9	6	19	11	5	14	24	18
	C. 腫瘍分子検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Z. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9 生 理 検 査	生理機能検査	3,632	3,619	3,818	3,806	3,895	3,994	4,066	3,954	3,521	4,187	3,740	3,757
	A. 循環器機能検査	1,033	992	1,060	1,081	1,105	1,152	1,278	1,192	995	1,224	1,091	1,057
	B. 脳・神経機能検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C. 呼吸器機能検査	918	842	916	906	1,010	1,008	1,006	1,004	860	1,074	962	974
	D. 前庭・聴力検査	0	4	4	0	0	0	2	0	2	3	4	2
	F. 超音波検査	1,681	1,781	1,838	1,819	1,780	1,834	1,780	1,758	1,664	1,886	1,683	1,724
	Z. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		23,523	23,347	24,277	22,924	16,972	17,287	25,059	25,061	22,184	27,041	25,171	17,849

(令和 6 年)

(単位：件)

令和 6 年 1 月～12 月の院内委託検査統計												各種検査総合計		
1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	院内検査	院内委託	院内合計
5,527	5,385	5,668	5,979	6,263	6,057	6,454	5,971	5,709	6,124	5,606	5,707	0	70,450	70,450
5,411	5,308	5,566	5,892	6,152	5,926	6,318	5,859	5,590	6,016	5,485	5,589	0	69,112	69,112
13	13	12	27	16	15	19	17	22	13	14	16	0	197	197
52	36	60	28	60	84	60	52	48	68	88	76	0	712	712
51	28	30	32	35	32	57	43	49	27	19	26	0	429	429
23,803	23,525	24,612	24,779	26,798	24,897	27,459	26,071	24,424	27,352	24,413	24,533	73,401	302,666	376,067
18,304	17,974	18,861	18,835	20,001	18,540	20,215	19,257	18,428	20,551	18,514	18,498	73,390	227,978	301,368
5,494	5,545	5,745	5,940	6,792	6,352	7,241	6,811	5,992	6,797	5,895	6,029	11	74,633	74,644
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	6	6	4	5	5	3	3	4	4	4	6	0	55	55
197,246	192,568	203,683	204,908	217,415	201,913	220,488	210,905	199,338	217,310	195,495	193,938	0	2,455,207	2,455,207
22,056	21,615	22,979	23,088	24,479	22,739	24,873	23,770	22,340	23,894	21,253	20,985	0	274,071	274,071
68,091	66,583	70,223	70,816	75,200	69,823	76,389	73,285	69,209	75,935	68,163	67,612	0	851,329	851,329
28,775	28,057	29,774	29,945	31,657	29,378	31,937	30,416	28,924	31,580	28,490	28,428	0	357,361	357,361
10,744	10,498	11,005	11,091	11,626	10,834	11,775	11,264	10,678	11,492	10,387	10,287	0	131,681	131,681
3,630	3,610	3,975	3,886	4,261	3,918	4,076	3,758	3,602	3,890	3,583	3,502	0	45,691	45,691
67	66	75	76	105	92	101	85	71	97	83	77	0	995	995
47,447	46,127	48,766	49,078	52,058	48,496	52,992	50,641	47,925	52,410	47,397	47,148	0	590,485	590,485
764	749	875	973	952	813	845	764	815	855	810	745	0	9,960	9,960
15,531	15,142	15,917	15,819	16,955	15,701	17,288	16,672	15,575	16,956	15,181	14,988	0	191,725	191,725
141	121	94	136	122	119	212	250	199	201	148	166	0	1,909	1,909
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11,809	11,541	12,180	12,204	12,909	12,008	13,061	12,516	11,976	13,330	12,055	12,033	0	147,622	147,622
110	107	117	98	86	115	90	105	108	148	128	116	0	1,328	1,328
145	128	151	122	130	149	144	147	186	333	319	339	0	2,293	2,293
11,554	11,306	11,912	11,984	12,693	11,744	12,827	12,264	11,682	12,849	11,608	11,578	0	144,001	144,001
146	184	162	166	176	216	190	156	130	120	144	126	0	1,916	1,916
34	48	43	41	45	44	53	40	34	32	38	25	0	477	477
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
73	92	81	83	88	108	95	78	65	60	72	63	0	958	958
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
39	44	38	42	43	64	42	38	31	28	34	38	0	481	481
27,977	27,300	29,054	28,768	29,771	28,185	30,155	29,142	27,435	30,661	27,815	27,790	55,331	344,053	399,384
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10,943	10,629	11,082	11,055	11,742	10,882	11,877	11,288	10,738	12,014	10,931	10,791	0	133,972	133,972
12,767	12,650	13,425	13,212	13,226	12,591	13,359	12,710	12,667	13,560	12,579	12,626	0	155,372	155,372
1,583	1,495	1,767	1,754	1,870	1,805	1,864	1,759	1,576	1,892	1,699	1,719	0	20,783	20,783
2,684	2,526	2,780	2,747	2,933	2,907	3,055	3,385	2,454	3,195	2,606	2,654	0	33,926	33,926
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	53,703	0	53,703
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,628	0	1,628
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,929	0	22,929
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,680	0	3,680
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11,501	0	11,501
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,693	0	4,693
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,914	0	2,914
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	141	0	141
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	146,188	0	146,188
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20,136	0	20,136
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17,206	0	17,206
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,503	0	4,503
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	102,158	0	102,158
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,790	0	1,790
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	390	0	390
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
84	299	81	82	94	96	105	84	65	72	71	44	150	1,177	1,327
84	299	81	82	94	96	105	84	65	72	71	44	0	1,177	1,177
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	150	0	150
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45,989	0	45,989
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13,260	0	13,260
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11,480	0	11,480
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	21
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21,228	0	21,228
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
266,508	260,503	275,359	276,804	293,332	273,276	297,807	284,761	269,012	294,897	265,528	253,920	343,988	3,323,091	3,667,079

表17－(2) 病理検査（7A～7Z）詳細（令和6年）

(単位：件)

	院内	委託	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	院内合計
7 A 細胞診 中計	小計		1,931	1,763	1,757	1,653	1,713	1,618	1,724	1,568	1,505	1,795	1,534	1,575	20,136
婦人科 子宮腔・頸部	0		654	590	581	569	578	582	535	448	546	565	494	520	6,662
子宮体部	0		186	180	184	128	116	142	114	92	116	116	96	110	1,580
外陰・卵巣等	0		5	1	1	4	8	2	10	10	3	2	4	3	53
呼吸器科 喀 痰	0		4	0	8	8	19	4	16	3	0	24	14	6	106
気管支	0		137	187	149	137	113	80	187	133	96	121	64	137	1,541
穿 刺	0		28	26	12	22	22	34	25	57	26	48	10	26	336
消化器	0		49	37	61	54	37	55	50	47	42	73	51	47	603
泌尿器	0		77	83	113	81	102	93	99	125	87	126	108	114	1,208
体腔液、髄液	0		360	305	308	284	357	269	314	280	239	302	323	279	3,620
造血器、リンパ	0		91	72	56	61	39	50	31	58	105	66	66	70	765
乳腺	0		44	41	38	27	30	47	44	25	11	21	15	8	351
甲状腺	0		53	38	41	79	52	51	58	57	49	109	25	64	676
軟部組織	0		2	0	1	3	0	18	4	0	0	2	9	5	44
その他	0		0	6	0	7	8	0	0	4	0	0	0	0	25
免疫細胞診検査	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特殊染色	0		195	175	174	161	204	169	194	172	144	185	193	157	2,123
術中迅速細胞診	0		46	22	30	28	28	22	43	57	41	35	62	29	443
7 B 病理組織検査中計	小計		11,510	11,536	11,969	10,587	11,217	10,887	12,388	12,743	10,882	13,959	13,199	11,274	141,609
7B-1 生検組織小計	SUB		1,334	1,589	1,436	1,390	1,473	1,373	1,557	1,547	1,247	1,530	1,431	1,299	17,206
1 臓器	0		1,103	1,129	1,248	1,126	1,179	1,165	1,160	1,234	973	1,205	1,162	1,059	13,743
2 臓器	0		209	451	174	264	214	194	307	300	228	307	212	147	3,007
3 臓器	0		22	9	14	0	80	14	90	13	46	18	57	93	456
7B-2 試験切除小計	SUB		403	397	352	298	362	358	359	363	378	438	422	373	4,503
1 臓器	0		325	296	208	161	244	283	274	219	280	321	319	296	3,226
2 臓器	0		47	84	58	99	100	63	48	94	81	71	52	63	860
3 臓器	0		31	17	86	38	18	12	37	50	17	46	51	14	417
7B-3 手 術 小 計			9,773	9,550	10,181	8,899	9,382	9,156	10,472	10,833	9,257	11,991	11,346	9,602	119,900
7B-3-1 手術切除	SUB		4,138	4,392	4,497	4,190	4,304	3,947	4,586	5,395	4,289	5,352	5,023	4,219	54,332
1 臓器	0		834	951	1,077	932	1,097	1,210	917	1,214	1,019	1,004	1,126	834	12,215
2 臓器	0		2,438	2,665	2,409	2,090	2,371	1,783	2,477	2,682	2,117	2,875	2,670	1,933	28,510
3 臓器	0		866	776	1,011	1,168	836	954	1,192	1,499	1,153	1,473	1,227	1,452	13,607
7B-3-2 組織診断のみ	0		1,496	1,064	1,457	1,279	1,190	1,026	1,641	1,405	1,235	1,682	1,682	1,142	16,299
組織診断			1,496	1,064	1,457	1,279	1,190	1,026	1,641	1,405	1,235	1,682	1,682	1,142	16,299
7B-3-3 免疫組織・特殊	SUB		4,139	4,094	4,227	3,430	3,888	4,183	4,245	4,033	3,733	4,957	4,641	4,241	49,269
免疫組織化学検査	0		2,225	2,214	2,464	2,052	2,132	2,622	2,479	2,146	2,000	2,691	2,382	2,333	27,740
特殊染色	0		1,335	1,361	1,214	968	1,272	1,076	1,225	1,301	1,239	1,656	1,708	1,357	15,712
特殊免疫染色① (ER/PgR/Her-2)	0		268	224	256	205	200	207	221	228	201	259	239	237	2,745
特殊免疫染色② (EGFR)			0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
特殊免疫染色③ (DISH)			0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
FISH			170	134	141	109	128	126	137	97	116	128	141	124	1,551
ALK融合タンパク			0	0	0	0	24	39	49	42	28	44	54	48	328
PDL-1			120	126	124	84	104	76	70	102	88	102	63	81	1,140
EWSR1・MDM2	小計		2	6	6	2	2	8	0	10	5	4	6	2	53
MDM2	小計		140	125	157	162	163	117	161	147	142	184	140	152	1,790
組織検査	0		128	113	146	149	145	103	141	133	122	166	136	124	1,606
特殊染色	0		12	12	11	13	18	14	20	14	20	18	4	28	184
7 D 電子顕微鏡検査中計	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電顕 透過型	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7 Z 解剖中計	0		0	10	24	89	46	8	0	111	106	0	0	0	394
7Z-1 解剖（体数）	0		0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	5
7Z-2 剖検 小計	SUB		0	10	23	89	45	7	0	110	105	0	0	0	389
剖検切除組織	0		0	10	23	68	45	1	0	104	79	0	0	0	330
免疫組織化学検査	0		0	0	0	20	0	0	0	1	26	0	0	0	47
特殊染色	0		0	0	0	1	0	6	0	5	0	0	0	0	12
合 計			13,581	13,434	13,907	12,491	13,139	12,630	14,273	14,569	12,635	15,938	14,873	13,001	163,929

病理組織件数

病 理 組 織			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	院内合計
生 検 件 数			608	574	676	596	659	632	635	604	529	617	571	555	7,256
試 切 件 数			92	94	80	62	69	95	90	97	94	113	95	92	1,073
手 術 件 数			210	222	241	219	242	207	247	260	222	263	254	217	2,804
合 計			910	890	997	877	970	934	972	961	845	993	920	864	11,133

細胞診検査件数

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	院内合計
婦 人 科 件 数			454	420	413	419	421	404	387	337	391	411	361	385	4,803
そ の 他 件 数			303	264	312	277	299	273	308	317	240	330	273	268	3,464
合 計			757	684	725	696	720	677	695	654	631	741	634	653	8,267

表17―(3) 血液形態検査（2A～2B・5I・8B）詳細（令和6年）

（単位：件）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
2A	血液形態小計	5,889	5,866	6,114	6,055	6,437	5,998	6,529	6,214	5,881	6,562	5,973	5,872	73,390
	血液像	5,715	5,622	5,852	5,834	6,196	5,752	6,253	5,984	5,697	6,365	5,722	5,705	70,697
	骨髓像	51	70	75	62	67	69	78	66	52	56	70	49	765
	骨髓細胞数(像×2)	102	140	150	124	134	138	156	132	104	112	140	98	1,530
	特殊染色	21	34	37	35	40	39	42	32	28	29	41	20	398
2B	血液凝固小計	1	0	0	4	6	0	0	0	0	0	0	0	11
	出血時間	1	0	0	4	6	0	0	0	0	0	0	0	11
5I	細胞性免疫小計	116	132	146	114	141	146	161	133	139	134	145	121	1,628
	造血器悪性腫瘍	64	95	117	85	109	115	110	106	91	100	106	79	1,177
	Twe-coloT	22	23	15	14	19	16	25	19	25	25	21	26	250
	細胞百分率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B細胞表面マーカー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	30	14	14	15	13	15	26	8	23	9	18	16	201
8B	染色体小計	5	10	15	14	9	6	19	11	5	14	24	18	150
	異性間染色体	1	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	5
	その他	4	10	15	14	9	6	18	9	4	14	24	18	145
合 計		6,011	6,008	6,275	6,187	6,593	6,150	6,709	6,358	6,025	6,710	6,142	6,011	75,179

表17―(4) 細菌検査（6A～6Z）詳細（令和6年）

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
一 般 細 菌 小 計	1,686	1,619	1,624	1,538	1,776	1,410	1,578	1,465	1,320	1,719	1,394	1,462	18,591
塗 沫	255	242	254	247	304	249	309	268	265	322	247	248	3,210
培 養	836	784	714	687	721	535	597	514	491	599	580	716	7,774
同 定	376	374	424	380	468	380	391	404	342	492	346	316	4,693
感 受 性	219	219	232	224	283	246	281	279	222	306	221	182	2,914
抗 酸 菌 小 計	38	51	33	37	35	29	43	41	46	42	33	42	470
塗 沫	38	51	33	37	35	29	43	41	46	42	33	42	470
培 養													0
血 液 培 養 小 計	390	328	322	325	371	404	250	195	203	300	312	327	3,727
培 養	390	328	322	325	371	404	250	195	203	300	312	327	3,727
環 境・感 染 症 他 小 計	365	323	261	261	167	120	98	62	55	85	168	326	2,291
クロストリジウム D - 1 毒 素	34	24	18	27	25	26	19	27	26	17	31	16	290
大腸菌ベロトキ シン 検 出 検 査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
インフルエンザ	83	74	191	194	111	70	66	28	25	57	118	299	1,316
ノ ロ ウ イ ル ス	4	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	8
肺炎球菌莢膜抗原	5	7	6	3	4	8	5	3	3	6	9	7	66
レジオネラ抗原	6	7	5	3	4	8	5	3	1	4	8	4	58
SARS-CoV-2抗原検出	8	4	41	34	23	6	3	0	0	1	1	0	121
コロナ・インフル同時	225	207	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	432
合 計	2,479	2,321	2,240	2,161	2,349	1,963	1,969	1,763	1,624	2,146	1,907	2,157	25,079

表17－(5) 生理機能・超音波検査（9A～9Z）詳細（令和6年）

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	院内合計
9A 心電図検査	1,033	992	1,060	1,081	1,105	1,152	1,278	1,192	995	1,224	1,091	1,057	13,260
標準心電図	964	944	1,010	1,012	1,042	1,073	1,171	1,072	912	1,138	1,019	979	12,336
ポータブル心電図	45	26	31	42	40	52	84	101	58	58	50	55	642
ホルター型心電図	11	10	9	10	10	8	9	4	10	11	6	7	105
トレッドミル 負荷心機能検査	13	12	10	17	13	19	14	15	15	17	16	16	177
タリウムシンチ 負荷心機能検査													0
9B 脳波検査	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
覚醒脳波	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
覚醒・睡眠脳波	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9C 呼吸機能検査	918	842	916	906	1,010	1,008	1,006	1,004	860	1,074	962	974	11,480
肺気量分画測定	416	378	405	409	453	447	453	450	391	492	443	449	5,186
フローボリウム （強制呼出曲線）	416	378	405	409	453	447	453	450	391	492	443	449	5,186
機能的残気量	43	43	53	44	52	57	50	52	39	45	38	38	554
肺拡散能力検査	43	43	53	44	52	57	50	52	39	45	38	38	554
最大換気量													0
肺拡散能力検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9D 聴力 9F 眼科	0	4	4	0	0	0	2	0	2	3	4	2	21
標準純音聴力検査	0	2	2	0	0	0	1	0	1	2	2	1	11
チンパノメトリー	0	2	2	0	0	0	1	0	1	1	2	1	10
9F 超音波検査	1,681	1,781	1,838	1,819	1,780	1,834	1,780	1,758	1,664	1,886	1,683	1,724	20,207
心臓断層+Mモード法	236	248	265	261	247	279	284	263	243	279	250	241	3,096
心臓Pドップラー法	234	245	262	258	244	273	275	257	237	278	248	237	3,048
頸部断層撮影法	185	204	225	233	201	212	230	253	209	230	214	223	2,619
頸部Pドップラー法	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	1
乳房断層撮影法	183	174	169	171	172	143	138	156	137	171	173	134	1,921
乳房Pドップラー法	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0
腹部断層撮影法	195	228	216	166	190	187	175	180	173	181	152	155	2,198
腹部Pドップラー法	1	2	5	2	1	0	1	2	0	2	3	1	20
他の断層撮影法	18	18	17	22	22	20	17	20	25	22	18	20	239
他のPドップラー法	16	17	17	22	21	19	17	20	25	21	16	19	230
造影エコー	16	23	19	9	13	10	16	9	17	18	16	14	180
婦人科断層法	300	270	349	355	309	334	302	312	353	386	324	398	3,992
泌尿器科	32	60	42	28	50	40	42	34	32	38	32	43	473
手術室	98	99	89	83	81	86	91	94	77	85	94	76	1,053
その他（血管エコー）	83	96	79	103	117	126	109	82	73	97	80	92	1,137
その他（フィブロスキャン +血管Pドップラー）	84	97	84	106	112	105	83	76	63	78	62	71	1,021
合 計	3,632	3,619	3,818	3,806	3,895	3,994	4,066	3,954	3,521	4,187	3,740	3,757	44,968

表17－(6) 治験検体処理検査（8C）詳細（令和6年）

（単位：件）

分類	項 目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	院内合計
検 体 種 類	末梢血	1,158	1,314	1,178	1,204	1,265	1,121	1,394	1,220	1,107	1,325	1,104	1,207	14,597
	尿	7	8	10	10	8	15	22	14	11	14	9	13	141
	便	9	4	1	0	1	1	5	7	2	6	3	3	42
	生検組織	28	32	27	22	16	18	29	24	19	23	17	23	278
	気管支洗浄液	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胸水	2	2	0	0	0	0	0	2	2	2	6	0	16
	唾液	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	2	7
	骨髓血	0	0	0	3	8	15	6	10	1	1	8	4	56
	胆汁	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	子宮頸部擦過細胞	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口腔粘膜スワブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	手術材料	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1	2	7
	組織標本	69	60	69	55	75	47	53	77	61	63	64	86	779
	再生医療製品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	患部スワブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ホルマリン固定組織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	1,275	1,420	1,285	1,294	1,374	1,217	1,509	1,356	1,204	1,435	1,214	1,341	15,924
特 殊 作 業	有核細胞採取	4	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	8
	標本作成	1	2	0	1	2	0	0	1	1	1	0	1	10
	トロポニン測定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	尿定性	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	4
	血糖値測定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	検査伝票作成	17	20	17	19	20	15	23	20	14	22	29	20	236
	合 計	22	23	18	20	23	18	25	21	15	23	29	21	258
依 頼 件 数	遺伝外来（その他）	88	92	85	76	96	56	76	92	73	87	84	107	1,012
	治 験	141	165	160	150	194	173	234	191	177	207	164	166	2,122
	研 究	337	327	291	311	261	262	306	293	267	321	275	306	3,557
	合 計	566	584	536	537	551	491	616	576	517	615	523	579	6,691
打 合 せ	治 験	7	5	8	4	4	7	6	4	4	6	8	5	68
	研 究	0	2	1	4	1	1	0	2	2	1	5	1	20
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	7	7	9	8	5	8	6	6	6	7	13	6	88

表17ー(7) 輸血検査 (5H) 詳細 (令和6年)

(1)輸血検査件数

(単位：件)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
A B O 式 (表・裏) R h 式	933	970	1,011	1,055	1,025	992	1,070	1,095	970	1,102	1,084	1,039	12,346
不規則性抗体スクリーニング	933	970	1,011	1,055	1,025	992	1,070	1,095	970	1,102	1,084	1,039	12,346
交 差 試 験 (バ ッ グ 数)	32	29	47	49	31	22	53	68	78	41	54	32	536
コンピュータークロスマッチ (バッグ数)	242	191	223	222	245	246	301	245	287	244	191	248	2,885
クームス (直接・間接) 試験	1	2	1	2	0	1	2	0	1	1	3	1	15
不 規 則 性 抗 体 同 定	12	3	2	10	7	3	9	15	13	20	22	14	130
同 種 血 球 凝 集 素 価	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他 血 液 型 (件 数)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
D N A 抽 出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
細胞処理件数 (保存バック数)	13	5	12	9	12	5	19	4	12	14	17	8	130
当直者からの電話連絡	9	15	7	5	3	5	4	11	12	1	11	4	87
合 計	2,175	2,185	2,314	2,407	2,348	2,267	2,528	2,533	2,343	2,525	2,466	2,385	28,476

(2)血液製剤使用状況 (上段バック数／下段単位数)

(単位：バック数・単位数)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
赤 血 球 濃厚液 (L R)	バック数	225	192	221	220	238	228	307	269	306	249	201	240	2,896
	単 位 数	450	384	442	440	476	456	614	538	612	498	402	480	5,792
自 己 血	バック数	10	12	5	13	4	8	17	13	11	13	15	7	128
	単 位 数	18	24	10	25	8	16	34	26	21	25	30	14	251
F F P - L R	バック数	9	22	25	19	22	42	95	35	13	32	8	78	400
	単 位 数	18	44	50	38	44	84	190	70	26	64	16	156	800
血 小 板	バック数	126	182	127	119	135	164	243	254	230	184	155	168	2,087
	単 位 数	1,305	1,810	1,270	1,195	1,350	1,635	2,450	2,575	2,320	1,840	1,550	1,740	21,040
合 計	バック数	370	408	378	371	399	442	662	571	560	478	379	493	5,511
	単 位 数	1,791	2,262	1,772	1,698	1,878	2,191	3,288	3,209	2,979	2,427	1,998	2,390	27,883

表17 ー(8) 委託検査の概要（令和6年）

(1)委託検査依頼患者数

(単位：人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
依頼患者数 外 来	13,644	13,412	14,118	14,046	14,482	13,497	14,638	14,193	13,295	14,884	13,381	13,496	167,086
依頼患者数 入 院	5,298	5,059	5,011	5,412	6,065	5,565	6,263	6,476	5,548	6,390	5,565	5,307	67,959
依頼患者数 内日直	1,029	871	875	778	1,054	814	800	1,013	1,023	937	901	938	11,033
依頼患者数 全 体	18,942	18,471	19,129	19,458	20,547	19,062	20,901	20,669	18,843	21,274	18,946	18,803	235,045
稼働1日平均患者数	611	637	617	649	663	635	674	667	628	686	632	607	642
稼 働 日 数	31	29	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31	366
外 来 ／ 入 院（％）	2.58	2.65	2.82	2.60	2.39	2.43	2.34	2.19	2.40	2.33	2.40	2.54	2.46

(2)委託検査患者数の年動態

(単位：人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
2020年 依頼患者数	17,454	16,275	17,549	17,453	15,838	17,688	18,003	17,287	17,541	17,604	16,713	17,579	206,984
2021年 依頼患者数	17,125	15,956	19,450	18,714	17,031	18,617	18,018	19,037	19,070	18,862	18,590	18,786	219,256
2022年 依頼患者数	18,741	17,538	20,407	18,268	18,464	19,864	18,660	19,749	19,077	19,578	19,567	20,364	230,277
2023年 依頼患者数	20,353	19,316	21,994	19,487	20,740	20,127	19,136	20,436	19,201	20,167	18,841	19,286	239,084
2024年 依頼患者数	18,942	18,471	19,129	19,458	20,547	19,062	20,901	20,669	18,843	21,274	18,946	18,803	235,045

(3)委託検査 生化学丸め検査件数

(単位：人)

項 目 数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
包括項目1 5～7	110	107	117	98	86	115	90	105	108	148	128	116	1,328
包括項目2 8～9	145	128	151	122	130	149	144	147	186	333	319	339	2,293
包括項目3 10～14	4,136	4,150	4,275	4,263	4,392	4,100	4,398	4,184	4,326	5,330	5,083	5,149	53,786
包括項目3 15～19	6,381	6,134	6,550	6,627	7,102	6,535	7,274	7,026	6,392	6,472	5,498	5,431	77,422
包括項目3 20以上	1,037	1,022	1,087	1,094	1,199	1,109	1,155	1,054	964	1,047	1,027	998	12,793
合 計	11,809	11,541	12,180	12,204	12,909	12,008	13,061	12,516	11,976	13,330	12,055	12,033	147,622
15～29項目合計	7,418	7,156	7,637	7,721	8,301	7,644	8,429	8,080	7,356	7,519	6,525	6,429	90,215

表17―(9) 日直・当直検査の詳細（令和6年）

(1)土曜・祭日等休日および当直の輸血検査業務内容

（単位：人）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
日直日数・当直日数	31	29	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31	366
血液型・交差試験（人）	190	167	150	158	175	151	144	184	220	155	159	168	2,021
入庫件数	23	22	15	24	19	19	21	29	27	20	21	29	269
出庫件数	77	66	45	66	60	64	58	78	95	48	53	59	769
返品件数	5	6	4	7	2	9	5	13	6	6	5	3	71
血培（人）塗沫、グラム（土）	5	8	12	13	9	13	16	12	11	18	11	11	139
インフルエンザ（人）	131	104	63	64	44	29	21	15	12	13	38	102	636
ノロウイルス（人）	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3
コロナ抗原（人）	96	75	14	14	4	4	2	0	0	0	1	0	210
コロナPCR（人）	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
検体預かり（人）	202	194	208	186	255	241	207	221	217	232	203	182	2,548

*交差試験・入庫・照射・出庫の件数はそれぞれ1人1件として数えています。

(2)土曜・祭日等休日および当直の委託検査への検査依頼患者数

（単位：人）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
日直日数	12	10	11	9	10	10	9	10	11	9	10	11	122
検体検査外来患者数	116	94	112	82	137	100	88	120	101	90	91	130	1,261
検体検査入院患者数	913	777	763	696	917	714	712	893	922	847	810	808	9,772
検体検査合計患者数	1,029	871	875	778	1,054	814	800	1,013	1,023	937	901	938	11,033

表18 内視鏡室実績（令和6年）

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023年	2024年
GF	352	390	396	360	402	408	388	345	327	436	400	381	5,201	4,585
CF	111	120	126	109	114	131	120	120	168	156	112	106	1,806	1,493
ERCP	111	87	86	79	121	105	134	99	65	102	62	77	1,083	1,128
ESD	21	26	15	14	19	23	28	16	20	26	21	24	322	253
大腸EMR	16	17	21	13	9	21	20	11	10	17	19	12	293	186
EUS	79	83	78	61	76	71	79	75	54	68	56	69	959	849
胆・膵ステント	97	76	81	78	98	94	120	91	50	78	52	73	1,014	988
消化管ステント	9	4	6	4	5	6	4	9	4	5	4	5	87	65
BF	41	51	42	32	37	28	40	40	30	41	43	32	512	457
緊急	65	58	44	53	83	75	73	58	63	80	60	50	814	762
夜間・土日 上記に含む	7	5	5	9	11	7	10	9	11	7	5	9	85	95

表19 外来化学療法室／処置室／外来採血室実績（令和6年）

(1)外来化学療法室業務量

（単位：件）

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外 来 化 学 療 法	2,126	2,353	2,037	2,287	2,335	2,061	2,338	2,304	2,104	2,253	2,089	2,146	26,433
注射（皮下・筋肉）	254	148	147	158	161	148	160	137	118	149	132	207	1,919

(2)処置室業務量

（単位：件）

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
点 滴	82	99	84	103	127	75	89	94	74	64	73	75	1,039
輸 血	65	59	48	54	52	48	61	55	73	63	64	83	725
処 置 等	296	295	324	336	273	249	309	329	240	292	299	284	3,526

※ 処置には、ネブライザーなどの件数も含む

(3)外来化学療法数の年次推移（平成21年度～令和6年度）

（単位：件）

年 度 別	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
化 学 療 法	12,323	11,747	11,785	11,624	12,565	15,067	16,377	18,594	19,933	22,403
年 度 別	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年				
化 学 療 法	24,299	25,913	24,285	27,949	26,052	26,433				

(4)外来採血室業務量

月 別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比%
2021 年 件 数（件）	8,676	8,286	10,074	9,335	8,347	9,517	8,985	9,219	9,440	9,156	9,180	9,320	109,535	106.5
2022 年 件 数（件）	9,120	8,532	10,164	8,940	8,899	9,537	8,930	9,314	9,530	9,402	9,411	9,390	111,169	101.5
2023 年 件 数（件）	9,076	9,582	9,717	9,230	9,843	9,264	9,748	9,509	9,371	9,186	9,010	9,567	113,103	101.7
2024 年 件 数（件）	9,531	9,868	9,148	9,980	9,435	9,182	10,111	9,104	9,150	9,411	8,939	9,504	113,363	100.2
2023年 1 日 平均 件 数（件）	492	478	476	454	480	442	462	448	464	465	476	469	平均467	
2024年 1 日 平均 件 数（件）	453	469	457	454	450	484	460	456	458	496	497	476	平均468	

表20 薬剤科業務統計

(1) 薬剤件数

(1)－1 調剤数

薬剤内訳		月 別	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
外 来	処方箋枚数		712	675	668	711	739	664
	調剤数		1,172	1,138	1,106	1,169	1,228	1,063
	延剤数		18,657	18,023	19,143	19,047	19,657	16,841
入 院	処方箋枚数		6,394	6,125	6,374	6,680	7,211	6,707
	調剤数		10,829	10,322	10,589	10,677	11,710	11,082
	延剤数		61,935	60,911	60,388	58,521	67,327	63,138
院 外	処方箋枚数		7,329	7,371	7,684	7,634	8,301	7,647
計	処方箋枚数		14,435	14,171	14,726	15,025	16,251	15,018
	調剤数		12,001	11,460	11,695	11,846	12,938	12,145
	延剤数		80,592	78,934	79,531	77,568	86,984	79,979

(1)－2 注射箋枚数

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
注 射 箋 枚 数	50,440	49,125	49,344	51,619	55,798
(うち麻薬注射箋枚数)	1,583	1,482	1,419	1,549	1,666
入院化学療法無菌製剤件数	833	717	853	782	881
外来化学療法無菌製剤件数	2,306	2,282	2,332	2,366	2,462

(1)－3 注射剤本数

(単位：本)

区 分	室温保存薬品				冷所保存薬品			合 計
	100ml未満	100ml～ 500ml未満	500ml以上	計	100ml未満	100ml以上	計	
年 計	668,599	294,070	176,269	1,138,938	108,325	845	109,170	1,248,108
日 平 均	2,729	1,200	719	4,649	442	3	446	5,094

(2) 医薬品情報 (D. I) 業務件数

項 目		月 別	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
薬 品 名			10	20	9	15	17	12
新 薬 ・ 治 験 薬			0	0	0	0	0	0
効 能 ・ 効 果			33	31	34	30	33	26
用 法 ・ 用 量			112	103	90	126	114	131
使 用 方 法			9	7	10	13	10	7
副 作 用			3	5	6	6	7	11
保 管 方 法			0	1	0	0	1	2
使 用 期 限			2	4	3	2	4	4
他 剤 併 用 (他 科)			0	0	0	0	0	0
他 剤 併 用 (他 院)			0	0	0	0	0	0
他 剤 併 用 (市 販 薬)			0	0	0	0	0	0
配 合 変 化			4	7	7	16	9	15
そ の 他			13	8	14	12	8	15
計			186	186	173	220	203	223

(3) 薬剤管理指導業務

		1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
外 来	人 数	726	695	680	721	753
	薬剤情報提供料算定件数	285	271	274	261	296
入 院	人 数	580	547	563	561	569
	薬剤管理指導料算定件数	605	580	589	577	591
	(うち退院加算件数)	0	0	0	0	0
	(うち麻薬加算件数)	14	10	12	14	14
	実 施 回 数	685	656	644	611	664

(令和 6 年)

今年は244日 (単位：件)

7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	一日平均	構成比 (%)
723	679	664	687	613	617	33.4	4.5
1,054	1,108	1,046	1,099	968	969	53.8	
17,540	17,591	16,688	18,751	16,610	16,279	880.4	
7,395	7,209	6,462	7,312	7,085	5,781	330.9	44.3
11,714	11,830	10,278	11,851	11,573	9,657	541.4	
64,043	66,499	58,043	66,537	64,285	58,546	3,074.5	
8,418	7,657	7,724	8,645	7,673	7,328	382.8	51.2
16,536	15,545	14,850	16,644	15,371	13,726	747.1	
12,768	12,938	11,324	12,950	12,541	10,626	595.2	
81,583	84,090	74,731	85,288	80,895	74,825	3,954.9	

6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	合 計
52,562	58,428	58,952	54,418	61,227	53,823	52,426	648,162
1,405	1,546	1,914	1,825	1,821	1,581	1,611	19,402
843	995	912	861	958	914	789	9,505
2,331	2,473	2,276	2,276	2,690	2,444	2,347	28,585

(1)－ 4 製剤数

区 分	内用液剤 (ml)	外用液剤 (ml)	軟膏剤 (g)	注射剤 (ml)	坐薬 (個)	ガーゼ (含抗生物質) (枚)
非 滅 菌 製 剤	0	28,750	8,800	0	0	0
滅 菌 製 剤	0	0	0	10	0	45
合 計	0	28,750	8,800	10	0	45

(単位：件)

7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	一日平均	構成比 (%)
23	11	21	29	20	19	0.8	8.0
0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
31	32	37	42	46	36	1.7	16.0
139	135	113	132	141	119	5.9	56.7
20	7	14	20	15	21	0.6	6.0
10	8	3	5	6	8	0.3	3.0
0	2	0	0	1	0	0.0	0.3
2	6	10	4	2	3	0.2	1.8
0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
16	12	18	21	6	14	0.6	5.7
19	15	9	18	20	6	0.6	6.1
260	228	225	271	257	226	10.8	

6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	合 計
671	735	689	679	709	628	735	8,421
259	270	279	263	270	250	321	3,299
570	677	643	602	656	574	538	7,080
597	699	656	620	669	582	547	7,312
2	1	1	2	0	1	3	10
7	11	14	10	13	11	14	144
706	813	709	661	704	603	574	8,030

(4)麻薬使用数量

	単位	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
アヘンチンキ	ml	147	133	147	228.9	236.4
イーフェンバツカル錠50 μ g	錠	79	143	187	193	335
イーフェンバツカル錠100 μ g	錠	64	102	111	130	221
イーフェンバツカル錠200 μ g	錠	14	0	54	14	132
MSコンチン錠10mg	錠	0	0	94	92	128
MSコンチン錠30mg	錠	40	54	0	0	0
オキシコドン徐放錠5 mg NX「第一三共」	錠	1,096	712	914	1,363	1,672
オキシコドン徐放錠10mg NX「第一三共」	錠	1,309	1,698	1,469	1,363	1,958
オキシコドン徐放錠40mg NX「第一三共」	錠	287	141	291	507	467
オキノーム散2.5mg	包	1,114	794	1,232	967	1,094
オキノーム散5 mg	包	786	678	666	547	853
オキノーム散10mg	包	539	220	118	352	369
オキノーム散20mg	包	589	881	778	775	607
オブソ内服液5 mg	包	844	464	398	406	360
オブソ内服液10mg	包	825	638	175	288	278
タベンタ錠25mg	錠	0	42	56	20	0
ナルサス錠2 mg	錠	552	430	490	420	713
ナルサス錠6 mg	錠	306	287	297	167	293
ナルラピド錠1 mg	錠	1,367	1,109	1,467	992	1,578
ナルラピド錠4 mg	錠	0	0	0	9	0
メサペイン錠5 mg	錠	0	0	0	0	0
メサペイン錠10mg	錠	0	0	0	0	0
モルヒネ硫酸塩水和物徐放細粒分包10mg	包	140	104	36	0	21
コデインリン酸塩錠20mg	錠	502	419	64	531	933
内服トータル		10,600	9,049	9,044	9,364.9	12,248.4
アンベック坐剤10mg	個	15	53	0	23	10
アンベック坐剤20mg		0	43	40	0	0
フェントステープ0.5mg	枚	165	135	109	188	94
フェンタニルクエン酸塩テープ1 mg「テイコク」	枚	265	200	254	266	384
フェンタニルクエン酸塩テープ2 mg「テイコク」	枚	214	48	176	218	192
フェンタニルクエン酸塩テープ4 mg「テイコク」	枚	43	49	32	70	31
フェンタニルクエン酸塩テープ6 mg「テイコク」	枚	0	16	0	13	0
フェンタニルクエン酸塩テープ8 mg「テイコク」	枚	6	30	24	28	53
外用トータル		708	574	635	806	764
オキファスト10mg	A	55	85	41	68	53
オキファスト50mg	A	53	78	90	55	69
ケタラル200mg 20ml	ml	0	0	0	0	0
ナルベイン注2 mg	A	268	176	49	100	224
ナルベイン注20mg	A	5	3	0	3	14
フェンタニル注射液0.1mg「テルモ」	A	913	944	990	1,006	949
フェンタニル注射液0.5mg「テルモ」	A	347	288	312	378	429
ベチジン塩酸塩注射液35mg	A	158	166	165	160	166
モルヒネ塩酸塩注射液10mg	A	85	8	39	125	156
モルヒネ塩酸塩注射液50mg	A	52	84	58	66	67
モルヒネ塩酸塩注射液200mg	A	18	1	0	12	47
レミフェンタニル静注用2 mg	A	355	337	354	361	376
注射トータル	本	2,309	2,170	2,098	2,334	2,550

今年は366日

6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	計	1 日平均
72	79.5	28.5	31.5	15	0	60	1,178.8	3.22
45	25	64	74	75	118	101	1,439	3.93
50	129	0	6	12	104	20	949	2.59
0	38	62	8	0	0	13	335	0.92
0	38	0	14	0	114	300	780	2.13
0	0	0	0	0	0	44	138	0.38
1,306	1,306	1,438	933	1,408	1,811	1,532	15,491	42.33
1,348	1,572	1,794	1,198	874	1,446	1,496	17,525	47.88
230	247	415	165	320	318	389	3,777	10.32
780	1,064	948	740	969	1,491	1,189	12,382	33.83
653	585	782	585	875	742	1,017	8,769	23.96
183	545	341	102	170	427	485	3,851	10.52
143	160	552	151	296	330	530	5,792	15.83
401	213	171	205	281	54	369	4,166	11.38
219	150	131	317	290	138	130	3,579	9.78
0	0	0	0	0	0	0	118	0.32
498	527	625	628	318	502	427	6,130	16.75
272	314	553	515	349	444	279	4,076	11.14
1,002	1,111	2,210	1,418	959	1,054	936	15,203	41.54
50	10	34	108	14	72	19	316	0.86
0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
230	0	0	0	0	0	0	230	0.63
0	32	18	13	28	0	14	406	1.11
693	585	452	436	630	503	478	6,226	17.01
8,175	8,730.5	10,618.5	7,647.5	7,883	9,668	9,828	112,856.8	308.35
62	18	7	21	15	0	60	284	0.78
0	0	0	0	0	0	0	83	0.23
127	145	189	174	220	155	255	1,956	5.34
179	187	159	246	227	152	181	2,700	7.38
62	65	155	72	145	121	105	1,573	4.30
0	45	11	0	26	21	30	358	0.98
0	0	16	2	3	0	0	50	0.14
23	0	0	0	5	0	3	172	0.47
453	460	537	515	641	449	634	7,176	19.61
60	99	58	169	74	89	71	922	2.52
116	76	52	29	38	69	97	822	2.25
0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
96	153	126	158	71	160	217	1,798	4.91
9	4	9	92	149	27	40	355	0.97
901	1,084	1,191	1,059	1,166	1,127	969	12,299	33.60
322	354	453	453	544	372	393	4,645	12.69
174	180	175	173	220	172	184	2,093	5.72
114	121	72	62	141	166	136	1,225	3.35
43	38	159	116	48	30	30	791	2.16
0	5	45	27	106	0	12	273	0.75
331	422	463	369	423	418	364	4,573	12.49
2,166	2,536	2,803	2,707	2,980	2,630	2,513	29,796	81.41

表21－(1) 患者給食数（令和6年）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	1日平均	構成比
常食	8,289	8,183	8,788	9,218	9,638	9,467	10,227	10,001	9,578	9,519	10,004	9,394	112,306	306.8	44%
軟流動	2,421	2,014	2,143	2,502	2,806	2,951	2,460	2,695	2,614	3,019	2,673	2,408	30,706	83.9	12%
（全粥）	1,486	1,301	1,263	1,424	1,498	1,757	1,248	1,529	1,422	1,695	1,489	1,286	17,398	47.5	7%
（5分粥）	325	259	408	443	660	509	552	484	450	637	420	560	5,707	15.6	2%
（3分粥）	222	158	250	289	337	311	354	312	359	307	390	277	3,566	9.7	1%
（流動食）	388	296	222	346	311	374	306	370	383	380	374	285	4,035	11.0	2%
がん治療支援食	4,955	4,715	4,837	4,575	4,895	5,212	5,922	5,680	5,361	5,617	5,325	5,215	62,309	170.2	25%
特別食（治療食）	3,801	4,261	4,206	3,164	3,804	4,094	3,986	4,002	3,175	3,774	4,533	3,731	46,531	127.1	18%
検食	186	174	186	180	186	180	217	217	210	217	210	217	2,380	6.5	1%
総数	19,652	19,347	20,160	19,639	21,329	21,904	22,812	22,595	20,938	22,146	22,745	20,965	254,232	695	100%

がん治療支援食とは、特別食には該当しないが、がん治療中の栄養状態維持を目的に症状、病態に合わせて準備している食種を分類した。

表21－(2) 栄養相談・指導数（令和6年）

区 分		月 別												計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
外 来	指 導 件 数	201	214	187	202	212	199	237	214	198	235	221	228	2,548
入 院	指 導 件 数	329	361	348	357	408	379	439	413	389	422	366	363	4,574
総 数	指 導 件 数	530	575	535	559	620	578	676	627	587	657	587	591	7,122

表22 退院患者年齢階級別性別数（令和6年）

（単位：人）

年齢別 \ 月別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	構成比 (%)
～ 19	男	2	2	2	1	1	3	1	4	0	1	1	4	22	0.3%
	女	0	3	0	0	1	4	2	4	1	2	3	1	21	
	計	2	5	2	1	2	7	3	8	1	3	4	5	43	
20 ～ 24	男	7	3	6	3	4	3	5	3	5	3	2	4	48	0.6%
	女	2	1	1	4	3	2	0	0	5	2	3	4	27	
	計	9	4	7	7	7	5	5	3	10	5	5	8	75	
25 ～ 29	男	4	6	4	3	4	4	6	4	2	2	6	6	51	0.8%
	女	3	8	5	8	5	2	4	3	5	5	5	4	57	
	計	7	14	9	11	9	6	10	7	7	7	11	10	108	
30 ～ 34	男	1	6	10	6	6	3	7	5	3	8	5	2	62	1.1%
	女	13	6	12	9	6	7	5	7	4	3	4	14	90	
	計	14	12	22	15	12	10	12	12	7	11	9	16	152	
35 ～ 39	男	8	4	7	10	6	3	3	5	2	3	3	5	59	1.6%
	女	11	9	10	13	13	11	16	16	15	14	15	13	156	
	計	19	13	17	23	19	14	19	21	17	17	18	18	215	
40 ～ 44	男	11	10	9	10	9	18	8	10	7	4	7	8	111	2.7%
	女	15	14	15	19	25	21	23	24	25	20	25	27	253	
	計	26	24	24	29	34	39	31	34	32	24	32	35	364	
45 ～ 49	男	11	16	17	7	12	22	15	32	17	24	29	29	231	4.9%
	女	24	31	43	32	45	36	28	44	39	50	33	32	437	
	計	35	47	60	39	57	58	43	76	56	74	62	61	668	
50 ～ 54	男	25	31	42	35	35	38	45	36	34	48	50	36	455	8.2%
	女	47	34	58	63	60	63	51	49	46	66	57	64	658	
	計	72	65	100	98	95	101	96	85	80	114	107	100	1,113	
55 ～ 59	男	59	65	57	46	59	56	57	62	67	55	52	63	698	10.1%
	女	46	52	55	52	65	63	52	63	46	72	64	49	679	
	計	105	117	112	98	124	119	109	125	113	127	116	112	1,377	
60 ～ 64	男	78	79	83	78	79	66	74	68	90	98	84	84	961	12.3%
	女	46	58	65	64	67	66	60	70	66	59	48	51	720	
	計	124	137	148	142	146	132	134	138	156	157	132	135	1,681	
65 ～ 69	男	74	72	70	70	98	94	109	106	83	93	111	109	1,089	12.4%
	女	44	42	56	40	50	61	48	53	53	44	56	50	597	
	計	118	114	126	110	148	155	157	159	136	137	167	159	1,686	
70 ～ 74	男	103	109	139	116	115	109	130	113	98	114	103	120	1,369	16.5%
	女	63	82	84	69	72	76	68	75	57	77	81	77	881	
	計	166	191	223	185	187	185	198	188	155	191	184	197	2,250	
75 ～ 79	男	109	117	104	93	109	105	149	132	119	109	107	125	1,378	16.7%
	女	62	58	85	62	60	81	95	85	85	74	69	76	892	
	計	171	175	189	155	169	186	244	217	204	183	176	201	2,270	
80 ～	男	78	78	87	61	69	85	78	92	73	100	74	82	957	11.8%
	女	40	39	51	57	59	58	60	62	49	59	60	60	654	
	計	118	117	138	118	128	143	138	154	122	159	134	142	1,611	
合計	男	570	598	637	539	606	609	687	672	600	662	634	677	7,491	100.0%
	女	416	437	540	492	531	551	512	555	496	547	523	522	6,122	
	計	986	1,035	1,177	1,031	1,137	1,160	1,199	1,227	1,096	1,209	1,157	1,199	13,613	

表23 退院患者地域別数（令和6年）

（単位：人）

地区別	主部位別	計		食道	胃	結腸	直腸	肝	胆道・胆嚢	脾	肺	乳	子宮頸	子宮体	前立腺	膀胱	甲状腺	悪性リンパ腫	白血病(MDS)	他	悪性腫瘍構成比(%)	地区別構成比(%)
		合計	悪性・新生物																			
計		13613	12192	1422	814	644	439	378	517	456	1995	871	1329	510	270	493	244	154	501	266	2311	89.6%
横 浜 市		8255	7337	919	497	412	249	217	257	239	1046	667	858	328	177	370	155	88	290	129	1358	53.9%
鶴 見 区		209	194	15	1	5	3	2	6	3	13	10	26	3		3	2	8	6	5	98	1.4%
神 奈 川 区		239	215	24	10	4	6	5	4	2	32	15	19	41	9	11	4		5	2	46	1.6%
西 区		148	125	23	1	10	4	7	2	5	11	8	3	20	7	2		2	3		40	0.9%
中 区		125	108	17	6	2	8	4	1		15	3	15	7	1	3	1	3		12	27	0.8%
南 区		222	204	18	6	6	17	2	12		39	14	19	15	1	6	6	9	8	3	41	1.5%
保土ヶ谷区		645	572	73	40	46	26	18	22	11	95	53	60	23	9	25	9	7	24	8	96	4.2%
磯 子 区		91	76	15	5	2	2	2	12	3	4	14	5	3	3	4	5	3	1	13	0.6%	
金 沢 区		69	64	5	1	2	3	1	2	3	11	8	6	7	4	2	5	3		2	4	0.5%
港 北 区		354	310	44	8	8	9	10	14	15	57	16	27	15	3	12	3		21	6	86	2.3%
戸 塚 区		622	568	55	77	23	20	19	18	21	84	51	61	30	15	14	13	9	20	15	78	4.2%
港 南 区		238	216	22	27	19	2	3	3	4	34	20	17		4	10	7		1	16	7	4.2%
旭 区		2420	2117	303	133	130	72	76	71	65	226	246	298	50	58	168	68	22	82	30	322	15.6%
緑 区		433	393	40	32	58	17	9	16	12	63	11	44	14	4	19	5	3	12	9	65	2.9%
瀬 谷 区		930	816	114	60	52	31	25	24	33	115	88	102	34	38	35	9	10	20	5	135	6.0%
栄 区		97	88	9	9	1		5	4	1	23	2	7	2	2	5	3		6	6	20	0.6%
泉 区		798	711	87	27	28	18	23	17	25	92	91	121	37	19	24	7	8	36	11	127	5.2%
青 葉 区		270	244	26	18	14	11	5	11	10	74	11	12	4	4	1	13	7	4	2	47	1.8%
都 筑 区		345	316	29	36	2	2	1	18	26	58	6	16	26	1	14	1		33	5	71	2.3%
川 崎 市		403	359	44	21	6	8	5	18	13	34	12	30	18	5	15	1	7	6	14	146	2.6%
横 須 賀 市		229	213	16	11	10	12	5	5	5	49	2	30	6	5	6		6	3	7	51	1.6%
平 塚 市		165	154	11	2	10	11	5	28	7	24	3	10	2	2	5	3	5		37	1.1%	
鎌 倉 市		151	126	25	3	8	2	1	2	3	12	5	13	3	3	4	15	3	17	10	22	0.9%
藤 沢 市		516	461	55	57	20	4	15	26	25	82	35	44	19	6	8	5	9	9	13	84	3.4%
小 田 原 市		104	95	9	10	3	3	3	9	20	5	8	4	4	5	3	7	3	4	4	11	0.7%
茅ヶ崎市		247	217	30	15	15	9	5	6	5	39	11	15	15	14	2	10	4	8	1	43	1.6%
逗 子 市		18	15	3	1	1		2		2			1			1				7		0.1%
相 模 原 市		471	413	58	11	16	11	18	12	30	89	17	17	11	0	8	11	4	39	27	92	3.0%
三 浦 市		55	48	7	9	2	1	2	4		10			8	1					11		0.4%
秦 野 市		80	79	1	6	9	1	1	10	4	34		1	3		2				8		0.6%
厚 木 市		127	122	5	6	4	10	7	11	5	35	1	16						5	1	21	0.9%
大 和 市		859	793	66	78	48	32	27	53	20	148	36	102	22	17	19	20	6	51	27	87	5.8%
伊勢原市		53	51	2	1	1	2		7	8	16		1			3	2				11	0.4%
海老名市		384	358	26	29	19	21	25	14	17	65	27	61	20	9	5			7	2	37	2.6%
座間市		301	267	34	8	8	21	8	12	15	77	21	21	11	4	10		1	13	3	34	2.0%
南足柄市			8	0					1	1			1		1	1		2	1	1	1	0.1%
綾瀬市		318	291	27	28	16	13	6	8	24	43	10	56	4	8	2	4	3	17	9	40	2.1%
三 浦 郡		54	52	2	13							1			3		1	5	2	27	0.4%	0.4%
高 座 郡		64	58	6		1			3	2	14	3		10	1	1	4	2	1		16	0.4%
愛 甲 郡		40	40	0	0	0	0	3	0	5	12	1	0	0	0	0	7	0	5	0	7	0.3%
中 郡		47	38	9	0	1	0	0	1	12	7	1	0	0	0	5	0	0	0	1	10	0.3%
足柄上郡		29	26	3	0	2	0	0	1	1	12	0	2	3	4	0	0	1	0	0	0	0.2%
足柄下郡			6	0	0	0	0	1	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
県 外		629	565	64	19	25	29	22	29	15	121	12	42	23	6	23	2	7	24	16	150	4.2%

表24－(1) 退院患者（延）疾病分類(1)

(令和6年)

疾 病 別			計		男		女	
			全退院	死亡	全退院	死亡	全退院	死亡
合 計			13,613	465	7,491	278	6,122	191
I	A00～B99	感染症及び寄生虫症	21	1	12	1	9	0
	A15～A19	結核（再掲）	0	0				
	B15～B19	ウィルス肝炎（再掲）	1	1	1	1	0	0
II	C00～D48	悪性新生物（C00～C97）	12,192	449	6,774	266	5,418	183
		上皮内新生物、その他悪性新生物（D00～D09、D45～D46、D471. 3. 4. 5. 9）	224	5	88	4	136	1
		その他の新生物（D10～D48）※上記D45～D47を除く	689	1	378	1	311	0
III	D50～D89	血液および造血系の疾患ならびに免疫機構の障害	9	0	5	0	4	0
IV	E00～E90	内分泌、栄養および代謝疾患	39	0	13	0	26	0
	E10～E14	糖尿病（再掲）	5	0	2	0	3	0
V	F00～F99	精神および行動の障害	0	0				
VI	G00～G99	神経系の疾患	4	0	1	0	3	0
VII	H00～H59	眼および付属器の疾患	0	0				
VIII	H60～H95	耳および乳様突起の疾患	0	0				
IX	I00～I99	循環器系の疾患	20	1	13	1	7	0
	I10～I15	高血圧性の疾患（再掲）	2	0	0	0	2	0
	I20～I25	虚血性心疾患（再掲）	0	0				
	I30～I52	その他の型の心疾患（再掲）	4	0	3	0	1	0
	I60～I69	脳血管疾患（再掲）	4	0	3	0	1	0
X	J00～J99	呼吸器系の疾患	43	3	28	1	15	2
XI	K00～K93	消化器系の疾患	105	2	67	1	38	1
	K25～K27	胃・十二指腸潰瘍（再掲）	2	0	2	0	0	0
	K70～K74	肝硬変・慢性肝炎（再掲）	2	1	2	1	0	0
	K80～K81	胆石症・胆のう炎（再掲）	15	0	14	0	1	0
XII	L00～L99	皮膚および皮下組織の疾患	8	0	3	0	5	0
XIII	M00～M99	筋骨格系および結合組織の疾患	10	0	6	0	4	0
XIV	N00～N99	尿路器系の疾患	80	0	17	0	63	0
	N00～N39	泌尿器（再掲）	24	0	15	0	9	0
	N40～N51	男性性器（再掲）	0	0				
	N70～N77 N80～N98	女性性器（再掲）	50	0	0	0	50	0
XV	O00～O99	妊娠・分娩および産じょく〈褥〉	0	0				
XVI	P00～P96	周産期に発生した病態	0	0				
XVII	Q00～Q99	先天奇形、変形および染色体異常	2	0	0	0	2	0
XVIII	R00～R99	症状、兆候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	34	3	11	2	23	1
XIX	S00～T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	21		9	0	12	0
XX	V01～Y98	傷病および死亡の外因	0	0				
XXI	Z00～Z99	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	44	0	26	0	18	0
	Z520	血液提供者〈ドナー〉（再掲）	0	0				
	Z523	骨髄提供者〈ドナー〉（再掲）	0	0				
	Z526	肝臓提供者〈ドナー〉（再掲）		0				
XXII	U00～U99	特殊目的用コード	68	4	40	1	28	3
	U071	コロナウイルス感染症2019、ウイルスが同定されたもの	68	4	40	1	28	3
	U072	コロナウイルス感染症2019、ウイルスが同定されていないもの	0	0				
	U08	コロナウイルス感染症2019の既往歴	0	0				
	U09	コロナウイルス感染症2019後の病態	0	0				

死亡は全退院の内数

表24－(2) 退院患者（延）疾病分類(2)
悪性新生物部位別内訳

	部 位	計		男		女	
		全退院	死亡	全退院	死亡	全退院	死亡
C00 ～ C97	総 数	12,192	449	6,774	266	5,418	183
C00 ～ C14	口唇・口腔及び咽頭 計	517	7	423	7	94	0
C00	口唇						
C01	舌根〈基底〉部	5		5			
C02	その他及び部位不明の舌	49	2	33	2	16	
C03	歯肉	24	1	3	1	21	
C04	口腔底	40	1	40	1		
C05	口蓋	3		3			
C06	その他及び部位不明の口腔	2		2			
C07	耳下腺	67		58		9	
C08	その他及び部位不明の大唾液腺	38		29		9	
C09	扁桃	51		45		6	
C10	中咽頭	69	1	66	1	3	
C11	鼻〈上〉咽頭	44	1	16	1	28	
C12	梨状陥凹〈洞〉	66	1	65	1	1	
C13	下咽頭	46		45		1	
C14	その他及び部位不明確の口唇、口腔及び咽頭	13		13			
C15 ～ C26	消化器 計	5,310	213	3,461	140	1,849	73
C15	食道	814	28	666	24	148	4
C16	胃	644	28	466	21	178	7
C17	小腸	56	6	47	5	9	1
C18	結腸	439	12	230	10	209	2
C19	直腸 S 状結腸移行部	57	2	25		32	2
C20	直腸	321	8	236	7	85	1
C21	肛門及び肛門管	11	1	6		5	1
C22	肝及び肝内胆管	517	18	373	15	144	3
C23	胆のう〈嚢〉	105	9	42	3	63	6
C24	その他及び部位不明の胆道	351	15	259	11	92	4
C25	膵	1,995	86	1,111	44	884	42
C26	その他及び部位不明確の消化器						
C30 ～ C39	呼吸器及び胸腔内臓器 計	1,574	81	1,068	62	506	19
C30	鼻腔及び中耳	80		34		46	
C31	副鼻腔	36		30		6	
C32	喉頭	66	1	62		4	1
C33	気管	3				3	
C34	気管支及び肺	1,326	75	903	60	423	15
C37	胸腺	43	4	30	2	13	2
C38	心臓、縦隔及び胸膜	20	1	9		11	1
C39	その他及び部位不明確の呼吸器及び胸腔内臓器						
C40 ～ C41	骨及び関節軟骨 計	76	0	43	0	33	0
C40	(四) 肢の骨及び関節軟骨	22		16		6	
C41	その他及び部位不明の骨及び関節軟骨	54		27		27	
C43 ～ C44	皮膚の黒色腫及びその他 計	53	0	16	0	37	0
C43	皮膚の黒色腫	5		5			
C44	皮膚のその他	48		11		37	
C45 ～ C49	中皮及び軟部組織 計	364	12	197	5	167	7
C45	中皮腫	20	1	14		6	1
C46	カポジ〈Kaposi〉肉腫						
C47	末梢神経及び自律神経	3		3			
C48	後腹膜及び腹膜	120	5	57	1	63	4
C49	その他の結合組織及び軟部組織	221	6	123	4	98	2

(つづき)

死亡・死亡上皮内癌は全退院の内数

上皮内にMDSも含む

(令和6年)

	部	位	計		男		女	
			全退院	死亡	全退院	死亡	全退院	死亡
C50	乳房	計	871	9	8	0	863	9
C51 ～ C58	女性性器	計	1,111	34			1,111	34
C51	外陰		11				11	
C52	膣		13				13	
C53	子宮頸（部）		510	10			510	10
C54	子宮体部		270	16			270	16
C55	子宮の部位不明		1	1			1	1
C56	卵巣		271	6			271	6
C57	その他及び部位不明の女性性器		35	1			35	1
C58	胎盤							
C60 ～ C63	男性性器	計	561	3	561	3		
C60	陰茎		10		10			
C61	前立腺		493	3	493	3		
C62	精巣〈睪丸〉		57		57			
C63	その他及び部位不明の男性性器		1		1			
C64 ～ C68	尿路	計	482	22	325	17	157	5
C64	腎盂を除く腎		166	10	121	9	45	1
C65	腎盂		37	2	16	2	21	
C66	尿管		35	1	24	1	11	
C67	膀胱		244	9	164	5	80	4
C68	その他及び部位不明の泌尿器							
C69 ～ C72	眼、脳及び中枢神経系のその他	計	17	4	12	2	5	2
C69	眼及び付属器							
C70	髄膜							
C71	脳		17	4	12	2	5	2
C72	脊髄、脳神経及び中枢神経系のその他の部位							
C73 ～ C75	甲状腺及びその他の内分泌腺	計	156	8	46	1	110	7
C73	甲状腺		154	8	46	1	108	7
C74	副腎		1				1	
C75	その他の内分泌腺及び関連組織		1				1	
C76 ～ C80	部位不明確、続発部位及び部位不明	計	333	12	206	7	127	5
C76	その他及び部位不明確		14		12		2	
C77	リンパ節の続発性及び部位不明		8		1		7	
C78	呼吸器及び消化器の続発性		115		73		42	
C79	その他の部位の続発性		71	2	39	1	32	1
C80	部位の明示されないもの		125	10	81	6	44	4
C81 ～ C96	リンパ組織、造血組織及び関連組織	計	767	44	408	22	359	22
C81	ホジキン〈Hodgkin〉リンパ腫		18		7		11	
C82	ろ〈濾〉胞性リンパ腫		59	1	30		29	1
C83	非ろ〈濾〉胞性リンパ腫		213	9	112	5	101	4
C84	成熟 T/NK 細胞リンパ腫		10	1	4	1	6	
C85	非ホジキン〈non-Hodgkin〉リンパ腫のその他及び詳細不明の型		187	11	95	5	92	6
C86	T/NK 細胞リンパ腫のその他の明示された型		6		6			
C88	悪性免疫増殖性疾患		8		4		4	
C90	多発性骨髄腫及び悪性形質細胞腫瘍		102	3	57	1	45	2
C91	リンパ性白血病		70	3	49		21	3
C92	骨髄性白血病		82	14	37	8	45	6
C93	単球性白血病		3	1	3	1		
C94	細胞型の明示されたその他の白血病		1				1	
C95	細胞型不明の白血病		8	1	4	1	4	
C96	リンパ組織、造血組織及び関連組織のその他及び詳細不明							
C97	独立した（原発性）多部位			0				

表25 院内がん登録

表25-1(1) 院内がん新登録 (令和6年)

A:手術(開創・体腔鏡・内視鏡) B:放 治 C:化学療法(ホルモン剤他を含む) 手術内訳は開創・体腔鏡・内視鏡の重複も含む (単位:人)

ICD10 悪性新生物 ※1		合計		総 数 (再掲)		外来(再掲)		初		回		治 療 状 況		手術内訳		年内死亡							
部位別		計		男	女	計	男	女	A	B	C	A+B	A+C	B+C	A+B+C	他	無	開創	体腔鏡	内視鏡	計	男	女
C00～C14	口唇・口腔及び咽頭の悪性新生物 小計	5,867 (347)	3,266 (133)	2,601 (214)	2,621 (174)	897	1,407	657	868	26	3	2	0	39	3	0	65	27	0	13	8	7	1
C00	口唇	0	0		0																		
C01	舌根〈基底〉部	12	0	8	4	3		3						5			4				1	1	
C02	その他及び部位不明の舌	32	(2)	19 (1)	13 (1)	15	9	6	15					2			15	15			1	1	
C03	歯肉	11	0	5	6	9	4	5	1	3						7	1			2	1	1	
C04	口腔底	5	0	5		0			1		1			3			1	1			1	1	
C05	口蓋	6	0	4	2	4	2	2	2	2					2		2	2			0		
C06	その他及び部位不明の口腔	6	0	4	2	5	3	2	1	2					3		3	1			0		
C07	耳下腺	12	0	8	4	6	4	2	2	2		1		4	1		4	2			0		
C08	その他及び部位不明の大唾液腺	5	0	5		1	1		2						1		1	1	3		0		
C09	扁桃	12	0	10	2	7	6	1	1					4	1		6	1			0		
C10	中咽頭	14	0	14		7	7		1					6			4	1			2	2	
C11	鼻〈上〉咽頭	7	0	4	3	4	1	3	3					2			2	1			1	1	
C12	梨状陥凹〈洞〉	48	(4)	45 (4)	3	21	20	1	14	7	1			12			14			13	0		
C13	下咽頭	4	(1)	3 (1)	1	3	2	1			1						3				0		
C14	その他及び部位不明確の口唇、口腔及び咽頭	1	0	1		0								1							0		
C15～C26	消化器の悪性新生物 小計	2,010 (79)	1,244 (45)	766 (34)	747 (456)	291	456	291	450	74	485	2	244	91	13	26	625	131	339	223	178	110	68
C15	食道	245	(14)	196 (10)	49 (4)	56	46	10	63	10	33		45	34	7		53	2	53	59	15	13	2
C16	胃	310	0	216	94	69	51	18	153	3	54		33	2			65	16	65	99	20	16	4
C17	小腸	25	(1)	20 (1)	5	11	10	1	7		9						9	5		2	2	2	
C18	結腸	289	(41)	139 (22)	150 (19)	115	61	54	115		30		54				90	12	112	42	11	6	5
C19	直腸S状結腸移行部	48	(7)	22 (3)	26 (4)	14	5	9	26		4		8				10	2	25	5	2	1	1
C20	直腸	144	(11)	100 (6)	44 (5)	62	41	21	38	3	18		24	6	2		53	2	42	16	6	4	2
C21	肛門及び肛門管	11	0	6	5	9	5	4	3					6			2				0		
C22	肝及び肝内胆管	238	0	151	87	128	80	48	22	40	51	2	4	1		24	94	7	21		27	15	12
C23	胆のう〈嚢〉	43	(1)	19 (1)	24	12	4	8	7		19		4	1			12	5	6		6	2	4
C24	その他及び部位不明の胆道	80	(1)	49	31 (1)	26	15	11	6		29		16	1		1	27	22			9	5	4
C25	膵	576	(3)	325 (2)	251 (1)	244	137	107	13	15	238		56	40	4	1	209	58	15		80	46	34
C26	その他及び部位不明確の消化器	1	0	1		1											1				0		
C30～C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物 小計	791 (30)	473 (9)	318 (21)	302 (187)	115	302	83	94	3	59	57	5	0	188	21	348	0	52	41	11		
C30	鼻腔及び中耳	6	0	3	3	5	2	3	4					1			1			0			
C31	副鼻腔	13	0	10	3	9	7	2	4		1			4			4			2	1	1	
C32	喉頭	27	0	20	7	18	14	4	1	10				11		5	1			1	1	1	
C33	気管	2	0	2		0			1			1					2			0			
C34	気管支及び肺	720	(30)	427 (9)	293 (21)	264	160	104	290	65	86	1	59	41	5	173	16	339		49	40	9	
C37	胸腺	16	0	8	8	3	1	2	9		4	1					2	1	9		0		
C38	心臓、縦隔及び胸腺	7	0	5	2	3	3		1		3					3	1			0			
C39	その他及び部位不明確の呼吸器系及び胸腔内臓器	0	0			0															0		
C40～C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物 小計	29 (1)	17 (1)	12 (0)	15 (10)	5	2	3	2	9	3	2	4	0	0	9	8	0	0	0	0	0	0
C40	(四) 肢の骨及び関節軟骨	10	(1)	7 (1)	3	7	5	2	1	2			2			5	3			0			
C41	その他及び部位不明の骨及び関節軟骨	19	0	10	9	8	5	3	1	7	3	2	2			4	5			0			
C43～C44	皮膚の黒色腫及びその他の悪性新生物 小計	9	0	3	0	6	0	9	3	6	1	3	0	0	1	0	4	1	0	0	0	0	0
C43	皮膚の黒色腫	6	0	3	3	6	3	3	2					1		3				0			
C44	皮膚のその他	3	0		3	3		3	1	1						1	1			0			
C45～C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物 小計	159 (5)	87 (2)	72 (3)	63 (34)	29	55	6	19	2	17	0	1	0	59	73	2	0	9	5	4		
C45	中皮腫	12	0	9	3	4	4		1		6					5	1			1		1	
C46	カボジ〈Kaposi〉肉腫	0	0		0															0			
C47	末梢神経及び自律神経	1	0	1	1	1										1				1	1		
C48	後腹膜及び腹膜	45	0	22	23	17	9	8	12	1	7		9			16	20	1		3	2	1	

C49	その他の結合組織及び軟部組織	101	(5)	55	(2)	46	(3)	41	20	21	42	5	6	2	8	1	37	53		4	2	2
C50	乳房の悪性新生物	553	(59)	6		547	(59)	272	136	136	69	30	30	22	180	1	91	401		3		3
C51～C58	女性性器の悪性新生物	482	(75)	0	0	482	(75)	114	0	114	175	41	12	1	90	72	6	3	82	170	96	0
C51	外阴	7	(2)			7	(2)	4		4		1		1			1	3	1		0	11
C52	膣	11	0			11		5		5		5	1		4			1			0	1
C53	子宮頸(部)	204	(47)			204	(47)	56		56	59	33	2		3	67	5	1	34	50	16	3
C54	子宮体部	148	0			148		30		30	78	2	4		37	1		26	42	74	4	4
C55	子宮の部位不明	1	0			1		0		0								1			1	1
C56	卵巢	100	(25)			100	(25)	18		18	36	4			42		1	17	72	3	2	2
C57	その他及び部位不明の女性性器	11	(1)			11	(1)	1		1	2		1		8			5	3		0	
C58	胎盤	0	0					0													0	
C60～C63	男性性器の悪性新生物	815	0	815	0	0	0	626	626	0	166	351	52	1	7	54	1	2	181	13	161	58
C60	陰茎	5	0	5				3	3		1	1			1			2			0	
C61	前立腺	786	0	786				612	612		158	350	48	1	2	54	1	2	170	161	1	3
C62	精巣(睾丸)	23	0	23				10	10		7		4		4			8	11		57	1
C63	その他及び部位不明の男性性器	1	0	1				1	1									1				0
C64～C68	尿路の悪性新生物	240	(48)	175	(42)	65	(6)	72	55	17	81	5	9	0	62	1	2	14	66	8	88	0
C64	腎臓を除く腎	105	0	73		32		27	20	7	66	2	5		5	1		26	5	66	4	4
C65	腎盂	10	0	5		5		5	3	2	3	2						5		3	1	1
C66	尿管	10	0	5		5		4	1	3	4				4			3	2	4		0
C67	膀胱	115	(48)	92	(42)	23	(6)	36	31	5	10	2	2		53		2	14	32	1	15	0
C68	その他及び部位不明の泌尿器	0	0					0														0
C69～C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の悪性新生物	28	(12)	15	(3)	13	(9)	21	10	11	3	0	0	0	2	3	0	20	6	0	0	1
C69	眼及び付属器	2	0	1		1		2	1	1					1			2				0
C70	髄膜	9	(9)	2	(2)	7	(7)	7	1	6	2							7	2			0
C71	脳	15	(2)	11	(1)	4	(1)	10	7	3	1				2	3		9	4		1	1
C72	脊髄、脳神経及び中枢神経系のその他の部位	2	(1)	1		1	(1)	2	1	1								2				0
C73～C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物	142	0	49	0	93	0	58	20	38	58	9	4	13	2	2	1	0	53	72	1	0
C73	甲状腺	136	0	47		89		54	18	36	56	9	4	13	2	2	1		49	71		1
C74	副腎	5	0	2		3		3	2	1	2							3	1			0
C75	その他の内分泌腺及び関連組織	1	0			1		1		1								1				0
C76～C80	部位不明腫瘍、結核部位及び部位不明の悪性新生物	49	0	28	0	21	0	30	17	13	1	7	7	0	3	1	0	30	3	1	0	11
C76	その他及び部位不明腫瘍	3	0	3				3	3			1						2				0
C77	リンパ節の結核性及び部位不明	0	0					0														0
C78	呼吸器及び消化器の結核性	0	0					0														0
C79	その他の部位の結核性	0	0					0														0
C80	部位の明示されないもの	46	0	25		21		27	14	13	1	6	7		3	1		28	3	1		7
C81～C96	リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物	385	(31)	219	(25)	166	(6)	204	108	96	7	13	150	0	8	49	0	1	157	9	5	1
C81	ホジキン(Hodgkin)病	17	0	8		9		8	4	4		8			2			7				0
C82	ろく(濾)胞性リンパ腫	37	0	16		21		24	8	16	1	1	11					23	1			0
C83	非ろ(濾)胞性リンパ腫	114	0	64		50		41	22	19	1	2	61		8	6		36	7	1	1	10
C84	成熟T/NK細胞リンパ腫	10	0	6		4		7	4	3		3			1			6			3	1
C85	非ホジキン(non-Hodgkin)リンパ腫のその他及び詳細不明の型	25	0	14		11		17	9	8		2	9					14			3	2
C86	T/NK細胞リンパ腫のその他の明示された型	7	0	6		1		3	2	1					2			3			0	
C88	悪性免疫増殖性疾患	29	0	18		11		24	16	8	5	6	3					15	1	4		0
C90	多発性骨髄腫及び悪性形質細胞腫瘍	45	0	23		22		24	9	15		2	25		5			13			3	1
C91	リンパ性白血病	27	0	13		14		17	6	11		8			7			12			6	2
C92	骨髄性白血病	31	0	17		14		15	9	6			14		9		1	7			7	6
C93	単球性白血病	7	0	4		3		2	1	1					4			2			3	2
C94	細胞型の明示されたその他の白血病	3	0	3		3		1	1	1					1		1	1			1	1
C95	細胞型不明の白血病	2	0	2				0														0
C96	リンパ組織、造血組織及び関連組織のその他及び詳細不明	31	(31)	25	(25)	6	(6)	21	17	4			2					18				4
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※1 登録対象は、C00～C97(悪性)、D00～D46、D47(0,1,3,4,5,9) ※2 D(境界悪性および上皮内)は該当部位のCに変換し集計

※3 (再掲)は内数 ※4 セカンドオピニオンは登録対象外

表25—(2) 年次別院内がん登録数及び追跡調査状況

年次別 部位別 性 別		S38～45		S46～50		S51～55		S56～60		S61～63		H1～5		H 6～10		H11～15	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
口唇・口腔・咽頭の悪性新生物		39	23	27	14	36	10	24	6	49	21	125	41	207	64	288	93
消化器の悪性新生物																	
	食 道	64	10	55	19	74	16	79	23	118	19	242	38	327	57	504	62
	胃	606	374	606	335	464	337	472	271	372	187	691	304	821	391	957	426
	結 腸	18	18	41	32	66	72	102	71	73	61	226	165	285	188	359	224
	直 腸	48	45	41	44	40	35	52	55	74	38	150	92	201	118	255	141
	肝 臓	7	2	22	7	41	18	65	21	97	28	207	77	239	74	267	104
	胆 の う・胆 管	8	13	6	15	21	30	21	33	19	18	30	51	42	38	64	33
	膵 臓	12	10	25	14	30	21	25	19	33	24	48	42	63	50	140	75
	そ の 他	13	6	13	6	5	6	6	2	5	3	12	6	7	7	14	12
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物																	
	鼻腔・中耳・副鼻腔・喉頭	22	12	19	16	9	1	5		34	7	85	14	120	17	112	18
	肺	119	37	225	91	301	91	354	147	326	144	586	185	806	339	1,243	591
	そ の 他	3	3	6	2	8	2	4	5	9	4	12	7	18	9	21	15
骨及び関節軟骨の悪性新生物		2	2	1	3			1		15	7	21	11	31	13	32	23
皮膚の黒色腫及びその他の悪性新生物		15	12	2	5	9	3	3	4	10	24	30	41	31	28	59	44
中皮及び軟部組織の悪性新生物		5	4	4	4	6	5		2	17	17	41	25	49	43	99	65
乳房の悪性新生物		1	343	1	397		535	3	612	3	409	4	799	2	968	6	1,543
女性性器の悪性新生物																	
	子 宮 頸 部		590		635		633		665		375		633		723		820
	子 宮 体 部		26		59		70		117		89		170		211		272
	そ の 他		38		68		70		95		75		126		153		196
男性性器の悪性新生物																	
	前 立 腺	8		29		26		43		49		90		141		355	
	そ の 他	17		16		10		12		13		22		28		46	
尿路の悪性新生物																	
	膀 胱	23	8	48	22	58	29	61	24	42	7	92	30	108	33	164	35
	そ の 他	3	5	13	13	24	11	29	15	35	6	79	38	92	42	154	49
眼・脳及び中枢神経系のその他の悪性新生物																	
	脳	2	4	5	4		2	6	2	27	13	29	25	35	27	41	36
	そ の 他	1		1	1					2	4	1	2	7	5	3	1
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物																	
	甲 状 腺	5	7	6	15	7	13	7	21	8	27	36	90	33	121	64	189
	その他の内分泌腺						2		2	1	1	4	2	1	3	4	2
部位不明確・続発部位及び部位不明の悪性新生物		26	18	21	17	19	21	13	12	16	16	30	18	49	19	39	31
リンパ組織・造血組織及び関連組織の悪性新生物																	
	ホ ジ キ ン 病	4	2	7	5	3	3	10	1	7	4	4	5	12	5	9	6
	非ホジキンリンパ腫	28	20	19	7	28	10	24	22	51	35	89	71	97	66	123	103
	白 血 病	7	4	11	7	9	4	15	10	54	27	101	70	93	59	77	67
	そ の 他	1	1	4	2	1	4	2	2	7	3	10	6	17	6	19	8
合 計		1,107	1,637	1,274	1,859	1,295	2,054	1,438	2,259	1,566	1,693	3,097	3,184	3,962	3,877	5,518	5,284

(令和 6 年)

H16 ～ 20		H21 ～ 25		H26 ～ 30		R1		R2		R3		R4		R5		R6		S38 ～ R6	死亡判明数
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	合 計	S38 ～ R6
390	118	370	115	502	193	105	39	120	41	121	39	136	34	120	46	135	40	3,731	1,924
516	61	614	109	945	186	204	35	194	43	222	43	197	47	185	41	196	49	5,594	3,219
1,307	516	1,392	591	1,668	723	307	117	245	128	224	100	205	115	234	92	216	94	15,888	8,013
485	314	451	357	670	562	121	121	134	129	140	106	139	126	142	127	139	150	6,414	2,576
320	186	371	215	562	285	92	60	124	62	117	76	138	87	146	75	122	70	4,537	1,599
334	126	489	191	629	242	132	37	149	62	146	63	145	65	165	67	151	87	4,556	3,004
102	74	190	114	305	205	70	36	65	52	82	53	77	50	70	50	68	55	2,160	1,443
294	182	467	321	829	705	226	210	268	201	243	202	258	262	326	280	325	251	6,481	3,999
23	13	41	20	56	53	19	12	18	13	13	10	28	21	27	22	27	10	549	225
166	18	165	21	152	39	35	12	31	15	28	9	43	19	38	11	33	13	1,339	661
1,384	693	1,521	854	2,044	1,161	475	252	450	240	468	293	525	314	489	282	427	293	17,750	9,671
24	19	29	16	53	27	11	12	16	6	17	9	15	18	20	13	13	12	458	202
46	19	34	30	36	22	12	10	12	11	16	7	14	10	14	11	17	12	495	225
46	36	66	45	74	59	7	15	5	4	11	5	7	4	5	6	3	6	724	327
126	104	141	116	235	174	59	48	38	57	67	56	72	53	58	51	87	72	2,000	748
5	1,900	4	2,255	10	2,763	3	598	3	578	3	610	3	596	5	598	6	547	16,113	3,672
	808		823		946		170		167		190		222		203		204	8,807	2,573
	388		395		475		103		123		104		140		127		148	3,017	732
	246		255		309		71		90		92		114		88		130	2,216	1,066
608		668		1,727		725		650		666		838		902		786		8,311	1,348
58		73		88		24		24		35		34		35		29		564	119
179	51	240	68	394	107	82	23	93	28	71	33	107	23	77	27	92	23	2,502	1,131
181	60	215	91	314	155	72	30	82	37	98	31	105	36	118	44	83	42	2,402	992
51	37	23	14	25	22	6	7	14	8	11	5	7	9	9	3	11	4	524	374
6		1	4	2	7	1	2	1	2	3	2	4	2	1	2	4	9	81	33
93	229	125	246	198	469	42	105	36	76	30	66	32	78	37	97	47	89	2,744	600
2	2	2	2	11	1	5		1	2		2	2	1	2	2	2	4	65	33
52	31	68	39	98	55	33	17	22	16	24	11	26	16	32	19	28	21	973	601
12	11	11	11	15	20	2	2	4	5	4	1	4	5	4	4	8	9	219	56
201	156	278	248	370	341	82	73	98	66	84	86	84	90	110	70	124	98	3,452	1,212
103	71	119	75	182	97	44	39	37	26	46	34	44	31	50	34	39	31	1,717	999
20	10	47	27	83	67	8	10	39	37	31	20	31	21	31	17	48	28	668	296
7,134	6,479	8,215	7,668	12,277	10,470	3,004	2,266	2,973	2,325	3,021	2,358	3,320	2,609	3,452	2,509	3,266	2,601	127,051	52,488

表25－(3) 新登録患者数（主要部位別・性別・年齢階級別）

上皮内癌、良性の一部を含む 令和6年（単位：人）

部位 性別 年齢別	全部位（上皮内癌またはMDS再掲）			食 道			胃			結 腸			直 腸			肝 臓			胆のう・胆管			膵 臓		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全年齢	5,867 (347)	3,266 (133)	2,601 (214)	245	196	49	310	216	94	289	139	150	192	122	70	238	151	87	123	68	55	576	325	251
～ 19	13	0	7	0			0			0			0			0			0			1	1	
20～24	24 (6)	8 (1)	16 (5)	0			0			0			0			0			0			0		
25～29	27 (2)	11	16 (2)	0			2	1	1	0			0			0			0			0		
30～34	55 (12)	16 (1)	39 (11)	0			1		1	5	4	1	0			0			0			1		1
35～39	81 (20)	18 (1)	63 (19)	0			2	2		2	1	1	0			0			0			2		2
40～44	138 (19)	30 (1)	108 (18)	2	1	1	3	2	1	6	3	3	7	4	3	2		2	0			5	1	4
45～49	257 (25)	78 (4)	179 (21)	7	4	3	5	1	4	12	5	7	9	7	2	3	2	1	0			14	11	3
50～54	384 (24)	149 (6)	235 (18)	14	9	5	11	8	3	17	9	8	27	15	12	8	4	4	8	4	4	22	13	9
55～59	504 (31)	251 (14)	253 (17)	23	18	5	17	11	6	34	14	20	22	17	5	19	13	6	7	3	4	51	36	15
60～64	598 (28)	346 (11)	252 (17)	23	18	5	24	17	7	20	11	9	19	10	9	27	19	8	8	4	4	63	42	21
65～69	722 (35)	476 (18)	246 (17)	45	37	8	35	29	6	37	21	16	31	21	10	30	22	8	10	5	5	70	47	23
70～74	963 (53)	611 (25)	352 (28)	43	34	9	56	37	19	32	16	16	34	26	8	44	31	13	19	14	5	103	50	53
75～79	1,034 (48)	652 (26)	382 (22)	51	43	8	63	49	14	67	28	39	17	11	6	39	19	20	36	24	12	119	62	57
80以上	1,067 (44)	614 (25)	453 (19)	37	32	5	91	59	32	57	27	30	26	11	15	66	41	25	35	14	21	125	62	63

部位 性別 年齢別	肺			乳 房			子宮頸		子宮体		前立腺		膀 胱			甲状腺			悪性リンパ腫			白血病			その他		
	計	男	女	計	男	女	計	女	計	女	計	男	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全年齢	720	427	293	553	6	547	204	204	148	148	836	836	115	92	23	136	47	89	239	132	107	70	39	31	873	470	403
～ 19	0			0			0		0		0		0			3	1	2	1		1	3	2	1	5	2	3
20 ～ 24	1		1	1		1	3	3	0		0		0			1		1	4	1	3	1		1	13	7	6
25 ～ 29	2		2	3		3	0		0		0		0			5	2	3	3	1	2	2	1	1	10	6	4
30 ～ 34	2		2	2		2	13	13	3	3	0		0			6	2	4	2	1	1	4	2	2	16	7	9
35 ～ 39	2	1	1	24	1	23	16	16	3	3	0		0			4	2	2	4	2	2	1		1	21	9	12
40 ～ 44	10	3	7	36		36	24	24	4	4	1	1	1	1		5	1	4	3	2	1	2	2		27	9	18
45 ～ 49	15	9	6	78		78	24	24	13	13	1	1	0			8	3	5	15	10	5	5	1	4	48	24	24
50 ～ 54	26	12	14	69	1	68	30	30	25	25	16	16	3	2	1	20	12	8	16	6	10	4	2	2	68	36	32
55 ～ 59	41	29	12	72		72	21	21	30	30	34	34	7	4	3	15	2	13	17	10	7	10	6	4	84	54	30
60 ～ 64	52	31	21	53		53	19	19	19	19	96	96	10	8	2	17	5	12	23	12	11	14	9	5	111	64	47
65 ～ 69	87	52	35	52	1	51	10	10	10	10	124	124	13	11	2	15	7	8	30	20	10	11	5	6	112	74	38
70 ～ 74	139	85	54	69	1	68	7	7	15	15	192	192	19	17	2	12	3	9	45	24	21	8	7	1	126	74	52
75 ～ 79	153	92	61	45	1	44	24	24	14	14	195	195	22	18	4	14	6	8	40	23	17	2	1	1	133	80	53
80以上	190	113	77	49	1	48	13	13	12	12	177	177	40	31	9	11	1	10	36	20	16	3	1	2	99	24	75

表25－(4) 新登録患者数（地区別）

令和6年（単位：人）

全登録数 (a)	食 道	胃	結腸	直腸	肝	胆のう 胆道	脾	肺	乳	子宮頸	子宮体	前立腺	膀胱	甲状腺	悪性 リンパ腫	白血病 (MDS含)	他																				
5,867	245 4.2	310 5.3	289 4.9	192 3.3	238 4.1	238 4.1	576 9.8	720 12.3	553 9.4	204 3.5	148 2.5	786 13.4	115 2.0	136 2.3	239 4.1	70 1.2	808 13.8																				
地区名	地区別 登録数(c)	(c)構成比 c/a%	地区別 登録数(d)	(d)構成比 d/b%																																	
横 浜 市	3,475	59.2	167	57.8	108	56.3	108	45.4	108	45.4	4	1.7	4	1.7	7	1.2	15	2.1	9	1.6	2	1.0	1	0.7	4	0.5	1	0.9	4	2.9	5	2.1	13	1.6			
鶴見区	81	1.4	5	1.6	5	1.7	2	1.0	4	1.7	4	1.7	4	1.7	7	1.2	15	2.1	9	1.6	2	1.0	1	0.7	4	0.5	1	0.9	4	2.9	5	2.1	13	1.6			
神奈川	96	1.6	7	2.4	5	2.6	3	1.3	3	1.3	3	1.3	10	1.7	5	0.7	8	1.4	12	5.9	4	2.7	9	1.1	2	1.5	3	1.3	20	2.5	14	1.7					
西 京 区	61	1.0	1	0.3	5	1.7	4	2.1	2	0.8	2	0.8	7	1.2	4	0.6	6	1.1	5	2.5	1	0.7	7	0.9	1	0.7	1	0.4	5	7.1	10	1.2					
中 区	61	1.0	3	1.2	1	0.3	2	1.0	3	1.3	3	1.3	3	0.5	8	1.1	3	0.5	5	2.5	2	1.4	7	0.9	4	2.9	1	0.4	5	7.1	10	1.2					
南 区	82	1.4	4	1.3	1	0.3	1	0.5	4	1.7	4	1.7	8	1.4	10	1.4	4	0.7	4	2.0	1	0.7	9	1.1	5	4.3	8	5.9	4	1.7	15	1.9					
保土ヶ谷区	254	4.3	41	21	6.8	12	4.2	10	5.2	9	3.8	9	3.8	24	4.2	29	4.0	37	6.7	11	5.4	3	2.0	32	4.1	4	3.5	6	4.4	11	4.6	1	1.4	25	3.1		
磯子区	47	0.8	1	0.4	1	0.3	1	0.5	5	2.1	5	2.1	2	0.3	5	0.7	5	0.9	1	0.5	1	0.7	9	1.1	8	1.0	3	2.6	3	2.2	8	1.0	8	1.0			
金沢区	43	0.7	2	0.8	1	0.3	3	1.0	1	0.3	1	0.3	6	1.0	7	1.0	5	0.9	2	1.4	6	0.8	1	0.9	1	0.9	1	0.7	2	0.8	1	1.4	6	0.7			
港北区	127	2.2	3	1.2	6	1.9	4	1.4	3	1.6	6	2.5	6	2.5	10	1.7	17	2.4	14	2.5	8	3.9	2	1.4	21	2.7	3	2.6	4	1.7	1	1.4	19	2.4			
戸塚区	282	4.8	20	8.2	13	4.2	18	6.2	11	5.7	7	2.9	17	3.0	36	5.0	22	4.0	12	5.9	7	4.7	34	4.3	6	5.2	10	7.4	9	3.8	1	1.4	52	10.9			
港南区	102	1.7	4	1.6	7	2.3	5	1.7	3	1.6	1	0.4	8	1.4	13	1.8	5	0.9	5	3.4	14	1.8	2	1.7	1	0.7	8	3.3	2	2.9	23	2.8					
旭 区	1,070	18.2	40	16.3	76	24.5	53	18.3	40	20.8	26	10.9	59	10.2	157	21.8	168	30.4	28	13.7	28	18.9	153	19.5	41	35.7	20	14.7	33	13.8	10	14.3	112	13.9			
緑 区	173	2.9	12	4.9	10	3.2	10	3.5	3	1.6	6	2.5	6	2.5	17	3.0	18	2.5	13	2.4	8	3.9	3	2.0	25	3.2	1	0.9	1	0.7	6	2.5	3	4.3	31	3.8	
瀬谷区	380	6.5	26	10.6	23	7.4	20	6.9	7	3.6	10	4.2	10	4.2	30	5.2	58	8.1	54	9.8	11	5.4	17	11.5	41	5.2	5	4.3	6	4.4	15	6.3	2	2.9	45	5.6	
栄 区	32	0.5	2	0.8	1	0.3	2	1.0	1	0.4	1	0.4	4	0.7	2	0.3	1	0.2	4	2.0	1	0.7	6	0.8	1	0.9	1	0.7	2	0.9	6	0.7	2	2.9	6	0.7	
泉 区	345	5.9	14	5.7	16	5.2	15	5.2	8	4.2	10	4.2	10	4.2	25	4.3	52	7.2	63	11.4	10	4.9	8	5.4	43	5.5	7	6.1	7	5.1	17	7.1	2	2.9	38	4.7	
青葉区	117	2.0	6	2.4	8	2.6	4	1.4	4	2.1	7	2.9	7	2.9	20	3.5	12	1.7	6	1.1	6	2.9	1	0.7	21	2.7	1	0.9	1	0.7	1	0.4	2	2.9	11	1.4	
都 筑 区	122	2.1	8	3.3	1	0.3	4	1.4	2	1.0	4	1.7	4	1.7	17	3.0	9	1.3	3	0.5	10	4.9	1	0.7	22	2.8	2	1.7	9	6.6	4	1.7	2	2.9	32	4.0	
川 崎 市	171	2.9	11	4.5	3	1.0	6	2.1	3	1.6	4	1.7	4	1.7	13	2.3	23	3.2	6	1.1	10	4.9	2	1.4	37	4.7	2	1.7	9	6.6	4	1.7	2	2.9	32	4.0	
横須賀市	106	1.8	4	1.6	1	0.3	7	2.4	3	1.6	2	0.8	2	0.8	24	4.2	7	1.0	4	0.7	4	2.0	1	0.7	10	1.3	1	0.9	5	3.7	4	1.7	5	7.1	23	2.8	
平 塚 市	64	1.1	1	0.4	4	1.3	1	0.5	11	4.6	11	4.6	5	0.9	9	1.3	1	0.2	2	1.0	4	2.7	6	0.8	1	0.9	2	1.5	1	0.4	1	0.4	5	0.6			
鎌 倉 市	56	1.0	1	0.4	6	1.9	3	1.0	1	0.5	1	0.4	1	0.4	8	1.1	2	0.4	4	2.0	2	1.4	5	0.6	3	2.6	2	1.5	1	0.4	2	2.9	14	1.7			
藤 沢 市	220	3.7	14	5.7	9	2.9	7	2.4	8	4.2	10	4.2	10	4.2	31	5.4	26	3.6	22	4.0	6	2.9	7	4.7	12	1.5	5	4.3	5	3.7	8	3.3	2	2.9	38	4.7	
小田原市	38	0.6	2	0.8	2	0.6	2	0.7	2	1.0	2	0.8	2	0.3	6	0.8	2	0.4	1	0.5	1	0.7	5	0.6	3	2.6	2	1.5	1	0.4	4	0.5	4	0.5			
茅ヶ崎市	93	1.6	3	1.2	8	2.6	8	2.8	3	1.6	1	0.4	1	0.4	9	1.6	6	0.8	4	0.7	2	1.0	10	6.8	7	0.9	3	2.6	4	2.9	3	1.3	2	2.9	21	2.6	
逗 子 市	7	0.1	1	1	0.3	1	0.3	1	1	0.3	1	0.3	2	0.3	2	0.3	2	0.3	1	0.7	2	1.4	3	0.3	2	0.3	1	0.7	2	0.9	6	0.7	2	0.9	6	0.7	
相模原市	183	3.1	4	1.6	8	2.6	11	3.8	9	4.7	3	1.3	3	1.3	27	4.7	11	1.5	8	1.4	6	2.9	1	0.7	25	3.2	1	0.9	3	2.2	11	4.6	7	10.0	45	5.6	
三 浦 市	14	0.2	1	1	0.3	1	0.3	1	1	0.5	1	0.4	1	0.4	3	0.5	1	0.1	1	0.7	1	0.7	1	0.1	2	1.7	1	0.1	2	0.7	1	0.4	1	0.4	3	0.4	
秦 野 市	35	0.6	1	0.4	1	0.3	1	0.3	5	2.1	5	2.1	12	2.1	3	0.4	1	0.2	3	1.5	1	0.7	2	0.3	1	0.9	1	0.1	2	0.3	1	0.4	1	0.4	1	0.4	
厚 木 市	56	1.0	1	0.4	3	1.0	6	2.1	4	2.1	6	2.5	6	2.5	6	1.0	8	1.1	4	0.7	6	2.9	12	8.1	20	2.5	3	2.6	7	5.1	5	21.3	8	11.4	23	2.8	
大 和 市	367	6.3	18	7.3	26	8.4	25	8.7	14	7.3	26	10.9	26	10.9	34	5.9	41	5.7	27	4.9	6	2.9	12	8.1	20	2.5	3	2.6	7	5.1	5	21.3	8	11.4	23	2.8	
伊勢原市	28	0.5	1	1	0.3	1	0.3	1	0.5	2	0.8	2	0.8	6	1.0	1	0.1	1	0.7	1	0.7	6	0.8	1	0.9	1	0.9	1	0.7	1	0.4	1	0.4	1	0.4	1	0.4
海老名市	138	2.4	7	2.9	11	3.5	12	4.2	12	6.3	7	2.9	13	2.3	19	2.6	7	1.3	4	2.0	8	5.4	8	1.0	2	1.7	2	1.5	3	1.3	1	1.4	17	2.1			
座 間 市	125	2.1	5	2.0	5	1.6	8	2.8	6	3.1	6	2.5	6	2.5	19	3.3	14	1.9	8	1.4	3	1.5	3	2.0	15	1.9	2	1.7	2	1.5	3	1.3	1	1.4	19	2.4	
南足柄市	16	0.3	1	1	0.3	1	0.3	1	2	0.8	1	0.4	1	0.2	4	0.6	1	0.2	1	0.5	1	0.7	4	0.5	2	1.5	1	0.4	1	0.4	1	0.4	1	0.4	1	0.4	
綾 瀬 市	112	1.9	9	3.7	9	2.9	6	2.1	1	0.5	7	2.9	7	2.9	12	2.1	19	2.6	6	1.1	3	2.0	7	0.9	1	0.9	3	2.2	6	2.5	16	2.0</					

表26 神奈川県悪性新生物登録

表26—(1)— 1 がん罹患数・粗罹患率・年齢調整罹患率（人口10万対）

—部位・性別—

令和3年

部 位	国際疾病分類 (ICD-10)	罹 患 数			粗罹患率		年齢調整罹患率 (日本人人口)		年齢調整罹患率 (世界人口)	
		男	女	計	男	女	男	女	男	女
全 部 位	C00-C96,D06	40,221	32,839	73,060	899.5	721.6	450.5	407.4	314.0	306.4
口 唇	C00	4	2	6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	—
舌	C01-C02	292	140	432	6.5	3.1	4.0	1.9	3.0	1.4
歯 肉	C03	103	102	205	2.3	2.2	1.1	0.8	0.8	0.5
口 腔 底	C04	39	12	51	0.9	0.3	0.5	0.1	0.4	0.1
口 蓋	C05	25	21	46	0.6	0.5	0.3	0.3	0.2	0.2
その他及び不明の口腔	C06	43	30	73	1.0	0.7	0.5	0.3	0.4	0.2
耳 下 腺	C07	46	35	81	1.0	0.8	0.6	0.7	0.5	0.5
大 唾 液 腺	C08	25	15	40	0.6	0.3	0.4	0.2	0.3	0.1
扁桃腺	C09	46	17	63	1.0	0.4	0.7	0.2	0.5	0.2
中 咽 頭	C10	139	32	171	3.1	0.7	1.9	0.4	1.4	0.3
鼻 < 上 > 咽 頭	C11	30	12	42	0.7	0.3	0.5	0.2	0.4	0.2
梨 状 陥 凹 < 洞 >	C12	214	20	234	4.8	0.4	2.5	0.3	1.7	0.2
下 咽 頭	C13	125	17	142	2.8	0.4	1.4	0.3	0.9	0.2
部位不明確な口腔・咽頭	C14	8	2	10	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	—
食 道	C15	1,614	413	2,027	36.1	9.1	18.8	4.5	13.2	3.2
胃	C16	4,979	2,280	7,259	111.4	50.1	51.3	19.7	34.1	13.4
小 腸	C17	198	120	318	4.4	2.6	2.4	1.5	1.7	1.1
結 腸	C18	5,653	4,220	9,873	126.4	92.7	65.4	40.6	45.9	28.5
直 腸	C19-C20	2,637	1,582	4,219	59.0	34.8	33.9	18.4	24.5	13.5
肛 門 及 び 肛 門 管	C21	37	41	78	0.8	0.9	0.5	0.4	0.3	0.3
肝 及 び 肝 内 胆 管	C22	1,352	596	1,948	30.2	13.1	14.5	4.7	10.0	3.3
胆 の う 及 び 肝 外 胆 管	C23-C24	753	611	1,364	16.8	13.4	7.2	4.4	4.7	2.9
膵	C25	1,501	1,386	2,887	33.6	30.5	16.8	11.5	11.6	7.9
その他及び部位不明の消化器	C26	2	3	5	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
鼻 腔・中 耳・副 鼻 腔	C30-C31	83	37	120	1.9	0.8	1.1	0.5	0.8	0.4
喉 頭	C32	272	31	303	6.1	0.7	3.0	0.3	2.1	0.2
気 管・気 管 支・肺	C33-C34	5,240	2,765	8,005	117.2	60.8	54.5	24.9	36.6	17.1
胸 膜・胸 腺・心・縦 隔	C37-C38	150	114	264	3.4	2.5	2.3	1.5	1.8	1.2
その他及び部位不明確な呼吸器	C39	—	—	—	—	—	—	—	—	—
骨 及 び 関 節 軟 骨	C40-C41	27	18	45	0.6	0.4	0.5	0.3	0.5	0.3
皮 膚 の 黒 色 腫	C43	68	65	133	1.5	1.4	0.9	0.8	0.6	0.6
皮 膚、そ の 他	C44	947	880	1,827	21.2	19.3	9.6	6.9	6.5	4.8
中 皮 腫	C45	98	17	115	2.2	0.4	0.9	0.2	0.6	0.1
カ ポ ジ 肉 腫	C46	1	—	1	0.0	—	0.0	—	—	—
末 梢 神 経・自 律 神 経	C47	9	5	14	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1
後 腹 膜・腹 膜	C48	44	128	172	1.0	2.8	0.5	1.7	0.4	1.3
結 合 組 織、他 軟 部 組 織	C49	127	75	202	2.8	1.7	1.7	1.0	1.3	0.9

(つづき)

部 位	国際疾病分類 (ICD-10)	罹 患 数			粗罹患率		年齢調整罹患率 (日本人人口)		年齢調整罹患率 (世界人口)	
		男	女	計	男	女	男	女	男	女
乳 房	C50	56	8,478	8,534	1.3	186.3	0.7	125.5	0.5	96.1
子 宮	C53-C55	・	2,009	2,009	・	44.2	・	33.1	・	25.7
子宮頸部(上皮内がんを除く)	(C53)	・	692	692	・	15.2	・	12.1	・	9.4
子 宮 体 部	(C54)	・	1,297	1,297	・	28.5	・	20.9	・	16.2
子 宮、 部 位 不 明	(C55)	・	20	20	・	0.4	・	0.2	・	0.1
卵 巢	C56	・	979	979	・	21.5	・	16.6	・	13.4
外 陰・ 膣・ 他 女 性 性 器	C51-C52, C57	・	139	139	・	3.1	・	1.6	・	1.2
胎 盤	C58	・	3	3	・	0.1	・	0.1	・	0.1
子宮頸部(上皮内がん)	D06	・	1,534	1,534	・	33.7	・	38.2	・	31.4
前 立 腺	C61	6,615	・	6,615	147.9	・	70.0	・	47.0	・
睪 丸	C62	159	・	159	3.6	・	3.8	・	3.3	・
陰 茎 他 男 性 性 器	C60・C63	86	・	86	1.9	・	0.8	・	0.5	・
腎 盂 を 除 く 腎	C64	1,016	400	1,416	22.7	8.8	13.3	4.2	9.8	3.2
膀 胱	C67	2,210	643	2,853	49.4	14.1	22.9	5.3	15.5	3.6
そ の 他 の 泌 尿 器	C65-C66, C68	547	265	812	12.2	5.8	5.4	2.2	3.5	1.4
眼	C69	2	4	6	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0
脳	C71	190	154	344	4.3	3.4	3.1	2.4	2.6	2.3
その他・部位不明の神経系	C70・C72	14	18	32	0.3	0.4	0.3	0.3	0.2	0.3
甲 状 腺	C73	246	637	883	5.5	14.0	3.9	10.6	3.1	8.4
そ の 他 の 内 分 泌 腺	C74・C75	40	31	71	0.9	0.7	0.8	0.6	0.8	0.6
その他及び不明確な部位	C76	27	19	46	0.6	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1
リンパ節、続発性及び部位不明	C77	5	2	7	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
続発性の呼吸器及び消化器	C78	—	—	—	—	—	—	—	—	—
続発性のその他の部位不明	C79	—	—	—	—	—	—	—	—	—
部 位 不 明	C80	217	244	461	4.9	5.4	2.0	1.9	1.4	1.3
ホ ジ キ ン 病	C81	55	33	88	1.2	0.7	1.0	0.7	0.8	0.7
ろ胞性非ホジキンリンパ腫	C82	113	145	258	2.5	3.2	1.4	1.7	1.0	1.2
びまん性非ホジキンリンパ腫	C83	686	504	1,190	15.3	11.1	7.8	5.0	5.6	3.6
皮 膚 T 細 胞 リ ン パ 腫	C84	64	41	105	1.4	0.9	0.8	0.4	0.6	0.3
非 ホ ジ キ ン 詳 細 不 明	C85	171	156	327	3.8	3.4	1.6	1.2	1.1	0.8
多発性骨髄腫・形質細胞腫	C90	245	200	445	5.5	4.4	2.7	1.8	1.8	1.3
リ ン パ 性 白 血 病	C91	133	107	240	3.0	2.4	2.3	1.7	2.4	1.6
骨 髄 性 白 血 病	C92	284	185	469	6.4	4.1	4.2	2.5	3.3	2.1
単 球 性 白 血 病	C93	44	24	68	1.0	0.5	0.5	0.3	0.4	0.3
そ の 他 の 白 血 病	C94	8	4	12	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0
細 胞 型 不 明 の 白 血 病	C95	30	27	57	0.7	0.6	0.4	0.3	0.4	0.3
リンパ、造血、関連組織のその他及び詳細不明	C96	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表26—(1)—2 罹 患 数
—主要部位・性・年齢階級別—

令和 3 年

部 位 ICD-10	全部位 C00-C96, D06			口腔・咽頭 C00-C14			食 道 C15			胃 C16			結 腸 C18			直 腸 C19-C20			肝・肝内胆管 C22			胆のう・胆管 C23, C24			膵 C25		
年 齢	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
全年齢	40,221	32,839	73,060	1,139	457	1,596	1,614	413	2,027	4,979	2,280	7,259	5,653	4,220	9,873	2,637	1,582	4,219	1,352	596	1,948	753	611	1,364	1,501	1,386	2,887
0－4	20	25	45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	3	4	—	—	—	—	—	—
5－9	21	12	33	—	1	1	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10－14	22	21	43	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	1	1
15－19	30	30	60	1	1	2	—	—	—	—	—	—	1	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
20－24	37	92	129	3	4	7	—	—	—	—	1	1	4	1	5	1	3	4	1	—	1	—	—	—	—	3	3
25－29	75	237	312	2	2	4	—	—	—	1	2	3	3	4	7	8	4	12	1	—	1	1	—	1	2	1	3
30－34	108	468	576	4	9	13	—	—	—	6	5	11	6	8	14	9	3	12	2	—	2	—	1	1	2	3	5
35－39	189	761	950	10	10	20	1	—	1	8	11	19	27	22	49	31	12	43	3	2	5	1	—	1	5	1	6
40－44	384	1,337	1,721	28	10	38	6	5	11	21	30	51	58	65	123	56	31	87	7	2	9	2	1	3	11	8	19
45－49	688	2,234	2,922	28	20	48	22	6	28	65	44	109	125	117	242	95	80	175	23	6	29	5	4	9	28	25	53
50－54	1,327	2,501	3,828	70	35	105	48	21	69	102	55	157	289	172	461	157	117	274	24	5	29	12	10	22	51	29	80
55－59	1,989	2,214	4,203	76	34	110	88	34	122	168	65	233	347	222	569	214	133	347	66	21	87	20	21	41	83	41	124
60－64	2,893	2,151	5,044	117	28	145	173	36	209	269	99	368	473	234	707	275	124	399	96	27	123	26	12	38	108	62	170
65－69	4,533	2,728	7,261	146	31	177	239	57	296	521	183	704	655	379	1,034	331	176	507	160	45	205	74	40	114	187	100	287
70－74	8,157	4,559	12,716	207	65	272	355	75	430	997	370	1,367	1,083	689	1,772	561	247	808	241	88	329	134	87	221	309	244	553
75－79	7,614	4,343	11,957	189	59	248	309	70	379	1,032	448	1,480	1,006	725	1,731	423	248	671	228	87	315	130	102	232	272	226	498
80－84	6,612	4,035	10,647	142	56	198	227	54	281	1,000	419	1,419	892	721	1,613	301	189	490	274	122	396	167	117	284	240	280	520
85以上	5,522	5,091	10,613	115	92	207	146	55	201	789	548	1,337	683	860	1,543	175	215	390	224	188	412	181	216	397	203	361	564

部 位 ICD-10	喉 頭 C32			肺 C33, C34			骨 C40, C41			皮 膚 C43, C44			乳房 C50	子 宮				卵巢 C56	前立腺 C61	膀 胱 C67				腎 C64			白血病 C91-C95			
														C53-C55 D06	頸癌	体癌	上皮内													
年 齡	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	女	(再 掲)	(再 掲)	(再 掲)	女	男	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
全年齡	272	31	303	5,240	2,765	8,005	27	18	45	1,015	945	1,960	8,478	3,543	692	1,297	1,534	979	6,615	2,210	643	2,853	1,016	400	1,416	499	347	846		
0－4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2	3	14	7	21		
5－9	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9	4	13		
10－14	—	—	—	—	—	—	1	3	4	1	—	1	—	—	—	—	—	5	—	—	—	—	—	—	—	3	4	7		
15－19	—	—	—	—	—	—	3	—	3	2	—	2	—	—	—	—	—	9	1	—	—	—	—	—	—	6	2	8		
20－24	—	—	—	1	—	1	1	1	2	1	1	2	3	19	1	2	16	16	—	—	—	—	—	—	—	7	13	20		
25－29	1	—	1	3	3	6	—	—	—	5	1	6	20	134	3	6	125	19	—	1	—	1	1	2	3	5	9	14		
30－34	—	—	—	2	4	6	1	—	1	4	4	8	63	294	36	15	243	26	—	—	1	1	4	—	4	9	3	12		
35－39	—	—	—	10	7	17	—	—	—	9	7	16	212	379	49	15	315	37	—	8	1	9	10	1	11	14	3	17		
40－44	—	—	—	21	22	43	2	—	2	11	15	26	568	416	71	48	295	50	1	8	1	9	31	5	36	17	12	29		
45－49	3	1	4	45	42	87	2	—	2	30	13	43	1,095	508	92	150	266	115	9	24	5	29	34	15	49	21	12	33		
50－54	8	2	10	112	97	209	1	1	2	30	31	61	1,073	451	98	237	115	157	85	46	19	65	89	18	107	31	23	54		
55－59	8	3	11	192	98	290	2	1	3	43	30	73	792	349	61	231	56	111	251	107	24	131	85	30	115	42	24	66		
60－64	28	2	30	297	140	437	1	2	3	41	36	77	753	235	57	146	32	79	483	134	29	163	113	31	144	34	25	59		
65－69	30	2	32	556	259	815	5	1	6	79	68	147	749	187	39	127	21	88	806	225	54	279	126	36	162	39	17	56		
70－74	62	7	69	1,173	490	1,663	1	4	5	123	114	237	1,097	205	58	123	23	102	1,587	437	96	533	173	71	244	64	48	112		
75－79	51	5	56	1,120	554	1,674	—	2	2	163	137	300	809	150	48	88	12	65	1,529	404	122	526	139	62	201	72	42	114		
80－84	44	6	50	882	495	1,377	2	—	2	203	153	356	612	117	45	58	11	53	1,085	404	108	512	127	49	176	62	45	107		
85以上	37	3	40	826	554	1,380	4	3	7	270	335	605	632	99	34	51	4	47	778	412	183	595	83	78	161	50	54	104		

表26—(1)— 3 罹 患 率
—主要部位・性・年齢階級別—

令和 3 年

部 位 ICD-10	全部位 C00-C96, D06		口腔・咽頭 C00-C14		食 道 C15		胃 C16		結 腸 C18		直 腸 C19-C20		肝・肝内胆管 C22		胆のう・胆管 C23, C24		膀 胱 C25		喉 頭 C32	
年 齢	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全年齢	314.0	306.4	10.3	4.0	13.2	3.2	34.1	13.4	45.9	28.5	24.5	13.5	10.0	3.3	4.7	2.9	11.6	7.9	2.1	0.2
粗罹患	899.5	721.6	25.5	10.0	36.1	9.1	111.4	50.1	126.4	92.7	59.0	34.8	30.2	13.1	16.8	13.4	33.6	30.5	6.1	0.7
0－4	11.9	15.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.6	1.9	—	—	—	—	—	—
5－9	11.1	6.7	—	0.6	—	—	—	—	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10－14	11.1	11.2	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.5	—	—	—	—	0.5	—	—
15－19	14.4	15.1	0.5	0.5	—	—	—	—	0.5	0.5	—	—	—	—	—	—	—	0.5	—	—
20－24	14.8	38.6	1.2	1.7	—	—	—	0.4	1.6	0.4	0.4	1.3	0.4	—	—	—	—	1.3	—	—
25－29	30.3	102.2	0.8	0.9	—	—	0.4	0.9	1.2	1.7	3.2	1.7	0.4	—	0.4	—	0.8	0.4	0.4	—
30－34	42.7	197.3	1.6	3.8	—	—	2.4	2.1	2.4	3.4	3.6	1.3	0.8	—	—	0.4	0.8	1.3	—	—
35－39	66.0	280.9	3.5	3.7	0.4	—	2.8	4.1	9.4	8.1	10.8	4.4	1.1	0.7	0.4	—	1.8	0.4	—	—
40－44	118.0	431.0	8.6	3.2	1.8	1.6	6.5	9.7	17.8	21.0	17.2	10.0	2.2	0.6	0.6	0.3	3.4	2.6	—	—
45－49	176.3	594.9	7.2	5.3	5.6	1.6	16.7	11.7	32.0	31.2	24.3	21.3	5.9	1.6	1.3	1.1	7.2	6.7	0.8	0.3
50－54	360.7	725.0	19.0	10.2	13.1	6.1	27.7	15.9	78.6	49.9	42.7	33.9	6.5	1.5	3.3	2.9	13.9	8.4	2.2	0.6
55－59	636.5	761.1	24.3	11.7	28.2	11.7	53.8	22.4	111.0	76.3	68.5	45.7	21.1	7.2	6.4	7.2	26.6	14.1	2.6	1.0
60－64	1,169.5	897.7	47.3	11.7	69.9	15.0	108.8	41.3	191.2	97.7	111.2	51.8	38.8	11.3	10.5	5.0	43.7	25.9	11.3	0.8
65－69	1,835.3	1,065.9	59.1	12.1	96.8	22.3	210.9	71.5	265.2	148.1	134.0	68.8	64.8	17.6	30.0	15.6	75.7	39.1	12.2	0.8
70－74	2,842.6	1,424.9	72.1	20.3	123.7	23.4	347.4	115.6	377.4	215.4	195.5	77.2	84.0	27.5	46.7	27.2	107.7	76.3	21.6	2.2
75－79	3,537.8	1,655.9	87.8	22.5	143.6	26.7	479.5	170.8	467.4	276.4	196.6	94.6	105.9	33.2	60.4	38.9	126.4	86.2	23.7	1.9
80－84	4,281.2	1,980.8	91.9	27.5	147.0	26.5	647.5	205.7	577.6	354.0	194.9	92.8	177.4	59.9	108.1	57.4	155.4	137.5	28.5	3.0
85以上	4,483.6	2,090.5	93.4	37.8	118.5	22.6	640.6	225.0	554.6	353.1	142.1	88.3	181.9	77.2	147.0	88.7	164.8	148.2	30.0	1.2

部 位 ICD-10	肺 C33, C34		骨 C40, C41		皮 膚 C43, C44		乳房 C50	子 宮				卵巢 C56	前立腺 C61	膀 胱 C67		腎 C64		白血病 C91-C95	
								C53-C55・ D06	頸癌	体癌	上皮内								
年 齡	男	女	男	女	男	女	女	(再 掲)				女	男	男	女	男	女	男	女
全年齡	36.6	17.1	0.5	0.3	7.2	5.4	96.1	57.1	9.4	16.2	31.4	13.4	47.0	15.5	3.6	9.8	3.2	6.6	4.3
粗罹患	117.2	60.8	0.6	0.4	22.7	20.8	186.3	77.9	15.2	28.5	33.7	21.5	147.9	49.4	14.1	22.7	8.8	11.2	7.6
0－4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.6	1.3	8.3	4.4
5－9	—	—	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.8	2.2
10－14	—	—	0.5	1.6	0.5	—	—	—	—	—	—	2.7	—	—	—	—	—	1.5	2.1
15－19	—	—	1.4	—	1.0	—	—	—	—	—	—	4.5	0.5	—	—	—	—	2.9	1.0
20－24	0.4	—	0.4	0.4	0.4	0.4	1.3	8.0	0.4	0.8	6.7	6.7	—	—	—	—	—	2.8	5.5
25－29	1.2	1.3	—	—	2.0	0.4	8.6	57.8	1.3	2.6	53.9	8.2	—	0.4	—	0.4	0.9	2.0	3.9
30－34	0.8	1.7	0.4	—	1.6	1.7	26.6	123.9	15.2	6.3	102.4	11.0	—	—	0.4	1.6	—	3.6	1.3
35－39	3.5	2.6	—	—	3.1	2.6	78.3	139.9	18.1	5.5	116.3	13.7	—	2.8	0.4	3.5	0.4	4.9	1.1
40－44	6.5	7.1	0.6	—	3.4	4.8	183.1	134.1	22.9	15.5	95.1	16.1	0.3	2.5	0.3	9.5	1.6	5.2	3.9
45－49	11.5	11.2	0.5	—	7.7	3.5	291.6	135.3	24.5	39.9	70.8	30.6	2.3	6.2	1.3	8.7	4.0	5.4	3.2
50－54	30.5	28.1	0.3	0.3	8.2	9.0	311.0	130.7	28.4	68.7	33.3	45.5	23.1	12.5	5.5	24.2	5.2	8.4	6.7
55－59	61.4	33.7	0.6	0.3	13.8	10.3	272.3	120.0	21.0	79.4	19.3	38.2	80.3	34.2	8.3	27.2	10.3	13.4	8.3
60－64	120.1	58.4	0.4	0.8	16.6	15.0	314.3	98.1	23.8	60.9	13.4	33.0	195.3	54.2	12.1	45.7	12.9	13.7	10.4
65－69	225.1	101.2	2.0	0.4	32.0	26.6	292.7	73.1	15.2	49.6	8.2	34.4	326.3	91.1	21.1	51.0	14.1	15.8	6.6
70－74	408.8	153.2	0.4	1.3	42.9	35.6	342.9	64.1	18.1	38.4	7.2	31.9	553.1	152.3	30.0	60.3	22.2	22.3	15.0
75－79	520.4	211.2	—	0.8	75.7	52.2	308.5	57.2	18.3	33.6	4.6	24.8	710.5	187.7	46.5	64.6	23.6	33.5	16.0
80－84	571.1	243.0	1.3	—	131.4	75.1	300.4	57.4	22.1	28.5	5.4	26.0	702.5	261.6	53.0	82.2	24.1	40.1	22.1
85以上	670.7	227.5	3.3	1.2	219.2	137.6	259.5	40.7	14.0	20.9	1.6	19.3	631.7	334.5	75.1	67.4	32.0	40.6	22.2

全年齢は世界人口を用いた年齢調整罹患率

表26—(2)— 1 罹 患 数
—主要部位・性・二次保健医療圏別—

令和3年

部 位 名	地 域	神奈川県計			横浜北部			横浜西部			横浜南部			川崎北部			川崎南部		
	ICD-10	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
全 部 位	C00-C96・D06	40,221	32,839	73,060	6,108	5,299	11,407	5,206	4,287	9,493	5,249	4,288	9,537	2,839	2,465	5,304	2,593	2,080	4,673
口腔・咽頭	C00-C14	1,139	457	1,596	182	64	246	136	61	197	151	53	204	80	36	116	67	30	97
食 道	C15	1,614	413	2,027	271	71	342	244	48	292	220	54	274	124	44	168	90	37	127
胃	C16	4,979	2,280	7,259	686	295	981	632	312	944	626	347	973	358	161	519	311	142	453
結 腸	C18	5,653	4,220	9,873	870	673	1,543	717	581	1,298	771	561	1,332	374	291	665	373	249	622
直 腸	C19-C20	2,637	1,582	4,219	418	257	675	339	226	565	352	201	553	188	115	303	200	93	293
肝・肝内胆管	C22	1,352	596	1,948	205	90	295	173	73	246	192	72	264	89	46	135	99	37	136
胆のう・胆管	C23-C24	753	611	1,364	110	91	201	96	82	178	101	69	170	53	52	105	52	42	94
膵	C25	1,501	1,386	2,887	218	201	419	207	173	380	204	198	402	92	115	207	89	77	166
喉 頭	C32	272	31	303	38	4	42	30	4	34	37	5	42	17	0	17	27	3	30
肺	C33-C34	5,240	2,765	8,005	767	382	1,149	689	380	1,069	645	383	1,028	359	204	563	384	195	579
骨	C40-C41	27	18	45	3	6	9	5	1	6	4	2	6	1	1	2	1	1	2
皮 膚	C43-C44	1,015	945	1,960	182	145	327	121	132	253	154	124	278	60	64	124	64	77	141
乳 房	C50	56	8,478	8,534	2	1,496	1,498	13	1,106	1,119	11	1,121	1,132	2	666	668	5	476	481
子 宮	C53-C55・D06	・	3,543	3,543	・	622	622	・	420	420	・	428	428	・	269	269	・	257	257
卵 巢	C56	・	979	979	・	158	158	・	126	126	・	101	101	・	63	63	・	59	59
前 立 腺	C61	6,615	・	6,615	1,037	・	1,037	879	・	879	771	・	771	503	・	503	382	・	382
腎	C64	1,016	400	1,416	155	54	209	124	49	173	148	55	203	58	36	94	76	27	103
膀 胱	C67	2,210	643	2,853	330	92	422	276	94	370	311	82	393	172	47	219	139	44	183
脳	C71	190	154	344	25	22	47	19	12	31	22	19	41	14	13	27	11	9	20
甲 状 腺	C73	246	637	883	38	131	169	31	76	107	34	85	119	21	39	60	17	33	50
白 血 病	C91-C95	499	347	846	60	56	116	65	44	109	72	48	120	40	31	71	39	23	62

部 位 名	地 域	横須賀・三浦			湘南東部			湘南西部			県 央			相 模 原			県 西		
	ICD-10	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
全 部 位	C00-C96・D06	3,745	3,047	6,792	3,288	2,640	5,928	2,805	2,276	5,081	3,763	2,825	6,588	3,067	2,396	5,463	1,558	1,236	2,794
口腔・咽頭	C00-C14	100	37	137	99	41	140	75	29	104	116	41	157	86	43	129	47	22	69
食 道	C15	179	32	211	119	33	152	96	16	112	115	41	156	96	23	119	60	14	74
胃	C16	460	206	666	406	192	598	363	167	530	488	189	677	419	192	611	230	77	307
結 腸	C18	539	407	946	390	324	714	413	300	713	496	335	831	492	329	821	218	170	388
直 腸	C19-C20	195	159	354	211	110	321	194	111	305	265	141	406	197	108	305	78	61	139
肝・肝内胆管	C22	122	74	196	108	41	149	84	35	119	132	56	188	99	42	141	49	30	79
胆のう・胆管	C23-C24	75	56	131	55	56	111	46	46	92	62	50	112	71	41	112	32	26	58
膵	C25	151	139	290	133	111	244	111	116	227	144	95	239	100	102	202	52	59	111
喉 頭	C32	27	4	31	21	2	23	19	3	22	25	3	28	17	2	19	14	1	15
肺	C33-C34	496	283	779	405	217	622	358	177	535	492	234	726	432	193	625	213	117	330
骨	C40-C41	1	1	2	4	0	4	1	3	4	2	3	5	2	0	2	3	0	3
皮 膚	C43-C44	108	86	194	88	88	176	77	69	146	75	78	153	49	54	103	37	28	65
乳 房	C50	4	770	774	3	644	647	2	553	555	5	733	738	4	614	618	5	299	304
子 宮	C53-C55・D06	・	287	287	・	326	326	・	247	247	・	329	329	・	240	240	・	118	118
卵 巢	C56	・	86	86	・	84	84	・	75	75	・	97	97	・	83	83	・	47	47
前 立 腺	C61	552	・	552	667	・	667	465	・	465	642	・	642	465	・	465	252	・	252
腎	C64	113	53	166	84	34	118	52	21	73	107	37	144	63	25	88	36	9	45
膀 胱	C67	208	55	263	162	46	208	152	48	200	195	65	260	185	43	228	80	27	107
脳	C71	24	12	36	16	18	34	12	14	26	24	13	37	15	12	27	8	10	18
甲 状 腺	C73	24	71	95	22	50	72	19	35	54	20	52	72	15	51	66	5	14	19
白 血 病	C91-C95	51	27	78	45	29	74	25	20	45	54	28	82	32	29	61	16	12	28

表26―(2)― 2 粗罹患率（人口10万対）

―主要部位・性・二次保健医療圏別―

令和3年

部 位 名	地 域	神奈川県		横浜北部		横浜西部		横浜南部		川崎北部		川崎南部	
	ICD-10	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全 部 位	C00-C96・D06	899.5	721.6	785.4	671.5	973.5	766.0	1,049.5	830.9	680.8	577.0	776.2	663.5
口 腔・咽 頭	C00-C14	25.5	10.0	23.4	8.1	25.4	10.9	30.2	10.3	19.2	8.4	20.1	9.6
食 道	C15	36.1	9.1	34.8	9.0	45.6	8.6	44.0	10.5	29.7	10.3	26.9	11.8
胃	C16	111.4	50.1	88.2	37.4	118.2	55.7	125.2	67.2	85.8	37.7	93.1	45.3
結 腸	C18	126.4	92.7	111.9	85.3	134.1	103.8	154.2	108.7	89.7	68.1	111.7	79.4
直 腸	C19-C20	59.0	34.8	53.8	32.6	63.4	40.4	70.4	39.0	45.1	26.9	59.9	29.7
肝・肝 内 胆 管	C22	30.2	13.1	26.4	11.4	32.4	13.0	38.4	14.0	21.3	10.8	29.6	11.8
胆 の う・胆 管	C23-C24	16.8	13.4	14.1	11.5	18.0	14.7	20.2	13.4	12.7	12.2	15.6	13.4
膵	C25	33.6	30.5	28.0	25.5	38.7	30.9	40.8	38.4	22.1	26.9	26.6	24.6
喉 頭	C32	6.1	0.7	4.9	0.5	5.6	0.7	7.4	1.0	4.1	—	8.1	1.0
肺	C33-C34	117.2	60.8	98.6	48.4	128.8	67.9	129.0	74.2	86.1	47.8	115.0	62.2
骨	C40-C41	0.6	0.4	0.4	0.8	0.9	0.2	0.8	0.4	0.2	0.2	0.3	0.3
皮 膚	C43-C44	22.7	20.8	23.4	18.4	22.6	23.6	30.8	24.0	14.4	15.0	19.2	24.6
乳 房	C50	1.3	186.3	0.3	189.6	2.4	197.6	2.2	217.2	0.5	155.9	1.5	151.8
子 宮	C53-C55・D06	・	77.9	・	78.8	・	75.0	・	82.9	・	63.0	・	82.0
卵 巢	C56	・	21.5	・	20.0	・	22.5	・	19.6	・	14.8	・	18.8
前 立 腺	C61	147.9	・	133.3	・	164.4	・	154.2	・	120.6	・	114.4	・
腎	C64	22.7	8.8	19.9	6.8	23.2	8.8	29.6	10.7	13.9	8.4	22.8	8.6
膀 胱	C67	49.4	14.1	42.4	11.7	51.6	16.8	62.2	15.9	41.2	11.0	41.6	14.0
脳	C71	4.3	3.4	3.2	2.8	3.6	2.1	4.4	3.7	3.4	3.0	3.3	2.9
甲 状 腺	C73	5.5	14.0	4.9	16.6	5.8	13.6	6.8	16.5	5.0	9.1	5.1	10.5
白 血 病	C91-C95	11.2	7.6	7.7	7.1	12.2	7.9	14.4	9.3	9.6	7.3	11.7	7.3

部 位 名	地 域	横須賀・三浦		湘南東部		湘南西部		県 央		相 模 原		県 西	
	ICD-10	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全 部 位	C00-C96・D06	1,120.8	863.6	934.9	720.4	984.3	795.8	883.9	678.3	874.7	678.7	971.0	724.5
口 腔・咽 頭	C00-C14	29.9	10.5	28.2	11.2	26.3	10.1	27.3	9.8	24.5	12.2	29.3	12.9
食 道	C15	53.6	9.1	33.8	9.0	33.7	5.6	27.0	9.8	27.4	6.5	37.4	8.2
胃	C16	137.7	58.4	115.5	52.4	127.4	58.4	114.6	45.4	119.5	54.4	143.4	45.1
結 腸	C18	161.3	115.4	110.9	88.4	144.9	104.9	116.5	80.4	140.3	93.2	135.9	99.6
直 腸	C19-C20	58.4	45.1	60.0	30.0	68.1	38.8	62.2	33.9	56.2	30.6	48.6	35.8
肝・肝 内 胆 管	C22	36.5	21.0	30.7	11.2	29.5	12.2	31.0	13.5	28.2	11.9	30.5	17.6
胆 の う・胆 管	C23-C24	22.5	15.9	15.6	15.3	16.1	16.1	14.6	12.0	20.3	11.6	19.9	15.2
膵	C25	45.2	39.4	37.8	30.3	39.0	40.6	33.8	22.8	28.5	28.9	32.4	34.6
喉 頭	C32	8.1	1.1	6.0	0.6	6.7	1.1	5.9	0.7	4.9	0.6	8.7	0.6
肺	C33-C34	148.4	80.2	115.2	59.2	125.6	61.9	115.6	56.2	123.2	54.7	132.8	68.6
骨	C40-C41	0.3	0.3	1.1	—	0.4	1.1	0.5	0.7	0.6	—	1.9	—
皮 膚	C43-C44	32.3	24.4	25.0	24.0	27.0	24.1	17.6	18.7	14.0	15.3	23.1	16.4
乳 房	C50	1.2	218.3	0.9	175.7	0.7	193.4	1.2	176.0	1.1	173.9	3.1	175.3
子 宮	C53-C55・D06	・	81.4	・	89.0	・	86.4	・	79.0	・	68.0	・	69.2
卵 巢	C56	・	24.4	・	22.9	・	26.2	・	23.3	・	23.5	・	27.6
前 立 腺	C61	165.2	・	189.7	・	163.2	・	150.8	・	132.6	・	157.1	・
腎	C64	33.8	15.0	23.9	9.3	18.3	7.3	25.1	8.9	18.0	7.1	22.4	5.3
膀 胱	C67	62.3	15.6	46.1	12.6	53.3	16.8	45.8	15.6	52.8	12.2	49.9	15.8
脳	C71	7.2	3.4	4.6	4.9	4.2	4.9	5.6	3.1	4.3	3.4	5.0	5.9
甲 状 腺	C73	7.2	20.1	6.3	13.6	6.7	12.2	4.7	12.5	4.3	14.5	3.1	8.2
白 血 病	C91-C95	15.3	7.7	12.8	7.9	8.8	7.0	12.7	6.7	9.1	8.2	10.0	7.0

表26－(2)－ 3 年齢調整罹患率（標準人口は日本人人口を使用）

—主要部位・性・二次保健医療圏別—

令和3年

部 位 名	地 域	神奈川県		横浜北部		横浜西部		横浜南部		川崎北部		川崎南部	
	ICD-10	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全 部 位	C00-C96・D06	450.5	407.4	458.3	419.3	461.8	414.1	480.7	449.9	401.3	356.9	504.5	420.9
口 腔・咽 頭	C00-C14	14.3	5.4	14.8	5.1	13.3	5.9	16.0	4.7	12.0	5.2	13.8	5.2
食 道	C15	18.8	4.5	21.1	4.8	22.4	3.6	20.8	4.9	18.4	5.9	17.9	8.5
胃	C16	51.3	19.7	48.8	16.2	50.9	20.5	53.2	25.1	47.5	18.7	58.4	21.5
結 腸	C18	65.4	40.6	65.8	42.3	67.9	44.4	71.8	45.5	55.4	34.5	76.2	43.0
直 腸	C19-C20	33.9	18.4	35.2	18.9	35.7	19.0	37.4	19.9	29.3	17.0	42.0	19.2
肝・肝内胆管	C22	14.5	4.7	14.9	4.9	14.3	4.1	16.7	4.2	11.4	4.3	18.6	5.7
胆 の う・胆管	C23-C24	7.2	4.4	7.0	4.4	7.6	4.7	7.3	3.5	6.2	4.1	9.1	6.1
膵	C25	16.8	11.5	16.3	11.0	17.6	10.8	18.7	13.1	12.9	12.5	18.1	11.4
喉 頭	C32	3.0	0.3	2.9	0.3	2.6	0.4	2.9	0.4	2.4	-	5.0	0.6
肺	C33-C34	54.5	24.9	54.1	23.3	56.3	25.7	53.9	30.0	48.4	22.5	71.2	32.2
骨	C40-C41	0.5	0.3	0.2	0.7	0.5	0.3	0.8	0.2	0.4	0.1	0.6	0.2
皮 膚	C43-C44	10.4	7.7	13.1	7.6	9.0	8.6	13.2	8.0	7.4	6.9	12.2	10.2
乳 房	C50	0.7	125.5	0.2	137.3	1.3	129.1	1.1	141.5	0.3	114.3	0.9	109.8
子 宮	C53-C55・D06	・	71.3	・	71.6	・	70.1	・	78.2	・	54.9	・	74.5
卵 巢	C56	・	16.6	・	16.5	・	18.3	・	13.8	・	11.8	・	15.0
前 立 腺	C61	70.0	・	75.2	・	74.2	・	65.7	・	68.8	・	70.5	・
腎	C64	13.3	4.2	12.5	3.6	13.2	3.2	16.4	5.0	9.7	4.6	16.9	4.2
膀 胱	C67	22.9	5.3	22.9	5.0	22.6	6.2	25.5	5.7	23.5	4.7	25.2	6.5
脳	C71	3.1	2.4	2.7	2.3	2.8	1.5	3.0	2.6	2.1	1.5	2.4	2.4
甲 状 腺	C73	3.9	10.6	3.6	12.8	4.5	10.2	4.7	12.9	3.9	7.6	4.1	8.5
白 血 病	C91-C95	7.6	4.8	5.9	4.5	7.9	4.6	8.8	6.5	7.1	4.8	7.9	5.0

部 位 名	地 域	横須賀・三浦		湘南東部		湘南西部		県 央		相 模 原		県 西	
	ICD-10	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全 部 位	C00-C96・D06	455.8	430.9	459.8	402.8	430.3	422.7	445.0	387.7	424.8	375.3	396.2	357.1
口 腔・咽 頭	C00-C14	14.3	4.8	15.4	5.6	12.8	5.5	16.3	5.2	13.7	6.0	12.7	6.8
食 道	C15	23.4	3.8	17.8	4.3	14.9	2.4	14.2	4.4	12.8	3.0	15.4	4.0
胃	C16	48.9	19.1	52.0	22.2	48.7	19.3	51.8	17.3	53.0	20.1	53.8	13.6
結 腸	C18	66.3	43.4	55.9	35.9	65.4	39.8	60.1	35.9	70.2	39.7	60.9	39.6
直 腸	C19-C20	27.5	21.6	34.2	15.9	33.9	18.4	34.7	17.5	31.8	17.3	24.8	14.7
肝・肝内胆管	C22	14.8	6.1	14.4	4.9	12.2	3.8	15.3	5.1	13.7	4.1	11.2	4.4
胆 の う・胆管	C23-C24	7.3	3.9	6.7	4.5	6.4	5.0	6.2	4.5	8.8	4.2	6.8	4.0
膵	C25	18.2	11.9	19.1	10.6	17.4	15.4	16.7	8.4	14.2	11.2	13.6	10.8
喉 頭	C32	3.0	0.4	2.9	0.3	3.4	0.4	2.9	0.3	2.4	0.4	3.7	0.2
肺	C33-C34	57.0	25.8	53.0	23.6	50.2	24.1	54.5	22.6	53.1	22.3	51.6	21.5
骨	C40-C41	0.3	0.1	1.1	—	0.3	0.9	0.4	0.5	0.7	—	1.2	—
皮 膚	C43-C44	12.5	7.1	10.2	8.2	11.3	8.7	8.1	6.8	6.4	6.6	9.1	6.4
乳 房	C50	0.3	136.2	0.7	116.3	0.3	122.4	0.7	116.7	0.4	114.7	1.5	108.2
子 宮	C53-C55・D06	・	74.1	・	78.9	・	82.1	・	74.9	・	59.1	・	66.0
卵 巢	C56	・	17.6	・	16.7	・	20.8	・	18.3	・	16.7	・	19.4
前 立 腺	C61	63.5	・	89.2	・	66.6	・	71.2	・	61.1	・	55.8	・
腎	C64	15.5	7.3	14.1	5.8	9.4	4.0	15.1	4.0	9.8	3.4	13.4	1.6
膀 胱	C67	22.7	4.4	21.3	5.3	22.1	5.3	21.4	5.9	23.8	4.2	18.7	4.9
脳	C71	5.0	2.8	2.7	3.2	2.7	4.1	4.7	2.0	3.3	2.6	2.9	2.7
甲 状 腺	C73	4.6	13.4	4.5	10.4	4.0	7.7	3.1	9.7	3.1	11.0	1.8	5.6
白 血 病	C91-C95	9.1	5.2	8.4	4.5	4.8	3.9	10.0	4.4	6.5	4.9	6.3	3.6

平成29年

届出罹患とは、医療機関より届出のあった、罹患情報

表 26-(1)から(3)の数表の記号は、次のような場合に使用した。

統計項目のありえない場合 .

— 257 —

年報編集員

編 集 長	岸 田 健 (副 院 長)
アドバイザー	酒 井 リ カ (病 院 長)
編 集 員	大 島 貴 (副 院 長)
	伊 藤 宏 之 (副 院 長)
	清 水 調 (形成外科部長)
	小井詰 史 朗 (臨 床 研 究 所)
	平 井 直 美 (看 護 局)
	櫻 井 学 (薬 剤 科)
	池 本 亜紀子 (総 務 企 画 課)
	中 野 舞 子 (総 務 企 画 課)

事 務 局 総務企画課

神奈川県立がんセンター年報

(第40号)

令和8年3月

発 行 者	神 奈 川 県 立 が ん セ ン タ ー
	横 浜 市 旭 区 中 尾 2 - 3 - 2
	T E L 045-520-2222 (代表)
	F A X 045-520-2202
編集責任者	年 報 編 集 会 議
印 刷	文明堂印刷株式会社 横浜営業所
	T E L 045-731-1441



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター
横浜市旭区中尾二丁目3番2号 〒241-8515 電話 045-520-2222(代表) FAX 045-520-2202

